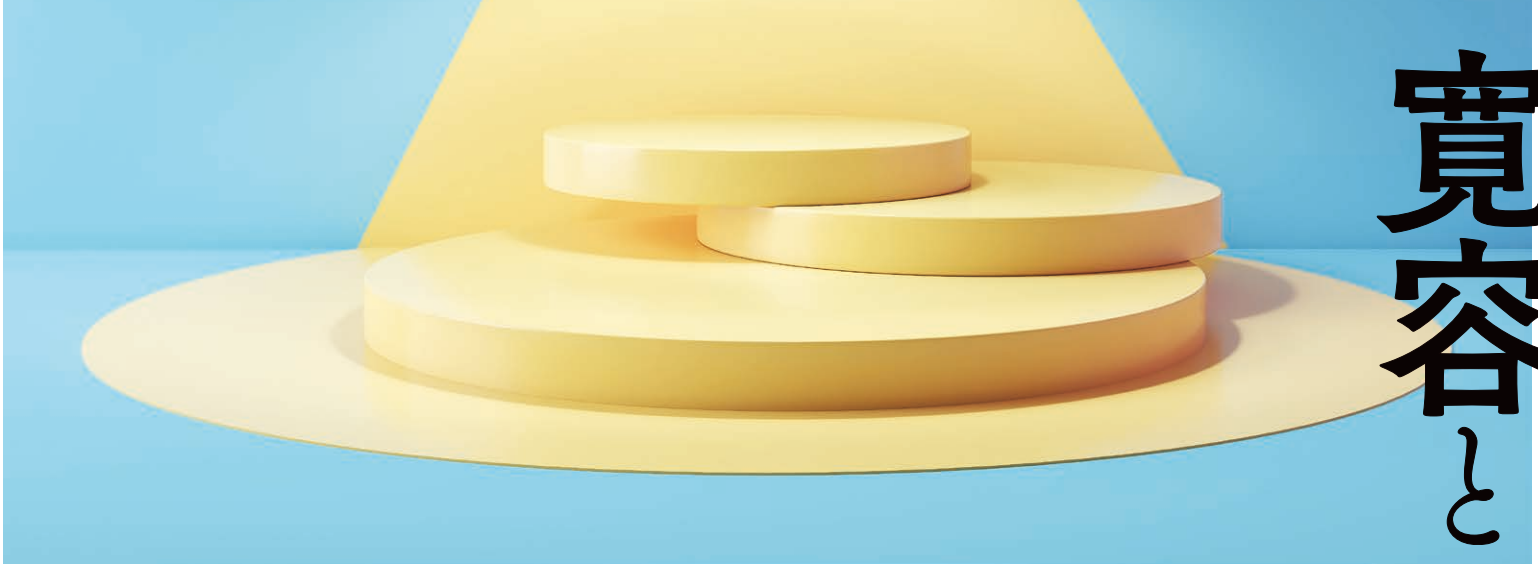


寛容と幸福の地方論

地方創生のファクターX

The X factor of
regional revitalization.
Aiming towards
regional well-being.

CONTENTS

0. Prologue

序章
島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）

Intro 室生犀星の上京 ――地方を考えるための東京論として …… 004

地方創生のファクターX
問題意識と仮説 ――不寛容な空気が地方を滅ぼす―― …… 008

1. Introduction

01. 地方創生の経済学 …… 026
清水千弘（日本大学教授／東京大学空間情報科学研究センター特任教授／麗澤大学都市不動産科学研究センター長）

02. 都道府県別の基礎データ概観 …… 036
橋口理文（株式会社ディ・プラス 代表取締役）
吉永奈央子（フリーリサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー）

2. Research

地方創生のファクターX
47都道府県の寛容と幸福、人口移動に関する調査
橋口理文（株式会社ディ・プラス 代表取締役）
吉永奈央子（フリーリサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー）

1. アンケート調査分析：属性別、都道府県別の傾向 …… 048

［寄稿］地方創生のための寛容性と幸福の分析 …… 096
有馬雄祐（職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教）

2. 47都道府県別データ集
well-being指標／寛容性指標／人口移動指標／住民による地域評価 …… 117

3. Report

01. 都市集中 再考 ── 23区女子たちの憂鬱──

シェアとワーカブルと夜の娯楽 …… 214

三浦 展（カルチャースタディーズ研究所主宰）

02. 変わる地域と変わらない地域

── 現場の11人が語る地方創生の風景、その違い── …… 230

中川 寛子（株式会社 東京情報堂 代表取締役）

03. 文化の効能

──シビックプライド醸成が地方創生のカギとなる …… 254

森 隆一郎（合同会社渚と 代表）

［COLUMN］
SPECIAL INTERVIEW
「稼ぐまちづくり」の実践者 木下 斉氏
地方創生のファクターXを語る …… 264

4. Epilogue

終章

島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）

Well-beingな地方創生を目指して …… 272



Prologue
Introduction
Research
Report
Epilogue

PROLOGUE

地方創生のファクターX

寛容と幸福の地方論

Intro

室生犀星の上京

―地方を考えるための東京論として

ふるさとへの決別

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの

誰でも一度くらいは聞いたことがあるだろう。遠く離れたふるさとへの望郷の念を詠った詩として、地方から都会へ出た有名無名数多の人たちによって、時代を超えたびたび引用されてきた、金沢生まれの詩人で作家の室生犀星の詩「小景異情（その２）」の２行である。犀星のキャリア２冊目の詩集『抒情小曲集』（1918年）に収録されている。

だが、『抒叙情小曲集』の創作地は金沢市千日町雨宝院と室生犀星自身が詩集の覚書に書いている事実はあまり知られていない。実は、この詩は遠く離れた土地からふるさとを思って詠ったものではない。ふるさとに居ながらにして、ふるさとは遠くから悲しく思うものだと犀星は詠ったのだ。金沢市内を流れる犀川に由来する名を名乗る詩人の、ふるさとへの思いは以下のように続く。

よしや
うらぶれて異土（いど）の乞食（かたい）となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのこころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

あたかも一時的に帰郷したおりに詠んだふるさとへの決別の詩のように読めるし、実際そのような解釈も多い。ふるさとに帰っては来たけれど、やっぱり帰るところではなかった。ここに自分の居場所はない。ふるさとは遠く東京から悲しく思っているくらいがいい。さぁ東京へ戻ろう。意訳すればこんなところだろうか。

しかし室生犀星が『抒情小曲集』を作ったとされる1909年には、彼はまだ上京していないばかりか、小旅行を除いて一度も金沢を出たこともない。つまりこれは、いつの日かふるさとを捨てる決意を詠んだ詩なのだ。しかもその決意は「たとえ、落ちぶれて見知らぬ土地で乞食になったとしても」とまで言うほど強い。犀星はどれほどふるさとを嫌っていたのか。それなのにこの詩はふるさとを捨てる深い悲しみに包まれている。犀星のふるさとに対する愛憎相半ばする思いから生まれた詩なのである。

室生犀星のふるさと

室生犀星は、1889年（明治22年）、加賀藩の足軽組頭だった小畠弥左衛門吉種と女中との間に婚外子として生まれた。しかし当時の金沢は武家社会の規範が強く残る保守的な地域である。世間体を重んじ私生児を恥じる父によって、生後まもなく犀川のほとりに現存する雨宝院の住職・室生真乗の内縁の妻、赤井ハツに養子に出される（後に住職の養子となり室生姓になる）。そのような生い立ちは、50歳を過ぎた犀星に「夏の日の匹婦（ひっぷ：卑しい女）の腹に生まれけり」（『犀星発句集』1943年）という句を詠ませるほど、犀星の人生に暗い影を落と



金沢市内を今も流れる犀川の風景

した。

犀星の７歳から13歳の頃を書いた自伝的小説『幼年時代』（1919年）は、「遊びざかりの少年期を悲しみに閉されながら、日々送っていた」少年の物語だ。しかしその孤独で寂しい日々ですら、売れるために書いた詩的に美化された出鱈目と述懐するほど、犀星の現実の幼年時代はもっと過酷なものだった。『幼年時代』で幼い犀星は実母を深く愛し、養母の目を盗んでは会いに行く。しかし実際の人生では実母には2、3度くらいしか会ったことがなく、特に愛情を感じてはいなかった（『弄獅子』1936年）。義母ハツは、犀星の他にも似たような境遇の子供3人を養子としてもらい、彼らの養育費を糧に暮らしていた。小説『あにいもうと』（1953年）の主人公である赤座もんのモデルと言われるように、大酒飲みで気性の荒いすれっからしの女で、子供に対しても虐待まがいのきびしい折檻をした。『幼年時代』では「叱るときは非常にやかましい人で親しみにくい」程度の描写だが、実際には「自分は母を恐れる為に生きてゐたやうなものだった」（『弄獅子』）、「何度も何度も、私は義母のことを悪く書くようであるが、いくら書いても書き尽くせない」（『履歴書』1942年）と書き連ねるほど憎むべき存在だった。

このようなの生い立ちのせいで、室生犀星の金沢時代の半生は、劣等感に苛まれ暗く孤独なものであった。

「愛されたことのない子供は人を愛しまた人を敬うことを知らなかった」（「履歴書」『泥雀の歌』、実業之日本社、1942年）

学業はからきしだめで、反抗的で子供らしい可愛らしさや愛想はない。学校の先生には目の敵にされ、友人からは人徳がないと蔑まれていた。幼い頃から一人で犀川の季節の移ろいを遊び、寺の奥の書院で書物に親しんだ。それが彼の芸術的感性を育てた。

室生犀星は13歳で高等小学校を中退し、地方裁判所の給仕係として働き始めるが、周囲とうまく合わせることができず仕事にも馴染めない。その代わりに小説や詩集、句集を読みふけり独学で文学にのめり込んでいく。皮肉にもそのことがふるさとをますます居づらい場所にしていった。

「当時、本を読むということは馬鹿か碌でなしにしか見られないで、（中略）本を読むと生意気になり人を人とも思わないふてぶてしさが、顔色にまで現れるとされていた」（「私の履歴書」、日本経済新聞、1961年）

東京での青年時代

1910年（明治43年）、犀星は勤めていた新聞社を辞め、21歳で上京する。上京後、作家として名を上げようとしている下積み時代を書いた『或る少女の死まで』（1919年）は、孤独で寂しい金沢時代とはうってかわって、他者との親密な交流の中で生きる青年期が描かれる。

まず、夢を追う仲間ともいえる友人たちが登場する。みな若い作家や画家で、犀星と同様に芸術で身を立てようと東京でもがいている。まだ売れていないので、生活は苦しく“乞食”のように顔色が悪く痩せこけている。それでも、ともに酒を飲み、語らいあい、時に酒場での喧嘩にまきこまれ、金がないときは持ち物を質に入れて融通しあう。そして、じきに状況が好転することを信じて励まし合う。「さきのことを考えると楽しみだ。

君もそう思うだろう」。このような未来に対する前向きな言葉は、金沢時代を書いた『幼年時代』『性に目覚める頃』には出てこない。

また、下宿する借家に住む母子世帯の9歳の娘ふじ子との交流は、苦しい生活の中で浮き沈みする犀星の心の救いだった。犀星はふじ子を出身地の鹿児島にちなんでボンタンと呼んでかわいがり、勉強を教えたり、動物園に連れて行ったりと世話を焼く。物語の終わり、ふじ子の訃報を受け取った犀星が詠んだ優しい悼詩は、人を愛することを知らずに育った人間とは思えない深い愛情に満ちている。

あなたのおぢさん
あなたたづねて　すずめのお宿
ふぢこ来ませんか
ふぢこ居りませんか

これほどまでに犀星を変えた東京とはいったいどんな街だったのだろう。ふるさとを捨てた孤独な若者にとって、東京はふるさととは何が違ったのだろう。

異土の乞食になるとても

犀星は21歳で初めて上京したまさに当日のことを、『洋灯はくらいか明るいか』(1972年)というエッセイで克明に記している。

当時東京の玄関口だった新橋駅に降り立った犀星は、迎えに来た3人の友人に連れられ電車(当時は路面電車)で浅草へ向かう。浅草公園六区は当時の東京の最大の繁華街で、今で言えば初めて上京してきた若者が、はとバスで都心の高層ビル街を抜けて渋谷のスクランブル交差点に連れて行かれるような感覚だろうか。いや、ようやく映画が普及してきた程度の当時のメディア環境からして、今の若者が感じるよりもはるかに大きなインパクトがあったに違いない。

肩を動かすこともできないほどの人だかりの中を歩きながら「どうだ犀星驚いたか」と聞く友人に、ところが犀星は「そんなに驚いてはいないよ」と答える。到着からの数時間で犀星はすでに東京に慣れ、大都市東京の雑踏を平凡だと感じるようになっていたのだ。とはいえ、さすがに当時の浅草に建っていたレンガ造りの12階建ての塔(凌雲閣)にはいたく感激したようで、しばらく間近で塔の造りを仔細に観察している。

だが、室生犀星の東京初日のクライマックスはこの後だ。一行は塔の足元から離れ、いくつもの小路を通って裏路地を抜けたところで、流しのバイオリン弾きに出会う。彼は不幸な女のことを題材にした「洋灯はくらいか明るいか」といった内容の小唄を歌いながら、その歌詞が書かれた小冊子を売っていた。犀星らを認めたバイオリン弾きは口上を述べる。

「僕らも嘗て芸術家たらんとして都に出て来たものであるが、運つたなくて街頭の詩人になつて了つた。諸君は多くの芸術家の艱難な生涯をご存じであろう。ご存じあらば自作の詩集を一冊購いたまえ」

すると、友人のひとりがバイオリン弾きを弁護するように犀星に熱弁を振るう。その言葉は、地方出身者にとっての東京という街の本質をこれ以上なく象徴的に言い表しているのではないか、と私は思う。

「犀星もあんなのになる覚悟をしなければ東京の生活はできないよ」

あんなものを犀星の言葉で言えば「うらぶれた異土の乞食」だ。そうなるリスクを引き受ける覚悟がなければ東京では暮らせないよ、と彼は東京のきびしい現実を上京したばかりの犀星に諭したのだ。

この忠告は、その覚悟がないなら東京に暮らす意味がないよ、と言い換えた方がより正確だったかもしれない。なぜなら、リスクとチャンスはコインの裏表だからだ。落ちぶれるリスクがあるのは、挑戦するチャンスがあるからにほかならない。きびしい東京の現実を犀星に突きつけた友人の忠告は、東京に出てきた目的を忘れるな、という励ましでもある。

その夜寝る前に、もうひとりの友人が「明日どこか行くあてがあるか」と身を寄せる先の有無を犀星に尋ねる。

「あるならよし、なければ明日にも国に帰れ、一日見れば東京はたくさんなところだ。おれは君とともに共倒れになる生活はできないよ」

東京ではみんな自分のことだけで手一杯だ。友人といえども他人の面倒をみる余裕なんかない。自分の面倒は自分でみろと。この短い会話は、「この痛烈な一撃のためになかなか睡れなかった」と言うほど、犀星の心を捉えた。それは東京についての補習授業ともいえるものだった。『或る少女の死まで』に書かれたように、実際には東京でも人々は助け合いながら生きてはいた。けれど、東京の基本原則は自己責任であり自助である。上京初日に犀星はそのことを学んだのだ。

しかし、薄情な人間関係は自由な個人主義の裏返しでもある。ふるさとで犀星の半生を暗く閉じ込めた出生の経緯は、この街では誰も気にしない。それと同時に、いくらふるさとでは正統で立派な出自を持っていても、ここでは誰も忖度しない。義理やしがらみなく自分の人生を自分で決めることができ、そうして成功するにせよ失敗に終わるにせよ、自分の夢を追いかけることができる。そんな東京の自由な空気が、幼い頃から犀星がまとった劣等感の鎧を脱がせ、他者との交流を可能にしたのだろう。

一人でうらぶれる自由がある街。室生犀星にとって、東京とはそんな街だったのではないか。そしてそれは、地方出身者にとっては今も変わることのない東京でもあるように思う。その貪欲なまでの自由さで、東京は、誰でもどんな人でも選り好みなく受け入れ、叶うことなどないかもしれないそれぞれの小さな夢をブラックホールのように飲み込み、それを養分にしてここまで肥大化してきたのだ。

東京初日の出来事について、犀星は次のようにエッセイを締めた。この感覚は、私にも心当たりがある。

「今夜見た公園にあるいろいろな生活が私に手近い感銘であつた。小唄売、映画館、魚釣り、木馬、群衆、十二階、はたらく女、そして何処の何者であるかが決して分らない都会特有の雑然たる混闇（こんどう）が、好ましかつた。東京の第一夜をこんなところに送つたのも相応わしければ、半分病ましげで半分健康であるような公園の情景が、私と東京とをうまく結びつけてくれたようなものであつた」

（LIFULL HOME’S 総研所長 島原万丈）

PROLOGUE

地方創生のファクターX

寛容と幸福の地方論

問題意識と仮説

―不寛容な空気が地方を滅ぼす―

LIFULL HOME'S 総研所長 島原万丈

Part.1 ／ コロナ禍があぶり出した日本社会の悪癖

0. 本研究の出発点

タイトルで表明しているように、本報告書は地方創生を考える調査研究レポートである。にもかかわらず、まずはコロナ禍に関する議論から始めたいと思っている。なんの関係があるのか疑問に思われる読者も多いかもしれないが、私としてはどうしてもこの話題から始めなければならなかった。なぜなら、本研究の基本的な仮説は、コロナ禍の騒動に対する違和感から着想したものだからだ。

クルーズ船でのクラスター発生から始まった日本におけるコロナ禍も、すでに1年半近く（本稿を執筆している2021年6月時点で）続いている。医療体制の硬直性、デジタル化の遅れ、有事に対応する法整備の遅れなどなど、コロナ禍によって日本の社会システムは多くの課題を露呈してしまった。

だがそれと同時に、日本人のモラルや協調性、それによって守られる社会の安定感も存分に発揮した。外出禁止や都市封鎖の権限を持たない法律の中で、日本の政府や自治体は、自粛の要請で国民の行動変容を促した。法的強制力のない“お願い”に対して、国民は自発的かつ従順に協力することでコロナ禍に対応し、欧米に比べて桁違いに低い被害と社会の秩序を保ってきた。その協調性や団結力は日本社会の美点として私たちは誇るべきものだろう。未曾有の大震災の時にも秩序が守られた日本に諸外国が驚嘆したことは記憶に新しい。

しかし、たしか第一波を越えたあたりから、私はコロナ禍の中に社会に対する違和感というか、気持ち悪さをおぼえるようになっていた。

延々と続くマスコミのコロナ報道の熱狂。明確なエビデンスも示さぬままコロナの危機だけを訴え続ける専門家。それに煽られた民衆の思考停止と同調圧力。支持率の上下に揺さぶられ場当たり的で不合理な対策を繰り出す政府。

ふと、「空気」という言葉が浮かんだ。評論家の山本七平が『「空気」の研究』（1983年、文藝春秋）で分析した、あの「空気」である。空気を読まないやつ、というような使い方をされる空気とほぼ同義と考えてもらってもいい。

個別に話をすると、統計データをもとにした新型コロナウイルス感染症の病気としての脅威度や感染状況の評価、求められる対策の合理性などについて、私と同様の違和感を持っている人は少なくない。にもかかわらず私も含めて皆、その違和感を公に口にしたり行動で示したりすることをためらっている。たとえば、広々とした屋外を1人で歩くときにマスクは不要だと、そんなことは考えるまでもなく分かっていても、マスクをしないで公の空間を歩

くことはためらわれる。

私たちをためらわせているのは、個別特定の権力者やルールや制度ではない。いわゆるマナーとかエチケット、または世間の目、あるいは時代の空気とでも言うべき見えない圧力である。

劇作家で演出家の鴻上尚史は「世間が流動化したものが空気」であると、世間と空気の掴みどころのない関係を鮮やかに解いた[※1]。世間を成り立たせている常識や道徳が、流動化して漂っているのが空気である。その空気が私たちに及ぼす力について、山本七平は言う、「人は確かに、無色透明でその存在を意識的に確認できにくい空気に拘束されている」。

確かに私たちの社会は、微に入り細に入り明文化されたルールではなく、常識や道徳というある種の“お約束”で成り立っている部分が大きい。それは日本だけでなくあらゆる国や民族のコミュニティに共通することだろう。ただし日本社会は、“お約束”の拘束力がかなり強いのではないか。家庭においても学校においても、あるいは地域社会においても、私たちは子供の頃から、個人の権利や自由を主張するよりも、集団に対して従順に協調することを躾けられる。理不尽だろうが不満だろうが、みんな我慢しているのだからお前も我慢するべきだ。コロナ禍にせよ大震災にせよ、そのようなやり方で有事に対応してきたのが日本流だ。

問題は、日本人の協調性がしばしば度を超え、空気に対して異論反論を認めないような強い同調圧力を生み出してしまうことである。

分かりやすいところで言えば自粛警察だ。自粛警察には、様々な事情で自粛したくともできない人もいるという想像力がない。他人の個別の事情を、自分の基準で不要不急だと断罪できる独善性がある。自ら信じる正義や道徳や常識を無自覚に絶対視し、それに従わない者を不道徳と批判する権利があると勘違いする近視眼的な短絡性がある。自粛警察とは距離を置いたつもりでいるメディアの報道姿勢や、感染拡大を抑えることだけに全精力を注ぐ知事や専門家の態度にも、自粛警察と通底する心性を感じる。

概して言えば、不寛容なのである。

寛容とは、自分は是としない価値観や行動などを厳格に糾弾するのではなく、許して受け入れる態度を指している。18世紀フランスの哲学者ヴォルテールを評した言葉として知られる「私はあなたの意見には反対だ、だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る」が、寛容の精神の核心を言い表す。

日本には寛容性が足りない。そう考えると、いろいろ思い当たるところがある。不寛容な同調圧力は、コロナ禍に限らず私たちの社会のあちらこちらに偏在していて、当事者の息苦しさの原因になっているのではないか。

・・・・

本研究でLIFULL HOME'S 総研は、日本の将来にとって極めて重要な課題であり、現政権の国策の柱でもある地方創生をめぐる議論に、寛容性という新たな論点をつけ加えたいと思っている。

寛容性に関しては、LIFULL HOME'S 総研は2017年に『寛容社会　多文化共生のために〈住〉ができること』を発表している。大規模なアンケート調査の分析の結果、外国人に対して寛容な態度で接する人は、外国人にかかわらず社会全般で自分とは異なる意見や考えにも寛容であるということが分かった。地域社会における外国人との共生をテーマにした研究から見えてきた課題は、日本人のコミュニティの閉鎖性や不寛容であった。だから外国人との多文化共生を可能にする開放性や寛容性が、ひいては日本社会全体の寛容性を高め、日本人の幸福度を高めるのではないかと結論づけた。

このアイデアの基本的なところは、若者の人口定着の問題にも適用できるだろうと考えた。平たく言うと、若者の価値観（若者が体現する新しい価値観）に対して不寛容な気質の地域からは若者は流出して戻ってこない。若者に対して寛容な地域は、多文化共生のごとく多様性を生み出し、そこに暮らす人々を幸福にする。そういう仮説である。

※1　鴻上尚史（2009年）『「空気」と「世間」』講談社

1. 同調圧力が招いた悲劇の歴史

1-1. 壮絶な差別を生んだ無らい県運動

同調圧力が招いた深刻な人権被害案件として、私たち日本人はハンセン病への差別を忘れてはいけない。

ハンセン病に関しては、1873年（明治6年）にはノルウェーの医師アルマウェル・ハンセンの功績でらい菌が発見され、それまで信じられていた遺伝病ではなく、貧しい栄養状態で発病する極めて弱い感染症だと分かっていた。にもかかわらず、後にハンセン病の権威となり文化勲章まで受賞した光田健輔医師が声高にハンセン病の危険性を訴え、世論をアジテートした。世論の高まりを受けた政府は1931年（昭和6年）に「らい予防法」を成立させ、すべての患者を隔離することでハンセン病を根絶するという考えで、後世に禍根を残す悪名高い完全隔離政策を進めたのである。

この予防法を根拠にして自治体単位で呼びかけられた市民運動が「無らい県運動」[※2]だ。地域住人は村八分で感染者を追い詰め、当局に密告して隔離施設に送った。新聞は隔離人数の府県対抗戦のように仕立てた報道で「無らい県運動」を煽った。松本清張の『砂の器』（1961年）には、1930年代の無らい県運動における過酷な差別が、戦後の悲劇的な事件につながる背景として描かれている。

1930年頃から始まった「無らい県運動」は、戦後すぐ1945年に特効薬プロミンが開発されたにもかかわらず、1960年頃まで続き、むしろ戦後になって差別は強化される。1948年に成立した優生保護法の対象に、どういうわけか感染症であるハンセン病が指定されたため、隔離施設の中で行われていた人工妊娠中絶や不妊手術の強制も合法化された（なお光田は1915年にすでに患者への断種手術を行っていた）。

繰り返すが、当時ハンセン病の感染力は極めて弱いことが解明され、特効薬も治療法も確立していたのだ。国際機関からは隔離政策や人権侵害をやめるよう度重なる勧告を受けていた。しかし根治が困難（後遺症や再発の恐れがある）などの理由で光田は隔離政策の維持と強化を主張し、日本政府は光田を支持し海外からの勧告を退けた。

隔離政策は1996年のらい予防法廃止まで続き、ハンセン病患者とその家族は長きにわたって過酷な差別を不当に受け続けなければならなかった。1951年（昭和26年）には、長男がハンセン病と診断されたのを苦にして一家9人が青酸カリによる心中を遂げるという悲劇的な事件が山梨県で起こった。一家が5歳の末娘まで道連れにしたのは、ハンセン病患者を出した家族への壮絶な村八分が幼い子供にさえ容赦なかったためだ。ハンセン病を苦にした一家心中事件は他にもあり、もっとも最近の事件は1983年（昭和58年）に香川県で起きている。

1-2. メディアと大衆が煽った太平洋戦争

日本の歴史上、同調圧力が生んだ最悪の経験は、戦前の全体主義的ナショナリズムである。日本を無謀な戦争へ導いたのは軍の暴走であるというのが一般的な認識だが、実は関東軍の一部を除いて軍部には戦線拡大に慎重な立場が多く、政府もギリギリまで開戦を回避しようとしていたことが分かっている。日本を戦争へ駆り立てたのは、国民の熱狂であった。そしてその世論を煽ったのがメディアで、その急先鋒が新聞だった[※3]。

もともと当時の新聞は大正デモクラシーの影響で政府には批判的な立場を取り、統制を恐れず軍の拡大を批判する論調を張っていた。しかし同時に当時の新聞は、大恐慌の不景気で部数が激減していたことに加え、新しいメディアであるラジオが登場してさらに経営的な苦境に陥っていた。そんな時、陸軍将校中村震太朗ほか3人の軍人が中国兵に殺害される事件が起き、中国兵の残虐性をセンセーショナルに伝える報道が国民の「中国憎し」の感情に火を着けた。その3年後に満州事変が起こると、不振に喘いでいた新聞の売り上げが跳ね上がった。号外を出せば出すほど部数が伸び、ラジオとの速報競争で日に何度も号外を出すほど号外合戦を繰り広げ、部数拡大を追いかけた新聞の報道姿勢が、結果的に世論の戦意を煽りたてた。

もともと日露戦争のポーツマス条約から第一次世界大戦後の軍縮条約に不満を燻ぶらせていた国民感情は好戦的にエスカレートし、そのうち逆にメディアが世論を追随するようになる。各紙はこぞって弱腰の外交を批判し国際連盟脱退をけしかけ、やがて政府も引きずられるように戦争へ向かっていった。

※2 ハンセン病への差別については、無らい県運動研究会『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会（無らい県運動の研究）』（2014年、六花出版）に詳しい。

※3 太平洋戦争の開戦に向かう世論に対してメディアが与えた影響については、NHKスペシャル取材班『日本人はなぜ戦争へと向かったのか：メディアと民衆・指導者編』（2015年、新潮文庫）に詳しい。

戦時中の新聞は、大本営発表を垂れ流す戦意高揚のプロパガンダ装置に徹した。また国民精神総動員を主導した大政翼賛会と新聞各社が協働して、「欲しがりません勝つまでは」で有名な国民決意の標語を募集しこれを広めた。世論の好戦ムードは自家中毒的にますますヒートアップし、自ら全体主義を押し広げていった。

こうした熱狂の中で相互監視を強める市民は、少しでも戦争に前向きでない言動を見つけると非国民と糾弾したり、憲兵や特高警察に密告したりした。町内の者は出征する若者を万歳三唱で送り出し、戦死者を出した家を「誉の家」と称賛し、遺族は人前で泣くことも許されなかった。今になってみればまったく馬鹿げたことだが、敵性語として英語の排除運動やジャズ等の西洋文化への弾圧運動もあった。忘れてはいけないのは、これらはすべて政府が法律を根拠に強制したものではなく、(軍部の意向を受けていたとはいえ) 民間団体・企業や町内会や婦人会など一般市民による自発的な行動だったことだ。

2. 空気に支配されやすい日本社会

無らい県運動と戦前・戦中のナショナリズムに共通するのは、ある種の集団ヒステリーのような空気によって、社会全体が自らどんどんおかしな方向に向かってしまったということである。

ヒステリックな空気を作り出したプロセスはこうだ。一部の専門家 (医師や軍人) が何かの問題をとらまえて自らの主張を展開し、それをメディアがセンセーショナルに伝える。それに世論が煽られたら、高まる世論に媚びるために報道がエスカレートする。ハンセン病は国の恥、村の恥。鬼畜米英叩くべし。いったんそういう空気が醸成されてしまうと、日本人の協調性はいともたやすく同調圧力に転化し、社会はヒステリックに熱狂する。そして政治はポピュリズムから全体主義に傾き、理性や客観的な事実を軽視し、国民感情に応じるために非合理的な意思決定をする。パンパンに膨張した同調圧力の空気の中で規範は暴走し、酷い差別や人権侵害さえ正当化される。

新型コロナウイルス感染症をめぐる騒動に既視感がないだろうか。職業的使命感からコロナの危険性だけを訴え続ける感染症の専門家。客観的かつ中立的な分析は放棄してセンセーショナルに報じるメディア。メディア受けを狙って連発されるスローガン。実名公表による社会的制裁をほのめかせて自粛を強要する首長。世論に押されて科学的合理性のない対策を打ち出す政府。そして不安材料となる異分子 (自粛に応じない者) を相互監視で排除する市民。コロナ禍があぶり出したのは、空気に支配され空気によって不合理な状況を自発的に作り出してしまう日本人の悪癖である。

厄介なのは、空気が生み出した構造なので誰にも悪意はないことだ。基本的には皆良かれと思って、それが当然と思って、そうするほかないと思って、自ら空気に飲み込まれていったのだ。山本七平は、「もし日本が、再び破滅へ突入していくなら、それを突入させていくものは戦艦大和の如く空気[※4]であり、破滅の後にもし名目的責任者がその理由を問われたら、同じように『あのときは、ああせざるを得なかった』と答えるであろうと思う」と述べている。

念のため断っておくが、なにも新型コロナウイルスは恐れる必要はないただの風邪などと侮るつもりはない。そしてもちろん罹患し重症化した方の健康や不幸にも喪われた命を軽んじる意図など毛頭ない。

ただし、我が国の感染状況に関して以下のような客観的な事実だけは提示しておこう。これらのファクトをどのように受け止めるかは、個々人の健康状態や価値観あるいは死生観に委ねられるものではあるが、いつかコロナ禍が収束した暁には、日本におけるコロナ禍の騒動について冷静な振り返りがなされることを期待したい。

事実1

日本で新型コロナウイルスに感染して死亡したのは1万人に1人

これまでに日本国内で判明した新型コロナウイルス感染者数 (陽性者) は累積で783,220人。これは全人口の0.64%にあたる。そのうち死亡者数は14,449人で、陽性者の致死率は1.8%。全人口をベースにすれば、日本人で新型コロナウイルス感染症に感染して死亡する確率は0.012%、すなわち1万人に1人である。(厚生労働省、2021年6月22日時点、いずれもチャーター便帰国者、空港・海港検疫を除く国内事例)

1年平均に換算した死亡者数は9,632人で、これは毎年の季節性インフルエンザによる死亡者数 (関連死含む) と同程度で、大流行した1998／98シーズンと比べると3分の1以下である。

※4 多くの軍関係者が無謀で無意味だと分かっていた戦艦大和の特攻作戦について、当時の軍司令部幹部は戦後に文藝春秋のインタビューに「全般の空気よりして、当時も今日も特攻出撃は当然と思う」と答えている。

事実2

日本の人口あたりのコロナ死者数は欧米に比べて1桁少ない（図1）

日本の人口あたりのコロナ死亡者数は、欧米の10分の1から20分の1程度である。（札幌医科大学によるまとめ、2021年6月21日時点）

2021年6月時点で、ワクチン接種が先行した欧米諸国では次々にコロナ禍の収束を宣言するように、大規模なスポーツイベントを解禁し、飲食店の営業を再開し、街では人々はマスクを外し友人との再会を祝っている。しかし、アメリカにしろイギリスにしろEU各国にしろ、人口あたりの新規感染者数は依然として日本の数倍の規模である。

事実3

基礎疾患のない現役世代は、コロナではほとんど死なない

コロナ感染者の死亡者の88％は70歳以上で占められる。40代以下の死亡者は累計で113人（10歳未満ではゼロ）、致死率は限りなくゼロに近い。変異株による重症化率上昇の傾向もみられない（厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（速報値2021年5月19日時点）」）。

東京都の発表では、11月1日～3月31日の期間の死亡者の平均年齢は82.2歳（2019年日本人の平均寿命は女性87.45歳、男性81.41歳）で、そのうち55.3％は院内・施設内感染によるものだ。また死亡された方のほとんどが年代、性別問わず、糖尿病、高血圧、腎疾患などの基礎疾患を有していた（東京都福祉保健局「東京都における新型コロナウイルスによる死亡症例について」）。

事実4

コロナ対策で少子高齢化が加速

高齢化で年平均2万人程度の増加傾向にあった国内死亡者数が、2020年は前年より9,373人減少した。コロナ対策で季節性インフルエンザ等の感染症による死亡が大幅に低下したためと分析されている（厚生労働省「令和2年（2020年）人口動態統計月報年計　概報」）。

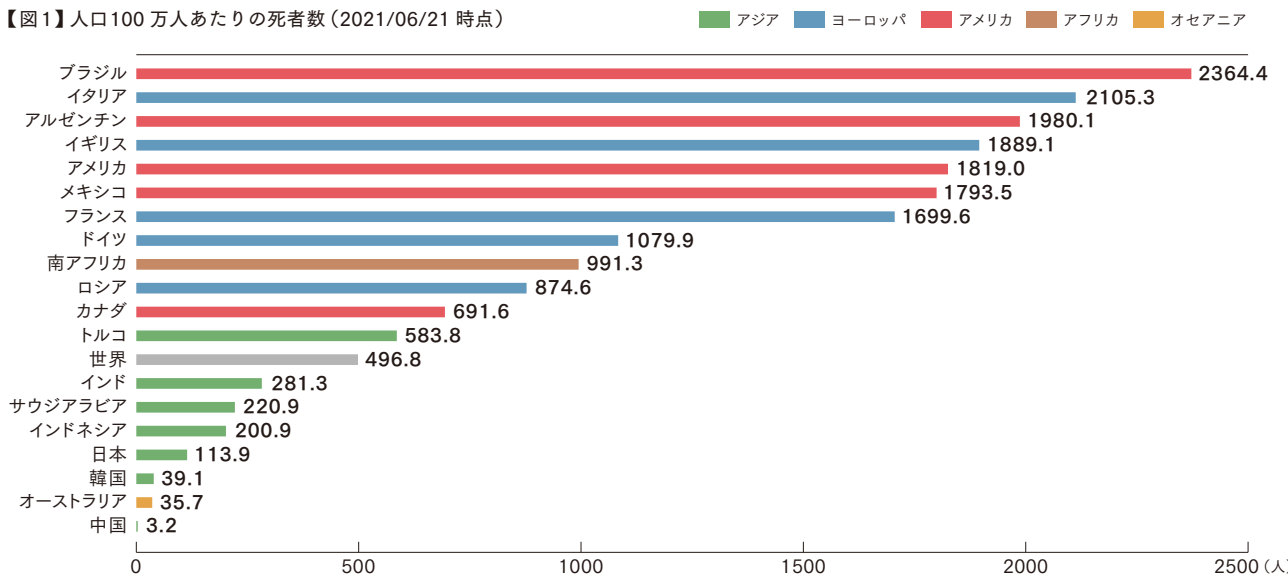
高齢者の死亡が減少した一方で、出生率は過去最低を更新する。厚生労働省が発表した2020年度の「妊娠届出数の状況」で、2020年の届け出数は2019年に比べて4.8％減少したことが判明した。コロナ禍で結婚を先送りしたカップルが増え婚姻数が減少したことが背景にある。出生数は2020年にも840,832人と既に史上最低を記録しており、2021年はさらにそれを下回って80万人程度まで減少する可能性が高い。国立社会保障・人口問題研究所による平成29年（2017年）時点での将来予測（中位推計）では、出生数が80万人を下回るのは2033年とされていたので、コロナ禍によって10年ほど先取りする形で少子化が加速した。

事実5

若年層のうつ病と自殺数の増加

経済協力開発機構（OECD）のメンタルヘルスに関する国際調査によると、日本ではうつ病やうつ状態の人の割合は、新型コロナが流行する前は7.9％（2013年調査）だったが、2020年には17.3％と2.2倍になっていることが判明した。世界的に同じような傾向ではあるものの、先に述べたように人口あたりの感染者数は10分の1以下である。また、国立成育医療研究センターが2020年11月～12月に実施した調査で、うつの症状を調べる尺度（Patient Health Questionnaire for Adolescents

【図1】人口100万人あたりの死者数（2021/06/21時点）



https://web.sapmed.ac.jp/canmol/coronavirus/death.html?n=j&=undefined&s=y&f=y&c=1&p=1

（PHQ-A）日本語版）を使って子供の心の状態を測定したところ、小学4～6年生の15%、中学生の24%、高校生の30%に、中等度以上のうつ症状があった。

2020年の自殺者数は21,081人で、前年に比べ912人（4.5%）増加した（厚生労働省・警察庁『令和2年中における自殺の状況』）。女性や10～20代の若年層の増加が目立ち、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛や生活環境の変化が影響した恐れがある（日本経済新聞2021年1月21日）。

事実6

過去最低の経済成長と過去最高の赤字国債

内閣府の発表によれば、2020年度の日本経済の実質GDP成長率は−4.6%（約25兆円の減少）。リーマンショック（−3.6%）を上回り、統計で確認できる1955年以降で最低の成長率を記録した。日本の10～20倍近い感染者数を出した欧米と比べると、イギリス（▲9.9%）、イタリア（▲8.9%）、フランス（▲8.3%）よりはマシであるものの、▲5.0%のドイツと同程度、アメリカの▲3.5%を上回る経済的損失を被った。しかもワクチン接種の遅れから回復の立ち上がりは遅い。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた経済対策のため、政府の2020年度の一般会計歳出は3度の補正予算編成を経て、総額175兆円超と空前の規模に膨らんだ。財源を確保するために、前年度の3倍超の112兆5359億円の国債を発行し、赤字国債だけで約90兆円と、例年の一般会計の予算総額に迫る（時事通信2020年12月16日）。ただし、大規模な緊急支援策により2020年度の企業倒産は前年度比17.0%減の7,163件と、30年ぶりに8,000件を下回った（東京商工リサーチ）。

3. 空気はわきまえることを求める

山本七平は、空気の支配から逃れる方法は「水を差す」ことだと言う。加熱した空気を冷やすのは科学的根拠であり、対立概念で空気を相対化することだと。データや論理を重視する理性的態度と、どんな時でも誰でも自分の意見を表明できる自由と公平、異論に対する寛容さが必要なのである。

この点を考えるために、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の委員長（当時）、森喜朗氏の女性差別的な発言（2021年2月）は、改めて振り返っておくべきだと思われる。

ニュアンスも含めて正確性を期するために原文ママで紹介しておく。

「女性がたくさん入っている理事会は、理事会の会議は時間がかかります。これは、ラグビー協会、今までの倍時間がかかる。女性がなんと10人くらいいるのか？　5人いるのか？　女性っていうのは競争意識が強い。誰か1人が手をあげていうと、自分もいわなきゃいけないと思うんでしょうね。それでみんな発言されるんです。」

「私どもの組織委員会にも女性は何人いたっけ？　7人くらいか。7人くらいおりますが、みんなわきまえておられて。みんな競技団体からのご出身であり、国際的に大きな場所を踏んでおられる方々ばかりです。すから、お話もシュッとして、的を射た、そういう我々は非常に役立っておりますが。次は女性を選ぼうと、そういうわけであります。」（朝日新聞2021年2月3日より）

この発言は女性差別的であるとして国内だけでなく海外からも大きな批判を浴びた。しかしこの発言には女性差別の観点以外にも批判すべき点がある。

「組織委員会の女性理事はわきまえておられる」という言葉は、会議の参加者は「わきまえて振る舞うべき」という森氏の信じる規範から発せられたものだ。では、森氏の規範は、誰が、何を、わきまえることを求めているのか。

まず「誰が」。森氏が直接言及したのは女性であるが、ことさら競技団体出身者であることを強調していることからも、体育会系特有の上下関係を下敷きにした規範であると考えられる。それは同時に年少者でもありえただろうし、役職地位の低い者でもありえただろう。要するに上下関係の「下の者」だ。次に「何を」は、会議という場所の空気や作法である。彼の本音は、「下の者」は「上の者」が用意した次第にいちいち口を挟まず、既定路線に従うべきだ、ということだ。

つまり、森氏は、80歳を超えた元総理の組織委員会トップの立場から、無言の同調圧力を要請しているのである。経済界や法曹界や報道界などから選出された女性理事が、ラグビー界出身の男性理事に比べて上下関係の空気を読まない存在であったことは容易に想像できる。森氏は和を乱す異分子として疎ましく思っていたのだろう。しかし森氏本人には悪意があるわけではなく、個々人が自分の意見を述べて議論を深めるよりも、会議が滞りなく進行するほうが大切である、と考えているだけなのだ。

失言により露呈した森氏の価値観や規範は、森氏個人の特殊性ではなく、日本社会全体に、特に高齢の男性が支配するコミュニティに、空気のように広く一定の濃度で漂っているものではないか。マスコミの批判は森氏個人に向かったのに対して、SNSでの批判の矛先が高齢男性という属性と、彼らが支配する社会のあり方に向かったのがその証拠である。女性を中心に若者など「下の者」たちが、自分もまさに不当な規範に抑圧され、わきまえてきた経験を持つ被害者だと声を上げたのだろう。

Part.2 ／ 空気から地方創生を考える

1. 東京一極集中問題

長く遠回りをしてきたが、ようやく議論を本報告書のテーマである地方創生に向けていきたい。地方創生はローカル・アベノミクスとも言われるように、地方の人口減少に歯止めをかけ地方を活性化し日本の活力を維持することが目的であり、中心となる課題が東京一極集中の是正である。そこでまずは、東京への人口一極集中問題の歴史について、軽く振り返っておく。

東京への人口集中はなにも今に始まったことではない。歴史を遡れば江戸時代にも江戸一極集中といえる人口移動があり、社会課題として認識されていた。江戸は家康が幕府を開いた頃から、広大な湿地に江戸を建設するために大量の労働力を必要としていた。また商業を発展させる必要もあったので、人口を集めるために町民には課税をしなかった。そこに重い年貢に耐えかねた地方の農民が、労働者として流入した。日本の総人口が3000万人程度の時代に、江戸には110万ほどの人口が集まっていた。

江戸一極集中は、地方農村の人口減による年貢の減少で封建制度の弱体化を招いた。また過密化した江戸では治安の悪化や災害への脆弱性が課題なっていた。そこで1790年（寛政2年）、寛政の改革において松平定信は旧里帰農令を発し、江戸に流入した農民たちに対して幕府が旅費・食費を交付し元の村々へ帰ることを勧める。歴史上初めての地方創生政策と言うことができるだろう。ただしこの令には強制力がなく目立った成果は上がらなかった。1843年（天保14年）には天保の改革の一環として水野忠邦によって人返しの令が出され、農民を農村に返し、農村から江戸への流入も禁じた。こちらは強制力を持った措置だったが、水野忠邦の失脚と改革のとん挫によって効力を失った。

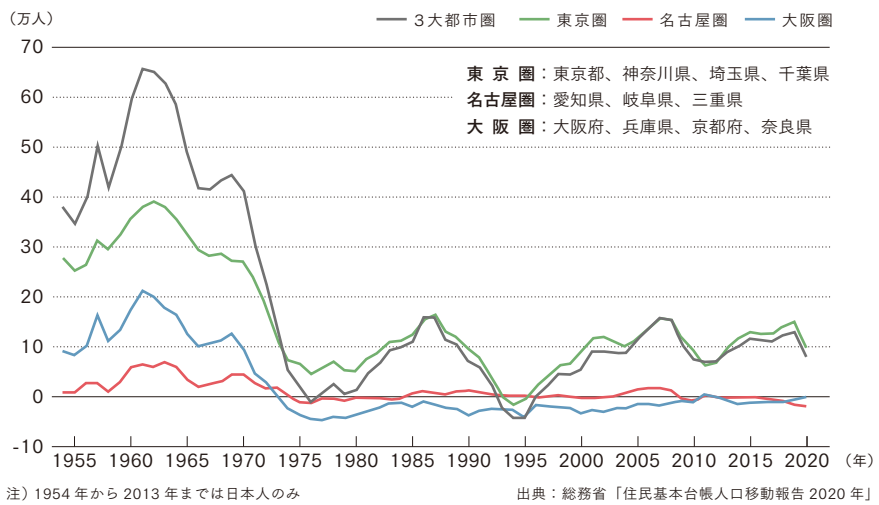
明治維新の後に関所が廃止されると人の移動の自由度は高まった。近代化にともない農村から都市へ、地方から大都市への人口移動は断続的に進み、1901年（明治34年）には東京の人口は250万人を超え、総人口に占める割合は4.4%に達する。大正時代になっても東京の人口流入は続く。

とはいえ、その数は戦後に比べると微々たるさざ波のようなものである。1920年（大正9年）の就業構造は第一次産業が54%を占め、生産年齢人口の多くは地方の農村漁村に留まっていたのが現実だ。1920年時点で旧制高等学校や師範学校も含めた高等教育機関への進学率は2.2%と低く、地方から東京の大学へ進学するのは極めて限られた一部のエリートだった。

大都市圏への人口移動は、戦後ややあって始まった高度経済成長とともに爆発的に増加する。中学・高校を卒業した若者は産業界から金の卵と重宝され、集団就職によって津波のごとく大都市圏へ押し寄せた。1960年代のピーク時には3大都市圏への転入超過数は年間60万人、東京圏（1都3県）へは39万人にも上った（図2）。日本全体での人口が増加している時代には、これだけ大量の人口が流出しても、地方にとってさほど大きな問題ではなかった。

1974年のオイルショックによって高度経済成長は終わりを告げ、民族大移動とも言えるほどの怒涛の人口移動は終息するものの、東京圏だけは現在に至るまで転入超過が続いている。その結果、1925年におよそ15%に過ぎなかった日本の全人口に占める東京圏の人口シェアは、現在（2020年1月1日時点の住民基本台

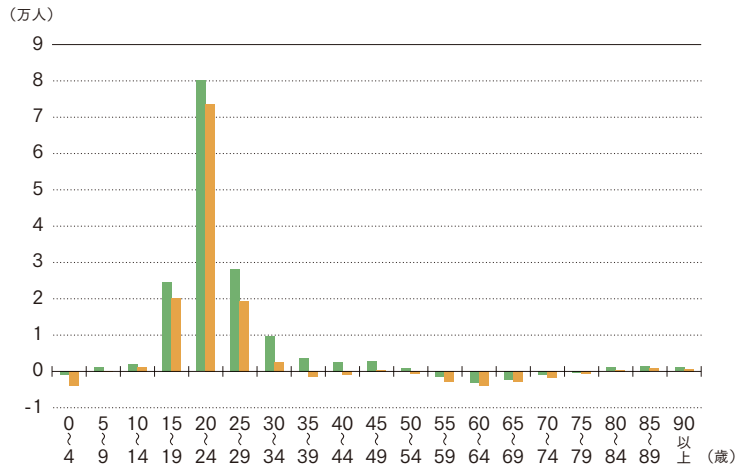
【図2】3大都市圏の転入超過数の推移（1954年～2020年）



注）1954年から2013年までは日本人のみ

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告2020年」

【図3】東京圏の年齢5歳級別転入超過数



※- は転出超過数

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告2020年」

帳）では28.6%に達している。2020年の文部科学省の学校基本調査によれば、大学・短期大学への進学率は58.6%と過去最高を記録し、262.6万人の大学生のうち4割にあたる約100万人は東京圏の大学に在籍している。その結果、現在東京都に住む人口の45.6%は、東京都以外の出身者で占められている（国立社会保障・人口問題研究所「第8回人口移動調査」2016）。

現代との比較で言えば、戦前の地方出身者にとっての東京は、地方の農村で食い詰めた者か軍人になる者以外は、ごく一部の恵まれた家に生まれたエリートか、あるいは並外れた才能を持つ者にしか開かれていない選ばれし場所だった。今では就職にせよ進学にせよ、本人が望むのならば、地方出身者が東京に移動することにさほどの障壁はない。東京の門戸は地方出身者に対して大きく開かれ、教育、雇用、消費、文化のすべての面で地方の若者を惹き付けているのである（図3）。

2. 全総にみる東京一極集中の是正政策の歴史

政治において、東京一極集中を是正しようとする議論がされるようになったのは、それほど最近ではない。国土庁による全国総合開発、いわゆる全総をベースに、一極集中の是正政策の歴史もみておこう。

全総は全国総合開発法に基づき策定される、国土の利用と保全に関する総合的かつ基本的な開発計画で、1962年の第一次計画から1998年まで5回にわたって策定されてきた。全総を貫くのは「国土の均衡ある発展」という基本的なコンセプトで、住宅、都市、道路等の交通基盤の社会資本の整備によって、経済成長の成果を全国に広く分配し地域間格差をなくすという狙いがある。

このような経緯でつくられた全総では、第一次となる「全国総合開発（全総）」（1962年）においてすでに、都市の過大化と地域間格差が課題設定され、「地域間の均衡ある発展」を図る方向性が打ち出されている。ただしここではまだ東京一極集中の是正というよりも、全国的な経済成長をはかる目的が強く、池田内閣の所得倍増計画（1960年）の中で打ち出された太平洋ベルト地帯構想から取り残された地域の不満を背景に、京浜工業地帯や阪神工業地帯など既成の大規模集積地からの工場の分散を狙ったものだった。

全総から7年後の「新全国総合開発計画（新全総）」（1969年）でも「均衡ある発展」のための工業の分散化が引き続き基本路線となるが、全総に比べて大都市の過密問題が強調されていることが特徴である。1967年には公害対策基本法が施行されるなど、高度経済成長を通して大気・水質・土壌の汚染、騒音や振動、悪臭、地盤沈下などの公害問題が各地で発生していたことが背景にある。

1977年の「第三次全国総合開発計画（三全総）」はオイルショックによって高度経済成長が終焉した時代に作成された。ちょうど、内閣府の「国民生活に関する世論調査」で、今後の生活について「これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」という回答が、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」を初めて上回った時期（1976年）であり、経済の成熟期を迎えた国民の価値観を前提とした構想でもある。本文中に言及こそないが、ポスト「日本列島改造論」（1972年）として位置づけられる。

三全総では、初めて東京圏と大阪圏という地域名を特定して、その人口の抑制と若年人口の地方定着が目標として掲げられる。ただしこの方針は「地方の人口増加に適切に対応」するためであり、地方の人口減少という問題意識はまだ出てきていない。高度経済成長が終わり大都市圏への人口流入が急速に減速していたという時代背景もあった。

三全総は「住む」ことに大きな関心を払ったという点で、過去の全総とは一線を画するものであった。「教育、文化、医療等に関するサービスや多様な就業の機会等において、大都市よりも一般的に

低水準」という地方の問題意識にみられるように、居住環境の総合的整備を基本目標として、「均衡ある発展」は工業の再配置から生活環境の整備へ軸足を移した。新全総で提示された広域生活圏という考え方を引き継ぎ、定住圏を単位とした定住構想を掲げ、地域整備の基本方針として就業機会の拡大、教育・文化の向上、健康・医療の確保が強調された。また自然環境の保全についての言及も、過去の２つの計画と比べて飛躍的に増加している。

「第三次全国総合開発計画（三全総）」（1977年）より

すべての地域において特色のある人間居住の総合的環境を整備していくためには，東京圏・大阪圏の人口をできる限り封鎖人口以下に抑制し，東京圏・大阪圏以外の地域へ人口の定着を図ることが必要である。特に，若年層の地方定住を進めることが，地方の活力の維持，向上と自律的な発展にとって欠くことのできないものである。このため，既に軌道に乗っている工業の分散を一層促進するとともに，大学等の高等教育機関，高次の医療機能，文化機能，中枢管理機能について地域的に適正な配置を図ることが重要な課題である。

全総に「東京一極集中の是正」が明確に示されたのは、最初の総合計画から四半世紀を経た1987年の四全総である。初めて道県レベルでの人口減少が課題として認識され、東京圏から地方圏への人口の純流出が目標とされた。基本コンセプトを多極分散型の国土形成とし、政府機関の一部の移転再配置も検討される。ちょうどバブル経済で東京の地価が高騰し、国土庁の「首都改造計画」（1985年）をきっかけに東京のオフィスビル不足が叫ばれていたこともあり、首都移転議論は大いに盛り上がった。1990年には「国会等の移転に関する決議」が衆・参両議院で採択されるに至るものの、東京圏選出の議員や中央官僚の強い抵抗もあり、議論は暗礁に乗り上げたまま棚上げになっている。

四全総では三全総の定住構想を引き継ぎながら、定住と交流による地域の活性化を基本課題としてとらえ、交流ネットワーク構想が推進される。定住と交流、と聞くと昨今注目されている関係人口的なコンセプトを想像するかもしれないがそうではない。ここでの主要な関心は高速交通体系の構築で、高規格幹線道路や小型機用空港等の整備によって多極分散型の都市圏をネットワーク化するという国土観が示された。

最後の総合計画にあたる五全総（1998年）は、人々の価値観に応じた暮らしの選択可能性を高め、多様性に富んだ美しい国土を実現すること目指し、これまでの工業再配置と交通インフラ整備に重きをおいた開発色の強い「国土の均等ある発展」からの脱却を目指した意欲的な取り組みである。「全国総合開発」という看板は「21世紀の国土のグランドデザイン」とかけ替えられ、サブタイトルは「地域の自立の促進と美しい国土の創造」とされた。

背景には、いよいよ人口減少期への突入を目前に控えた社会構造の大きな転換がある。価値観の多様化、グローバル化、人口減少と高齢化、高度情報化など、21世紀という新しい時代の課題に対応した国土構造の転換の必要性が強調された。また1995年の阪神・淡路大震災を経験した後で、自然災害に関する言及が四全総に比べて倍増するのも大きな特徴である。それを踏まえて、東京一極集中の是正の意義に大規模災害への脆弱性が加わることになる。

開発主導型の全総のあり方を見直すはずのグランドデザインであったが、多極を多軸へ面的に拡張した４つの国土軸を設定し、豊予海峡など６つの海峡横断道路事業の構想や超電導磁気浮上式鉄道（リニアモーターカー）の早期実現を盛り込むなど、「国土の均衡ある発展」の開発路線を脱却するまでには至らなかった。

また、４つの戦略の１つとして「大都市のリノベーション」の推進が掲げられたことが、良くも悪くも「21世紀の国土のグランドデザイン」の帰結する着地点を大きく方向づけた。

大都市のリノベーション戦略を受けて、バブル経済崩壊後の疲弊した東京の再生から日本経済の再生を目論む小泉内閣と石原都政によって、都市再生が強力に推し進められることになる。都心の居住機能の回復、老朽木造密集市街地の解消、都市のアメニティ、景観等に配慮したまちづくりを目指し、都市再生特別措置法（2002年）に基づく都市再生特区の設定で都市計画の大幅な規制緩和が進み、超高層オフィスビルや超高層タワーマンションの開発ラッシュが起こる。その結果、東京一極集中と東京と地方の格差は是正されるどころかむしろ強化されることになった。地方の人口減少傾向が顕著になる2000年代に入って、東京圏の転入超過は再び増加し、東京圏の中では都心一極集中という状況を生み出したのは、周知のとおりである。

このように政府は、「国土の均衡ある発展」を旗印に1960年代から長く東京一極集中の是正を目指してはいたが、図2で明らかなように、実際に東京圏への転入超過に歯止めがかかったのは、オイルショックとバブル経済崩壊の２つの景気後退期だけである。その他にはリーマンショックの時にも転入超過は減少している。図2が雄弁に語るのは、結局のところ、経済の好調不調によって労働力が地域をまたいで調整される市場原理の途方もない力の強さだ。

もちろん政策的に工業の再配置がなされなかったとしたら、現

在の東京への一極集中はもっと強烈なものだったかもしれない。しかし、産業構造に占める製造業のウエイトが下がり、情報や知識によって経済が牽引されるようになる流れの中では、長い目で見れば東京の一極集中の圧力は変わらなかったと思われる。情報や知識は、それが集まっているところに集まるという性質を持つからだ。円高とグローバル化で工場の海外移転が進む中で、工場に頼って均衡ある発展を目指した地方政策がむしろ裏目に出たところもあるだろう。さらに言えば、全総が一貫して整備してきた高速交通ネットワークによる全国1日交通圏の形成は、ストロー効果で大都市圏へ人の流れを加速した面も否定できない。

個人的な直感になるが、自然や風土、歴史に根ざした定住圏構想を打ち出し地方の居住環境の総合整備を掲げた三全総のビジョンには、もしその後の時代にも継続し、ブラッシュアップされ徹底されていたとしら、と歴史のif的な可能性を感じなくもない。なぜなら生活居住環境の良さは人を惹き付け、そこに住み続ける強い動機になるからだ。もちろん生活を続けるためには雇用が不可欠であることは言うまでもないが、産業が情報化・知識化するに従って、安く広大な土地と安価な人件費を求めた製造業の時代と違って、現代では優秀な人材が集積していることが産業を呼び込む力になる。また、コロナ禍におけるテレワークが垣間見せているように、産業の情報化とICTの普及で、地方に住みながら東京あるいは世界を相手に仕事をする可能性も広がってきている。

さて、このように東京一極集中の是正を目指す政策がいよいよ進退窮まった感のあるところに登場したのが、元総務大臣でもある増田寛也氏が座長を務める日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」(2014年)である。2040年までに全国の約1800市町村のうち約半数(896市町村)が消滅する恐れがあると発表した通称「増田レポート」の試算は、マスコミでもセンセーショナルに取り上げられ、全国の自治体に衝撃を与えた。

提言を受けてなのか水面下で連携していたのかは不明だが、レポート発表直後に発足した第二次安倍内閣は、ローカル・アベノミクスとの触れ込みで「地方創生」を主要政策として打ち出す。政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、地方創生担当大臣に石破茂氏を任命し、まち・ひと・しごと創生法に基づき全国の自治体に地方版総合戦略づくりを促した。

地方における人口減少がいよいよ本格化してきたことに加え、ちょうど東日本大震災からの復興という文脈にも合致し、また巨額の予算が投じられることで経済界からの注目もあり、ちょっとした地方創生ブームといった様相を呈する。

3. 東京に出てきた若者が地方に戻らない理由

安倍政権の目玉政策として始まった地方創生には、2014年から「まち・ひと・しごと創生事業費」だけで毎年1兆円(個別施策の事業費を含めると2兆円前後)の予算が注ぎ込まれてきた。2020年に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が実施した調査によれば、全国1778の地方公共団体のほぼ全てにおいて、「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂・延長等が行われ、1期のころから切れ目なく地方創生の取り組みが推進されていることが報告されている。

にもかかわらず、今のところ目に見える成果は上げられていない。それどころか、東京圏(1都3県)への人口転入超過は増加傾向にすらある。

なぜ若者が地方を出て東京圏に集まるのか。なぜ地元へUターンしないのか。

地方から東京圏へ流入する人口は、年齢区分では20～24歳が最多を占め、上京の2大理由は進学と就職である。地元にはない魅力を持った高等教育機関や企業を求めて、若者は東京に集まってくる。そこで、地方創生をめぐる議論では人口のダム機能として東京圏への流出を防ぐための施策が打ち出されるが、その問題をまず指摘しておきたい。

停滞した地方を活性化するためには、新しい技術や知識を学んだ人材が必要になる。そのためには地域の未来を担う若者は、東京だろうが海外だろうが、どんどん外を目指して広い世界を経験すべきだ。問題は若者の転出が多いことではなく、外の世界で新しい技術や知識を学んだ優秀な若者が戻って来ないことにある。あるいは、生まれ故郷にこだわらず自分の能力を発揮する場所を探している若者が、その地域を選んでくれないということにある。

では、UターンやIターンの現状はどうなっているか。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が、今現在東京圏に在住する地方出身の20～30代の若者を対象に実施した調査[※5]では、約

※5 内閣府「移住等の増加に向けた広報戦略の立案・実施のための調査事業報告書」(2020年) https://www.chisou.go.jp/sousei/pdf/ijuu_chousa_houkokusho_0515.pdf

50％の若者が地方での暮らしに関心があると回答している。このようなアンケート結果をもとにあたかも地方移住が増加しているという論調の記事は多く、特にコロナ禍でテレワークが浸透したことで、地方移住に期待が集まっている。

しかし実際に行動に移す者は少ないし、残念ながら地方が期待するような人口移動は目立った動きにはなっていない。先にみたように東京圏への転入超過は長期的なトレンドとして継続しているし、コロナ禍の2020年にさえ東京圏への転入超過は続いている。東京都からの転出数は若干増加してはいるものの、転出先は神奈川県、千葉県、埼玉県でほとんどが占められており、1都3県という範囲でみれば、東京一極集中の傾向はコロナ禍でも揺らいでいない。

複数のアンケートで確認できるように、Uターンなど地方移住の阻害要因の大きなものとしては、求める仕事のなさ、所得の低下、生活利便性の低下があげられ、それらが充足されることが移住の条件となっている。東京に出た出身者のUターン意向に関しては、いくつかの地方自治体でも調査がなされているが、傾向は概ね同じである。

このようなデータは広く地方自治体にも共有されているため、内閣府の全国版を下敷きにした各自治体の地方創生政策の総合戦略では、雇用の創出、移住支援、および子育て支援などが政策の大きな柱となっている。

4. 地方創生のファクターX

今回、LIFULL HOME'S 総研は、このような地方創生に関する基本的な課題にあらたな論点を付け加えたいと考えている。

まず手始めに、Uターンの現実について確認する。国立社会保障・人口問題研究所「第８回人口移動調査」（2016）では、出生都道府県から県外に移動した経験のある人のうち出生都道府県に戻った人（Uターン）の割合をまとめている（図4）。

これによると、県外移動者のUターン率が47都道府県の中でもっとも高いのは沖縄県で、一度県外に移動した人のうち実に70.9％が県内に戻ってくる。全国平均は43.7％なので、沖縄県のUターン率が群を抜いて高いことが分かる。沖縄県の他でUターン率が高いのは、富山県（55.3％）、静岡県（54.6％）、宮崎県（52.6％）、愛知県（51.6％）と続く。逆にUターン率が低いのは順に、奈良県（33.2％）、東京都（36.1％）、佐賀県（36.8％）、大阪府（36.9％）、長崎県（38.6％）、福島県（39.5％）となっている。

圧倒的なUターン率を誇る沖縄県だが、雇用や所得の指標で

【図４】出生都道府県別のＵターン率

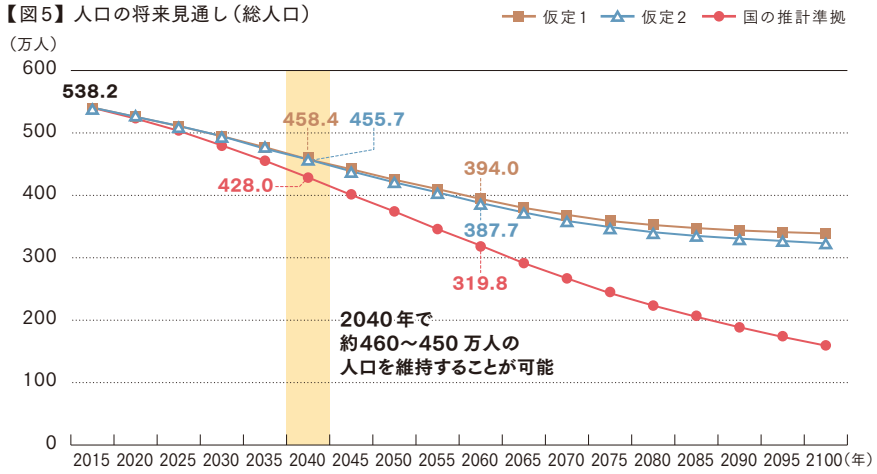
	県外移動経験者に占めるＵターン者の割合（％）	全国平均との差	リターン率順位
北海道	42.4	▲1.3	32
青森県	43.9	0.2	26
岩手県	41.2	▲2.5	36
宮城県	46.0	2.3	18
秋田県	42.8	▲0.9	31
山形県	43.5	▲0.2	28
福島県	39.5	▲4.2	41
茨城県	50.9	7.2	6
栃木県	39.7	▲4.0	40
群馬県	49.6	5.9	7
埼玉県	48.7	5.0	10
千葉県	42.9	▲0.8	30
東京都	36.1	▲7.6	45
神奈川県	41.2	▲2.5	37
新潟県	44.5	0.8	23
富山県	55.3	11.6	2
石川県	49.4	5.7	9
福井県	46.6	2.9	15
山梨県	42.3	▲1.4	34
長野県	48.7	5.0	11
岐阜県	46.4	2.7	16
静岡県	54.6	10.9	3
愛知県	51.6	7.9	5
三重県	47.8	4.1	14
滋賀県	46.2	2.5	17
京都府	39.8	▲3.9	39
大阪府	36.9	▲6.8	43
兵庫県	41.8	▲1.9	35
奈良県	33.2	▲10.5	46
和歌山県	49.5	5.8	8
鳥取県	45.6	1.9	19
島根県	43.0	▲0.7	29
岡山県	44.5	0.8	24
広島県	48.5	4.8	12
山口県	40.0	▲3.7	38
徳島県	43.9	0.2	27
香川県	42.4	1.3	33
愛媛県	45.0	▲1.3	22
高知県	48.4	4.7	13
福岡県	45.5	1.8	21
佐賀県	36.8	▲6.9	44
長崎県	38.6	▲5.1	42
大分県	45.6	1.9	20
宮崎県	52.6	8.9	4
熊本県＊	−	−	−
鹿児島県	44.0	0.3	25
沖縄県	70.9	27.2	1
全国	43.7		

国立社会保障・人口問題研究所「第8回人口移動調査」（2016年）付図２より作成
※（熊本地震の影響で）熊本県出生者は集計の対象外
国外出生者および出生都道府県不詳を除く

みればほぼ全国ワーストであり、人口増加率、１人あたり所得、食糧自給率、投票率、財政健全度を基本指標としつつ、住宅や教育や健康や文化も含めた広範囲の生活環境の質で算出する日本総合研究所の「全国幸福度ランキング2020年版」でも45位と振るわない。沖縄県に次いでUターン率の高い富山県、静岡県はこれらの指標では比較的上位につけるものの、宮崎県は経済や生活環境の面では40位以下となる。東京都を除いてUターン率の低い奈良県、佐賀県、長崎県が雇用や所得の指標も全国40位前後に位置している一方で、求人倍率や平均所得では上位に位置する大阪府もUターン率はワーストクラスである。

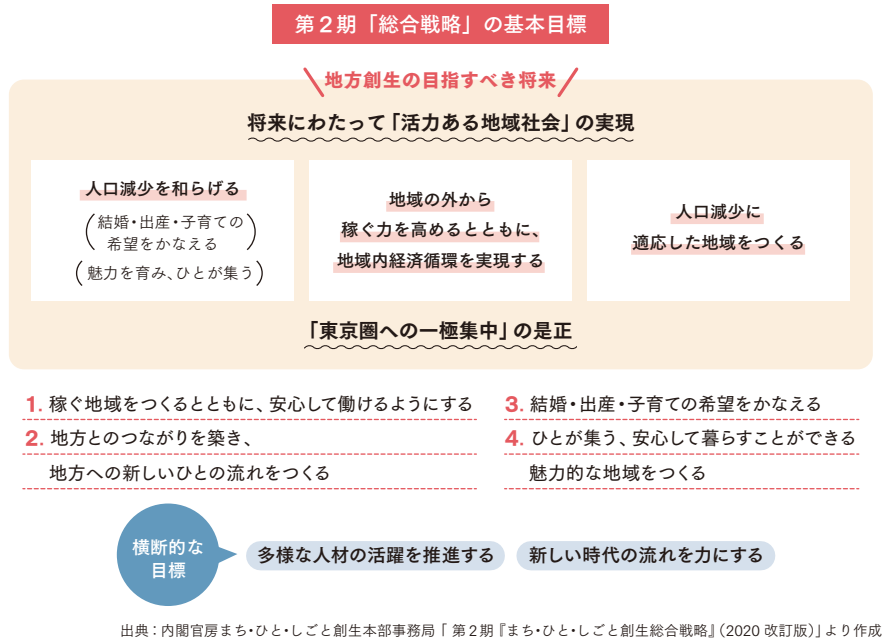
このように、一度県外に出た人がUターンで戻って来るかどうかには、各種の意識調査の結果が示す雇用や所得、インフラ整備等生活環境の要因だけでは説明できない部分も小さくない。東京圏へ出てきた地方の若者が地元に戻らない阻害要因として、これまでの地方創生議論が見落としていたものがあるのではないか。ここではそれをいったん「地方創生のファクターX」としておこう。

【図5】人口の将来見通し（総人口）



出典：北海道人口ビジョン（改訂版）

【図6】第２期「総合戦略」改定の概要（抜粋）



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「第２期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』（2020改訂版）」より作成

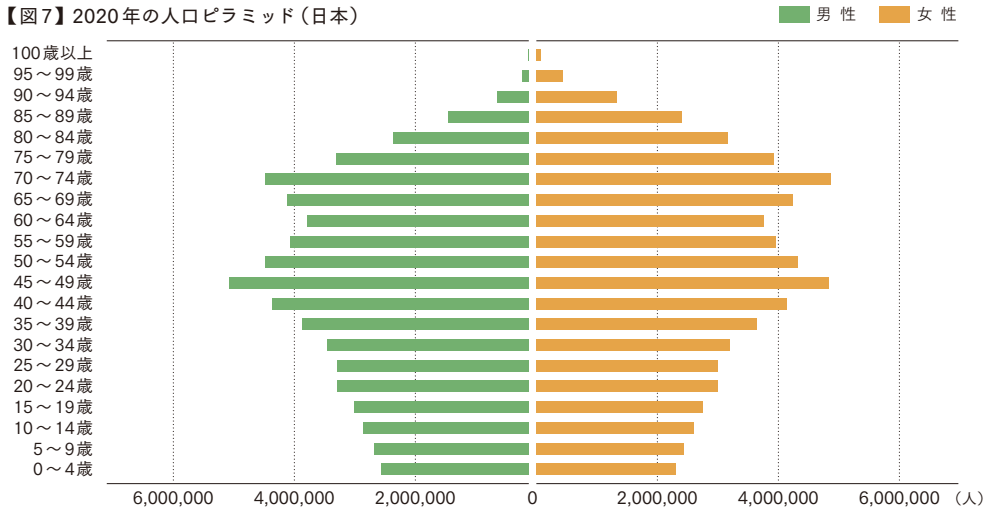
5. 地方創生の前提を問い直す

そもそも地方創生政策は、2010年から2040年にかけて、20～39歳の若年女性人口が５割以下に減少する市区町村は消滅の可能性がある、と警鐘を鳴らした日本創成会議の「消滅可能性都市」の多大な影響を受けているため、全国の自治体の地方創生政策では、まず自治体ごとに長期の人口ビジョンを描くことから着手される（図5）。

自治体が作成する人口ビジョンでは、国立社会保障・人口問題研究所が推計する将来人口の予測を踏まえ、出生率の回復とUターン等移住を増加させることで、現時点での将来予測よりも人口の減少幅を縮小する将来像がビジョンとして掲げられる（第１期の人口ビジョンでは、多くの自治体が奇跡的なV字回復で将来の人口増を描いていた）。次に人口ビジョン実現のための地方版総合戦略が立案され、さまざまな目標と施策が打ち立てられる（図6）。総合戦略では、出生率の改善と、人口流出の抑制と移住人口の増加が中心的な課題となり、先ごろ改訂された第２期からは移住人口に加えて関係人口の増加も目標として追加された。

まず前提を疑う必要があるのでは

【図7】2020年の人口ピラミッド（日本）



出典：総務省統計局「統計ダッシュボード」

ないだろうか。言いにくいことだが、日本の総人口は回復しない。人口の塊である団塊ジュニア世代（1971年から1974年に生まれた世代）が45歳を超えた今、若い世代がいくら出生率を回復させたとしても、人口の再生産という点ではいわゆるポイント・オブ・ノーリターン（回復不能点）を過ぎてしまったのだ（図7）。2060年に1.1億の人口を維持するためには、合計特殊出生率が2.07に回復したとしてもなお毎年20万人の移民受け入れが必要であるとも試算されており、現実的にそれだけの移民を日本社会が許容するとは考えにくい。

しかも出生率は国立社会保障・人口問題研究所の予測を上回るペースで低下しており、統計が更新されるたびに、将来推計の低位推計を下回って推移しているのが実態である。にもかかわらず、図5にみられるように、各自治体は楽観的な目標を人口ビジョンとして掲げている。各都道府県の人口ビジョンを合算すると、日本の将来人口は国立社会保障・人口問題研究所の上位推計を大幅に上回ることになる。可能性は常にゼロではないと言うものの、現実的に考えてまずありえない話である。

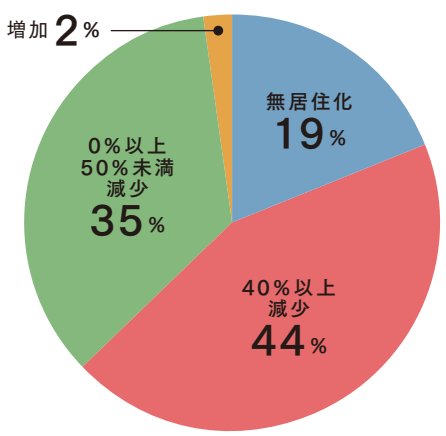
そして前述のとおり、膨大な予算を投じても、今のところ目立った成果は上がっていない。

忘れられがちなことだが、実は日本ではこれまで多くの都市が消滅してきた。ここで言う消滅した都市というのは、一定の人口が住む地理的範囲という意味ではなく、基礎自治体という意味である。記憶に新しい平成の大合併では、1999年（平成11年）から2006年（平成18年）までの間に市町村数は3232から1821に減少した。このような市町村合併は昭和の時代にも明治の時代にもあり、長い目でみれば基礎自治体の数は一貫して減少している。平成の大合併は基礎自治体の行政基盤を強化するためとされたが、いち早く人口が減少傾向に転じた地方圏において、小泉内閣の小さな政府論と地方分権の方針の中で地方交付税の大幅削減が大きなきっかけとなった。要するに限られた収入で行政サービスを維持するために地方の行政組織が整理統合されたものであり、人が住む都市が消滅したわけではない。

ところがこれからは人口動態のモードが異なり、人口減少がいよいよ加速する。長期的には、人が住まなくなる国土が増えることは覚悟しなければならない。国土交通省の試算では、全国を1kmメッシュでみると、2010年比で人口が50％以上減少する地点が60％に上り、全体の19％の地点は居住者がいなくなる。（図8）

もちろん東京圏の人口の分散化による人口分布のバランスは引き続き模索されるべきだろう。しかし現在1億2600万人の総人口が2040年には1億1000万人にまで減少すると予測される中（国立社会保障・人口問題研究所による中位推計）、極端な仮定としてその時でも東京圏以外の地方の人口を維持させるとした

【図8】人口増減割合別の地点数（2010年⇒2050年）



出典：総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土政策局推計値により作成

ら、現在の1都3県の人口約3682万人の４割強にあたる1600万人の人口を地方に分散させる必要がある。全自治体の人口の維持が、そもそもいかに不可能な人口ビジョンであるかは理解できよう。仮に首都機能の移転をしたとしても、新首都への人口移動は、公務員とその家族のほか、政党関係者や首都機能に関連する民間機能等を含めて最大で人口60万と見込まれる（国土交通省）。

地方創生が本当に解決すべき問題は人口なのか。人口維持を究極の目標とする限り、ほとんどの地方版総合戦略は負け戦が確定である。そもそも地方の未来にとって根本的に重要なのは、人口が維持できるかどうか、自治体が存続できるかどうかではなく、そこで生きる人々が幸せな人生を送れるかどうかではないか。極端な話、過疎の中間山地や離島で都市部と同レベルの行政サービスや商業的利便性は享受できないとしても、そこに住む人が望んだ暮らしを実現し自分の未来に希望が持てるのであれば、幸福を実感できているだろう。

国や自治体が果たすべき役割は、生命や財産を脅かす災害や犯罪から国民を守り、一人ひとりの小さな幸福を守ることである。地方創生はまず、自治体ベースで数えた人口の頭数ではなく、その地域に住む人の幸福度を最大かつ究極の目標に掲げるべきではないだろうか。

人口規模は結果であって目的ではない。すべての自治体の地方創生政策が掲げる仕事・雇用の創出は、むろん地方にとってもっとも重要な課題である。しかしそれは自治体の人口を維持するためではない。日本のすべての地方に住んでいる人々の幸福のために、生きる糧と生きがいが得られる仕事が必要なのであり、人は自治体の存続のために働くのではない。

6. 地方創生における多様性の本質

少子高齢化が進む日本のすべての地域で幸福な暮らしを実現するために、どうしても避けて通ることはできない課題が１つある。それは地元経済の生産性向上である。仮に自治体の統廃合と人口の集約化が進んだとしても、高齢化率が50％を超えるような市町村が続出していく中で、最低限の公的サービスを維持するための財源を確保しなければならないとすれば、一人あたりGDPの増大は不可欠である。

少ない現役世代人口で“稼ぐ”地元経済をつくるためには、地元産業にイノベーションを起こし生産性の高い事業を生み育てる必要があることは言うまでもない。では、いかにして地元産業にイノベーションを起こせるか。もちろん手軽で確実な処方箋など存在しない。単に人口の頭数さえ揃えば生産性の高い“稼げる仕事”が増やせるわけではない。創造都市論の提唱者にして中心的存在であるチャールズ・ランドリーは著書『創造的都市　都市再生のための道具箱』（2003年、日本評論社）で、「革新は、アイデアの実践的な理解であり、通常、創造的な思考から発展する」と述べ、イノベーションの前状況として都市の創造性に注目した。そして、創造的都市の基盤の１つに「多様な人間の存在と多様な才能へのアクセス」を上げ、創造性が生まれる前提条件として多様性の重要性を強調している。

一方、知識産業化した現在の都市経済を牽引する人材を新たな経済階級（クリエイティブ・クラス）として抽出して注目を集めたリチャード・フロリダは、都市がクリエイティブな人材を集めるためには、３つのTが必要だと訴える。技術（Technology）、才能（Talent）、そして寛容（Tolerance）である。（『クリエイティブ資本論　新たな経済階級の台頭』2008年、ダイヤモンド社）。技術や才能は流動性が高く、開放的で寛容な場所に集まる傾向があるため、寛容は特に重視される。

２人の論者の主張を総合すると、すなわち、地域にイノベーションを起こすためには、多様な創造的人材の集積が必要であり、そのためには地域に寛容な気風が求められる、と言うことができる。

多様性については、第２期の総合戦略でも「多様な人材の活躍を推進する」が横断的な目標として新たに掲げられ、企業やNPOや住人など多様な主体を地域の担い手として参画することや、女性、高齢者、障害者、外国人の活躍が期待されている。それらはすべて重要なことだと同意するし、特段異論を差し挟むつもりはない。けれどもっとも基本的な視点が抜けているように思う。

多様性の本質は、人種や性別や年齢や障害のように目に見えるものではない。多様性の本質はさまざまに異なる価値観や認知スタイルの混在だ。ある事象や対象をどのように認知するか、それをどのように評価するか。そのスタイルの違いが多様性なのである。単純な例えで言えば、円柱型の物体を真上から見て丸いと言うか、真横から見て四角いと言うか。はたまたその使用方法を、中に液体を入れる容器と見るか、ローラーのように転がして何かをならすものと見るか。このような視点や認知方法の違いが多様性なのだ。日本人なら常識と考えるところを外国人なら非常識と見る。健常な人なら便利な空間的環境が、障害を持った人には危険を感じる脅威になる。そのような異なる認知が相対し矛盾する状況を生み出すのが多様性であり、イノベーションを生み出す最初の気づきにつながるのである。

先にみた森元総理の失言を思い出してもらいたい。森氏の失言の背景には、森氏が大切にしている価値観や規範が見え隠れしていた。それは、「下の者」が「上の者」に従順に従い、空気を読んでわきまえることで場の秩序が保たれることを是とするものだ。言った本人も無意識のうちに異論・反論、すなわち多様性を排除する力として作用するが、それを言った本人にとっては間違ったことではないので、悪気がない（だから森氏の謝罪会見には反省の色がみられない）。冒頭で述べたコロナ禍における自粛警察やマスク警察を思い出してもらいたい。自粛警察もまた、女性はわきまえないと言った森氏と同様に、コロナ禍という一大事に自粛要請に応じないのは言わば社会の敵で、そういう不届き者を叩くことは疑いのない正義の行為と信じているのである。

山本七平は、「日本の道徳は差別の道徳である」と言った。ある特定の考え方や行動様式が普遍的な正しいものであると疑わない心性が、コミュニティの道徳として権威や権力を持つ場合、それに従う同調圧力が生まれ、従わない者（異なる道徳に従う者）への差別が正当化され、多様な価値観は排除されていくことになる。

もしも地域においてそのような空気が支配的であるとすれば、生産性の高い“稼げる”事業を生み出す可能性のある人材ほど息苦しいと感じるはずだ。フロリダの分析では、クリエイティブ・クラスは、「個性や自己表現を強く好む」、「組織や制度の命令に従うことを好まず、因習的な集団志向の規範を受け入れない」、「実力主義を重視し」、「勤勉、やりがいのある仕事、刺激を好み」、「開放性や多様性を好む」[※6]。おそらく日本社会、特に地方では、クリエイティブ・クラスはこのように見えるだろう。風変わりで、自分勝手でわがままで、空気を読まず、生意気で、理屈っぽく、変なことばかり始める。こういう人を異物的なものとして排除しがちな不寛容な場所には彼らは住みたがらないのだ。地域の創造性を高めようとすれば、フロリダの言う3つのTのうち、寛容はとりわけ重要な指標になる。

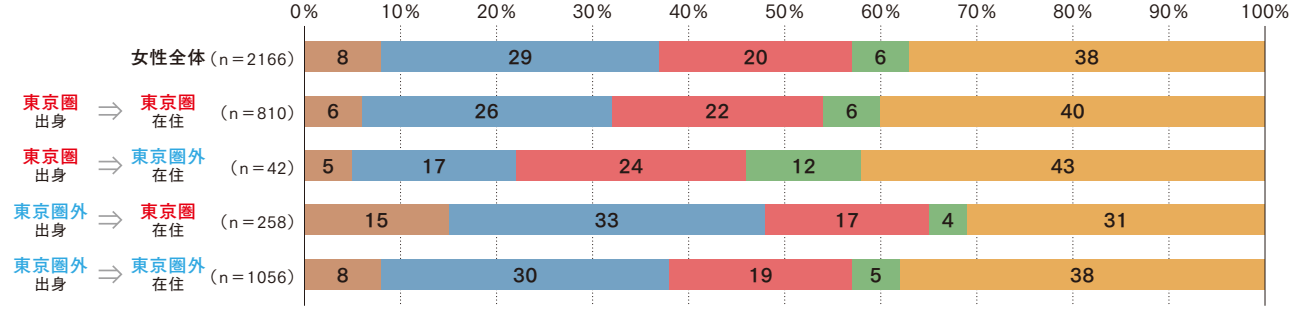
森氏の失言に対する女性からの批判が、高齢男性が力を持つ社会全般に向けられたことから想像できるのは、保守的で集団主義的な不寛容な空気が地方の女性や若者の幸福度を下げ、彼らを地方から遠ざけているのではないか、という地方の不都合な真実である。

私個人の経験でも、地方に行くと東京の職場ではセクハラで一発レッドカードのような発言が冗談半分に飛び交っていたりして驚くことがある。また会食の席の彩りのように女性スタッフを同席させる経営者は珍しくない。東京で働く独身女子が年末年始の帰省が憂鬱だと呟く声もよく聞く。正月に実家に親戚が集まると結婚や出産のことばかり追及され、同窓会でも地元に残った友人の話題が子育てのことばかりであることに、居心地の悪さを感じるのだそうだ。

彼女たちが感じている地元の居心地の悪さの一端を、国土交通省が実施した調査[※7]のデータから示そう（図9）。「あなたの出身地の人たちは『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』といった考え方について賛同しますか」という質問に対して、東京圏外出身・東京圏在住の女性は、「賛同する」「どちらかといえば賛同する」と回答した割合が48%と最も多く、「賛同する」という回答は、東京圏出身者や地方出身の地方在住者に比べて2倍から3倍に達する。また、東京圏外出身・東京圏在住者が移住を選択した背景となった地元の事情として「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」を選ぶ割合は、女性は男性の2倍近くなる。地元に男女性役割分担の規範が強く残っていることを感じていることが分かる。

そして、そのような不寛容な空気が、雇用や所得、子育て支援などの従来の地方創生政策のKPIだけではUターンの多さ・少なさを説明できない隠れた要因、すなわち地方創生のファクターX

【図9】Q. あなたの出身地の人たちは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方に賛同しますか（母集団：国内の女性）



出典：国土政策局「企業等の東京一極集中に係る基本調査（市民向け国際アンケート）（2020.11 速報）

ではないか、というのがLIFULL HOME'S 総研の仮説である。

典型的には性役割分担や選択的夫婦別姓の問題にみられる伝統的な家父長主義的な規範。強すぎる上下関係。あるいはマイノリティに対する差別的視線。または共同体主義が肥大化した悪しき平等主義や変化に対する保守性などなど。これら伝統や共同体の秩序という“正義”や“道徳”のもとに同調圧力を発動させてしまいがちな不寛容な空気こそが、地方の衰退を加速させているのではないか。今回のレポートではこのようなことを考えてみたいと思う。

本報告書の内容について

本報告書においてLIFULL HOME'S 総研は、地方創生に関する議論に新たな論点として「寛容」と「幸福」を追加することを提案する。住民の幸福増大こそが地方創生であり、寛容性が地方創生の重大な課題である、というのが本研究プロジェクトの基本スタンスである。

本報告書では、独自のアンケート調査のデータ分析にもっとも多くの紙面を割くものの、学術的な知見も踏まえ、さらにさまざま現場の実践例の取材調査によって全体の議論を補強していく。以下、この序章以降に続く本報告書の議論について、大まかにその内容と位置づけを紹介する。

まず、経済学者の清水千弘教授（東京大学空間情報科学研究センター）が、都市の発展と衰退に関する経済学の知見で、本プロジェクトの地方創生に対する仮説を補強してくれた。

人々の創造的なアイデアが経済成長のもっとも重要な原動力となった現代では、創造的な人を惹き付ける文化的な消費機会の多さが都市の発展の鍵を握るようになっている、というのがポイントだ。他方、人口減少が避けられない地域については、清水教授は市場原理による最適化を優先しつつも、人口の量ではなく質に注目することで活性化のチャンスがあると言う（26p～35p）。

次に、株式会社ディ・プラスの橋口理文氏と吉永奈央子氏が、基礎資料として47都道府県別の人口動態や雇用統計などの外部統計を整理している。所得や雇用の経済的指標、共働き率や持ち家比率などの生活関連指標など、地方創生が重視する従来の指標では地方の人口社会減を説明できないことが直感的にご理解いただけると思う（36p～45p）。

本報告書での議論の中心を占めるデータは、47都道府県の「在住者調査」と、東京圏に在住する地方「出身者調査」の2つの独自調査で構成される。

在住者調査は、18歳から69歳の男女を対象に都道府県ごとに400サンプル、全国合計で18800サンプルを集め、寛容性と幸福度（Well-Being：ウェルビーイング）を中心に都道府県ごとの住民意識について調査した。出身者調査は、東京圏に住む18歳から39歳の地方出身者を対象に、1都3県を除く44道府県出身ごとに200サンプル、合計8600サンプルを対象に、主にUターン意向・関係人口意向などを確認した。

データの分析は、株式会社ディ・プラスの橋口氏・吉永氏と職業大・有馬雄祐助教が分担して行った。47都道府県を幸福度や寛容度で評価したランキングの他、住民の幸福度や寛容度が地域の人口減少の抑制に与える効果や、住民の幸福度や寛容度を高める要素について分析している（48p～115p）。また資料編として、幸福度、寛容度、および人口移動に関わる意識など主要な指標を47都道府県別にまとめてある（117p～211p）。

これを受けて、住まいや都市、世代のライフスタイルの研究に膨大な著作を持つ三浦展氏は、女性の価値観に注目して、自身が実施した独自調査などを分析した。移住を考える女性のジェンダーに関する価値観と、定住志向の男性の価値観がいかに隔たっているか。東京からの脱出を考える女性が求めるライフスタイルと、地方が活性化と考える都市像がいかにズレているか。三浦氏の一連の分析は、LIFULL HOME'S 総研の独自調査で得られた結果のディテールを補強し、本プロジェクトが提案する寛容性や多様性に対する解像度を高めてくれる（214p～229p）。

まちづくりに関する取材経験が豊富な中川寛子氏は、地方創生の取り組みで地元と移住者の媒介となって活動している人や団体の全国の事例を報告する。「変わる地域と変わらない地域」と題した11ケースの取材で得られた内容は多岐に及び、一筋縄ではいかない現場の実態が生々しい。各地でみられる思惑違いの背景には、人口の頭数を重視する地方創生施策の歪みがあるように思われる（230p～252p）。

地元プレイヤーとの協働で全国各地のまちづくりに取り組み、

※6 リチャード・フロリダ・井口典夫訳『クリエイティブ資本論 新たな経済階級（クリエイティブ・クラス）の台頭』（2008年、ダイヤモンド社）、95p～98p

※7 国土政策局「企業等の東京一極集中に係る基本調査（市民向け国際アンケート）」（2020） https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/content/001409459.pdf

かつ地方創生に関する数々の著書を持つ一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表の木下斉氏も、「人口さえ増えれば地域が活性化するという考え方が幻想」だと、地方創生における人口増という前提を舌鋒鋭く批判する。稼ぐ地方つくりを提唱する木下氏はまた、都市発展の原則は「常識を疑う」ことと言い、地方創生におけるクリエイティブ人材の重要性と、常識破りの変人を許容する寛容の必要性を強調する。高校生時代から一貫して理論と実践を往復的に検証してきた木下氏の指摘は、本プロジェクトが展開する主張に強い説得力を与えてくれる。

では、創造性の高い人材を惹き付けるために地域の寛容性をいかにして高めるか。アンケート調査の分析から、文化芸術が果たす役割に大きな期待が持てることが判明した。アーツカウンシル東京での経験からアートプロジェクトのマネジメントに精通する森隆一郎氏（合同会社渚と）は、文化の効能と地方の文化施設が果たす役割についてレポートする。本報告書の提案に共感いただける地域では、地方の寛容性を開くアートプロジェクトの実践例をぜひ参考にしてもらいたい。

最後に、調査結果の振り返りを主旋律として各パートの議論を総括したうえで、地方創生政策に対するLIFULL HOME'S総研からの提案をまとめる。提案の骨子は3つ。地方創生は人口論から脱却し、地方の幸福の最大化を目指すべきであること。そして地域の寛容性を重要なKPIとして、地域の寛容性、多様性、創造性を高める文化芸術を重要な戦略として位置づけること。このような論旨において本研究は、ジェイン・ジェイコブズに起源を持つ創造都市論へと連なる自覚を持っている。

1

Prologue
Introduction
Research
Report
Epilogue

地方創生の経済学

清水千弘（しみず・ちひろ）

日本大学教授・東京大学空間情報科学研究センター特任教授、麗澤大学都市不動産科学研究センター長(Preliminary Draft: May 31, 2021)。東京工業大学大学院理工学研究科博士 後期課程中退。東京大学博士(環境学)。専門は指数理論、ビッグデータ解析。リクルート住宅総合研究所主任研究員、麗澤大学経済学部教授を経て現在に至る。



1 生きる場所の選択

地方創生といわれて久しい。20世紀には中心市街地活性化と呼ばれ、地方都市の中心部が衰退していく中で、その地域ににぎわいを戻すための政策的な議論が展開された。そのような都市の一部の地域の問題から、21世紀に入ると都市全体の問題に発展し、そして、日本の多くの地域へと広がっていった。

衰退していく地方は、生き残ることができるのであろうか。また、生き残す必要はあるのであろうか。地方創生を経済学の枠組みでとらえようとすると、地方都市というのは、市場メカニズムが機能しないということを前提にしなければならなくなる。市場メカニズムが効率的に機能する社会では、「神の見えざる手」によって導かれ、資源配分が最適化されることを通じて、持続可能性の高い均衡状態へと収束していく。市場機能を作用させるためのドライバーは、人間が持つ欲求と生物としての本能であると言ってもよい。ここで、生物としての人間の行動と、群れまたは集落、町や都市との関係から考えてみよう。つまり、生物がどうして群れを作るのか、その群れに対してどのような本能や欲求が作用してきたのかを理解することを通じて、衰退しようとしている群れ、つまり地方都市の状態について理解したい。

生物が、様々な形で群れを作ることは、我々は経験的に理解している。それではどうして群れを作るのであろうか。その最も強い動機は、「種の保存」と「生命の維持」であろう。食料を継続的に確保していくためには、単体よりも2つの個体で共同したほうが効率的であったり、リスクをシェアすることができる。そして、生物として種を保存していくためには、雄(オス)と雌(メス)の一対の集合が必要であるため、このペアリングは雄雌となることが多い。

そのペアリングは、現在の日本であれば同世代の数百万と数百万の集合同士での無限に近い組み合わせの中から、偶発性も高いが、一定の条件の中で最も適合した組み合わせが作られる。そのマッチングの確率は、物理的な距離であったり、精神的な距離であったり、それぞれの個人の嗜好等が条件となり、変化する。このように個人から一対の集合となり、最低規模の家族が生まれ、そこに新しい生命が誕生し、家族の規模を調整していく。さらに、外敵から身を守ったり、餌を効率的に確保するといった生命の維持機能を増加させるために、家族から発展し「群れ」を作るようになる。

このような家族や群れを形成していく中で、どこで巣を作るのかという選択も、生命の維持を決定する大きな要素となる。巣の選定においては、自然環境への適合、外敵からの防御と生命の維持に欠かせない餌場との接近性が重要になる。

気候変動など外的要因の変化は、食料である動植物の分布をも変化させていくために、その分布の変化に応じて、巣の場所も変遷してきた。または、外敵だけでなく様々な自然災害を避けるように、場所を選定してきた。

加えて、どのような材料やデザインで巣を作るのかということも、それぞれの生命体において、それぞれの技術制約の下で試行錯誤の結果、最適な形へと進化してきた。

生物は、ダーウィンの「種の起源」に始まる一連の議論のように、「生き延びることができるのは、最も強い者、最も賢い者ではなく、変化できる者である」ということなのか、たまたま生き延びる特徴を持った者だけが生存しているのかは別として、生存確率が高いように選択してきたということだけは間違いないであろう。

このように考えると、私たちの住宅地選択も、他の生物と大きな違いはない。地震や津波、河川の氾濫など、一気に生命を奪ってしまうような自然災害を避けるように、動物は経験的に学習し、それを避けるように集積する場所を選定してきた。



餌場が就業地ということであれば、そことの近接性を大切にしてきた。雄雌のペアリングを形成することで子孫を残していくという動機が強くなれば、少しでもその確率が高い人が集積する都市へと移動していった。大きな都市になるほど、餌場としての機能が強く、雄雌が出会う確率が高いためである。

子孫を長く残していくために教育が重要であるとすれば、子育てをする家族は良質な教育サービスを受ける場所に集まる。医療サービスの質の相違が生存確率に大きな影響をもたらすために、とりわけ医療サービスを受ける機会が多くなる高齢者たちは、そのような地域へと集まろうとする。

そのような選択を誤った時には、子孫を残すことができなかったり、生存することができなくなったりして淘汰されてきたのである。

しかし、実際の住宅市場では、複雑な要素がまじりあう。人間は、科学技術を手に入れたことで、自然の流れよりも早い速度で人口を増加させ、そして、山を切り崩し、海面を埋め立て住宅地を拡大し、気候変動にも対応できるように建物を強化して、地球全体で人口を拡大させてきているし、その増加速度はどんどんと早くなってきている。その中で、面的な拡大だけでなく、バベルの塔ではないが、高さをも求め始めている。大都市だけでなく、地方都市までもが、競うように高層建物の建設を始めている。

文明が発達していく中で、人間は、生命の維持という目的が達成できると、「幸福」を求め始めた。とりわけ先進主要国では、本来の生物としての人間が担ってきた機能も、群れを作ることでシェアまたはアウトソースすることができるようになり、ゆとりも生まれてきた。

金銭的な対価さえ支払えば、食料をはじめとするあるゆるモノは手に入るようになった。子孫を残すための子育ても、かつては家族内部で同居する他世代の者たちが担い、さらには地域社会での関わりの中で、地域住民も参加する形で行われていた。しかし、近代化の過程で、保育所や幼稚園、学童保育などの公共サービスが拡大され、「習い事サービス」や塾なども発達した。

そのような中で、子供は忙しくなったが大人には時間が生み出されていく。その生み出された時間を、家庭外の生産活動や新しい娯楽などをも含むサービス消費に向かわせることで、人間としての欲求を満足させていった。「幸福」とは何かという哲学的な問いはここでは議論しないとして、経済学的に捉えられるモノやサービスの消費が、効用、つまり経済学がいう幸福に近似できるとすれば、その機会が大きいところに人が集まり始めるのは自然な流れであった。

ここに、改めて「家」というものを捉えなおすと、私たちが最も多くのお金を消費している対象の一つでもある。家の場所として、餌場となる生産活動の拠点までの近接性と様々なサービスが享受できる場所を選んでいき、その内部での消費活動もまた、私たちの幸福と密接に関係してくる。家の中で、一人でまたは家族と、休息をも含むどのような時間の消費をするのか、その消費の質を高めるような適切な大きさとインテリアを含む装置とは何か、などによって、私たちの幸福が変化していく。

さらには、人は生まれてから必ず老いる。高齢者という区分があるとすれば、その区分に当てはまる比率が、年々大きくなっている。そして、医療技術の進歩もあり、寿命も長くなり、今まで経験したことがない多くの未知の世界が待ち受けている。その中で、どこにどのように住んでいくのかということは、新しい基軸を作り出していくことかもしれない。

「人間はどこに住むべきか？」という問いに答えようとすると、生物として遺伝子に埋め込まれた本能からの選択と、生涯を通じた「幸福」の合計によって決定されるものである。

2 街の誕生と衰退

動物も植物も、生命を維持していくために、それぞれが心地よい群れを作る。人間は、家族・血縁関係を中心とした群れから集落へと発展させ、さらに、村・町、そして都市を形成していった。

戦前の家長制度に基づく農業を中心とした産業構造の中では、多くの国民が、土地に紐づけられながら生産活動を行い、それを維持するように地域社会が形成されていた。このような社会は、強い家族・親戚といった血縁関係が中心となり、それを超えた地域的なつながりによって支えられていた。その中では、同じ集落の中では均質性を維持することが経済的な生産性も高く、生命の維持や幸福を最大化する上で、各個人の最適戦略であった。つまり、その地域のリーダーまたは集合的な意思に同調することが、最も尊重される行動規範となっていた。

しかし、第二次産業、そして第三次産業が中心となっていく過程の中で、土地・地域に接続された人間関係から解放され、個人の選択の下で、自由に生産および生活の場を選ぶことができるようになっていった。そのような大きなうねりの中で、多数の人々に支持され、集積が進んでいったのが都市であった。

都市の誕生と集積を巡っては、多くの研究がある。都市の魅力とは何であるのか、また、都市はどのように集積し、成長をしていくのであろうか、という問いに対しては、Jacobs (1969) は、都市とは「様々な人が集まり、交流が生まれることで情報の交換が促され、互いに刺激を与えあうことが可能となる地域」であり、かつ「そうした場所でこそ可能であることとして独創的なアイディアや技術が生み出され、結果として持続的な成長を可能とする地域」とした。

近年においては、第四次産業革命といわれるが、知識集約的な産業が経済成長をけん引してきている。そのような産業構造の変化の中では、ますます都市への集積が強まってきていたことも理解できよう。集積される「情報」の交換を通じて、イノベーションを起こすことが可能となる場所としての機能が都市の魅力であるともいえる。そのため、多様な情報とクリエイティブな人材が多く集まる都市には、成長機会が多く存在しているともいえる。その結果として、規模が大きくなるほどに高い経済生産性と成長力を持つようになり、他方、地方に行くほどに衰退が大きくなるという構造が生まれてきた。

集積が進んだ都市においても、すべてが私たちを幸福にしてきたわけではない。1998年にはハーバード大学のエドワード・グレーザーは、「都市は死にゆくのか (Are Cities Dying?)」(Glaeser, 1998) という論文を書き、産業や人口が集積することで、都市内部で渋滞が発生し、交通事故や犯罪が増加し、公害が深刻化するなど、都市を舞台とした社会問題が次々と発生する中で、都市という存在そのものが社会悪となり、死にゆくのか、死にゆくべきなのかという問題を、社会に問うた。

現在においても、都市の成長が一国の経済成長をけん引し、家計・企業の厚生水準を高めるための主要なドライバーになっているということは、疑う余地はない。しかし、都市の成長は、または集積は何によってもたらされるのか、さらには「都市」とは、一体何であるのかといった疑問に対する明確な回答は、依然として出すことはできていない。

一方、地方に目を向けると、「様々な人」ではなく、「均質な人」で地域が形成され、「交流は特定の人たち」だけで行われ、「情報の交換が限定的」であり、「刺激が少ない地域」となってしまっているともいえる。そのため、「そうした場所でこそ可能であることとして独創的なアイディアや技術が生み出されづらく」、結果として「持続的な成長ができない地域」になっているのかもしれない。

都市にも、地方にも、それぞれの魅力と弊害があるとして、持続可能性の高い社会をそれぞれが均衡しながら作り上げていく上では、本源的な人々の選択行動の根底にある構造を正しく理解しておかなければならない。

Storper and Scott (2009) は、成長が続いている「都市にどのような特徴を持つ人々が居住するか、そしてそれがどう移り変わっていくか」に注目した。その中で注目されるのが、Glaeser, Kolko, and Saiz, (2001) から始まる「Consumer City Theory」である。

伝統的な経済地理学、都市経済学のモデルでは、都市では生産といった意味での有利性があり、消費といった側面では不利であると考えられてきた。すなわち、伝統的な立地理論では、生産の拠点が都市の中心にあり、その周辺に住宅と消費の機会を提供する商業用施設が集積するということを想定してきたのである。しかし、現在のロンドン、パリ、ニューヨークや香港、シンガポール、東京などの世界的なスーパースターシティには、人間が生命を維持し、さらに、幸福度を高めるための様々な要素が多く含まれている。

そこに集まる人々は、「新しい知識」や「アイディア」、「技術を生む創造性」を持ち合わせており、そのような要素がドライバーとなって「イノベーション」を誘発させる原動力になってきた。シカゴ大学の社会学者である Clark (2004) は、経済成長の最も重要な原動力は、経済学の教科書で解説されている生産要素の「土地」でも「資本」でもなく、人々の「創造的なアイディア」であるといったが、その通りになってきている。それは、第一次産業のように土地に紐づけられるものではない。

それでは、そのような人材を惹きつけるドライバーはなんであるのか、そして、追い出してしまう原因はなんであるのか。「創造性豊

かな人材」(creative class)は、Glaeser, Kolko, and Saiz (2004)やAdamson, Clark and Partridge (2004)によれば、高い賃金や安い家賃などの経済的側面よりも、文化的側面へのアクセスに代表される「生活の質」を重視する傾向が強いと指摘した。人々の生活の質を押し上げるアメニティとは、Silver, Clark and Navarro (2010)らは、活気に満ちた音楽やアートのコミュニティ、映画館、レストラン、壮麗な建物、図書館、美術館などを挙げている。もちろん治安や教育の質も重要な要素である。そして、Clark (2004)は、「都市とはエンターテイメント・マシン:The City as an Entertainment Machine」であると主張した。今、成長著しい都市は、広義の豊かなエンターテイメントを持ち、創造性豊かな人材が集まる場所となっているのである。

人々がこうした広義のエンターテイメントに基づく「アメニティ」によってもたらされる文化的・自然的消費の機会を重視するようになった理由には、かつての労働集約型の企業が大部分を占めていた経済構造から、情報と知識集約型産業が主となる形へとシフトし、人々の生活において余暇を楽しむ機会が増えたことが挙げられる (Fogel, 2000; Glaeser, Kolko, and Saiz, 2001)。

そうすると、その都市において家計が、どのような“文化的な消費”をできるかどうか、都市の発展を支える「創造的な人材」を惹きつけることができるかどうかが鍵となった。そのような変化に伴い、都市の様相が変わり、都市計画の役割や概念が根本から転換されるようになっていったともいえる。つまり、生産活動における外部不経済を制御させながら、強い規制、ゾーニングによって都市の形成を制御してきた産業都市から、住宅と消費可能なアメニティとの距離や集積を重視した消費都市をどのように誘導していくのか、またはインセンティブを与えていくことができるのかといったことが優先されるようになってきたのである。

特に、Florida (2002)は富裕層や、創造的な人材を惹きつけるためには都市がより「多様性」の豊かな文化的消費を可能とすることが重要であると指摘した。多様性こそが、地域の魅力を高める強い要素であるという点は、Shimizu et al(2014)の首都圏を対象とした実証研究からも導かれている。しかし、このような多様性とは、地方に行くほどに対立することが多くなる。地方では、均一性を維持することで、最も高い生産性が確保され、その地域の住民にとって幸せだからである。

しかし、そのような動きは、地方都市においては大きなチャンスがあるともいえる。生産基盤となる企業の誘致は、地域だけの努力では実現が困難である。しかし、本来地域ごとに特色を持った自然資源があり、文化があるため、それを中核として、様々な消費対象を生み出すことができれば、クリエイティブな人材を惹きつけ、そこで新しい街へと変革していく可能性が高まっていくのである。



3 衰退する街の条件

成長する都市がある半面、人口が増加している国でも衰退する都市も多い。代表的な衰退事例としては、かつてのアメリカのデトロイトやドイツのルール工業地帯に位置する都市などであり、それらは産業構造の大きな変化の中で、地域全体が衰退するという問題に直面した。

わが国では、このような大規模な外生的なショックが発生していない都市でも、人口減少が止まらない地域が多く出現してきている。人口減少は、そこで再生産される出生者数が低下すること、人口流出が人口流入よりも大きくなってしまうことで発生する。人口が減少するということは、人口規模に基づき設計されていた様々な機能が、低下または停止されてしまうことになる。そして、公共サービス、商業サービスなどの低下は、街としての機能・魅力の低下を通じて、一層に人口の流出を生むという悪循環へとつながる。ここでは、衰退する街の条件として、人が流入してこない原因を探ってみよう。

もちろん、人口減少という大きなダイナミクスを踏まえて、街そのものを最適化していくことは重要である。補助金などの持続可能性の低い社会制度を使って延命させても、最終的には、そのツケは債務の増加を通じて国民全体に及び、長期的かつ一国全体で見たと

きの社会厚生は大きく低下してしまう。経済学の枠組みで整理すれば、短期的にも長期的にも、非効率な状態にある地方都市は整理されるべきであり、それを延命させるだけの強い根拠を見つけることは困難であろう。つまり、そのような人口減少にさらされている街の延命装置をいち早く外して、消滅させてしまうという選択肢が最適解になるかもしれない。

しかし、超長期で考えたときに、地方を消滅させるということは、綿々と形成されてきた文化や無形資産をも消滅させてしまうこととなり、それは二度と取り戻すことができないために、簡単に答えを見つけられるものではない。あくまでも、直感的な私論であるが、このような選択をするだけの科学的な根拠もない中では、できる限り市場メカニズムを通じた最適規模への誘導が、何よりも優先されるべきであると考える。つまり、地方創生をできるだけ効率的に進めるべきというのが、現段階での多くの方に賛同が得られる解答ではないであろうか。

地方創生への取り組みが積極化し一定程度の時間とエネルギーが注がれてきた。その中で活力を取り戻してきた地域もあるが、多くの地域で悪化の一途をたどっていることを考えると、長期的な視野の下で、日本全体としてどのような選択をしていくのかという社会デザインをした上で、処方箋を探していかなければならない。

黒瀬(2021)によると、地方回帰・地方活性化の好循環を起動させるトリガーとしては、「地域活性化に向けて、地域がアクションを起こす」ことが求められている。活力を取り戻した地域は、誰かがアクションを起こしたことから出発している。各地域の首長・公務員はもちろん、関係する住民たちもが絶対的な当事者意識を持たないことには、何も始まらない。そして始まったのちには、政策的な支援も含めて、専門家なども巻き込みながら、実行していけばよい。正しい選択をしていけば、おのずと人が集まって来ることも多い。黒瀬(2021)には、そのための公的支援の制度と可能性が網羅的に紹介されている。ここでは、まずは、どうして出生者数が少ないのか、流入人口は流出人口を上回らないのか、という単純な問題を考えてみよう。

経済活動において、人口は最も重要な生産要素となる。人口が減少すれば、生産力が低下するだけでなく、消費をする力も小さくなる。

日本全体で人口減少が進む理由は、当たり前であるが、出生者数が少ないためである。とりわけ地方都市より都市部での出生者数が少なく、その改善に向けての様々な取り組みが進められている。地方創生の枠組みでこの問題を捉えると、地方で出生者数が相対的に多くても、そこで生まれた人たちが、一定の年齢に達すると流出してしまい、その生まれた場所に戻ってこないという問題がある。

このような問題に対応するために、古くからUターン、またはIターンといった政策が進められてきたが、その政策効果は限定的であった。それでは、どうして、それら政策は進まないのであろうか。多くの生物の生理学的な現象には、サケなどに代表されるように、母川回帰(ぼせんかいき)といわれる、生まれた場所に戻るという本能が埋め込まれているはずである。また、生命を維持するために、最も適した場所を探して移り住むことは、動物の世界では当たり前である。



「母川回帰」を拒み、選択されない理由が何であるのか、人間に、最も適した場所を選択するという本能があるとすれば、その選択対象にならないのはどうしてなのか、を正しく理解することで、地方回帰や地域活性化を進めるためのヒントを得ることができるであろう。

さらには、街を活性化させる起爆剤としては、単なる人口数という量的な問題だけでなく、クリエイティブ人材を集めるといった質的問題もある。「創造性豊かな人材」(creative class)は、地域の未来を創造していく上で欠かせないピースなのである。

日本の多くの地方都市には、自然資源だけでなく、綿々と形成されてきた文化的な遺産も多く残る。何気ないコト・モノでも、違う視点を持った人から見たときに、高い価値を持つことも少なくない。それでは、どうして地方に人が集まっていかないのであろうか。

農業に代表される第一次産業や労働者数と労働時間に対応して生産性が決定される第二次産業では、高い均質性と協調性が、最も効率的であり、地域を維持していくための最も重要な要素であった。そのような社会において、生産性を高めるといった意味でも、地域住民の幸福を最大化するといった意味でも最適な状態であったいえよう。しかし、均質化を求めすぎるあまり、多様性を拒絶し、閉鎖的になってしまってきたことも否定できない。

そのような中で、「母川回帰」をしようとしても、一度外に出た個人そのものが変質化しているため、そこで形成されている価値観や目に見えない様々な行動規範に同調できなくなってしまっていることが多い。とりわけ一定年齢に達してしまっているため、幼少期から青年期前半までの情報が少ない中では疑いもなく従うことができた「同調圧力」にも、違和感が生まれてしまうことは少なくない。それを受け入れる側も同様であり、異質な考えや行動を許容するだけ

の器を持ち合わせていないことも多い。

ましてや、地縁のない、当該地域にない多様な知識や技量を持つ「創造性豊かな人材」が移住をしようとしても、排他的行動が起こってしまうこともある。とりわけそのような人材には、自分自身を創造するだけの知識・技量・経験があり、それを強く修正されようとすると、反発や居心地の悪さが生まれてしまい、他の地域へと転出してしまうことになることも少なくない。

このような状況に陥るのには、それぞれに乗り越えないといけない壁がある。均質性の欠点と利点、多様性を生み出すことの欠点と利点のそれぞれを、受け入れる側と移り住む人の中で共有していくことが大切になる。これは、経済的な合理性などでは測定ができるものではなく、生物が持つ本能的な排他性や協同性といったものをも超越した、自分の人生に向き合い、自らで創りだしていくといった当事者意識が重要になるものと考える。

日本全体で人口減少が進む中で、関係人口を増やしながら、それぞれの地域が一定の均衡状態へと向かうという目標は、決して間違っていない。街が生き延びていくためには、世代を超えた地域全体のデザインと、多様性を受け入れることの柔軟性と寛容さが重要なのではないであろうか。

4.1 高齢化と人口減少の影響

地方都市においては、人口減少と高齢化が同時に進むため、人口減少と高齢化が一緒に論じられることが多い。高齢化が進むと、「老齢依存人口」という定義があるように、社会に依存しながら、余生を過ごすと考えられているために、社会のお荷物になると考えられてきた。ここでは、まず人口減少と高齢化が地域社会、家計の最も大きな資産として位置づけられる住宅市場にどのような影響を与えるのかといった整理から出発し、後半では高齢化の影響を考えてみよう。

人口減少や高齢化が進む社会では、内外の経済学者からは、住宅価格が暴落するといった「アセット・メルトダウン仮説」や「地方消滅」といったことがささやかれてきた。しかし、人口減少と高齢化が同じ枠組みで論じられていることが多いが、両者は全く異なる事象であり、それぞれ違った経路を通じて、住宅市場や地域社会に影響をもたらすことを理解しておかなければならない。

かつて日本は、戦後の急速な経済成長を達成していく中で、20世紀最大の不動産バブルを経験した。しかし、1990年に不動産バブルが崩壊した後には、「失われた10年: Lost decades」とも揶揄された長期的な経済停滞に直面した。不動産バブルのピーク時には、東京の中心では土地だけで1㎡あたり5000万円といった価格で取り引きが行われたこともあったが、バブル崩壊後、不動産価格は持続的に下落した。21世紀に入ると、日本は人口減少期に入り、世界で最もはやい速度で高齢化が進んだ。そのような中で、不動産市場では、東京をはじめとする大都市を除くと空き家は増加し続けており、10年後には、住宅ストックの4分の1が空き家になるといった予測が出されている。加えて、国土の10%を超える土地の所有者が、所有権を放棄してしまうことで、土地の権利者を特定することができない「所有者不明土地」と呼ばれる土地が急増している。日本の地方都市では、すでに人口減少と高齢化の進展が20世紀後半から始まっており、21世紀初頭には財政破綻を起こした自治体も出現する中で、「消滅自治体」という言葉も出始めている。このような事象の背後には、人口動態も含めて、どのような経済メカニズムが存在しているのであろうか。

人口が減少したからといって、または高齢化が進むからといって住宅価格が暴落するわけではない。Deng, Inoue, Nishimura and Shimizu(2021)は、米国、欧州諸国、および日本の制度と政策、歴史的事実を丹念に分析することで、不動産価格の大規模な変動を、「人口構成の変化」と「新しい金融技術・手段の普及による信用の急拡大」の2つの存在を指摘し、同時に、それを説明する理論・計量モデルの開発を行った。

日本の経験に照らし合わせると、戦後のベビーブームによって誕生した世代が壮年期に入ることで、戦後の高度経済成長をけん引した。いわゆる「人口ボーナス期」となる。そして、そのベビーブーマー世代が住宅購入者となって住宅市場に参入してきた1980年代前半に、戦後最大の住宅需要を生み出し、「不動産バブル」を生成するきっかけとなった。当時は、日本全体に「楽観的」な雰囲気が蔓延していた。バブルが崩壊した1990年を境として日本の就業人口は減少の一途をたどり、近年においては、デフレ、低経済成長率と併せて、不動産市場では、高い空き家率と所有者不明土地の増加に苦しんでいる。いわゆる「人口オーナス期」を迎えている。そして、このような問題が露呈していく中で社会全体に「悲観的な」雰囲気が蔓延した。

このように史実を積み上げていくと、不動産市場の大規模な変動と景気後退との間には、「人口要因」が密接に関係しているように考えることは自然であろう。

しかし、人口動態の変化は極めて緩慢である。もし将来の悲観的な人口予測を受けて、住宅供給が弾力的であるのであれば、ストックの調整機能を通じて価格は調整されるために、住宅価格の暴落は発生しないはずである(Hendershott (1991), Hamilton (1991))。つまり、1) 住宅供給が弾力的で、2) 需要予測が合理的または完全予見ならば、予想可能な人口動態の変化は事前に住宅価格に織り込まれるといった対立した指摘が出された。実証研究においても、Engelhardt and Poterba (1991) では、人口動態の変化と住宅価格の変動には統計的に有意な関係が見られないとの結果を報告した。

高齢化が世界で最も早く進み、人口減少にも直面している日本を対象とした同様の研究 (Ohtake and Shintani (1996)) でも、人口動態の変化は、供給制約のある短期においては住宅価格の変動に影響を与えるものの、長期においては住宅供給が調整されるため、人口動態の変化は住宅価格に影響を与えないとの結果を導いた。また、Mankiw and Weil (1989) の枠組みを用いて住宅需要を推計し、日本と米国のそれぞれの地域的な異質性も考慮したパネルデータ (日本は都道府県別、米国は州別) でモデルを拡張した Shimizu and Watanabe (2010) においても、住宅需要の変動のショックは、長期的には住宅価格の変動には影響を与えていなかったことを示した。

しかし、近年において急増する日本の空き家や所有者不明土地の状況を見ると、住宅供給はどれだけ弾力的なのかといった疑問が出てくる。とりわけ住宅を構成する重要な要素の「土地」は償却不可能な実質資産であり、その供給量には制限があるので、むしろ非弾力的である。この場合、仮に期待形成が合理的あるいは完全予見であっても、人口動態が資産価格に影響する可能性が生じる。

つまり、人口減少や高齢化を通じて住宅需要が減少することがあっても、正しくストックの調整がなされていけば、住宅価格の暴落も起こらなければ、所有者が不明になるような土地も増加していかない。資産価値が高いことで、相続人の間での調整が困難となり、土地が分割されたりするような事態も発生しない。

そうすると、ここで求められる機能は、社会で正しく資産を継承していく仕組みをどのように作り上げていくのかということである。不要になった資産を放置するのではなく、血縁関係をも超えて、社会全体で引き継いでいく仕組みができていれば、利用価値が高い住宅であればそのまま社会に引き継がれ、それを失った住宅は滅失させていけばいいということになる。

ここで問題になるのが、生前贈与または相続といった資産移転の機能が十分に作用していないということである。人間の寿命が長くなる中で、建物の耐用年数との整合性が一致しないことも出てきている。相続のタイミングも高齢化することで、住宅の継承に対する血縁間でのモチベーションが大きく低下してしまったことも大きな原因となる。高齢化社会を正しくデザインし、地域の持続性を担保できる相続制度を含む資産の継承を円滑に進めることができるように、法整備も進めていかないといけないものと考える。

さらに、大きな問題は、高齢者の定義と機能である。現在の社会システムでは、一定の年齢に到達すると、強制的に経済活動から撤退が命じられている。老齢人口依存比率が高まると、経済システムに影響をもたらすという試算は、生産年齢人口が減少し、そこにぶら下がる老齢人口比率が高まることを前提とする。それは単なる社会の取り決めであり、それを変更すれば、その比率を低下させることが可能となる。いわゆる定年の引き上げや撤廃である。多くの場合が都市型産業で定年が設定されているが、そのような定年後の人材を地方都市で積極的に受け入れるということも多様性を高める一つの方法になる。地方都市には、定年に関係ない仕事が存在する可能性が高いためである。

実際に、都市での定年後に地方に移住される方も多いが、それが単なる都市になかった地域資源への妄想的な憧れである場合には、長期的な均衡へと発展させるだけのエネルギーにはならない。また、地方都市から大学が集積する大都市部へと若者が流出していく中では、大都市部の大学に進学し、そこで仕事を得た者たちが勝ち組であるといったような、これもまた妄想的なヒエラルキーを社会が作ってしまった。そのため、そのような意識で地方都市に回帰していくと、当たり前であるが、地域社会と軋轢が生まれてしまう。

高齢化が進む社会では、定年がいくつであっても良い。人生をやり直し機会が複数存在するのが当たり前である。人生60年時代に設計された年金などの社会保障制度が限界を迎えることは完全に予見されることであるため、人生が100年になることを前提とした社会システムを構築していく必要がある。そのようなときに、国土全体を見渡し、職業のはしごをどのようにかけていくのかをデザインしなければならないことは言うまでもない。地方都市ほどに、一定の年齢を過ぎた労働者が働く場所が残されているはずである。

5 新しい技術と資金との結合

地域経済を活性化させるためには、資金もまた必要になる。地域にある資金を循環させようとする政策も取られてきたが、お金には色もなければ、移動するための費用も人間が移動するより極めて小さいため、人の移住だけでなく、お金の移住も同時に考えなければならない。地域には、住宅や建造物という資産もある。広い意味での不動産の再生が、地域の再生につながることも多く報告されていることを考えると、不動産投資の流れを変える仕組みを作ることで、お金の移住を促進させ、地域の再生につながる可能性がある。

2001年の上場リート市場の誕生が不動産投資市場元年とすれば、わが国に不動産投資場が誕生して20年が過ぎようとしている。その上場リート市場は22兆円の規模までに拡大し、私募リートも含めれば、40兆円をも超える。

さらに近年においては、年金基金や郵貯などの機関化された資金の不動産投資も本格化してきた。このような不動産投資市場の構築には、20世紀後半から多くの先人たちの強い想いと並々ならぬエネルギーが投下され、そこに多くの参加者を加えながら、一つの産業として成長してきた。そして、20世紀の黎明期に描いた不動産投資市場の理想的な姿へと、ゆっくりではあったが進化し、近づいてきたと言ってもいいであろう。

それでは、不動産投資市場は、これからも成長余力はあるのか、今後、どのような方向へと向かうべきなのであろうか。また、黎明期において予見できなかった新しい未来は、また描くことができるのであろうか。

不動産投資市場が果たした最も大きな貢献は、不動産市場の民主化であろう。20世紀までの不動産投資市場は、ごく限られた一部の大きな資本を持つ企業だけしか投資ができないような市場であった。しかし、証券化という技術が登場し、不動産投資のリスクの細分化を可能とすることで、そして、上場市場を誕生させることで、家計をも含む多くの参加者を不動産投資市場の中に参加させることを可能としてきた。



個人投資家を不動産投資市場に参入させるために、市場の透明化を進めるとともに、投資から発生するリスクを管理していく技術も大きく進化していった。そのような中で、不動産市場そのものの効率化も大きく進化していったものと考える。

さらに、家計に対しては、従来は、資産形成において預金・株式投資・国債などの債券投資しかなかったところに、不動産投資のリスクを組み入れやすくすることで、リスク分散効果が働きやすくなったという点も評価されるべき点である。

しかし、残された課題も少なくない。上場リート市場の投資家層は広い裾野への拡大が期待されたが、実際には、一部の投資家層に限定されてしまっている。具体的には、多くのシェアの投資家は、年齢の高い、投資経験が豊富な富裕層といった性格が強い。

不動産投資の分散効果という性質を考えれば、本来であれば、若年層からの積み立てなどにふさわしい。しかし、現在の商品性では、株式投資としての性格が強く、一口あたりの金額も大きいことから、そのような投資資金の受け皿にはなりにくい。リートを組み込んだ投資信託などの金融商品もあるが、レバレッジが強くかかっているために、一層エクイティとしての性格が強くなり、本来の不動産の投資の魅力を低下させてしまっている。また、現在のミレニアム世代には、単純な投資収益や分散効果だけでは、大きな投資のドライバーになるとも考えづらい。それでは、どのようなところにお金が集まるのであろうか。

ここで投資とは何かを考えてみよう。本来投資とは、スタンフォード大学のLuenberger(1998)によれば、「後の利得を得るための現時点で行う資源の契約」であり、「ある期間にわたる支払いと受け取りのフロー」であるキャッシュフロー流列(cash flow stream)を望ましい形で作り上げる行為となる。今の消費を節約することで、現在の効用水準は低下してしまうが、生涯を通じたリターンが平準化されたり、大きくなったりすることで、生涯を通じた効用水準が高まるといった機能が期待されている。

それでは、その時のリターンとは何であろうか。単なる金銭的な対価だけであれば、最も金銭的な投資リターンが大きい投資対象に資金が集まることになる。しかし、投資期間が長期的になるほどに、平準化されるリスクもあるが、予期できぬリスクが発生する確率も高くなる。そのような中では、単なる投資リターンの最大化だけでなく、異なった機軸のリターンが要求される。例えば、世界規模で、

日本全体で、または自分の思いを持つ地域に内在する社会課題を解決するためへの参加と、投資を通じてのリスク回避である。

単なる投資利益の最大化だけでは、今まで動くことがなかった資金を、投資市場に呼び込むことは困難であろう。それでは、どのような条件が整えば投資資金の呼び込みが可能となり、社会全体が最適化されるのであろうか。

第一が、持続可能性の高い社会を実現するための未来への投資であったり、社会課題を解決しようとする取り組みへの投資といった、従来とは異なる機軸による投資リターンの定義化であろう。第二が、多くの参加者を巻き込むことができるような、投資規模の小口化である。

後者については、新しいテクノロジーを活用することで実現可能性が高まった。具体的には、STO(Security Token Offering)の活用である。STOとは、ブロックチェーン上で発行されたトークンを用いた資金調達方法のことを指し、スマートコントラクトの技術を組み込むことで、証券の小口化と配当の支払いの自動化を通じてコストを大きく引き下げることを可能とした。そのため、不動産所有権の分割コストの低下を通じて、多くのすそ野を巻き込むことができるような投資可能なサイズへと小口化をすることができる。

このような技術進歩によって、不動産投資を地方創生との親和性が高まる。地域活動をしていると、都市部から地方部に来て活動する若者と出会うことがある。そのような若者は、行動力もあり、地域への想いが強い。そのような活動している人たちが、古民家の再生などのために、その地域で小口化された不動産のトークンを持つことができたらどうであろうか。少額でも保有し、将来のリターンを楽しむことができれば、地域活動と経済的なリターンを結合することもできる。つまり、一定の経済性を伴いながら、地域での活動を楽しむこともできるのである。

また、都市部には、将来において故郷に戻りたい、または他の地域に移住したいという潜在的なニーズは一定程度ある。そこには、終の棲み家としてではなく、人生の一部の時期だけでも、現在と異なる地域で過ごしたいという需要も含まれる。そのような「想い」を、地域の再生や不動産などの資源の再生などと結びつけることができれば、物理的な移動は叶わなくても、お金を移動させることで地方創生に参加することができる。

社会を大きく変えることができるドライバーは、人々の強い「想い」と経済性が連動したときに生まれるのかもしれない。

6 最後に

私たちは、どのような地域でどのような時間を過ごしていくことが、人生の最後に後悔が少ないのであろうか。私たちの幸福は、時間と空間、そして消費から構成される。経済学でいう効用最大化は、様々な制約条件の下で可能となるが、ここに、多様な地域の選択肢が増えることは、確実に私たちの効用、つまり幸福を高める。

「地方創生」という言葉が正しいかどうかは別として、自分の人生のある時間を過ごすときに、その幸福度を高めてくれるであろう場所は、どこかにある。その地域がなくなるかもしれないのであれば、活力を失なおうとしているのであれば、それを維持しようとする動機は、自然なものである。その自然な動機こそが、「神の見えざる手」と呼ばれる市場の力を創りだす源泉であり、生物として無意識に遺伝子に埋め込まれ、我々の行動に影響をもたらすものとなる。

そうすると、地域とは、都市とは誰のものであるのかという問題と向き合わなければならない。その地域に長く住んできた人たちのものであるということも間違いであろう。一方、その人たちもかつてはどこかから移り住んできたわけであるから、超長期で見たときには、誰のものでもなく、そこで最も大きな幸せを見つけることができる人たちのものであると考えることが、経済学的な効率性や社会的な厚生水準を最大化できる条件になる。

そうした場合には、それを阻害してしまうような地域的な風土や同調圧力に代表されるような阻害要因は排除していかなければならない。それは、決して難しいことではなく、それぞれが寛容さを持って、多様な価値観を受け入れるだけのことである。地域や社会にあるヒエラルキーも、それを邪魔をする。

社会が、地域が、持続可能性を持つ最大の条件は、「柔軟性:Flexisbility」ではないであろうか。私自身が、どのような環境にも適応できるしなやかさを持っていきたいと、常日頃から考えている。

【参考文献】

[1] Adamson, D. W., D.E. Clark and M.Partridge (2004) , "Do Urban Agglomeration Effects and Household Amenities have a Skill Bias?. *Journal of Regional Science*, 44(2), 201-224.

[2] Clark T.N. (2004), *The City as an Entertainment Machine*. Research in Urban Policy 9 Elesevier.

[3] Deng.,Y, T. Inoue, K. Nishimura and C. Shimizu (2021), "Demographics, Property Prices, and Credit Cycles: Analysis Based on Panel Data from 17 Countries Over a Half-Century", CSIS Discussion Paper: (The University of Tokyo), No.172.

[4] Engelhardt, Gary V, and James M. Poterba. (1991),"House Prices and Demographic Change." *Regional Science and Urban Economics* 21 (4), 539–546.

[5] Florida, R. (2002), " Bohemia and Economic Geography." *Economic geography*, 2, 55-71.

[6] Fogel, R.W. (2000), "*The Fourth Great Awakening the Future of Egalitarianism*." University of Chicago Press.

[7] Glaeser E. L. (1998), "Are Cities Dying?." *The Journal of Economic Perspectives*, 12 (2), 139-160.

[8] Glaeser E. L., J. Kolko, and A. Saiz (2001), "Consumer City." *Journal of Economic Geography* 1, 27-50.

[9] Hamilton, Bruce W. (1991). "The Baby Boom, the Baby Bust, and the Housing Market: A Second Look." *Regional Science and Urban Economics* 21 (4): 547–552.

[10] Hendershott, Patric H. (1991). "Are Real House Prices Likely to Decline by 47 Percent?" *Regional Science and Urban Economics* 21 (4), 553–563.

[11] Jacobs, J., (1969), *The Economy of Cities*, Vintage Books, New York.

[12] 黒瀬敏文(2021),「地方回帰施策のこれまでと今後」地方財務, 2021年６月号, 2-17.

[13] Luenberger,D(1998), *Investment Science*, Oxford University Press.

[14] Mankiw, N. Gregory, and David N. Weil. (1989). "The Baby Boom, the Baby Bust, and the Housing Market." *Regional Science and Urban Economics* 19 (2), 235–258.

[15] Ohtake, Fumio, and Mototsugu Shintani. (1996). "The Effect of Demographics on the Japanese Housing Market." *Regional Science and Urban Economics* 26 (2), 189–201.

[16] Shimizu,C and T.Watanabe(2010), "Housing Bubble in Japan and the United States," Public Policy Review .6(3), 431-472.

[17] Silver, D, Clark and T.N., Navarro, C. J. (2010), "Scenes: Social Context in an Age of Contingency.", *Social Forces* 88 (5): 2293-2324.

[18] Storper, M and A.G. Scott (2009), "Rethinking human capital, creativity and urban growth." *Journal of Economic Geography*, 9:147-167.

都道府県別の基礎データ概観

株式会社ディ・プラス 代表取締役
橋口理文（はしぐち・まさふみ）

フリーリサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー
吉永奈央子（よしなが・なおこ）

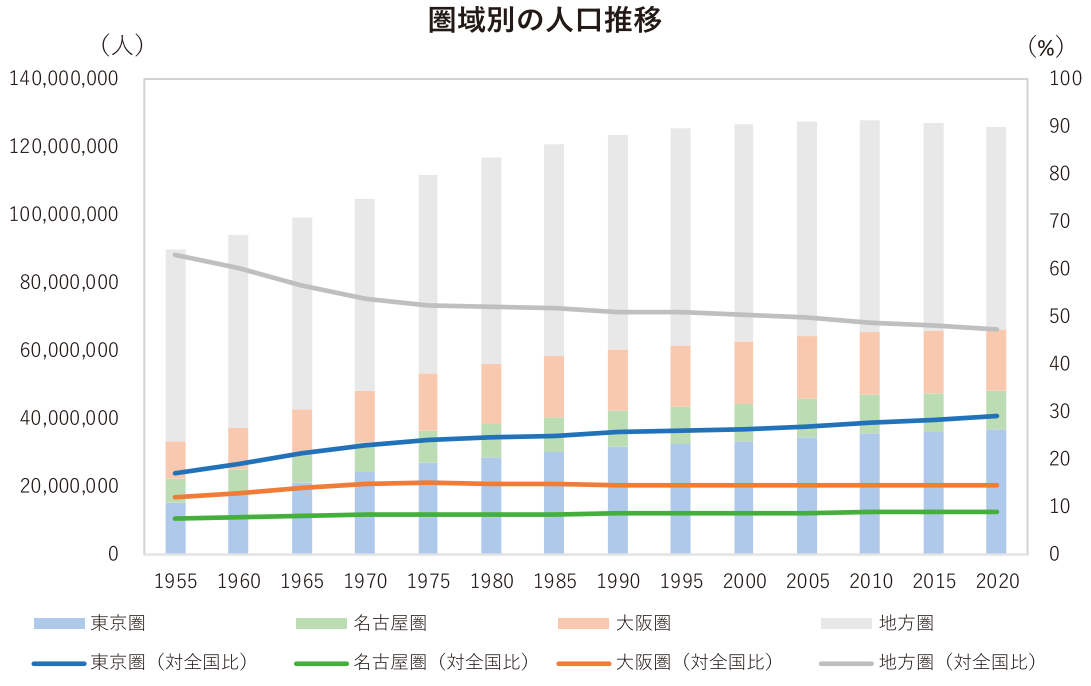
日本の総人口の長期推移と圏域別シェア

はじめに

- 地方創生は、人口を維持し、地方自治体を維持することがゴールではない。それが本プロジェクトの基本的な視座である。
- ただし「人口」が重要な指標であることは間違いない。人は誰もが気の向くままに、あるいは必要に応じて住む場所を変えられるわけではない。
- 本稿の目的は各都道府県の現状を指し示す指標を整理することにあるが、冒頭で「人口」の推移の全体像とそのポイントを整理する。

東京圏人口の総人口に占めるシェアだけが伸びている

- 下図は日本の総人口とその圏域別の数、シェアを示したものである。
- ここからわかるのは、総人口は2005年から2010年の間にピークアウトし減少局面に入っているが、その中で東京圏はその数を維持し、シェア自体を高めているということである。
  - 大阪圏、名古屋圏とも、総人口に占めるシェアは横ばいである。



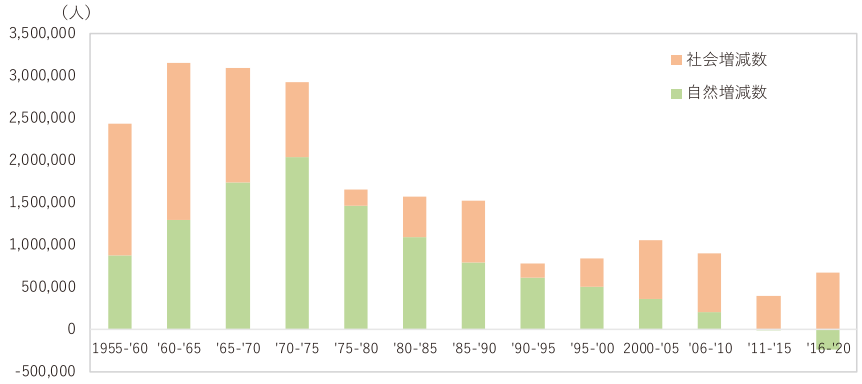
【出典】総務省「国勢調査」※2020年は速報値（2021年6月末現在）
※東京圏（東京都, 埼玉県, 千葉県, 神奈川県）／名古屋圏（愛知県, 三重県, 岐阜県）
※大阪圏（大阪府, 京都府, 兵庫県, 奈良県）／地方圏（東京圏, 名古屋圏, 大阪圏以外）

社会増減と自然増減の圏域別推移

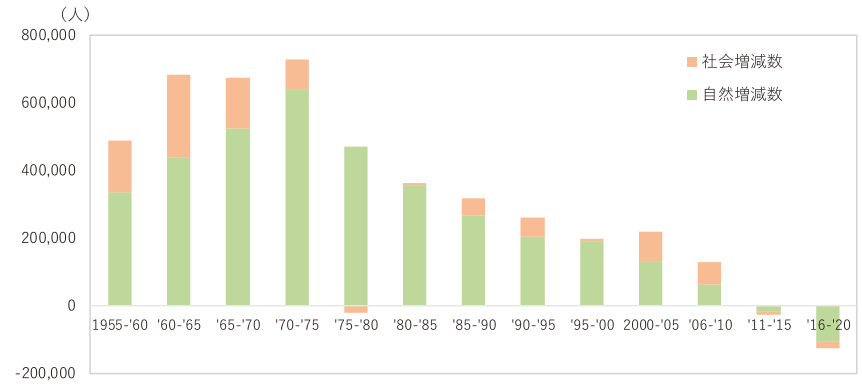
東京圏だけがプラスの社会増を維持しており、近年そのシェアは再び伸びている

- 人口の増減は、大まかにいえば「社会増減」と「自然増減」から構成される。「社会増減」は特定圏域以外からの転入者から特定圏域以外への転出者を差し引いた数、「自然増減」は出生数から死亡者数を差し引いた数である。
- 1970年までの高度成長期において、東京圏、名古屋圏、大阪圏のいわゆる大都市圏は、その他のエリアからの転入者を多く受け入れていたこと、中でも東京圏は「社会増」のシェアが他エリアと比べて高いこと、しばらく「自然増」が多い期間を経て、2000年代に入ると再び「社会増」のシェアを伸ばしていることなどがポイントである。

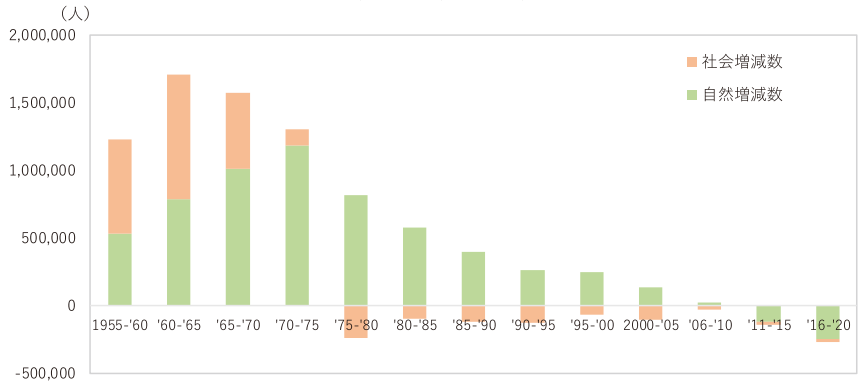
東京圏（東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県）



名古屋圏（愛知県，三重県，岐阜県）



大阪圏（大阪府，京都府，兵庫県，奈良県）

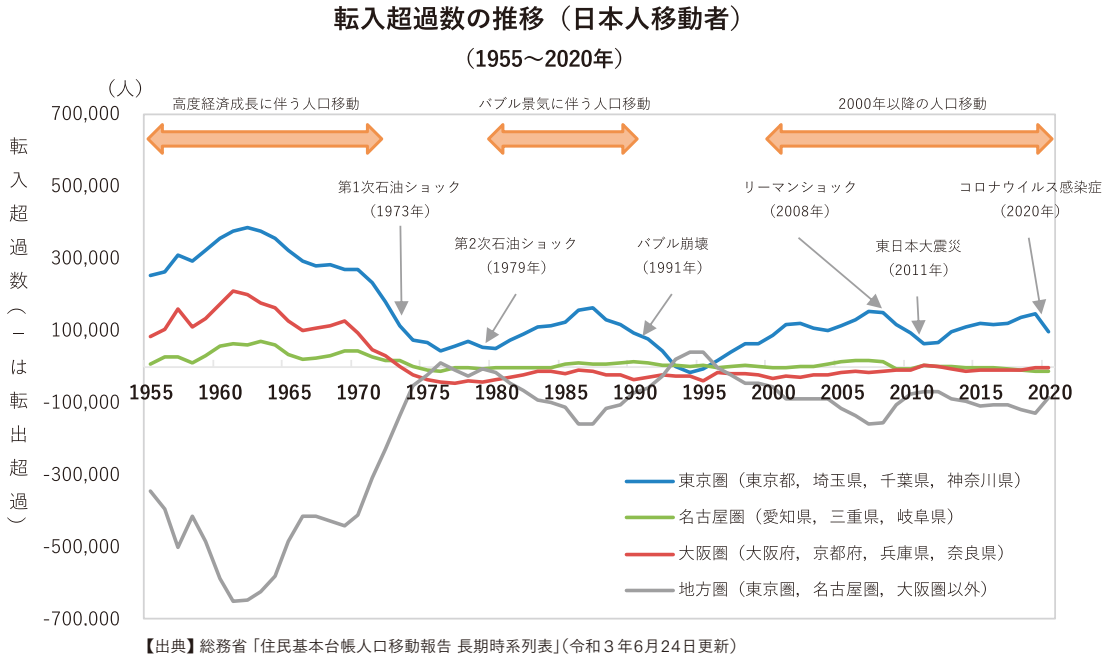


【出典】1955～2005年：総務省「国勢調査」
2006～2020年：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

都道府県間 人口流出入の長期推移

東京圏への人口転入は続いている

- 前項でみた東京圏の社会増について、少し詳細にみてみよう。以下図に、長期的な転入超過数を示す。
- 第1次石油ショックが起こるまでの高度成長期には、大規模な地方→東京圏、大阪圏、名古屋圏への人口流入があったが、この50年ほどはその流れが小さくなっている。大阪圏が1970年代前半から転入超過数がマイナスに転じ、名古屋圏が横ばいであるのに対し、東京圏独り勝ちの状況であることがわかる。ここは前項でみた通りである。
- ここで確認しておきたいのは、**2000年代に入っても東京一極集中のトレンドに変化がない**という事実である。
- 特に、**2014年9月の第2次安倍改造内閣発足後の施策の柱として発表された地方創生であるが、その発表後からの数年間、東京圏の転入超過数はむしろ増加傾向**にある。
  - 2020年に東京圏の転入超過数が減少に転じているが、間違いなくコロナ禍の影響を受けている。



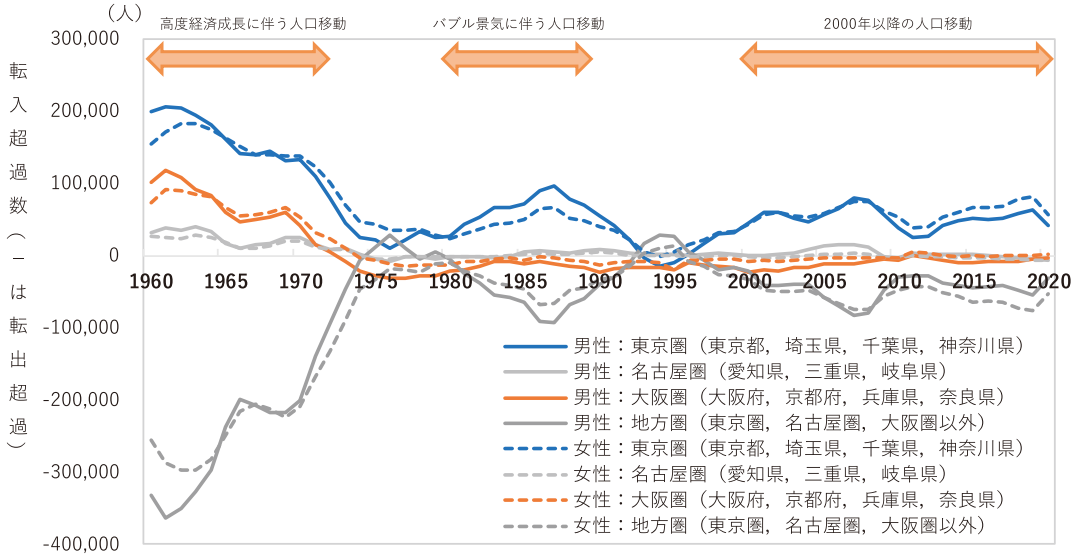
転入超過数の推移（日本人移動者）
（1955～2020年）

【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告 長期時系列表」（令和３年6月24日更新）

2000年代に入り、女性の東京圏流入が男性を上回っている

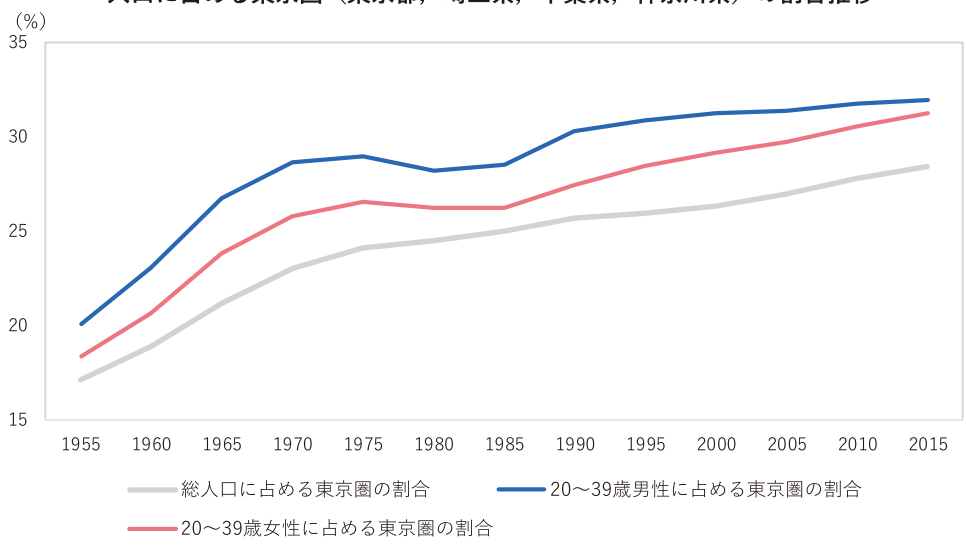
- 転入超過数の内訳をみると、さらに重要なことがわかる。バブル期の**東京圏への転入数**は、男性が女性を大きく上回っていた。徐々にその差は縮まり、1990年代はほぼ同数になり、さらに**2010年代に入るとほとんどの年で女性が男性を上回っている**のである。
- また、全国の年齢階層別総人口に占める東京圏のシェアは伸び続けている。中でも「20～39歳」の男女においてその傾向が顕著であり、比較的若い層の東京圏流入の影響が大きいと考えられる。

男女別転入超過数の推移（日本人移動者）
（1960～2020年）



【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告 長期時系列表」（令和３年6月24日更新）

人口に占める東京圏（東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県）の割合推移



【出典】総務省「国勢調査」

各都道府県の指標 ❶人口関連指標

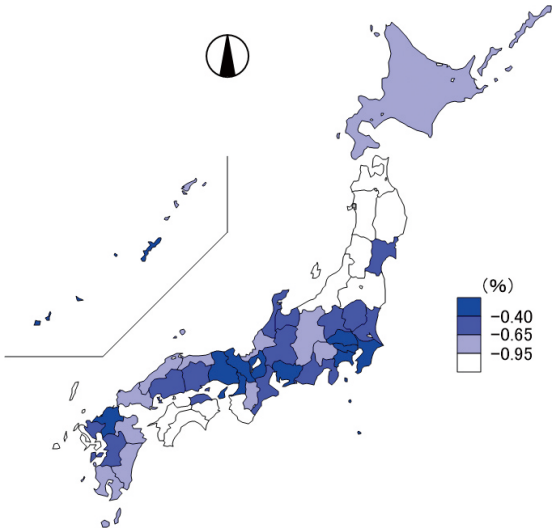
人口増減率

- 前述の通り、人口増減は社会増減と自然増減から成る。
- 1位は東京都、2位は沖縄県であるが、ランキング上位には、埼玉県、神奈川県などの首都圏、滋賀県、大阪府、京都府などの関西圏、愛知県などの大都市圏が並ぶ。
- 一方で、秋田県、青森県などの東北エリア、高知県、徳島県などの四国エリアの順位が低い。
  - 東北エリアでも宮城県は14位と上位に位置している。また関西圏の和歌山県は41位と下位である。

人口増減率（2019年度）　（%）

北海道	27	-0.68	新潟県	39	-1.02	鳥取県	29	-0.71
青森県	46	-1.35	富山県	22	-0.57	島根県	35	-0.88
岩手県	44	-1.13	石川県	15	-0.44	岡山県	13	-0.42
宮城県	14	-0.43	福井県	33	-0.78	広島県	16	-0.46
秋田県	47	-1.53	山梨県	30	-0.73	山口県	35	-0.88
山形県	43	-1.10	長野県	27	-0.68	徳島県	42	-1.09
福島県	38	-0.97	岐阜県	18	-0.50	香川県	24	-0.62
茨城県	23	-0.59	静岡県	12	-0.41	愛媛県	37	-0.96
栃木県	24	-0.62	愛知県	5	0.20	高知県	44	-1.13
群馬県	19	-0.51	三重県	21	-0.56	福岡県	9	-0.06
埼玉県	3	0.27	滋賀県	6	0.14	佐賀県	17	-0.49
千葉県	7	0.06	京都府	10	-0.31	長崎県	40	-1.04
東京都	1	0.72	大阪府	8	-0.05	熊本県	19	-0.51
神奈川県	4	0.23	兵庫県	11	-0.33	大分県	34	-0.79
			奈良県	26	-0.67	宮崎県	31	-0.74
			和歌山県	41	-1.07	鹿児島県	31	-0.74
						沖縄県	2	0.35

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2021」

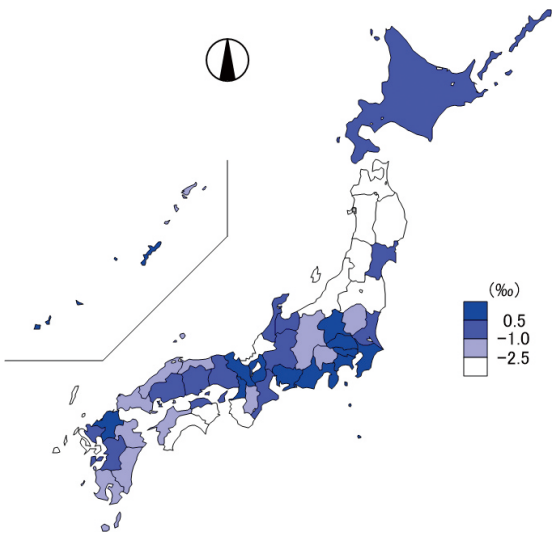
社会増減率

- 社会増減率についても人口増減率とほぼ同様の結果である。
- 上位を首都圏が占める。人口増減率で2位の沖縄はやや順位を落としているが、これは自然増が相対的に大きいことを示している。

社会増減率（2019年度）　(‰)

北海道	18	-0.4	新潟県	37	-2.7	鳥取県	34	-2.2
青森県	46	-4.4	富山県	19	-0.5	島根県	26	-1.2
岩手県	38	-2.8	石川県	21	-0.8	岡山県	16	-0.2
宮城県	14	0.2	福井県	38	-2.8	広島県	21	-0.8
秋田県	45	-3.7	山梨県	34	-2.2	山口県	29	-1.5
山形県	43	-3.2	長野県	27	-1.3	徳島県	44	-3.5
福島県	38	-2.8	岐阜県	15	0.0	香川県	17	-0.3
茨城県	20	-0.7	静岡県	11	0.6	愛媛県	36	-2.3
栃木県	29	-1.5	愛知県	5	3.4	高知県	42	-3.1
群馬県	12	0.5	三重県	25	-1.0	福岡県	8	1.9
埼玉県	2	5.2	滋賀県	7	2.6	佐賀県	23	-0.9
千葉県	4	3.8	京都府	10	0.7	長崎県	47	-4.8
東京都	1	8.2	大阪府	6	2.7	熊本県	23	-0.9
神奈川県	3	4.4	兵庫県	13	0.3	大分県	27	-1.3
			奈良県	33	-1.9	宮崎県	32	-1.7
			和歌山県	41	-2.9	鹿児島県	29	-1.5
						沖縄県	8	1.9

※斜体は順位



【出典】総務省「人口推計」

総人口に占める65歳以上の割合

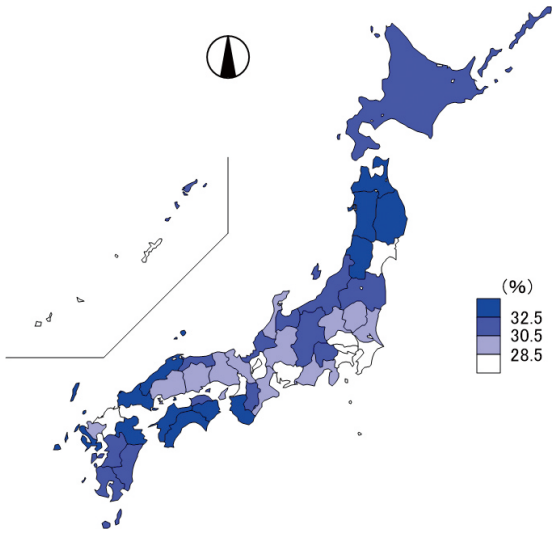
- 前頁までに、社会増減は20代、30代の若年層が中心であり、結果として東京圏の若年層シェアが上昇していることをみた。
- したがって、社会増減率のマイナス幅の大きい都道府県ほど高齢化が進むドライブがかかるが、現在の65歳以上の割合も同様の結果となっている。つまり、社会増減率の低い都道府県ほど65歳以上の人口に占める割合が大きい。

総人口に占める65歳以上の割合（2019年度）　（%）

北海道	18	31.9	新潟県	13	32.4	鳥取県	16	32.1
青森県	7	33.3	富山県	14	32.3	島根県	3	34.3
岩手県	8	33.1	石川県	32	29.6	岡山県	26	30.3
宮城県	38	28.3	福井県	25	30.6	広島県	34	29.3
秋田県	1	37.2	山梨県	24	30.8	山口県	3	34.3
山形県	6	33.4	長野県	18	31.9	徳島県	5	33.6
福島県	21	31.5	岐阜県	28	30.1	香川県	20	31.8
茨城県	33	29.5	静岡県	29	29.9	愛媛県	10	33.0
栃木県	37	28.6	愛知県	45	25.1	高知県	2	35.2
群馬県	30	29.8	三重県	31	29.7	福岡県	39	27.9
埼玉県	42	26.7	滋賀県	43	26.0	佐賀県	26	30.3
千葉県	39	27.9	京都府	35	29.1	長崎県	12	32.7
東京都	46	23.1	大阪府	41	27.6	熊本県	23	31.1
神奈川県	44	25.3	兵庫県	35	29.1	大分県	11	32.9
			奈良県	22	31.3	宮崎県	14	32.3
			和歌山県	8	33.1	鹿児島県	17	32.0
						沖縄県	47	22.2

※斜体は順位

【出典】総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2021」



出生率

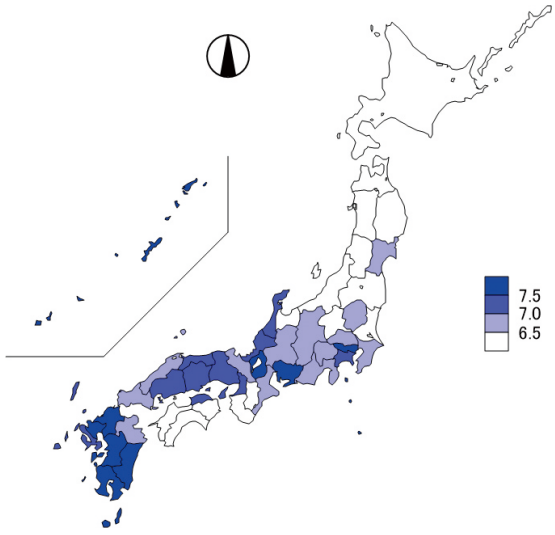
- 出生率は、おおむね南に位置する都道府県が上位を占めている。沖縄県は47都道府県で唯一2桁のスコアである。
- 一方で、北に位置する都道府県には出生率が低いところが多い。
- なお、東京都、愛知県をはじめ、大都市圏では出生率が上位にある都道府県が多い。大阪府も10位と高いが、滋賀県の4位が際立つ。
  - 滋賀県は、社会増減率も大阪府とほぼ同水準である。

出生率（2019年度）　（人口千対）

北海道	43	6.0	新潟県	41	6.2	鳥取県	14	7.2
青森県	45	5.8	富山県	33	6.4	島根県	20	6.9
岩手県	46	5.7	石川県	16	7.0	岡山県	10	7.3
宮城県	30	6.5	福井県	16	7.0	広島県	10	7.3
秋田県	47	4.9	山梨県	30	6.5	山口県	30	6.5
山形県	43	6.0	長野県	22	6.7	徳島県	37	6.3
福島県	37	6.3	岐阜県	26	6.6	香川県	16	7.0
茨城県	33	6.4	静岡県	26	6.6	愛媛県	33	6.4
栃木県	26	6.6	愛知県	3	7.8	高知県	41	6.2
群馬県	37	6.3	三重県	22	6.7	福岡県	2	7.9
埼玉県	22	6.7	滋賀県	4	7.7	佐賀県	4	7.7
千葉県	26	6.6	京都府	22	6.7	長崎県	10	7.3
東京都	7	7.6	大阪府	10	7.3	熊本県	4	7.7
神奈川県	16	7.0	兵庫県	15	7.1	大分県	21	6.8
			奈良県	37	6.3	宮崎県	7	7.6
			和歌山県	33	6.4	鹿児島県	9	7.5
						沖縄県	1	10.4

※斜体は順位

【出典】厚生労働省「人口動態調査」



各都道府県の指標 ❷経済関連指標

1人あたり県民所得

- トップは東京都であり、愛知県が続く。愛知県に隣接する三重県、静岡県も上位にある。

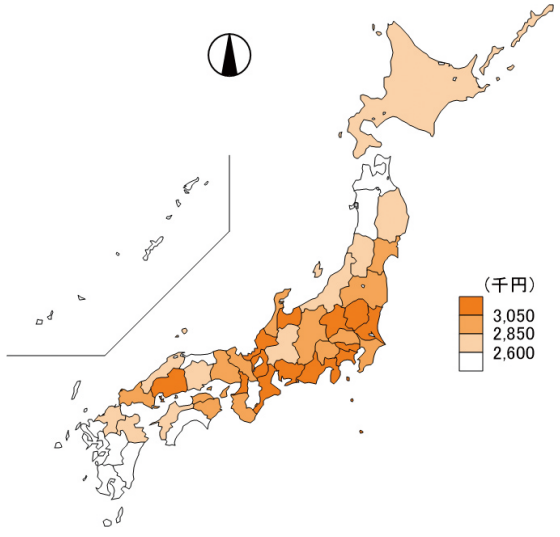
また、富山県、福井県の北陸2県がそれぞれ5位、8位にランクインしている。

- そのほか、栃木県3位、茨城県10位、群馬県11位など、北関東3県の順位が高いことが目をひく。
  - なお、「人口」の領域で順位の高かった滋賀県も6位。
- 「人口」の領域では（宮城県を除く）東北エリアの各県の順位の低さが目立ったが、1人あたり県民所得では九州各県の順位が総じて低いことがわかる。

1人あたり県民所得 ※2011年基準（2016年度）　（千円）

北海道	35	2,617	新潟県	27	2,826	鳥取県	45	2,407
青森県	38	2,558	富山県	5	3,295	島根県	34	2,619
岩手県	31	2,737	石川県	23	2,908	岡山県	32	2,732
宮城県	21	2,926	福井県	8	3,157	広島県	12	3,068
秋田県	39	2,553	山梨県	26	2,873	山口県	14	3,048
山形県	30	2,758	長野県	25	2,882	徳島県	17	2,973
福島県	16	3,005	岐阜県	28	2,803	香川県	20	2,945
茨城県	10	3,116	静岡県	4	3,300	愛媛県	33	2,656
栃木県	3	3,318	愛知県	2	3,633	高知県	37	2,567
群馬県	11	3,098	三重県	9	3,155	福岡県	29	2,800
埼玉県	18	2,958	滋賀県	6	3,181	佐賀県	43	2,509
千葉県	15	3,020	京都府	21	2,926	長崎県	41	2,519
東京都	1	5,348	大阪府	13	3,056	熊本県	42	2,517
神奈川県	7	3,180	兵庫県	24	2,896	大分県	36	2,605
			奈良県	40	2,522	宮崎県	45	2,407
			和歌山県	19	2,949	鹿児島県	44	2,414
						沖縄県	47	2,273

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2021」

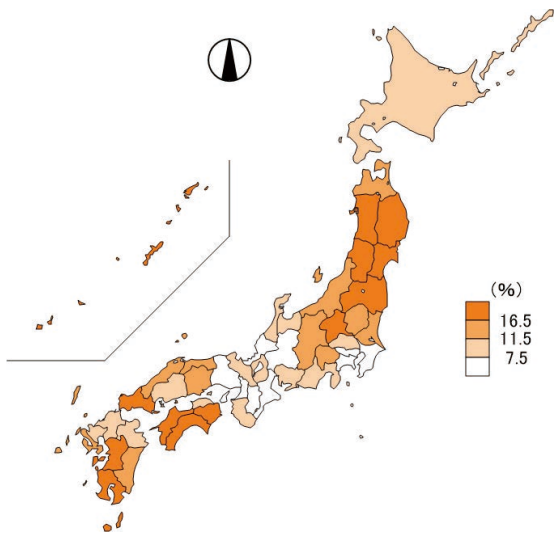
1人あたり県民所得増加率

- 2008年から2017年にかけての1人あたり県民所得増加率を算出したが、秋田県が1位であり、軒並み東北エリアの各県が上位を占めている。
  - 東日本大震災の震災復興が大きな影響を及ぼしていると考えられる。
- 増加率という点からは、大都市圏は振るわない。東京都も神奈川県も下位であり、大阪府、兵庫県も40位台にとどまる。愛知県も28位。
  - 四国エリアが全体に高く、高知県5位、愛媛県8位である。また、沖縄県は4位、鹿児島県も10位に位置する。

1人あたり県民所得増加率 ※2011年基準（2008～2017年度）　（%）

北海道	25	11.5	新潟県	22	11.8	鳥取県	18	14.4
青森県	16	15.0	富山県	34	8.9	島根県	21	12.2
岩手県	2	22.8	石川県	37	8.1	岡山県	24	11.6
宮城県	9	18.8	福井県	46	2.9	広島県	27	11.2
秋田県	1	25.4	山梨県	20	13.7	山口県	11	17.0
山形県	3	21.6	長野県	23	11.8	徳島県	13	16.7
福島県	7	19.4	岐阜県	42	6.3	香川県	26	11.5
茨城県	14	16.4	静岡県	38	7.8	愛媛県	8	18.9
栃木県	19	14.0	愛知県	28	10.9	高知県	5	20.2
群馬県	6	20.1	三重県	40	6.6	福岡県	31	10.2
埼玉県	33	9.8	滋賀県	29	10.3	佐賀県	35	8.8
千葉県	39	7.3	京都府	32	10.2	長崎県	17	14.4
東京都	47	-0.4	大阪府	44	5.1	熊本県	12	16.9
神奈川県	45	3.3	兵庫県	41	6.6	大分県	30	10.2
			奈良県	43	5.6	宮崎県	15	16.0
			和歌山県	36	8.3	鹿児島県	10	17.8
						沖縄県	4	21.6

※斜体は順位



【出典】内閣府「県民経済計算（平成18年度 - 平成29年度）」

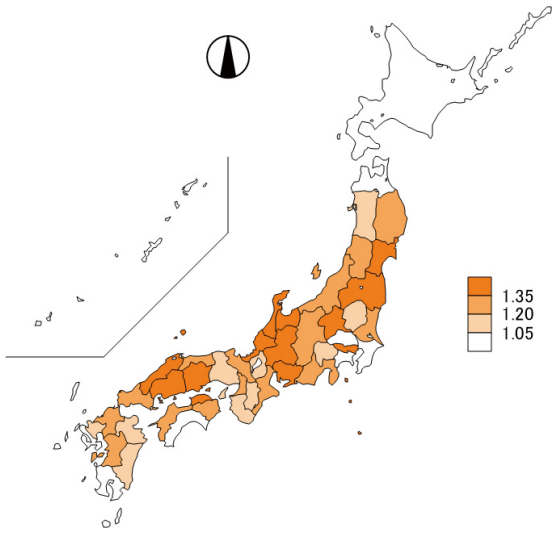
平均有効求人倍率（2012年4月～2021年3月）

- 毎月発表される有効求人倍率について、2012年4月～2021年3月の単純平均値を算出した。
- 東京都が1位、愛知県が4位であるが、大都市圏が高いわけではない。埼玉県44位、神奈川県46位はほぼ最下位である。関西圏でも大阪府15位は高めの順位だが、その他の府県の順位は軒並み低い。
- 注目すべきなのは、北陸3県の順位の高さである。福井県が2位、石川県が6位、富山県が8位と、3県とも10位以内に入っている。
  - また、岡山県、広島県、香川県といった瀬戸内海を挟んで隣接する3県の順位が高い。

平均有効求人倍率（2012年4月～2021年3月）　（倍）

北海道	44	0.98	新潟県	16	1.30	鳥取県	21	1.27
青森県	43	0.99	富山県	8	1.51	島根県	11	1.39
岩手県	27	1.21	石川県	6	1.52	岡山県	3	1.59
宮城県	10	1.40	福井県	2	1.68	広島県	6	1.52
秋田県	30	1.15	山梨県	35	1.10	山口県	19	1.28
山形県	19	1.28	長野県	18	1.29	徳島県	26	1.22
福島県	12	1.37	岐阜県	5	1.54	香川県	9	1.50
茨城県	23	1.24	静岡県	24	1.23	愛媛県	16	1.30
栃木県	32	1.13	愛知県	4	1.56	高知県	40	1.01
群馬県	13	1.35	三重県	14	1.34	福岡県	28	1.20
埼玉県	44	0.98	滋賀県	36	1.08	佐賀県	38	1.05
千葉県	39	1.04	京都府	24	1.23	長崎県	42	1.00
東京都	1	1.73	大阪府	15	1.33	熊本県	22	1.25
神奈川県	46	0.95	兵庫県	36	1.08	大分県	29	1.16
			奈良県	33	1.12	宮崎県	30	1.15
			和歌山県	33	1.12	鹿児島県	40	1.01
						沖縄県	47	0.87

※斜体は順位



【出典】厚生労働省「一般職業紹介状況」

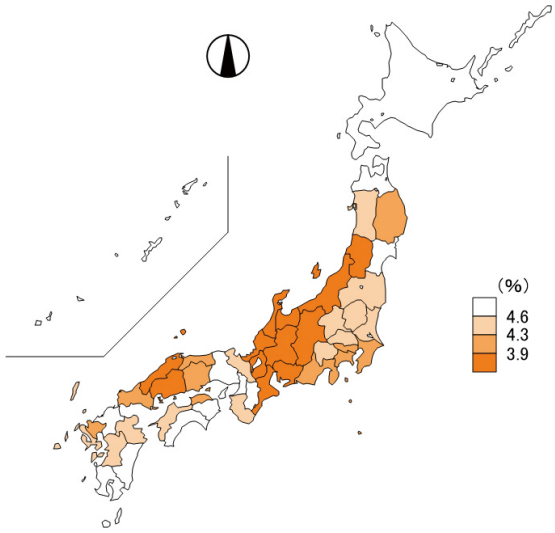
完全失業率

- 完全失業率はその水準が高いほど順位を低くつけている。
- 1位は島根県である。実は島根県は平均有効求人倍率も11位であり、雇用という点では高水準。それに続くのが北陸3県であり、東海圏3県（愛知県、三重県、岐阜県）が追うといったところだ。
- 失業率の高い方に着目すると、沖縄県が最下位である。これに続くのが青森県、福岡県、大阪府となっている。

完全失業率（2015年度）　（%）

北海道	36	4.6	新潟県	11	3.7	鳥取県	13	3.9
青森県	44	5.3	富山県	2	3.1	島根県	1	2.9
岩手県	16	4.0	石川県	4	3.4	岡山県	20	4.1
宮城県	40	4.9	福井県	3	3.3	広島県	11	3.7
秋田県	23	4.3	山梨県	27	4.4	山口県	16	4.0
山形県	10	3.6	長野県	4	3.4	徳島県	43	5.0
福島県	27	4.4	岐阜県	4	3.4	香川県	16	4.0
茨城県	32	4.5	静岡県	16	4.0	愛媛県	27	4.4
栃木県	23	4.3	愛知県	4	3.4	高知県	40	4.9
群馬県	23	4.3	三重県	4	3.4	福岡県	44	5.3
埼玉県	23	4.3	滋賀県	9	3.5	佐賀県	20	4.1
千葉県	20	4.1	京都府	27	4.4	長崎県	27	4.4
東京都	13	3.9	大阪府	44	5.3	熊本県	32	4.5
神奈川県	13	3.9	兵庫県	36	4.6	大分県	32	4.5
			奈良県	40	4.9	宮崎県	36	4.6
			和歌山県	32	4.5	鹿児島県	39	4.7
						沖縄県	47	6.3

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2021」

各都道府県の指標 ❸生活関連指標

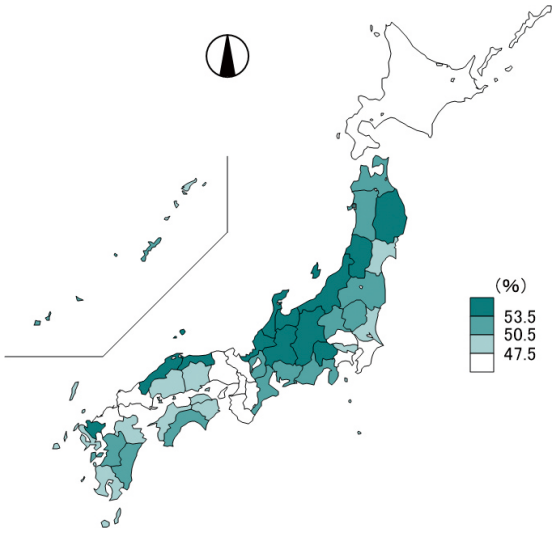
共働き世帯比率

- 首都圏、関西圏の大都市圏がそろって低い順位である。
  - 東海圏は岐阜県が10位だが、愛知県、三重県とも23位。
- 上位にあるのは、「経済」、特に雇用面で好調だった北陸３県。福井県1位、富山県３位、石川県４位である。また、甲信越３県（山梨県、長野県、新潟県）も上位にランクインしている。

共働き世帯比率（2017年）　（%）

北海道	44	44.5	新潟県	8	54.7	鳥取県	7	54.9
青森県	17	51.5	富山県	3	57.1	島根県	6	55.5
岩手県	12	53.7	石川県	4	56.1	岡山県	28	49.8
宮城県	34	48.8	福井県	1	60.0	広島県	30	49.4
秋田県	19	51.4	山梨県	9	54.1	山口県	42	45.9
山形県	2	57.9	長野県	5	55.9	徳島県	32	49.2
福島県	16	52.0	岐阜県	10	53.8	香川県	31	49.3
茨城県	26	50.3	静岡県	13	53.1	愛媛県	35	48.1
栃木県	21	51.2	愛知県	23	50.9	高知県	20	51.3
群馬県	22	51.1	三重県	23	50.9	福岡県	39	46.6
埼玉県	40	46.5	滋賀県	17	51.5	佐賀県	10	53.8
千葉県	43	45.4	京都府	38	46.8	長崎県	29	49.7
東京都	33	49.1	大阪府	46	44.0	熊本県	14	52.6
神奈川県	41	46.3	兵庫県	44	44.5	大分県	36	48.0
			奈良県	47	42.0	宮崎県	15	52.1
			和歌山県	37	47.3	鹿児島県	27	50.2
						沖縄県	25	50.6

※斜体は順位



【出典】総務省「平成29年就業構造基本調査」

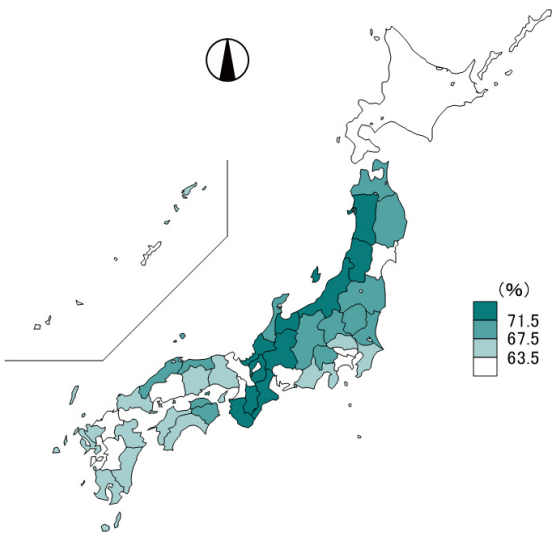
持ち家比率

- 東京都、神奈川県、愛知県、大阪府といった大都市圏の中でも中核である都道府県の順位が押し並べて低い。
  - 福岡県も45位である。
- トップは秋田県。山形県も３位であり、総じて東北エリアの各県の順位は高めである。また北陸３県のうち、富山県は２位、福井県も３位と高い。
  - なお、岐阜県（５位）、三重県（９位）や、奈良県（６位）、滋賀県（10位）などの高順位は、それぞれ東海圏、関西圏のベッドタウンである影響も強いと考えられる。
- これに対して九州エリアの各県は、沖縄県47位をはじめ、低めの順位である。

持ち家比率（2018年度）　（%）

北海道	43	56.3	新潟県	7	74.0	鳥取県	22	68.8
青森県	14	70.3	富山県	2	76.8	島根県	15	70.2
岩手県	17	69.9	石川県	18	69.3	岡山県	31	64.9
宮城県	42	58.1	福井県	3	74.9	広島県	38	61.4
秋田県	1	77.3	山梨県	15	70.2	山口県	24	67.1
山形県	3	74.9	長野県	12	71.2	徳島県	20	69.2
福島県	23	67.7	岐阜県	5	74.3	香川県	18	69.3
茨城県	12	71.2	静岡県	25	67.0	愛媛県	27	66.5
栃木県	21	69.1	愛知県	40	59.5	高知県	31	64.9
群馬県	11	71.4	三重県	9	72.0	福岡県	45	52.8
埼玉県	28	65.7	滋賀県	10	71.6	佐賀県	26	66.9
千葉県	30	65.4	京都府	39	61.3	長崎県	35	63.7
東京都	46	45.0	大阪府	44	54.7	熊本県	37	61.9
神奈川県	41	59.1	兵庫県	33	64.8	大分県	36	63.6
			奈良県	6	74.1	宮崎県	28	65.7
			和歌山県	8	73.0	鹿児島県	34	64.6
						沖縄県	47	44.4

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査」

学習・自己啓発・訓練の行動者比率

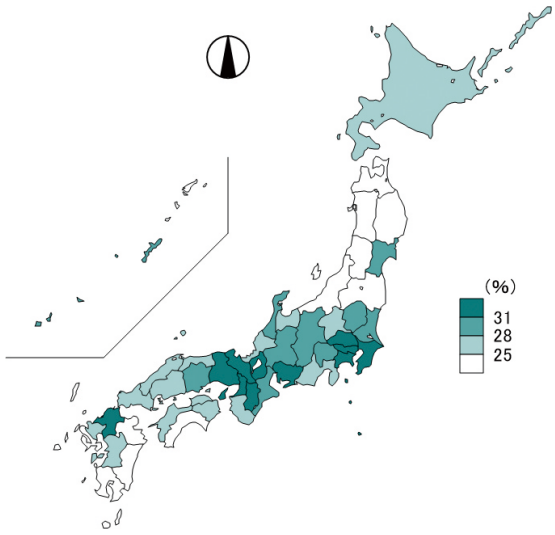
『平成28年度社会生活基本調査』の「学習・自己啓発・訓練の行動者比率」の項目のうち、「外国語」「人文・社会・自然科学」「芸術・文化」の行動者比率の積算値を使用している。

- この領域の上位は首都圏、関西圏、東海圏の大都市圏が圧倒的に強い。
- 一方、東北エリアと九州エリアは低い順位の県が多い。

学習・自己啓発・訓練の行動者比率（2016年度）　（%）

北海道	32	26.1	新潟県	44	21.7	鳥取県	35	25.0
青森県	47	18.9	富山県	25	27.5	島根県	35	25.0
岩手県	40	22.6	石川県	13	30.5	岡山県	17	29.0
宮城県	14	30.3	福井県	31	26.6	広島県	22	27.6
秋田県	46	21.4	山梨県	15	29.8	山口県	22	27.6
山形県	40	22.6	長野県	18	28.9	徳島県	30	26.7
福島県	38	22.7	岐阜県	12	30.9	香川県	25	27.5
茨城県	18	28.9	静岡県	22	27.6	愛媛県	27	27.2
栃木県	21	28.1	愛知県	10	32.8	高知県	40	22.6
群馬県	28	27.1	三重県	16	29.2	福岡県	11	31.0
埼玉県	8	34.0	滋賀県	5	36.5	佐賀県	29	27.0
千葉県	4	39.2	京都府	3	43.1	長崎県	43	22.5
東京都	1	49.8	大阪府	9	33.0	熊本県	33	25.8
神奈川県	2	43.6	兵庫県	6	35.7	大分県	37	24.1
			奈良県	6	35.7	宮崎県	38	22.7
			和歌山県	34	25.1	鹿児島県	45	21.6
						沖縄県	20	28.6

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」

芸術・文化の行動者比率

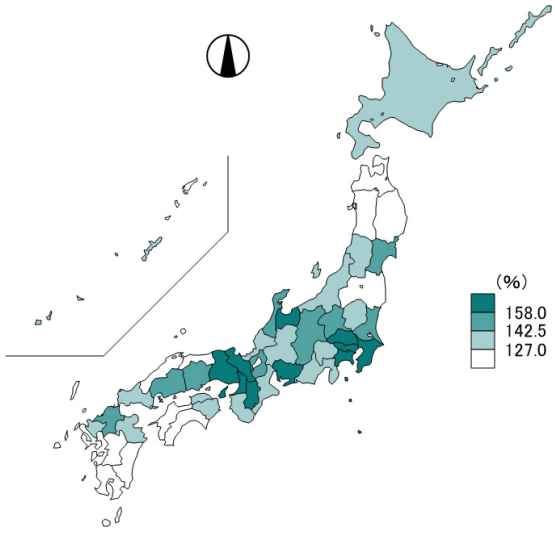
『平成28年度社会生活基本調査』の「趣味・娯楽の種類別の行動者比率」の項目のうち、以下の行動者比率の積算値を使用。
「美術鑑賞（テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く）」,「演芸・演劇・舞踊鑑賞（テレビ・スマーフォン・パソコンなどは除く）」,
「映画館での映画鑑賞」,「音楽会などによるクラシック音楽鑑賞」,「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」,
「楽器の演奏」,「邦楽（民謡，日本古来の音楽を含む）」,「コーラス・声楽」,「邦舞・おどり」,「洋舞・社交ダンス」,「書道」,
「華道」,「茶道」,「絵画・彫刻の制作」,「陶芸・工芸」,「写真の撮影・プリント」,「詩・和歌・俳句・小説などの創作」。

- 大きな傾向は前項の学習・自己啓発・訓練の行動者比率と変わらない。

芸術・文化の行動者比率（2016年度）　（%）

北海道	30	131.7	新潟県	34	128.3	鳥取県	39	122.8
青森県	47	105.4	富山県	9	160.6	島根県	40	122.6
岩手県	44	114.9	石川県	12	155.5	岡山県	16	145.2
宮城県	13	150.5	福井県	24	138.7	広島県	17	144.5
秋田県	45	114.1	山梨県	21	140.7	山口県	27	135.0
山形県	26	135.3	長野県	15	148.8	徳島県	35	127.5
福島県	38	123.5	岐阜県	23	139.5	香川県	29	132.8
茨城県	18	143.9	静岡県	22	139.6	愛媛県	36	125.9
栃木県	25	138.0	愛知県	8	161.9	高知県	46	108.2
群馬県	19	143.5	三重県	20	142.2	福岡県	13	150.5
埼玉県	5	171.6	滋賀県	11	157.4	佐賀県	32	129.6
千葉県	4	172.8	京都府	3	175.4	長崎県	42	120.3
東京都	1	208.3	大阪府	10	160.5	熊本県	37	124.0
神奈川県	2	192.4	兵庫県	7	165.0	大分県	28	133.9
			奈良県	6	168.2	宮崎県	43	116.5
			和歌山県	33	129.5	鹿児島県	41	121.7
						沖縄県	31	131.1

※斜体は順位



【出典】総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」

2

Prologue
Introduction
Research
Report
Epilogue

地方創生のファクターX

47都道府県の寛容と幸福、人口移動に関する調査

1. アンケート調査分析：属性別、都道府県別の傾向

［寄稿］地方創生のための寛容性と幸福の分析

有馬雄祐（職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教）

2. 47都道府県別データ集

橋口 理文（はしぐち・まさふみ）
株式会社ディ・プラス 代表取締役

東京大学経済学部卒業後、（株）リクルートに入社。主に新規事業関連企業のマーケティングリサーチを担当。マーケティングリサーチ・エージェンシー取締役を経て、2019年に住生活、高等 教育、観光・地方創生を中心とするリサーチ＆コンサルティング企業（株）ディ・プラスを設立。（現・代表取締役）。

吉永奈央子（よしなが・なおこ）
リサーチャー、株式会社ディ・プラス フェロー

上智大学文学部卒業後、インターネットリサーチ会社に入社。リサーチャーとして様々な調査に関わり、退社後もフリーリサーチャー、（株）ディ・プラス フェローとして調査業に従事。また、東京学芸大学大学院を修了、公認心理師、臨床心理士として心理発達支援にも携わる。

目 次

調査概要 …… 049

1. 回答者プロフィール【出身者調査】……051　2. 回答者プロフィール【在住者調査】…… 054

Ⅰ 人口増加のための基礎データ

①Uターン
1. Uターン意向率 …… 057
2. 非Uターン意向理由 …… 058
3. 出身者のみる出身地イメージ …… 059
4. 都道府県別Uターン意向 …… 060
5. 属性別・都道府県別Uターン意向 …… 061

②関係意向
1. 関係意向率 …… 062
2. 都道府県別関係意向率 …… 063

③離脱意向
1. 離脱意向率 …… 064
2. 属性別・都道府県別離脱意向 …… 065

④Uターン意向／関係意向／離脱意向の相関
1. Uターン意向／関係意向／離脱意向の相関係数 …… 066

Ⅱ 寛容性指標

1. ジャンル別寛容性指標【女性の生き方】 …… 068
2. ジャンル別寛容性指標【家族のあり方】 …… 069
3. ジャンル別寛容性指標【若者信頼】 …… 070
4. ジャンル別寛容性指標【少数派包摂】 …… 071
5. ジャンル別寛容性指標【個人主義】 …… 072
6. ジャンル別寛容性指標【変化の受容】 …… 073
7. 都道府県別寛容性総合指標 …… 074
8. 属性別・都道府県別寛容性総合指標 …… 076
9. 在住者と出身者の寛容性総合指標の相関 …… 078
10. 地方の寛容性総合指標とUターン意向との相関 …… 080
11. 地方の寛容性総合指標と離脱意向との相関 …… 081

Ⅲ Well-being 指標

1. 都道府県別 Well-being 指標 …… 082
2. 属性別・都道府県別 Well-being 指標・総合幸福度 …… 083
3. 地方の Well-being 指標と寛容性総合指標との相関 …… 084
4. 地方の Well-being 指標とUターン意向との相関 …… 085
5. 地方の Well-being 指標と離脱意向との相関 …… 086

Ⅳ 地方の実情と寛容性

1. 都道府県の気質 ──凝集性と開放性 …… 087
2. 都道府県の生活環境 …… 088
3. 寛容性と都道府県の気質との関係 …… 089
4. 寛容性と都道府県の生活環境との関係 …… 090

Ⅴ Uターン意向を左右する要因の考察

1. Uターン意向と寛容性総合指標・Well-being 指標 …… 092
2. Uターン意向と既存統計データ …… 093
3. Uターン意向の重回帰分析 …… 094

調査概要

今回、2つの調査を実施した。

◉ 在住者調査：全国47都道府県の在住者対象の調査
◉ 出身者調査：1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）居住者のうち、1都3県以外の都道府県出身者対象の調査

調査方法：いずれもインターネットリサーチ

◉ 在住者調査：MApps Panel（株式会社マーケティングアプリケーションズ）
◉ 出身者調査：LINEリサーチ（窓口：日本インフォメーション株式会社）

調査時期

◉ 在住者調査：2021年4月27日（火）～5月11日（火）
◉ 出身者調査：2021年4月23日（金）～5月7日（金）

調査対象

◉ 在住者調査
- 各都道府県在住の18歳～69歳男女（学生含む）
- 各都道府県別に400sずつ、合計18,800s回収を目標とした。
- 上記目標通りの回収となった。

	男性	女性	合計
18～29歳	40	40	80
30～39歳	40	40	80
40～49歳	40	40	80
50～59歳	40	40	80
60～69歳	40	40	80
1都道府県合計	200	200	400
全国	9,400	9,400	18,800

◉ 出身者調査
- 1都3県在住者18歳～39歳男女（学生含む）のうち、1都3県出身者を除く各道府（43道府県）出身者
- 各都道府県別に200sずつ、合計8,600s回収を目標とした。
- 不足分のセルが生じたため、事後に各セルが50サンプルになるよう、各セル内でウエイトバックを行った。

（実際の回収数は次ページ参照）

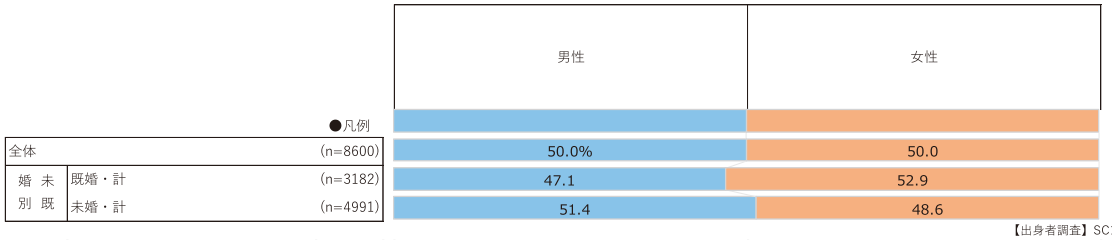
	男性	女性	合計
18～29歳	50	50	100
30～39歳	50	50	100
1都道府県合計	100	100	200
全国	4,300	4,300	8,600

◎ 出身者調査の都道府県・性年代別回収数

	合計	男性			女性		
		男性・計	20代以下	30代	女性・計	20代以下	女性30代
全国	7,417	3,330	1,654	1,676	4,087	2,115	1,972
北海道	200	96	53	43	104	53	51
青森県	194	91	47	44	103	53	50
岩手県	194	93	45	48	101	53	48
宮城県	196	99	53	46	97	53	44
秋田県	186	87	38	49	99	53	46
山形県	188	86	40	46	102	53	49
福島県	201	99	53	46	102	53	49
茨城県	204	100	53	47	104	53	51
栃木県	202	99	53	46	103	53	50
群馬県	203	99	53	46	104	53	51
新潟県	198	99	53	46	99	53	46
富山県	193	90	40	50	103	53	50
石川県	173	71	48	23	102	53	49
福井県	114	34	18	16	80	43	37
山梨県	190	90	48	42	100	53	47
長野県	204	102	53	49	102	53	49
岐阜県	204	101	53	48	103	53	50
静岡県	202	98	53	45	104	53	51
愛知県	201	102	53	49	99	53	46
三重県	179	78	37	41	101	53	48
滋賀県	164	64	30	34	100	53	47
京都府	197	96	48	48	101	53	48
大阪府	207	105	53	52	102	53	49
兵庫県	200	99	53	46	101	53	48
奈良県	177	71	30	41	106	53	53
和歌山県	99	32	17	15	67	25	42
鳥取県	81	29	10	19	52	29	23
島根県	90	25	8	17	65	36	29
岡山県	181	83	33	50	98	53	45
広島県	203	100	53	47	103	53	50
山口県	171	70	26	44	101	53	48
徳島県	73	23	11	12	50	27	23
香川県	143	50	19	31	93	50	43
愛媛県	150	52	27	25	98	53	45
高知県	102	32	16	16	70	32	38
福岡県	198	97	53	44	101	53	48
佐賀県	107	32	10	22	75	27	48
長崎県	183	81	45	36	102	53	49
熊本県	164	68	21	47	96	53	43
大分県	146	57	27	30	89	44	45
宮崎県	174	71	32	39	103	53	50
鹿児島県	196	93	49	44	103	53	50
沖縄県	185	86	39	47	99	53	46

1. 回答者プロフィール［出身者調査］

■性別（全体／単一回答）



			男性	女性
全体		(n=8600)	50.0%	50.0
婚姻別	既婚・計	(n=3182)	47.1	52.9
	未婚・計	(n=4991)	51.4	48.6

【出身者調査】SC1

■年齢（全体／実数回答）

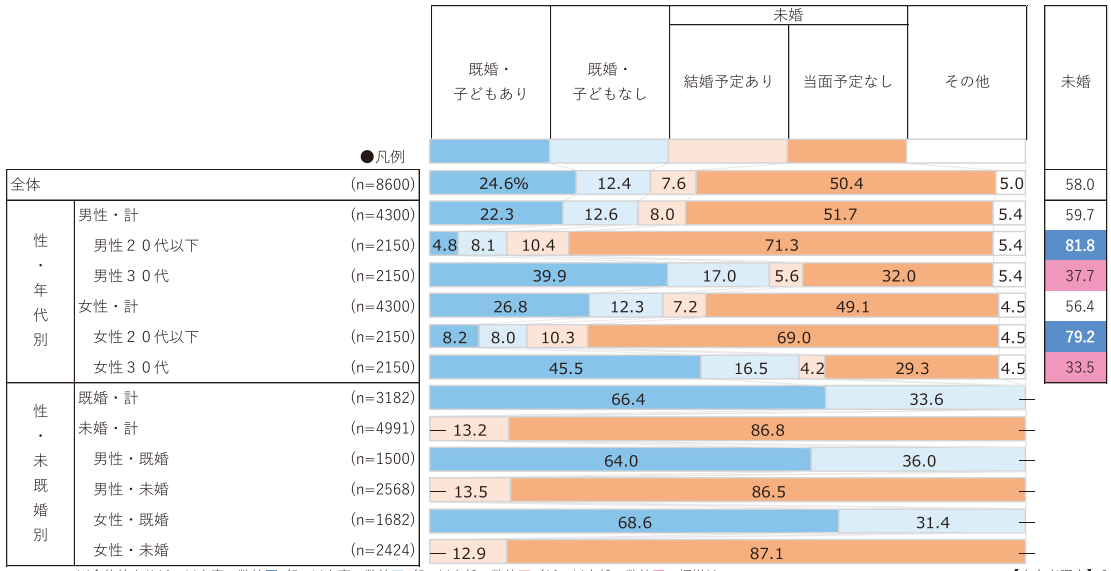
			２０歳未満	２０～２４歳	２５～２９歳	３０～３４歳	３５～３９歳	平均（歳）
全体		(n=8600)	5.2%	20.8	24.0	23.1	26.9	29.44
性・年代別	男性・計	(n=4300)	5.7	21.2	23.2	21.3	28.7	29.47
	男性２０代以下	(n=2150)	11.4	42.3	46.3	—		24.04
	男性３０代	(n=2150)	—	42.6		57.4		34.91
	女性・計	(n=4300)	4.7	20.4	24.9	24.8	25.2	29.41
	女性２０代以下	(n=2150)	9.4	40.8	49.8	—		24.28
	女性３０代	(n=2150)	—	49.7		50.3		34.53
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	— 2.3	17.3	33.8	46.6		33.44
	未婚・計	(n=4991)	8.2	32.6	28.5	16.2	14.4	26.91
	男性・既婚	(n=1500)	— 2.5	15.9	30.8	50.9		33.75
	男性・未婚	(n=2568)	8.9	32.0	27.6	15.6	15.9	27.01
	女性・既婚	(n=1682)	0.1	2.1 18.6	36.5	42.8		33.16
	女性・未婚	(n=2424)	7.5	33.2	29.6	16.9	12.8	26.81

【出身者調査】SC2

■結婚&予定の有無（全体／単一回答）

あなたは結婚されていますか。また結婚のご予定はありますか。

(%)

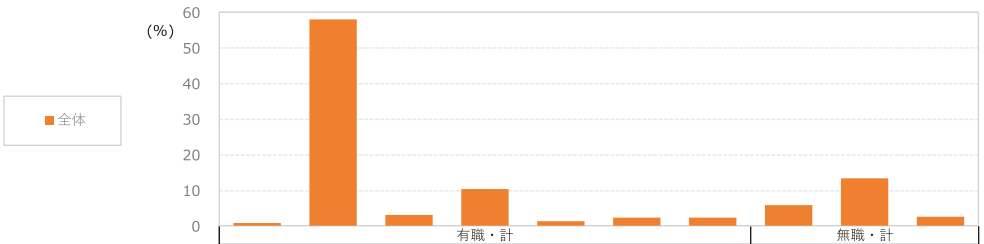


			既婚・子どもあり	既婚・子どもなし	未婚：結婚予定あり	未婚：当面予定なし	その他	未婚
全体		(n=8600)	24.6%	12.4	7.6	50.4	5.0	58.0
性・年代別	男性・計	(n=4300)	22.3	12.6	8.0	51.7	5.4	59.7
	男性２０代以下	(n=2150)	4.8	8.1	10.4	71.3	5.4	81.8
	男性３０代	(n=2150)	39.9		17.0	5.6	32.0	5.4	37.7
	女性・計	(n=4300)	26.8	12.3	7.2	49.1	4.5	56.4
	女性２０代以下	(n=2150)	8.2	8.0	10.3	69.0	4.5	79.2
	女性３０代	(n=2150)	45.5		16.5	4.2	29.3	4.5	33.5
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	66.4			33.6		
	未婚・計	(n=4991)	— 13.2			86.8		
	男性・既婚	(n=1500)	64.0			36.0		
	男性・未婚	(n=2568)	— 13.5			86.5		
	女性・既婚	(n=1682)	68.6			31.4		
	女性・未婚	(n=2424)	— 12.9			87.1		

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】Q12

■職業（出身者調査，全体／単一回答）



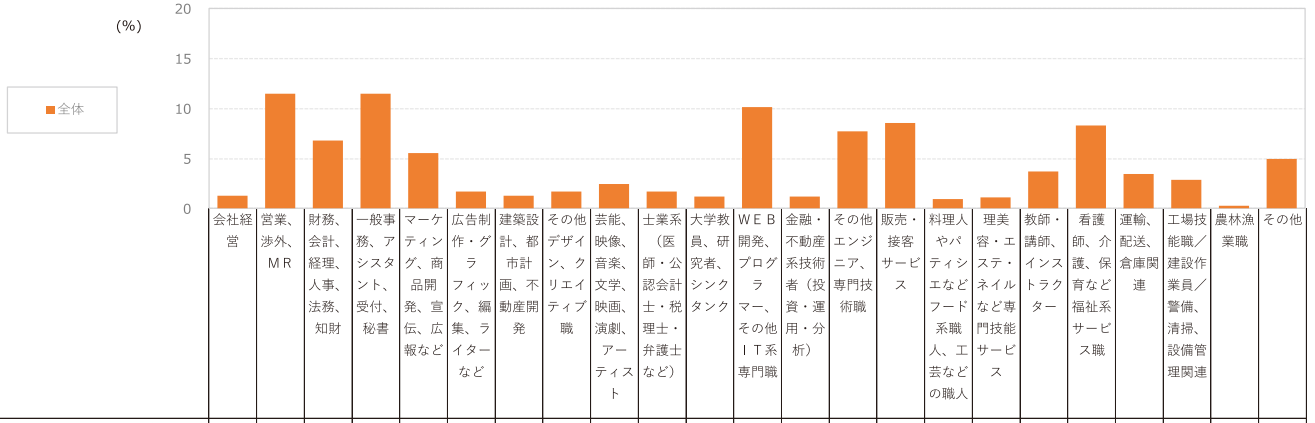
			経営者・役員	公務員・正社員	契約社員、嘱託社員	派遣社員、パート・アルバイト	自営業	フリーランス・自由業	その他の職業	専業主婦・主夫	学生	無職（専業主婦・主夫以外）	有職・計	無職・計
全体		(n=8600)	0.9	58.1	3.1	10.3	1.3	2.4	2.3	5.9	13.3	2.5	78.4	21.6
性・年代別	男性・計	(n=4300)	1.5	67.8	2.7	4.8	1.6	2.1	2.2	0.2	15.4	1.8	82.7	17.3
	男性２０代以下	(n=2150)	0.8	54.8	2.7	4.8	1.4	1.2	1.9	0.2	30.3	1.9	67.6	32.4
	男性３０代	(n=2150)	2.1	80.8	2.7	4.8	1.8	3.1	2.4	0.2	0.4	1.6	97.8	2.2
	女性・計	(n=4300)	0.3	48.5	3.6	15.7	1.0	2.6	2.4	11.6	11.2	3.2	74.0	26.0
	女性２０代以下	(n=2150)	0.2	52.4	2.9	10.5	0.6	1.8	3.0	4.0	22.1	2.6	71.3	28.7
	女性３０代	(n=2150)	0.4	44.7	4.3	20.9	1.4	3.4	1.8	19.2	0.3	3.8	76.8	23.2
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	1.5	62.5	2.2	11.6	1.2	1.6	1.9	15.1	0.2	2.3	82.4	17.6
	未婚・計	(n=4991)	0.6	56.2	3.7	9.3	1.4	2.8	1.7	0.3	21.4	2.5	75.7	24.3
	男性・既婚	(n=1500)	2.5	89.2	1.5	1.5	1.6	1.0	1.7	0.2	0.3	0.4	99.0	1.0
	男性・未婚	(n=2568)	1.0	56.5	3.6	6.5	1.6	2.6	1.6	0.2	24.0	2.4	73.4	26.6
	女性・既婚	(n=1682)	0.5	38.7	2.9	20.6	0.8	2.1	2.0	28.3	0.1	4.0	67.6	32.4
	女性・未婚	(n=2424)	0.1	55.9	3.9	12.3	1.2	2.9	1.8	0.4	18.8	2.6	78.1	21.9

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】SC3

■職種（出身者調査，有職者／単一回答）

現在のあなたの主な仕事内容を１つお選びください。



			会社経営	営業、渉外、ＭＲ	財務、会計、経理、人事、法務、知財	一般事務、アシスタント、受付、秘書	マーケティング、商品開発、宣伝、広報など	広告制作・グラフィック、編集、ライターなど	建築設計、都市計画、不動産開発	その他デザイン、クリエイティブ職	芸能、映像、音楽、文学、映画、演劇、アーティスト	士業系（医師・公認会計士・税理士・弁護士など）	大学教員、研究者、シンクタンク	ＷＥＢ開発、プログラマー、その他ＩＴ系専門職	金融・不動産系技術者（投資・運用・分析）	その他エンジニア、専門技術職	販売・接客サービス	料理人やパティシエなどフード系職人、工芸などの職人	理美容・エステ・ネイルなど専門技能サービス	教師・講師、インストラクター	看護師、介護、保育など福祉系サービス職	運輸、配送、倉庫関連	工場技能職／建設作業員／警備、清掃、設備管理関連	農林漁業職	その他
全体		(n=6739)	1.3	11.5	6.8	11.5	5.6	1.7	1.3	1.7	2.5	1.7	1.2	10.2	1.2	7.7	8.6	1.0	1.1	3.7	8.3	3.5	2.9	0.3	5.0
性・年代別	男性・計	(n=3556)	2.1	14.5	7.3	5.4	5.6	1.6	1.6	1.4	2.2	1.5	1.6	14.1	1.2	11.4	5.6	1.1	0.5	3.1	3.3	4.6	4.4	0.4	5.5
	男性２０代以下	(n=1454)	1.9	13.6	5.3	5.0	4.6	1.3	2.2	1.1	3.0	1.5	1.6	16.1	0.9	12.3	5.2	1.1	0.5	4.8	3.2	4.8	3.8	0.7	5.5
	男性３０代	(n=2103)	2.2	15.1	8.6	5.7	6.2	1.9	1.1	1.6	1.6	1.5	1.6	12.7	1.4	10.9	5.8	1.1	0.5	2.0	3.4	4.5	4.8	0.2	5.5
	女性・計	(n=3183)	0.4	8.1	6.3	18.3	5.6	1.7	0.9	2.0	2.8	2.0	0.7	5.8	1.1	3.4	12.1	0.9	1.7	4.3	13.8	2.3	1.2	0.3	4.4
	女性２０代以下	(n=1532)	0.4	10.0	5.0	14.7	4.7	1.5	1.1	1.5	4.4	2.1	0.9	7.8	1.2	4.3	11.1	0.7	1.6	4.1	14.5	1.9	1.6	0.3	4.7
	女性３０代	(n=1651)	0.5	6.3	7.5	21.6	6.4	1.9	0.7	2.5	1.3	1.8	0.5	4.0	1.1	2.6	13.0	1.0	1.7	4.5	13.2	2.6	1.0	0.2	4.2
性・未既婚別	既婚・計	(n=2622)	1.8	12.6	7.8	11.7	6.4	1.1	1.2	1.6	1.0	2.0	1.1	8.9	1.5	8.0	7.4	0.8	0.8	4.0	8.5	3.4	2.8	—	5.6
	未婚・計	(n=3780)	0.8	10.9	6.3	11.6	5.2	1.9	1.3	1.6	3.4	1.6	1.1	11.2	1.1	7.6	9.3	1.1	1.2	3.5	8.1	3.7	2.9	0.2	4.4
	男性・既婚	(n=1485)	2.9	17.5	8.6	4.7	6.6	1.1	1.5	1.5	1.0	1.6	1.6	11.9	1.7	12.7	3.5	0.8	0.3	3.4	3.0	4.0	4.2	0.1	6.1
	男性・未婚	(n=1886)	1.3	12.7	6.8	6.2	4.9	1.7	1.8	1.1	2.9	1.6	1.5	16.0	1.0	10.7	7.0	1.3	0.7	3.0	3.1	5.4	4.4	0.4	4.7
	女性・既婚	(n=1137)	0.5	6.3	6.7	20.9	6.1	1.1	0.8	1.9	1.0	2.4	0.5	5.0	1.2	1.8	12.6	0.8	1.6	4.8	15.7	2.7	1.0	—	4.9
	女性・未婚	(n=1894)	0.2	9.3	5.8	16.9	5.4	2.1	0.9	2.1	4.0	1.6	0.7	6.5	1.2	4.4	11.6	0.9	1.7	4.0	13.1	2.1	1.4	0.1	4.0

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】Q11

■最終学歴（出身者調査，全体／単一回答）

あなたの最終学歴を教えてください。

（%）

		小中学校	高校	専修・各種学校（専門学校）	短期大学・高等専修学校	大学・大学院：大学	大学・大学院：大学院	その他／答えたくない	大学・大学院
全体	(n=8600)	0.9%	13.7	10.8	5.2	56.9	10.1	2.5	66.9
性・年代別	男性・計 (n=4300)	1.0	13.7	7.7	2.6	56.6	15.4	3.0	72.0
	男性２０代以下 (n=2150)	0.6	16.2	6.3	2.6	57.8	13.6	2.9	71.4
	男性３０代 (n=2150)	1.4	11.2	9.1	2.6	55.4	17.3	3.1	72.6
	女性・計 (n=4300)	0.7	13.8	13.9	7.8	57.1	4.7	2.0	61.9
	女性２０代以下 (n=2150)	0.6	14.2	11.4	5.8	61.1	4.6	2.3	65.7
	女性３０代 (n=2150)	0.9	13.4	16.3	9.7	53.2	4.8	1.7	58.0
性・未既婚別	既婚・計 (n=3182)	0.9	11.1	12.3	6.6	57.4	10.8	0.9	68.2
	未婚・計 (n=4991)	0.7	15.5	10.1	4.2	58.2	9.8	1.4	68.1
	男性・既婚 (n=1500)	0.7	8.5	7.7	2.4	61.6	18.1	1.0	79.7
	男性・未婚 (n=2568)	1.0	16.9	7.9	2.5	55.6	14.4	1.7	70.0
	女性・既婚 (n=1682)	1.0	13.4	16.4	10.3	53.7	4.3	0.9	58.0
	女性・未婚 (n=2424)	0.5	14.0	12.4	6.0	61.0	5.0	1.1	66.0

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】Q10

■現在の居住都道府県（出身者調査，全体／単一回答）

		埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
全体	(n=8600)	13.2%	13.4	51.8	21.6
性・年代別	男性・計 (n=4300)	13.0	13.3	52.0	21.8
	男性２０代以下 (n=2150)	12.0	14.2	51.5	22.4
	男性３０代 (n=2150)	14.0	12.3	52.5	21.2
	女性・計 (n=4300)	13.5	13.5	51.6	21.4
	女性２０代以下 (n=2150)	12.3	13.5	52.8	21.4
	女性３０代 (n=2150)	14.8	13.5	50.4	21.4
性・未既婚別	既婚・計 (n=3182)	17.0	15.0	44.5	23.5
	未婚・計 (n=4991)	10.9	12.4	56.3	20.4
	男性・既婚 (n=1500)	15.5	14.1	47.1	23.3
	男性・未婚 (n=2568)	11.4	12.7	55.0	20.9
	女性・既婚 (n=1682)	18.4	15.7	42.1	23.8
	女性・未婚 (n=2424)	10.3	12.1	57.6	19.9

【出身者調査】SC4

■出身市区町村（出身者調査，全体／単一回答）

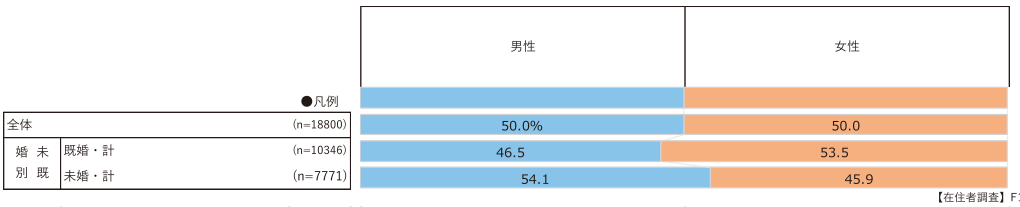
冒頭でお答えになった出身都道府県について、その詳細をお聞きします。あなたの出身の市区町村の種類をお選びください。

		県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市	県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市以外の市部	県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市以外の郡部	わからない
全体	(n=8600)	32.2%	39.1	15.1	13.5
性・年代別	男性・計 (n=4300)	32.6	40.6	15.5	11.3
	男性２０代以下 (n=2150)	33.8	39.4	14.8	12.0
	男性３０代 (n=2150)	31.3	41.8	16.2	10.7
	女性・計 (n=4300)	31.9	37.6	14.7	15.8
	女性２０代以下 (n=2150)	33.0	37.6	12.7	16.7
	女性３０代 (n=2150)	30.8	37.6	16.7	14.8
性・未既婚別	既婚・計 (n=3182)	31.5	39.9	17.3	11.4
	未婚・計 (n=4991)	34.1	39.8	14.0	12.1
	男性・既婚 (n=1500)	31.6	43.1	16.7	8.7
	男性・未婚 (n=2568)	34.5	40.3	15.3	9.9
	女性・既婚 (n=1682)	31.4	37.0	17.8	13.8
	女性・未婚 (n=2424)	33.7	39.3	12.6	14.4

【出身者調査】Q9

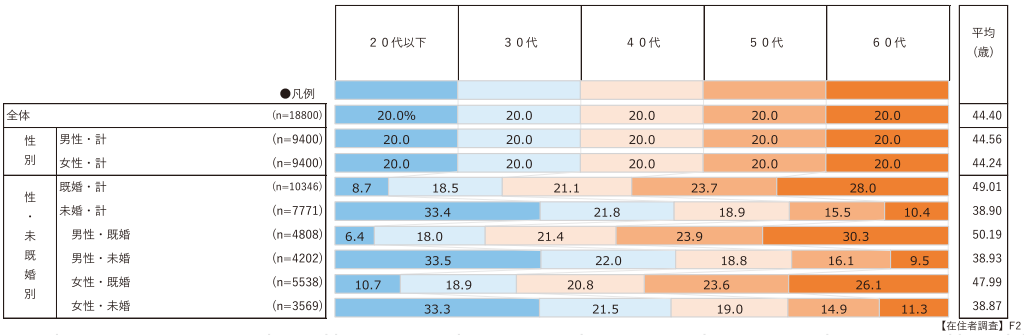
2. 回答者プロフィール［在住者調査］

■性別（在住者調査，全体／単一回答）



【在住者調査】F1

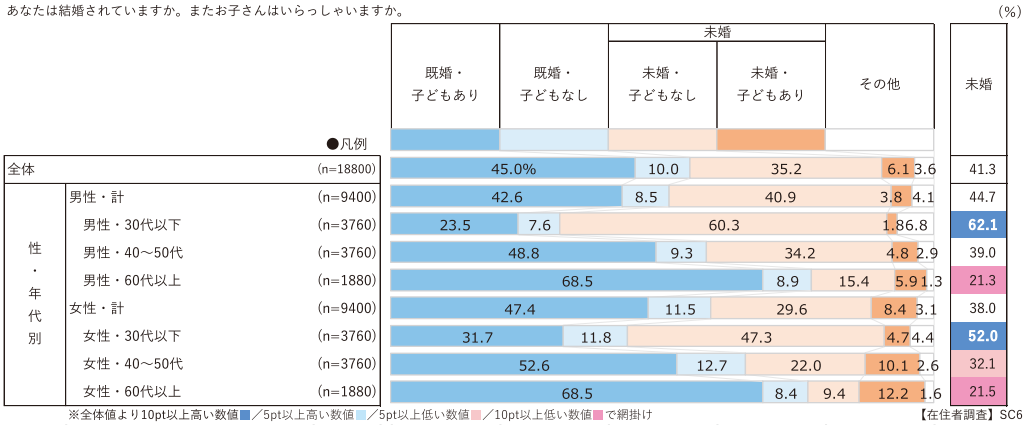
■年齢（在住者調査，全体／実数回答）



【在住者調査】F2

■結婚&子どもの有無（在住者調査，全体／単一回答）

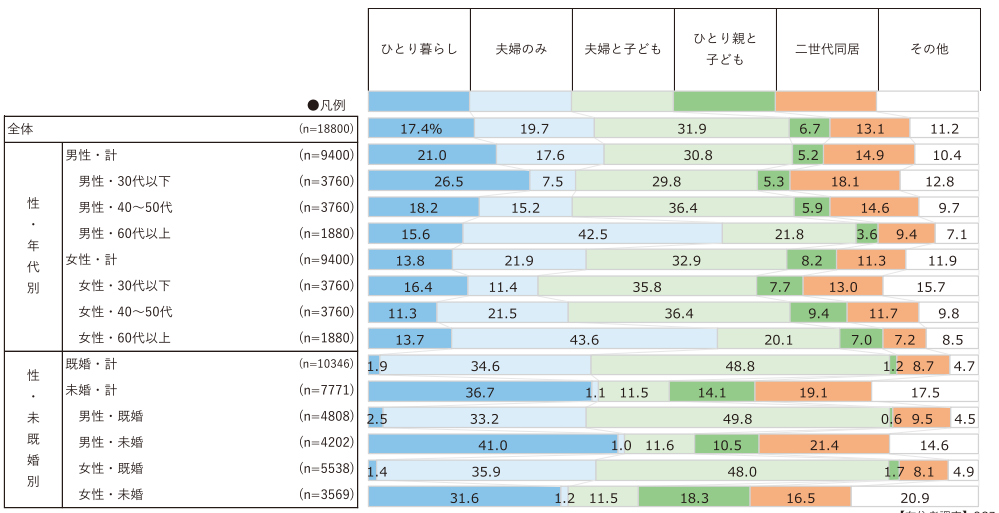
あなたは結婚されていますか。またお子さんはいらっしゃいますか。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【在住者調査】SC6

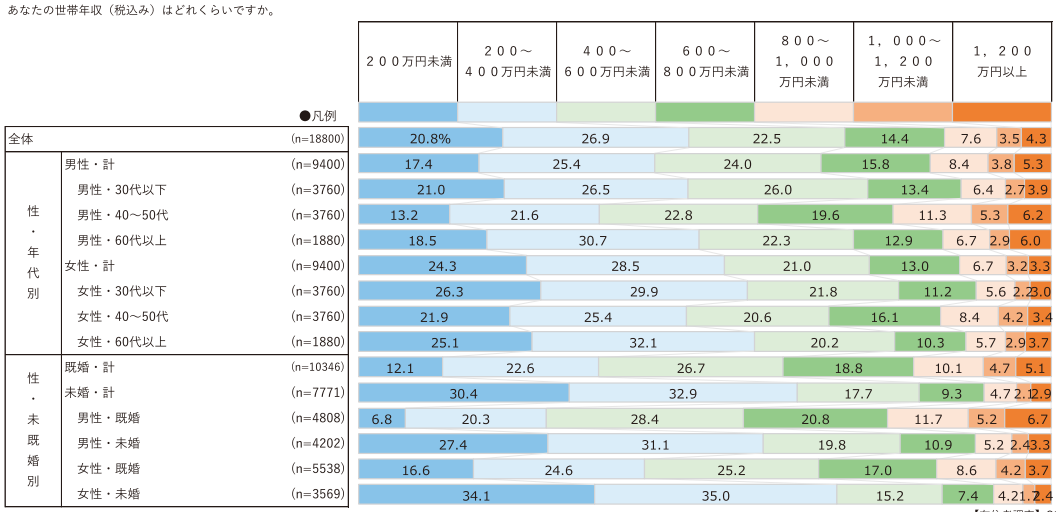
■同居の家族形態（在住者調査，全体／単一回答）



【在住者調査】SC7

■世帯年収（在住者調査，全体／単一回答）

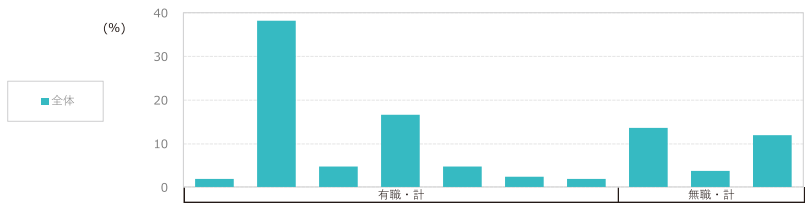
あなたの世帯年収（税込み）はどれくらいですか。



		(n=18800)	２００万円未満	２００～４００万円未満	４００～６００万円未満	６００～８００万円未満	８００～１，０００万円未満	１，０００～１，２００万円未満	１，２００万円以上
全体			20.8%	26.9	22.5	14.4	7.6	3.5	4.3
性・年代別	男性・計	(n=9400)	17.4	25.4	24.0	15.8	8.4	3.8	5.3
	男性・30代以下	(n=3760)	21.0	26.5	26.0	13.4	6.4	2.7	3.9
	男性・40～50代	(n=3760)	13.2	21.6	22.8	19.6	11.3	5.3	6.2
	男性・60代以上	(n=1880)	18.5	30.7	22.3	12.9	6.7	2.9	6.0
	女性・計	(n=9400)	24.3	28.5	21.0	13.0	6.7	3.2	3.3
	女性・30代以下	(n=3760)	26.3	29.9	21.8	11.2	5.6	2.2	3.0
	女性・40～50代	(n=3760)	21.9	25.4	20.6	16.1	8.4	4.2	3.4
	女性・60代以上	(n=1880)	25.1	32.1	20.2	10.3	5.7	2.9	3.7
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	12.1	22.6	26.7	18.8	10.1	4.7	5.1
	未婚・計	(n=7771)	30.4	32.9	17.7	9.3	4.7	2.1	2.9
	男性・既婚	(n=4808)	6.8	20.3	28.4	20.8	11.7	5.2	6.7
	男性・未婚	(n=4202)	27.4	31.1	19.8	10.9	5.2	2.4	3.3
	女性・既婚	(n=5538)	16.6	24.6	25.2	17.0	8.6	4.2	3.7
	女性・未婚	(n=3569)	34.1	35.0	15.2	7.4	4.2	1.2	2.4

【在住者調査】Q13

■職業（在住者調査，全体／単一回答）



		(n=18800)	経営者・役員	公務員・正社員	契約社員、嘱託社員	派遣社員、パート・アルバイト	自営業	フリーランス・自由業	その他の職業	専業主婦・主夫	学生	無職（専業主婦・主夫以外）	有職・計	無職・計
			有職・計							無職・計				
全体			1.9	38.3	4.8	16.7	4.8	2.4	1.9	13.6	3.8	11.9	70.8	29.3
性・年代別	男性・計	(n=9400)	3.3	52.9	5.4	7.9	6.9	2.9	2.2	0.6	4.5	13.4	81.5	18.5
	男性・30代以下	(n=3760)	1.4	57.7	3.2	9.6	3.1	2.6	2.6	0.3	11.2	8.5	80.1	19.9
	男性・40～50代	(n=3760)	3.6	63.9	4.1	5.9	8.5	2.9	2.0	0.6	0.1	8.5	90.8	9.2
	男性・60代以上	(n=1880)	6.4	21.3	12.2	8.4	11.5	3.7	2.1	1.4	0.1	32.9	65.6	34.4
	女性・計	(n=9400)	0.6	23.7	4.3	25.5	2.6	1.8	1.6	26.5	3.1	10.4	60.0	40.0
	女性・30代以下	(n=3760)	0.5	33.7	3.7	24.0	1.5	1.5	1.8	17.1	7.7	8.5	66.7	33.3
	女性・40～50代	(n=3760)	0.6	21.8	4.9	30.7	3.0	2.0	1.4	26.7	0.1	8.6	64.6	35.4
	女性・60代以上	(n=1880)	0.8	7.4	4.0	18.2	4.0	1.8	1.2	44.8	0.1	17.7	37.5	62.5
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	2.7	38.8	4.4	15.8	4.7	1.5	1.0	23.4	0.1	7.5	68.9	31.1
	未婚・計	(n=7771)	0.9	38.9	5.3	17.9	4.7	3.5	1.9	1.2	8.6	17.1	73.1	26.9
	男性・既婚	(n=4808)	5.1	63.6	5.9	3.7	7.2	2.2	1.3	0.9	0.1	10.0	89.0	11.0
	男性・未婚	(n=4202)	1.3	43.0	4.8	12.3	6.5	3.8	1.8	0.4	9.3	16.9	73.4	26.6
	女性・既婚	(n=5538)	0.7	17.2	3.1	26.3	2.5	0.9	0.8	43.0	0.1	5.4	51.5	48.5
	女性・未婚	(n=3569)	0.5	34.1	6.0	24.5	2.5	3.1	2.0	2.2	7.8	17.2	72.8	27.2

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【在住者調査】SC5

■最終学歴（在住者調査，全体／単一回答）

あなたの最終学歴を教えてください。



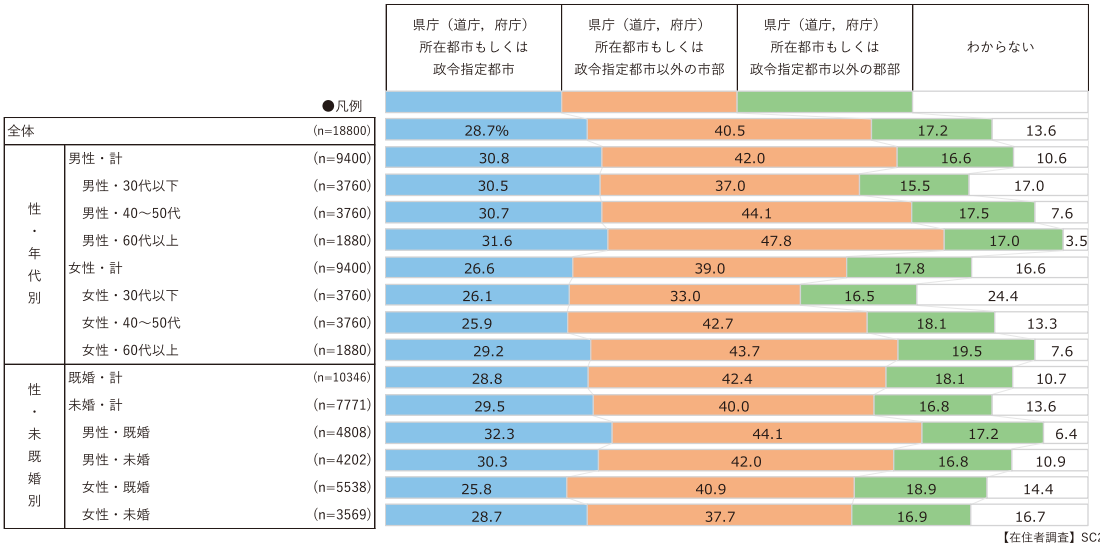
		(n=18800)	小中学校	高校	専修・各種学校（専門学校）	短期大学・高等専修学校	大学	大学院	その他／答えたくない	大学・大学院
全体			2.9%	34.0	12.1	11.5	33.7	3.3	2.5	37.0
性・年代別	男性・計	(n=9400)	3.1	31.6	10.5	4.5	42.6	4.9	2.7	47.6
	男性・30代以下	(n=3760)	3.4	31.7	11.6	4.3	40.1	4.7	4.2	44.8
	男性・40～50代	(n=3760)	3.4	33.3	12.0	4.5	39.2	5.6	2.1	44.7
	男性・60代以上	(n=1880)	1.9	28.1	5.4	4.8	54.6	4.1	1.0	58.7
	女性・計	(n=9400)	2.7	36.4	13.6	18.6	24.7	1.7	2.3	26.4
	女性・30代以下	(n=3760)	4.0	31.3	16.1	12.0	30.9	2.3	3.5	33.1
	女性・40～50代	(n=3760)	2.1	39.6	13.4	22.3	19.4	1.4	1.8	20.8
	女性・60代以上	(n=1880)	1.5	40.0	9.2	24.1	23.1	1.1	0.9	24.3
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	2.1	33.1	12.0	13.3	35.2	3.1	1.1	38.3
	未婚・計	(n=7771)	4.0	35.9	12.5	9.5	32.8	3.6	1.7	36.4
	男性・既婚	(n=4808)	1.9	28.8	10.0	4.9	48.2	5.2	1.0	53.4
	男性・未婚	(n=4202)	4.4	35.3	11.4	4.2	38.1	4.7	1.9	42.8
	女性・既婚	(n=5538)	2.3	36.9	13.7	20.7	23.9	1.3	1.2	25.2
	女性・未婚	(n=3569)	3.5	36.6	13.9	15.7	26.5	2.3	1.5	28.8

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【在住者調査】Q12

■居住市区町村（在住者調査，全体／単一回答）

あなたがお住まいの市区町村をお選びください。

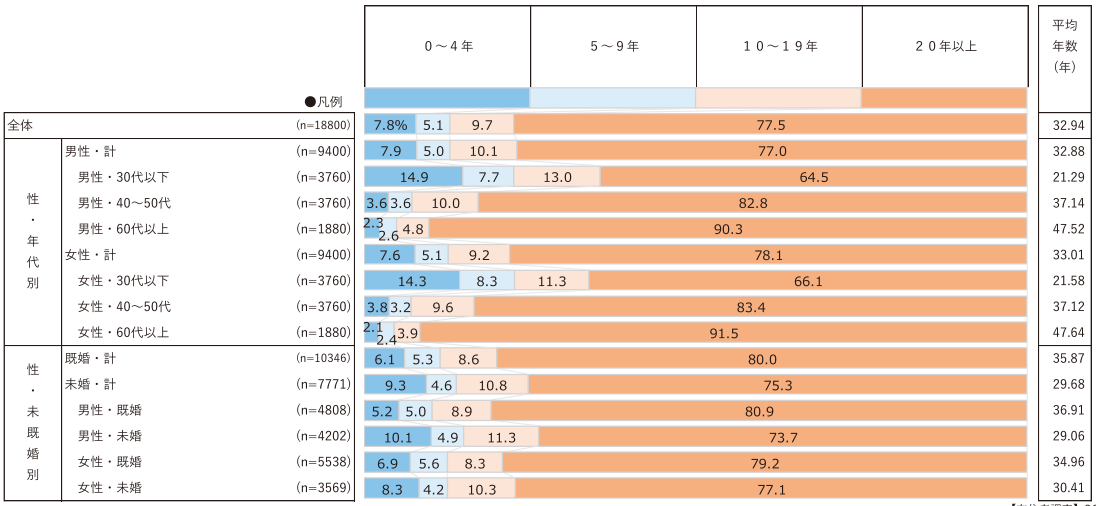


		(n=18800)	県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市	県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市以外の市部	県庁（道庁，府庁）所在都市もしくは政令指定都市以外の郡部	わからない
全体		(n=18800)	28.7%	40.5	17.2	13.6
性・年代別	男性・計	(n=9400)	30.8	42.0	16.6	10.6
	男性・30代以下	(n=3760)	30.5	37.0	15.5	17.0
	男性・40～50代	(n=3760)	30.7	44.1	17.5	7.6
	男性・60代以上	(n=1880)	31.6	47.8	17.0	3.5
	女性・計	(n=9400)	26.6	39.0	17.8	16.6
	女性・30代以下	(n=3760)	26.1	33.0	16.5	24.4
	女性・40～50代	(n=3760)	25.9	42.7	18.1	13.3
	女性・60代以上	(n=1880)	29.2	43.7	19.5	7.6
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	28.8	42.4	18.1	10.7
	未婚・計	(n=7771)	29.5	40.0	16.8	13.6
	男性・既婚	(n=4808)	32.3	44.1	17.2	6.4
	男性・未婚	(n=4202)	30.3	42.0	16.8	10.9
	女性・既婚	(n=5538)	25.8	40.9	18.9	14.4
	女性・未婚	(n=3569)	28.7	37.7	16.9	16.7

【在住者調査】SC2

■出身都道府県居住年数（在住者調査，全体／実数回答）

現在お住まいの都道府県に何年くらいお住まいになっていますか。

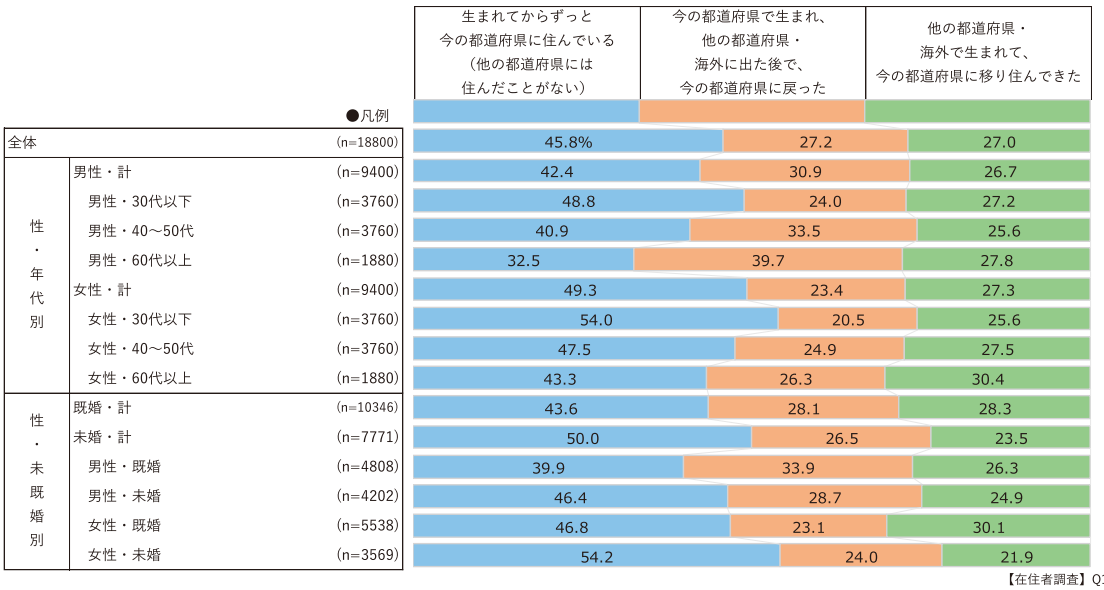


		(n=18800)	0～4年	5～9年	10～19年	20年以上	平均年数（年）
全体		(n=18800)	7.8%	5.1	9.7	77.5	32.94
性・年代別	男性・計	(n=9400)	7.9	5.0	10.1	77.0	32.88
	男性・30代以下	(n=3760)	14.9	7.7	13.0	64.5	21.29
	男性・40～50代	(n=3760)	3.6	3.6	10.0	82.8	37.14
	男性・60代以上	(n=1880)	2.3	2.6	4.8	90.3	47.52
	女性・計	(n=9400)	7.6	5.1	9.2	78.1	33.01
	女性・30代以下	(n=3760)	14.3	8.3	11.3	66.1	21.58
	女性・40～50代	(n=3760)	3.8	3.2	9.6	83.4	37.12
	女性・60代以上	(n=1880)	2.1	2.4	3.9	91.5	47.64
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	6.1	5.3	8.6	80.0	35.87
	未婚・計	(n=7771)	9.3	4.6	10.8	75.3	29.68
	男性・既婚	(n=4808)	5.2	5.0	8.9	80.9	36.91
	男性・未婚	(n=4202)	10.1	4.9	11.3	73.7	29.06
	女性・既婚	(n=5538)	6.9	5.6	8.3	79.2	34.96
	女性・未婚	(n=3569)	8.3	4.2	10.3	77.1	30.41

【在住者調査】SC4

■移動歴（在住者調査，全体／単一回答）

あなたは、いまお住まいの都道府県とあなたの関係は、どれにあたりますか。



		(n=18800)	生まれてからずっと今の都道府県に住んでいる（他の都道府県には住んだことがない）	今の都道府県で生まれ、他の都道府県・海外に出た後で、今の都道府県に戻った	他の都道府県・海外で生まれて、今の都道府県に移り住んできた
全体		(n=18800)	45.8%	27.2	27.0
性・年代別	男性・計	(n=9400)	42.4	30.9	26.7
	男性・30代以下	(n=3760)	48.8	24.0	27.2
	男性・40～50代	(n=3760)	40.9	33.5	25.6
	男性・60代以上	(n=1880)	32.5	39.7	27.8
	女性・計	(n=9400)	49.3	23.4	27.3
	女性・30代以下	(n=3760)	54.0	20.5	25.6
	女性・40～50代	(n=3760)	47.5	24.9	27.5
	女性・60代以上	(n=1880)	43.3	26.3	30.4
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	43.6	28.1	28.3
	未婚・計	(n=7771)	50.0	26.5	23.5
	男性・既婚	(n=4808)	39.9	33.9	26.3
	男性・未婚	(n=4202)	46.4	28.7	24.9
	女性・既婚	(n=5538)	46.8	23.1	30.1
	女性・未婚	(n=3569)	54.2	24.0	21.9

【在住者調査】Q1

Ⅰ 人口増加のための基礎データ

① Uターン

1. Uターン意向率

☑出身者　☐在住者

▶地方出身者のUターン意向率(『予定／意向あり・計(1～3)』)は52%。
半数以上がUターン意向を持っていることになる。

- ◉『予定／意向あり・計(1～2)』の強い意向を持つ者は18%。
- ◉『意向なし・計(5～7)』は3割強。

- ◉性・年代別にみると、『予定／意向あり・計(1～3)』では男性(55%)が女性(49%)を上回り、特に男性20代以下のスコアが他の層と比べて高い。
- ◉女性30代は『意向なし・計(5～7)』が4割を超え、他の層と比べて高い。
- ◉性・未既婚別にみると、『予定／意向あり・計(1～3)』では未婚・計層(55%)が既婚・計層(48%)を上回る。
  - 男性・未婚層は『予定／意向あり・計(1～3)』が約6割で他の層と比べて高い。

■Uターン意向率（出身者調査，全体／単一回答）

あなたはどの程度「いずれ出身都道府県に戻りたい」と思っていますか。※実際に戻ることになるかどうかではなく、現在のお気持ちをお答えください。

(%)

			1 必ず戻る予定がある	2 いつかはぜひ戻りたいと思っている	3 戻ることも選択肢の一つとして考えている	4 どちらともいえない	5 あまり戻りたいとは思わない	6 全く戻りたいとは思わない	7 絶対に戻らないと決めている	予定／意向あり・計(1～3)	予定／意向あり・計(1～2)	態度保留・計(3～4)	意向なし・計(5～7)	加重平均値
全体		(n=8600)	2.9%	14.9	34.2	14.0	18.4	11.3	4.2	52.0	17.8	48.2	34.0	4.19
性・年代別	男性・計	(n=4300)	3.6	16.4	35.2	14.0	16.2	10.1	4.6	55.2	20.0	49.2	30.8	4.29
	男性２０代以下	(n=2150)	4.4	20.0	36.7	12.4	14.6	7.8	4.0	61.2	24.4	49.2	26.4	4.48
	男性３０代	(n=2150)	2.8	12.8	33.6	15.5	17.7	12.4	5.1	49.3	15.7	49.2	35.2	4.10
	女性・計	(n=4300)	2.2	13.3	33.2	14.0	20.7	12.6	3.9	48.8	15.5	47.2	37.2	4.09
	女性２０代以下	(n=2150)	2.8	15.1	36.3	11.8	20.4	9.9	3.7	54.2	17.9	48.1	34.0	4.24
	女性３０代	(n=2150)	1.6	11.6	30.1	16.2	21.0	15.3	4.1	43.3	13.2	46.3	40.5	3.94
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	2.0	13.8	32.1	15.9	18.7	13.1	4.3	47.9	15.8	48.0	36.2	4.08
	未婚・計	(n=4991)	3.4	15.7	36.3	11.8	18.5	10.4	3.8	55.4	19.1	48.2	32.7	4.27
	男性・既婚	(n=1500)	2.9	14.6	33.5	15.8	17.2	11.2	4.9	50.9	17.5	49.2	33.3	4.17
	男性・未婚	(n=2568)	4.0	17.7	36.9	11.9	15.9	9.7	3.9	58.6	21.7	48.8	29.5	4.37
	女性・既婚	(n=1682)	1.3	13.0	30.8	16.1	20.1	14.8	3.8	45.2	14.4	46.9	38.7	4.00
	女性・未婚	(n=2424)	2.8	13.6	35.7	11.8	21.4	11.2	3.6	52.1	16.4	47.5	36.1	4.17

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】Q1

2. 非Uターン意向理由

☑出身者　☐在住者

▶非Uターン意向理由のトップは「東京圏での暮らしが気に入っているから」。
▶出身地に対するネガティブな理由は「やりたい仕事が少ないから」だけではない。

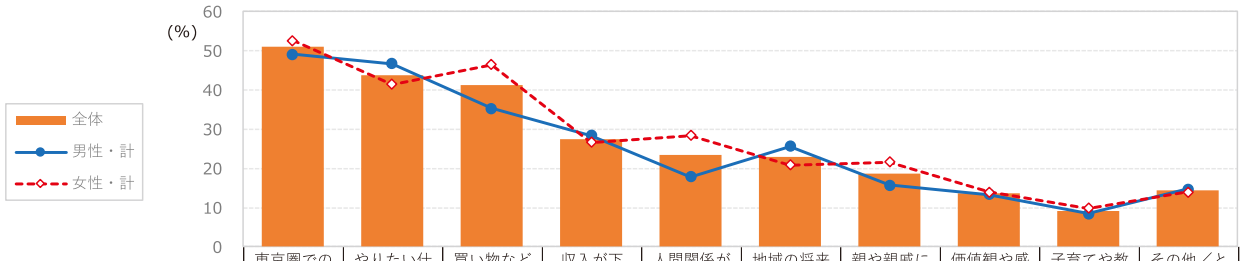
◉「やりたい仕事が少ないから」は4割を超えているが、「買い物など生活の利便性が低いから」はほぼ同等の割合であり、「人間関係が閉鎖的だから」も2割を超えている。

◉性・年代別にみると、「買い物など生活の利便性が低いから」「人間関係が閉鎖的だから」については、女性・計が男性・計を大きく上回る。

◉性・未既婚別にみると、女性・未婚層の「東京圏での暮らしが気に入っているから」「買い物など生活の利便性が低いから」「人間関係が閉鎖的だから」が他の層と比べて高い。

■非Uターン意向理由（出身者調査，Uターン態度保留・非意向者／複数回答）

あなたが「出身都道府県に戻りたいと思わない・どちらともいえない」と回答した理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



			東京圏での暮らしが気に入っているから	やりたい仕事が少ないから	買い物など生活の利便性が低いから	収入が下がって生活レベルが下がるから	人間関係が閉鎖的だから	地域の将来性がなさそうだから	親や親戚になにかと干渉されるから	価値観や感性の合う友達がいないから	子育てや教育の環境がよくないから	その他／とくにない／答えたくない
全体		(n=4127)	51.0	43.9	41.3	27.4	23.5	23.0	18.8	13.7	9.2	14.3
性・年代別	男性・計	(n=1925)	49.1	46.7	35.3	28.4	17.9	25.6	15.7	13.4	8.5	14.7
	男性２０代以下	(n=835)	48.4	44.5	33.4	23.2	18.0	24.6	17.3	12.3	8.4	14.8
	男性３０代	(n=1090)	49.7	48.5	36.8	32.3	17.8	26.3	14.4	14.2	8.7	14.7
	女性・計	(n=2202)	52.7	41.5	46.5	26.6	28.4	20.9	21.6	14.0	9.8	14.0
	女性２０代以下	(n=984)	54.3	46.1	48.0	24.5	27.1	19.7	20.1	12.7	7.7	13.0
	女性３０代	(n=1218)	51.4	37.7	45.3	28.4	29.5	21.8	22.7	15.0	11.4	14.8
性・未既婚別	既婚・計	(n=1658)	47.3	40.5	41.2	29.0	21.8	23.0	17.9	12.3	12.8	15.9
	未婚・計	(n=2225)	55.7	47.6	43.1	27.3	25.4	24.2	20.0	15.3	7.2	11.3
	男性・既婚	(n=736)	47.7	51.5	37.4	35.5	17.1	25.5	13.5	12.7	11.8	13.2
	男性・未婚	(n=1063)	51.6	44.9	35.9	24.6	19.1	27.0	17.5	14.6	7.1	14.0
	女性・既婚	(n=922)	47.1	31.7	44.3	23.7	25.5	21.0	21.3	12.0	13.7	18.1
	女性・未婚	(n=1161)	59.4	50.2	49.6	29.7	31.2	21.6	22.3	16.0	7.3	8.9

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※全体値の降順ソート　【出身者調査】Q2

3. 出身者のみる出身地イメージ

☑出身者 ☐在住者

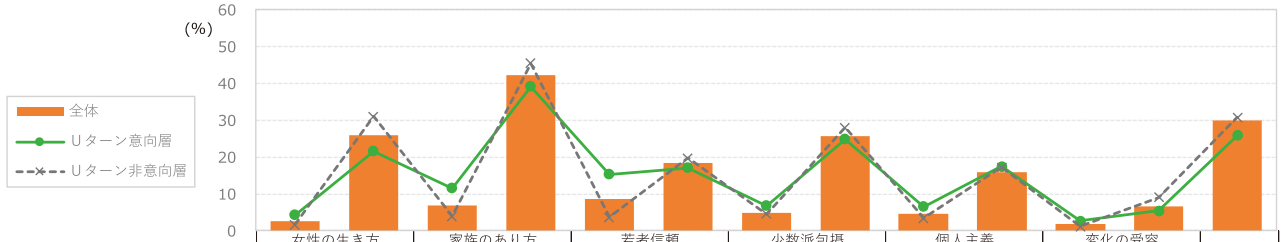
▶出身地のイメージについてみると、「年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い」(42%)がトップ。

- 「結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い」、「相手の出身地や家柄を気にする人が多い」が続く。
- いずれのカテゴリーもネガティブな項目のスコアが高い。

- 性・年代別にみると、以下の項目では女性・計が男性・計を上回る。特に女性30代のスコアが高い。
  「年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い」
  「結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い」
- Uターン意向別にみると、「若者の挑戦を応援する気風がある」でUターン意向層がUターン非意向層を上回る。つまりUターン意向がある者は、出身地が若者の挑戦を応援していると考える人が多い。
  - 一方、Uターン非意向層はいずれのカテゴリーもネガティブ項目のスコアがUターン意向層のスコアを上回り、特に絶対に戻らないと決めている層でスコアが高い。

■出身者のみる出身地イメージ（出身者調査，全体／複数回答）

あなたの出身地の人の気質についてどのようなイメージをお持ちですか。あてはまることをすべてお選びください。



			女性の生き方		家族のあり方		若者信頼		少数派包摂		個人主義		変化の受容		
			政治や経済の場面で活躍している女性が多い	結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い	結婚しないで独身で生きても肩身の狭い思いをすることはない	年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い	若者の挑戦を応援する気風がある	先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い	人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い	相手の出身地や家柄を気にする人が多い	他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある	場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（うとまれる）	多少の格差が出るとしても、経済成長のほうが大切だと考える人が多い	成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある	この中にあてはまるものはない／わからない
全体		(n=8600)	2.5	25.9	7.0	42.4	8.6	18.4	4.9	25.6	4.6	16.0	1.9	6.6	29.9
性・年代別	男性・計	(n=4300)	2.5	17.5	7.0	36.3	8.0	19.0	4.3	23.0	5.5	15.7	2.7	7.2	32.9
	男性２０代以下	(n=2150)	2.5	15.1	8.6	33.6	10.1	17.1	3.7	21.5	5.1	15.9	3.2	6.6	32.8
	男性３０代	(n=2150)	2.6	19.8	5.4	39.0	5.8	21.0	5.0	24.5	5.9	15.5	2.1	7.8	33.0
	女性・計	(n=4300)	2.5	34.3	7.0	48.5	9.1	17.8	5.5	28.2	3.6	16.3	1.1	6.0	26.9
	女性２０代以下	(n=2150)	2.5	29.5	8.5	44.7	10.4	15.7	5.0	26.3	4.4	16.2	1.0	4.9	28.8
	女性３０代	(n=2150)	2.4	39.1	5.5	52.2	7.9	20.0	6.0	30.0	2.8	16.5	1.1	7.1	25.0
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	2.9	26.7	6.0	42.2	7.0	20.6	5.3	28.5	4.0	16.4	1.6	6.4	30.1
	未婚・計	(n=4991)	2.3	26.2	7.8	43.9	9.7	17.6	4.8	24.6	5.1	16.3	2.0	6.6	28.2
	男性・既婚	(n=1500)	2.3	19.0	5.5	37.2	5.3	21.9	4.6	25.9	4.7	16.9	1.7	6.7	33.9
	男性・未婚	(n=2568)	2.9	17.3	8.0	37.2	9.6	17.9	4.2	22.4	6.2	15.7	3.2	7.4	30.6
	女性・既婚	(n=1682)	3.5	33.5	6.5	46.7	8.6	19.4	5.9	30.7	3.3	15.9	1.5	6.0	26.7
	女性・未婚	(n=2424)	1.7	35.7	7.7	50.9	9.8	17.2	5.4	26.9	3.8	17.0	0.9	5.8	25.7
Uターン意向別	Uターン意向層	(n=1530)	4.3	21.6	11.6	39.2	15.4	17.1	6.8	24.9	6.6	17.5	2.7	5.4	25.9
	必ず戻る予定がある	(n=252)	2.3	17.0	8.7	37.7	15.0	16.1	10.1	27.9	8.0	19.0	0.8	7.9	26.5
	いつかはぜひ戻りたいと思っている	(n=1279)	4.7	22.5	12.2	39.5	15.5	17.2	6.1	24.3	6.3	17.2	3.1	4.9	25.8
	態度保留層	(n=4145)	2.4	23.7	7.5	41.4	9.4	18.0	4.5	24.1	4.6	14.6	2.0	5.2	30.8
	戻ることも選択肢の一つとして考えている	(n=2943)	2.5	26.1	8.4	45.9	11.0	20.3	5.0	27.0	5.5	16.3	2.2	5.4	25.0
	どちらともいえない	(n=1202)	2.3	17.9	5.2	30.4	5.5	12.6	3.3	17.1	2.6	10.6	1.7	4.7	44.9
	Uターン非意向層	(n=2925)	1.7	31.1	4.0	45.5	3.7	19.7	4.6	28.1	3.4	17.2	1.2	9.1	30.8
	あまり戻りたいとは思わない	(n=1585)	2.1	29.3	4.8	45.4	4.6	18.2	3.3	25.8	3.3	16.0	1.0	6.8	30.1
	全く戻りたいとは思わない	(n=976)	1.4	32.9	2.9	45.7	2.4	20.0	4.9	30.0	3.7	16.9	0.7	10.5	32.5
	絶対に戻らないと決めている	(n=364)	0.6	34.2	3.5	45.5	3.3	25.3	9.3	32.7	2.9	22.9	3.6	15.7	28.8

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【出身者調査】Q4

4. 都道府県別Uターン意向

☑出身者　☐在住者

▶Uターン意向（加重平均値）のトップは沖縄。

- ◉京都府、長野県、兵庫県、滋賀県までがトップ5。
- ◉大阪府や奈良県もトップ10に入っており、総じて関西圏の都道府県のUターン意向が高い。

▶一方、Uターン意向（加重平均値）が低いのは、鳥取県、和歌山県、大分県、岐阜県など。

- ◉愛媛県を除く、四国エリアの3県のUターン意向も相対的に低い。

■Uターン意向（出身者調査，全体／単一回答）

あなたはどの程度「いずれ出身都道府県に戻りたい」と思っていますか。※実際に戻ることになるかどうかではなく、現在のお気持ちをお答えください。

(%)

			1 必ず戻る予定がある	2 いつかはぜひ戻りたいと思っている	3 戻ることも選択肢の一つとして考えている	4 どちらともいえない	5 あまり戻りたいとは思わない	6 全く戻りたいとは思わない	7 絶対に戻らないと決めている	予定／意向あり・計(1〜3)	予定／意向あり・計(1〜2)	態度保留・計(3〜4)	意向なし・計(5〜7)	加重平均値
	●凡例													
全体		(n=8600)	2.9	14.9	34.2	14.0	18.4	11.3	4.2	52.0	17.8	48.2	34.0	4.19
出身道府県別	北海道	(n=200)	5.4	17.0	33.9	9.0	16.9	14.6	3.3	56.2	22.3	42.9	34.8	4.28
	青森県	(n=200)	3.4	17.0	28.8	12.5	18.5	11.9	7.8	49.2	20.4	41.3	38.3	4.07
	岩手県	(n=200)	5.3	14.9	34.5	9.2	19.2	8.7	8.1	54.8	20.2	43.8	36.0	4.19
	宮城県	(n=200)	2.3	13.5	39.6	17.3	12.7	8.0	6.5	55.4	15.8	56.9	27.3	4.25
	秋田県	(n=200)	3.7	11.8	30.9	16.4	20.6	10.9	5.7	46.3	15.5	47.3	37.3	4.06
	山形県	(n=200)	3.1	11.7	32.2	11.8	22.3	13.3	5.6	47.0	14.7	44.0	41.2	3.99
	福島県	(n=200)	2.0	15.9	35.4	10.9	19.6	10.4	5.9	53.2	17.9	46.3	35.8	4.15
	茨城県	(n=200)	1.6	12.9	34.4	15.8	19.4	10.7	5.3	48.9	14.5	50.1	35.4	4.08
	栃木県	(n=200)	4.6	8.6	33.8	13.5	18.2	14.7	6.6	47.0	13.2	47.3	39.5	3.98
	群馬県	(n=200)	5.1	11.6	31.0	17.7	18.5	13.1	3.1	47.6	16.6	48.7	34.7	4.15
	新潟県	(n=200)	3.2	12.0	39.8	13.0	20.6	8.2	3.2	55.0	15.2	52.7	32.0	4.27
	富山県	(n=200)	4.6	15.2	31.9	12.5	18.2	15.6	2.1	51.6	19.7	44.4	35.9	4.20
	石川県	(n=200)	4.7	14.1	36.8	12.2	17.3	12.7	2.1	55.7	18.9	49.0	32.1	4.30
	福井県	(n=200)	6.1	13.6	31.5	14.7	16.8	10.8	6.5	51.2	19.7	46.3	34.0	4.19
	山梨県	(n=200)	4.5	10.1	33.9	14.0	21.9	13.4	2.3	48.4	14.5	47.8	37.7	4.12
	長野県	(n=200)	5.2	18.6	37.4	11.6	16.2	9.5	1.6	61.2	23.7	49.0	27.3	4.50
	岐阜県	(n=200)	1.5	11.3	31.4	12.8	21.8	15.7	5.3	44.3	12.9	44.2	42.9	3.89
	静岡県	(n=200)	2.6	13.7	31.9	18.4	20.2	9.5	3.7	48.3	16.3	50.3	33.4	4.17
	愛知県	(n=200)	2.1	13.0	35.4	13.1	19.3	13.4	3.6	50.5	15.1	48.6	36.4	4.11
	三重県	(n=200)	2.0	14.0	33.8	13.0	15.7	18.2	3.3	49.8	16.0	46.8	37.3	4.06
	滋賀県	(n=200)	1.7	21.1	38.5	14.7	10.7	12.1	1.2	61.3	22.8	53.2	24.0	4.47
	京都府	(n=200)	2.1	28.8	33.9	13.1	14.3	5.8	2.1	64.8	30.9	47.0	22.1	4.66
	大阪府	(n=200)	4.1	22.4	27.9	15.8	22.6	5.6	1.6	54.4	26.5	43.7	29.8	4.46
	兵庫県	(n=200)	3.7	17.5	37.9	16.1	15.8	7.0	2.1	59.0	21.1	54.0	24.8	4.48
	奈良県	(n=200)	3.4	16.8	37.2	17.7	14.9	8.2	1.8	57.5	20.3	54.9	24.9	4.44
	和歌山県	(n=200)	1.5	10.8	32.6	8.1	26.3	15.2	5.5	44.9	12.3	40.7	47.0	3.86
	鳥取県	(n=200)	2.8	10.8	26.8	13.6	18.0	17.5	10.6	40.4	13.6	40.4	46.0	3.72
	島根県	(n=200)	—	11.8	44.4	16.5	16.2	7.5	3.6	56.2	11.8	61.0	27.2	4.26
	岡山県	(n=200)	2.4	15.1	32.0	15.2	20.7	12.6	2.1	49.5	17.5	47.1	35.3	4.17
	広島県	(n=200)	1.5	13.3	35.7	15.8	17.1	12.0	4.6	50.5	14.9	51.4	33.7	4.12
	山口県	(n=200)	1.1	14.6	34.1	16.8	18.4	11.7	3.3	49.9	15.7	50.9	33.4	4.15
	徳島県	(n=200)	3.0	11.8	34.7	10.4	22.5	11.3	6.2	49.6	14.8	45.1	40.1	4.04
	香川県	(n=200)	0.5	10.7	36.7	14.8	18.3	14.5	4.4	47.9	11.2	51.5	37.3	3.99
	愛媛県	(n=200)	4.2	17.5	32.8	9.5	20.4	12.1	3.6	54.4	21.6	42.3	36.1	4.25
	高知県	(n=200)	2.3	14.2	31.7	13.3	19.6	15.7	3.1	48.3	16.6	45.1	38.4	4.07
	福岡県	(n=200)	1.0	19.7	39.3	16.3	9.3	12.2	2.2	60.0	20.7	55.6	23.7	4.41
	佐賀県	(n=200)	1.1	18.1	32.3	16.3	16.4	8.6	7.2	51.5	19.2	48.7	32.1	4.17
	長崎県	(n=200)	1.3	16.9	31.6	15.2	20.4	12.0	2.6	49.7	18.1	46.8	35.0	4.17
	熊本県	(n=200)	2.8	16.2	38.0	15.3	18.3	6.6	2.8	56.9	18.9	53.3	27.8	4.39
	大分県	(n=200)	0.6	11.8	23.7	22.6	25.7	9.5	6.1	36.1	12.3	46.4	41.3	3.86
	宮崎県	(n=200)	2.4	13.3	34.2	13.6	19.5	12.3	4.7	49.9	15.7	47.8	36.5	4.10
	鹿児島県	(n=200)	2.2	11.1	38.1	13.0	19.0	12.3	4.3	51.4	13.3	51.1	35.6	4.10
	沖縄県	(n=200)	7.1	24.8	38.9	8.1	14.3	2.2	4.7	70.8	31.9	47.0	21.1	4.77

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者調査】Q1_2

5. 属性別・都道府県別 U ターン意向

☑ 出身者 ☐ 在住者

▶Uターン意向は、女性よりも男性、既婚層よりも未婚層が高い。

- ◉ その中で（全体値は低い）女性のUターン意向が高いのは高知県、福岡県など。
  - • 男性のUターン意向が女性を大きく上回るのは、佐賀県、長崎県、福井県、山口県など。
- ◉ また、（全体値は低い）既婚層のUターン意向が高いのは、徳島県、香川県の四国エリアの2県である。

■Uターン意向：（出身者調査）

	全体		男性・計		女性・計		既婚		未婚		男性・既婚		男性・未婚		女性・既婚		女性・未婚	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体		4.19		4.29		4.09		4.08		4.27		4.17		4.37		4.00		4.17
北海道	11	4.28	18	4.34	12	4.22	11	4.29	24	4.23	20	4.27	27	4.26	10	4.30	18	4.21
青森県	32	4.07	36	4.01	16	4.13	39	3.71	10	4.40	35	3.81	21	4.32	38	3.60	7	4.48
岩手県	17	4.19	13	4.48	35	3.90	29	3.93	15	4.36	8	4.41	12	4.58	41	3.45	21	4.13
宮城県	14	4.25	16	4.39	17	4.11	5	4.41	27	4.19	4	4.61	20	4.36	13	4.25	31	4.01
秋田県	34	4.06	32	4.14	29	3.98	40	3.69	26	4.21	41	3.55	16	4.45	27	3.85	32	4.00
山形県	37	3.99	33	4.12	36	3.86	24	4.05	38	3.98	17	4.32	39	4.00	29	3.82	34	3.96
福島県	23	4.15	22	4.29	25	4.01	35	3.82	16	4.34	14	4.34	23	4.31	42	3.39	10	4.38
茨城県	31	4.08	36	4.01	15	4.15	27	3.98	32	4.13	34	3.87	33	4.13	18	4.08	21	4.13
栃木県	39	3.98	39	3.93	24	4.03	40	3.69	31	4.15	38	3.62	38	4.03	33	3.75	13	4.29
群馬県	23	4.15	25	4.25	20	4.06	37	3.78	7	4.48	37	3.79	8	4.65	32	3.76	12	4.31
新潟県	12	4.27	11	4.50	23	4.04	20	4.10	12	4.39	29	4.07	5	4.78	17	4.13	30	4.02
富山県	16	4.20	19	4.33	19	4.07	11	4.29	30	4.17	21	4.24	19	4.42	8	4.33	38	3.87
石川県	10	4.30	11	4.50	18	4.10	19	4.11	8	4.43	3	4.65	18	4.43	36	3.63	9	4.43
福井県	17	4.19	5	4.59	39	3.80	22	4.07	20	4.27	2	4.66	10	4.61	34	3.66	36	3.89
山梨県	26	4.12	23	4.28	31	3.95	34	3.85	24	4.23	33	3.88	14	4.55	29	3.82	35	3.94
長野県	3	4.50	3	4.73	9	4.27	16	4.20	3	4.71	11	4.39	4	4.90	19	4.07	8	4.47
岐阜県	40	3.89	40	3.87	34	3.91	42	3.61	34	4.10	40	3.56	36	4.06	34	3.66	20	4.15
静岡県	19	4.17	35	4.09	11	4.25	30	3.89	14	4.37	35	3.81	27	4.26	22	3.95	6	4.50
愛知県	28	4.11	24	4.26	31	3.95	9	4.31	36	4.05	16	4.33	26	4.28	12	4.28	40	3.81
三重県	34	4.06	30	4.16	31	3.95	27	3.98	33	4.11	29	4.07	32	4.14	26	3.88	23	4.08
滋賀県	5	4.47	2	4.76	14	4.18	14	4.25	4	4.65	26	4.15	3	4.97	9	4.32	17	4.22
京都府	2	4.66	1	4.86	4	4.45	9	4.31	1	4.89	10	4.40	1	5.14	14	4.24	2	4.62
大阪府	6	4.46	15	4.42	3	4.51	8	4.37	6	4.52	13	4.37	17	4.44	6	4.38	3	4.60
兵庫県	4	4.48	9	4.51	5	4.44	3	4.42	5	4.56	11	4.39	9	4.62	4	4.46	5	4.51
奈良県	7	4.44	6	4.58	6	4.31	2	4.43	9	4.41	5	4.60	15	4.51	10	4.30	13	4.29
和歌山県	41	3.86	34	4.10	43	3.61	36	3.80	39	3.92	27	4.11	34	4.09	40	3.51	42	3.73
鳥取県	43	3.72	43	3.63	38	3.81	43	3.46	43	3.86	39	3.57	43	3.69	43	3.34	27	4.04
島根県	13	4.26	21	4.30	12	4.22	11	4.29	21	4.24	8	4.41	24	4.29	15	4.20	19	4.18
岡山県	19	4.17	17	4.35	28	4.00	20	4.10	28	4.18	19	4.30	21	4.32	23	3.94	27	4.04
広島県	26	4.12	28	4.19	21	4.05	25	4.00	21	4.24	25	4.17	29	4.25	28	3.84	16	4.24
山口県	23	4.15	14	4.45	37	3.85	32	3.86	18	4.32	22	4.21	13	4.56	39	3.58	29	4.03
徳島県	36	4.04	20	4.31	40	3.76	15	4.22	41	3.88	14	4.34	31	4.21	20	4.05	43	3.62
香川県	37	3.99	36	4.01	30	3.97	16	4.20	42	3.87	22	4.21	41	3.85	16	4.19	36	3.89
愛媛県	14	4.25	28	4.19	7	4.30	3	4.42	21	4.24	7	4.45	35	4.07	5	4.39	11	4.37
高知県	32	4.07	41	3.84	7	4.30	23	4.06	35	4.08	43	3.50	40	3.91	7	4.34	13	4.29
福岡県	8	4.41	26	4.23	2	4.60	7	4.38	10	4.40	28	4.08	29	4.25	2	4.60	4	4.57
佐賀県	19	4.17	6	4.58	40	3.76	30	3.89	13	4.38	32	3.97	2	5.02	31	3.80	41	3.80
長崎県	19	4.17	6	4.58	42	3.75	32	3.86	17	4.33	24	4.18	6	4.76	36	3.63	39	3.84
熊本県	9	4.39	9	4.51	10	4.26	5	4.41	18	4.32	17	4.32	11	4.60	3	4.50	25	4.05
大分県	41	3.86	42	3.71	25	4.01	38	3.75	39	3.92	42	3.51	42	3.79	24	3.93	25	4.05
宮崎県	29	4.10	31	4.15	21	4.05	26	3.99	28	4.18	29	4.07	24	4.29	25	3.91	23	4.08
鹿児島県	29	4.10	27	4.20	25	4.01	16	4.20	37	4.03	6	4.51	36	4.06	21	4.00	32	4.00
沖縄県	1	4.77	4	4.67	1	4.88	1	4.85	2	4.85	1	5.18	7	4.68	1	4.62	1	5.04

※各全体順位より5位以上高い■／5位以上低い■

② 関係意向

1. 関係意向率

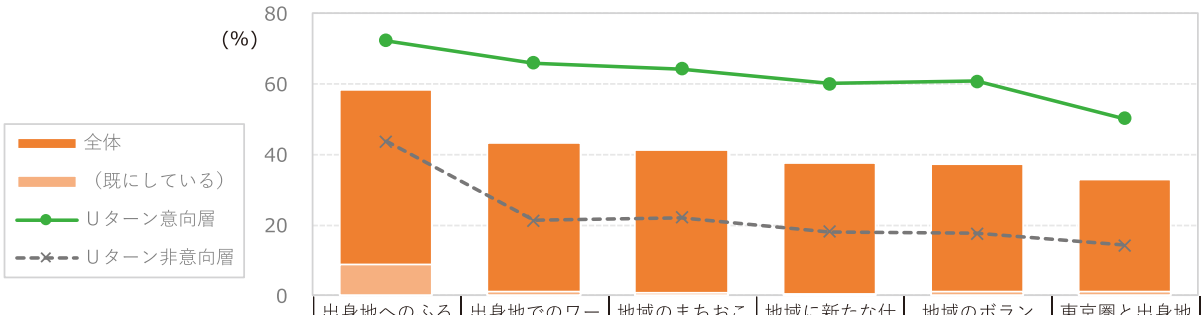
☑ 出身者　☐ 在住者

▶出身地への関係意向は、「出身地へのふるさと納税」が58%でトップ。

- いずれにしても、出身地への関与意向はすべての項目で3割を超えている。
- 性・年代別にみると、「地域に新たな仕事（産業）を創出するなどの活動への参加」で男性が女性を大きく上回る。一方、「出身地へのふるさと納税」の比率は女性が男性を上回っており、特に女性20代以下のスコアが高い。
- 性・未既婚別にみると、「出身地へのふるさと納税」は未既婚で差はみられないが、その他の項目はわずかずつながら未婚の方が高い。
- Uターン意向別にみると、いずれの項目もUターン意向層がUターン非意向層のスコアを大きく上回る。

■関係意向率：「既にしている／したい・計」一覧（出身者調査，全体／各単一回答）

あなたの出身地について、今後どのように関わっていきたいですか。以下にあげる項目について、どの程度あてはまるかをお答えください。



			出身地へのふるさと納税	出身地でのワーケーション	地域のまちおこしプロジェクトの企画・運営や協力・支援	地域に新たな仕事（産業）を創出するなどの活動への参加	地域のボランティアや共助活動への参加	東京圏と出身地の二拠点生活
全体		(n=8600)	58.4	43.4	41.3	37.7	37.3	32.9
（既にしている）			(8.7)	(1.0)	(0.9)	(0.6)	(1.3)	(1.0)
性・年代別	男性・計	(n=4300)	55.4	45.1	43.1	43.6	37.1	35.7
	男性２０代以下	(n=2150)	58.9	47.0	44.2	43.8	40.6	36.9
	男性３０代	(n=2150)	51.9	43.1	41.9	43.3	33.5	34.4
	女性・計	(n=4300)	61.4	41.7	39.5	31.9	37.5	30.2
	女性２０代以下	(n=2150)	63.8	44.2	41.6	32.8	40.5	31.7
	女性３０代	(n=2150)	58.9	39.2	37.4	31.0	34.5	28.7
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	59.6	42.8	40.9	37.2	35.3	31.3
	未婚・計	(n=4991)	59.4	45.0	42.6	39.0	39.4	34.7
	男性・既婚	(n=1500)	57.1	47.0	45.8	45.6	36.4	36.3
	男性・未婚	(n=2568)	56.1	45.4	42.8	43.6	38.3	36.2
	女性・既婚	(n=1682)	61.8	39.0	36.5	29.7	34.3	26.8
	女性・未婚	(n=2424)	62.8	44.6	42.3	34.0	40.5	33.1
Uターン意向別	Uターン意向層	(n=1530)	72.3	66.0	64.4	60.2	60.9	50.3
	必ず戻る予定がある	(n=252)	67.5	58.6	62.7	57.9	63.8	47.4
	いつかはぜひ戻りたいと思っている	(n=1279)	73.3	67.5	64.7	60.7	60.3	50.8
	態度保留層	(n=4145)	63.6	50.5	46.2	43.3	42.5	39.7
	戻ることも選択肢の一つとして考えている	(n=2943)	69.2	57.2	52.2	49.0	48.4	44.9
	どちらとも言えない	(n=1202)	50.0	34.2	31.5	29.1	28.1	27.1
	Uターン非意向層	(n=2925)	43.7	21.4	22.2	18.2	17.6	14.3
	あまり戻りたいとは思わない	(n=1585)	52.3	27.3	27.0	21.6	21.7	19.5
	全く戻りたいとは思わない	(n=976)	37.2	15.6	19.1	15.4	14.1	8.6
	絶対に戻らないと決めている	(n=364)	23.7	11.2	9.5	10.4	8.7	6.7

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※全体値の降順ソート　【出身者調査】Q1_2

2. 都道府県別関係意向率

☑出身者 □在住者

▶関係意向を示す各項目のスコアが全般に高いのは、北海道、東北エリア、北陸3県、九州エリアの各都道府県である。

▶関係意向を示す各項目のスコアが全般に低いのは、茨城県、栃木県などの北関東や、山梨県などの東京隣接の都道府県である。

■関係意向率：「既にしている／したい・計」一覧（出身者調査，全体／各単一回答）

	東京圏と出身地の二拠点生活		出身地でのワーケーション		出身地へのふるさと納税		地域に新たな仕事（産業）を創出するなどの活動への参加		地域のボランティアや共助活動への参加		地域のまちおこしプロジェクトの企画・運営や協力・支援	
	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%
全体値		32.9		43.4		58.4		37.7		37.3		41.3
北海道	4	39.2	5	50.0	3	68.8	11	40.5	29	34.6	20	42.4
青森県	26	32.5	27	41.9	20	59.6	14	39.8	12	40.5	18	43.2
岩手県	21	33.1	18	44.0	14	61.8	3	44.1	7	43.6	15	44.7
宮城県	12	35.8	13	45.5	19	60.6	15	39.7	11	42.4	10	46.3
秋田県	25	32.7	24	42.5	17	61.2	2	44.7	1	49.0	3	49.1
山形県	39	25.0	36	38.9	9	64.2	37	32.4	16	38.9	25	40.6
福島県	24	32.8	15	44.8	23	58.4	20	39.5	4	44.7	6	47.3
茨城県	23	32.9	43	27.8	39	48.5	43	27.3	43	24.2	43	27.4
栃木県	40	24.9	35	39.3	37	50.1	42	28.3	30	34.3	33	36.3
群馬県	35	27.8	32	40.7	35	53.9	32	33.8	27	34.9	29	39.0
新潟県	32	30.4	28	41.7	13	61.9	15	39.7	15	39.2	11	45.7
富山県	11	36.0	2	52.1	31	56.0	6	43.6	17	38.3	9	46.6
石川県	3	44.1	12	46.6	26	57.3	4	43.9	18	37.9	12	45.5
福井県	5	38.7	41	34.9	22	58.6	33	33.6	25	36.4	35	35.8
山梨県	43	22.6	42	32.3	40	47.3	40	28.8	40	30.1	42	30.3
長野県	16	34.6	9	48.0	10	63.3	10	40.8	13	40.4	7	47.0
岐阜県	30	31.0	37	37.9	24	58.2	36	32.7	27	34.9	38	34.5
静岡県	21	33.1	17	44.5	38	49.8	34	33.2	39	31.2	40	32.6
愛知県	8	36.4	39	36.5	43	39.7	41	28.5	41	28.2	41	31.2
三重県	13	35.5	10	47.8	11	63.2	22	39.3	18	37.9	22	41.9
滋賀県	17	34.3	7	49.3	32	55.7	17	39.6	26	36.1	17	43.8
京都府	2	44.7	3	51.3	42	41.5	17	39.6	37	32.7	35	35.8
大阪府	7	37.6	16	44.7	41	44.3	31	33.9	38	32.5	34	36.1
兵庫県	8	36.4	8	48.7	25	57.6	26	37.2	34	33.1	27	39.2
奈良県	6	38.6	14	45.1	28	57.1	27	36.9	24	36.6	30	38.9
和歌山県	34	28.2	32	40.7	20	59.6	17	39.6	8	43.0	2	49.9
鳥取県	40	24.9	40	35.2	1	72.1	39	30.8	42	25.8	32	36.8
島根県	31	30.9	34	39.9	30	56.4	7	43.5	5	43.9	12	45.5
岡山県	37	26.5	38	37.2	26	57.3	38	32.2	32	33.5	39	33.9
広島県	27	32.0	18	44.0	32	55.7	29	36.5	21	37.2	19	42.7
山口県	36	26.8	29	41.5	28	57.1	28	36.8	23	36.9	23	41.5
徳島県	29	31.7	26	42.0	36	51.0	23	39.1	32	33.5	15	44.7
香川県	42	23.7	30	40.9	34	54.2	12	39.9	34	33.1	26	40.5
愛媛県	20	33.4	23	43.4	16	61.7	9	42.1	3	44.9	4	48.3
高知県	15	34.7	22	43.5	14	61.8	30	35.9	8	43.0	14	44.8
福岡県	14	35.1	21	43.6	6	65.6	20	39.5	31	34.2	37	35.1
佐賀県	38	26.2	11	47.0	8	64.5	8	42.7	10	42.6	8	46.7
長崎県	33	29.2	31	40.8	18	60.7	35	33.1	34	33.1	28	39.1
熊本県	10	36.1	4	51.0	5	66.2	1	50.2	2	47.4	1	55.2
大分県	18	33.6	6	49.7	12	62.9	24	38.2	14	40.0	24	41.0
宮崎県	18	33.6	18	44.0	2	71.2	12	39.9	18	37.9	21	42.0
鹿児島県	28	31.9	24	42.5	4	68.0	25	37.6	21	37.2	31	38.6
沖縄県	1	47.2	1	61.9	7	65.5	4	43.9	6	43.7	5	47.6

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

3 離脱意向

1. 離脱意向率

□ 出身者　☑ 在住者

▶現居住都道府県からの離脱意向をみると、『出たい・計』は26%。

◉ 性・年代別にみると、男女ともに年代が低いほど『出たい・計』のスコアが高くなっている。
- 男性・30代も女性・30代も『出たい・計』は3割を超え、ほぼ同水準である。
- 40～50代、60代以上では、女性の『出たい・計』の比率が男性をわずかながら上回っている。

◉ 性・未既婚別にみると、男女とも未婚層で『出たい・計』が3割程度高い。
- 『出たくない・計』が最も高いのは女性・既婚層である。

■離脱意向率（在住者調査，全体／単一回答）

あなたはどの程度「今の都道府県から出たい（移住したい）」と思っていますか。※実際に移住するかどうかではなく、現在のお気持ちをお答えください。

(%)

			出たい・計				出たくない・計			出たい・計	出たくない・計
			ぜひ出たい（移住したい）	出たい（移住したい）	どちらかといえば出たい（移住したい）	どちらともいえない	あまり出たい（移住したい）とは思わない	出たい（移住したい）とは思わない	全然出たい（移住したい）とは思わない		
		●凡例									
全体		(n=18800)	7.6%	6.3	11.9	26.9	14.9	11.6	20.7	25.8	47.3
性・年代別	男性・計	(n=9400)	7.5	6.5	11.9	28.5	13.9	12.1	19.7	25.8	45.7
	男性・30代以下	(n=3760)	10.7	9.0	15.1	30.3	11.3	7.6	15.9	34.8	34.8
	男性・40～50代	(n=3760)	6.3	5.4	11.0	29.8	14.5	13.6	19.4	22.7	47.5
	男性・60代以上	(n=1880)	3.2	3.6	7.3	22.3	17.8	17.8	28.0	14.1	63.6
	女性・計	(n=9400)	7.8	6.1	11.9	25.4	16.0	11.2	21.6	25.7	48.9
	女性・30代以下	(n=3760)	10.8	8.0	13.7	25.8	13.8	8.5	19.6	32.4	41.8
	女性・40～50代	(n=3760)	7.1	5.5	12.0	26.8	16.4	11.3	20.8	24.6	48.5
	女性・60代以上	(n=1880)	3.3	3.3	8.1	21.7	19.7	16.5	27.4	14.7	63.6
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	6.1	5.3	10.6	25.0	16.6	13.8	22.7	22.0	53.1
	未婚・計	(n=7771)	9.6	7.5	13.4	29.2	13.6	9.4	17.3	30.5	40.3
	男性・既婚	(n=4808)	5.4	5.6	10.4	25.8	15.9	15.0	21.8	21.4	52.8
	男性・未婚	(n=4202)	9.8	7.6	13.2	31.2	12.4	9.4	16.4	30.6	38.2
	女性・既婚	(n=5538)	6.6	5.1	10.7	24.2	17.1	12.7	23.5	22.5	53.3
	女性・未婚	(n=3569)	9.4	7.4	13.6	26.9	15.0	9.4	18.2	30.4	42.7

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【在住者調査】Q8

2. 属性別・都道府県別離脱意向

□ 出身者 ☑ 在住者

▶離脱意向が最も高いのは山梨県。

- ◉ 青森県、茨城県、栃木県、徳島県までがトップ5。
- ◉ 全般に（宮城県を除く）東北エリア、および北関東エリア、埼玉県、千葉県の離脱意向の高さが目をひく。
- ◉ なお、女性・未婚の離脱意向が最も高いのは青森県。栃木県、茨城県が続く。

▶離脱意向が最も低いのは静岡県。

- ◉ 北海道、沖縄県、福岡県、宮城県などの離脱意向が低い。
- ◉ なお、女性・未婚の離脱意向が最も低いのは岡山県である。以下、福岡県、静岡県、群馬県、沖縄県と続く。

■離脱意向：（在住者調査）

	全体		男性・計		女性・計		男性・30代以下		男性・40～50代		男性・60代以上		女性・30代以下		女性・40～50代		女性・60代以上		既婚		未婚		男性・既婚		男性・未婚		女性・既婚		女性・未婚	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	%	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体		3.47		3.50		3.44		3.91		3.41		2.87		3.72		3.43		2.90		3.27		3.73		3.26		3.77		3.28		3.68
北海道	46	3.14	42	3.26	47	3.02	25	3.90	44	2.99	42	2.52	25	3.74	47	2.51	39	2.62	46	2.92	45	3.42	36	3.11	45	3.37	47	2.77	37	3.49
青森県	2	3.80	3	3.77	2	3.82	7	4.16	2	3.98	38	2.60	1	4.30	7	3.79	18	2.92	3	3.62	3	4.06	7	3.62	9	4.00	3	3.62	1	4.14
岩手県	19	3.53	26	3.48	15	3.58	24	3.91	17	3.50	38	2.60	8	3.99	27	3.38	8	3.17	20	3.28	11	3.89	26	3.24	17	3.88	21	3.32	12	3.91
宮城県	43	3.27	41	3.28	38	3.25	35	3.76	42	3.05	26	2.77	33	3.60	42	3.05	17	2.95	39	3.11	34	3.60	37	3.08	38	3.56	31	3.13	25	3.66
秋田県	6	3.65	16	3.60	4	3.70	29	3.86	5	3.81	34	2.65	10	3.92	3	3.92	27	2.80	7	3.50	13	3.86	11	3.40	18	3.86	5	3.59	13	3.88
山形県	6	3.65	9	3.67	10	3.62	7	4.16	13	3.54	16	2.95	6	4.04	14	3.66	35	2.70	11	3.39	6	4.03	13	3.38	6	4.08	16	3.40	9	3.95
福島県	22	3.50	7	3.70	35	3.30	12	4.12	7	3.66	18	2.92	37	3.51	19	3.54	45	2.40	24	3.26	16	3.79	10	3.43	13	3.95	32	3.12	27	3.60
茨城県	3	3.75	2	3.83	7	3.67	2	4.30	9	3.59	4	3.40	4	4.09	36	3.24	2	3.70	6	3.54	1	4.13	5	3.65	4	4.15	8	3.46	3	4.11
栃木県	4	3.70	15	3.61	3	3.79	30	3.84	21	3.49	4	3.40	20	3.80	4	3.88	3	3.62	2	3.74	23	3.72	1	3.79	41	3.48	2	3.70	2	4.13
群馬県	26	3.46	6	3.72	42	3.19	43	3.56	1	3.99	2	3.50	42	3.34	31	3.34	41	2.60	17	3.31	34	3.60	6	3.63	20	3.83	40	3.06	44	3.33
埼玉県	9	3.61	12	3.63	12	3.60	15	4.06	10	3.56	19	2.90	28	3.69	8	3.75	12	3.10	4	3.57	27	3.70	2	3.71	37	3.58	8	3.46	14	3.87
千葉県	9	3.61	18	3.58	9	3.64	13	4.09	42	3.05	1	3.62	7	4.01	17	3.59	16	3.00	5	3.56	32	3.63	8	3.51	36	3.59	4	3.61	24	3.67
東京都	22	3.50	9	3.67	32	3.33	1	4.35	28	3.34	16	2.95	9	3.98	38	3.17	46	2.33	10	3.43	41	3.50	3	3.67	35	3.60	28	3.21	42	3.40
神奈川県	30	3.41	30	3.45	28	3.37	37	3.73	32	3.29	9	3.23	22	3.75	34	3.29	31	2.75	38	3.13	29	3.67	31	3.23	34	3.65	41	3.05	20	3.70
新潟県	33	3.37	36	3.37	29	3.36	32	3.80	33	3.27	32	2.70	43	3.31	21	3.44	5	3.30	33	3.17	31	3.66	40	3.00	28	3.72	23	3.30	31	3.58
富山県	37	3.31	44	3.25	26	3.38	46	3.42	37	3.21	14	2.98	41	3.39	15	3.61	20	2.90	34	3.16	38	3.56	38	3.06	40	3.52	27	3.25	27	3.60
石川県	12	3.58	9	3.67	19	3.49	11	4.14	13	3.54	14	2.98	14	3.85	32	3.31	9	3.12	20	3.28	9	3.94	24	3.25	2	4.17	21	3.32	21	3.69
福井県	17	3.54	12	3.63	22	3.45	21	4.00	17	3.50	10	3.17	2	4.16	43	3.00	18	2.92	27	3.24	5	4.05	19	3.29	5	4.12	29	3.19	9	3.95
山梨県	1	3.89	1	3.88	1	3.90	3	4.19	6	3.80	3	3.42	17	3.83	2	4.00	1	3.88	1	3.78	7	4.01	3	3.67	7	4.03	1	3.88	8	3.99
長野県	31	3.40	28	3.46	30	3.35	41	3.62	23	3.46	11	3.10	44	3.30	18	3.55	13	3.05	23	3.27	36	3.59	22	3.28	32	3.68	25	3.26	37	3.49
岐阜県	12	3.58	21	3.56	12	3.60	18	4.04	28	3.34	13	3.02	22	3.75	5	3.81	25	2.88	20	3.28	7	4.01	34	3.20	16	3.94	19	3.36	4	4.10
静岡県	47	3.11	47	3.03	42	3.19	47	3.39	46	2.94	43	2.50	46	3.25	29	3.35	29	2.77	45	2.93	46	3.34	47	2.74	46	3.36	38	3.08	45	3.32
愛知県	35	3.33	32	3.42	38	3.25	39	3.65	12	3.55	33	2.67	36	3.54	38	3.17	26	2.83	28	3.21	36	3.59	17	3.32	31	3.69	32	3.12	39	3.46
三重県	39	3.30	35	3.38	40	3.22	31	3.83	34	3.26	29	2.73	34	3.59	40	3.11	35	2.70	43	3.01	22	3.73	35	3.12	24	3.77	45	2.92	22	3.68
滋賀県	8	3.63	4	3.73	17	3.53	15	4.06	3	3.86	23	2.83	17	3.83	21	3.44	9	3.12	14	3.36	3	4.06	19	3.29	1	4.34	12	3.42	19	3.72
京都府	22	3.50	39	3.31	5	3.69	42	3.58	31	3.33	29	2.73	13	3.86	5	3.81	9	3.12	18	3.30	21	3.75	32	3.22	42	3.47	17	3.39	5	4.02
大阪府	29	3.44	18	3.58	36	3.29	3	4.19	26	3.38	27	2.75	31	3.67	37	3.21	35	2.70	37	3.15	18	3.77	26	3.24	12	3.97	39	3.07	32	3.56
兵庫県	42	3.28	40	3.29	37	3.27	28	3.88	45	2.95	24	2.80	5	4.08	46	2.77	39	2.62	41	3.04	38	3.56	42	2.95	33	3.67	32	3.12	40	3.44
奈良県	27	3.45	28	3.46	23	3.44	22	3.96	35	3.24	19	2.90	32	3.64	34	3.29	4	3.35	25	3.25	29	3.67	33	3.21	22	3.78	24	3.27	32	3.56
和歌山県	20	3.52	12	3.63	25	3.40	3	4.19	8	3.61	40	2.55	39	3.45	23	3.41	6	3.27	25	3.25	11	3.89	16	3.34	10	3.99	30	3.16	16	3.79
鳥取県	34	3.36	33	3.41	33	3.31	34	3.77	24	3.44	36	2.62	26	3.73	29	3.35	44	2.42	29	3.20	42	3.49	17	3.32	43	3.45	37	3.09	35	3.54
島根県	37	3.31	46	3.10	18	3.52	44	3.54	47	2.85	29	2.73	47	3.19	1	4.01	7	3.23	34	3.16	40	3.55	46	2.85	44	3.39	12	3.42	17	3.77
岡山県	40	3.29	42	3.26	33	3.31	40	3.64	28	3.34	45	2.35	37	3.51	27	3.38	27	2.80	34	3.16	43	3.48	45	2.87	29	3.70	12	3.42	47	3.20
広島県	35	3.33	25	3.49	45	3.17	27	3.89	10	3.56	40	2.55	14	3.85	44	2.83	43	2.48	40	3.08	28	3.68	26	3.24	19	3.84	44	2.95	36	3.51
山口県	17	3.54	27	3.47	12	3.60	22	3.96	41	3.08	7	3.27	14	3.85	13	3.71	20	2.90	16	3.35	14	3.85	24	3.25	26	3.73	10	3.44	6	4.00
徳島県	5	3.69	8	3.69	5	3.69	6	4.17	15	3.52	12	3.05	3	4.10	8	3.75	34	2.73	11	3.39	2	4.09	15	3.35	2	4.17	10	3.44	6	4.00
香川県	40	3.29	36	3.37	40	3.22	36	3.74	17	3.50	45	2.35	45	3.27	25	3.40	31	2.75	44	3.00	24	3.71	43	2.94	7	4.03	41	3.05	41	3.43
愛媛県	32	3.38	33	3.41	31	3.34	19	4.01	39	3.14	27	2.75	40	3.42	23	3.41	14	3.02	32	3.18	33	3.61	26	3.24	39	3.55	32	3.12	22	3.68
高知県	20	3.52	16	3.60	24	3.43	7	4.16	36	3.23	8	3.25	17	3.83	33	3.30	20	2.90	29	3.20	10	3.90	22	3.28	10	3.99	32	3.12	15	3.81
福岡県	44	3.19	38	3.33	46	3.04	38	3.67	17	3.50	47	2.33	22	3.75	45	2.80	47	2.10	47	2.89	44	3.47	44	2.92	29	3.70	46	2.85	46	3.23
佐賀県	14	3.57	20	3.57	16	3.57	10	4.15	26	3.38	24	2.80	26	3.73	8	3.75	20	2.90	9	3.45	24	3.71	13	3.38	21	3.82	7	3.52	29	3.59
長崎県	16	3.56	4	3.73	26	3.38	15	4.06	4	3.84	22	2.85	28	3.69	26	3.39	31	2.75	13	3.37	19	3.76	9	3.50	13	3.95	25	3.26	34	3.55
熊本県	9	3.61	21	3.56	8	3.66	19	4.01	38	3.19	4	3.40	11	3.90	11	3.74	14	3.02	8	3.47	24	3.71	12	3.39	24	3.77	6	3.55	26	3.64
大分県	22	3.50	24	3.50	19	3.49	32	3.80	16	3.51	19	2.90	20	3.80	16	3.60	38	2.65	19	3.29	19	3.76	26	3.24	22	3.78	20	3.34	18	3.73
宮崎県	27	3.45	31	3.44	21	3.46	25	3.90	21	3.49	44	2.45	28	3.69	20	3.50	20	2.90	31	3.19	16	3.79	41	2.97	13	3.95	18	3.38	29	3.59
鹿児島県	14	3.57	23	3.53	11	3.61	14	4.08	24	3.44	36	2.62	11	3.90	11	3.74	29	2.77	14	3.36	15	3.82	19	3.29	26	3.73	12	3.42	11	3.92
沖縄県	45	3.18	45	3.17	42	3.19	45	3.51	40	3.10	34	2.65	35	3.58	40	3.11	42	2.58	42	3.03	47	3.31	39	3.03	47	3.26	43	3.03	43	3.35

※各全体順位より5位以上高い■／5位以上低い■

4 Uターン意向／関係意向／離脱意向の相関

1. Uターン意向／関係意向／離脱意向の相関係数

☑出身者　☑在住者

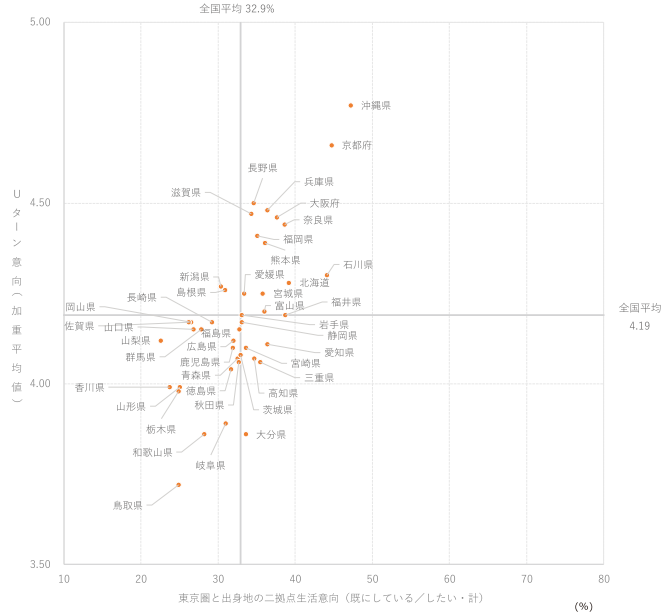
▶関係意向を示す関係意向関連項目のうち、Uターン意向と相関が高いのは、「東京圏と出身地の二拠点生活」と「出身地でのワーケーション」。

- ともに相関係数が0.6を超えている。
- 身体の移動を伴わない「ふるさと納税」については、Uターン意向とは弱い逆相関を示している。端的に、「Uターン意向があるからといってふるさと納税をしたいわけではない（両者は無関係）」という関係である。

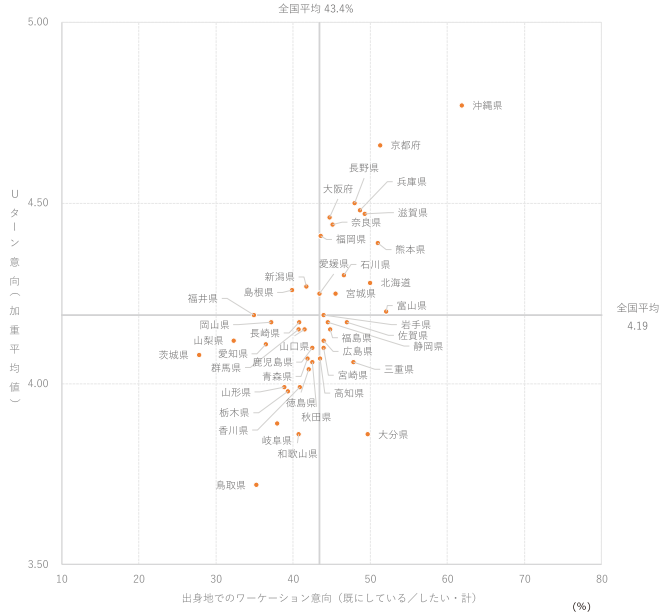
▶Uターン意向と離脱意向は逆相関。

- つまり「Uターン意向が高い地域は離脱意向も低い」という関係にある。
  - 地元を離れて1都3県に移った人、地元に残った人双方を惹きつける「都道府県の吸引力」を想定した方がよさそうである。

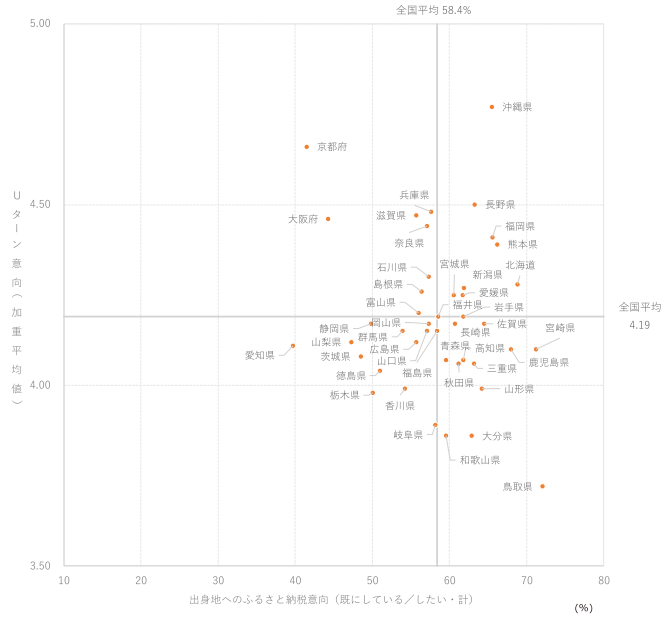
■東京圏と出身地の二拠点生活意向×Uターン意向（出身者調査）



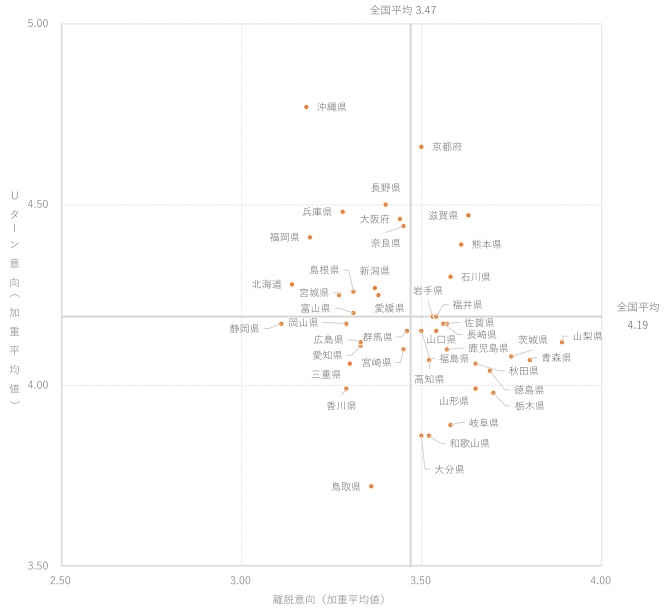
■出身地でのワーケーション意向×Uターン意向（出身者調査）



■出身地へのふるさと納税意向×Uターン意向（出身者調査）



■離脱意向×Uターン意向（出身者調査）



☑出身者 ☑在住者

	【出身者調査】Uターン意向（加重平均値）		【出身者調査】関係意向												【在住者調査】離脱意向（加重平均値）	
			東京圏と出身地の二拠点生活		出身地でのワーケーション		出身地へのふるさと納税		地域に新たな仕事（産業）を創出するなどの活動への参加		地域のボランティアや共助活動への参加		地域のまちおこしプロジェクトの企画・運営や協力・支援			
	順位	加重平均値	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	加重平均値
全体値		4.19		32.9		43.4		58.4		37.7		37.3		41.3		3.47
北海道	11	4.28	4	39.2	5	50.0	3	68.8	11	40.5	29	34.6	20	42.4	42	3.14
青森県	32	4.07	26	32.5	27	41.9	20	59.6	14	39.8	12	40.5	18	43.2	2	3.80
岩手県	17	4.19	21	33.1	18	44.0	14	61.8	3	44.1	7	43.6	15	44.7	17	3.53
宮城県	14	4.25	12	35.8	13	45.5	19	60.6	15	39.7	11	42.4	10	46.3	39	3.27
秋田県	34	4.06	25	32.7	24	42.5	17	61.2	2	44.7	1	49.0	3	49.1	6	3.65
山形県	37	3.99	39	25.0	36	38.9	9	64.2	37	32.4	16	38.9	25	40.6	6	3.65
福島県	23	4.15	24	32.8	15	44.8	23	58.4	20	39.5	4	44.7	6	47.3	20	3.50
茨城県	31	4.08	23	32.9	43	27.8	39	48.5	43	27.3	43	24.2	43	27.4	3	3.75
栃木県	39	3.98	40	24.9	35	39.3	37	50.1	42	28.3	30	34.3	33	36.3	4	3.70
群馬県	23	4.15	35	27.8	32	40.7	35	53.9	32	33.8	27	34.9	29	39.0	23	3.46
新潟県	12	4.27	32	30.4	28	41.7	13	61.9	15	39.7	15	39.2	11	45.7	29	3.37
富山県	16	4.20	11	36.0	2	52.1	31	56.0	6	43.6	17	38.3	9	46.6	33	3.31
石川県	10	4.30	3	44.1	12	46.6	26	57.3	4	43.9	18	37.9	12	45.5	10	3.58
福井県	17	4.19	5	38.7	41	34.9	22	58.6	33	33.6	25	36.4	35	35.8	15	3.54
山梨県	26	4.12	43	22.6	42	32.3	40	47.3	40	28.8	40	30.1	42	30.3	1	3.89
長野県	3	4.50	16	34.6	9	48.0	10	63.3	10	40.8	13	40.4	7	47.0	27	3.40
岐阜県	40	3.89	30	31.0	37	37.9	24	58.2	36	32.7	27	34.9	38	34.5	10	3.58
静岡県	19	4.17	21	33.1	17	44.5	38	49.8	34	33.2	39	31.2	40	32.6	43	3.11
愛知県	28	4.11	8	36.4	39	36.5	43	39.7	41	28.5	41	28.2	41	31.2	31	3.33
三重県	34	4.06	13	35.5	10	47.8	11	63.2	22	39.3	18	37.9	22	41.9	35	3.30
滋賀県	5	4.47	17	34.3	7	49.3	32	55.7	17	39.6	26	36.1	17	43.8	8	3.63
京都府	2	4.66	2	44.7	3	51.3	42	41.5	17	39.6	37	32.7	35	35.8	20	3.50
大阪府	6	4.46	7	37.6	16	44.7	41	44.3	31	33.9	38	32.5	34	36.1	26	3.44
兵庫県	4	4.48	8	36.4	8	48.7	25	57.6	26	37.2	34	33.1	27	39.2	38	3.28
奈良県	7	4.44	6	38.6	14	45.1	28	57.1	27	36.9	24	36.6	30	38.9	24	3.45
和歌山県	41	3.86	34	28.2	32	40.7	20	59.6	17	39.6	8	43.0	2	49.9	18	3.52
鳥取県	43	3.72	40	24.9	40	35.2	1	72.1	39	30.8	42	25.8	32	36.8	30	3.36
島根県	13	4.26	31	30.9	34	39.9	30	56.4	7	43.5	5	43.9	12	45.5	33	3.31
岡山県	19	4.17	37	26.5	38	37.2	26	57.3	38	32.2	32	33.5	39	33.9	36	3.29
広島県	26	4.12	27	32.0	18	44.0	32	55.7	29	36.5	21	37.2	19	42.7	31	3.33
山口県	23	4.15	36	26.8	29	41.5	28	57.1	28	36.8	23	36.9	23	41.5	15	3.54
徳島県	36	4.04	29	31.7	26	42.0	36	51.0	23	39.1	32	33.5	15	44.7	5	3.69
香川県	37	3.99	42	23.7	30	40.9	34	54.2	12	39.9	34	33.1	26	40.5	36	3.29
愛媛県	14	4.25	20	33.4	23	43.4	16	61.7	9	42.1	3	44.9	4	48.3	28	3.38
高知県	32	4.07	15	34.7	22	43.5	14	61.8	30	35.9	8	43.0	14	44.8	18	3.52
福岡県	8	4.41	14	35.1	21	43.6	6	65.6	20	39.5	31	34.2	37	35.1	40	3.19
佐賀県	19	4.17	38	26.2	11	47.0	8	64.5	8	42.7	10	42.6	8	46.7	12	3.57
長崎県	19	4.17	33	29.2	31	40.8	18	60.7	35	33.1	34	33.1	28	39.1	14	3.56
熊本県	9	4.39	10	36.1	4	51.0	5	66.2	1	50.2	2	47.4	1	55.2	9	3.61
大分県	41	3.86	18	33.6	6	49.7	12	62.9	24	38.2	14	40.0	24	41.0	20	3.50
宮崎県	29	4.10	18	33.6	18	44.0	2	71.2	12	39.9	18	37.9	21	42.0	24	3.45
鹿児島県	29	4.10	28	31.9	24	42.5	4	68.0	25	37.6	21	37.2	31	38.6	12	3.57
沖縄県	1	4.77	1	47.2	1	61.9	7	65.5	4	43.9	6	43.7	5	47.6	41	3.18
Uターン意向との**相関係数**			0.683		0.609		-0.131		0.386		0.145		0.155		-0.295	

※各全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

Ⅱ 寛容性指標

寛容性を測定・指標化するにあたり、【女性の生き方】【家族のあり方】【若者信頼】【少数派包摂】【個人主義】【変化の受容】の6つのジャンルを設定し、各々それらの多様性を後押しする考え方や行動（「リベラル」）を4項目、共同性を後押しする考え方や行動（「保守」）を4項目作成した。在住者調査における調査項目は、したがって8項目×6分野=48項目である。
※なお「リベラル」「保守」は正確な定義ではなく、便宜上用いたものである。

1. ジャンル別寛容性指標【女性の生き方】

☐ 出身者　☑ 在住者

▶『保守』項目のスコアが『リベラル』関連項目よりも高い。

◉「結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い」（54%）、「女性は家庭や子育てを最優先するべきだと考える人が多い」（51%）が5割を超える。

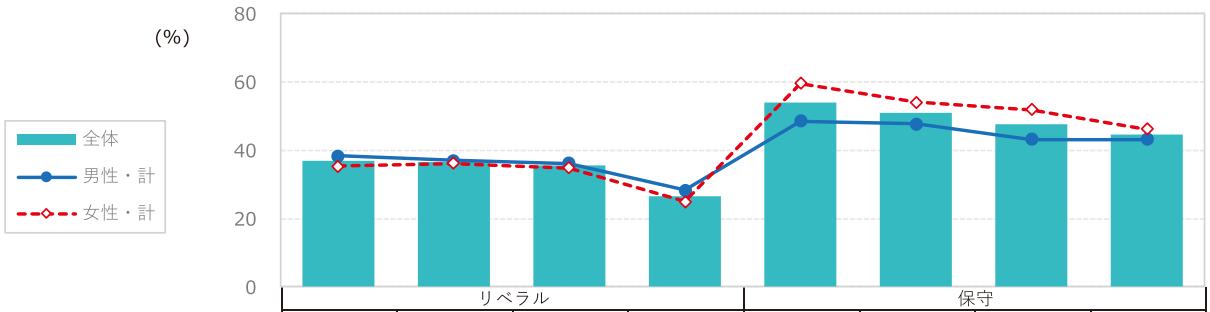
◉ 性・年代別にみると、男性・30代以下の『リベラル』関連項目のスコアが相対的に高い。
- つまり男性若年層では、自分の居住地では社会進出や個性を発揮する女性が多い（あるいは支援する雰囲気がある）と考える人が多い。

◉ 一方『保守』項目は、いずれの年代も女性が男性のスコアを上回り、特に女性・60代以上のスコアが高い。
- つまり女性は、「自分の周囲には女性が結婚・出産するのが当然だと考える人が多い」ととらえている人が多いことになる。

◉ 性・未既婚別にみると、『保守』関連項目では、既婚層が未婚層のスコアを上回る。特に「結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い」「女性は家庭や子育てを最優先するべきだと考える人が多い」でスコアの差が大きい。

■ジャンル別寛容性指標【女性の生き方】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			女性の頑張りを積極的に応援する社会の空気がある	自分の意見や考えを堂々と主張する女性が多い	古い考え方に縛られないで自由に生きている女性が多い	政治や経済の場面で活躍している女性が多い	結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い	女性は家庭や子育てを最優先するべきだと考える人が多い	この地域では女性向けの求人は補助的な仕事ばかりだ	出世したり責任ある立場に就くことを望まない女性が多い
全体		(n=18800)	36.9	36.7	35.6	26.7	54.1	51.0	47.6	44.7
性・年代別	男性・計	(n=9400)	38.4	37.1	36.3	28.3	48.6	47.8	43.3	43.2
	男性・30代以下	(n=3760)	42.5	43.0	41.0	34.7	45.8	45.8	40.7	42.8
	男性・40～50代	(n=3760)	36.4	34.3	32.4	25.5	47.4	46.9	42.7	41.5
	男性・60代以上	(n=1880)	34.3	31.3	34.6	21.1	56.6	53.6	49.8	47.3
	女性・計	(n=9400)	35.4	36.2	34.9	25.0	59.7	54.2	51.9	46.2
	女性・30代以下	(n=3760)	39.1	40.7	38.9	29.9	57.7	53.8	47.0	44.4
	女性・40～50代	(n=3760)	31.9	33.6	30.6	21.8	59.8	53.2	53.4	46.0
	女性・60代以上	(n=1880)	35.1	32.5	35.5	21.7	63.2	57.0	58.6	50.4
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	38.4	37.3	36.1	26.7	57.2	53.1	49.7	46.6
	未婚・計	(n=7771)	35.9	36.6	35.5	26.9	51.9	49.7	46.0	43.5
	男性・既婚	(n=4808)	40.1	37.8	37.1	28.7	52.3	50.2	46.0	46.2
	男性・未婚	(n=4202)	37.6	37.3	36.2	28.2	46.3	46.8	41.4	41.2
	女性・既婚	(n=5538)	36.9	36.8	35.2	24.9	61.4	55.6	52.9	47.0
	女性・未婚	(n=3569)	33.9	35.9	34.7	25.3	58.5	53.3	51.3	46.3

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_1

2. ジャンル別寛容性指標【家族のあり方】

☐ 出身者　☑ 在住者

▶総じて『保守』項目のスコアが高い。

◉ 家族のあり方に関する項目については、おおむね『保守』項目のスコアが高い。

◉ 「血縁者、親戚関係には何かと気を使わなければいけない」がトップだが、「年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い」「子が年老いた親の面倒をみるのが当たり前という考え方をする人が多い」も6割程度である。

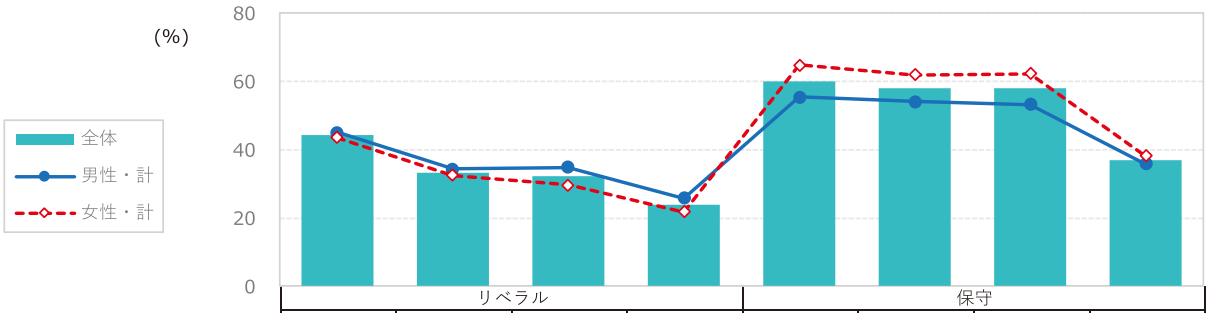
◉ 性・年代別にみると、男性・30代以下では『リベラル』関連項目の比率が相対的に高く、女性の40代以上の層の『保守』関連項目の比率が高いことがわかる。

- 『保守』関連項目では、いずれの年代も女性が男性のスコアを上回っている。つまり、男性よりも女性の方が、より「自分の周囲には家族について保守的な考え方をする人が多いと思っている」ということである。

◉ 性・未既婚別にみると、女性・既婚層の『保守』関連項目の比率の高さが目立つ。

■ジャンル別寛容性指標【家族のあり方】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			結婚しないで独身で生きても肩身の狭い思いをすることはない	家事や育児に積極的な男性が多い	子どもの人生にあまり干渉しない親が多い	選択的夫婦別姓に賛成する人が多い	血縁者、親戚関係には何かと気を使わなければいけない	年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い	子が年老いた親の面倒をみるのが当たり前という考え方をする人が多い	結婚した夫婦は男の子を産むことを期待される
全体		(n=18800)	44.3	33.4	32.3	23.9	60.1	58.1	57.9	37.0
性・年代別	男性・計	(n=9400)	45.1	34.3	34.9	25.9	55.5	54.1	53.3	35.9
	男性・30代以下	(n=3760)	46.3	40.3	37.5	32.9	51.6	50.6	50.0	35.0
	男性・40～50代	(n=3760)	42.6	32.1	31.8	22.7	56.0	54.5	54.0	34.7
	男性・60代以上	(n=1880)	47.6	26.3	35.5	18.4	62.3	60.5	58.2	40.1
	女性・計	(n=9400)	43.5	32.5	29.7	21.9	64.8	62.0	62.4	38.2
	女性・30代以下	(n=3760)	42.7	36.5	31.2	27.3	61.2	60.0	59.4	34.1
	女性・40～50代	(n=3760)	40.9	29.7	26.8	18.3	66.3	62.5	64.4	40.3
	女性・60代以上	(n=1880)	50.4	30.4	32.2	18.3	68.9	65.2	64.5	42.2
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	46.0	35.6	32.8	23.2	63.0	61.0	59.7	39.6
	未婚・計	(n=7771)	43.5	31.2	32.0	24.9	58.2	56.3	57.4	34.4
	男性・既婚	(n=4808)	47.3	36.7	36.1	25.2	58.9	58.2	55.4	39.1
	男性・未婚	(n=4202)	44.2	32.3	34.3	27.1	53.7	51.8	52.8	33.1
	女性・既婚	(n=5538)	44.8	34.6	30.0	21.5	66.5	63.4	63.4	40.0
	女性・未婚	(n=3569)	42.6	30.0	29.3	22.3	63.6	61.7	62.8	36.0

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_2

3. ジャンル別寛容性指標【若者信頼】

□ 出身者　☑ 在住者

▶若者信頼に関しても『保守』関連項目のスコアが高い。

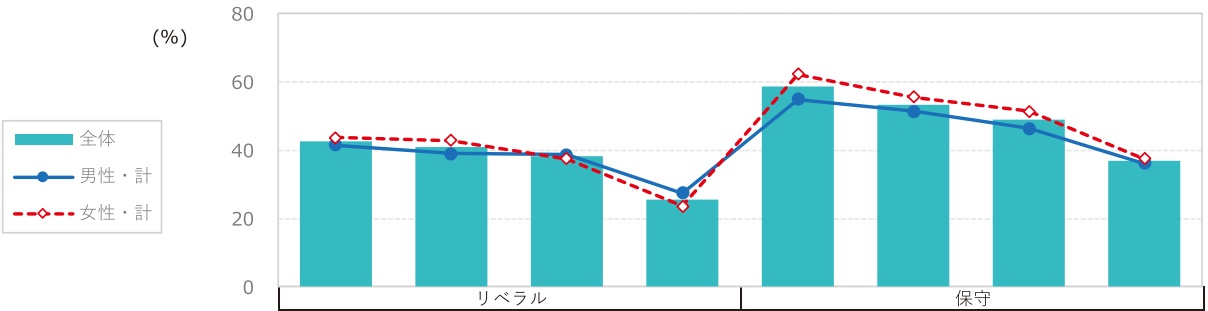
◉「年功序列を当然のことだと考える企業・団体が多い」、「先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い」が５割を超える。
- 「地域の将来を担う力として若者が信頼されている」や「若者の挑戦を応援する気風がある」も４割を超えており低くはない。若者に期待はしているが、上下関係は厳しく問われるという認識が中心だといえよう。

◉ 性・年代別にみると、『保守』関連項目はすべて女性の方が男性よりも高い。
- 「年功序列を当然のことだと考える企業・団体が多い」や「先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い」の比率は年代が高くなるほど高く、「なにかにつけ若者が批判のまとになる」のスコアが年代が若年層ほど高い。
- 『リベラル』項目では、女性・60代以上の層の「地域の将来を担う力として若者が信頼されている」「若者の挑戦を応援する気風がある」のスコアが他の層に比べて高い。

◉ 性・未既婚別にみると、既婚層の『リベラル』関連項目の比率が未婚層のスコアを上回っている。
- 特に「地域の将来を担う力として若者が信頼されている」「若者の挑戦を応援する気風がある」で差が大きい。

■ジャンル別寛容性指標【若者信頼】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			地域の将来を担う力として若者が信頼されている	若者の挑戦を応援する気風がある	若者の生意気や失敗は大目に見る風潮がある	政治や経済の場面で活躍している若者が多い地域である	年功序列を当然のことだと考える企業・団体が多い	先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い	若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある	なにかにつけ若者が批判のまとになる
全体		(n=18800)	42.7	41.0	38.2	25.5	58.6	53.5	49.0	36.9
性・年代別	男性・計	(n=9400)	41.6	39.0	38.8	27.5	54.9	51.4	46.4	36.3
	男性・30代以下	(n=3760)	41.7	41.3	41.0	33.2	53.3	50.0	47.7	41.5
	男性・40～50代	(n=3760)	39.9	35.9	36.6	24.6	54.2	51.1	46.3	34.0
	男性・60代以上	(n=1880)	44.9	40.5	38.8	22.0	59.4	54.8	44.1	30.5
	女性・計	(n=9400)	43.7	42.9	37.6	23.6	62.3	55.6	51.5	37.5
	女性・30代以下	(n=3760)	42.4	43.4	38.2	27.5	58.8	53.8	54.8	44.1
	女性・40～50代	(n=3760)	40.8	40.7	35.4	20.9	62.8	55.9	50.9	34.5
	女性・60代以上	(n=1880)	52.2	46.6	41.1	21.0	68.1	58.6	46.1	30.4
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	45.6	43.3	40.3	26.2	60.8	55.2	50.3	36.1
	未婚・計	(n=7771)	39.9	38.7	36.6	24.7	57.8	52.7	48.8	38.6
	男性・既婚	(n=4808)	44.8	41.7	41.8	28.4	57.0	53.7	48.0	35.9
	男性・未婚	(n=4202)	39.3	36.6	36.6	26.7	54.7	50.6	46.4	37.6
	女性・既婚	(n=5538)	46.3	44.7	38.9	24.2	64.0	56.6	52.4	36.3
	女性・未婚	(n=3569)	40.7	41.2	36.5	22.2	61.5	55.1	51.6	39.8

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_3

4. ジャンル別寛容性指標【少数派包摂】

□ 出身者 ☑ 在住者

▶『保守』関連項目の比率が高めだが、『リベラル』関連項目も一定の水準。

◉「同性愛者など性的少数派は生きづらい地域だ」、「生活保護を受けるのは恥ずかしいと思う人が多い」が5割を超える一方、「ひとり親の子どもでも肩身の狭い思いをすることはない」や「国籍や人種に関係なく外国人も地域住民の一員として受け入れられている」も5割近くの回答率。

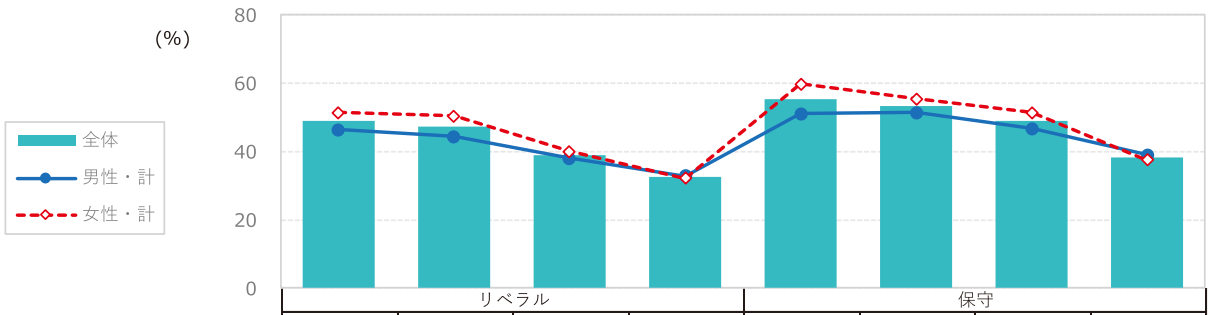
◉ 性・年代別にみると、まずほとんどの項目で女性層の比率が男性層を上回る。その中で、『保守』関連項目は男女ともに年代が高くなるほどスコアが高くなっている。

- 『リベラル』関連項目の「ひとり親の子どもでも肩身の狭い思いをすることはない」「国籍や人種に関係なく外国人も地域住民の一員として受け入れられている」では、女性が男性を上回る。

◉ 性・未既婚別にみると、すべての項目で既婚層が未婚層のスコアを上回っている。

■ジャンル別寛容性指標【少数派包摂】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			ひとり親の子どもでも肩身の狭い思いをすることはない	国籍や人種に関係なく外国人も地域住民の一員として受け入れられている	まちづくりや公共空間でのバリアフリー化が進んでいる	人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い	同性愛者など性的少数派は生きづらい地域だ	生活保護を受けるのは恥ずかしいと思う人が多い	相手の出身地や家柄を気にする人が多い	外国人労働者や留学生に対して悪いイメージを持つ人が多い
全体		(n=18800)	49.0	47.4	39.0	32.5	55.5	53.4	49.0	38.3
性・年代別	男性・計	(n=9400)	46.5	44.5	38.0	32.9	51.1	51.4	46.7	39.1
	男性・30代以下	(n=3760)	46.3	46.7	42.2	37.3	47.2	47.2	45.2	37.0
	男性・40～50代	(n=3760)	45.0	41.3	35.4	29.7	51.2	52.2	46.3	40.7
	男性・60代以上	(n=1880)	50.0	46.3	34.9	30.3	58.7	58.1	50.6	40.0
	女性・計	(n=9400)	51.5	50.4	40.0	32.2	59.8	55.5	51.4	37.5
	女性・30代以下	(n=3760)	49.7	51.2	42.8	35.6	56.7	51.6	47.0	36.3
	女性・40～50代	(n=3760)	51.1	48.7	37.6	28.6	61.1	56.4	53.8	38.0
	女性・60代以上	(n=1880)	55.7	52.3	39.3	32.5	63.4	61.4	55.2	38.8
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	51.7	49.0	40.1	32.8	58.2	55.7	51.2	39.5
	未婚・計	(n=7771)	47.0	46.9	38.6	32.6	53.8	52.1	47.6	37.2
	男性・既婚	(n=4808)	50.0	46.3	38.6	33.7	54.2	53.7	49.6	40.9
	男性・未婚	(n=4202)	44.4	43.8	38.3	32.7	49.6	50.7	45.1	37.7
	女性・既婚	(n=5538)	53.3	51.3	41.3	32.1	61.6	57.5	52.5	38.2
	女性・未婚	(n=3569)	50.0	50.6	39.0	32.5	58.7	53.7	50.6	36.6

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_4

5. ジャンル別寛容性指標【個人主義】

□ 出身者　☑ 在住者

▶「世間体を大事にして生きる人が多い」「他人の噂話が好きな人が多い」をはじめ、『保守』関連項目のスコアがいずれも6割を超えている。

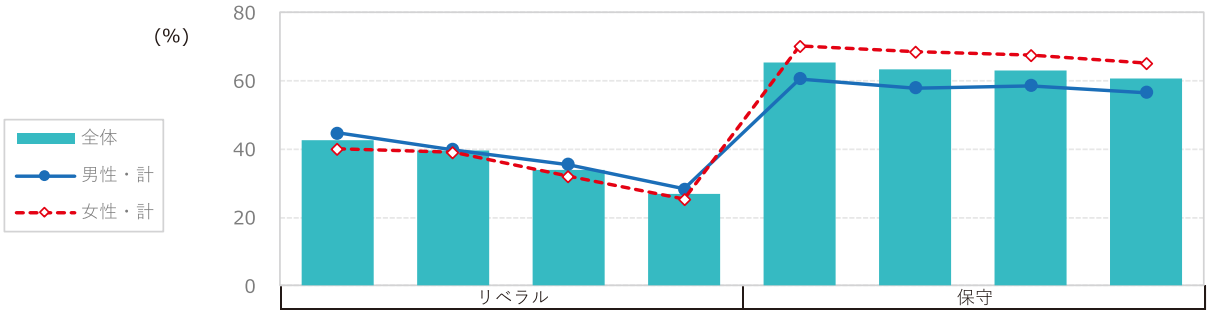
◉『リベラル』関連項目では「他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある」「一人一人の個性や価値観はなにより尊重される」が4割前後である。

◉ 性・年代別にみると、男性の50代以下の層の『保守』関連項目の比率が低いのに対して、女性の40代以上の層では高くなっていることが特徴である。
- 特に女性・60代以上では「世間体を大事にして生きる人が多い」「場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（うとまれる）」が7割を超えている。

◉ 性・未既婚別にみると、（性・年代別と同様）男性・未婚の『保守』関連項目の比率が低いのに対して、女性・既婚の同比率が高い。

■ジャンル別寛容性指標【個人主義】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある	一人一人の個性や価値観はなにより尊重される	他人の目を気にせず我が道を行く人が多い	個性的なファッションを楽しむ人が多い	世間体を大事にして生きる人が多い	他人の噂話が好きな人が多い	普通であること、みんなと同じであることを求める人が多い	場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（うとまれる）
全体		(n=18800)	42.5	39.5	33.8	26.9	65.5	63.3	63.1	60.9
性・年代別	男性・計	(n=9400)	44.8	39.9	35.6	28.4	60.7	58.0	58.7	56.7
	男性・30代以下	(n=3760)	46.3	43.0	40.3	34.1	56.5	56.9	54.8	53.7
	男性・40～50代	(n=3760)	41.6	36.4	32.4	25.9	60.4	57.9	58.5	56.1
	男性・60代以上	(n=1880)	48.1	40.9	32.8	22.3	69.6	60.4	67.0	64.0
	女性・計	(n=9400)	40.1	39.1	32.0	25.3	70.2	68.5	67.5	65.2
	女性・30代以下	(n=3760)	41.5	42.5	36.1	31.0	66.4	67.5	63.1	60.2
	女性・40～50代	(n=3760)	36.4	35.2	29.0	22.0	71.2	70.1	69.2	66.5
	女性・60代以上	(n=1880)	44.8	40.1	29.8	20.5	75.7	67.6	72.9	72.2
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	43.0	40.8	33.8	26.8	68.5	65.2	65.7	63.2
	未婚・計	(n=7771)	42.9	39.0	34.5	27.2	63.8	62.9	61.9	60.1
	男性・既婚	(n=4808)	45.2	41.9	36.5	29.2	64.3	60.4	61.7	59.3
	男性・未婚	(n=4202)	45.5	39.1	35.5	27.7	59.2	57.7	57.6	55.9
	女性・既婚	(n=5538)	41.1	39.8	31.5	24.6	72.1	69.4	69.1	66.5
	女性・未婚	(n=3569)	39.7	38.9	33.3	26.4	69.3	69.0	66.9	65.0

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_5

6. ジャンル別寛容性指標【変化の受容】

□ 出身者 ☑ 在住者

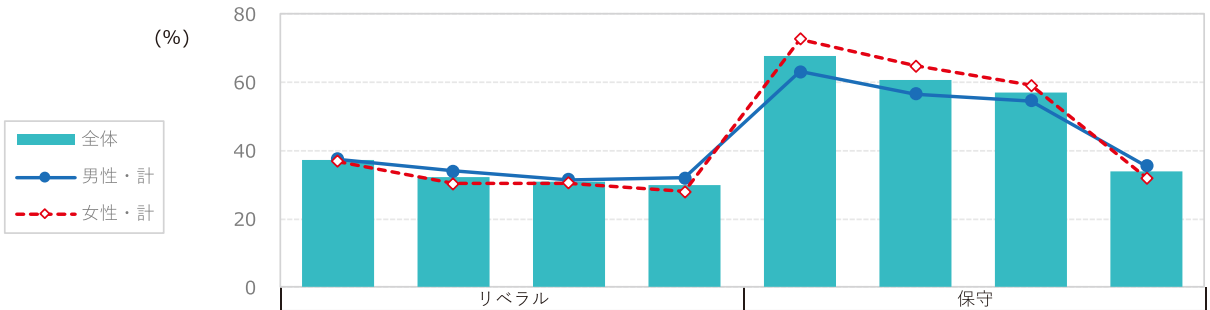
▶『保守』関連項目のスコアが高く、「穏やかで安定した毎日こそが幸せだと考える人が多い」と「長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い」は6割を超えている。

◉ 性・年代別にみると、男性・30代以下の「人間関係のしがらみに囚われずドライに行動する人が多い」をはじめとする『リベラル』関連項目の比率が高く、「穏やかで安定した毎日こそが幸せだと考える人が多い」などの『保守』関連項目が低くなっていることがわかる。
- 前項「個人主義」と同様、女性の40代以上の層では『保守』関連項目が総じて高い。
- なお、『保守』関連項目の「成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある」は、男女とも年代別の差が小さいが、若年層ほど比率が高くなる。その他の『保守』関連項目とは異なる傾向を示している。

◉ 性・未既婚別にみると、「成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある」を除き、男性・未婚の『保守』関連項目の比率が低いのに対して、女性・既婚の同比率が高い。

■ジャンル別寛容性指標【変化の受容】：「あてはまる・計」（在住者調査，全体／各単一回答）

あなたがお住まいの都道府県の県民気質や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについてあてはまるものを一つずつお選びください。



			多少の格差が出るとしても、経済成長のほうが大切だと考える風潮がある	人間関係のしがらみに囚われずドライに行動する人が多い	新しい流行をすぐに取り入れる人が多い	リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される	穏やかで安定した毎日こそが幸せだと考える人が多い	長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い	成果や結果よりも真面目にコツコツ努力することが尊重される	成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある
全体		(n=18800)	37.3	32.2	31.1	30.1	67.9	60.8	57.0	33.8
性・年代別	男性・計	(n=9400)	37.6	34.0	31.5	32.0	63.2	56.7	54.7	35.6
	男性・30代以下	(n=3760)	39.2	39.5	36.9	38.1	59.0	53.4	52.0	38.6
	男性・40～50代	(n=3760)	34.4	30.0	29.2	28.7	61.8	56.4	53.4	34.1
	男性・60代以上	(n=1880)	41.0	30.8	25.4	26.6	74.1	63.8	62.6	32.4
	女性・計	(n=9400)	36.9	30.4	30.6	28.1	72.7	64.9	59.2	32.0
	女性・30代以下	(n=3760)	36.2	33.9	34.9	33.4	66.9	62.0	54.7	32.4
	女性・40～50代	(n=3760)	34.9	27.5	28.1	24.4	73.7	65.4	59.0	32.1
	女性・60代以上	(n=1880)	42.4	29.0	27.0	25.2	82.5	69.7	68.8	31.1
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	38.4	32.3	31.2	30.2	71.1	63.5	60.6	33.4
	未婚・計	(n=7771)	36.5	32.4	31.1	30.4	66.3	59.3	54.4	35.0
	男性・既婚	(n=4808)	38.7	34.2	32.2	33.1	66.3	59.7	58.8	35.8
	男性・未婚	(n=4202)	37.3	34.3	31.0	31.4	62.1	55.5	52.3	36.2
	女性・既婚	(n=5538)	38.0	30.7	30.3	27.7	75.3	66.8	62.1	31.2
	女性・未婚	(n=3569)	35.7	30.1	31.1	29.2	71.3	63.7	56.8	33.5

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q2_6

7. 都道府県別寛容性総合指標

☐ 出身者　☑ 在住者

前項までみた寛容性の6領域別に各都道府県の偏差値を算出し、ランキング形式で6領域を横並び比較したのが右表である。

▶寛容性総合指標トップは東京都。神奈川県、千葉県、埼玉県の1都3県がトップ5入り。

▶関西圏では大阪府が3位。北海道、福岡県、沖縄県もトップ10に。

▶総じて、宮城県以外の東北エリアの都道府県は低調。沖縄県、福岡県以外の九州エリアも順位が低い県が多い。

- また、北陸3県も40位前後にとどまり振るわない結果である。
- 中国・四国エリアでは、広島県が高い一方、徳島県は41位。

▶寛容性の6つの領域の順位は、総合順位と大きくは変わらない。

- 高知県の「女性の生き方」が総合指標順位よりも高く、沖縄県の「家族のあり方」が低い点が目立つ程度である。

■寛容性総合指標：（在住者調査）

	寛容性総合指標		女性の生き方		家族のあり方		若者信頼		少数派包摂		個人主義		変化の受容	
	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値
北海道	7	63.6	9	60.2	7	65.3	7	64.3	6	64.1	8	62.8	6	64.9
青森県	43	40.2	42	41.4	37	42.4	45	37.2	41	40.7	38	41.5	45	37.9
岩手県	40	41.5	39	42.4	40	41.3	36	41.2	40	41.5	37	41.9	41	40.7
宮城県	14	53.0	14	52.3	12	53.3	16	50.9	16	52.9	14	53.4	13	55.0
秋田県	46	36.3	47	35.3	44	39.2	47	34.6	46	35.4	46	35.4	45	37.9
山形県	44	39.8	34	43.6	42	41.2	43	38.7	45	36.0	45	39.6	44	39.4
福島県	42	40.6	44	39.7	40	41.3	44	38.4	43	39.0	36	42.7	36	42.5
茨城県	27	46.9	29	44.9	17	49.2	20	48.2	38	42.1	22	48.9	22	48.1
栃木県	24	47.4	21	47.4	24	47.3	19	48.8	28	45.8	27	47.0	22	48.1
群馬県	19	48.8	15	51.7	18	49.1	24	47.4	20	48.8	24	47.8	24	48.0
埼玉県	5	65.4	7	63.3	4	68.8	5	67.3	6	64.1	5	66.4	8	62.4
千葉県	4	67.7	4	66.2	3	70.3	2	70.9	5	66.3	4	66.9	4	65.7
東京都	1	77.2	1	80.7	1	79.6	2	70.9	1	74.6	1	77.3	1	80.2
神奈川県	2	73.2	2	72.6	2	73.3	1	75.1	2	70.4	2	73.9	2	74.1
新潟県	38	42.4	41	42.0	36	42.5	32	45.7	39	41.6	39	41.0	40	41.4
富山県	45	38.8	45	39.6	47	35.5	41	39.9	44	37.7	44	39.7	42	40.6
石川県	35	43.3	37	42.6	34	42.8	34	44.8	37	42.3	32	43.7	33	43.7
福井県	37	42.8	17	48.6	45	38.4	35	44.2	36	42.6	41	40.4	36	42.5
山梨県	36	43.1	33	43.9	32	44.6	39	40.1	29	45.6	39	41.0	35	43.3
長野県	39	41.6	37	42.6	38	42.2	40	39.9	35	43.1	42	40.2	39	41.9
岐阜県	28	46.6	29	44.9	25	46.9	21	48.0	31	44.8	23	48.3	25	46.6
静岡県	15	51.8	21	47.4	13	52.3	12	55.6	13	54.2	18	50.1	15	51.4
愛知県	13	54.7	13	55.3	11	55.3	13	55.0	17	52.2	13	53.6	10	56.8
三重県	26	47.1	28	45.1	19	49.1	18	50.7	30	45.5	29	46.3	28	46.1
滋賀県	16	51.7	16	49.8	14	51.8	10	56.5	18	50.2	15	52.3	18	49.4
京都府	11	55.8	11	57.3	9	57.0	14	54.4	15	53.1	11	55.1	9	57.7
大阪府	3	69.5	3	70.8	4	68.8	4	68.3	4	69.6	3	68.9	3	71.0
兵庫県	6	64.3	5	64.9	6	66.0	6	65.4	9	63.0	7	63.1	7	63.6
奈良県	17	49.8	20	47.6	16	51.1	16	50.9	20	48.8	16	51.6	19	49.1
和歌山県	31	44.5	40	42.3	30	45.4	28	46.5	32	44.6	32	43.7	31	44.3
鳥取県	29	45.5	32	44.8	29	45.6	25	47.1	22	47.8	34	43.3	30	44.5
島根県	47	36.1	46	36.0	46	37.8	45	37.2	42	39.2	47	31.3	47	35.0
岡山県	23	47.5	24	46.7	23	48.6	21	48.0	34	43.1	20	49.6	19	49.1
広島県	10	56.1	12	56.9	10	55.5	11	56.0	10	57.0	10	55.7	11	55.5
山口県	21	48.0	18	48.3	22	48.7	23	47.8	19	49.9	27	47.0	27	46.5
徳島県	41	41.3	19	47.9	39	42.1	42	39.3	47	34.9	43	40.1	34	43.5
香川県	30	45.3	31	44.8	31	44.8	29	46.5	32	44.6	30	45.5	29	45.7
愛媛県	25	47.3	26	46.1	19	49.1	25	47.1	22	47.8	26	47.1	26	46.6
高知県	12	55.4	6	64.0	15	51.7	15	52.7	11	54.5	12	54.3	12	55.2
福岡県	8	62.8	8	62.2	8	59.1	9	60.9	8	64.0	6	65.1	5	65.4
佐賀県	34	43.4	36	43.0	34	42.8	38	40.6	25	47.1	31	45.0	38	42.0
長崎県	20	48.6	25	46.4	26	46.6	27	46.7	14	54.1	21	49.1	21	48.6
熊本県	22	47.8	27	45.8	27	46.2	33	45.0	22	47.8	17	51.1	16	51.2
大分県	18	49.4	23	47.0	19	49.1	30	46.3	11	54.5	19	50.1	17	49.4
宮崎県	32	43.9	43	40.9	28	45.9	31	46.1	25	47.1	35	43.1	43	40.4
鹿児島県	33	43.7	35	43.1	43	41.1	37	41.0	27	45.9	25	47.4	32	43.8
沖縄県	9	58.2	10	59.7	33	44.0	8	61.8	3	69.9	9	60.6	14	53.1

8. 属性別・都道府県別寛容性総合指標

☐ 出身者　☑ 在住者

▶東京都と大阪府は、どの年代層でも女性の寛容性指標が男性を上回る。

◉ 他に、全体上位層の宮城県、全体では低順位の島根県、長崎県でも全年代を通じて男性よりも女性のスコアが高い。

■寛容性総合指標：（在住者調査）

	全体		性・年代別															
			男性・計		男性・30代以下		男性・40～50代		男性・60代以上		女性・計		女性・30代以下		女性・40～50代		女性・60代以上	
北海道	7	63.6	8	62.8	9	59.6	7	61.4	6	64.4	7	63.7	9	59.1	7	62.9	3	68.1
青森県	43	40.2	45	39.6	43	40.1	42	40.4	39	41.4	41	40.8	43	40.6	35	43.5	45	38.8
岩手県	40	41.5	36	42.8	24	48.9	46	38.0	29	45.8	40	41.1	40	42.0	39	41.7	40	41.0
宮城県	14	53.0	17	50.6	27	47.0	18	51.2	15	53.4	14	54.8	17	50.5	10	56.9	12	55.1
秋田県	46	36.3	46	37.1	42	40.2	45	38.8	46	35.5	47	35.9	47	32.9	44	37.2	35	42.6
山形県	44	39.8	42	41.2	41	40.4	34	44.8	42	39.7	44	39.1	46	34.4	41	39.9	23	47.8
福島県	42	40.6	37	42.7	33	44.7	44	39.7	23	47.9	43	39.6	44	40.4	45	36.9	27	46.6
茨城県	27	46.9	29	46.1	39	41.2	17	51.4	35	43.8	22	47.6	27	47.5	27	48.0	22	48.1
栃木県	24	47.4	18	50.0	11	56.4	16	51.5	41	39.9	30	45.6	42	41.2	16	51.7	36	42.5
群馬県	19	48.8	16	51.1	22	49.8	20	50.8	16	53.1	25	47.3	32	44.6	26	48.4	17	50.2
埼玉県	5	65.4	5	65.7	6	61.0	5	65.5	3	65.7	6	64.7	8	61.4	5	65.8	8	63.0
千葉県	4	67.7	4	65.7	5	65.5	4	66.8	10	58.6	4	68.7	5	63.4	3	69.1	2	69.4
東京都	1	77.2	1	75.3	1	70.9	2	74.2	1	74.2	1	77.7	1	75.9	1	76.1	1	75.0
神奈川県	2	73.2	2	73.7	4	65.5	1	75.5	2	70.6	2	72.4	2	71.0	2	72.2	4	67.8
新潟県	38	42.4	44	40.2	36	42.8	43	40.1	40	41.2	34	44.1	21	48.9	36	43.5	42	39.7
富山県	45	38.8	41	41.3	32	45.3	35	44.1	47	35.0	46	37.2	38	42.5	47	34.8	46	38.3
石川県	35	43.3	39	41.7	44	39.0	38	42.0	25	47.3	32	44.6	15	52.8	38	42.9	47	37.9
福井県	37	42.8	43	40.7	34	43.6	37	42.1	43	38.7	33	44.6	39	42.1	23	48.7	39	41.8
山梨県	36	43.1	35	42.9	40	41.0	33	44.9	34	44.5	38	43.5	31	44.8	32	44.1	37	42.1
長野県	39	41.6	33	43.9	31	45.3	32	45.3	38	41.4	42	40.5	36	43.0	43	38.6	33	43.3
岐阜県	28	46.6	26	47.1	23	49.3	21	49.9	37	41.5	26	46.2	22	48.5	30	45.5	31	45.5
静岡県	15	51.8	15	53.3	10	56.4	15	51.5	17	51.5	15	50.7	10	56.2	25	48.4	26	46.7
愛知県	13	54.7	13	54.2	8	59.7	11	54.9	32	45.1	12	54.9	13	54.5	11	56.2	14	52.1
三重県	26	47.1	21	48.8	37	42.7	13	52.6	21	49.8	28	45.9	29	46.5	33	44.1	18	49.4
滋賀県	16	51.7	14	54.1	19	51.0	12	53.3	11	57.4	17	49.7	19	50.3	19	50.1	21	48.5
京都府	11	55.8	10	56.5	13	53.8	9	56.5	12	56.2	11	55.2	11	55.5	15	52.3	10	58.5
大阪府	3	69.5	3	68.3	2	69.7	6	65.1	4	65.7	3	69.9	3	70.9	4	67.3	5	67.5
兵庫県	6	64.3	7	63.2	14	53.1	3	67.5	7	62.4	5	64.8	4	65.7	6	63.8	9	60.5
奈良県	17	49.8	19	49.6	15	53.0	28	46.6	19	51.4	18	49.7	20	49.8	13	53.2	34	43.1
和歌山県	31	44.5	31	44.4	46	38.4	23	48.9	30	45.7	31	44.8	37	43.0	31	44.8	20	48.5
鳥取県	29	45.5	30	45.0	26	47.7	36	42.9	24	47.7	27	46.0	41	41.5	18	50.6	32	44.8
島根県	47	36.1	47	33.0	45	38.9	47	29.9	44	38.5	45	38.6	35	43.8	46	36.0	44	39.1
岡山県	23	47.5	28	46.5	20	50.6	30	46.0	33	44.7	20	48.2	14	53.2	21	49.4	43	39.2
広島県	10	56.1	12	55.1	7	60.2	19	50.8	13	54.7	10	56.7	6	62.5	12	55.1	19	49.1
山口県	21	48.0	20	48.9	18	51.2	22	48.9	26	46.8	23	47.5	18	50.4	22	48.8	38	41.8
徳島県	41	41.3	38	41.8	38	41.4	29	46.5	45	37.8	39	41.1	34	44.2	40	40.7	41	40.1
香川県	30	45.3	25	47.3	17	51.5	26	47.7	36	42.7	36	43.9	45	38.7	29	47.2	24	47.7
愛媛県	25	47.3	27	47.0	29	46.7	24	48.3	27	46.3	24	47.5	26	47.7	24	48.5	30	46.0
高知県	12	55.4	11	55.9	16	51.5	14	52.3	5	64.7	13	54.8	16	50.8	14	52.6	7	63.9
福岡県	8	62.8	6	63.7	3	67.4	8	60.2	9	60.8	8	61.8	7	61.9	9	58.4	6	64.9
佐賀県	34	43.4	34	43.2	30	46.4	39	41.5	31	45.3	35	43.9	33	44.4	37	43.4	29	46.1
長崎県	20	48.6	24	48.0	28	46.8	27	47.5	20	50.3	19	49.3	28	47.2	20	49.6	16	51.5
熊本県	22	47.8	22	48.2	21	50.5	31	45.4	18	51.4	21	47.8	30	45.2	28	47.3	13	53.0
大分県	18	49.4	23	48.1	35	43.1	25	48.2	14	54.4	16	50.3	25	47.9	17	51.7	15	51.7
宮崎県	32	43.9	40	41.6	47	38.1	40	41.4	22	48.1	29	45.7	24	48.0	34	43.7	25	47.5
鹿児島県	33	43.7	32	43.9	25	48.5	41	41.3	28	46.0	37	43.7	23	48.3	42	39.4	28	46.6
沖縄県	9	58.2	9	57.9	12	54.4	10	56.2	8	61.1	9	58.0	12	54.5	8	59.2	11	57.7

※各全体順位より5位以上高い■／5位以上低い■

□ 出身者　☑ 在住者

▶未婚者、そのうち女性・未婚、および20代の順位が全体の順位をそろって上回るのは、岩手県、石川県、岐阜県、鹿児島県の4県である。

◉ この４県は全体のランキングでは相対的に低い順位だったが、女性を中心とする若い層の寛容性の評価が高くなっている。

■寛容性総合指標：（在住者調査）

	全体		性・未既婚別											
			既婚・計		未婚・計		男性・既婚		男性・未婚		女性・既婚		女性・未婚	
北海道	7	63.6	7	64.4	7	62.4	7	64.1	7	61.5	6	64.2	8	62.1
青森県	43	40.2	43	39.1	44	40.2	46	37.8	43	39.8	40	40.6	41	41.7
岩手県	40	41.5	47	37.4	32	44.4	45	38.4	31	45.3	46	36.9	31	45.2
宮城県	14	53.0	14	52.2	15	53.2	17	49.4	20	51.3	14	54.3	12	54.4
秋田県	46	36.3	46	37.5	45	34.7	47	36.4	45	37.4	43	38.9	46	34.1
山形県	44	39.8	35	43.8	46	34.4	41	42.1	42	40.9	32	45.4	47	29.3
福島県	42	40.6	42	40.1	40	42.2	34	43.8	36	42.7	45	38.0	39	42.4
茨城県	27	46.9	27	46.8	28	46.5	35	43.8	25	48.5	20	49.0	32	44.6
栃木県	24	47.4	29	46.4	24	47.8	28	46.2	15	53.0	28	47.1	42	40.5
群馬県	19	48.8	23	48.2	21	49.2	16	50.5	19	51.3	27	47.2	26	47.4
埼玉県	5	65.4	6	64.5	4	66.0	5	64.7	4	65.5	7	64.0	5	64.9
千葉県	4	67.7	3	68.8	5	64.6	4	66.4	6	62.0	4	69.6	4	65.4
東京都	1	77.2	1	76.8	1	76.1	2	75.7	1	73.3	1	76.5	1	75.9
神奈川県	2	73.2	2	74.2	2	70.9	1	77.4	3	67.9	2	71.1	2	71.6
新潟県	38	42.4	33	44.4	42	40.6	36	43.6	44	37.6	33	45.4	33	43.9
富山県	45	38.8	45	38.2	43	40.3	42	40.9	35	43.1	47	36.7	44	39.2
石川県	35	43.3	40	41.2	25	47.4	37	43.3	40	42.0	42	39.6	16	51.9
福井県	37	42.8	36	42.9	37	43.3	43	40.5	37	42.6	34	45.2	36	43.3
山梨県	36	43.1	37	42.8	36	43.4	32	44.7	39	42.0	38	41.7	30	45.3
長野県	39	41.6	41	40.3	30	44.9	39	43.1	33	44.8	44	38.7	29	45.8
岐阜県	28	46.6	32	44.7	20	49.8	29	45.9	23	48.9	35	44.1	20	50.8
静岡県	15	51.8	17	49.8	14	54.0	14	52.9	14	53.3	23	47.9	13	53.9
愛知県	13	54.7	13	53.9	11	55.7	15	52.6	12	56.3	13	54.8	11	54.6
三重県	26	47.1	19	49.1	31	44.5	19	48.8	24	48.9	18	49.3	43	40.4
滋賀県	16	51.7	15	51.6	16	51.8	11	54.7	17	51.8	19	49.3	18	51.6
京都府	11	55.8	10	56.5	13	54.6	12	53.6	9	59.3	9	58.1	17	51.9
大阪府	3	69.5	4	68.8	3	69.1	3	66.6	2	68.4	3	69.7	3	68.2
兵庫県	6	64.3	5	65.5	8	62.0	6	64.4	8	60.2	5	65.4	7	62.3
奈良県	17	49.8	16	50.0	18	50.6	21	48.6	18	51.5	16	51.0	21	49.9
和歌山県	31	44.5	30	45.5	34	43.8	30	45.1	29	45.9	31	45.7	38	42.8
鳥取県	29	45.5	28	46.6	35	43.4	31	44.9	34	44.5	22	47.9	37	42.8
島根県	47	36.1	44	38.8	47	34.1	44	38.9	47	30.4	41	39.8	45	38.1
岡山県	23	47.5	20	48.8	29	46.0	23	48.3	32	45.1	17	49.4	28	46.8
広島県	10	56.1	11	56.4	12	55.6	10	55.3	13	54.5	11	56.9	10	55.8
山口県	21	48.0	22	48.2	23	48.4	20	48.7	22	49.3	21	48.2	27	47.4
徳島県	41	41.3	38	42.0	41	41.9	40	42.1	41	41.6	37	41.8	35	43.5
香川県	30	45.3	26	47.1	39	42.3	24	48.0	28	46.1	29	45.8	40	42.0
愛媛県	25	47.3	25	47.4	26	47.1	25	47.8	27	46.7	24	47.3	25	47.7
高知県	12	55.4	12	55.7	10	55.8	13	53.3	10	59.3	10	57.0	14	53.3
福岡県	8	62.8	8	61.1	6	64.5	8	62.9	5	63.8	8	59.0	6	63.9
佐賀県	34	43.4	31	44.8	38	42.3	33	44.0	38	42.2	30	45.7	34	43.6
長崎県	20	48.6	24	47.5	17	51.7	22	48.4	21	50.6	26	47.2	15	52.5
熊本県	22	47.8	21	48.2	22	48.5	18	49.1	26	47.6	25	47.3	22	49.8
大分県	18	49.4	18	49.3	19	49.9	27	46.6	16	52.1	15	51.2	24	48.3
宮崎県	32	43.9	34	44.0	33	43.9	26	46.7	46	34.7	36	42.6	19	51.5
鹿児島県	33	43.7	39	41.8	27	46.9	38	43.2	30	45.8	39	41.0	23	48.4
沖縄県	9	58.2	9	56.7	9	59.3	9	55.9	11	58.7	12	56.8	9	59.2

※各全体順位より5位以上高い■／5位以上低い■

9. 在住者と出身者の寛容性総合指標の相関

☑出身者 ☑在住者

前項までは在住者調査のデータに基づいて、在住者がみる地元の寛容性を指標化した。
ここでは在住者調査と同様の手続きで、出身者が評価する出身都道府県の寛容性を指標化し、在住者の寛容性総合指標と出身者の寛容性総合指標の相関を求める。

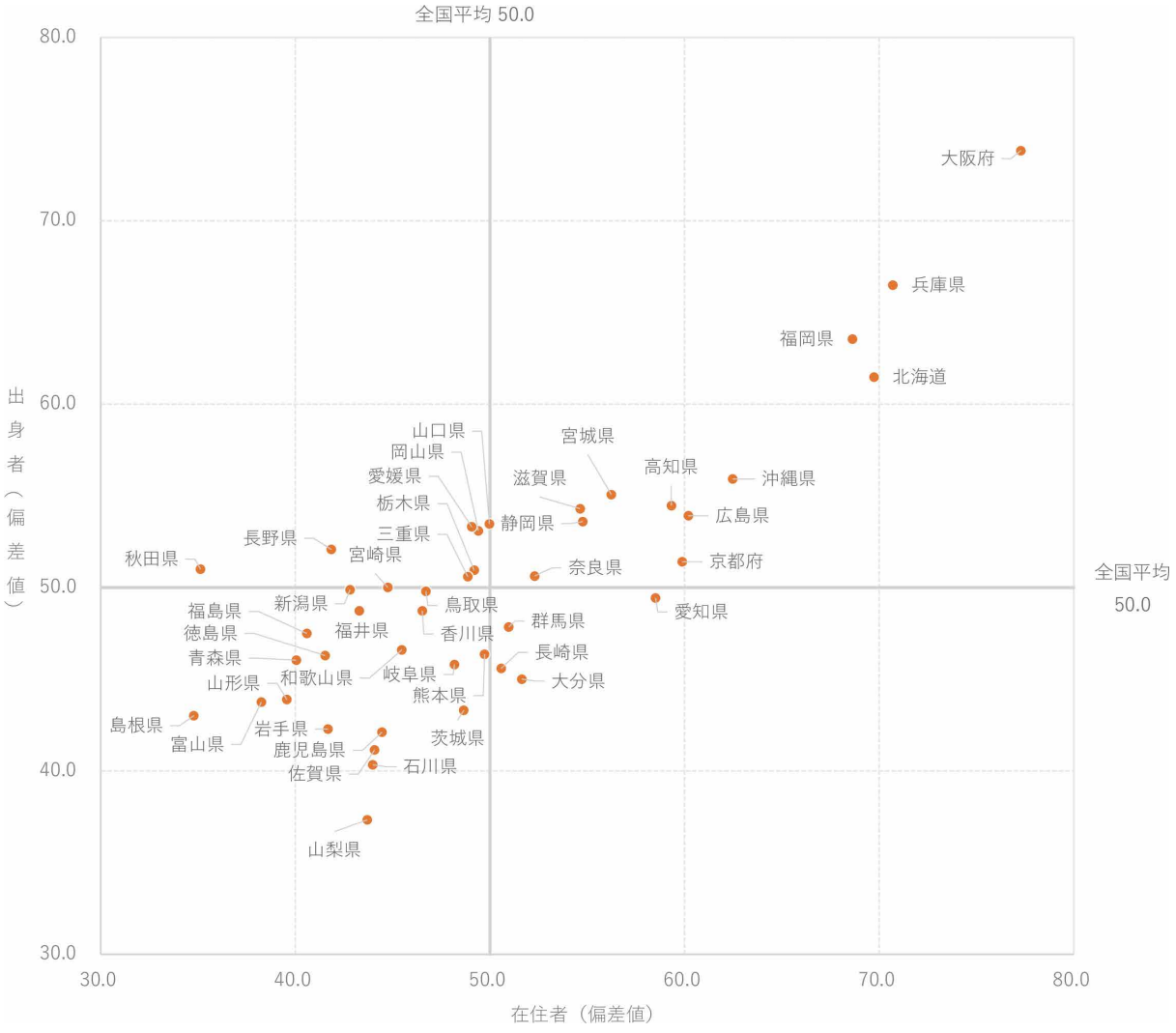
在住者調査では寛容性指標を測定する６分野48項目（各分野『保守』『リベラル』関連各４項目）の測定項目を設定したが、出身者調査では６分野12項目（各分野『保守』『リベラル』関連各1項目）を設定した。
※出身者調査の寛容性測定項目は、在住者調査の項目から抽出した。

既述の通り、在住者調査では『保守』関連項目は４段階評価であり、加重の与え方を『リベラル』関連項目とは逆に設定している。（『リベラル』：4→3→2→1点，『保守』：1→2→3→4点）
出身者調査は合計12項目について複数回答の形式をとったため、『保守』関連項目の回答比率を100から除した値を用いることとした。
※ウエイトバックの関係上、n 数に基づく計算ではない。
※出身者調査は選択肢に「この中にあてはまるものはない／わからない」という排他条件をともなう
選択肢を加えたため、予めその回答サンプルを除いたうえで複数回答のデータを得ている。

▶出身者と在住者の寛容性総合指標の相関係数は0.818。相関が高い。

◉ つまり、出身者と在住者との（出身／在住）都道府県の見方は大きくは変わらないということだ。

■出身者×在住者の寛容性総合指標



☑出身者　☑在住者

	在住者		出身者													
	寛容性総合指標		寛容性総合指標		女性の生き方		家族のあり方		若者信頼		少数派包摂		個人主義		変化の受容	
	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値
北海道	3	69.7	4	61.5	26	46.5	7	59.9	2	68.9	1	69.3	1	73.0	19	51.2
青森県	39	40.0	31	46.0	30	44.6	28	45.4	30	47.3	21	51.8	15	52.5	41	34.7
岩手県	36	41.7	39	42.3	34	42.9	34	43.4	35	42.4	17	53.0	41	35.2	39	36.9
宮城県	10	56.2	6	55.1	23	47.3	11	51.5	15	52.8	11	55.6	7	62.0	6	61.2
秋田県	42	35.1	16	51.0	11	52.4	12	51.2	19	51.7	20	52.4	31	44.3	16	54.1
山形県	40	39.6	35	43.9	21	48.1	31	43.8	36	40.1	30	46.3	38	38.6	31	46.5
福島県	38	40.6	27	47.5	36	41.5	22	47.1	24	50.6	13	54.2	24	49.5	34	42.1
茨城県	23	48.7	37	43.3	42	38.5	24	46.7	40	33.8	24	50.0	23	50.5	35	40.3
栃木県	20	49.2	17	50.9	33	44.0	23	46.7	18	51.9	15	53.9	16	52.4	10	56.8
群馬県	15	51.0	26	47.8	13	50.8	26	46.3	32	47.0	25	49.5	27	45.5	25	48.0
新潟県	34	42.8	21	49.9	10	53.6	18	48.1	23	51.0	10	56.2	33	42.7	26	47.7
富山県	41	38.3	36	43.8	38	40.5	43	39.1	28	47.6	39	36.0	32	44.0	11	55.3
石川県	31	44.0	42	40.3	25	46.7	41	40.8	31	47.2	41	34.5	34	40.0	42	32.7
福井県	33	43.3	25	48.7	28	45.7	38	42.7	27	48.2	12	54.9	20	51.4	22	49.4
山梨県	32	43.7	43	37.3	20	48.3	42	39.9	41	32.6	40	35.6	35	39.9	43	27.8
長野県	35	41.8	14	52.1	12	51.7	15	49.7	16	52.6	27	47.8	19	51.6	8	59.0
岐阜県	24	48.2	32	45.8	37	40.6	29	44.7	22	51.1	33	44.4	25	47.4	30	46.7
静岡県	11	54.8	10	53.6	14	50.3	27	45.6	14	53.5	4	66.1	9	58.9	28	47.2
愛知県	9	58.5	23	49.4	32	44.1	25	46.5	26	49.9	42	30.0	5	64.0	5	62.2
三重県	22	48.9	19	50.6	26	46.5	13	50.6	12	54.3	34	43.9	8	59.0	23	49.2
滋賀県	12	54.6	8	54.3	18	49.3	10	51.5	6	61.1	26	48.0	10	58.7	9	57.1
京都府	7	59.9	15	51.4	3	71.4	2	72.6	9	55.5	43	21.9	42	34.3	18	52.6
大阪府	1	77.3	1	73.8	1	81.6	1	91.6	1	80.0	2	67.7	29	45.3	1	76.7
兵庫県	2	70.7	2	66.5	2	78.4	3	69.5	3	66.0	18	52.6	4	64.1	2	68.4
奈良県	13	52.3	18	50.6	29	44.8	9	51.8	7	55.7	28	47.4	22	50.8	17	53.4
和歌山県	27	45.5	28	46.6	31	44.5	20	47.3	7	55.7	37	40.4	12	55.3	40	36.4
鳥取県	25	46.7	22	49.8	35	42.4	21	47.3	17	52.1	18	52.6	37	39.1	3	65.2
島根県	43	34.8	38	43.0	22	48.0	32	43.7	33	46.0	35	41.7	43	31.2	27	47.5
岡山県	19	49.4	13	53.1	15	49.9	35	43.4	20	51.3	22	51.4	3	67.8	12	54.8
広島県	6	60.2	9	53.9	16	49.8	8	56.2	25	50.4	14	54.1	11	58.6	15	54.4
山口県	17	50.0	11	53.5	9	55.6	16	49.0	21	51.3	8	58.5	17	51.6	12	54.8
徳島県	37	41.5	30	46.3	4	70.6	30	44.6	39	39.1	38	36.7	39	36.9	21	49.9
香川県	26	46.5	24	48.7	24	47.0	14	50.2	29	47.4	36	41.5	27	45.5	7	60.8
愛媛県	21	49.1	12	53.3	6	58.5	17	49.0	10	54.8	3	66.2	40	36.6	12	54.8
高知県	8	59.3	7	54.5	5	63.0	5	63.3	11	54.4	23	51.0	14	52.5	33	42.5
福岡県	4	68.6	3	63.5	8	57.8	6	63.3	5	61.2	5	63.9	2	70.4	4	64.7
佐賀県	30	44.1	41	41.1	40	39.5	33	43.7	37	40.0	31	46.0	36	39.1	37	38.6
長崎県	16	50.6	33	45.6	41	38.9	40	41.3	38	39.9	7	59.6	26	46.7	28	47.2
熊本県	18	49.7	29	46.4	19	48.6	19	47.8	42	28.9	16	53.1	17	51.6	24	48.2
大分県	14	51.6	34	45.0	38	40.5	37	43.3	34	43.8	29	47.1	30	45.0	20	50.4
宮崎県	28	44.7	20	50.0	17	49.5	36	43.4	13	53.6	9	56.6	21	51.2	32	45.7
鹿児島県	29	44.5	40	42.1	43	38.1	39	42.2	43	25.4	32	45.6	6	62.2	36	39.1
沖縄県	5	62.5	5	55.9	7	57.8	4	64.4	4	61.8	6	60.9	13	53.1	38	37.6

在住者と出身者の **寛容性総合指標の相関係数**	**0.818**

※出身者調査は１都３県出身者のデータを採取していないため、相関係数の算出の際には在住者調査から１都３県を除外し、43道府県のデータのみ用いている。
※従って、在住者の寛容性総合指標の偏差値、順位とも、47都道府県ベースの場合とは異なる数値になる。

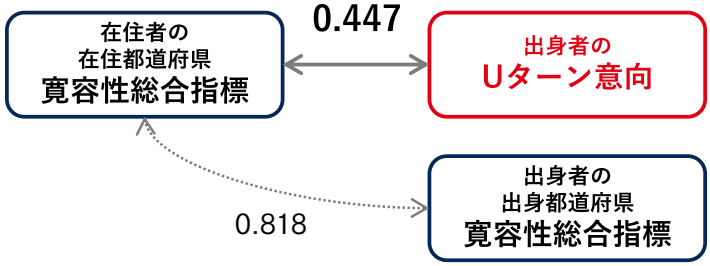
10. 地方の寛容性総合指標とUターン意向との相関

☑出身者 ☑在住者

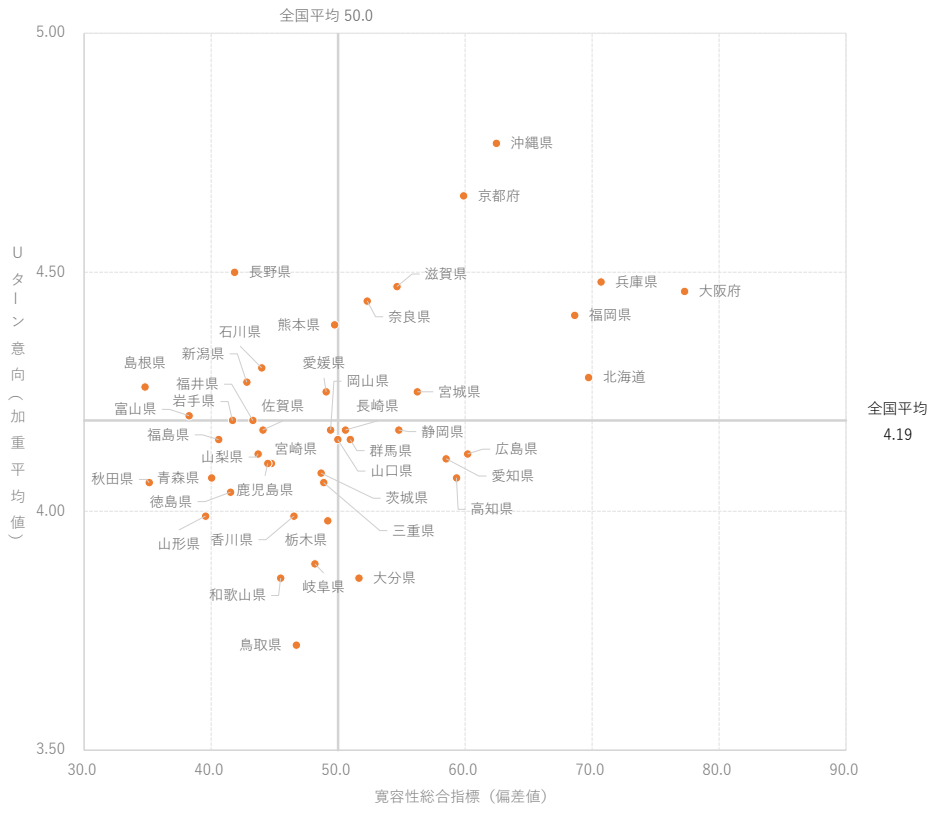
▶（在住者が評価する）地方の寛容性と（出身者の）Uターン意向との相関係数は0.447。

- ◉ 単相関としては相当に高い相関関係がみられる。
- ◉ Uターン意向に、在住者の住む都道府県に対する寛容性の評価が大きく影響を及ぼしていることがうかがえる。

	【在住者】寛容性総合指標		【出身者】Uターン意向	
	順位	偏差値	順位	加重平均値
全体				4.19
北海道	3	69.7	11	4.28
青森県	39	40.0	32	4.07
岩手県	36	41.7	17	4.19
宮城県	10	56.2	14	4.25
秋田県	42	35.1	34	4.06
山形県	40	39.6	37	3.99
福島県	38	40.6	23	4.15
茨城県	23	48.7	31	4.08
栃木県	20	49.2	39	3.98
群馬県	15	51.0	23	4.15
新潟県	34	42.8	12	4.27
富山県	41	38.3	16	4.20
石川県	31	44.0	10	4.30
福井県	33	43.3	17	4.19
山梨県	32	43.7	26	4.12
長野県	35	41.8	3	4.50
岐阜県	24	48.2	40	3.89
静岡県	11	54.8	19	4.17
愛知県	9	58.5	28	4.11
三重県	22	48.9	34	4.06
滋賀県	12	54.6	5	4.47
京都府	7	59.9	2	4.66
大阪府	1	77.3	6	4.46
兵庫県	2	70.7	4	4.48
奈良県	13	52.3	7	4.44
和歌山県	27	45.5	41	3.86
鳥取県	25	46.7	43	3.72
島根県	43	34.8	13	4.26
岡山県	19	49.4	19	4.17
広島県	6	60.2	26	4.12
山口県	17	50.0	23	4.15
徳島県	37	41.5	36	4.04
香川県	26	46.5	37	3.99
愛媛県	21	49.1	14	4.25
高知県	8	59.3	32	4.07
福岡県	4	68.6	8	4.41
佐賀県	30	44.1	19	4.17
長崎県	16	50.6	19	4.17
熊本県	18	49.7	9	4.39
大分県	14	51.6	41	3.86
宮崎県	28	44.7	29	4.10
鹿児島県	29	44.5	29	4.10
沖縄県	5	62.5	1	4.77
寛容性総合指標とUターン意向との相関係数			0.447	



■寛容性総合指標×Uターン意向



※出身者調査は1都3県出身者のデータを採取していないため、相関係数の算出の際には
在住者調査から1都3県を除外し、43道府県のデータのみ用いている。
※従って、在住者の寛容性総合指標の偏差値、順位とも、47都道府県ベースの場合とは異なる数値になる。

11. 地方の寛容性総合指標と離脱意向との相関

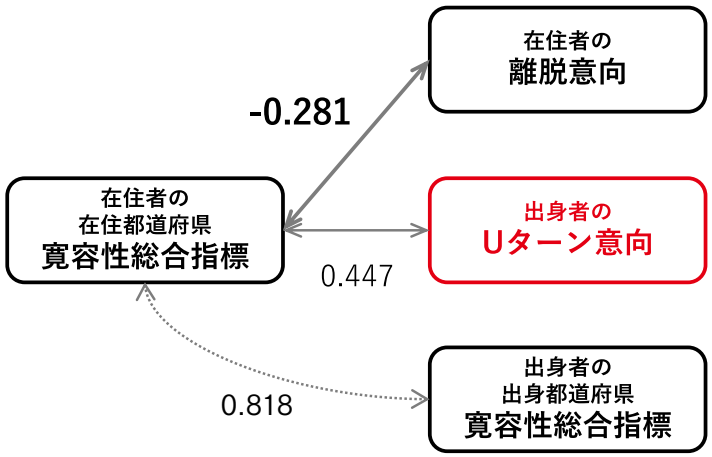
□ 出身者　☑ 在住者

▶在住者の寛容性総合指標と離脱意向との相関係数は-0.281。負の相関関係にある。

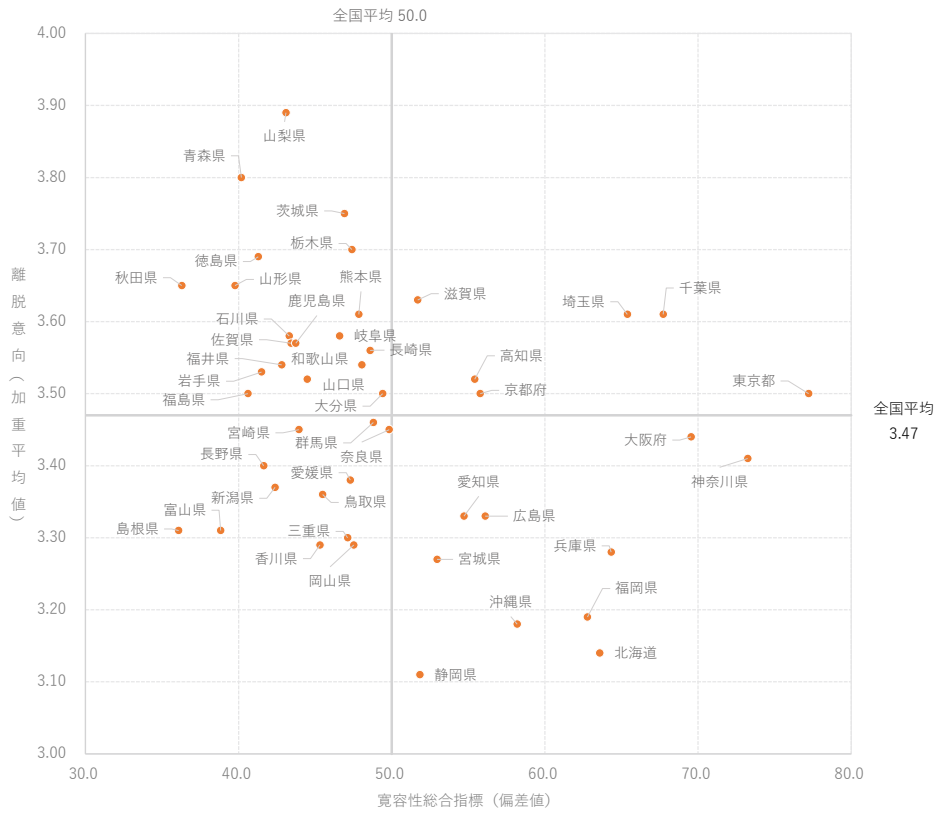
◉ 在住者が住む都道府県の寛容性を感じれば感じるほど離脱意向は下がる関係にある
- 絶対値0.3程度の相関係数のため若干弱い相関ではあるが、それでも負の相関関係にあることは確かである。

◉ 前項の結果と合わせ解釈すれば、「地方の寛容性の高さはUターン意向を上げるだけでなく、離脱者をとどめる効果がある」ということになる。

	【在住者】寛容性総合指標		【在住者】離脱意向	
	順位	偏差値	順位	加重平均値
全体				3.47
北海道	7	63.6	46	3.14
青森県	43	40.2	2	3.80
岩手県	40	41.5	19	3.53
宮城県	14	53.0	43	3.27
秋田県	46	36.3	6	3.65
山形県	44	39.8	6	3.65
福島県	42	40.6	22	3.50
茨城県	27	46.9	3	3.75
栃木県	24	47.4	4	3.70
群馬県	19	48.8	26	3.46
埼玉県	5	65.4	9	3.61
千葉県	4	67.7	9	3.61
東京都	1	77.2	22	3.50
神奈川県	2	73.2	30	3.41
新潟県	38	42.4	33	3.37
富山県	45	38.8	37	3.31
石川県	35	43.3	12	3.58
福井県	37	42.8	17	3.54
山梨県	36	43.1	1	3.89
長野県	39	41.6	31	3.40
岐阜県	28	46.6	12	3.58
静岡県	15	51.8	47	3.11
愛知県	13	54.7	35	3.33
三重県	26	47.1	39	3.30
滋賀県	16	51.7	8	3.63
京都府	11	55.8	22	3.50
大阪府	3	69.5	29	3.44
兵庫県	6	64.3	42	3.28
奈良県	17	49.8	27	3.45
和歌山県	31	44.5	20	3.52
鳥取県	29	45.5	34	3.36
島根県	47	36.1	37	3.31
岡山県	23	47.5	40	3.29
広島県	10	56.1	35	3.33
山口県	21	48.0	17	3.54
徳島県	41	41.3	5	3.69
香川県	30	45.3	40	3.29
愛媛県	25	47.3	32	3.38
高知県	12	55.4	20	3.52
福岡県	8	62.8	44	3.19
佐賀県	34	43.4	14	3.57
長崎県	20	48.6	16	3.56
熊本県	22	47.8	9	3.61
大分県	18	49.4	22	3.50
宮崎県	32	43.9	27	3.45
鹿児島県	33	43.7	14	3.57
沖縄県	9	58.2	45	3.18
寛容性総合指標と離脱意向との相関係数			-0.281	



■寛容性総合指標×離脱意向



Ⅲ Well-being 指標

Happinessではとらえきれない総合的・持続的な幸福度を表す指標としてWell-beingが注目されている。
幸福度という場合、国連の『世界幸福報告書（The World Happiness Report）』で用いられているラダー（人生評価，あり得る最高の人生と最低な人生を想像してもらい、最高を10点、最低を0点と設定）を用いるケースが多いが、Well-beingはそれに加えて「嬉しい」「楽しい」といった感情や、エウダイモニアと称される人生の意味や生き甲斐に即した幸福のスコアを複合して用いるのが通常である。
本プロジェクトでは上記のうち、「人生評価（ラダー）」と「エウダイモニア」の2つの指標（いずれも11段階評価）の加重平均値を足し上げた数値を「総合幸福度」として取り扱う。

1. 都道府県別 Well-being 指標

☐ 出身者　☑ 在住者

▶総合幸福度のトップは沖縄県。

- ◉ 奈良県、兵庫県、滋賀県、神奈川県が続く。
- ◉ 総じて関西圏の都道府県の順位が高い。
- ◉ 九州の場合、熊本県８位、宮崎県９位など、南方の都道府県を中心に順位が高い。
- ◉ 順位が低いのは、山形県、岩手県をはじめとする東北エリアの都道府県。
- ◉ それ以外にも、茨城県44位をはじめとする北関東3県、徳島県43位の四国エリアは振るわない結果となっている。
- ◉ また寛容性総合指標では高順位の埼玉県が46位となっている。

■Well-being指標：（在住者調査）

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体値		5.77		4.79		10.56
北海道	18	5.78	6	4.92	10	10.70
青森県	37	5.68	36	4.68	38	10.36
岩手県	41	5.62	44	4.59	41	10.21
宮城県	39	5.63	43	4.60	40	10.23
秋田県	47	5.50	31	4.71	41	10.21
山形県	44	5.54	45	4.58	47	10.12
福島県	36	5.69	28	4.75	34	10.44
茨城県	44	5.54	41	4.62	44	10.16
栃木県	13	5.82	31	4.71	27	10.53
群馬県	43	5.59	34	4.69	39	10.28
埼玉県	41	5.62	46	4.53	46	10.15
千葉県	6	5.93	10	4.90	7	10.83
東京都	28	5.74	6	4.92	12	10.66
神奈川県	7	5.91	5	4.97	5	10.88
新潟県	22	5.77	21	4.80	23	10.57
富山県	38	5.64	9	4.91	25	10.55
石川県	28	5.74	6	4.92	12	10.66
福井県	10	5.84	24	4.78	19	10.62
山梨県	16	5.79	22	4.79	22	10.58
長野県	33	5.71	34	4.69	35	10.40
岐阜県	39	5.63	46	4.53	44	10.16
静岡県	24	5.76	12	4.89	16	10.65
愛知県	16	5.79	36	4.68	32	10.47
三重県	26	5.75	17	4.86	20	10.61
滋賀県	2	6.17	28	4.75	4	10.92
京都府	14	5.81	15	4.87	11	10.68
大阪府	26	5.75	12	4.89	17	10.64
兵庫県	4	6.02	4	4.98	3	11.00
奈良県	3	6.11	2	5.05	2	11.15
和歌山県	5	5.99	15	4.87	6	10.86
鳥取県	33	5.71	19	4.82	27	10.53
島根県	8	5.86	31	4.71	23	10.57
岡山県	30	5.72	24	4.78	29	10.50
広島県	30	5.72	39	4.66	37	10.38
山口県	22	5.77	18	4.83	20	10.61
徳島県	44	5.54	40	4.64	43	10.18
香川県	15	5.80	36	4.68	30	10.49
愛媛県	18	5.78	26	4.77	26	10.54
高知県	33	5.71	26	4.77	31	10.48
福岡県	18	5.78	41	4.62	35	10.40
佐賀県	24	5.76	10	4.90	12	10.66
長崎県	30	5.72	30	4.73	33	10.46
熊本県	18	5.78	3	4.99	8	10.77
大分県	10	5.84	22	4.79	18	10.63
宮崎県	8	5.86	14	4.88	9	10.74
鹿児島県	10	5.84	19	4.82	12	10.66
沖縄県	1	6.22	1	5.15	1	11.37

2. 属性別・都道府県別 Well-being 指標・総合幸福度

□ 出身者　☑ 在住者

▶男性の幸福度が女性の幸福度を大きく上回るのは高知県、香川県の四国エリア2県と、京都府、大阪府の関西圏2県。

◉ 総合幸福度自体は、男性が女性を若干上回る。

◉ また男女とも60代以上の総合幸福度が高いが、40～50代の総合幸福度がそれぞれ最低である。

■Well-being指標・総合幸福度：（在住者調査）

	全体		性・年代別														性・未既婚別									
			男性・計		男性・30代以下		男性・40～50代		男性・60代以上		女性・計		女性・30代以下		女性・40～50代		女性・60代以上		既婚・計		未婚・計		男性・既婚		男性・未婚		女性・既婚		女性・未婚	
全体		10.56		10.60		10.75		10.22		11.04		10.52		10.42		10.12		11.53		11.32		9.66		11.50		9.68		11.15		9.64
北海道	10	10.70	14	10.81	10	11.10	17	10.46	31	10.93	22	10.58	43	9.73	8	10.79	10	11.89	2	11.80	23	9.67	2	12.09	29	9.55	8	11.56	18	9.82
青森県	38	10.36	39	10.29	27	10.64	47	9.10	3	11.99	29	10.43	31	10.09	21	10.22	23	11.55	16	11.40	37	9.34	42	11.14	19	9.81	6	11.60	44	8.79
岩手県	41	10.21	43	10.16	35	10.53	46	9.27	18	11.18	35	10.26	38	9.97	32	9.87	19	11.61	31	11.25	41	9.18	33	11.35	45	8.90	24	11.16	29	9.44
宮城県	40	10.23	44	10.13	45	9.85	34	9.87	17	11.22	33	10.32	39	9.96	19	10.25	39	11.19	35	11.19	43	9.10	29	11.44	39	9.02	36	10.98	37	9.22
秋田県	41	10.21	40	10.26	38	10.38	23	10.20	45	10.12	41	10.17	41	9.91	26	10.05	43	10.94	33	11.20	45	9.06	20	11.57	41	9.00	40	10.87	39	9.13
山形県	47	10.12	46	10.06	42	10.12	40	9.82	40	10.44	39	10.18	40	9.94	40	9.58	12	11.84	37	11.14	46	8.90	44	11.04	42	8.93	19	11.22	42	8.86
福島県	34	10.44	25	10.57	18	10.93	11	10.64	47	9.73	33	10.32	37	9.99	25	10.06	27	11.49	44	10.91	11	9.92	46	10.79	6	10.29	32	11.01	27	9.47
茨城県	44	10.16	31	10.41	29	10.60	38	9.85	20	11.14	45	9.92	28	10.10	46	8.94	26	11.52	47	10.76	26	9.60	37	11.23	19	9.81	46	10.39	34	9.30
栃木県	27	10.53	37	10.33	25	10.70	43	9.72	32	10.79	13	10.73	23	10.40	9	10.74	32	11.38	26	11.29	30	9.50	16	11.65	34	9.27	31	11.03	17	9.88
群馬県	39	10.28	47	9.96	46	9.74	31	9.91	37	10.48	19	10.60	28	10.10	26	10.05	1	12.71	23	11.30	36	9.35	20	11.57	47	8.70	28	11.07	10	10.14
埼玉県	46	10.15	30	10.44	47	9.69	12	10.56	8	11.70	47	9.85	25	10.26	47	8.71	34	11.34	45	10.89	38	9.29	9	11.78	34	9.27	47	10.21	33	9.32
千葉県	7	10.83	15	10.74	12	11.05	9	10.66	43	10.28	7	10.93	11	10.88	10	10.69	28	11.48	8	11.56	5	10.13	6	11.86	18	9.87	14	11.33	4	10.45
東京都	12	10.66	12	10.82	9	11.12	33	9.89	2	12.12	25	10.49	9	11.01	44	9.19	5	12.06	11	11.48	16	9.84	3	11.92	15	9.91	27	11.08	20	9.77
神奈川県	5	10.88	6	10.99	8	11.16	5	10.83	29	10.96	11	10.76	16	10.67	12	10.44	20	11.58	6	11.59	4	10.17	7	11.84	5	10.36	11	11.39	16	9.90
新潟県	23	10.57	33	10.38	25	10.70	44	9.71	24	11.10	11	10.76	5	11.26	31	9.90	29	11.45	38	11.13	20	9.78	41	11.17	31	9.45	26	11.09	9	10.18
富山県	25	10.55	11	10.85	5	11.31	19	10.31	27	10.99	35	10.26	25	10.26	42	9.47	12	11.84	42	11.01	13	9.90	29	11.44	14	10.03	43	10.64	22	9.75
石川県	12	10.66	9	10.87	2	11.59	25	10.08	25	11.03	26	10.44	13	10.85	38	9.69	41	11.14	20	11.34	18	9.79	31	11.37	7	10.28	15	11.31	35	9.28
福井県	19	10.62	24	10.59	23	10.79	16	10.47	39	10.45	17	10.64	27	10.25	3	11.04	44	10.63	28	11.28	22	9.69	18	11.64	26	9.62	33	11.00	19	9.79
山梨県	22	10.58	17	10.72	30	10.58	15	10.51	12	11.42	26	10.44	12	10.86	41	9.55	34	11.34	19	11.36	23	9.67	13	11.69	24	9.73	28	11.07	25	9.60
長野県	35	10.40	35	10.36	43	10.09	9	10.66	42	10.29	26	10.44	22	10.47	14	10.38	45	10.53	46	10.84	25	9.61	39	11.20	40	9.01	44	10.53	8	10.28
岐阜県	44	10.16	38	10.30	40	10.33	32	9.90	26	11.02	43	10.03	28	10.10	32	9.87	46	10.19	39	11.12	47	8.70	40	11.18	38	9.18	30	11.06	47	8.11
静岡県	16	10.65	19	10.70	16	10.95	39	9.84	5	11.93	19	10.60	21	10.51	29	9.98	6	12.03	22	11.32	21	9.76	31	11.37	13	10.04	18	11.27	31	9.39
愛知県	32	10.47	41	10.25	27	10.64	28	10.00	46	9.97	14	10.70	8	11.05	35	9.85	18	11.67	43	11.00	12	9.91	47	10.77	17	9.88	22	11.18	15	9.95
三重県	20	10.61	42	10.23	44	9.98	29	9.96	15	11.26	4	11.00	6	11.17	13	10.40	12	11.84	4	11.67	40	9.21	25	11.51	43	8.92	2	11.81	24	9.61
滋賀県	4	10.92	6	10.99	24	10.72	1	11.27	28	10.98	10	10.84	7	11.14	19	10.25	31	11.41	16	11.40	3	10.29	14	11.67	9	10.17	23	11.17	5	10.43
京都府	11	10.68	3	11.18	20	10.91	2	11.24	9	11.58	39	10.18	19	10.60	37	9.78	47	10.15	10	11.49	17	9.82	1	12.49	16	9.89	45	10.44	21	9.76
大阪府	17	10.64	4	11.05	19	10.92	4	10.94	10	11.57	38	10.22	15	10.69	43	9.23	37	11.24	32	11.24	14	9.88	8	11.80	11	10.14	42	10.72	26	9.59
兵庫県	3	11.00	15	10.74	37	10.42	6	10.82	16	11.23	2	11.25	2	11.34	5	10.92	16	11.73	1	11.99	27	9.57	3	11.92	37	9.19	1	12.06	14	10.03
奈良県	2	11.15	2	11.30	3	11.56	7	10.81	7	11.78	4	11.00	23	10.40	1	11.33	25	11.53	5	11.66	2	10.57	11	11.72	1	10.80	6	11.60	6	10.31
和歌山県	6	10.86	12	10.82	7	11.17	30	9.92	6	11.92	8	10.90	10	10.90	17	10.35	6	12.03	11	11.48	8	10.03	19	11.62	21	9.79	12	11.36	7	10.30
鳥取県	27	10.53	27	10.48	22	10.82	25	10.08	34	10.60	22	10.58	45	9.60	7	10.81	4	12.07	23	11.30	28	9.56	45	10.88	12	10.13	4	11.66	43	8.84
島根県	23	10.57	29	10.47	6	11.21	42	9.78	41	10.33	15	10.68	14	10.76	30	9.96	8	11.96	16	11.40	35	9.44	24	11.52	36	9.24	15	11.31	23	9.70
岡山県	29	10.50	33	10.38	38	10.38	22	10.23	33	10.69	18	10.61	34	10.05	6	10.90	40	11.17	7	11.57	42	9.15	10	11.75	46	8.88	10	11.42	27	9.47
広島県	37	10.38	32	10.40	15	10.98	45	9.35	14	11.32	31	10.37	42	9.88	14	10.38	36	11.32	40	11.10	31	9.47	38	11.22	28	9.58	33	11.00	32	9.35
山口県	20	10.61	20	10.66	30	10.58	19	10.31	11	11.51	24	10.56	17	10.64	39	9.59	3	12.32	15	11.41	33	9.46	23	11.55	23	9.74	17	11.30	40	9.08
徳島県	43	10.18	35	10.36	33	10.55	24	10.12	37	10.48	44	10.00	33	10.08	45	9.18	29	11.45	41	11.07	39	9.27	36	11.28	32	9.40	41	10.85	38	9.14
香川県	30	10.49	8	10.93	14	11.00	8	10.75	20	11.14	42	10.04	46	9.44	24	10.12	42	11.10	21	11.33	44	9.08	16	11.65	25	9.68	33	11.00	45	8.56
愛媛県	26	10.54	45	10.10	41	10.21	41	9.79	36	10.50	6	10.98	3	11.33	11	10.45	33	11.36	9	11.55	33	9.46	27	11.48	44	8.91	5	11.61	12	10.11
高知県	31	10.48	4	11.05	1	12.21	34	9.87	23	11.11	46	9.90	47	9.14	36	9.82	21	11.57	13	11.45	31	9.47	14	11.67	4	10.39	19	11.22	46	8.54
福岡県	35	10.40	27	10.48	35	10.53	18	10.37	35	10.59	32	10.33	35	10.03	34	9.86	11	11.85	29	11.27	28	9.56	43	11.09	9	10.17	9	11.43	41	8.93
佐賀県	12	10.66	22	10.64	32	10.57	13	10.54	30	10.95	15	10.68	31	10.09	18	10.27	2	12.67	23	11.30	10	9.94	25	11.51	22	9.77	25	11.11	10	10.14
長崎県	33	10.46	20	10.66	17	10.94	27	10.01	13	11.38	35	10.26	44	9.66	16	10.37	37	11.24	33	11.20	18	9.79	27	11.48	8	10.26	38	10.97	36	9.27
熊本県	8	10.77	26	10.52	21	10.84	34	9.87	18	11.18	3	11.02	18	10.63	2	11.05	17	11.71	13	11.45	6	10.06	20	11.57	33	9.37	13	11.34	2	10.77
大分県	18	10.63	9	10.87	10	11.10	14	10.52	22	11.12	30	10.40	36	10.01	22	10.20	23	11.55	36	11.15	6	10.06	33	11.35	3	10.58	36	10.98	29	9.44
宮崎県	9	10.74	23	10.60	3	11.56	34	9.87	44	10.14	9	10.89	3	11.33	28	10.00	15	11.76	30	11.26	9	9.99	33	11.35	29	9.55	21	11.19	3	10.50
鹿児島県	12	10.66	17	10.72	33	10.55	21	10.27	4	11.97	21	10.59	20	10.54	23	10.15	22	11.56	26	11.29	15	9.86	11	11.72	26	9.62	39	10.88	12	10.11
沖縄県	1	11.37	1	11.36	13	11.04	3	11.22	1	12.30	1	11.38	1	11.44	4	11.02	8	11.96	2	11.80	1	10.88	5	11.89	2	10.75	3	11.72	1	11.01

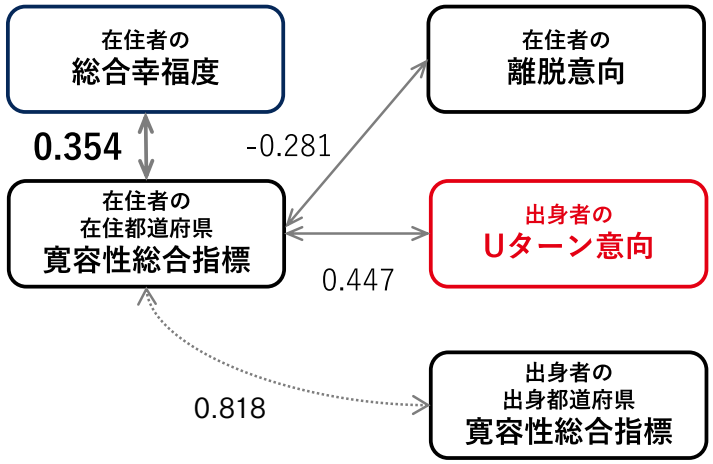
3. 地方のWell-being 指標と寛容性総合指標との相関

☐ 出身者　☑ 在住者

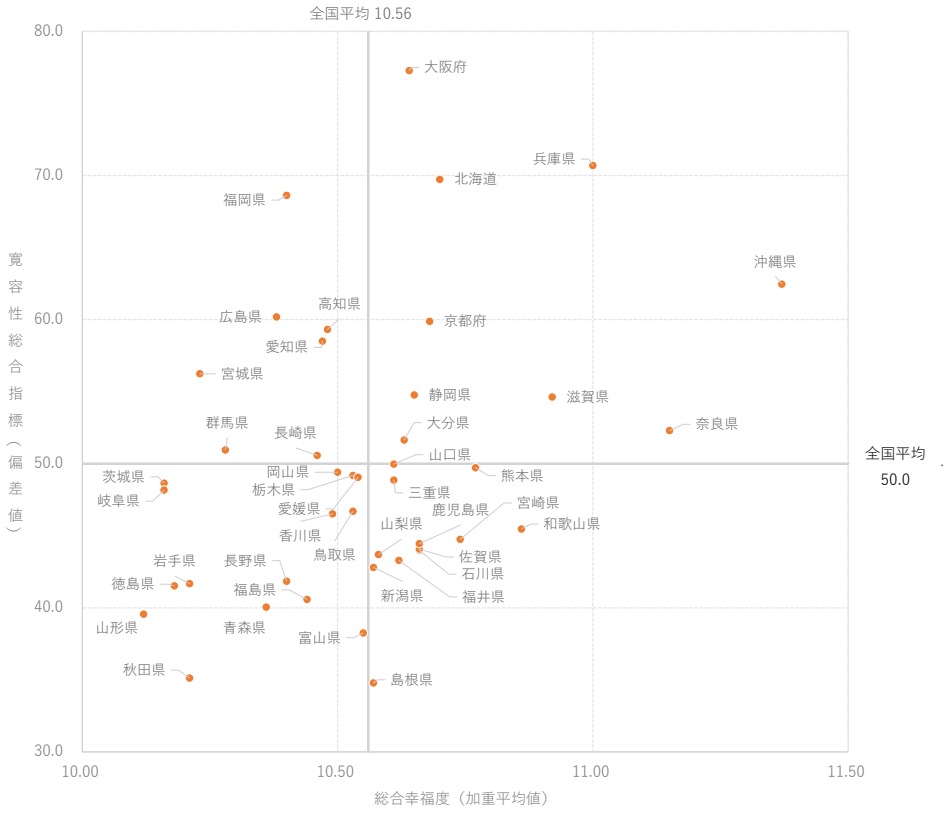
▶在住者の総合幸福度と寛容性総合指標との相関係数は0.354。

- 念のために、在住者の総合幸福度と寛容性総合指標の相関係数を算出した。
- 一般に単相関で0.4程度を相関があると判断することが多いが、若干弱いながらも総合幸福度と寛容性総合指標には正の相関があるとみてよい。
- 住む地域の寛容性が低くても幸せを感じる人はいる。あるいは低くあるべきだという価値意識もあり得る。しかし全体としては、寛容度が高いと感じられると幸福度が高くなる関係性にあることは確かである。

	【在住者調査】総合幸福度		【在住者調査】寛容性総合指標	
	順位	加重平均値	順位	偏差値
全体		10.56		
北海道	8	10.70	3	69.7
青森県	35	10.36	39	40.0
岩手県	38	10.21	36	41.7
宮城県	37	10.23	10	56.2
秋田県	38	10.21	42	35.1
山形県	43	10.12	40	39.6
福島県	31	10.44	38	40.6
茨城県	41	10.16	23	48.7
栃木県	24	10.53	20	49.2
群馬県	36	10.28	15	51.0
新潟県	20	10.57	34	42.8
富山県	22	10.55	41	38.3
石川県	10	10.66	31	44.0
福井県	16	10.62	33	43.3
山梨県	19	10.58	32	43.7
長野県	32	10.40	35	41.8
岐阜県	41	10.16	24	48.2
静岡県	13	10.65	11	54.8
愛知県	29	10.47	9	58.5
三重県	17	10.61	22	48.9
滋賀県	4	10.92	12	54.6
京都府	9	10.68	7	59.9
大阪府	14	10.64	1	77.3
兵庫県	3	11.00	2	70.7
奈良県	2	11.15	13	52.3
和歌山県	5	10.86	27	45.5
鳥取県	24	10.53	25	46.7
島根県	20	10.57	43	34.8
岡山県	26	10.50	19	49.4
広島県	34	10.38	6	60.2
山口県	17	10.61	17	50.0
徳島県	40	10.18	37	41.5
香川県	27	10.49	26	46.5
愛媛県	23	10.54	21	49.1
高知県	28	10.48	8	59.3
福岡県	32	10.40	4	68.6
佐賀県	10	10.66	30	44.1
長崎県	30	10.46	16	50.6
熊本県	6	10.77	18	49.7
大分県	15	10.63	14	51.6
宮崎県	7	10.74	28	44.7
鹿児島県	10	10.66	29	44.5
沖縄県	1	11.37	5	62.5
総合幸福度と寛容性総合指標との相関係数			0.354	



■総合幸福度×寛容性総合指標



※出身者調査は1都3県出身者のデータを採取していないため、相関係数の算出の際には
在住者調査から1都3県を除外し、43道府県のデータのみ用いている。
※従って、在住者の寛容性総合指標の偏差値、順位とも、47都道府県ベースの場合とは異なる数値になる。

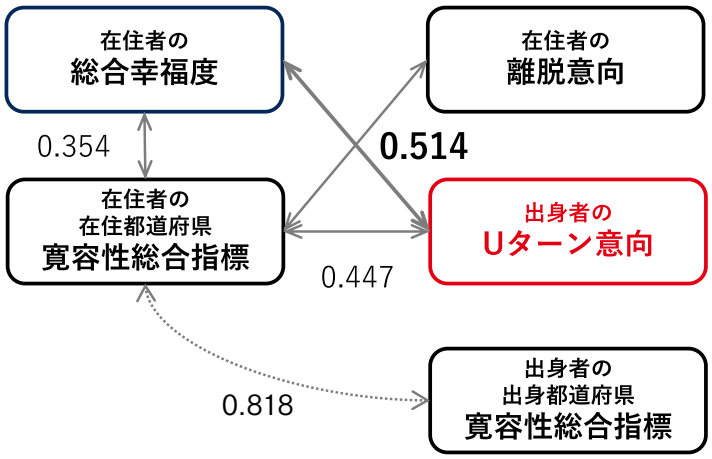
4. 地方のWell-being 指標とUターン意向との相関

☑出身者 ☑在住者

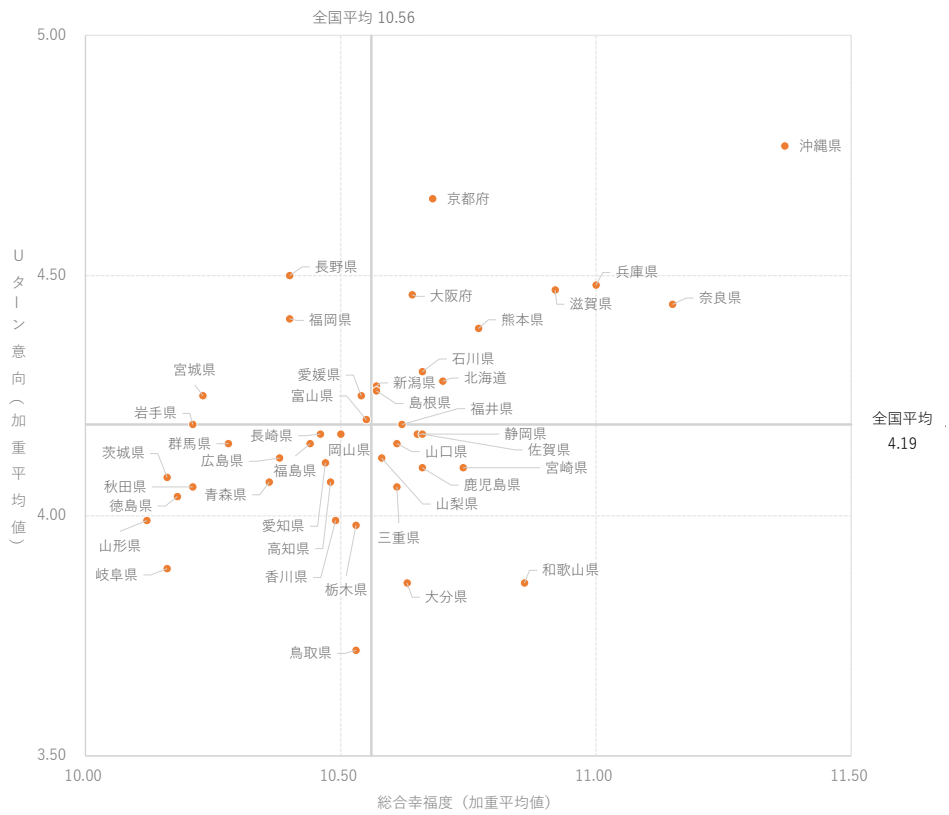
▶在住者の総合幸福度と出身者のUターン意向との相関係数は0.514。

- ◉ 前章で在住者の寛容性に関する評価と出身者のUターン意向との相関が相当に高いことは確認した。
- ◉ 在住者の総合満足度と出身者のUターン意向の相関も同程度に高水準である。
- ◉ 暮らしている人自身が幸福かどうかが、Uターン意向に大きく影響を及ぼしていることがわかる。

	【在住者調査】総合幸福度		【出身者調査】Uターン意向	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体		10.56		4.19
北海道	8	10.70	11	4.28
青森県	35	10.36	32	4.07
岩手県	38	10.21	17	4.19
宮城県	37	10.23	14	4.25
秋田県	38	10.21	34	4.06
山形県	43	10.12	37	3.99
福島県	31	10.44	23	4.15
茨城県	41	10.16	31	4.08
栃木県	24	10.53	39	3.98
群馬県	36	10.28	23	4.15
新潟県	20	10.57	12	4.27
富山県	22	10.55	16	4.20
石川県	10	10.66	10	4.30
福井県	16	10.62	17	4.19
山梨県	19	10.58	26	4.12
長野県	32	10.40	3	4.50
岐阜県	41	10.16	40	3.89
静岡県	13	10.65	19	4.17
愛知県	29	10.47	28	4.11
三重県	17	10.61	34	4.06
滋賀県	4	10.92	5	4.47
京都府	9	10.68	2	4.66
大阪府	14	10.64	6	4.46
兵庫県	3	11.00	4	4.48
奈良県	2	11.15	7	4.44
和歌山県	5	10.86	41	3.86
鳥取県	24	10.53	43	3.72
島根県	20	10.57	13	4.26
岡山県	26	10.50	19	4.17
広島県	34	10.38	26	4.12
山口県	17	10.61	23	4.15
徳島県	40	10.18	36	4.04
香川県	27	10.49	37	3.99
愛媛県	23	10.54	14	4.25
高知県	28	10.48	32	4.07
福岡県	32	10.40	8	4.41
佐賀県	10	10.66	19	4.17
長崎県	30	10.46	19	4.17
熊本県	6	10.77	9	4.39
大分県	15	10.63	41	3.86
宮崎県	7	10.74	29	4.10
鹿児島県	10	10.66	29	4.10
沖縄県	1	11.37	1	4.77
総合幸福度とUターン意向との相関係数			0.514	



■総合幸福度×Uターン意向



※出身者調査は1都3県出身者のデータを採取していないため、相関係数の算出の際には
在住者調査から1都3県を除外し、43道府県のデータのみ用いている。
※従って、在住者の寛容性総合指標の偏差値、順位とも、47都道府県ベースの場合とは異なる数値になる。

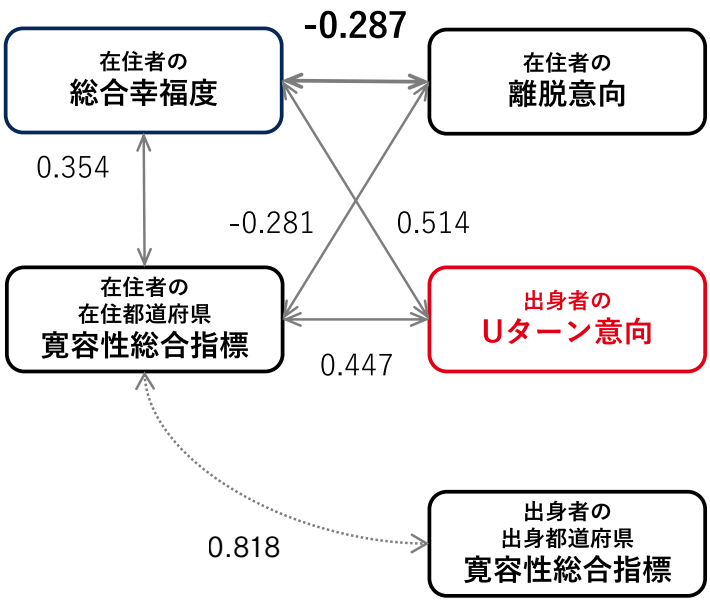
5. 地方のWell-being 指標と離脱意向との相関

☐ 出身者　☑ 在住者

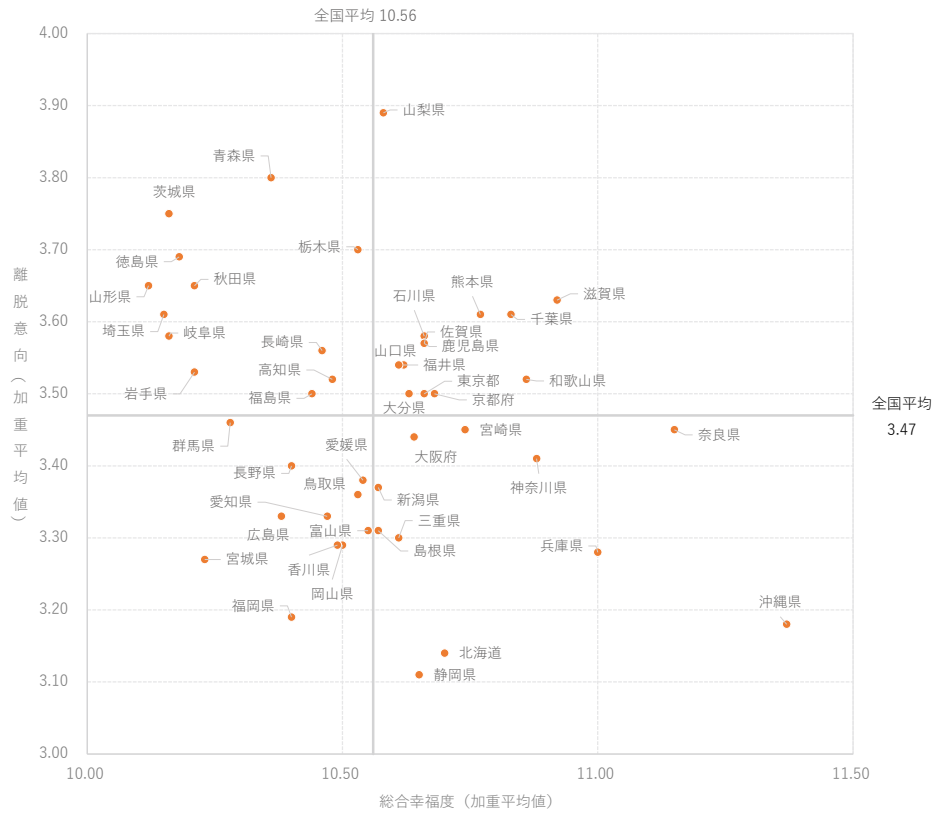
▶在住者の総合幸福度と離脱意向との相関係数は-0.287。負の相関関係にある。

- ◉ 在住者が幸福であればあるほどUターン意向は上昇する関係にあることを前項で確認した。
- ◉ 同時に、在住者が幸福であればあるほど離脱意向は低くなる。
  - • 絶対値0.3程度の相関係数のため、若干弱い相関ではある。

	【在住者】総合幸福度		【在住者】離脱意向	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体値		10.56		3.47
北海道	10	10.70	46	3.14
青森県	38	10.36	2	3.80
岩手県	41	10.21	19	3.53
宮城県	40	10.23	43	3.27
秋田県	41	10.21	6	3.65
山形県	47	10.12	6	3.65
福島県	34	10.44	22	3.50
茨城県	44	10.16	3	3.75
栃木県	27	10.53	4	3.70
群馬県	39	10.28	26	3.46
埼玉県	46	10.15	9	3.61
千葉県	7	10.83	9	3.61
東京都	12	10.66	22	3.50
神奈川県	5	10.88	30	3.41
新潟県	23	10.57	33	3.37
富山県	25	10.55	37	3.31
石川県	12	10.66	12	3.58
福井県	19	10.62	17	3.54
山梨県	22	10.58	1	3.89
長野県	35	10.40	31	3.40
岐阜県	44	10.16	12	3.58
静岡県	16	10.65	47	3.11
愛知県	32	10.47	35	3.33
三重県	20	10.61	39	3.30
滋賀県	4	10.92	8	3.63
京都府	11	10.68	22	3.50
大阪府	17	10.64	29	3.44
兵庫県	3	11.00	42	3.28
奈良県	2	11.15	27	3.45
和歌山県	6	10.86	20	3.52
鳥取県	27	10.53	34	3.36
島根県	23	10.57	37	3.31
岡山県	29	10.50	40	3.29
広島県	37	10.38	35	3.33
山口県	20	10.61	17	3.54
徳島県	43	10.18	5	3.69
香川県	30	10.49	40	3.29
愛媛県	26	10.54	32	3.38
高知県	31	10.48	20	3.52
福岡県	35	10.40	44	3.19
佐賀県	12	10.66	14	3.57
長崎県	33	10.46	16	3.56
熊本県	8	10.77	9	3.61
大分県	18	10.63	22	3.50
宮崎県	9	10.74	27	3.45
鹿児島県	12	10.66	14	3.57
沖縄県	1	11.37	45	3.18
総合幸福度と離脱意向との相関係数			-0.287	



■総合幸福度×離脱意向



Ⅳ 地方の実情と寛容性

1. 都道府県の気質 ――凝集性と開放性

☑出身者 ☑在住者

▶「人間関係が濃密でつながりが強い」「歴史や伝統が大切に守られている」「義理や人情が大切にされている」など『凝集性』関連項目で出身者が在住者のスコアを大きく上回る。

◉『開放性』関連項目の「誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある」も出身者の方が高いが、『凝集性』関連項目の差が相対的に大きい。

【在住者調査】

- 性・年代別にみると、女性・60代以上で「誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある」「よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある」が他の層と比べて高い。

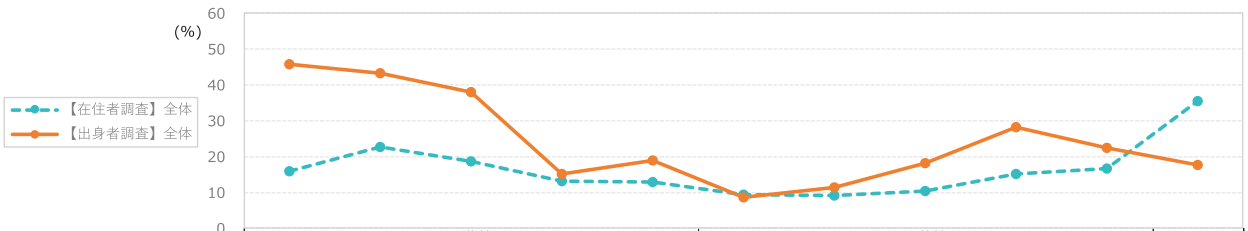
【出身者調査】

- 性・年代別にみると、女性30代で「義理や人情が大切にされている」が他の層と比べて高い。
- 性・未既婚別にみると、女性・未婚層で「人間関係が濃密でつながりが強い」が他の層と比べて高い。

■都道府県の気質評価（全体／複数回答）

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



			凝集性					開放性					
			人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容（かんよう）さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
【在住者調査】全体		(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
性・年代別	男性・計	(n=9400)	15.5	21.8	17.7	13.8	13.3	10.2	9.1	9.8	14.0	15.0	36.3
	男性・30代以下	(n=3760)	16.4	19.8	15.6	12.2	12.5	11.6	9.6	10.7	13.9	14.4	37.1
	男性・40～50代	(n=3760)	14.0	21.4	18.5	13.5	14.2	8.7	8.5	9.0	12.9	13.9	37.2
	男性・60代以上	(n=1880)	16.6	26.8	20.1	17.7	13.0	10.4	9.1	9.5	16.6	18.4	33.2
	女性・計	(n=9400)	16.4	23.7	19.7	12.5	12.5	8.5	9.4	11.1	16.4	18.2	34.9
	女性・30代以下	(n=3760)	17.5	21.8	17.7	9.4	11.5	8.7	9.1	11.9	15.0	16.7	36.6
	女性・40～50代	(n=3760)	15.6	23.7	19.5	12.8	13.2	7.7	9.0	9.5	15.2	17.3	35.5
	女性・60代以上	(n=1880)	15.5	27.7	23.9	18.0	13.1	9.7	10.4	12.9	21.5	22.7	30.2
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	16.5	24.1	20.5	14.6	13.2	9.6	10.2	11.1	16.7	18.6	31.4
	未婚・計	(n=7771)	15.8	22.2	17.1	11.7	12.9	9.3	8.1	10.0	14.0	15.0	39.3
	男性・既婚	(n=4808)	16.5	23.1	20.1	15.3	14.2	11.0	10.4	10.5	16.0	17.3	31.1
	男性・未婚	(n=4202)	15.2	21.8	15.6	12.8	12.9	9.6	7.8	9.3	12.4	13.4	40.3
	女性・既婚	(n=5538)	16.6	25.1	20.8	14.0	12.4	8.4	10.0	11.5	17.3	19.6	31.7
	女性・未婚	(n=3569)	16.5	22.6	18.7	10.5	13.0	8.9	8.5	10.9	15.9	16.9	38.1
【出身者調査】全体		(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
性・年代別	男性・計	(n=4300)	42.6	41.7	35.1	15.0	19.4	9.8	11.0	16.1	25.3	21.1	19.8
	男性２０代以下	(n=2150)	44.0	44.4	34.0	13.6	18.1	10.8	12.5	16.0	26.0	23.7	18.9
	男性３０代	(n=2150)	41.1	39.0	36.2	16.4	20.6	8.8	9.5	16.1	24.6	18.5	20.8
	女性・計	(n=4300)	49.0	44.9	41.0	15.4	18.6	7.7	12.0	20.3	31.1	23.8	15.5
	女性２０代以下	(n=2150)	49.8	45.2	38.4	14.2	16.5	8.5	12.5	21.8	31.5	26.0	16.1
	女性３０代	(n=2150)	48.2	44.7	43.6	16.6	20.8	6.9	11.5	18.7	30.6	21.5	15.0
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	45.4	42.4	41.2	16.1	20.8	7.3	11.2	18.0	28.5	21.3	16.6
	未婚・計	(n=4991)	47.6	45.2	37.6	15.1	18.4	9.7	12.1	18.8	29.1	23.9	16.6
	男性・既婚	(n=1500)	43.6	38.7	37.8	16.2	21.4	8.3	9.9	16.1	25.1	18.6	19.5
	男性・未婚	(n=2568)	43.9	44.8	35.1	14.8	18.7	10.8	12.1	16.5	26.5	23.4	17.9
	女性・既婚	(n=1682)	47.0	45.8	44.1	16.1	20.3	6.5	12.3	19.7	31.6	23.7	14.1
	女性・未婚	(n=2424)	51.6	45.6	40.2	15.3	18.1	8.5	12.2	21.3	31.9	24.5	15.3

※各全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者・在住者調査】Q5Q9

2. 都道府県の生活環境

☑出身者 ☑在住者

▶生活環境について、「住宅のコストや広さなど住環境がよい」「街並みや風景の美しさが大切にされている」「アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い」などのスコアは出身者が在住者を大きく上回る。

- 住宅環境、自然、街並みや景観について、より出身者の方が評価していることになる。
- 「鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい」、「面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある」は、出身者の方が在住者よりも比率が低い。
- 「音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い」、「センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い」などは双方とも低い水準である。

【在住者調査】

- 性・年代別にみると、「住宅のコストや広さなど住環境がよい」「街並みや風景の美しさが大切にされている」は男女ともに年代が上がるほどスコアが高い。

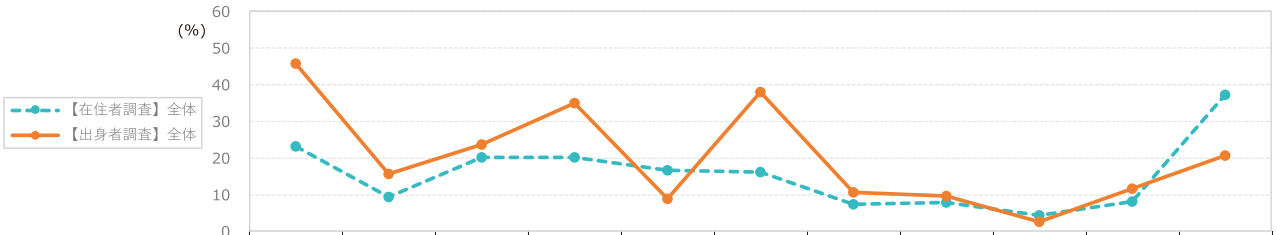
【出身者調査】

- 性・年代別にみると、女性30代は「アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い」のスコアが他の層と比べて高い。
- 性・未既婚別にみると、女性・既婚層は「アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い」のスコアが他の層と比べて高い。

■都道府県の生活環境評価（全体／複数回答）

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、あてはまるものをすべてお選びください。

【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



			住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
【在住者調査】全体		(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
性・年代別	男性・計	(n=9400)	22.8	9.7	20.9	19.3	16.0	16.8	7.2	8.4	5.2	8.5	36.5
	男性・30代以下	(n=3760)	19.2	10.7	18.7	17.6	15.2	17.0	7.6	10.9	7.3	8.9	36.8
	男性・40～50代	(n=3760)	22.7	9.0	22.0	19.4	15.7	15.6	6.9	6.8	4.0	7.5	37.4
	男性・60代以上	(n=1880)	30.4	9.1	23.2	22.4	18.3	18.5	7.0	6.5	3.3	9.8	33.8
	女性・計	(n=9400)	23.9	9.0	19.2	21.2	17.1	15.4	7.3	7.6	3.4	7.9	38.0
	女性・30代以下	(n=3760)	20.3	10.2	16.8	19.5	15.6	15.6	7.4	9.5	4.4	7.3	39.5
	女性・40～50代	(n=3760)	23.3	7.8	19.4	20.8	16.5	14.7	6.8	5.9	2.7	7.4	39.1
	女性・60代以上	(n=1880)	32.2	9.2	23.4	25.6	21.5	16.5	8.2	7.4	2.6	10.3	32.8
性・未既婚別	既婚・計	(n=10346)	26.7	9.2	21.9	21.7	17.0	17.7	7.3	7.9	4.2	8.8	33.6
	未婚・計	(n=7771)	20.1	9.9	18.8	19.3	16.9	14.5	7.5	8.5	4.3	7.7	40.4
	男性・既婚	(n=4808)	27.1	9.9	23.3	21.1	16.4	18.7	7.6	8.5	5.3	9.1	31.2
	男性・未婚	(n=4202)	19.4	9.8	19.6	18.3	16.3	15.3	7.0	8.5	5.0	8.1	40.4
	女性・既婚	(n=5538)	26.4	8.7	20.7	22.2	17.5	16.9	7.1	7.3	3.2	8.6	35.6
	女性・未婚	(n=3569)	20.9	10.1	17.7	20.4	17.5	13.5	8.1	8.5	3.6	7.3	40.4
【出身者調査】全体		(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
性・年代別	男性・計	(n=4300)	42.6	15.3	24.6	33.4	9.2	36.0	9.4	9.0	3.3	12.6	22.0
	男性２０代以下	(n=2150)	42.6	17.7	23.5	35.7	10.3	35.8	11.4	9.4	3.7	12.9	20.3
	男性３０代	(n=2150)	42.6	12.9	25.7	31.1	8.0	36.2	7.5	8.6	2.8	12.3	23.7
	女性・計	(n=4300)	48.9	15.9	23.0	36.4	8.8	39.8	11.7	10.1	1.9	10.7	19.2
	女性２０代以下	(n=2150)	48.7	18.3	20.1	38.5	8.9	36.1	13.1	10.9	2.0	12.1	18.6
	女性３０代	(n=2150)	49.0	13.5	25.8	34.3	8.7	43.5	10.2	9.4	1.9	9.3	19.9
性・未既婚別	既婚・計	(n=3182)	49.1	13.8	26.2	33.7	9.6	41.7	8.9	8.8	2.9	11.4	19.1
	未婚・計	(n=4991)	45.5	16.9	23.0	37.0	8.9	36.8	11.9	10.2	2.5	12.2	20.0
	男性・既婚	(n=1500)	45.9	12.6	27.2	31.9	8.7	38.3	7.5	7.7	3.1	12.4	20.6
	男性・未婚	(n=2568)	42.4	17.1	23.9	35.8	9.6	35.8	10.8	10.0	3.4	13.2	21.1
	女性・既婚	(n=1682)	51.9	14.9	25.4	35.3	10.4	44.7	10.2	9.7	2.7	10.6	17.7
	女性・未婚	(n=2424)	48.7	16.8	22.0	38.3	8.1	37.8	13.1	10.6	1.6	11.1	18.9

※各全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

【出身者・在住者調査】Q6Q10

3. 寛容性と都道府県の気質との関係

□ 出身者　☑ 在住者

都道府県別の寛容性総合指標の水準を四部位数を算出して分類し、第2四部位と第3四部位を中位、それ以外を上位、下位として都道府県をまとめ、クロス軸とした。

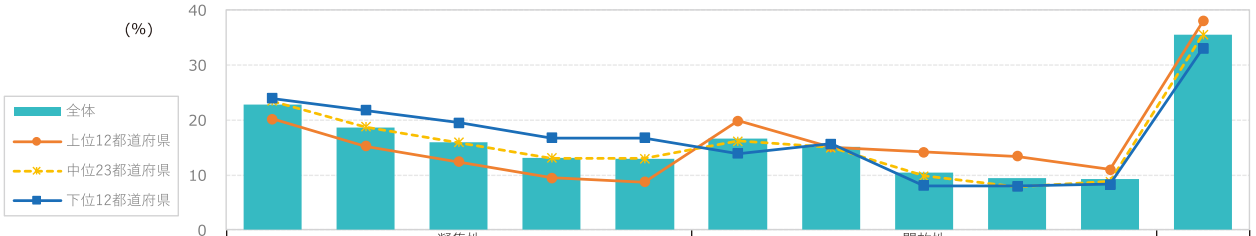
※地元（都道府県）の気質（空気・雰囲気）をどのように評価しているかについて、寛容性総合指標の高さ別にみた。

▶『凝集性』に関する項目はいずれも寛容性が低い都道府県ほどスコアが高い。
▶一方、『開放性』に関する項目は寛容性が高い都道府県ほどスコアが高い傾向がみられる。

◉「誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある」は、寛容性総合指標の高さによって差はみられない。

■都道府県の気質評価（在住者調査，全体／複数回答）

現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。



			凝集性					開放性						
			歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	人間関係が濃密でつながりが強い	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容（かんよう）さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
全体		(n=18800)	22.8	18.7	15.9	13.1	12.9	16.6	15.2	10.5	9.4	9.2	35.6
四寛別容部位性	上位12都道府県	(n=4800)	20.2	15.3	12.4	9.5	8.7	19.9	15.1	14.2	13.4	11.0	38.0
	中位23都道府県	(n=9200)	23.5	18.8	15.9	13.1	13.0	16.2	15.0	9.8	7.9	8.8	35.6
	下位12都道府県	(n=4800)	24.0	21.8	19.5	16.8	16.8	13.9	15.7	8.1	8.0	8.3	33.1

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q9

4. 寛容性と都道府県の生活環境との関係

□ 出身者　☑ 在住者

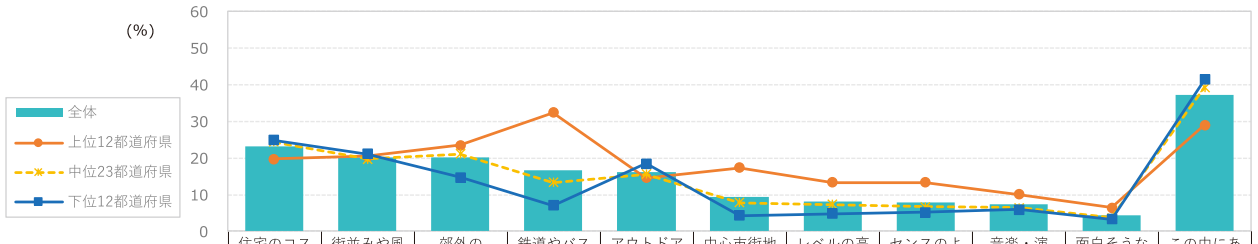
※地元（都道府県）の生活環境をどのように評価しているかを寛容性の高さ別にみた。

▶上位12都道府県でスコアが高い項目が多い。「郊外のショッピングモールが充実している」「鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい」といった“利便性”に関わる項目のほか、「中心市街地に活気がある」「レベルの高い進学校や大学がある」「センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い」「音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い」など“文化”に関わる項目でもスコアが高い。

- ◉ 今回設定した項目は、おおむね寛容性醸成の要因としても考えられるだろう。
- ◉ 一方で「住宅のコストや広さなど住環境がよい」や「街並みや風景の美しさが大切にされている」は、寛容性の高さ別には傾向がみられないか、むしろ上位12都道府県の比率が低い。
  - 寛容性総合指標の高い都道府県群には大都市を擁する都道府県も多く、その影響が出ていると考えられる。住宅施策が寛容性指標に逆効果というわけではないだろう。

■都道府県の生活環境評価（在住者調査，全体／複数回答）

現在お住まいの地域の生活環境について、あてはまるものをすべてお選びください。



			住宅のコストや広さなど住環境がよい	街並みや風景の美しさが大切にされている	郊外のショッピングモールが充実している	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	中心市街地に活気がある	レベルの高い進学校や大学がある	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	この中にあてはまるものはない
全体		(n=18800)	23.3	20.3	20.1	16.6	16.1	9.4	8.2	8.0	7.3	4.3	37.3
四寛部容位性別	上位12都道府県	(n=4800)	19.7	20.5	23.5	32.4	14.6	17.4	13.4	13.4	10.1	6.4	29.1
	中位23都道府県	(n=9200)	24.4	19.7	21.1	13.3	15.6	7.8	7.3	6.7	6.5	3.7	39.3
	下位12都道府県	(n=4800)	24.9	21.1	14.7	7.1	18.5	4.3	4.8	5.2	5.9	3.3	41.5

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※全体値の降順ソート　【在住者調査】Q10

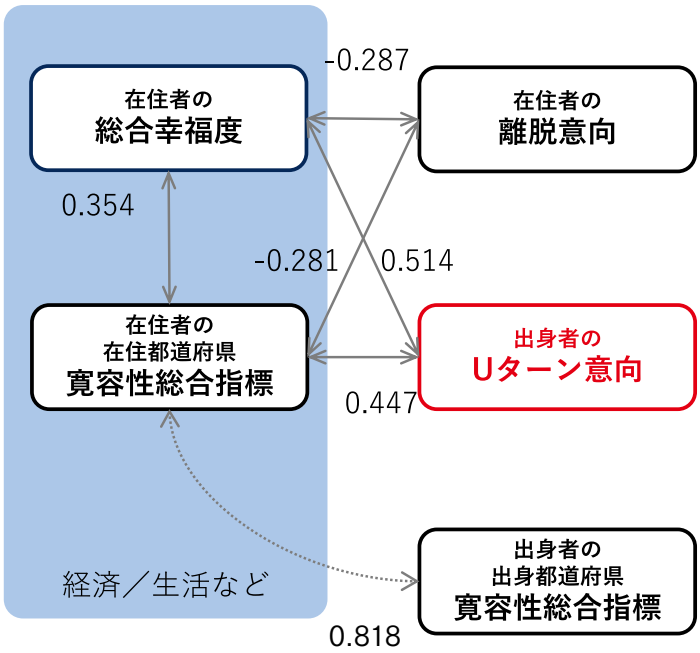
V Uターン意向を左右する要因の考察

1.Uターン意向と寛容性総合指標・Well-being指標

☑出身者 ☑在住者

- これまでの章で確認してきた出身者のUターン意向と在住者の寛容性総合指標、および総合幸福度の相関を以下にまとめる。
- Uターン意向が在住者の寛容性総合指標や総合幸福度と大きな関係があることをみてきたが、しかし、出身地の寛容性やそこに住む人々の幸福度だけでは説明しきれないのは当然である。
- 出身都道府県の経済状況、あるいは実際に就ける仕事の有無、文化環境などが大きく影響していることは否めないし、むしろそうした要因の方が大きいのが通常だろう。
- 次項では、そうした要素とUターン意向の関係を確認し、地方創生のファクターXを検討する材料としたい。

	【出身者調査】Uターン意向		【在住者調査】寛容性総合指標		【在住者調査】総合幸福度	
	順位	加重平均値	順位	偏差値	順位	加重平均値
全体値		4.19				10.56
北海道	11	4.28	3	69.7	8	10.70
青森県	32	4.07	39	40.0	35	10.36
岩手県	17	4.19	36	41.7	38	10.21
宮城県	14	4.25	10	56.2	37	10.23
秋田県	34	4.06	42	35.1	38	10.21
山形県	37	3.99	40	39.6	43	10.12
福島県	23	4.15	38	40.6	31	10.44
茨城県	31	4.08	23	48.7	41	10.16
栃木県	39	3.98	20	49.2	24	10.53
群馬県	23	4.15	15	51.0	36	10.28
新潟県	12	4.27	34	42.8	20	10.57
富山県	16	4.20	41	38.3	22	10.55
石川県	10	4.30	31	44.0	10	10.66
福井県	17	4.19	33	43.3	16	10.62
山梨県	26	4.12	32	43.7	19	10.58
長野県	3	4.50	35	41.8	32	10.40
岐阜県	40	3.89	24	48.2	41	10.16
静岡県	19	4.17	11	54.8	13	10.65
愛知県	28	4.11	9	58.5	29	10.47
三重県	34	4.06	22	48.9	17	10.61
滋賀県	5	4.47	12	54.6	4	10.92
京都府	2	4.66	7	59.9	9	10.68
大阪府	6	4.46	1	77.3	14	10.64
兵庫県	4	4.48	2	70.7	3	11.00
奈良県	7	4.44	13	52.3	2	11.15
和歌山県	41	3.86	27	45.5	5	10.86
鳥取県	43	3.72	25	46.7	24	10.53
島根県	13	4.26	43	34.8	20	10.57
岡山県	19	4.17	19	49.4	26	10.50
広島県	26	4.12	6	60.2	34	10.38
山口県	23	4.15	17	50.0	17	10.61
徳島県	36	4.04	37	41.5	40	10.18
香川県	37	3.99	26	46.5	27	10.49
愛媛県	14	4.25	21	49.1	23	10.54
高知県	32	4.07	8	59.3	28	10.48
福岡県	8	4.41	4	68.6	32	10.40
佐賀県	19	4.17	30	44.1	10	10.66
長崎県	19	4.17	16	50.6	30	10.46
熊本県	9	4.39	18	49.7	6	10.77
大分県	41	3.86	14	51.6	15	10.63
宮崎県	29	4.10	28	44.7	7	10.74
鹿児島県	29	4.10	29	44.5	10	10.66
沖縄県	1	4.77	5	62.5	1	11.37
Uターン意向との相関係数			0.447		0.514	



2. Uターン意向と既存統計データ

☑ 外部データ ☑ 出身者 ☐ 在住者

▶Uターン意向と強い正の相関を持つのは、社会増減率などの人口関連指標に加え、「学習・自己啓発・訓練行動者比率」「芸術・文化の行動者比率」といった生活関連指標のうち、文化・カルチャーに関する項目である。

◉ 人口関連指標、「学習・自己啓発・訓練行動者比率」、「芸術・文化の行動者比率」いずれも、相関係数の絶対値は0.4以上。

◉ その他の特徴として以下の点を指摘できる。
◉ 総人口に占める65歳以上の人口比率は、Uターン意向にマイナスに影響する。
◉ 1人あたりの県民所得は、Uターン意向には大きな影響を及ぼしてはいない。
◉ 持ち家比率はUターン意向と逆相関している。
- ただし、大都市を擁する都道府県のUターン意向が高いことが大きな要因である。

	【出身者】Uターン意向【加重平均値】		人口								経済								生活							
			人口増減率【%】		社会増減率（総人口）【‰】		総人口に占める割合 65歳以上 比率【%】		出生率（人口千対）		1人あたり県民所得（2011年基準）【千円】		1人あたり県民所得増加率【%】		平均有効求人倍率（2012.4~2021.3）		完全失業率【%】		共働き世帯比率【%】		持ち家比率【%】		学習・自己啓発・訓練行動者比率（「外国語」「人文・社会・自然科学」「芸術・文化」）【%】		芸術・文化の行動者比率【%】	
	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位	スコア
北海道	11	4.28	27	-0.7	18	-0.4	18	31.9	43	6.0	35	2,617	25	11.5	44	0.98	37	4.6	44	44.5	43	56.3	32	26.1	30	131.7
青森県	32	4.07	46	-1.4	46	-4.4	7	33.3	45	5.8	38	2,558	16	15.0	43	0.99	46	5.3	17	51.5	14	70.3	47	18.9	47	105.4
岩手県	17	4.19	44	-1.1	38	-2.8	8	33.1	46	5.7	31	2,737	2	22.8	27	1.21	17	4.0	12	53.7	17	69.9	40	22.6	44	114.9
宮城県	14	4.25	14	-0.4	14	0.2	38	28.3	30	6.5	21	2,926	9	18.8	10	1.40	40	4.9	34	48.8	42	58.1	14	30.3	13	150.5
秋田県	34	4.06	47	-1.5	45	-3.7	1	37.2	47	4.9	39	2,553	1	25.4	30	1.15	26	4.3	19	51.4	1	77.3	46	21.4	45	114.1
山形県	37	3.99	43	-1.1	43	-3.2	6	33.4	43	6.0	30	2,758	3	21.6	19	1.28	10	3.6	2	57.9	3	74.9	40	22.6	26	135.3
福島県	23	4.15	38	-1.0	38	-2.8	21	31.5	37	6.3	16	3,005	7	19.4	12	1.37	28	4.4	16	52.0	23	67.7	38	22.7	38	123.5
茨城県	31	4.08	23	-0.6	20	-0.7	33	29.5	33	6.4	10	3,116	14	16.4	23	1.24	33	4.5	26	50.3	12	71.2	18	28.9	18	143.9
栃木県	39	3.98	24	-0.6	29	-1.5	37	28.6	26	6.6	3	3,318	19	14.0	32	1.13	25	4.3	21	51.2	21	69.1	21	28.1	25	138.0
群馬県	23	4.15	19	-0.5	12	0.5	30	29.8	37	6.3	11	3,098	6	20.1	13	1.35	23	4.3	22	51.1	11	71.4	28	27.1	19	143.5
埼玉県			3	0.3	2	5.2	42	26.7	22	6.7	18	2,958	33	9.8	44	0.98	24	4.3	40	46.5	28	65.7	8	34.0	5	171.6
千葉県			7	0.1	4	3.8	39	27.9	26	6.6	15	3,020	39	7.3	39	1.04	22	4.1	43	45.4	30	65.4	4	39.2	4	172.8
東京都			1	0.7	1	8.2	46	23.1	7	7.6	1	5,348	47	-0.4	1	1.73	13	3.9	33	49.1	46	45.0	1	49.8	1	208.3
神奈川県			4	0.2	3	4.4	44	25.3	16	7.0	7	3,180	45	3.3	46	0.95	15	3.9	41	46.3	41	59.1	2	43.6	2	192.4
新潟県	12	4.27	39	-1.0	37	-2.7	13	32.4	41	6.2	27	2,826	22	11.8	16	1.30	11	3.7	8	54.7	7	74.0	44	21.7	34	128.3
富山県	16	4.20	22	-0.6	19	-0.5	14	32.3	33	6.4	5	3,295	34	8.9	8	1.51	2	3.1	3	57.1	2	76.8	25	27.5	9	160.6
石川県	10	4.30	15	-0.4	21	-0.8	32	29.6	16	7.0	23	2,908	37	8.1	6	1.52	4	3.4	4	56.1	18	69.3	13	30.5	12	155.5
福井県	17	4.19	33	-0.8	38	-2.8	25	30.6	16	7.0	8	3,157	46	2.9	2	1.68	3	3.3	1	60.0	3	74.9	31	26.6	24	138.7
山梨県	26	4.12	30	-0.7	34	-2.2	24	30.8	30	6.5	26	2,873	20	13.7	35	1.10	29	4.4	9	54.1	15	70.2	15	29.8	21	140.7
長野県	3	4.50	27	-0.7	27	-1.3	18	31.9	22	6.7	25	2,882	23	11.8	18	1.29	8	3.4	5	55.9	12	71.2	18	28.9	15	148.8
岐阜県	40	3.89	18	-0.5	15	0.0	28	30.1	26	6.6	28	2,803	42	6.3	5	1.54	5	3.4	10	53.8	5	74.3	12	30.9	23	139.5
静岡県	19	4.17	12	-0.4	11	0.6	29	29.9	26	6.6	4	3,300	38	7.8	24	1.23	16	4.0	13	53.1	25	67.0	22	27.6	22	139.6
愛知県	28	4.11	5	0.2	5	3.4	45	25.1	3	7.8	2	3,633	28	10.9	4	1.56	7	3.4	23	50.9	40	59.5	10	32.8	8	161.9
三重県	34	4.06	21	-0.6	25	-1.0	31	29.7	22	6.7	9	3,155	40	6.6	14	1.34	6	3.4	23	50.9	9	72.0	16	29.2	20	142.2
滋賀県	5	4.47	6	0.1	7	2.6	43	26.0	4	7.7	6	3,181	29	10.3	36	1.08	9	3.5	17	51.5	10	71.6	5	36.5	11	157.4
京都府	2	4.66	10	-0.3	10	0.7	35	29.1	22	6.7	21	2,926	32	10.2	24	1.23	27	4.4	38	46.8	39	61.3	3	43.1	3	175.4
大阪府	6	4.46	8	-0.1	6	2.7	41	27.6	10	7.3	13	3,056	44	5.1	15	1.33	45	5.3	46	44.0	44	54.7	9	33.0	10	160.5
兵庫県	4	4.48	11	-0.3	13	0.3	35	29.1	15	7.1	24	2,896	41	6.6	36	1.08	38	4.6	44	44.5	33	64.8	6	35.7	7	165.0
奈良県	7	4.44	26	-0.7	33	-1.9	22	31.3	37	6.3	40	2,522	43	5.6	33	1.12	42	4.9	47	42.0	6	74.1	6	35.7	6	168.2
和歌山県	41	3.86	41	-1.1	41	-2.9	8	33.1	33	6.4	19	2,949	36	8.3	33	1.12	32	4.5	37	47.3	8	73.0	34	25.1	33	129.5
鳥取県	43	3.72	29	-0.7	34	-2.2	16	32.1	14	7.2	45	2,407	18	14.4	21	1.27	14	3.9	7	54.9	22	68.8	35	25.0	39	122.8
島根県	13	4.26	35	-0.9	26	-1.2	3	34.3	20	6.9	34	2,619	21	12.2	11	1.39	1	2.9	6	55.5	15	70.2	35	25.0	40	122.6
岡山県	19	4.17	13	-0.4	16	-0.2	26	30.3	10	7.3	32	2,732	24	11.6	3	1.59	20	4.1	28	49.8	31	64.9	17	29.0	16	145.2
広島県	26	4.12	16	-0.5	21	-0.8	34	29.3	10	7.3	12	3,068	27	11.2	6	1.52	12	3.7	30	49.4	38	61.4	22	27.6	17	144.5
山口県	23	4.15	35	-0.9	29	-1.5	3	34.3	30	6.5	14	3,048	11	17.0	19	1.28	19	4.0	42	45.9	24	67.1	22	27.6	27	135.0
徳島県	36	4.04	42	-1.1	44	-3.5	5	33.6	37	6.3	17	2,973	13	16.7	26	1.22	43	5.0	32	49.2	20	69.2	30	26.7	35	127.5
香川県	37	3.99	24	-0.6	17	-0.3	20	31.8	16	7.0	20	2,945	26	11.5	9	1.50	18	4.0	31	49.3	18	69.3	25	27.5	29	132.8
愛媛県	14	4.25	37	-1.0	36	-2.3	10	33.0	33	6.4	33	2,656	8	18.9	16	1.30	31	4.4	35	48.1	27	66.5	27	27.2	36	125.9
高知県	32	4.07	44	-1.1	42	-3.1	2	35.2	41	6.2	37	2,567	5	20.2	40	1.01	41	4.9	20	51.3	31	64.9	40	22.6	46	108.2
福岡県	8	4.41	9	-0.1	8	1.9	39	27.9	2	7.9	29	2,800	31	10.2	28	1.20	44	5.3	39	46.6	45	52.8	11	31.0	13	150.5
佐賀県	19	4.17	17	-0.5	23	-0.9	26	30.3	4	7.7	43	2,509	35	8.8	38	1.05	21	4.1	10	53.8	26	66.9	29	27.0	32	129.6
長崎県	19	4.17	40	-1.0	47	-4.8	12	32.7	10	7.3	41	2,519	17	14.4	42	1.00	30	4.4	29	49.7	35	63.7	43	22.5	42	120.3
熊本県	9	4.39	19	-0.5	23	-0.9	23	31.1	4	7.7	42	2,517	12	16.9	22	1.25	34	4.5	14	52.6	37	61.9	33	25.8	37	124.0
大分県	41	3.86	34	-0.8	27	-1.3	11	32.9	21	6.8	36	2,605	30	10.2	29	1.16	35	4.5	36	48.0	36	63.6	37	24.1	28	133.9
宮崎県	29	4.10	31	-0.7	32	-1.7	14	32.3	7	7.6	45	2,407	15	16.0	30	1.15	36	4.6	15	52.1	28	65.7	38	22.7	43	116.5
鹿児島県	29	4.10	31	-0.7	29	-1.5	17	32.0	9	7.5	44	2,414	10	17.8	40	1.01	39	4.7	27	50.2	34	64.6	45	21.6	41	121.7
沖縄県	1	4.77	2	0.4	8	1.9	47	22.2	1	10.4	47	2,273	4	21.6	47	0.87	47	6.3	25	50.6	47	44.4	20	28.6	31	131.1
Uターン意向との相関係数			0.523		0.467		-0.492		0.424		-0.056		-0.104		-0.179		0.273		-0.239		-0.470		0.544		0.467	

3. Uターン意向の重回帰分析

☑外部データ ☑出身者 ☑在住者

▶目的

◉ 各都道府県のUターン意向率に、調査データから得られた寛容性総合指標、Well-being 指標のうち総合幸福度が大きな影響を与えていることが、これまでの分析で明らかになった。
◉ また前項の分析で、「人口」「経済」「生活」の各指標も各都道府県のUターン意向に大きな影響を持つことも確認できた。
◉ これらの各指標がUターン意向に与える影響の多寡を把握したい、というのが本項の目的である。
- 分析手法は重回帰分析を用いるが、Uターン意向を左右する要因をすべて精査しているわけではないこと、各要素間の相関の度合いを個々慎重に検討する材料が不足していること、サンプル数が43(都道府県)しかないことなどから、飽くまで試論である点をご了解いただきたい。

▶手順

◉ 前項でみた「人口」「経済」「生活」の3領域12項目と、在住者調査の寛容性総合指標、およびWell-being 指標のうち総合幸福度を説明変数、Uターン意向を被説明変数に設定して重回帰分析を行った。

◆被説明変数：U ターン意向

◆説明変数：

① 社会増減率(総人口)【%】
② 総人口に占める割合(65歳以上)【%】
③ 1人あたり県民所得(2011年基準)【千円】
④ 1人あたり県民所得増加率【%】
⑤ 平均有効求人倍率(2012.4～2021.3)
⑥ 共働き世帯比率【%】
⑦ 芸術・文化の行動者比率(「鑑賞型」「参加型」合計値)【%】
⑧【在住者調査】寛容性総合指標
⑨【在住者調査】総合幸福度

◉ 説明変数は、前項でみた「人口」「経済」「生活」の12項目のうち、「持ち家比率」のデータを除外した。
- 前項までの分析でふれた通り、大都市圏を擁する都道府県のUターン率が高い結果であることが十分考えられるため、攪乱要因として除外した。

◉ 「持ち家比率」以外の11項目と在住者調査の寛容性総合指標と総合幸福度、合計13項目を用いて分析を実施したが、多重共線性の一定の目安を超えたため、「人口」「経済」「生活」の3領域ごとに適宜選択した。
◉ その結果が上記の説明変数一覧である。
- 結果を先取りしていえば、多重共線性の問題はある程度の許容範囲内にある。
- なお重回帰分析を行うにあたり強制投入法を用いている。

☑外部データ ☑出身者 ☑在住者

▶分析結果

◆ モデルの「調整済みR2乗」のスコアが、今回のモデル自体の説明力を示す決定係数であり、9つの説明変数でUターン意向を44% 説明できるという意味合いである。

※「調整済みR2乗」は0から1の間の値をとる。

※ 一般に0.7程度以上あれば説明力は高いとされる場合が多い。今回の場合は説明力はやや不足するが、必ずしも否定される水準ではない。

◆係数の「標準化係数」が、その説明変数の影響度を示す。

■（9つの説明変数のうち）最もUターン意向に正の影響を与えているのは、「芸術・文化の行動者比率」である。

◉ 9つの説明変数の中で抜きんでている。

◉「芸術・文化の行動」が、（仕事があり理想的な環境の中で幸せに暮らしていける、といったような）ひとつの結果指標である可能性も高い。

■「寛容性総合指標」「総合幸福度」はUターン意向に正の影響を持つ。

◉「寛容性総合指標」は「総合幸福度」には及ばないが、それでも比較的大きな影響力を持つ。

■「経済」の領域の「1人あたり県民所得」はUターン意向に負の影響を持つ。「平均有効求人倍率」はほとんど影響力はない。

◉ 一見、奇異に思える結果であるが、「Uターンしようと思う人にとって地域全体の“景況感”は必要ない（可能性が高い）」と考えれば一定の説明はつくのではないか。よく耳にする「田舎に帰っても仕事がない」という状況は、今回設定した説明変数ではうまく説明できない可能性が高い。

	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
モデル	0.562	**0.442**	0.15746

係数		非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	有意確率	共線性の統計量（VIF）
係数	（定数）	-0.938	2.272		0.683	
	社会増減率（総人口）【%】	0.001	0.026	0.006	0.979	4.185
	総人口に占める割合（65歳以上）【%】	-0.003	0.017	-0.033	0.881	3.684
	1人あたり県民所得（2011年基準）【千円】	0.000	0.000	-0.235	0.167	2.077
	1人あたり県民所得増加率【%】	0.015	0.007	0.375	0.030	2.073
	平均有効求人倍率（2012.4~2021.3）	-0.053	0.193	-0.048	0.785	2.278
	共働き世帯比率【%】	0.013	0.010	0.236	0.208	2.556
	芸術・文化の行動者比率【%】	0.009	0.003	0.647	0.003	3.106
	寛容性総合指標	0.006	0.005	0.264	0.244	3.738
	総合幸福度	0.325	0.138	0.401	0.025	2.198

寄稿

地方創生のための寛容性と幸福の分析

有馬雄祐（ありま・ゆうすけ）

職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教。東京大学博士（工学）。専門は建築環境工学。

▶「D. 回帰分析の詳細」を本報告書 WEB 版で公開しています。 https://www.homes.co.jp/souken/report/202108/

1 日本の幸福度と幸福観

1.1 幸福度とは？

近年、幸福度という言葉を耳にする機会が増えてきたと感じている人は多いのではないだろうか。これは、2012年より国連が毎年発表している世界幸福報告書（World Happiness Report）による影響が大きい。幸福度の学術的な定義は様々だが、「あなたは自分の人生にどの程度満足していますか?」、或いは「あなたはどのくらい幸せですか?」といった問いで、幸福度は一般的に測定される。従来の社会科学では、国民1人当たりの所得（GDP）といった客観的な指標を基に、社会の豊かさが評価されてきた。しかし、そうした経済的な観点では捉えきれない、社会の豊かさがあるとの認識から、近年では幸福度という主観的な指標を使用したウェルビーイング研究が増えつつある。ちなみに、ウェルビーイング（Well-Being）は人生の主観的な側面と客観的な側面の両方を含む、人生の良い状態を意味する概念であり、主観的な幸福度を積極的に活用する点にウェルビーイング研究の最大の特色がある。

幸福度という、主観的な指標を基に世界を眺めてみると、経済的な観点や客観的な指標では捉え難い実態が見えてくる。2021年版の世界幸福報告書[1]で幸福度のランキングを確認してみよう。幸福度が1位の国はフィンランド（7.842）、2位はデンマーク（7.620）、3位はスイス（7.571）、4位はアイスランド（7.554）、5位はオランダ（7.464）、6位はノルウェー（7.392）、7位はスウェーデン（7.363）と、北欧諸国が上位を占めている。幸福度のランキングは測定の方法や時期によっても変動する。それでも、幸福度の分布にはある程度の安定した傾向がある事が知られており、2012年以降のどの年においても北欧諸国では高い幸福度が記録され続けている。北欧諸国の社会の良好さは、幸福度という主観的な指標によって可視化され、定量的に認識する事が可能となる。そうした認識を基に、高い幸福度の理由を探っていくと、効果的な福祉制度、格差是正への積極的な取り組み、政治への高い信頼と参加、互いの自由や信頼の感覚など、高い幸福度を支えているらしい社会の仕組みや価値観が存在している事実に改めて気付かされる[2]。歴史的背景や地理的要因など、各国にはそれぞれ独自の事情があるため、北欧型の社会の在り方が必ずしも普遍的に優れたものであるとは言えない。しかしながら、高い幸福度を誇る国々の社会の在り方からは、何らかの学ぶべきところはあるに違いないと思われる。幸福度という主観的な指標は、社会を観測するための新たなレンズを与えてくれるのである。

世界幸福報告書のランキングで使用されている幸福度は、キャントリルの梯子（Cantril Ladder）と呼ばれる、社会学者ハドレー・キャントリルが1965年に開発した尺度で測定されている。キャントリルの梯子（以降、「ラダー」と呼ぶ）では、考えうる最高の人生と最低な人生を想像してもらい、最高の人生を梯子の頂点（10点）、最低の人生を梯子の床（0点）とした場合、自分の人生が梯子のどの段階に位置しているのかを0点から10点で評価してもらう事で、個々人の幸福度を測定する。この他にも、幸福度には「嬉しい」「楽しい」といった感情に関わるものから、人生の意味や生き甲斐などのより複雑な幸福（後述するが、エウダイモニアと一般に総称される）に関わるものまで、様々な種類がある。ラダーで測定される幸福度は、認知的な領域に属する最も代表的な幸福度であり、「人生評価」や「人生満足」とも呼ばれている[3]。ちなみに、2021年版の

世界幸福報告書における日本の幸福度（ラダー）は56位の5.940点（2018～2020年の平均値）であり、客観的な社会経済的な状況から予測される値より低い傾向にある。

『地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論』の調査では、キャントリルの梯子（ラダー）を日本語訳した尺度を用いて、日本全国の18,800人を対象に幸福度を測定した。全都道府県が網羅された幸福度は、日本の幸福の実態を把握するための貴重なデータであると言える。また、本調査では「エウダイモニア（Eudaimonia）」と呼ばれる種類の幸福を測定している点においても特徴がある。認知的なものから感情的なものまで、幸福度には様々な種類が存在するが、幸福の形態は一般的にヘドニアとエウダイモニアに大別される[4]。「ヘドニア（Hedonia）」は、「快楽」とも訳され、欲求充足や感情との関わりが深い幸福の形態である。対するエウダイモニアはアリストテレスが『ニコマコス倫理学』で説いた幸福であり、「本当の自己」や「ダイモン（Daimon 心の内なる超越的存在）」に従って生きる善い人生が、エウダイモニアである。現代の実証的研究におけるエウダイモニアの定義は研究者ごと異なってはいるが、「自己成長」や「人生の意味」、或いは「潜在的能力の発揮」といった概念で一般的に定義されている[3,4]。本調査でもこれらの概念を基にエウダイモニアを定義して測定を試みた。また、キャントリルの梯子（ラダー）で測定される「人生評価」は、一般的にはヘドニアに属する幸福度であると考えられている※1。従って、ヘドニックな幸福度であるラダーで測定された人生評価（ラダー）と共に、本調査で測定したエウダイモニアは、日本の幸福の異なる側面を明かしてくれるに違いない。

また、本調査では幸福度に加えて、「幸福観」の測定も実施している。幸福観とは、個々人の幸福に対する価値観や、幸福を追求する志向性を意味する。幸福観の測定における既往の試みでは、ピーターソンら[5]が「幸福の志向性尺度（OHS: Orientations to Happiness Scale）」という、「喜びの追求」「没頭の追求」「意味の追求」の3つの幸福観の程度を測定する尺度を開発している。本調査では、個々人がヘドニックな人生を追求する程度と、エウダイモニックな人生を追求する程度の2種類の幸福観を、それぞれ「ヘドニック志向」及び「エウダイモニック志向」と名付けて、測定した。本調査におけるヘドニック志向は、幸福の志向性尺度（OHS）における「喜びの追求」と、エウダイモニック志向は「没頭の追求」や「意味の追求」とそれぞれ概念的な繋がりの深い幸福観である。測定された幸福観も、日本の幸福の実態を理解するうえでの手がかりとなるだろう。

1.2 日本の幸福度（人生評価とエウダイモニア）

キャントリルの梯子（ラダー）で測定した幸福度を、本調査では「人生評価（ラダー）」と呼ぶことにする。調査票では、「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか。あなたにとっての『最高の人生』を10点、『最低の人生』を0点とした場合、現在のあなたの人生の位置が何点くらいになるかをお答えください」という質問で測定した。

全国18,800人の「人生評価（ラダー）」の平均値は5.772（標準偏差は2.275）である。ただし、本調査では年齢構成は考慮していないため、平均値の値自体が日本の幸福度をそのまま表しているわけではない。図1.1にラダーで測定した18,800人の人生評価の頻度分布を示す。5点から8点の頻度が高く、7点が最頻値となっている。

都道府県ごとの幸福度に関する考察は本編に譲るが、ここでも簡単に触れておくと、上位は1位が沖縄県（6.218）であり、次いで2位が滋賀県（6.165）、3位は奈良県（6.105）、4位は兵庫県（6.02）、5位は和歌山県（5.988）と関西の県が続き、6位が千葉県（5.928）、7位は神奈川県（5.908）である。東京都の人生評価は5.743点で28位である。下位では44位が茨城県（5.543）、45位は山形県（5.538）、46位は徳島県（5.538）、47位は秋田県（5.503）である。都道府県の幸福度を、2021年版世界幸福報告書における世界の幸福度ランキングと比較した場合、国内1位の沖縄県の値は、世界で

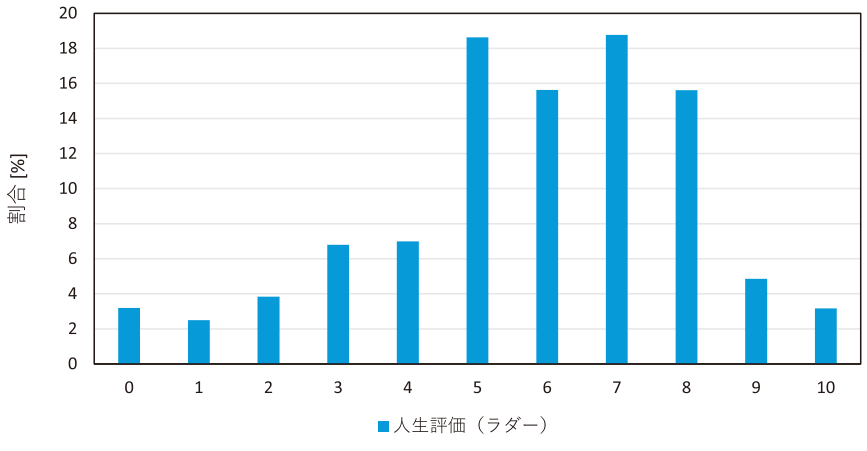
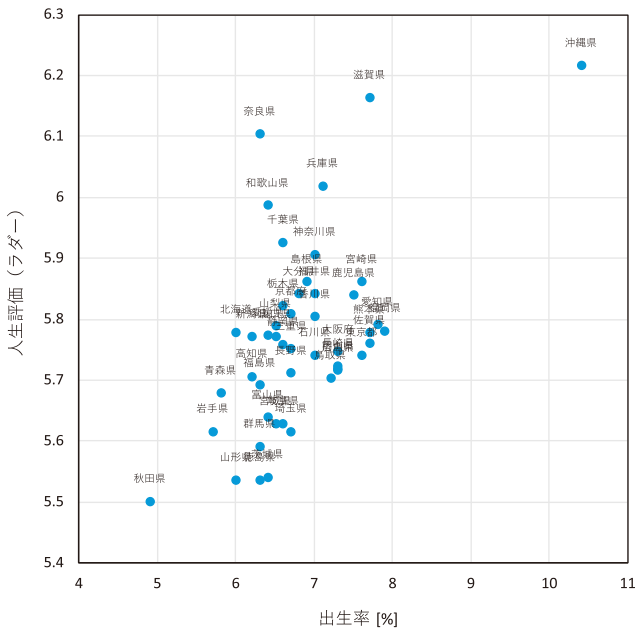
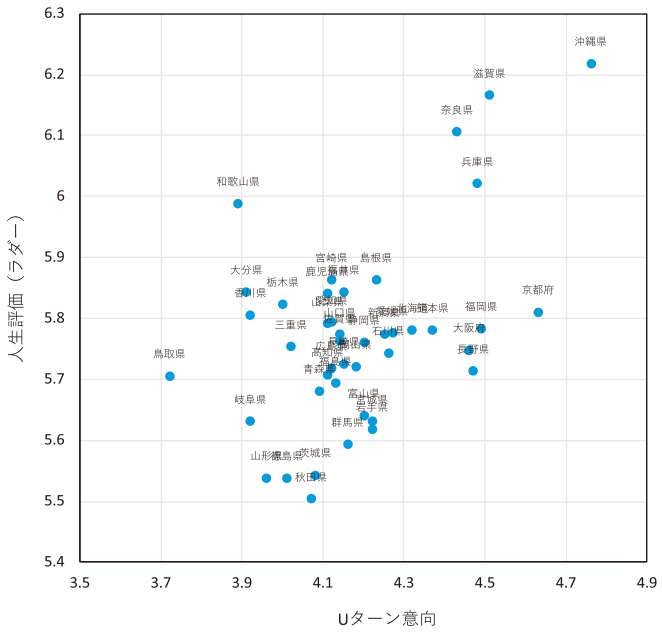


図 1.1 人生評価（ラダー）の頻度分布（平均値 5.772, 標準偏差 2.275）

※1 「人生評価（人生満足）」をヘドニアに区分すべきか否かについては、研究者の間で意見の相違もある。しかし、複数の幸福度の要素を使った因子分析の結果では、人生評価はエウダイモニアよりも感情などのヘドニックな幸福に近い傾向がある事が確認されており、一般的にはヘドニアとして扱われる[4]。本報告書においても、ラダーで測定された「人生評価（ラダー）」はヘドニックな幸福の形態と見なす。



（a）出生率（相関係数 0.573）



（b）U ターン意向（相関係数 0.488）

図 1.2　都道府県の出生率・U ターン意向と人生評価（ラダー）の散布図

は39位のキプロス（6.223）や40位のエストニア（6.189）と同程度の値であり、最下位の秋田県の値は世界では75位のベルラーシ（5.534）や76位のロシア（5.477）と同程度である。従って、国内の都道府県の幸福度のバラツキは、世界の幸福度ランキングにおける約40位から75位の35カ国ほどの幅があり、それなりのバラツキがある印象を受ける。

しかしながら、都道府県の幸福度ランキングの細かな順位はあまり気にしないでもらいたい。と言うのも、幸福度は基本的に個人の要因からの影響が強く、都道府県レベルの差異は個々人の幸福度のバラツキに比べればずっと小さい[※2]。従って、本報告書における都道府県の平均的な幸福度の値は、本調査で抽出されている回答者に依るところも多分にあるものと推察される。とは言え、都道府県レベルの幸福度は、その地域で暮らす人々の生活の豊かさの総合的な指標としては有効なものであり、また、外部統計との関係性を見るに、社会の良好さを確かに反映しているようである。例えば、本調査の主題である地方創生に関わる出生率と幸福度の関係性を確認してみよう。図1.2（a）は都道府県の人口千人当たりの出生率[※3]と人生評価（ラダー）の散布図である。相関係数は0.573と小さくない正の相関が観測され、幸福度（人生評価）が高い都道府県ほど出生率も高い傾向がある。また、本調査では首都圏に移住してきた回答者を対象に、出身都道府県ごとのUターン意向[※4]を調査している。図1.2（b）は都道府県ごとのUターン意向と人生評価（ラダー）の散布図である。相関係数は0.488であり、幸福度が高い都道府県ほど出身者のUターン意向は高い傾向にある。地方創生という課題を考えるうえでも、幸福は考慮すべき重要な要因であるようだ。

既に述べた通り、人生評価（ラダー）はヘドニックな幸福度であると考えられているが、幸福にはエウダイモニアと呼ばれる異なる種類のものがある。本調査では、エウダイモニアを「自己成長」「潜在的能力の発揮」「人生の意味」の3つの要素で定義し、測定した。調査票では、「ご自身や自分の生活について、あなたはどのように感じていますか。以下の内容がどのくらい当てはまるかについて、「非常にそう思う」を10点、「まったくそう思わない」を0点とした場合、何点くらいになるかをお答えください」というに質問に対して、「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」を0点から10点で回答してもらい、これらの平均値としてエウダイモニアを測定した。

全国18,800人のエウダイモニアの平均値は5.308（標準偏差2.074）である。図1.3にエウダイモニアの頻度分布を示す。比較のため、人生評価の頻度分布も併せて示す。エウダイモニアの最頻値は5点であり、人生評価（ラダー）と比較して6点以上を申告する人の割合は少ない。個々人のエウダイモニアと人生評価の相関係数は0.595であり、人生評価が高い人はエウダイモニアも高い傾向がある。

エウダイモニアと人生評価は正の相関があるが、私たちの幸福にはヘドニックな人生評価だけでは捉えられない側面が、確かに存在しているようである。図1.4に、就業形態ごとの人生評価とエウダイ

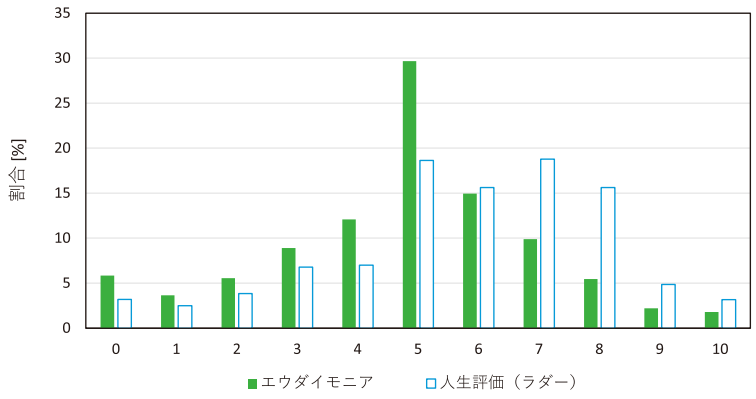


図 1.3 エウダイモニアの頻度分布（平均値 5.308, 標準偏差 2.074）

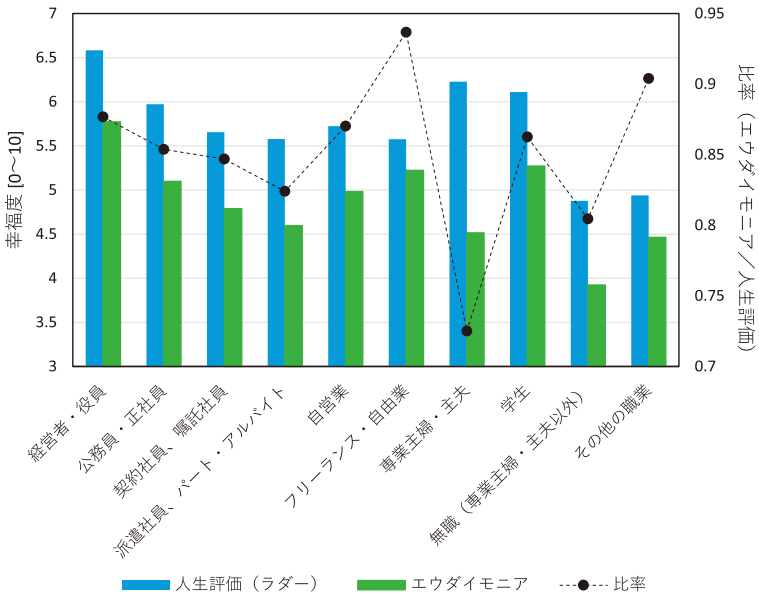


図 1.4 就業形態ごとの幸福度の平均値、及び比率

のように、人生評価とエウダイモニアの両方が高い県がある一方で、熊本県（人生評価18位、エウダイモニア3位）や北海道（人生評価18位、エウダイモニア6位）、東京都（人生評価28位、エウダイモニア6位）や石川県（人生評価28位、エウダイモニア6位）のように、人生評価は低いがエウダイモニアは高い都道府県もある。反対に、滋賀県（人生評価2位、エウダイモニア28位）のように、人生評価は高いがエウダイモニアが低い県もある。

1.3 幸福観（ヘドニック志向とエウダイモニック志向）

幸福を考えるうえでは、幸福に対する価値観、すなわち幸福観も、重要な問題である。本調査では、欲求追求型のヘドニックな幸福観と、自己成長や人生の意味を追い求めるエウダイモニックな幸福観の2種類の幸福観を測定しており、それぞれの幸福観を「ヘドニック志向」と「エウダイモニック志向」と呼ぶことにする。ヘドニック志向は、今の楽しみに最大の関心を寄せる享楽的な幸福観である。対するエウダイモニック志向は、未来や理想に重きを置く幸福観である。調査票では、「ご自身や自分の生活について、あなたはどのように感じていますか。以下の内容がどのくらい当てはまるかについて、『非常にそう思う』を10点、『まったくそう思わない』を0点とした場合、何点くらいになるかをお答えください」という質問に対して（エウダイモニアと同じ形式）、ヘドニック志向を表現した3項目、エウダイモニック志向を表現した3項目をそれぞれ0点から10点で回答してもらい、3項目の平均値で評価した。ヘドニック志向の3項目は、「私にとって良い人生とは、悩みや苦労がない人生である」「先のことなど分からないのだから、きょう一日が楽しければそれでいい」「難しいことはさておき人生楽しんだもの勝ちだと思う」であり、「不快の回避」「現在志向」「快楽の追求」に関わる概念で構成している。エウダイモニック志向の3項目は、「私は死ぬまで人として成長し続けたいと思う」「自分の力が試されるような状況が好きだ」「私は自分の存在価値や人生の意味を求めている」という、「成長志向」「挑戦志向」「意味の

モニアの平均値、及び就業形態ごとのエウダイモニアを人生評価で割った比率を示す。「フリーランス・自由業」はエウダイモニアの人生評価に対する比率が高いが、反対に「専業主婦・主夫」ではその比率が低いなど、就業形態ごと幸福の在り方には違いが見られる。また、都道府県の人生評価（ラダー）とエウダイモニアのランキングでは（調査パートの「Ⅲ. Well-being 指標」参照）、沖縄県（人生評価1位、エウダイモニア1位）や奈良県（人生評価3位、エウダイモニア2位）

※2 人生評価及びエウダイモニアの個人レベルの分散（バラツキ）に対する集団（都道府県）レベルの分散（バラツキ）は小さく、幸福度は基本的に個人の要因からの影響が強い。詳細は「2. 幸福を決める要因」を参照。

※3 「出生率」は厚生労働省の令和元年人口動態統計、「1人当たり県民所得」と「65歳以上の割合」はe-Statの統計でみる都道府県のすがた2021、「平均寿命」は厚生労働省の平成27年都道府県別生命表のデータを使用。

※4 Uターン意向の詳細は調査パートの「Ⅰ. 人口増加のための基礎データ」を参照。

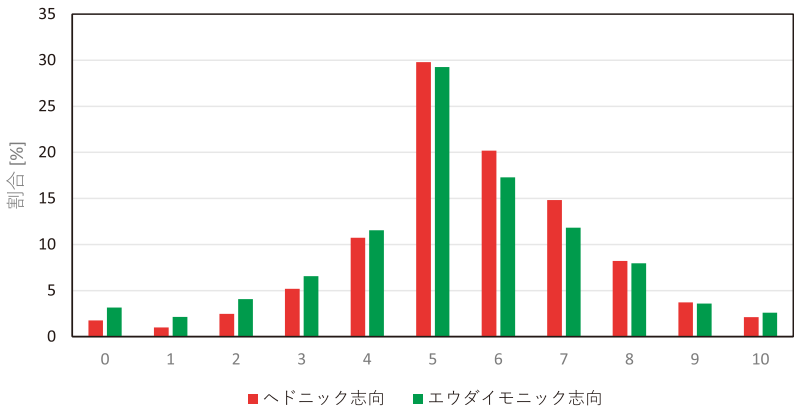


図 1.5 ヘドニック志向とエウダイモニック志向の頻度分布（平均値 5.586, 5.308）

表 1.1 幸福度と幸福観の相関係数（N＝18800）

	人生評価（ラダー）	エウダイモニア	ヘドニック志向	エウダイモニック志向
人生評価（ラダー）	1.000			
エウダイモニア	0.595	1.000		
ヘドニック志向	0.325	0.394	1.000	
エウダイモニック志向	0.426	0.690	0.447	1.000

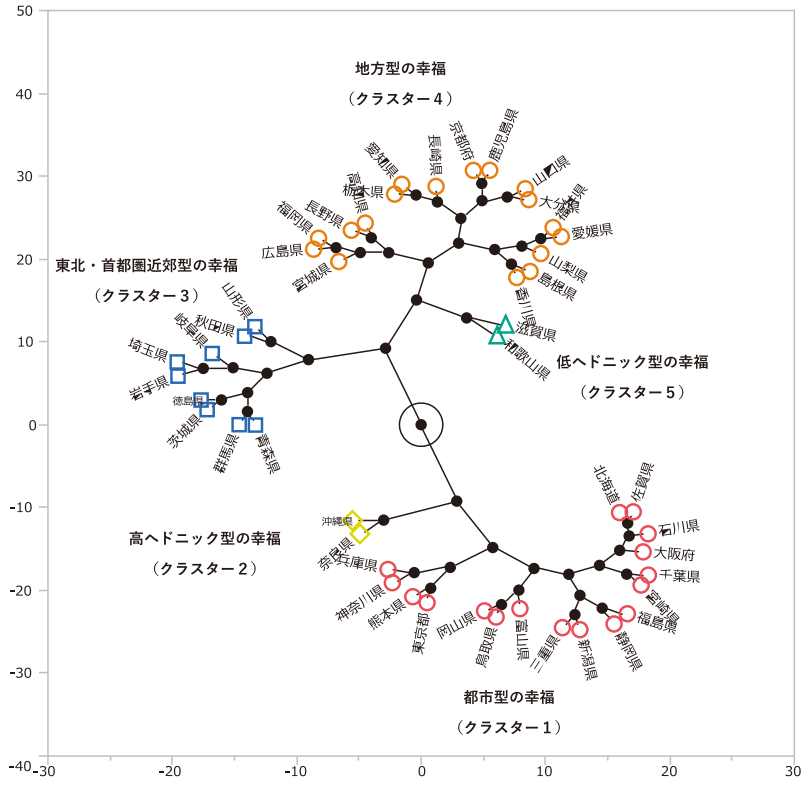


図 1.6 都道府県を幸福の要素でクラスター分析した星座樹形図[※5]

追求」の概念で構成されている。

全国18,800人のヘドニック志向とエウダイモニック志向の平均値は5.586点（標準偏差 1.839）と5.308点（標準偏差 2.074）であり、ヘドニック志向の方が平均値はやや高い。図1.5にヘドニック志向とエウダイモニック志向の頻度分布を示す。いずれの最頻値も5点であり、次いで6点が多くなっている。また、興味深いのは、個々人のヘドニック志向とエウダイモニック志向の相関係数は0.447であり、小さくない正の相関がある。両者は概念的にかなり異なった幸福観であるように思われるが、ヘドニック志向とエウダイモニック志向は互いに相反する幸福観ではない事が分かる。

幸福観と幸福度の関係性はどのようになっているのだろうか。表1.1は、幸福度と幸福観の各要素の相関係数である。ヘドニック志向とエウダイモニック志向は、いずれも人生評価（ラダー）と正の相関があり（相関係数は0.325と0.426）、どちらの幸福観も高い人ほど、幸福度も高い傾向がある。

1.4 都道府県の幸福

全国の都道府県の幸福の実態についても確認してみよう。都道府県の幸福の傾向を大まかに把握するため、ここでは階層型クラスター分析（Ward法）[※5]を用いて、全国の都道府県を幸福度と幸福観の傾向で分類してみる。図1.6は、クラスター分析の結果を2次元の平面で視覚的に表した星座樹形図である。各都道府県が端点で表現され、各クラスター結合は点で表現されている。クラスター結合間の線の長さが、結合されたクラスター間のおおよその距離（幸福の傾向の近さ）を表している。

クラスター分析の結果、幸福の傾向が異なる5つのクラスターが得られた。各クラスターの幸福度と幸福観を、全国の都道府県の平均値と標準偏差で標準化した結果を図1.7に示す。クラスター1は、人生評価はそれほど高くないが、エウダイモニアやヘドニック志向が高い傾向にある。東京都、石川県、北海道、大阪府など、大都市を抱える都道府県が多く属している事から、クラスター1の幸福の在り方を「都市型の幸福」と呼ぶことにする。クラスター2は、いずれの幸福度と幸福観も高い傾向があり、沖縄県と奈良県から成る。クラスター3は、幸福度と幸福観のいずれも低い傾向がある。青森県

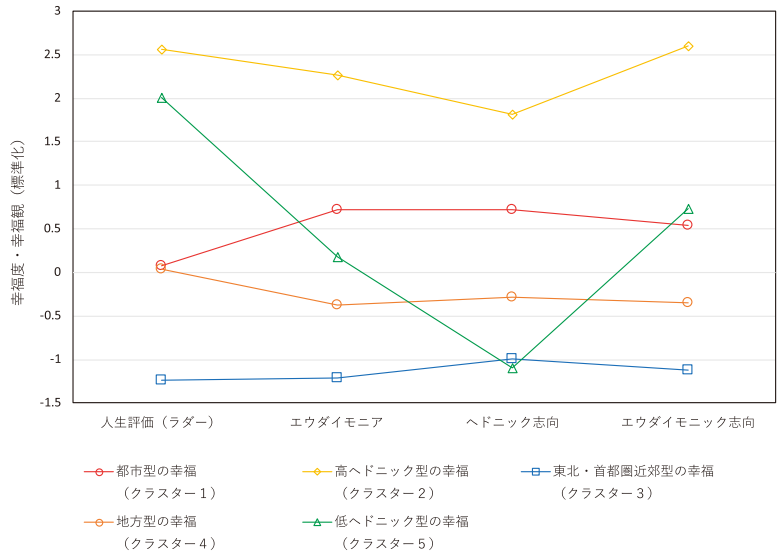
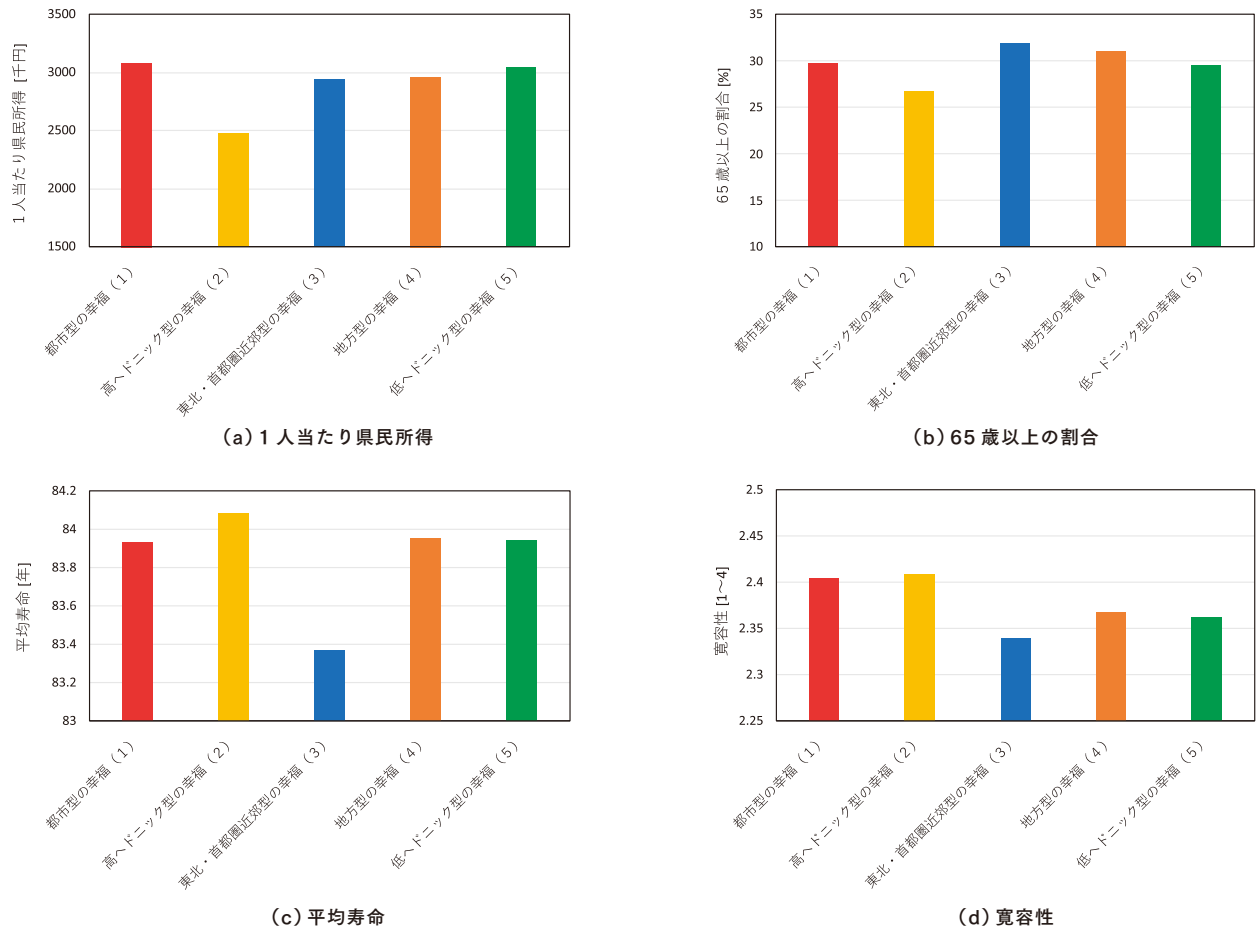


図1.7 各クラスターの幸福度と幸福観（標準化）

や山形県などの東北地方や、埼玉県や群馬県などの首都圏近郊の都道府県が属するため、クラスター３を「東北・首都圏近郊型の幸福」と呼ぶことにする。クラスター４は、いずれの幸福も中程度であるが、人生評価（ラダー）がやや高い傾向にある。愛知県、愛媛県、広島県など、いわゆる地方と呼ばれる都道府県が多く属しているため、クラスター４を「地方型の幸福」と呼ぶことにする。クラスター５は、人生評価（ラダー）が非常に高いが、ヘドニック志向の低さが特徴的であり、滋賀県と和歌山県から成る。クラスター２とクラスター５はいずれも高い人生評価（ラダー）を誇るが、クラスター２はヘドニック志向も高いのに対して、クラスター５はヘドニック志向の低さに特徴がある。そこで、クラスター２における幸福を「高ヘドニック型の幸福」、クラスター５の幸福を「低ヘドニック型の幸福」と呼



（a）１人当たり県民所得　（b）65歳以上の割合

（c）平均寿命　（d）寛容性

図1.8 各クラスターの外部統計値と寛容性の平均値

※5 階層型クラスター分析は統計ソフトJMP 14.2を使用して、Ward法で実施した。図1.6の星座樹形図も同ソフトで作成した。

ぶことにする。

都道府県ごとの分析は本編で行われるが、ここでは幸福による都道府県のクラスターごとの大まかな特徴を把握しておくとする。図1.8（a）～（c）に、各クラスターの「1人当たり県民所得」「65歳以上の割合」「平均寿命」の平均値を示す※3。また、図1.8（d）は本調査の主題の一つである「寛容性」※6の平均値である。

沖縄県と奈良県が属する「高ヘドニック型の幸福（クラスター2）」は高い幸福度を誇るが、図1.8（a）の1人当たり県民所得を見るに、その高い幸福度の要因は経済的豊かさではないようである。一方、同様に高い幸福度を誇る滋賀県と和歌山県が属する「低ヘドニック型の幸福（クラスター5）」では、その高い幸福度は経済的豊かさとも関連がありそうである。図1.8（b）の65歳以上の割合は、「東北・首都圏近郊型の幸福」で高く、これらの都道府県の幸福度や幸福観の低さは高齢化の問題とも関連しているものと推察される。また、図1.8（c）の平均寿命を見るに、「東北・首都圏近郊型の幸福」は平均寿命も低い傾向があり、幸福の問題は身体的な健康とも関連する可能性が示唆されている。また、図1.8（d）の寛容性は、「高ヘドニック型の幸福（クラスター2）」と共に「都市型の幸福（クラスター1）」で高い傾向があり、寛容性はエウダイモニアやヘドニック志向との関係性が強い地域の特性のようである。

1.5　まとめと分析の方針

以上、ここでは本調査における幸福の概要について、日本の実態と共に確認した。知見を以下に箇条書きで記す。

- 都道府県の幸福度は何らかの社会の良好さを反映しているようであり、出生率やUターン意向と正の相関がある。
- 都道府県を幸福度・幸福観でクラスター分析した結果、日本の幸福の在り方は、「都市型の幸福（東京都、石川県、北海道）」「高ヘドニック型の幸福（沖縄県、奈良県）」「東北・首都圏近郊型の幸福（青森県、群馬県、埼玉県など）」「地方型の幸福（愛知県、愛媛県、広島県など）」「低ヘドニック型の幸福（滋賀県、和歌山県）」に分けられる。
- エウダイモニアと共にヘドニック志向も高い都道府県（「都市型の幸福」「高ヘドニック型の幸福」）で寛容性は高い傾向がある。

以降の分析では、「2. 幸福を決める要因」で個々人の幸福度を対象とする回帰分析を実施して、幸福を左右する要因を明らかにする。また、本調査の主題である地方創生にとって重要な個々人の離脱意向を決める要因を、「3. 離脱意向と幸福及び寛容性」において分析する。本調査は、幸福と共に寛容性が地方創生にとって重要な要因であるとの仮説を立てており、寛容性が離脱意向に与える影響も評価する。「4. 寛容性を育む要因」では、個々人の寛容性の評価を対象とした回帰分析を実施して、寛容性を決める要因について分析する。

2 幸福を決める要因

2.1　分析手法

幸福は人生における多様な要因が関係する、複合的な問題である。従って、幸福度を左右する要因の分析では、多様な要因を同時に考慮する必要がある。そこで、回帰分析により幸福度に影響する要因を分析する。回帰分析で推定される説明変数（所得、仕事の満足度、等々）の係数は、他の変数の影響を統制したうえで、その変数の変化が目的変数（ここでは、幸福度）に与える影響の度合いとして解釈できる※7。また、本調査では各都道府県から400人ずつ回答者を抽出しており、データに階層性がある（個人のデータが、いずれかの都道府県に属している状態）。そこで、本分析ではマルチレベル回帰分析を使用して、幸福の決定要因を分析する事にした。マルチレベル回帰分析は階層的なデータを適切に扱う事ができる手法である[1]。本分析で使用したマルチレベルモデル（ランダム切片モデル）の詳細は本報告書WEB版で「D. 回帰分析の詳細」に記載するhttps://www.homes.co.jp/souken/report/202108/。

分析対象とする幸福度は、人生評価（ラダー）とエウダイモニアの2種類である。人生評価（ラダー）は、世界幸福報告書でも使用されている代表的な幸福度であり、0点から10点で自身の人生を評価した値である。エウダイモニアは、自身の生活における「自己成長」「潜在的能力の発揮」「人生の意味」の程度を0点から10点で評価した値である。幸福にはヘドニアとエウダイモニアの異なる種類があるが、人生評価はヘドニックな幸福度であると一般に考えられている[2]。従って、本分析によりヘドニックな幸福度とエウダイモニッ

クな幸福度のそれぞれを決める要因が把握される。本調査における幸福の詳細な説明は「1. 日本の幸福度と幸福観」の参照を願う。

以下では、複数の回帰分析の結果を基に、幸福度を左右する要因を考察する。対象者は各都道府県400人の合計18,800人であり、いずれの回帰モデルも個人レベルのデータ数は18,800、都道府県レベルは47である。本分析で実施した回帰モデルの一覧を「D.2 回帰モデルの一覧」の表A1に示す。また、回帰分析で使用した変数の要約統計量を表A2に示す。先ず「2.2 都道府県レベルの幸福の差異」では、幸福における集団（都道府県）レベルの影響の程度を確認する（ANOVA1a～ANOVA4a）。「2.3 個人の属性と幸福度」では、性別や所得など個人の属性と幸福度の関係性を分析する（モデル1a, モデル2a）。「2.4 生活の領域満足と幸福度」では、仕事や余暇などの生活の領域満足が幸福度に与える影響を分析する（モデル3a, モデル4a）。「2.5 まとめと都道府県レベルの補足」では、得られた知見を要約すると共に、都道府県の平均値や外部統計を用いて都道府県レベルでの補足的な考察を行う。

「D.3 回帰分析の推定結果」の表A3と表A4に、回帰モデルの推定結果を記載した。本文中では、各説明変数が幸福度に与える影響の程度を把握しやすいよう、標準化（偏回帰）係数を報告する（対応するモデルは「'」で表現）。標準化係数の値で、説明変数の目的変数（ここでは、幸福度）に対する影響の程度の大小を考察する。

2.2 都道府県レベルの幸福の差異

本調査で扱うデータは各都道府県から回答者が抽出された階層的なデータである。都道府県ごとの平均値を算出すれば幸福度や幸福観の都道府県ランキングが作成できるが、こうした都道府県レベルでの幸福の差異は、どういった要因によってもたらされているのだろうか。都道府県レベルの幸福の差異は、それぞれの都道府県に特有な要因（都道府県レベルの要因）によってもたらされているのか。それとも、幸福は個人の問題であり、所得や健康などの個々人の要因（個人レベルの要因）で決まる幸福が集団で総和された結果として、都道府県ごとの幸福の差異が生じているのだろうか。

都道府県レベルの要因が、幸福に影響を与えているのか否かを考察するうえで、級内相関係数（ICC）が一つの目安となる。級内相関係数は、変数の全分散（バラツキ）に占める集団間の分散（バラツキ）として定義される、集団レベルの要因の影響の強さを表す指標であり、ランダム効果の分散分析（ANOVA）モデルの推定値より算出される。そこで、幸福度と幸福観のそれぞれのICCを算出した（「D.4 回帰分析の推定結果, 表A3」）。結果、人生評価（ラダー）においては5% 水準で集団レベルの要因からの影響が有意であるが、ICCは0.0020と小さく、エウダイモニアと幸福観ではICCの値は統計的に有意でない。つまり、日本国内おける幸福は基本的には個人レベルの要因で決まっており、都道府県レベルの要因からの影響は小さいようである。

そのため、以下の分析では個人レベルの説明変数を用いて、幸福度を決める要因を分析する。しかし、例えば沖縄県で高い幸福度が観測されるように、個人レベルの要因のみでは説明が困難な都道府県の差異も見られる。この点については、「2.5 まとめと都道府県レベルの補足」で補足的に議論する。

2.3 個人の属性と幸福度

先ず、個人の属性※8と幸福度の関係性を分析する。ここでの個人の属性は、性別、年齢、結婚の有無、子どもの有無、世帯所得、就業形態、学歴、及び移動歴である。人生評価（ラダー）、及びエウダイモニアを目的変数として、個人の属性を説明変数とする回帰分析で推定された各説明変数の影響度（標準化係数）を図2.1（a）に示す。

性別では、女性は男性に比べて人生評価（ラダー）が高いが、エウダイモニアは男性の方が高い傾向にある。男女の幸福度を比べた場合、女性の方が高い傾向にある事が世界的に観測されており、日本でも同様の性差が報告されている[3]。しかし、エウダイモニアでは性別と幸福度の関係性が反転する。年齢では、20歳代（18歳以上を含む）を基準とした場合、30歳代、40歳代、50歳代では人生評価（ラダー）及びエウダイモニアの両方が低く、特に40歳代や50歳代のいわゆる「中年期」における減少が大きい。こうした年齢と幸

※6 本調査における「寛容性」とは、「女性の生き方」「家族のあり方」「若者信頼」「少数派包摂」「個人主義」「変化の受容」の6領域で構成された指標である。各領域はそれぞれ8項目から成り、4段階で評定されている（1点～4点）。ここでの寛容性の値は、各領域の平均値で算出した。

※7 回帰モデルに基づく分析では、他の説明変数を統制した場合の目的変数と説明変数の相関関係の強さは評価できるが、得られた結果から因果関係までは主張できない点は留意が必要である。

※8 個人の属性は、いずれもダミー変数を作成して考慮した。年齢は、20歳代（18歳以上を含む）を基準として、年齢階層をダミー変数で考慮した。「結婚」は、結婚していない（その他／答えたくないを含む）を基準として、結婚している人をダミー変数で考慮した。「子ども」は、子供はいない（その他／答えたくないを含む）を基準として、子供がいる人をダミー変数で考慮した。就業状態は、臨時職（契約社員、嘱託社員、派遣社員、パート・アルバイト）・その他の職業を基準として、正社員・役員（経営者・役員、公務員・正社員）、自営業（自営業、フリーランス・自由業）、専業主婦・主夫、学生をダミー変数で考慮した。所得は、世帯所得で200万円未満（収入はないを含む）を基準として、200万円以上400万円未満、400万円以上600万円未満、600万円以上1000万円未満、1000万円以上の世帯所得の階層をダミー変数で考慮した。学歴は、最終学歴で小学校・中学校を基準として、高等学校、専修・各種学校（専門学校）、短期大学・高等専修学校、大学、大学院をダミー変数で考慮した。移動歴は、「生まれてからずっと今の都道府県住んでいる（他の都道府県には住んだことがない）」の「移動なし」を基準として、「Uターン（今の都道府県で生まれ、他の都道府県・海外に出た後で、今の都道府県に戻った）」、「移住（他の都道府県・海外で生まれて、今の都道府県に移り住んできた）」をダミー変数で考慮した。

福度の関係性は「中年の危機」とも呼ばれており、世界各国で観測されている幸福の現象の一つである[4]。

結婚している人の幸福度は高く、特に人生評価に対する効果が顕著である。子どもがいる人たちも人生評価とエウダイモニアのいずれの幸福度も有意に高い。

所得の向上も幸福度を高めるようである。学歴の上昇も全般的に幸福度を高めるようであり、大卒の人たちの幸福度は特に高い傾向にある。

就業形態は、臨時職・その他の職業の人たちと比較した場合、正社員・経営者、自営業・フリーランス、学生はいずれの幸福度も有意に高い。また、専業主婦・主夫はエウダイモニアが低いなど、幸福の在り方は就業形態で異なっている事が分かる。

本調査では、「生まれてからずっと今の都道府県に住んでいる（他の都道府県には住んだことがない）」「今の都道府県で生まれ、他の都道府県・海外に出た後で、今の都道府県に戻った」「他の都道府県・海外で生まれて、今の都道府県に移り住んできた」の3択で「移動歴」を調査している。本分析では、それぞれの移動歴を「移動なし」「Uターン」「移住」と呼び、ダミー変数を作成して説明変数として考慮した。分析の結果（表A4, モデル1a, モデル2a）、幸福度に対する「Uターン」「移住」の係数はいずれも負の値であり、「移住」してきた人たちのエウダイモニアは有意に低い。移動歴のある人の幸福度はやや低い傾向にある。

2.4　生活の領域満足と幸福度

次に、生活の領域満足※9が幸福度に与える影響を分析する。個人の属性を統制して、生活の領域満足度の人生評価（ラダー）及びエウダイモニアに対する影響度を図2.2に示す。人生評価に対しては、仕事と人間関係の満足の影響が強く、余暇や健康の領域からの影響がこれに続いている。エウダイモニアに対しては、仕事の満足の影響が特に強い。また、住居の満足も人生評価（ラダー）を高めるようだが、他の領域の影響が統制されている場合はエウダイモニアに対する有意な影響は確認されない。

生活の領域満足を考慮した場合、所得の向上が幸福度を高める効果は明確でなくなる（表A4, モデル3a, モデル4a）。従って、所得の向上はそれ自体が幸福度を高めるというより、生活の各領域の質の向上を介して幸福の向上に寄与しているものと推察できる。また、移動歴の幸福度に対する効果も、生活の領域満足を統制すれば有意ではなくなるため（表A4, モデル3a, モデル4a）、移動歴それ自体には幸福度を下げる効果はないものと解釈できる。

2.5　まとめと都道府県レベルの補足

幸福度を目的変数とする回帰分析により、幸福度を決める要因を分析した。ヘドニックな幸福度（人生評価）とエウダイモニアでは、決定要因がそれぞれ異なる事が確認された。以下に得られた知見を箇条書きで記す。

・個人の属性では、女性の方が人生評価は高いが、エウダイ

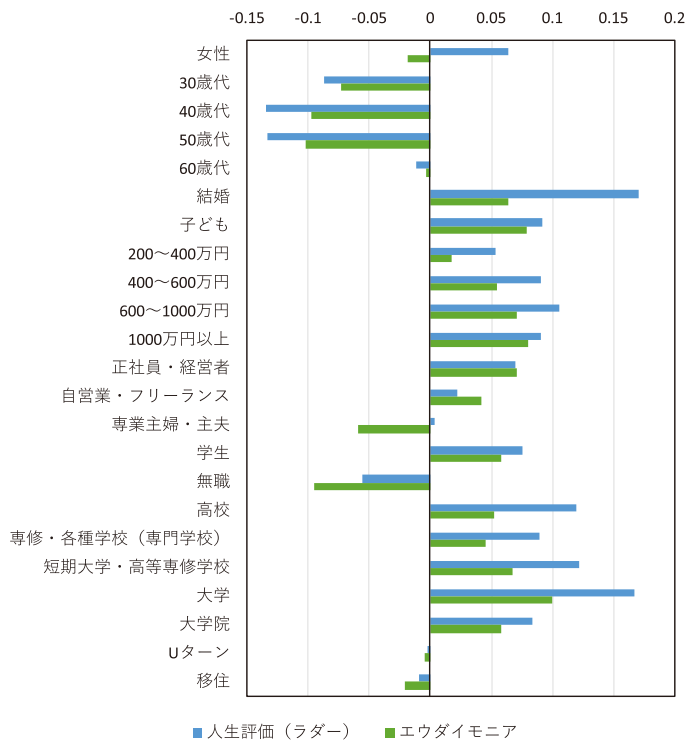


図2.1　個人の属性の幸福度に対する影響度（標準化係数）
（モデル 1a', モデル 2a'）

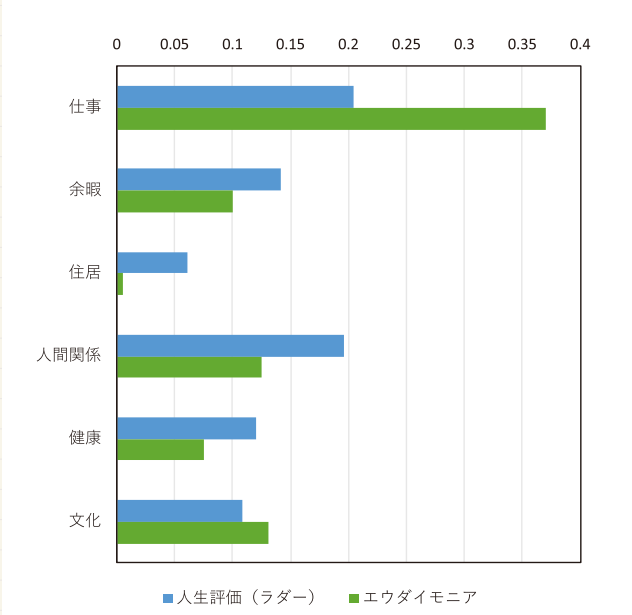


図2.2　生活の領域満足の幸福度に対する影響度（標準化係数）
（モデル 3a', モデル 4a'）

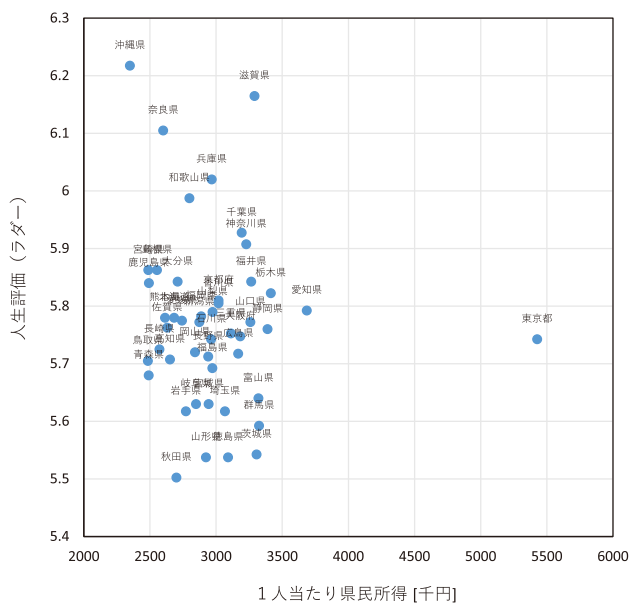
モニアは男性の方がやや高い傾向がある。結婚している人たちの幸福度は高く、特にヘドニックな幸福度（人生評価）が高い。子どもがいる人たちの幸福度も高い傾向にある。

- 所得の向上や学歴の上昇は全般的に幸福度を高める効果がある。また、就業形態では、自営業・フリーランスの人たちのエウダイモニアは高く、反対に専業主婦・主夫はエウダイモニアが低いなど、就業形態ごと幸福の在り方は異なる。
- Uターンや移住してきた人は、幸福度はやや低い傾向にある（ただし、生活の領域満足を統制すれば移動歴に負の効果はない）。
- 人生評価は、人間関係や仕事との関係性が強く、余暇や健康の領域からの影響もある。エウダイモニアは特に仕事の領域との関係性が強い。

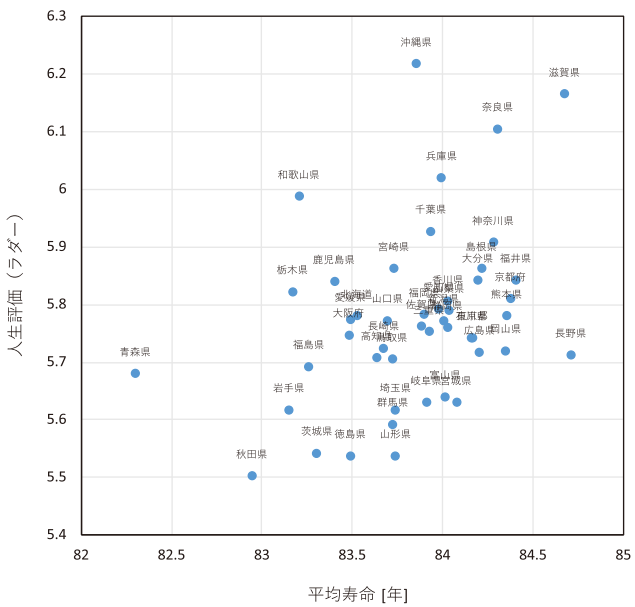
本調査で測定された幸福の値は、基本的には個人レベルの要因で決まっており、都道府県レベルの要因からの影響は小さい事が示唆された。従って、都道府県レベルの幸福を高めるには、個人のレベルで幸福の向上に寄与する要因の質を高める事が、重要であると言える（例えば、人生評価ならば人間関係や仕事の満足が重要であるなど）。しかし、一部の都道府県の幸福の現状は、個人レベルの要因のみで説明する事が難しい。特に、沖縄県の幸福度の高さは顕著であり、次いで滋賀県や奈良県の幸福度も個人レベルの要因で予測されるよりも高い値となっている（モデル1aで推定される人生評価の都道府県レベルの誤差は、沖縄県、滋賀県、奈良県でそれぞれ0.293、0143、0.131）。

都道府県ごとの外部統計値[※10]と幸福度の関係を見るに、図2.3（a）で示すように都道府県の人生評価（ラダー）と「1人当たり県民所得」の相関は弱く（r＝−0.116）、都道府県レベルの幸福度の差異を地域の経済的豊かさで説明する事は出来ない。ただし、図1.2（a）でも示した通り都道府県の幸福度は「出生率」との相関が強く（r＝0.573）、また図2.3（b）で示すように「平均寿命（男女平均）」とも正の相関（r＝0.363）がある。分析結果の記載は省略するが、「出生率」や「平均寿命」は都道府県レベルの幸福度（人生評価）のバラツキに対しても有意な説明力がある。「出生率」や「平均寿命」と幸福度はいずれが原因であり、結果であるのかを議論する事は難しいが、社会の良好さに関するこうした客観的な指標は都道府県レベルの幸福度と何かしら関係性があるようである。

本調査の主題である寛容性と幸福の関係性についても触れておこう。幸福度の回帰分析において寛容性を説明変数に加えた場合、寛容性は幸福度を高める効果があり、寛容性の評価が高い人ほど幸福度は高い傾向がある（推定結果の記載は省略）。しかし、都道



（a）1人当たり県民所得（相関係数 −0116）



（b）平均寿命（相関係数 0.363）

図 2.3 都道府県の 1 人当たり県民所得・平均寿命と人生評価の散布図

※9 生活の領域満足度は、「以下にあげることについて、あなたはどの程度満足していますか『非常に満足している』を10点、『まったく満足していない』を0点とした場合、何点くらいになるかをお答えください」という質問で、領域ごと0点から10点で評定された値である。変数としたのは、「仕事」「余暇」「住居」「人間関係」「健康状態（健康）」「この地域の文化的水準（文化）」の6領域であり、「人間関係」の値は「友人・知人との人間関係」「家族・親戚・パートナーとの関係」の2項目の値の平均値を使用し、他の領域満足度は単項目の値をそれぞれ使用した。

※10「1人当たり県民所得」はe-Statの統計でみる都道府県のすがた2021、「平均寿命」は厚生労働省の平成27年都道府県別生命表のデータを使用。

府県レベルで幸福度と寛容性の関係性を見るに、それほど強い正の相関関係は確認されない。図2.4に、都道府県平均値で算出した幸福と寛容性の相関係数を示す。都道府県レベルでは、寛容性はヘドニック志向やエウダイモニック志向の幸福観とより関係の深い地域の特性であるようである。

図2.5は、都道府県の寛容性と人生評価（ラダー）の散布図である。相関係数は0.293であり、寛容性が高い都道府県で必ずしも幸福度が高いわけではない事が見てとれる。従って、幸福と寛容性が共に地方創生にとって重要な要因であるのなら、両者はそれぞれに異なる要因として、地方創生に寄与するものと推察される。続く「3. 離脱意向と幸福及び寛容性」では、幸福と寛容性が個々人の離脱意向に与える影響を分析する。

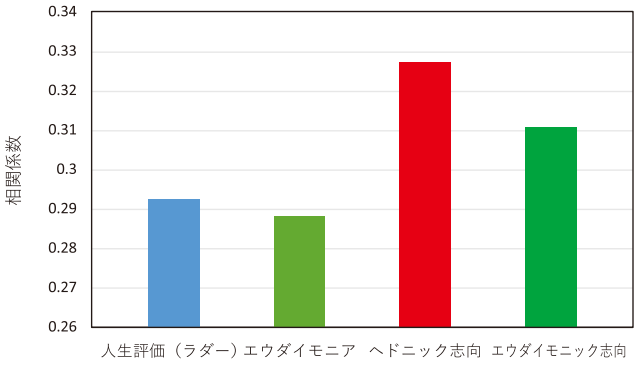
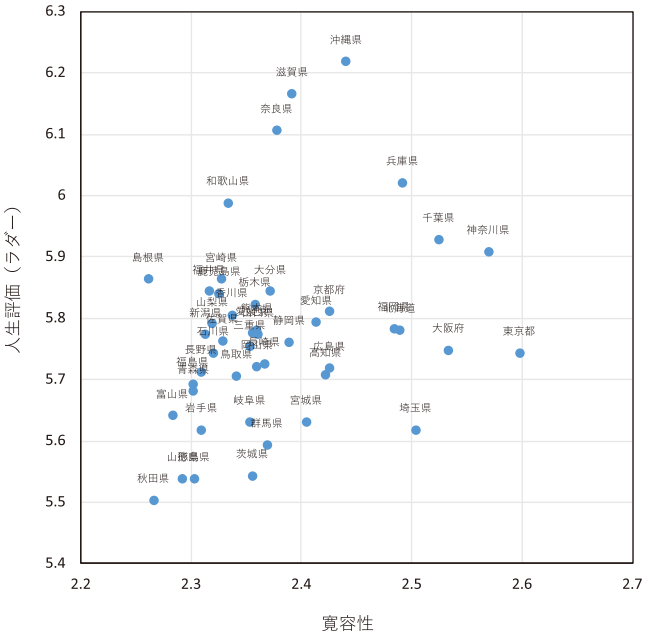


図 2.4 都道府県の幸福と寛容性の相関係数



（相関係数 0.293）

図 2.5 都道府県の寛容性と人生評価の散布図

3 離脱意向と幸福及び寛容性

3.1 分析手法

ここでは、個々人の離脱意向を左右する要因を回帰分析で考察する。本調査における離脱意向は、「あなたはどの程度『今の都道府県から出たい（移住したい）』と思っていますか。※実際に移住するかどうかではなく、現在のお気持ちをお答えください」という質問に対して、「1＝全然出たい（移住したい）とは思わない」から「7＝ぜひ出たい（移住したい）」の7段階で評定させた、1点～7点の値である。地方創生の問題を考えるうえで、個々人が抱く離脱意向に対する理解は不可欠であると言えるだろう。

離脱意向は、個人の要因から、都道府県レベルの要因に至るまで、多様な次元の要因からの影響があるものと推察される。そこで、個人レベルの要因と集団（都道府県）レベルの要因の両方が離脱意向に与える影響を分析するため、本分析ではマルチレベル回帰分析を実施する。級内相関係数は、都道府県レベルの要因からの影響の程度の目安となるが（「2.2 都道府県レベルの幸福の差異」参照）、離脱意向の級内相関係数は0.0068であり、0.1% 水準で都道府県レベルの要因からの有意な影響がある（表B3, ANOVA1b）。マルチレベル回帰分析の詳細は「D. 回帰分析の詳細」で記載する。

分析の対象者は、各都道府県400人の合計18,800人である。本分析で実施した回帰モデルの一覧を「D.2 回帰モデルの一覧」の表B1に示す。また、回帰分析で使用した変数の要約統計量を表B2に示す。先ず、「3.2 個人の属性と離脱意向」では、性別や所得など個人の属性と離脱意向の関係性を分析する（モデル1b）。「3.3

生活の領域満足と離脱意向」では、仕事や余暇などの領域満足が離脱意向に与える影響を分析する（モデル2b）。「3.4 寛容性と離脱意向」では、寛容性が離脱意向に与える影響を分析する（モデル3b）。また、離脱意向はUターンや移住などの移動歴※11との関係性が強く、Uターンや移住の経歴がある人たちの離脱意向は高い傾向がある。しかし、東京都のように一部の都道府県では離脱意向と移動歴の関係性が逆転しており、移動歴がある人たちの方が離脱意向が低い都道府県も存在する。離脱意向と移動歴の都道府県ごとの関係性は、本調査が着目している寛容性とも深く関係していると推察できるため、本分析では移動歴と離脱意向の関係性に対する寛容性の影響についても分析した（モデル4b）。「3.5 幸福と離脱意向」では、幸福度と幸福観が離脱意向に与える影響を分析する（モデル5b, モデル6b）。

「D.4 回帰分析の推定結果」の表B3と表B4に回帰モデルの推定結果を記載した。本文中では標準化（偏回帰）係数を報告する（対応するモデルは「'」で表現）。

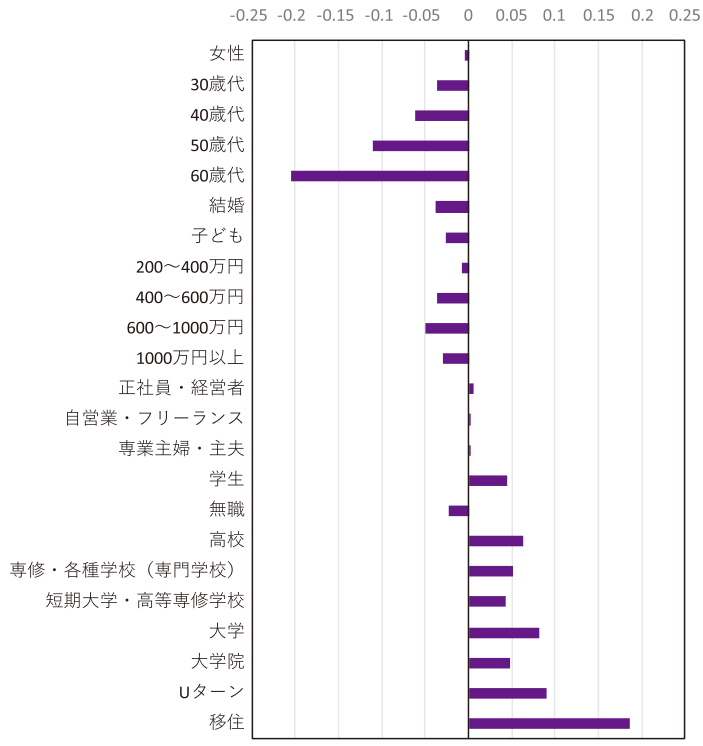


図3.1 個人の属性が離脱意向に与える影響度（標準化係数）（モデル 1b′）

3.2 個人の属性と離脱意向

先ず、個人の属性※12と離脱意向の関係性を分析する。回帰分析で推定された個人の属性の離脱意向に対する影響度（標準化係数）を図3.1に示す（モデル1b'）。

性別は離脱意向に対する影響はない。年齢は上昇するほど離脱意向は下がる傾向がある。また、結婚している人や、子どもがいる人の離脱意向も低い傾向がある。就業形態では、学生の離脱意向は高い。学歴は全般的に離脱意向を強めるようであり（最終学歴で小学校・中学校が基準）、大卒の人たちの離脱意向は高い傾向がある。

図3.2に全国の回答者の年齢階層ごとの離脱意向の平均値を示す。年齢はその地域での暮らしの長さとも関係している変数であると考えられるが、結婚や子どもの存在が離脱意向を弱める効果がある事や、反対に学生で離脱意向が高い事から推察するに、その地域での生活の基盤が強くなるほど離脱意向は下がる傾向があると解釈できる。

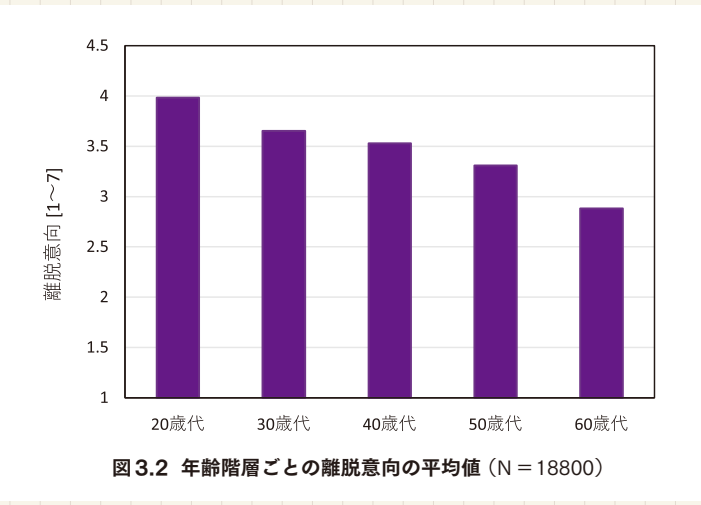


図3.2 年齢階層ごとの離脱意向の平均値（N＝18800）

Uターンや移住の移動歴は離脱意向を強める効果がある。地方創生の観点からすれば、離脱意向はあまり好ましくない意向であると言えるが、離脱意向には「移住意向」としての積極的な意味合いもあり、個々人の観点からは必ずしもネガティブな意向ではないものと言える。移動歴がある人たちは移動に対する慣れがあるため、否定的な意味合いではない離脱意向（移住意向）が高くなるのだろう。とは言え、Uターンや移住してきた人たちが、積極的な意味合いでその地域に留まりたいと思える地域の特性を育む事が、地方創生の観点からは重要な課題である。離脱意向と移動歴の関係性については、寛容性の影響を考慮して「3.4 寛容性と離脱意向」で再び議

※11 移動歴は「あなたは、今お住まいの都道府県とあなたの関係は、どれにあたりますか」という質問に対して、「生まれてからずっと今の都道府県に住んでいる」「今の都道府県で生まれ、他の都道府県・海外に出た後で、今の都道府県に戻った」「他の都道府県・海外で生まれて、今の都道府県に移り住んできた」の3択で回答させた。本分析ではそれぞれを「移動なし」「Uターン」「移住」と呼ぶ。

※12 個人の属性は、結婚、子どもの有無、就業状態、世帯所得、最終学歴、及び移動歴を考慮した。個人の属性のダミー変数の詳細は「2. 幸福を決める要因, ※8」に記載。

論する。

3.3　生活の領域満足と離脱意向

次に、生活の領域満足[※13]が離脱意向に与える影響を分析する（モデル2b）。生活の各領域満足度が離脱意向に与える影響度を図3.3に示す。地域の文化的水準（文化）の満足は離脱意向を弱める効果がある。その他、住居の満足も離脱意向を弱める効果がある事が確認できる。住居は場所との関わりが強い生活の領域であるため、他の領域と比較して離脱意向に対する影響が大きくなるのだろう。また、健康や余暇の満足が離脱意向を強める効果があるのは、元気で時間に余裕のある人ほどポジティブな意味合いでの移住意向が強まるからであるのかもしれない。

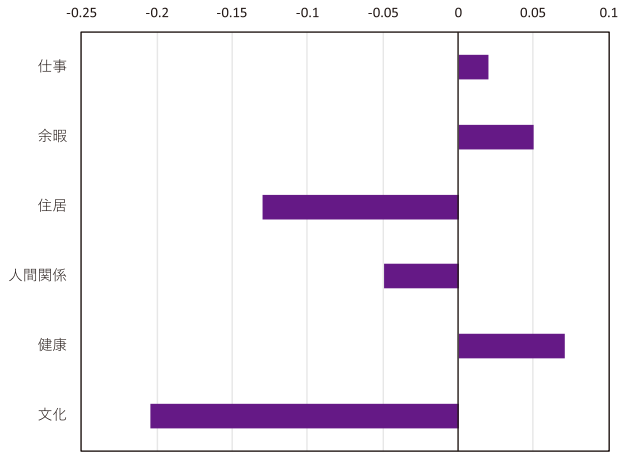


図3.3　生活の領域満足が離脱意向に与える影響度（標準化係数）（モデル 2b′）

3.4　寛容性と離脱意向

寛容性[※14]は離脱意向に対してどのような影響があるのだろうか。寛容性は地域の魅力として離脱意向を抑制する効果がある可能性もあるが、反対に高い寛容性はポジティブな意味での移住意向を促進する可能性もある。寛容性は個人レベルと集団（都道府県）レベルの影響を分離[※15]して、離脱意向に対する影響を分析した（モデル4b）。個人レベルの影響とは、個々人の寛容性の評価が離脱意向に与える影響であり、集団（都道府県）レベルの影響は、都道府県の平均的な寛容性が離脱意向に与える影響を意味する。寛容性が離脱意向に与える影響度を図3.4に示す。寛容性は個人レベルと都道府県レベルの両方で離脱意向を弱める効果がある。つまり、地域の寛容性を高く評価している人ほど離脱意向は低く、寛容性が高い地域で暮らす人たちの離脱意向も低い傾向がある。離脱意向にとって、寛容性は重要な地域の特性である事が分かる。

Uターンや移住などの移動歴は離脱意向を強める効果がある事が確認された（図3.1）。図3.5（a）に全国の回答者の移動歴（「移動なし」「Uターン」「移住」）ごとの離脱意向の平均値を示す。全国で見れば、「移動なし」に比べて「Uターン」や「移住」の人たちの離脱意向の平均値はやや高い。しかし、図3.5（b）で示す東京都のような一部の都道府県では、離脱意向と移動歴の関係性が反転している。

都道府県ごとの移動歴と離脱意向の関係性にこうした相違を生む要因は一体何であるのだろうか。本調査における寛容性は、可能性のある要因の一つであると考えられる。地域の寛容性は、地域に住み続けている人たち（「移動なし」）よりも、Uターンや移住してきた人たちにとってより切実な地域の特性であると推察できる。そこで、移動歴が離脱意向に与える効果が、地域の寛容性からどの程度の影響を受けているのかについて、ランダム切片・係数モデル（「D.1 マルチレベルモデル，式6～式10」参照）を用いて分析した（モデル5b）。

移動歴が離脱意向に与える効果が、都道府県レベルの寛容性に

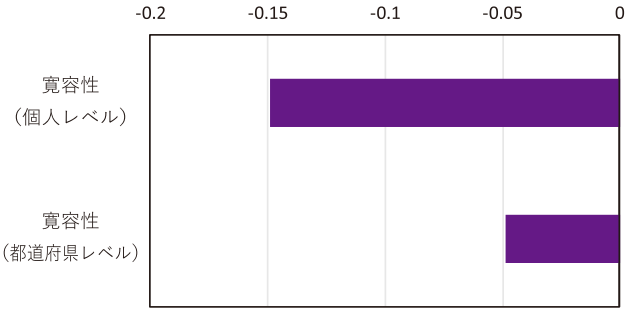
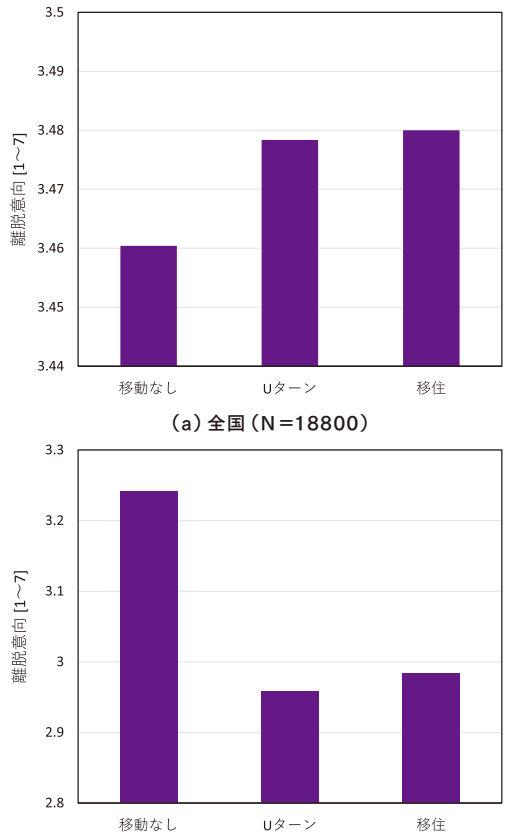


図3.4　寛容性が離脱意向に与える影響度（標準化係数）（モデル 3b′）



（a）全国（N＝18800）

（b）東京都（N＝400）

図3.5　移動歴ごとの離脱意向の平均値

影響されるか否かは、移動歴と寛容性のクロスレベル交互作用（「Uターン×寛容性」「移住×寛容性」）の効果で確認する事ができる（表B4，モデル4b）。分析の結果、移動歴と寛容性のクロスレベル交互作用項の係数はいずれも負の値であり、移住とのクロスレベル交互作用の効果は統計的に有意である。従って、Uターンや移住の経歴は離脱意向を強める効果があるが、移動歴に伴う離脱意向の上昇は都道府県レベルの寛容性で緩和されるようであり、特に移住者の離脱意向を下げる効果がある。寛容性は離脱意向を弱める効果があるが、特に移住者にとって重要な地域の特性であるようだ。

3.5　幸福と離脱意向

次に、幸福が離脱意向に与える影響を分析する。人生評価（ラダー）及びエウダイモニアを説明変数に加えた回帰分析を実施した（モデル5b）。回帰分析で推定された幸福度が離脱意向に与える影響度を図3.6（a）に示す。人生評価（ラダー）は離脱意向を弱める効果がある事が確認できる。人生に満足している人ほど、積極的な意味でも否定的な意味でも、暮らす場所を変える必要性を感じないのだろう。また、図3.6（b）に幸福観が離脱意向に与える影響度を示す。幸福観の離脱意向に対する影響は小さいが、エウダイモニック志向が強い人は離脱意向も高い傾向にある。エウダイモニック志向と離脱意向で正の相関があるのは、エウダイモニック志向がポジティブな意味での「移住意向」とも関係しているからであると思われる。

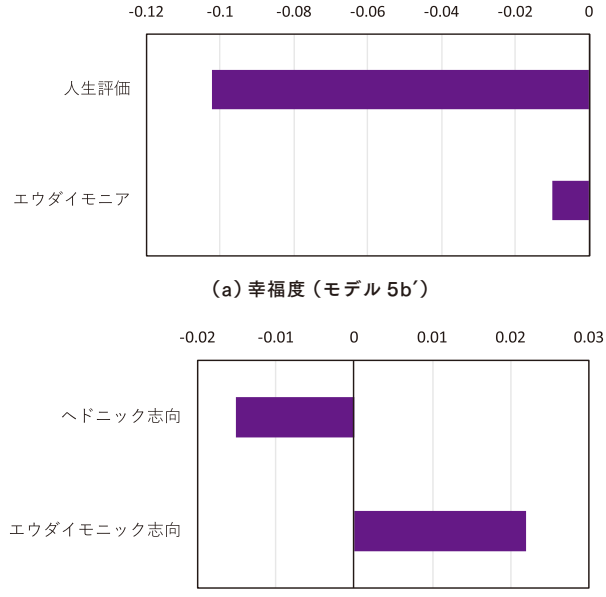


図3.6　幸福が離脱意向に与える影響度（標準化係数）

3.6　まとめと都道府県レベルの補足

離脱意向を目的変数とする回帰分析により、離脱意向に影響を与える要因を分析した。離脱意向は年齢や移動歴など、個人の属性との関わりが大きいが、幸福や寛容性とも関係性がある事が確認された。以下に得られた知見を箇条書きで記す。

- 個人の属性では、年齢が上昇するほど離脱意向は下がる。結婚している人や子どもがいる人の離脱意向は低い傾向がある。移動歴の離脱意向に対する影響は強く、Uターンや移住してきた人の離脱意向は高い傾向がある。
- 生活の領域満足では、地域の文化的水準（文化）に満足している人の離脱意向は低い傾向がある。また、住居の満足が高い人の離脱意向も低い傾向がある。
- 寛容性は個人レベルと都道府県レベルの両方で離脱意向を下げる効果がある。また、寛容性が高い都道府県ほど、移住してきた人たちの離脱意向が低い傾向にある。
- 幸福との関係性では、人生評価が高い人ほど離脱意向も弱い。また、エウダイモニック志向が強い人の離脱意向は高い傾向がある。

回帰分析で得られた知見を、都道府県レベルでも確認しておこう。生活の領域満足では、地域の文化的水準や住居の満足が離脱意向を弱める効果がある事が確認された。図3.7は都道府県の生活の領域満足度と離脱意向の相関係数である。都道府県レベルでも文化と住居の満足度は離脱意向との相関が強い。また、図3.8は都道府県の住居の満足度と離脱意向の散布図であるが、離脱意向にとって住居が重要な問題である事が見てとれる。

寛容性は個人レベルと都道府県レベルの両方で離脱意向を下げる効果がある事が確認された。しかしながら、都道府県レベルでは離脱意向と寛容性の相関はそれほど明瞭ではない。図3.9（a）に都道府県の寛容性と離脱意向の散布図を示すが、相関係数は−0.277であり絶対値はそれほど大きくない。これは、寛容性がネガティブな意味での離脱意向を抑制する都道府県の特性であると同時に、ポジティブな意味合いでの移住意向を促進する要因にも関わる地域

※13　生活の領域満足はそれぞれ0点から10点で評定させている。生活の領域満足の詳細は「2. 幸福を決める要因, ※9」に記載。

※14　寛容性は、「女性の生き方」「家族のあり方」「若者信頼」「少数派包摂」「個人主義」「変化の受容」の6領域で構成された指標である。各領域はそれぞれ8項目から成り、4段階で評定されている（1点～4点）。本分析における寛容性の値は、これらの平均値を使用した。

※15　寛容性は、個人レベルの変数と集団（都道府県）レベルの変数に分離した。個人レベルの変数は、個々人の寛容性を都道府県平均から偏差をとり作成し（集団平均中心化）、都道府県レベルの変数は、全体平均に対する都道府県平均値の偏差をとり作成した（集団平均値の全体平均中心化）。

の特性でもあるからと推察される。しかし、本分析において都道府県レベルの寛容性は特に移住者の離脱意向を下げる効果がある事が確認された。図3.9（b）は、都道府県の寛容性と移住者の離脱意向の散布図である。相関係数は−0.577と、全体の場合と比べて強い負の相関がある。寛容性が移住者にとってより重要な地域の特性である事が見てとれる。

最後に、都道府県レベルの幸福と離脱意向の関係性についても触れておく。図3.10に都道府県の幸福と離脱意向の相関係数を示す。個人レベルでは人生評価が離脱意向を弱める効果が確認されたが、都道府県レベルではエウダイモニック志向の強さが、その他の幸福に比べて離脱意向との相関が強い（r＝−0.382）。こうした事実は、エウダイモニック志向が強い人は離脱意向が高い傾向がある事実を考えると興味深い。都道府県レベルのエウダイモニック志向の強さは、地域の魅力に関わる特性と関連があり（例えば、地域の寛容性もその一つ）、結果として都道府県レベルではエウダイモニック志向は離脱意向と負の相関が観測されているのだろう。

離脱意向と幸福及び寛容性の関係性を要約すれば、地域で暮らす人たち一人一人の幸福と、寛容性などの地域の魅力が、離脱意向を弱める要因となる。続く「4. 寛容性を育む要因」では、寛容性を決める要因を分析する。

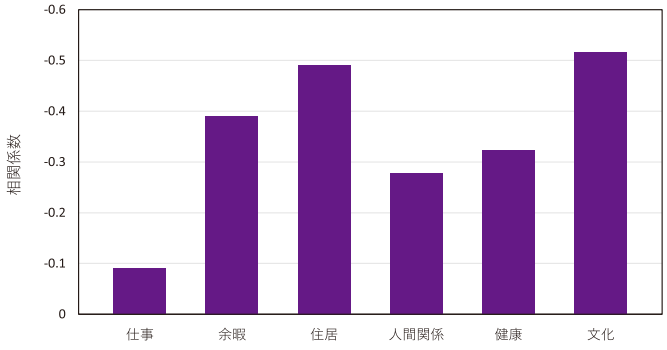
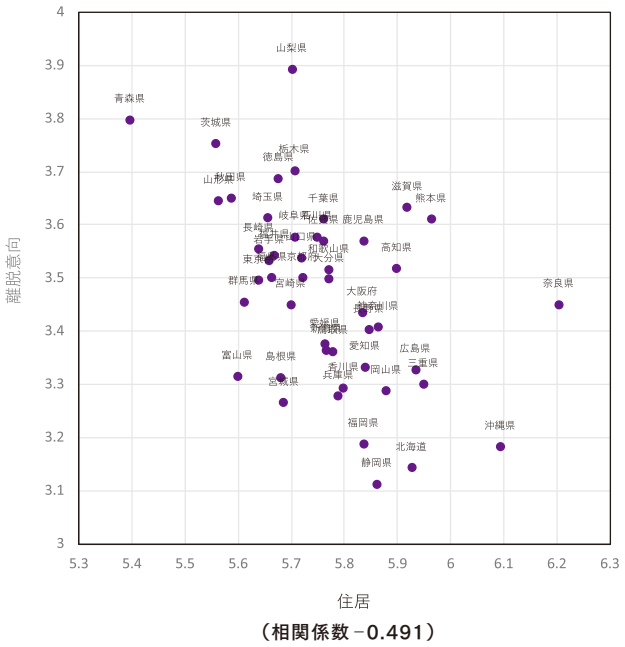
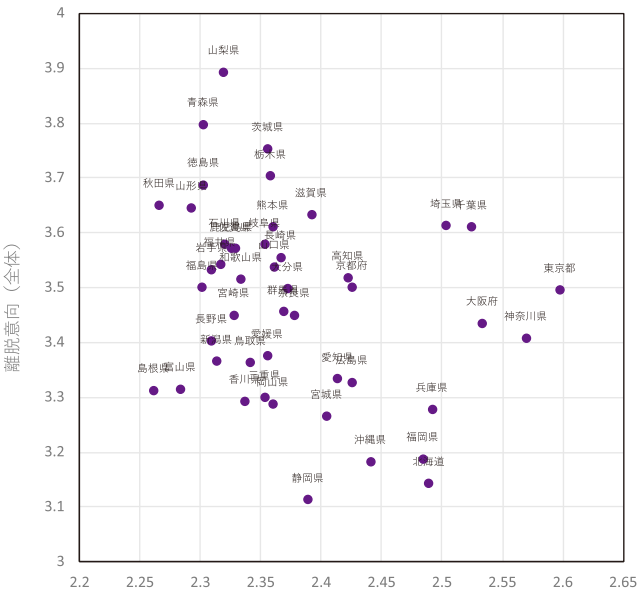


図 3.7 都道府県の生活の領域満足度と離脱意向の相関係数

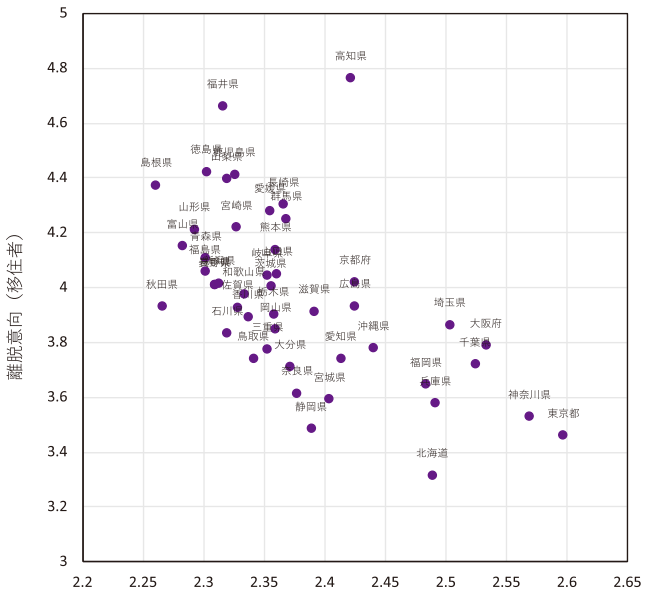


（相関係数−0.491）

図 3.8 都道府県の住居の満足度と離脱意向の散布図



（a）全体（相関係数 −0.277）



（b）移住者（相関係数 −0.577）

図 3.9 都道府県レベルでの離脱意向と寛容性の散布図

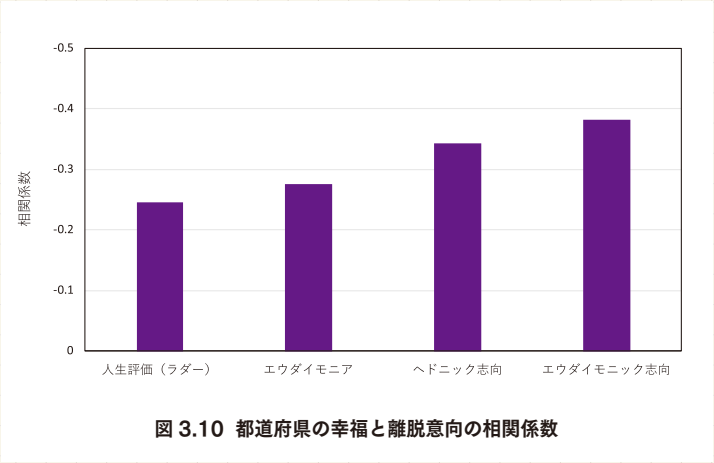


図 3.10 都道府県の幸福と離脱意向の相関係数

4 寛容性を育む要因

4.1 分析手法

ここでは、寛容性を左右する要因を回帰分析で考察する。本調査における「寛容性」は、「女性の生き方」「家族のあり方」「若者信頼」「少数派包摂」「個人主義」「変化の受容」の6領域で構成された指標である。各領域はそれぞれ8項目から成り、4段階で評定されている（1点～4点）。本分析における寛容性の値は、これらの平均値を使用する。

地域に対する寛容性の評価は、個人の属性から都道府県の特性に至るまで、多様な次元の要因から影響を受けているものと推察される。そこで、本分析ではマルチレベル回帰分析で各要因が寛容性に与える影響を分析する。寛容性の級内相関係数（ICC）は0.0828であり、0.1% 水準で都道府県レベルの要因からの影響がある（表C3, ANOVA1c）。マルチレベル回帰分析の詳細は「D. 回帰分析の詳細」に記載する。

分析の対象者は、各都道府県400人の合計18,800人である。回帰モデルの一覧を「D.2 回帰モデルの一覧」の表C1に示す。また、回帰分析で使用した変数の要約統計量を表C2に示す。先ず、「4.2 個人の属性と寛容性」では、性別や所得など個人の属性と寛容性の評価の関係性を分析する（モデル1c, モデル2c）。「4.3 地域の身近な特性と寛容性」では、地域の身近な特性が寛容性に与える影響を分析する（モデル3c）。本調査では、「住宅のコストや広さなど住環境がよい」「センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い」などの身近な地域の特徴の該当の有無を回答させており、これらの該当の有無からダミー変数を作成して地域の身近な特徴を表す変数として考慮した。「4.4 生活の領域満足と寛容性」では、仕事や余暇など生活の領域満足が寛容性の評価に与える影響を分析する（モデル4c）。

本調査では寛容性に関わると推察される地域の特性として、「人間関係が濃密でつながりが強い」「初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある」など、地域の雰囲気に関する項目を設けている。「4.5 地域の雰囲気（開放性と凝集性）と寛容性」では、これらの項目から作成した地域の雰囲気（「開放性」「凝集性」）が、寛容性に与える影響についても分析した（モデル5c）。

「D.4 回帰分析の推定結果」の表C3と表C4に各回帰モデルの推定結果を記載する。本文中では標準化（偏回帰）係数を報告する（対応するモデルは「'」で表現）。

4.2 個人の属性と寛容性

先ず、個人の属性[※16]と寛容性の関係性を分析する。回帰分析の結果より（モデル1c）、女性は男性に比べて寛容性を低く評価している。年齢は上昇するほど、寛容性の評価は下がる傾向がある。また、学歴の高い人ほど、寛容性を低く評価しており、大卒や大学院卒の

※16 個人の属性は、結婚、子どもの有無、就業状態、世帯所得、最終学歴、移動歴をいずれもダミー変数で考慮した。個人の属性のダミー変数の詳細は本報告書「幸福を決める要因, ※8」に記載。

人たちの寛容性の評価が特に低い。

本調査における寛容性は、個々人によって知覚された地域の寛容性を測定しているため、個人の属性が寛容性の評価に与える影響の解釈は複雑なものとなる。例えば、年齢の上昇で寛容性の評価が下がるのは、寛容性の低さを当然と見なす価値観に由来した結果であると推察できるが、反対に、女性や学歴の高い人たちで寛容性の評価が下がるのは、これらの人たちが寛容性に対して高い基準を抱いており、結果として寛容性の評価が下がっている可能性がある。

「1人当たり県民所得」「65歳以上の割合」[※17]の集団（都道府県）レベルの変数の影響を確認すると（モデル1c）、都道府県の「65歳以上の割合」は寛容性の評価を下げる効果がある。従って、個人レベルの年齢の上昇が寛容性の評価を下げる効果は、年齢が高い人たちの寛容性の低い価値観に由来している可能性が高い。また、分析対象者の学歴で算出した都道府県の「大学・大学院卒の割合」の影響を見ると（モデル2c）、都道府県の「大学・大学院卒の割合」は寛容性の評価を上げる効果がある。そのため、学歴が高い人たちの寛容性の評価が低い理由は、寛容性に対する高い基準に由来しているものと推察できる。また、女性の方が寛容性の評価が低い理由も、おそらくは寛容性に対する高い基準や感受性に由来する結果であると推察される。

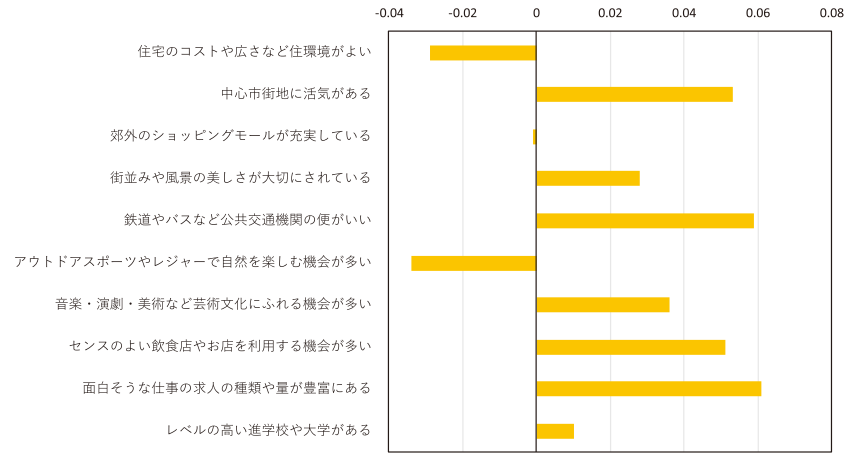


図 4.1　地域の身近な特性の寛容性に対する影響度（標準化係数）（モデル 3c'）

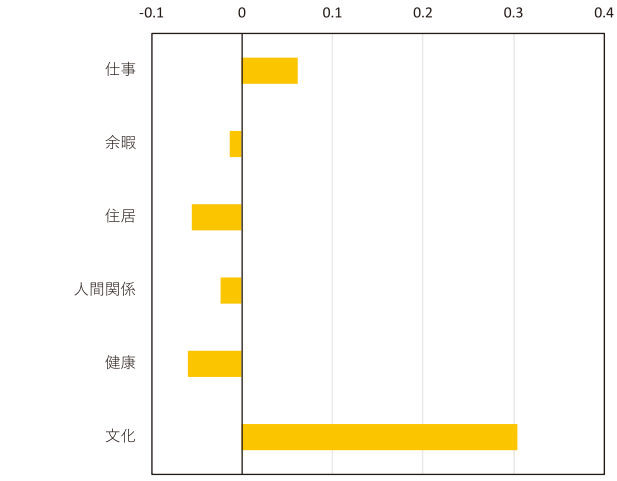


図 4.2　生活の領域満足の寛容性に対する影響度（標準化係数）
（モデル 4c'）

4.3　地域の身近な特性と寛容性

地域の身近な特性[※18]が寛容性に与える影響を分析する（モデル3c）。地域の身近な特性は、「住宅のコストや広さなど住環境がよい」「中心市街地に活気がある」など10項目の該当の有無からダミー変数を作成して考慮した。地域の身近な特性を表す説明変数が寛容性の評価に与える影響度を図4.1に示す。「鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい」「面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある」「中心市街地に活気がある」「センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い」などの特徴が認知されている地域で、寛容性の評価は高い傾向がある。また、「音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い」や「街並みや風景の美しさが大切にされている」などの地域の特徴も、寛容性の評価を上げる効果がある。反対に、「アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い」や「住宅のコストや広さなど住環境がよい」の地域の特徴は、寛容性の評価を下げる効果がある。

地域の身近な特性と寛容性の関係性を要約すれば、交通の便や面白そうな仕事の豊富さなど、「都市的」と言える要素が豊富に認知されている地域で、寛容性の評価は高く、自然を楽しむ機会が多く住宅のコストや広さがよいなど、「田舎的」と言える要素が認知されている地域で、寛容性の評価は低い傾向にある。因果関係は定かではないが、地域の身近な特性としては「都市的な要素」が寛容性にとって重要である可能性が示唆されている。

4.4　生活の領域満足と寛容性

次に、生活の領域満足と寛容性の関係性を分析した（モデル4c）。生活の領域満足が寛容性に与える影響度を図4.2に示す。文化の満足は寛容性の評価を上げる効果があり、文化と寛容性の密接な関係性が示唆されている。その他では、仕事の満足が寛容性の評価を上げる効果などが確認されるが、文化の領域と比べてその効果は小さく、個人の属性の場合と同様に解釈も難しい。本調査における寛容性の構成概念には文化の問題は含まれていないため、文化的水準の満足と寛容性の評価に強い正の相関がある事実は興味深い。

4.5　地域の雰囲気（開放性と凝集性）と寛容性

地域の雰囲気[※19]が寛容性に与える影響を分析する（モデル5c）。地域の雰囲気を表した項目群から、因子分析の結果を参考に2つの因子を作成して、それぞれ「開放性」と「凝集性」と命名した。「開放性」は、「自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容（かんよう）さがある」「学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある」「初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある」「誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある」「よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある」の5項目、凝集性は、「人間関係が濃密でつながりが強い」「歴史や伝統が大切に守られている」「義理や人情が大切にされている」「規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある」「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」の5項目から成る因子であり、平均値を算出して説明変数として考慮した。

図4.3に「開放性」と「凝集性」が寛容性に与える影響度を示す。地域の雰囲気は個人レベルと集団（都道府県）レベルの影響を分離して[※20]、寛容性に対する影響を分析した。個人レベルと都道府県レベルの両方で「開放性」は寛容性の評価を上げ、「凝集性」は寛容性の評価を下げる効果がある。本調査における「開放性」は、寛容性との概念的な繋がりが強いため、寛容性と正の相関がある事実に驚きはないが、「凝集性」が寛容性を下げる効果がある事実は、寛容性という地域の特性を考えるうえで示唆的である。「人間関係が濃密でつながりが強い」などで構成される「凝集性」は必ずしもネガティブな地域の雰囲気であるとは言えないが、地域の寛容性を育む要因にはならないようだ。

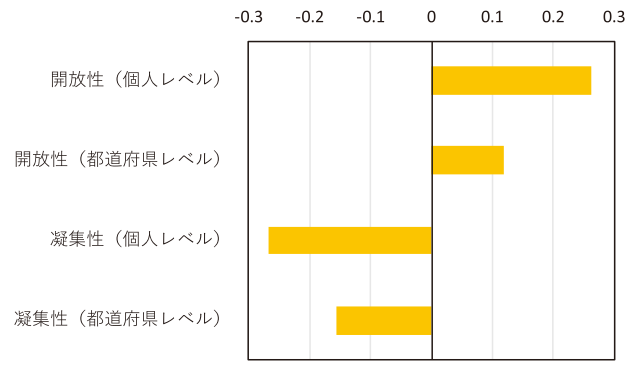


図 4.3　地域の雰囲気（開放性、凝集性）の寛容性に対する影響度（標準化係数）（モデル 5c'）

4.6　まとめと都道府県レベルの補足

寛容性を目的変数とする回帰分析により、寛容性に影響を与える要因を分析した。以下に得られた知見を箇条書きで記す。

- 個人の属性では、年齢が高いほど寛容性の評価は下がる（低い寛容性に関わる価値観によるものと推察）。高学歴の人は寛容性を低く評価する（寛容性に対する高い基準によるものと推察）。また、女性も男性に比べて寛容性を低く評価する（寛容性に対する高い基準や感受性によるものと推察）。
- 地域の身近な特性では、交通の便や面白そうな仕事の豊富さなど、「都市的な要素」が認知されている地域ほど寛容性の評価は高い。反対に、自然を楽しむ機会の多さや住宅のコストや広さのよさなど、「田舎的な要素」が認知されている地域ほど寛容性の評価は低い。
- 地域の雰囲気では、「よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある」等で構成される「開放性」は、寛容性と正の相関関係にあり、「人間関係が濃密でつながりが強い」等で構成される「凝集性」は寛容性と負の相関関係にある。

回帰分析で得られた知見を、都道府県レベルでも確認しておこう。図4.4（a）は都道府県の「65歳以上の割合」と寛容性の散布図である。相関係数は−0.704と強い負の相関があり、都道府県レベルの寛容性は地域の高齢化とも密接な関係がある事が分かる。また、図4.4（b）は都道府県ごとの「大学・大学院卒の割合（回答者より算出）」と寛容性の散布図である。学歴に関わる意味での教育水準も、地域の寛容性を育む一つの要因である可能性が示唆されている。

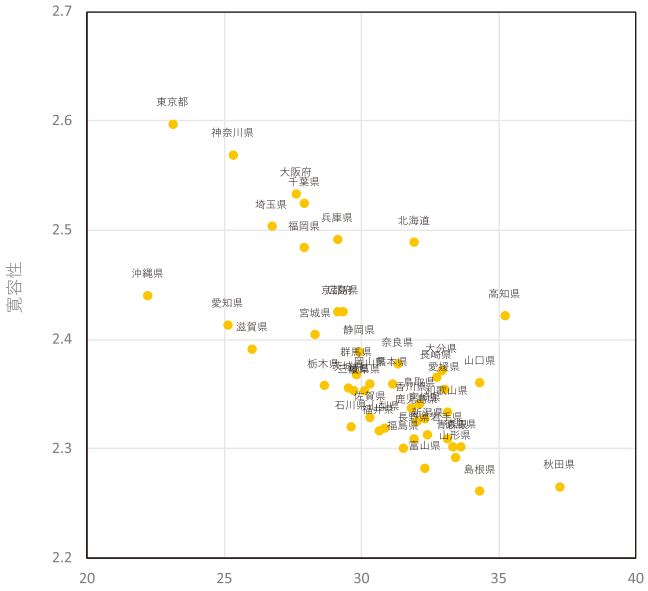
また、地域の文化的水準に満足している人は、寛容性を高く評価

※17「1人当たり県民所得」と「65歳以上の割合」はe-Statの統計でみる都道府県のすがた2021のデータを使用。

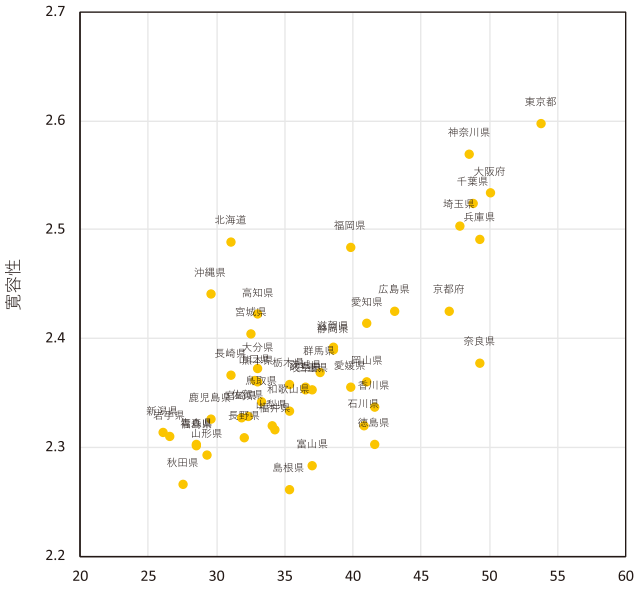
※18 本調査では、「現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください」という質問で、「住宅のコストや広さなど住環境がよい」「中心市街地に活気がある」など、地域の特徴の該当の有無を回答させている。本分析では、これら地域の特徴の該当の有無でダミー変数を作成して、地域の身近な特性として考慮した。

※19 地域の雰囲気は、「現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください」という質問で、10項目の該当の有無を回答させている。各項目が選択された場合は1点として、「開放性」は「よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある」「初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある」「誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある」「自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容（かんよう）さがある」「学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある」の平均値、「凝集性」は「義理や人情が大切にされている」「人間関係が濃密でつながりが強い」「歴史や伝統が大切に守られている」「規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある」「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」の平均値として、「開放性」と「凝集性」の値を算出した。

※20 地域の雰囲気は、個人レベルの変数と集団（都道府県）レベルの変数に分離した。個人レベルの変数は、集団平均中心化、都道府県レベルの変数は集団平均値の全体平均中心化で作成した。



（a）65 歳以上の割合（相関係数−0.704）



（b）大学・大学院卒の割合（相関係数 0.692）

図 4.4 都道府県の 65 歳以上の割合・大学・大学院卒の割合と寛容性の散布図

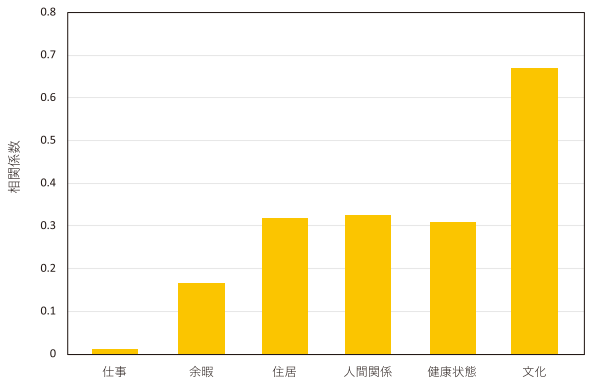
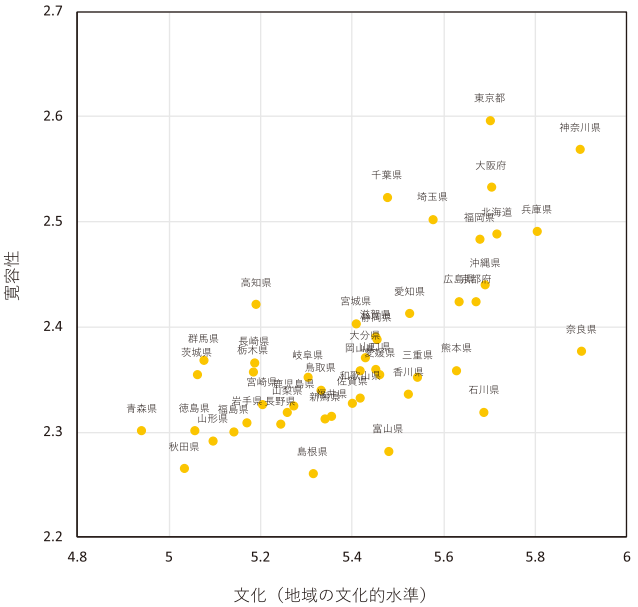


図 4.5 都道府県の生活の領域満足度と寛容性の相関係数



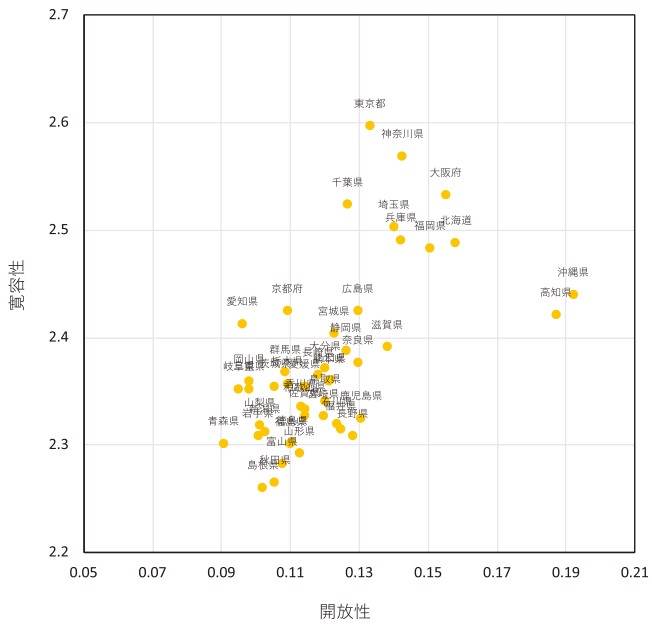
（相関係数 0.668）

図 4.6 都道府県の文化の満足度と寛容性の散布図

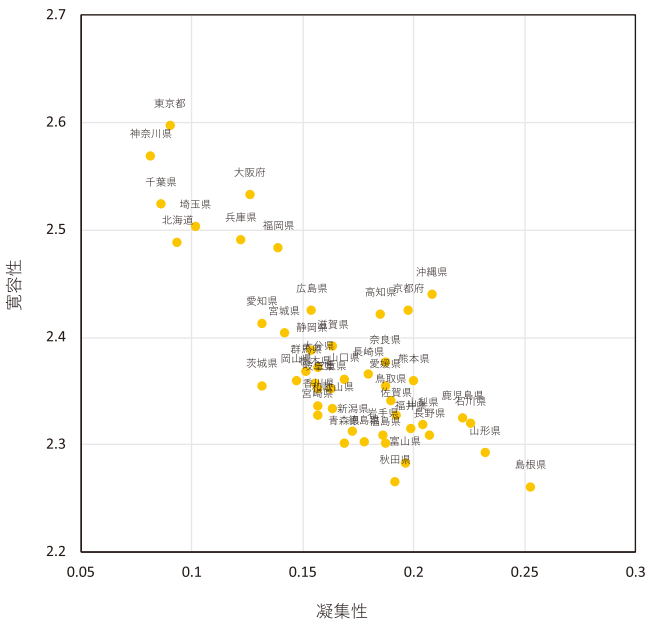
している事が確認された。図4.5に都道府県の生活の領域満足度と寛容性の相関係数を示す。都道府県レベルでも、文化は他の生活の領域に比べて、地域の寛容性と密接な関係性にある事が分かる（r＝0.668）。図4.6に都道府県の地域の文化的水準の満足度と寛容性の散布図を示す。文化政策は「社会的包摂」との関連においても議論がなされているが[1]、地域の文化が寛容性を育む要因となる可能性が示唆されており興味深い。

地域の雰囲気では、「開放性」は寛容性を育み、「凝集性」が寛容性を阻害する可能性が示唆された。図4.7に、都道府県の「開放性」「凝集性」と寛容性の散布図を示す。「凝集性」は必ずしもネガティブな意味合いの項目群で構成されてはおらず、寛容性と強い負の相関がある事実は示唆に富む。実際、幸福度（人生評価）を目的変数として「開放性」「凝集性」を説明変数に加えた回帰分析を実施すれば（モデル6c）、個人レベルの「凝集性」の知覚は「開放性」と共に幸福度を高める効果があり、幸福に対してはポジティブな要因である事が分かる。

既に見てきた通り、幸福と寛容性はいずれも離脱意向を下げる効果があるが、都道府県レベルでの両者の相関はそれほど強くはない（r＝0.293）。「凝集性」との相反する関係性にも象徴されているように、幸福と寛容性の間には複雑な関係性があるらしい。地方創生の課題に取り組むうえでは、その地域で暮らす一人一人の幸福と、地域の寛容性の両方の視座を持つ必要があるようだ。



（a）開放性（相関係数 0.598）



（b）凝集性（相関係数−0.786）

図 4.7 都道府県の地域の雰囲気（開放性・凝集性）と寛容性の散布図

【参考文献】

1. 日本の幸福度と幸福観

[1] Helliwell, J.F., Layard, R., Sachs, J., & De Neve, J.E. (eds.): World Happiness Report 2021. New York: Sustainable Development Solutions Network, 2021. (http://worldhappiness.report/)

[2] Martela, F., Greve, B., Rothstein, Bo, Saari, J.: Chapter 7 The Nordic Exceptionalism: What Explains Why the Nordic Countries Are Constantly Among the Happiest in the World. In Helliwell, J.F. et al. (eds.) World Happiness Report 2020, pp. 129-145. New York: Sustainable Development Solutions Network, 2020.

[3] 経済協力開発機構（OECD）(著), 桑原進 (訳), 高橋しのぶ (訳): 主観的幸福を測る OECD ガイドライン. 明石書店, 2015.

[4] Huta, V. & Waterman, A.S.: Eudaimonia and Its Distinction from Hedonia: Developing a Classification and Terminology for Understanding Conceptual and Operational Definitions. Journal of Happiness Studies, 15, 1425-1456, 2014.

[5] Peterson, C., Park, N., & Seligman, M.E.: Orientations to Happiness and Life Satisfaction: The Full Life Versus the Empty Life. Journal of Happiness Studies, 6, pp. 25-41, 2005.

2. 幸福を決める要因

[1] 筒井淳也, 不破麻紀子: マルチレベル・モデルの考え方と実践. 理論と方法, 23(2), 2, pp. 139-149, 2008.

[2] Huta, V., Waterman, A.S.: Eudaimonia and Its Distinction from Hedonia: Developing a Classification and Terminology for Understanding Conceptual and Operational Definitions. Journal of Happiness Studies, 15, pp. 1425-1456, 2014.

[3] 大竹文雄, 白石小百合, 筒井義郎: 日本の幸福度 格差・労働・家族. 日本評論社, 2014.

[4] Cheng, T.C., Powdthavee, N., & Oswald, A.J.: Longitudinal Evidence for a Midlife Nadir in Human Well-Being: Results from Four Data Sets. Economic Journal, 127(599), pp.126-142, 2017.

4. 寛容性を育む要因

[1] 河島伸子: 第8章 文化は人を幸せにするのか 社会的包摂の文化政策. 橘木俊昭 (編) 幸福, 福祉＋α, pp. 131-145, ミネルヴァ書房, 2014.

地方創生のファクターX

47都道府県の寛容と幸福、人口移動に関する調査

47都道府県別データ集

well-being 指標／寛容性指標／人口移動指標／住民による地域評価



北海道

1人あたりの県民所得は35位にとどまるが、総合幸福度は10位、寛容性総合指標も7位と高水準。Uターン意向率、関係人口意向とも高い水準にあり、離脱意向も低い。

総人口	525.0万人【 8位 】
人口増減率	-0.7%【27位】
社会増減率	-0.4%【18位】
65歳以上比率	31.9%【18位】
1人あたり県民所得	2,617千円【35位】
上記伸び率	11.5%【25位】

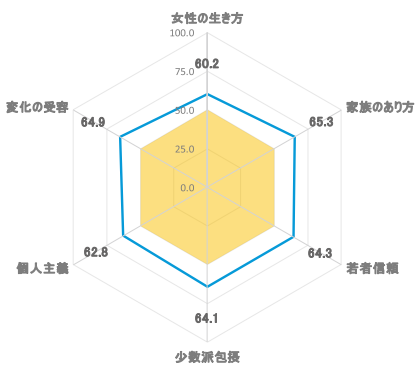
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
北海道全体	5.78	18位	4.92	6位	10.70	10位
男性・計	5.76	11位	5.05	14位	10.81	14位
男性・30代以下	5.88	11位	5.23	13位	11.10	10位
男性・40～50代	5.36	24位	5.10	5位	10.46	17位
男性・60代以上	6.35	11位	4.58	44位	10.93	31位
女性・計	5.79	30位	4.79	10位	10.58	22位
女性・30代以下	5.25	47位	4.47	29位	9.73	43位
女性・40～50代	5.94	9位	4.85	4位	10.79	8位
女性・60代以上	6.60	14位	5.29	9位	11.89	10位
既婚・計	6.58	3位	5.22	5位	11.80	2位
未婚・計	5.06	31位	4.62	17位	9.67	23位
男性・既婚	6.61	2位	5.48	5位	12.09	2位
男性・未婚	5.04	26位	4.51	30位	9.55	29位
女性・既婚	6.56	9位	5.00	8位	11.56	8位
女性・未婚	5.08	33位	4.74	6位	9.82	18位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
北海道全体	60.2	65.3	64.3	64.1	62.8	64.9	63.6	7位
男性・計	56.0	65.2	64.9	66.0	62.1	62.6	62.8	8位
男性・30代以下	56.7	63.4	58.4	61.8	61.3	55.8	59.6	9位
男性・40～50代	54.4	62.3	62.4	64.1	61.4	63.8	61.4	7位
男性・60代以上	56.6	67.6	68.5	67.1	61.5	65.2	64.4	6位
女性・計	62.7	65.0	63.4	62.1	62.9	66.3	63.7	7位
女性・30代以下	56.6	61.0	56.4	54.0	62.1	64.2	59.1	9位
女性・40～50代	62.0	63.2	61.1	65.1	60.0	65.8	62.9	7位
女性・60代以上	68.8	71.9	71.2	63.2	66.8	67.0	68.1	3位
既婚・計	62.1	65.1	63.8	65.2	63.1	66.9	64.4	7位
未婚・計	58.0	65.5	64.0	63.1	60.9	62.9	62.4	7位
男性・既婚	58.7	65.4	63.9	65.7	62.9	68.0	64.1	7位
男性・未婚	54.0	64.7	65.0	66.4	60.0	58.7	61.5	7位
女性・既婚	64.2	64.7	63.5	64.1	63.0	65.5	64.2	6位
女性・未婚	59.7	65.2	61.9	59.9	60.7	65.2	62.1	8位

人口移動指標

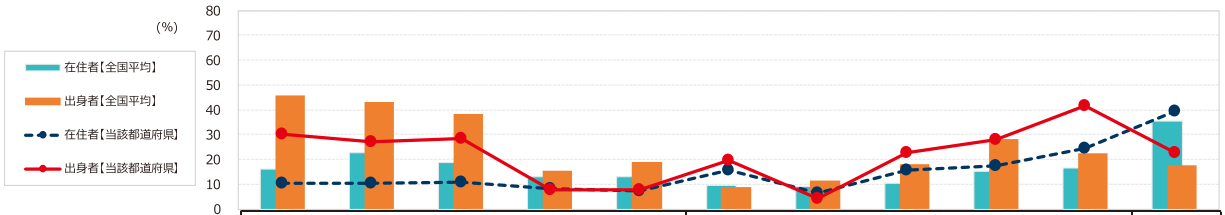
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
北海道全体	4.28	11位	39.2	50.0	68.8	40.5	34.6	42.4	3.14	46位
男性30代以下・計	4.34	18位	39.8	47.3	58.0	44.3	32.5	45.0	3.90	25位
女性30代以下・計	4.22	12位	38.7	52.8	79.5	36.7	36.6	39.8	3.74	25位
既婚・計	4.29	11位	48.6	53.5	74.7	39.2	30.8	40.8	2.92	46位
未婚・計	4.23	24位	33.7	48.6	67.3	41.8	35.7	42.2	3.42	45位
男性・既婚	4.27	20位	45.9	52.6	64.4	45.2	25.2	45.2	3.11	36位
男性・未婚	4.26	27位	37.4	45.9	54.9	45.1	35.0	44.3	3.37	45位
女性・既婚	4.30	10位	51.3	54.5	84.8	33.3	36.4	36.5	2.77	47位
女性・未婚	4.21	18位	29.9	51.4	79.9	38.4	36.5	40.0	3.49	37位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

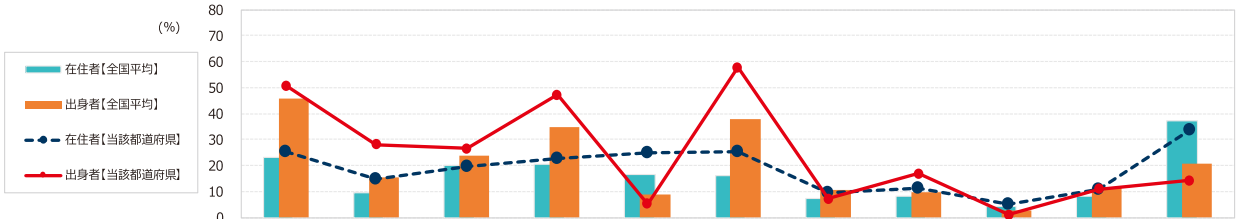


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	10.3	10.3	10.8	8.3	7.3	15.5	6.5	15.5	17.3	24.3	39.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	30.0	26.9	28.2	7.8	7.8	19.5	4.0	22.5	27.8	41.4	22.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.3	14.8	19.5	22.8	24.8	25.5	9.3	11.3	5.0	11.0	33.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	50.6	28.1	26.4	47.2	5.2	57.8	7.1	16.9	1.1	10.9	14.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



青森県

1人あたりの県民所得は38位。総合幸福度は38位にとどまるが、男性・60代以上は3位と高い。寛容性総合指標も43位にとどまる。関係人口意向は全国平均水準だが、Uターン意向率は低く、離脱意向も高い。

総人口	124.6万人【31位】
人口増減率	-1.4%【46位】
社会増減率	-4.4%【46位】
65歳以上比率	33.3%【7位】
1人あたり県民所得	2,558千円【38位】
上記伸び率	15.0%【16位】

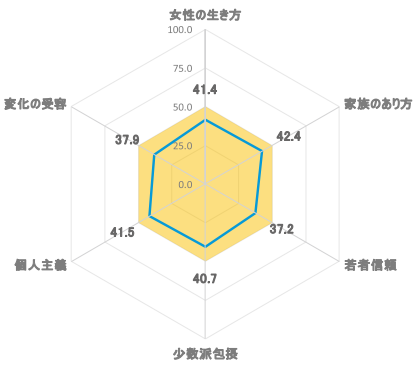
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
青森県全体	5.68	37位	4.68	36位	10.36	38位
男性・計	5.58	32位	4.71	40位	10.29	39位
男性・30代以下	5.58	34位	5.07	23位	10.64	27位
男性・40～50代	5.06	45位	4.03	47位	9.10	47位
男性・60代以上	6.65	3位	5.34	6位	11.99	3位
女性・計	5.78	32位	4.66	22位	10.43	29位
女性・30代以下	5.67	27位	4.42	34位	10.09	31位
女性・40～50代	5.56	31位	4.65	15位	10.22	21位
女性・60代以上	6.40	29位	5.15	15位	11.55	23位
既婚・計	6.45	8位	4.95	31位	11.40	16位
未婚・計	4.90	42位	4.44	27位	9.34	37位
男性・既婚	6.28	18位	4.86	45位	11.14	42位
男性・未婚	5.15	16位	4.66	21位	9.81	19位
女性・既婚	6.58	7位	5.02	7位	11.60	6位
女性・未婚	4.61	47位	4.17	37位	8.79	44位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
青森県全体	41.4	42.4	37.2	40.7	41.5	37.9	40.2	43位
男性・計	38.9	42.7	35.6	39.9	43.0	37.8	39.6	45位
男性・30代以下	38.5	39.5	37.7	38.8	47.8	38.1	40.1	43位
男性・40～50代	38.7	43.2	35.5	43.9	41.6	39.7	40.4	42位
男性・60代以上	43.6	45.7	41.6	38.9	40.2	38.3	41.4	39位
女性・計	43.0	42.6	38.9	41.6	40.8	38.0	40.8	41位
女性・30代以下	45.6	42.1	37.2	41.6	41.1	36.1	40.6	43位
女性・40～50代	45.7	45.7	41.7	45.2	41.8	40.9	43.5	35位
女性・60代以上	37.1	38.8	41.5	37.9	39.4	38.0	38.8	45位
既婚・計	38.6	42.3	37.0	39.7	39.7	37.0	39.1	43位
未婚・計	44.0	40.7	36.9	40.6	41.9	37.4	40.2	44位
男性・既婚	35.2	41.0	36.0	38.5	39.5	36.6	37.8	46位
男性・未婚	42.5	41.8	34.6	39.3	43.6	37.0	39.8	43位
女性・既婚	41.4	43.8	38.7	41.4	40.5	38.1	40.6	40位
女性・未婚	45.4	40.8	41.1	43.0	41.5	38.6	41.7	41位

人口移動指標

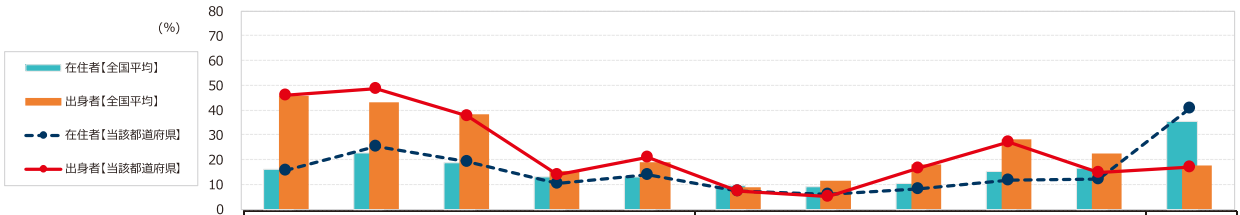
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
青森県全体	4.07	32位	32.5	41.9	59.6	39.8	40.5	43.2	3.80	2位
男性30代以下・計	4.01	36位	33.4	42.1	62.4	44.8	42.5	44.7	4.16	7位
女性30代以下・計	4.13	16位	31.5	41.8	56.9	34.8	38.6	41.8	4.30	1位
既婚・計	3.71	39位	27.0	38.2	50.6	38.8	39.8	48.8	3.62	3位
未婚・計	4.40	10位	38.1	46.4	70.1	40.4	43.7	41.8	4.06	3位
男性・既婚	3.81	35位	39.4	44.7	59.9	45.9	45.3	56.7	3.62	7位
男性・未婚	4.32	21位	32.4	42.3	68.7	44.5	42.5	38.3	4.00	9位
女性・既婚	3.60	38位	12.2	30.4	39.6	30.3	33.3	39.3	3.62	3位
女性・未婚	4.48	7位	43.2	50.0	71.4	36.8	44.8	45.0	4.14	1位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

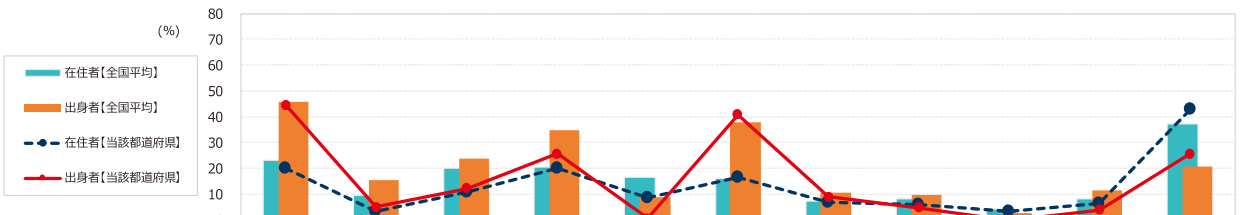


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.5	25.5	19.0	10.3	14.0	7.3	6.0	8.3	11.8	12.0	40.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	45.9	48.4	37.6	13.9	20.8	7.4	5.2	16.4	26.9	14.7	17.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.0	3.5	11.0	20.0	8.5	16.3	7.0	5.8	3.3	6.3	42.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	44.5	4.9	12.3	25.7	0.5	40.7	8.9	4.8	—	3.8	25.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



岩手県

1人あたりの県民所得は31位。総合幸福度は41位で、年代が高いほど順位が高い。寛容性総合指標も40位にとどまる。Uターン意向率は17位で、関係人口意向は事業創出が高め。離脱意向は19位。

総人口	122.7万人【32位】
人口増減率	-1.1%【44位】
社会増減率	-2.8%【38位】
65歳以上比率	33.1%【 8位 】
1人あたり県民所得	2,737千円【31位】
上記伸び率	22.8%【 2位 】

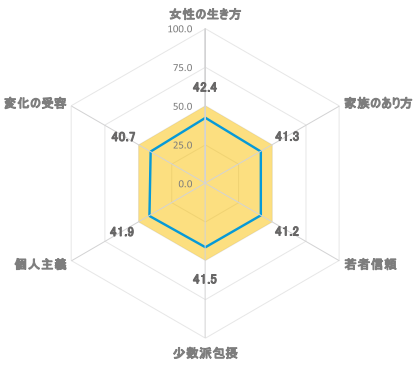
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
岩手県全体	5.62	41位	4.59	44位	10.21	41位
男性・計	5.47	42位	4.68	46位	10.16	43位
男性・30代以下	5.62	28位	4.91	34位	10.53	35位
男性・40～50代	5.00	46位	4.27	45位	9.27	46位
男性・60代以上	6.12	21位	5.05	20位	11.18	18位
女性・計	5.76	33位	4.50	38位	10.26	35位
女性・30代以下	5.62	31位	4.34	40位	9.97	38位
女性・40～50代	5.47	34位	4.40	27位	9.87	32位
女性・60代以上	6.60	14位	5.01	28位	11.61	19位
既婚・計	6.30	21位	4.95	31位	11.25	31位
未婚・計	4.91	39位	4.27	41位	9.18	41位
男性・既婚	6.23	29位	5.12	36位	11.35	33位
男性・未婚	4.62	44位	4.27	41位	8.90	45位
女性・既婚	6.36	20位	4.79	27位	11.16	24位
女性・未婚	5.18	29位	4.26	30位	9.44	29位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
岩手県全体	42.4	41.3	41.2	41.5	41.9	40.7	41.5	40位
男性・計	44.6	41.8	46.5	36.9	43.6	43.2	42.8	36位
男性・30代以下	49.4	46.1	56.8	40.2	48.0	52.9	48.9	24位
男性・40～50代	40.1	37.5	38.9	34.1	39.8	37.5	38.0	46位
男性・60代以上	48.0	46.3	47.5	43.7	45.9	43.1	45.8	29位
女性・計	41.6	41.3	38.2	45.7	40.4	39.3	41.1	40位
女性・30代以下	42.4	41.2	40.3	45.9	41.8	40.4	42.0	40位
女性・40～50代	42.4	42.3	38.9	46.3	40.9	39.4	41.7	39位
女性・60代以上	41.4	41.4	38.3	44.8	40.0	40.2	41.0	40位
既婚・計	39.3	37.5	38.6	35.1	37.5	36.5	37.4	47位
未婚・計	44.1	43.7	43.1	48.3	44.4	42.6	44.4	32位
男性・既婚	40.7	36.7	42.9	32.0	38.8	39.0	38.4	45位
男性・未婚	46.2	44.4	48.1	42.7	45.6	44.8	45.3	31位
女性・既婚	38.0	37.9	36.0	38.0	36.4	34.8	36.9	46位
女性・未婚	44.9	45.0	41.2	52.0	45.3	42.6	45.2	31位

人口移動指標

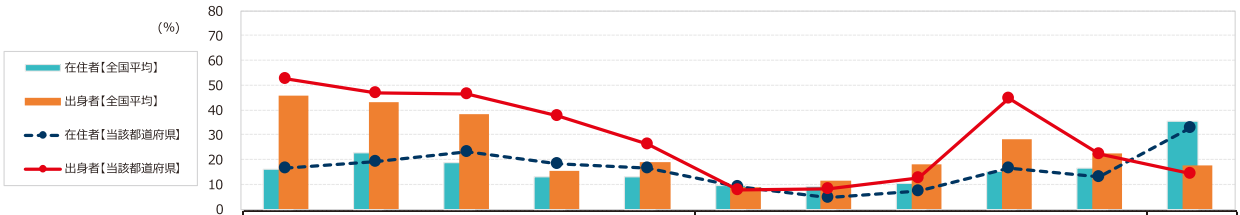
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
岩手県全体	4.19	17位	33.1	44.0	61.8	44.1	43.6	44.7	3.53	19位
男性30代以下・計	4.48	13位	35.1	46.1	58.4	51.7	44.0	42.9	3.91	24位
女性30代以下・計	3.90	35位	31.1	41.9	65.3	36.4	43.2	46.4	3.99	8位
既婚・計	3.93	29位	31.8	47.9	69.5	44.8	48.1	52.3	3.28	20位
未婚・計	4.36	15位	33.7	41.3	58.4	42.4	40.5	37.6	3.89	11位
男性・既婚	4.41	8位	47.0	58.8	70.6	58.9	56.0	58.9	3.24	26位
男性・未婚	4.58	12位	28.9	40.3	52.2	44.3	38.6	30.9	3.88	17位
女性・既婚	3.45	41位	17.0	37.1	68.4	31.0	40.4	45.9	3.32	21位
女性・未婚	4.13	21位	38.7	42.3	64.9	40.5	42.5	44.5	3.91	12位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

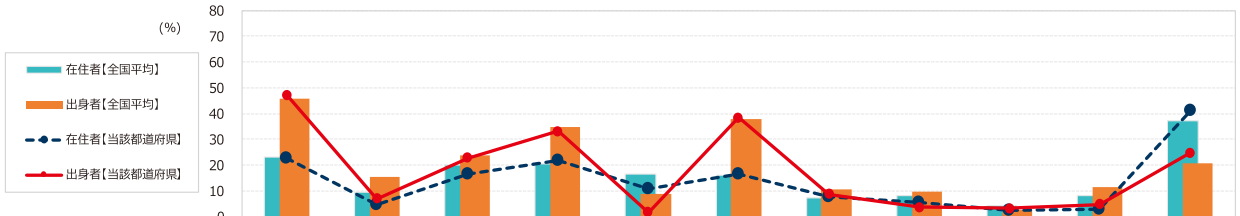


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	16.3	19.0	23.0	18.3	16.5	9.0	4.8	7.3	16.3	13.0	32.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.5	46.8	46.4	37.7	26.3	7.5	8.0	12.7	44.6	22.0	14.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	22.8	4.8	16.5	21.8	11.0	16.5	7.5	5.3	2.5	2.8	41.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	47.1	7.0	22.7	33.1	1.7	38.3	8.6	3.7	3.3	4.8	24.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



宮城県

1人あたりの県民所得は21位。総合幸福度は40位にとどまるが、寛容性総合指標は14位。Uターン意向率は14位で、関係人口意向はボランティアが高め。離脱意向は43位と低い。

総人口	230.6万人【14位】
人口増減率	-0.4%【14位】
社会増減率	0.2%【14位】
65歳以上比率	28.3%【38位】
1人あたり県民所得	2,926千円【21位】
上記伸び率	18.8%【9位】

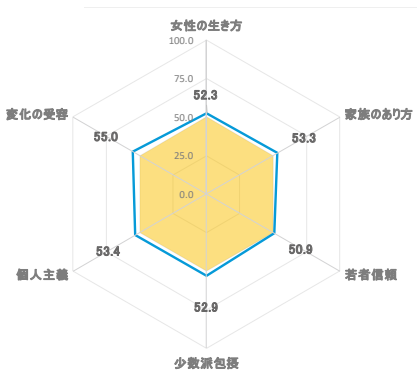
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
宮城県全体	5.63	39位	4.60	43位	10.23	40位
男性・計	5.51	40位	4.61	47位	10.13	44位
男性・30代以下	5.36	41位	4.48	46位	9.85	45位
男性・40～50代	5.24	34位	4.63	33位	9.87	34位
男性・60代以上	6.38	10位	4.85	30位	11.22	17位
女性・計	5.75	35位	4.58	31位	10.32	33位
女性・30代以下	5.55	37位	4.41	35位	9.96	39位
女性・40～50代	5.69	21位	4.57	18位	10.25	19位
女性・60代以上	6.25	42位	4.94	34位	11.19	39位
既婚・計	6.30	21位	4.89	39位	11.19	35位
未婚・計	4.91	39位	4.20	43位	9.10	43位
男性・既婚	6.36	14位	5.09	39位	11.44	29位
男性・未婚	4.85	36位	4.17	45位	9.02	39位
女性・既婚	6.25	33位	4.74	31位	10.98	36位
女性・未婚	4.98	40位	4.23	33位	9.22	37位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
宮城県全体	52.3	53.3	50.9	52.9	53.4	55.0	53.0	14位
男性・計	51.1	50.9	46.3	52.4	47.6	55.4	50.6	17位
男性・30代以下	52.6	44.9	32.9	54.0	47.0	50.7	47.0	27位
男性・40～50代	47.8	50.5	54.9	50.2	47.2	56.7	51.2	18位
男性・60代以上	53.9	57.4	50.3	52.6	49.7	56.2	53.4	15位
女性・計	53.3	54.7	54.1	53.5	57.7	55.4	54.8	14位
女性・30代以下	49.1	51.2	49.9	44.7	54.7	53.5	50.5	17位
女性・40～50代	52.2	56.2	58.1	56.6	60.1	58.0	56.9	10位
女性・60代以上	60.3	55.8	50.3	56.9	55.5	51.7	55.1	12位
既婚・計	52.2	52.6	48.1	51.8	52.3	56.1	52.2	14位
未婚・計	52.3	54.2	52.1	53.8	53.7	52.8	53.2	15位
男性・既婚	49.1	50.0	42.1	54.2	44.9	56.2	49.4	17位
男性・未婚	53.6	52.8	49.6	49.4	49.8	52.4	51.3	20位
女性・既婚	54.2	54.3	52.7	50.7	57.3	56.3	54.3	14位
女性・未婚	50.8	55.2	53.8	57.3	56.8	52.7	54.4	12位

人口移動指標

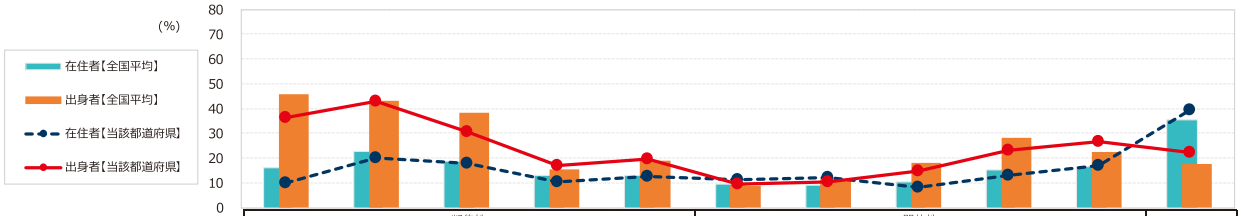
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
宮城県全体	4.25	14位	35.8	45.5	60.6	39.7	42.4	46.3	3.27	43位
男性30代以下・計	4.39	16位	41.9	50.1	59.3	52.5	44.0	52.4	3.76	35位
女性30代以下・計	4.11	17位	29.8	40.8	61.9	27.0	40.8	40.1	3.60	33位
既婚・計	4.41	5位	35.4	49.3	61.7	35.4	41.6	50.7	3.11	39位
未婚・計	4.19	27位	38.7	45.8	62.5	45.5	45.3	44.4	3.60	34位
男性・既婚	4.61	4位	47.2	60.5	60.5	53.6	46.8	60.1	3.08	37位
男性・未婚	4.36	20位	41.5	46.2	61.4	55.6	45.3	51.9	3.56	38位
女性・既婚	4.25	13位	25.4	39.8	62.7	19.9	37.3	42.8	3.13	31位
女性・未婚	4.01	31位	35.7	45.3	63.7	34.5	45.3	36.3	3.66	25位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

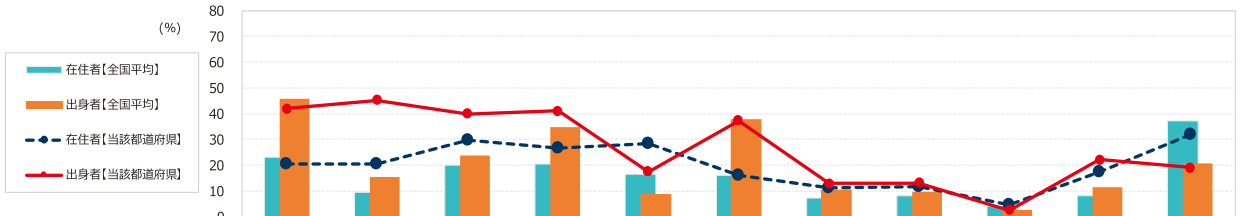


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	10.0	20.0	17.8	10.5	12.5	11.3	12.0	8.0	13.0	17.0	39.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	36.2	42.7	30.5	16.8	19.6	9.4	10.5	14.7	22.9	26.7	22.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.5	20.5	29.8	26.8	28.3	16.0	11.3	11.8	4.8	17.3	32.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	42.0	45.3	39.9	41.1	17.5	37.2	12.9	13.2	2.6	22.1	19.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



秋田県

1人あたりの県民所得は39位。総合幸福度は41位、寛容性総合指標も46位にとどまる。Uターン意向率は34位。関係人口意向は事業創出やボランティアなどで高い。離脱意向は6位と高水準。

総人口	96.6万人【38位】
人口増減率	-1.5%【47位】
社会増減率	-3.7‰【45位】
65歳以上比率	37.2%【1位】
1人あたり県民所得	2,553千円【39位】
上記伸び率	25.4%【1位】

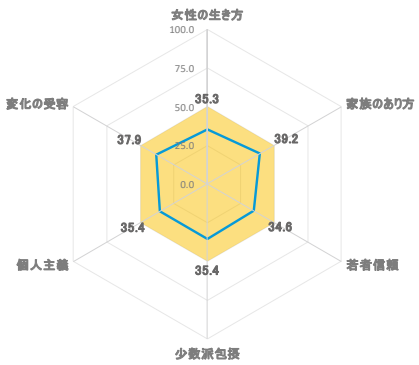
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
秋田県全体	5.50	47位	4.71	31位	10.21	41位
男性・計	5.45	43位	4.81	34位	10.26	40位
男性・30代以下	5.45	38位	4.92	33位	10.38	38位
男性・40～50代	5.26	32位	4.94	16位	10.20	23位
男性・60代以上	5.80	36位	4.33	46位	10.12	45位
女性・計	5.56	43位	4.61	28位	10.17	41位
女性・30代以下	5.39	45位	4.53	28位	9.91	41位
女性・40～50代	5.45	35位	4.60	16位	10.05	26位
女性・60代以上	6.12	43位	4.82	40位	10.94	43位
既婚・計	6.18	36位	5.02	24位	11.20	33位
未婚・計	4.76	46位	4.30	40位	9.06	45位
男性・既婚	6.26	22位	5.32	15位	11.57	20位
男性・未婚	4.68	41位	4.32	38位	9.00	41位
女性・既婚	6.12	40位	4.76	28位	10.87	40位
女性・未婚	4.85	43位	4.28	29位	9.13	39位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
秋田県全体	35.3	39.2	34.6	35.4	35.4	37.9	36.3	46位
男性・計	37.1	38.4	38.3	36.3	37.2	35.3	37.1	46位
男性・30代以下	40.7	41.1	41.0	34.0	37.2	47.2	40.2	42位
男性・40～50代	39.4	41.5	40.0	39.0	40.0	32.7	38.8	45位
男性・60代以上	34.4	34.7	39.1	40.5	34.1	30.1	35.5	46位
女性・計	34.2	39.5	32.4	35.6	34.0	39.6	35.9	47位
女性・30代以下	30.7	37.9	26.7	31.8	32.8	37.6	32.9	47位
女性・40～50代	35.0	39.8	36.1	37.9	34.4	39.8	37.2	44位
女性・60代以上	42.5	44.1	42.4	42.3	38.9	45.3	42.6	35位
既婚・計	35.7	40.5	35.6	37.9	37.1	38.1	37.5	46位
未婚・計	34.2	36.4	34.2	34.5	32.0	36.6	34.7	45位
男性・既婚	35.8	38.1	36.2	38.7	38.3	31.1	36.4	47位
男性・未婚	38.7	38.5	40.1	34.9	34.6	37.9	37.4	45位
女性・既婚	36.5	42.2	36.3	38.2	36.5	43.5	38.9	43位
女性・未婚	32.9	36.3	30.7	35.9	31.8	37.1	34.1	46位

人口移動指標

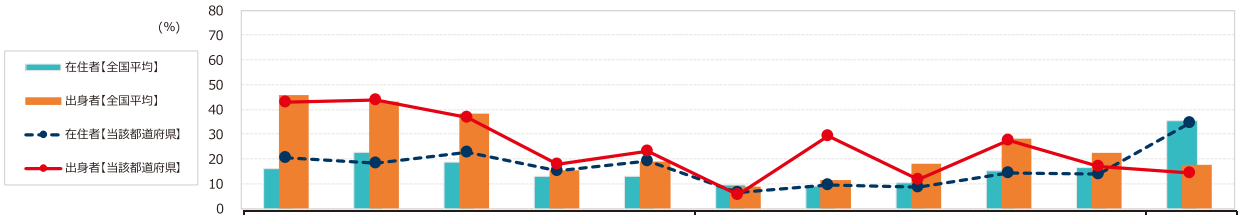
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
秋田県全体	4.06	34位	32.7	42.5	61.2	44.7	49.0	49.1	3.65	6位
男性30代以下・計	4.14	32位	33.6	48.5	62.2	55.7	51.4	55.5	3.86	29位
女性30代以下・計	3.98	29位	31.8	36.4	60.2	33.6	46.6	42.7	3.92	10位
既婚・計	3.69	40位	25.7	40.0	63.9	45.5	43.9	54.6	3.50	7位
未婚・計	4.21	26位	36.3	43.2	59.4	43.7	51.3	48.3	3.86	13位
男性・既婚	3.55	41位	27.7	45.3	68.9	48.7	37.8	54.7	3.40	11位
男性・未婚	4.45	16位	38.1	51.7	57.7	60.0	56.3	58.5	3.86	18位
女性・既婚	3.85	27位	23.6	34.3	58.4	42.1	50.6	54.5	3.59	5位
女性・未婚	4.00	32位	34.8	35.5	60.9	29.2	46.8	39.1	3.88	13位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

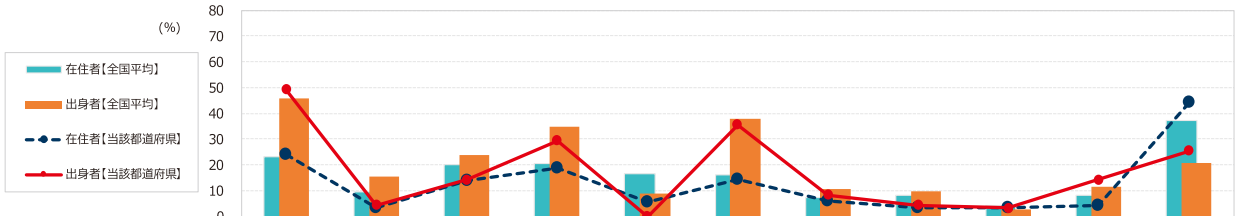


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.3	18.3	22.8	15.3	19.3	6.3	9.5	8.5	14.5	14.0	34.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	42.9	43.9	36.6	17.8	23.2	5.4	29.2	11.5	27.3	17.1	14.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.0	3.3	13.8	18.8	5.3	14.3	5.8	3.5	3.3	4.3	44.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.2	4.3	14.1	29.3	—	35.5	8.3	4.4	3.2	14.3	25.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



山形県

1人あたりの県民所得は30位。総合幸福度は47位、寛容性総合指標も44位にとどまるが、女性・60代以上は順位が高め。Uターン意向率は37位。関係人口意向は二拠点生活が特に低い。離脱意向は6位と高水準。

総人口	107.8万人【35位】
人口増減率	-1.1%【43位】
社会増減率	-3.2%【43位】
65歳以上比率	33.4%【6位】
1人あたり県民所得	2,758千円【30位】
上記伸び率	21.6%【3位】

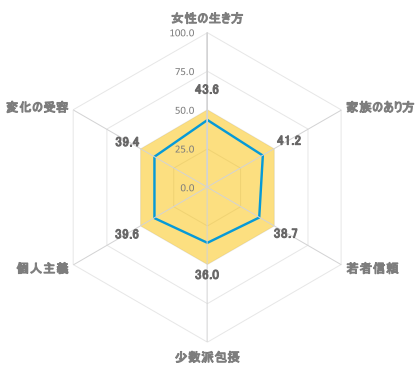
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
山形県全体	5.54	44位	4.58	45位	10.12	47位
男性・計	5.36	46位	4.71	40位	10.06	46位
男性・30代以下	5.24	46位	4.88	37位	10.12	42位
男性・40～50代	5.29	29位	4.53	40位	9.82	40位
男性・60代以上	5.72	39位	4.72	36位	10.44	40位
女性・計	5.72	38位	4.46	39位	10.18	39位
女性・30代以下	5.56	35位	4.38	38位	9.94	40位
女性・40～50代	5.40	37位	4.18	39位	9.58	40位
女性・60代以上	6.67	10位	5.17	14位	11.84	12位
既婚・計	6.19	35位	4.95	31位	11.14	37位
未婚・計	4.75	47位	4.15	45位	8.90	46位
男性・既婚	6.11	40位	4.93	44位	11.04	44位
男性・未婚	4.54	47位	4.39	34位	8.93	42位
女性・既婚	6.26	31位	4.96	13位	11.22	19位
女性・未婚	5.05	34位	3.82	43位	8.86	42位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
山形県全体	43.6	41.2	38.7	36.0	39.6	39.4	39.8	44位
男性・計	44.1	44.7	40.6	36.7	39.0	42.0	41.2	42位
男性・30代以下	48.0	47.5	34.1	32.9	37.7	42.0	40.4	41位
男性・40～50代	45.2	45.5	50.1	40.7	41.6	45.7	44.8	34位
男性・60代以上	40.6	42.3	38.4	39.9	39.0	38.2	39.7	42位
女性・計	43.6	39.2	37.7	35.9	40.4	37.5	39.1	44位
女性・30代以下	39.5	36.3	28.7	26.7	39.1	35.9	34.4	46位
女性・40～50代	44.5	38.6	41.2	39.8	38.8	36.7	39.9	41位
女性・60代以上	50.2	46.6	52.3	45.3	46.7	45.4	47.8	23位
既婚・計	47.8	43.2	46.0	42.3	42.0	41.4	43.8	35位
未婚・計	38.2	39.0	29.2	27.1	35.8	37.3	34.4	46位
男性・既婚	43.9	44.4	45.8	40.5	38.6	39.4	42.1	41位
男性・未婚	45.6	45.7	37.0	30.9	40.7	45.2	40.9	42位
女性・既婚	50.8	43.0	46.4	44.0	44.9	43.4	45.4	32位
女性・未婚	32.9	33.0	23.4	24.9	31.6	30.1	29.3	47位

人口移動指標

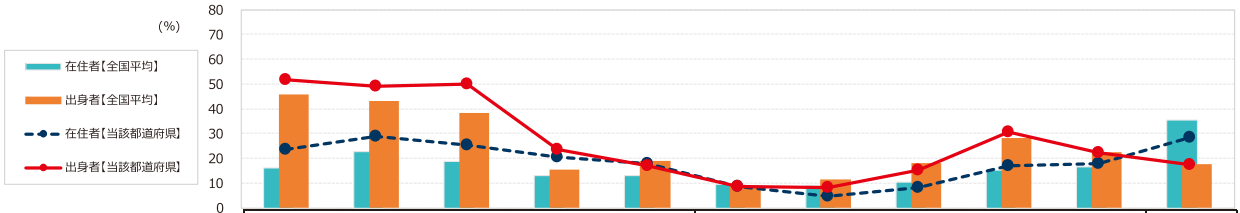
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
山形県全体	3.99	37位	25.0	38.9	64.2	32.4	38.9	40.6	3.65	6位
男性30代以下・計	4.12	33位	31.4	45.7	61.8	39.9	44.7	42.0	4.16	7位
女性30代以下・計	3.86	36位	18.7	32.1	66.5	24.8	33.2	39.2	4.04	6位
既婚・計	4.05	24位	30.2	37.4	68.9	30.3	40.1	43.0	3.39	11位
未婚・計	3.98	38位	22.9	39.3	62.6	33.6	38.5	40.4	4.03	6位
男性・既婚	4.32	17位	42.0	54.8	61.4	42.3	51.8	55.0	3.38	13位
男性・未婚	4.00	39位	25.8	41.3	61.3	37.4	41.4	35.2	4.08	6位
女性・既婚	3.82	29位	20.0	22.6	75.3	20.0	30.1	32.6	3.40	16位
女性・未婚	3.96	34位	19.5	36.9	64.1	29.1	35.0	46.5	3.95	9位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

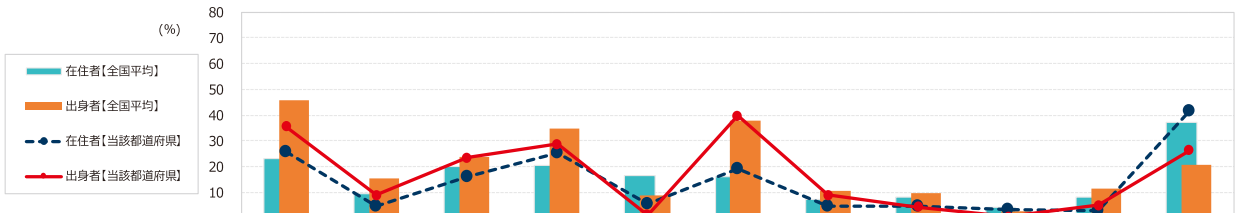


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.5	28.8	25.5	20.3	18.0	8.8	4.8	8.3	16.8	17.8	28.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	51.5	48.9	49.8	23.4	16.9	8.5	8.2	15.0	30.6	22.1	17.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.8	4.5	16.0	25.3	5.3	19.0	4.5	4.8	3.5	3.0	41.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	35.6	9.0	23.5	28.7	1.3	39.6	8.9	4.2	0.6	5.0	26.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



福島県

1人あたりの県民所得は16位だが、総合幸福度は34位、寛容性総合指標は42位にとどまる。ただし、男性・未婚層の総合幸福度は6位と高水準。Uターン意向率は23位。関係人口意向はボランティア、まちおこしが高め。離脱意向は22位。

総人口	184.6万人【21位】
人口増減率	-1.0%【38位】
社会増減率	-2.8%【38位】
65歳以上比率	31.5%【21位】
1人あたり県民所得	3,005千円【16位】
上記伸び率	19.4%【 7位 】

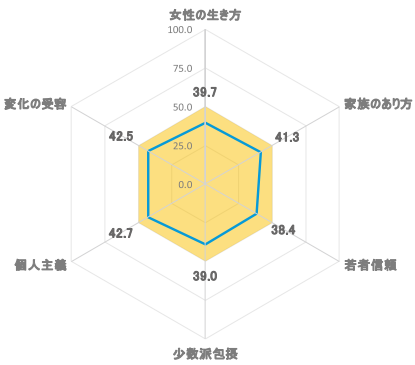
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
福島県全体	5.69	36位	4.75	28位	10.44	34位
男性・計	5.65	22位	4.92	23位	10.57	25位
男性・30代以下	5.80	14位	5.12	21位	10.93	18位
男性・40～50代	5.56	16位	5.08	6位	10.64	11位
男性・60代以上	5.53	45位	4.21	47位	9.73	47位
女性・計	5.74	37位	4.58	31位	10.32	33位
女性・30代以下	5.55	37位	4.44	33位	9.99	37位
女性・40～50代	5.58	30位	4.48	21位	10.06	25位
女性・60代以上	6.42	24位	5.07	23位	11.49	27位
既婚・計	6.10	43位	4.81	44位	10.91	44位
未婚・計	5.26	12位	4.66	13位	9.92	11位
男性・既婚	5.97	45位	4.82	46位	10.79	46位
男性・未婚	5.30	8位	4.99	6位	10.29	6位
女性・既婚	6.21	36位	4.80	25位	11.01	32位
女性・未婚	5.21	25位	4.26	30位	9.47	27位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
福島県全体	39.7	41.3	38.4	39.0	42.7	42.5	40.6	42位
男性・計	44.1	42.5	41.5	41.8	43.8	42.4	42.7	37位
男性・30代以下	48.5	44.7	38.9	48.7	41.4	46.2	44.7	33位
男性・40～50代	37.4	39.2	40.9	39.0	42.4	39.0	39.7	44位
男性・60代以上	52.3	47.1	49.9	41.9	49.9	46.5	47.9	23位
女性・計	37.5	40.6	37.0	37.6	42.0	42.8	39.6	43位
女性・30代以下	39.8	43.4	36.0	40.9	40.9	41.2	40.4	44位
女性・40～50代	33.2	35.6	35.1	34.1	41.0	42.2	36.9	45位
女性・60代以上	45.7	48.5	46.1	43.5	47.2	48.8	46.6	27位
既婚・計	40.6	39.5	38.9	36.7	42.6	42.0	40.1	42位
未婚・計	40.1	43.7	39.9	42.4	43.6	43.8	42.2	40位
男性・既婚	48.8	41.7	42.3	42.3	44.4	43.6	43.8	34位
男性・未婚	39.3	44.5	42.9	41.8	44.2	43.4	42.7	36位
女性・既婚	35.6	38.6	37.3	33.3	41.9	41.5	38.0	45位
女性・未婚	41.2	43.2	38.2	43.3	43.5	44.7	42.4	39位

人口移動指標

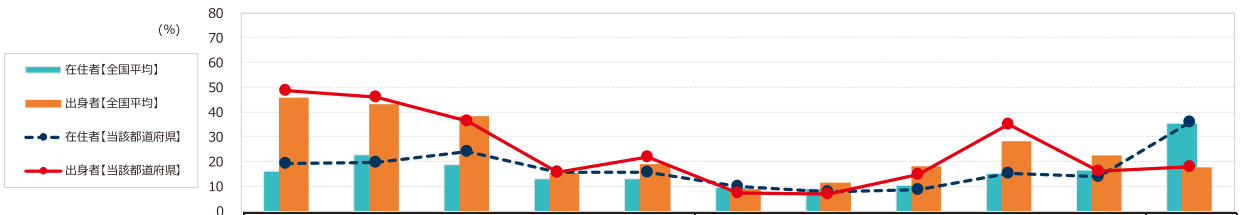
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
福島県全体	4.15	23位	32.8	44.8	58.4	39.5	44.7	47.3	3.50	22位
男性30代以下・計	4.29	22位	36.4	50.4	61.4	45.6	48.9	47.8	4.12	12位
女性30代以下・計	4.01	25位	29.2	39.2	55.3	33.4	40.4	46.7	3.51	37位
既婚・計	3.82	35位	32.3	38.8	53.5	37.1	38.9	41.9	3.26	24位
未婚・計	4.34	16位	34.8	49.6	63.2	42.0	49.3	51.8	3.79	16位
男性・既婚	4.34	14位	33.9	55.7	66.7	48.1	55.7	51.9	3.43	10位
男性・未婚	4.31	23位	40.2	51.4	63.2	47.6	49.1	49.1	3.95	13位
女性・既婚	3.39	42位	31.1	25.1	42.9	28.2	25.3	33.8	3.12	32位
女性・未婚	4.38	10位	29.1	47.6	63.2	36.0	49.4	54.7	3.60	27位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

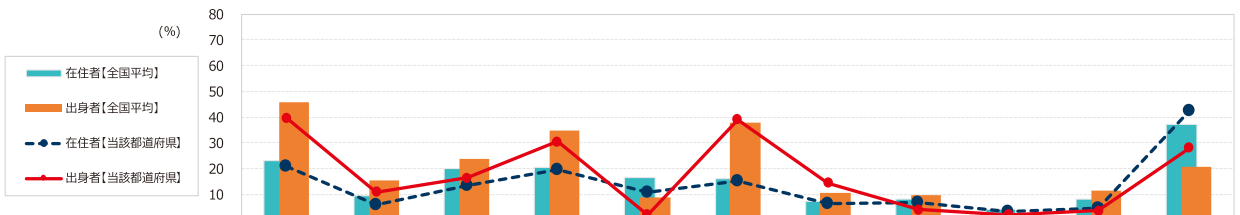


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	19.0	19.8	23.8	15.5	15.5	10.0	7.8	8.5	15.0	13.8	35.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.6	45.9	36.2	15.5	21.6	7.4	6.9	14.6	35.0	16.1	18.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.8	5.8	13.5	19.5	10.8	15.0	6.3	6.8	3.5	4.8	42.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	39.8	10.8	16.3	30.4	2.1	39.1	14.5	4.0	2.1	3.6	28.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



茨城県

1人あたりの県民所得は10位だが、総合幸福度は44位にとどまる。寛容性総合指標は27位で、少数派包摂が低い傾向。Uターン意向率は31位。関係人口意向は二拠点生活以外は低め。離脱意向は3位と高水準。

総人口	286.0万人【11位】
人口増減率	-0.6%【23位】
社会増減率	-0.7%【20位】
65歳以上比率	29.5%【33位】
1人あたり県民所得	3,116千円【10位】
上記伸び率	16.4%【14位】

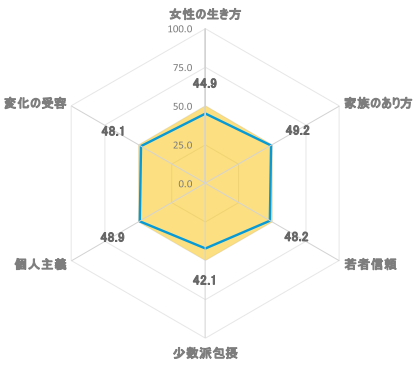
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
茨城県全体	5.54	44位	4.62	41位	10.16	44位
男性・計	5.54	35位	4.87	29位	10.41	31位
男性・30代以下	5.62	28位	4.98	30位	10.60	29位
男性・40～50代	5.12	40位	4.73	27位	9.85	38位
男性・60代以上	6.22	19位	4.92	27位	11.14	20位
女性・計	5.54	45位	4.38	42位	9.92	45位
女性・30代以下	5.65	30位	4.45	32位	10.10	28位
女性・40～50代	5.00	47位	3.94	46位	8.94	46位
女性・60代以上	6.40	29位	5.12	20位	11.52	26位
既婚・計	6.04	45位	4.72	45位	10.76	47位
未婚・計	5.09	29位	4.51	24位	9.60	26位
男性・既婚	6.27	20位	4.96	43位	11.23	37位
男性・未婚	5.01	28位	4.80	16位	9.81	19位
女性・既婚	5.86	46位	4.52	44位	10.39	46位
女性・未婚	5.19	28位	4.11	41位	9.30	34位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
茨城県全体	44.9	49.2	48.2	42.1	48.9	48.1	46.9	27位
男性・計	46.3	48.9	46.9	40.9	45.3	48.3	46.1	29位
男性・30代以下	40.9	45.1	41.6	32.9	40.4	46.2	41.2	39位
男性・40～50代	53.1	52.5	53.7	47.8	48.5	52.5	51.4	17位
男性・60代以上	39.8	46.4	43.5	42.5	46.5	43.7	43.8	35位
女性・計	44.5	49.3	49.2	43.4	51.6	47.8	47.6	22位
女性・30代以下	41.6	47.6	55.2	43.5	51.7	45.1	47.5	27位
女性・40～50代	43.7	50.6	49.9	43.5	51.0	49.5	48.0	27位
女性・60代以上	51.2	49.9	40.6	45.2	52.7	49.2	48.1	22位
既婚・計	44.2	49.2	46.7	43.6	50.4	46.8	46.8	27位
未婚・計	45.5	48.9	48.6	40.9	46.6	48.8	46.5	28位
男性・既婚	43.3	45.9	45.6	40.0	44.5	43.4	43.8	35位
男性・未婚	49.4	51.6	48.1	42.9	46.4	52.4	48.5	25位
女性・既婚	45.2	51.0	48.1	46.3	54.1	49.5	49.0	20位
女性・未婚	42.5	45.8	48.6	39.7	46.1	44.9	44.6	32位

人口移動指標

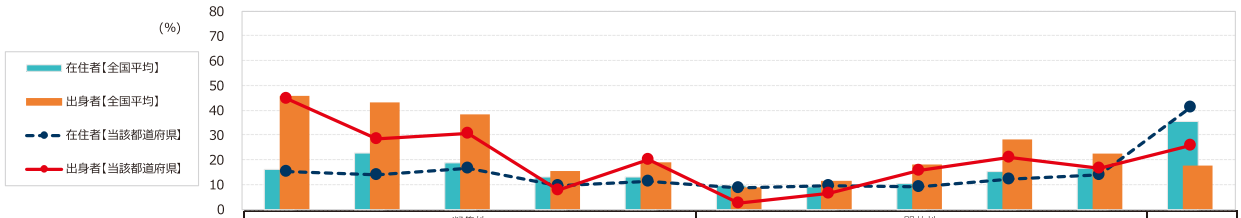
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
茨城県全体	4.08	31位	32.9	27.8	48.5	27.3	24.2	27.4	3.75	3位
男性30代以下・計	4.01	36位	35.2	29.1	49.0	35.2	22.8	29.2	4.30	2位
女性30代以下・計	4.15	15位	30.7	26.5	47.9	19.5	25.6	25.5	4.09	4位
既婚・計	3.98	27位	25.8	22.9	49.4	29.2	24.1	28.9	3.54	6位
未婚・計	4.13	32位	37.2	30.9	48.2	26.1	24.8	24.7	4.13	1位
男性・既婚	3.87	34位	31.1	34.1	54.6	44.6	24.4	37.9	3.65	5位
男性・未婚	4.13	33位	37.2	27.1	46.7	31.3	22.2	23.6	4.15	4位
女性・既婚	4.08	18位	21.2	13.2	44.8	15.9	23.9	21.1	3.46	8位
女性・未婚	4.13	21位	37.1	35.2	49.9	20.4	27.8	26.0	4.11	3位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

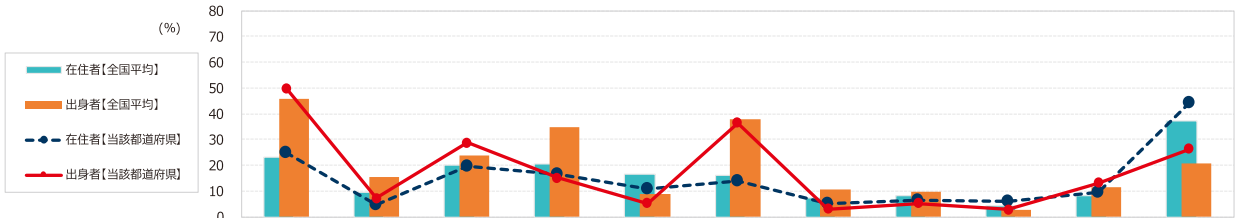


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.0	13.8	16.3	9.5	11.3	8.8	9.3	9.0	12.0	13.8	41.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	44.7	28.5	30.4	7.7	20.2	2.6	6.3	15.6	20.9	16.7	25.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.8	4.5	19.5	16.3	10.8	14.0	5.0	6.5	5.8	9.5	44.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.9	7.2	28.8	15.0	5.2	36.5	3.0	5.1	2.7	13.0	26.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



栃木県

1人あたりの県民所得は３位で、総合幸福度は27位。寛容性総合指標は24位だが、女性・未婚層は42位にとどまる。Uターン意向率は39位だが、女性・未婚層は13位。関係人口意向は低めで、離脱意向は4位と高水準。

総人口	193.4万人【19位】
人口増減率	-0.6%【24位】
社会増減率	-1.5%【29位】
65歳以上比率	28.6%【37位】
1人あたり県民所得	3,318千円【３位】
上記伸び率	14.0%【19位】

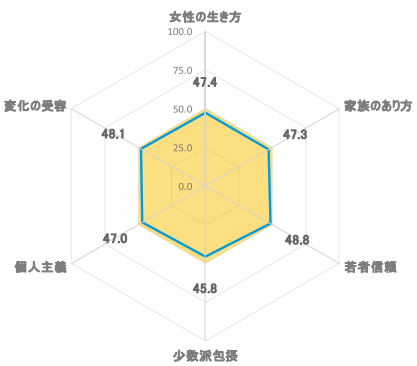
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
栃木県全体	5.82	13位	4.71	31位	10.53	27位
男性・計	5.62	24位	4.71	40位	10.33	37位
男性・30代以下	5.67	24位	5.03	27位	10.70	25位
男性・40～50代	5.41	20位	4.31	44位	9.72	43位
男性・60代以上	5.90	29位	4.89	29位	10.79	32位
女性・計	6.03	11位	4.70	16位	10.73	13位
女性・30代以下	5.66	28位	4.73	15位	10.40	23位
女性・40～50代	6.21	3位	4.53	20位	10.74	9位
女性・60代以上	6.40	29位	4.98	30位	11.38	32位
既婚・計	6.38	14位	4.91	36位	11.29	26位
未婚・計	5.07	30位	4.43	29位	9.50	30位
男性・既婚	6.45	9位	5.20	27位	11.65	16位
男性・未婚	4.98	29位	4.29	39位	9.27	34位
女性・既婚	6.32	22位	4.71	36位	11.03	31位
女性・未婚	5.22	23位	4.67	10位	9.88	17位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
栃木県全体	47.4	47.3	48.8	45.8	47.0	48.1	47.4	24位
男性・計	50.1	47.7	53.4	48.0	48.9	51.7	50.0	18位
男性・30代以下	56.7	54.3	66.9	53.8	51.5	55.3	56.4	11位
男性・40～50代	51.1	48.9	53.1	52.1	52.5	51.1	51.5	16位
男性・60代以上	43.4	39.8	35.3	35.2	39.3	46.5	39.9	41位
女性・計	45.7	46.9	45.1	44.3	45.9	45.9	45.6	30位
女性・30代以下	38.4	43.0	37.7	42.6	43.5	42.1	41.2	42位
女性・40～50代	52.7	50.9	53.5	50.6	50.8	51.7	51.7	16位
女性・60代以上	44.4	45.4	44.6	37.6	41.9	41.1	42.5	36位
既婚・計	46.1	47.5	47.2	46.8	45.9	44.7	46.4	29位
未婚・計	48.7	46.7	50.0	42.2	47.9	51.3	47.8	24位
男性・既婚	44.5	46.2	48.6	44.6	45.7	47.6	46.2	28位
男性・未婚	55.3	49.7	57.2	49.8	52.2	54.0	53.0	15位
女性・既婚	47.5	48.8	47.2	48.4	47.3	43.8	47.1	28位
女性・未婚	40.7	41.2	39.8	33.8	40.8	46.8	40.5	42位

人口移動指標

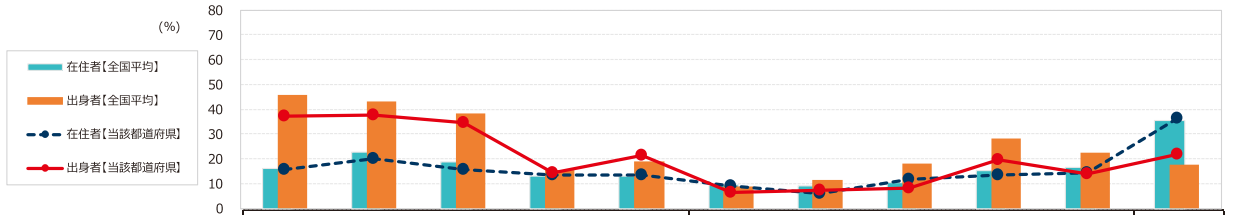
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
栃木県全体	3.98	39位	24.9	39.3	50.1	28.3	34.3	36.3	3.70	4位
男性30代以下・計	3.93	39位	25.5	34.8	46.3	32.1	33.0	35.1	3.84	30位
女性30代以下・計	4.03	24位	24.4	43.7	54.0	24.4	35.7	37.6	3.80	20位
既婚・計	3.69	40位	17.9	30.9	41.7	18.0	28.2	27.0	3.74	2位
未婚・計	4.15	31位	30.6	45.3	58.8	35.3	39.4	43.6	3.72	23位
男性・既婚	3.62	38位	14.5	21.2	39.4	18.1	24.9	28.5	3.79	1位
男性・未婚	4.03	38位	31.6	41.4	52.0	38.7	38.2	39.8	3.48	41位
女性・既婚	3.75	33位	20.6	38.5	43.6	18.0	30.8	25.7	3.70	2位
女性・未婚	4.29	13位	29.5	49.8	66.6	31.5	40.8	48.0	4.13	2位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

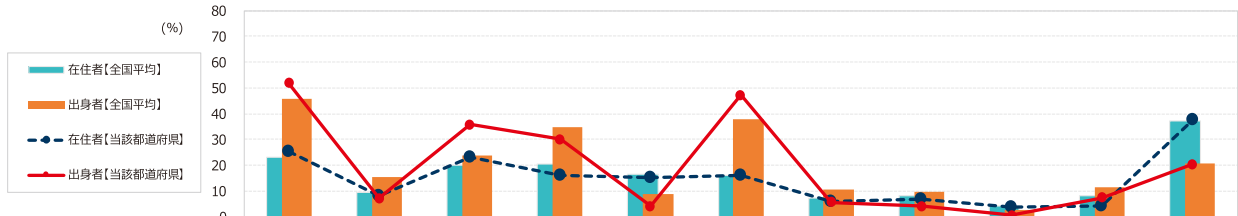


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.5	20.0	15.8	13.3	13.3	9.0	5.8	11.8	13.5	14.5	36.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	37.3	37.4	34.6	14.2	21.2	6.3	7.4	8.0	19.7	13.9	21.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.5	8.0	23.0	16.0	15.3	16.0	6.0	6.8	3.8	4.3	37.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	51.7	7.2	35.7	30.1	4.1	47.2	5.6	4.1	0.5	7.3	20.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



群馬県

1人あたりの県民所得は11位。総合幸福度は39位だが、女性・60代以上は1位。寛容性総合指標は19位。Uターン意向率は23位で、関係人口意向も全国平均程度、離脱意向も26位。

総人口	194.2万人【18位】
人口増減率	-0.5%【19位】
社会増減率	0.5%【12位】
65歳以上比率	29.8%【30位】
1人あたり県民所得	3,098千円【11位】
上記伸び率	20.1%【6位】

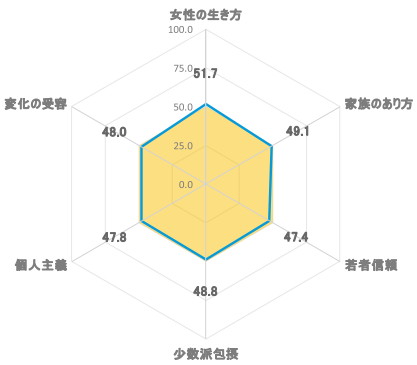
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
群馬県全体	5.59	43位	4.69	34位	10.28	39位
男性・計	5.25	47位	4.71	40位	9.96	47位
男性・30代以下	5.15	47位	4.59	45位	9.74	46位
男性・40～50代	5.20	38位	4.71	30位	9.91	31位
男性・60代以上	5.53	45位	4.96	24位	10.48	37位
女性・計	5.94	20位	4.66	22位	10.60	19位
女性・30代以下	5.56	35位	4.54	26位	10.10	28位
女性・40～50代	5.78	16位	4.27	36位	10.05	26位
女性・60代以上	7.03	2位	5.68	2位	12.71	1位
既婚・計	6.27	26位	5.03	21位	11.30	23位
未婚・計	4.99	35位	4.36	34位	9.35	36位
男性・既婚	6.07	41位	5.50	4位	11.57	20位
男性・未婚	4.62	44位	4.08	46位	8.70	47位
女性・既婚	6.44	14位	4.64	42位	11.07	28位
女性・未婚	5.45	13位	4.69	7位	10.14	10位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
群馬県全体	51.7	49.1	47.4	48.8	47.8	48.0	48.8	19位
男性・計	55.3	53.2	48.0	48.4	51.1	50.6	51.1	16位
男性・30代以下	56.1	56.3	46.2	47.6	45.1	47.7	49.8	22位
男性・40～50代	54.9	50.8	49.6	47.4	53.7	48.5	50.8	20位
男性・60代以上	54.1	52.7	47.8	51.7	53.8	58.4	53.1	16位
女性・計	49.4	47.1	47.1	49.1	45.5	45.9	47.3	25位
女性・30代以下	45.8	43.4	41.4	46.4	45.6	44.9	44.6	32位
女性・40～50代	51.2	47.2	50.9	50.1	45.6	45.2	48.4	26位
女性・60代以上	51.7	51.9	50.7	50.3	46.1	50.5	50.2	17位
既婚・計	50.8	49.3	45.3	46.6	47.6	49.7	48.2	23位
未婚・計	52.3	48.9	49.6	50.5	47.7	45.9	49.2	21位
男性・既婚	52.7	55.4	42.7	46.8	51.6	53.5	50.5	16位
男性・未婚	56.5	50.4	52.6	49.4	50.6	48.1	51.3	19位
女性・既婚	49.8	45.9	47.5	47.0	45.6	47.3	47.2	27位
女性・未婚	49.0	47.6	46.5	51.7	45.6	44.1	47.4	26位

人口移動指標

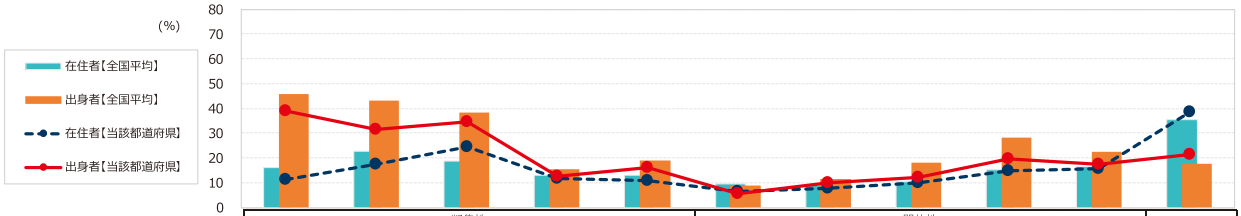
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
群馬県全体	4.15	23位	27.8	40.7	53.9	33.8	34.9	39.0	3.46	26位
男性30代以下・計	4.25	25位	27.0	39.8	43.7	37.9	31.1	35.4	3.56	43位
女性30代以下・計	4.06	20位	28.5	41.7	64.0	29.6	38.7	42.6	3.34	42位
既婚・計	3.78	37位	22.4	33.8	41.9	33.9	27.9	26.7	3.31	17位
未婚・計	4.48	7位	32.6	46.3	61.4	33.7	39.7	46.1	3.60	34位
男性・既婚	3.79	37位	21.4	35.3	32.2	38.1	24.2	24.4	3.63	6位
男性・未婚	4.65	8位	31.9	45.1	52.4	37.6	35.4	43.1	3.83	20位
女性・既婚	3.76	32位	23.5	32.2	52.9	29.3	32.2	29.3	3.06	40位
女性・未婚	4.31	12位	33.3	47.4	69.9	29.9	43.9	49.0	3.33	44位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

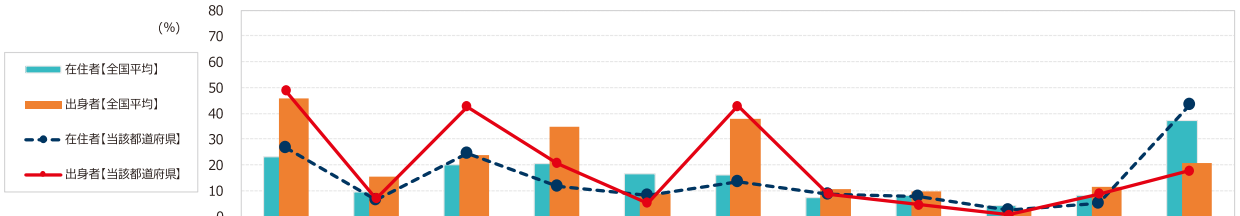


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	11.3	17.5	24.5	11.8	10.8	6.5	7.8	9.8	14.8	15.5	38.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	38.8	31.6	34.7	12.4	16.0	5.7	9.7	12.2	19.7	17.6	21.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	26.8	6.3	24.3	11.5	8.3	13.3	8.5	7.5	2.5	5.0	43.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.8	7.0	42.6	20.6	5.2	42.8	8.7	4.6	0.5	8.8	17.7

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



埼玉県

1人あたりの県民所得は18位。総合幸福度は46位だが、男性・既婚層は9位。寛容性総合指標は5位と高水準。離脱意向は9位。既婚層が未婚層と比べて順位が高い。

総人口	735.0万人【5位】
人口増減率	0.3%【3位】
社会増減率	5.2‰【2位】
65歳以上比率	26.7%【42位】
1人あたり県民所得	2,958千円【18位】
上記伸び率	9.8%【33位】

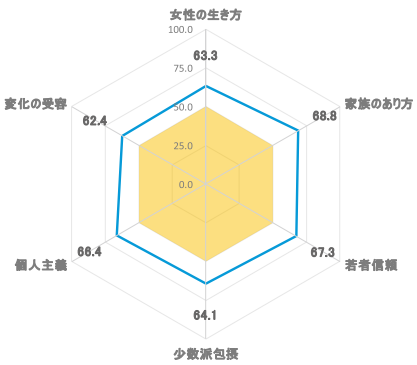
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
埼玉県全体	5.62	41位	4.53	46位	10.15	46位
男性・計	5.71	18位	4.73	37位	10.44	30位
男性・30代以下	5.34	42位	4.35	47位	9.69	47位
男性・40～50代	5.69	10位	4.87	19位	10.56	12位
男性・60代以上	6.50	7位	5.20	10位	11.70	8位
女性・計	5.53	47位	4.33	46位	9.85	47位
女性・30代以下	5.61	32位	4.65	19位	10.26	25位
女性・40～50代	5.06	45位	3.65	47位	8.71	47位
女性・60代以上	6.28	38位	5.07	23位	11.34	34位
既婚・計	6.18	36位	4.72	45位	10.89	45位
未婚・計	4.98	37位	4.31	38位	9.29	38位
男性・既婚	6.56	4位	5.22	24位	11.78	9位
男性・未婚	4.98	29位	4.29	39位	9.27	34位
女性・既婚	5.88	45位	4.33	47位	10.21	47位
女性・未婚	4.99	39位	4.34	27位	9.32	33位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
埼玉県全体	63.3	68.8	67.3	64.1	66.4	62.4	65.4	5位
男性・計	61.6	69.6	66.8	66.0	67.7	62.2	65.7	5位
男性・30代以下	54.8	66.4	60.7	63.8	63.4	56.6	61.0	6位
男性・40～50代	63.9	69.5	62.1	63.1	67.9	66.4	65.5	5位
男性・60代以上	60.8	68.4	72.1	65.7	68.7	58.4	65.7	3位
女性・計	63.3	68.0	67.3	62.2	64.9	62.2	64.7	6位
女性・30代以下	61.4	63.3	63.4	57.4	65.7	57.5	61.4	8位
女性・40～50代	64.9	70.4	68.0	63.7	63.4	64.4	65.8	5位
女性・60代以上	59.9	66.6	64.5	61.6	63.9	61.4	63.0	8位
既婚・計	60.9	68.4	66.7	63.0	65.5	62.6	64.5	6位
未婚・計	66.1	69.0	67.2	65.6	66.6	61.2	66.0	4位
男性・既婚	58.9	68.4	66.2	64.3	69.3	61.2	64.7	5位
男性・未婚	64.5	70.3	64.8	67.6	64.7	60.9	65.5	4位
女性・既婚	61.8	68.0	66.6	61.1	63.1	63.2	64.0	7位
女性・未婚	65.8	67.0	66.3	63.1	66.7	60.3	64.9	5位

人口移動指標

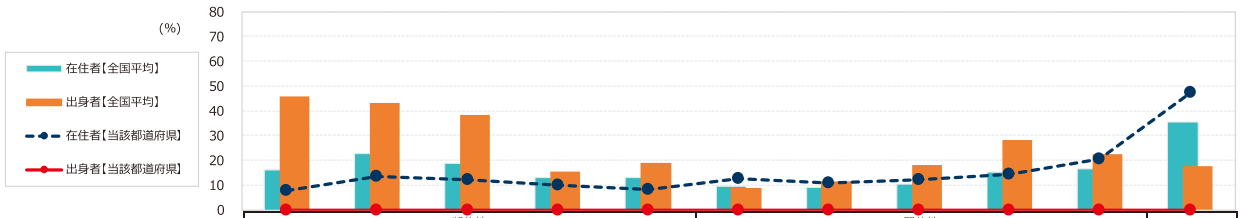
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
埼玉県全体	-	-	-	-	-	-	-	-	3.61	9位
男性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	4.06	15位
女性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.69	28位
既婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.57	4位
未婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.70	27位
男性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.71	2位
男性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.58	37位
女性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.46	8位
女性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.87	14位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

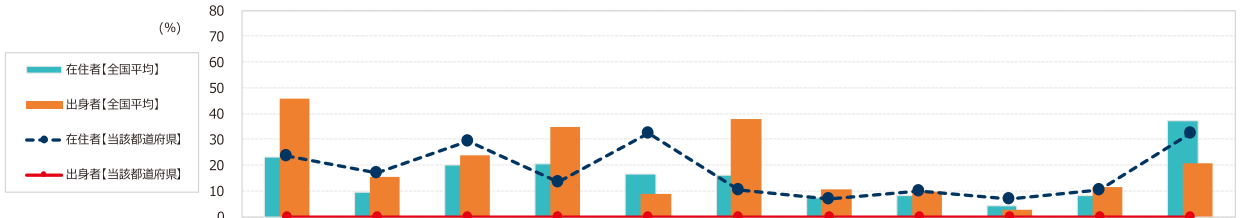


		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	7.5	13.3	12.0	9.8	8.3	12.5	10.8	12.0	14.5	20.3	47.3
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.5	17.0	29.3	13.5	32.5	10.3	7.0	9.8	7.0	10.5	32.3
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



千葉県

1人あたりの県民所得は15位。総合幸福度は7位だが、男性・60代以上は43位。寛容性総合指標は4位と高水準。離脱意向は9位。既婚層が未婚層と比べて順位が高い。

総人口	625.9万人【 6位 】
人口増減率	0.1%【 7位 】
社会増減率	3.8%【 4位 】
65歳以上比率	27.9%【39位】
1人あたり県民所得	3,020千円【15位】
上記伸び率	7.3%【39位】

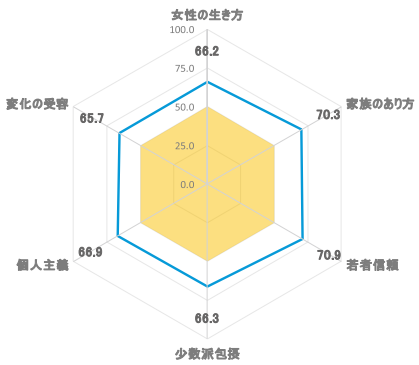
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
千葉県全体	5.93	6位	4.90	10位	10.83	7位
男性・計	5.75	13位	4.99	18位	10.74	15位
男性・30代以下	5.78	16位	5.28	8位	11.05	12位
男性・40～50代	5.78	6位	4.88	18位	10.66	9位
男性・60代以上	5.67	42位	4.60	42位	10.28	43位
女性・計	6.10	7位	4.83	7位	10.93	7位
女性・30代以下	6.15	8位	4.73	15位	10.88	11位
女性・40～50代	5.88	12位	4.82	7位	10.69	10位
女性・60代以上	6.45	22位	5.03	26位	11.48	28位
既婚・計	6.45	8位	5.12	11位	11.56	8位
未婚・計	5.37	6位	4.76	5位	10.13	5位
男性・既婚	6.48	7位	5.38	11位	11.86	6位
男性・未婚	5.13	19位	4.74	18位	9.87	18位
女性・既婚	6.42	17位	4.91	16位	11.33	14位
女性・未婚	5.66	7位	4.79	4位	10.45	4位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
千葉県全体	66.2	70.3	70.9	66.3	66.9	65.7	67.7	4位
男性・計	62.8	69.2	68.7	64.1	65.4	64.1	65.7	4位
男性・30代以下	61.8	71.4	66.4	67.3	64.9	61.0	65.5	5位
男性・40～50代	66.0	69.6	72.4	62.6	65.1	65.1	66.8	4位
男性・60代以上	55.1	61.4	56.0	55.5	62.1	61.5	58.6	10位
女性・計	67.5	70.9	71.6	67.9	67.6	66.6	68.7	4位
女性・30代以下	59.8	68.9	63.4	61.0	63.5	63.7	63.4	5位
女性・40～50代	69.4	70.5	70.6	69.0	68.3	66.8	69.1	3位
女性・60代以上	69.7	69.7	75.7	67.6	68.0	65.4	69.4	2位
既婚・計	68.1	69.2	72.0	67.3	67.6	68.8	68.8	3位
未婚・計	61.1	71.0	66.3	63.4	64.8	61.2	64.6	5位
男性・既婚	64.3	66.5	68.5	63.8	69.0	66.3	66.4	4位
男性・未婚	56.1	70.3	65.2	61.8	59.6	59.2	62.0	6位
女性・既婚	69.6	70.3	72.8	69.0	66.5	69.5	69.6	4位
女性・未婚	63.1	70.2	65.6	63.9	67.6	62.3	65.4	4位

人口移動指標

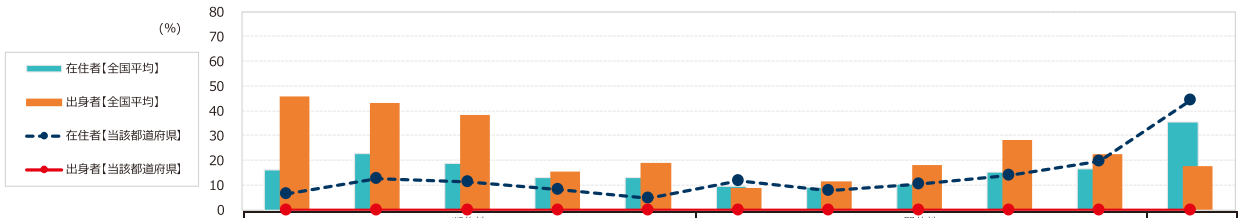
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
千葉県全体	-	-	-	-	-	-	-	-	3.61	9位
男性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	4.09	13位
女性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	4.01	7位
既婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.56	5位
未婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.63	32位
男性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.51	8位
男性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.59	36位
女性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.61	4位
女性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.67	24位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

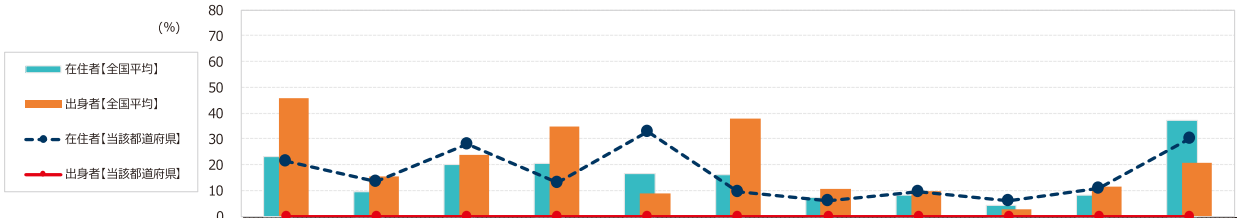


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	6.3	12.5	11.3	8.3	4.8	11.5	7.5	10.5	14.0	19.8	44.3
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	21.3	13.3	28.0	12.8	32.8	9.3	6.0	9.3	5.8	10.8	30.0
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



東京都

1人あたりの県民所得は1位。総合幸福度は12位だが、男女ともに40～50代の順位が低い。寛容性総合指標は1位。離脱意向は22位だが、既婚層が未婚層と比べて順位が高い。

総人口	1392.1万人【 1位 】
人口増減率	0.7%【 1位 】
社会増減率	8.2%【 1位 】
65歳以上比率	23.1%【46位】
1人あたり県民所得	5,348千円【 1位 】
上記伸び率	-0.4%【47位】

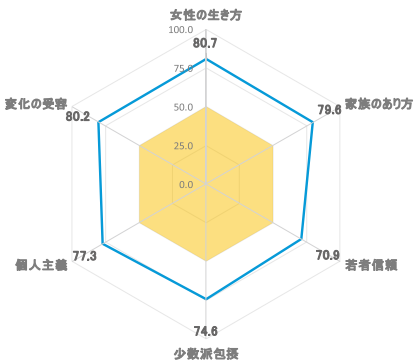
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
東京都全体	5.74	28位	4.92	6位	10.66	12位
男性・計	5.62	24位	5.21	3位	10.82	12位
男性・30代以下	5.65	26位	5.47	4位	11.12	9位
男性・40～50代	5.09	43位	4.80	25位	9.89	33位
男性・60代以上	6.60	4位	5.52	3位	12.12	2位
女性・計	5.87	25位	4.62	26位	10.49	25位
女性・30代以下	6.14	10位	4.88	10位	11.01	9位
女性・40～50代	5.21	42位	3.98	45位	9.19	44位
女性・60代以上	6.65	12位	5.41	8位	12.06	5位
既婚・計	6.26	27位	5.23	4位	11.48	11位
未婚・計	5.25	14位	4.59	19位	9.84	16位
男性・既婚	6.24	27位	5.68	1位	11.92	3位
男性・未婚	5.09	22位	4.81	14位	9.91	15位
女性・既婚	6.28	27位	4.81	23位	11.08	27位
女性・未婚	5.42	14位	4.35	25位	9.77	20位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
東京都全体	80.7	79.6	70.9	74.6	77.3	80.2	77.2	1位
男性・計	79.4	78.6	67.9	71.8	75.8	78.5	75.3	1位
男性・30代以下	74.3	82.0	55.0	64.8	70.6	78.5	70.9	1位
男性・40～50代	79.5	73.9	69.1	72.6	75.9	74.3	74.2	2位
男性・60代以上	73.3	76.5	71.4	70.2	76.7	77.0	74.2	1位
女性・計	80.7	79.9	71.8	75.3	77.5	80.8	77.7	1位
女性・30代以下	81.5	80.9	68.3	71.0	75.5	78.4	75.9	1位
女性・40～50代	78.7	77.2	73.0	74.6	74.6	78.7	76.1	1位
女性・60代以上	73.3	77.0	65.0	74.0	79.9	80.6	75.0	1位
既婚・計	78.2	78.7	72.2	75.3	78.6	78.1	76.8	1位
未婚・計	81.4	79.1	67.6	72.8	74.6	81.0	76.1	1位
男性・既婚	77.6	77.5	72.1	73.2	77.5	76.1	75.7	2位
男性・未婚	79.3	77.5	62.2	70.3	72.3	78.5	73.3	1位
女性・既婚	77.2	78.8	70.6	75.7	78.2	78.4	76.5	1位
女性・未婚	79.9	78.2	69.7	72.6	74.2	80.6	75.9	1位

人口移動指標

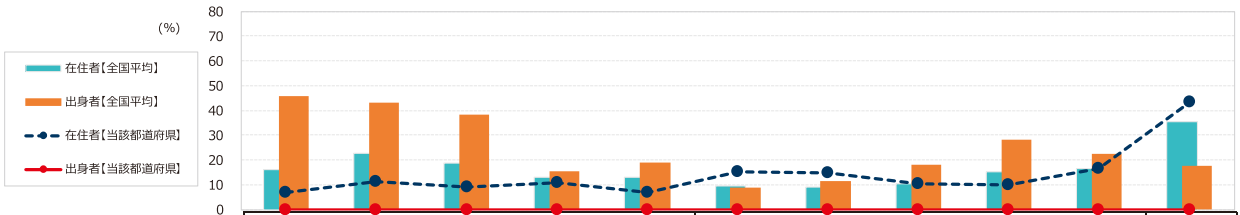
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
東京都全体	-	-	-	-	-	-	-	-	3.50	22位
男性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	4.35	1位
女性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.98	9位
既婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.43	10位
未婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.50	41位
男性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.67	3位
男性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.60	35位
女性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.21	28位
女性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.40	42位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

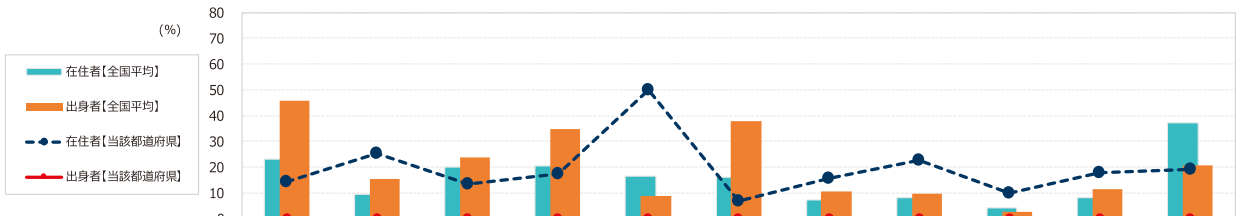


		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	7.0	11.3	9.0	11.0	6.8	15.3	14.8	10.3	9.8	16.5	43.5
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.3	25.5	13.3	17.3	49.8	7.0	15.5	22.8	9.8	18.0	19.0
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



神奈川県

1人あたりの県民所得は7位。総合幸福度は5位、寛容性総合指標は2位と高水準。離脱意向は30位。

総人口	919.8万人【2位】
人口増減率	0.2%【4位】
社会増減率	4.4%【3位】
65歳以上比率	25.3%【44位】
1人あたり県民所得	3,180千円【7位】
上記伸び率	3.3%【45位】

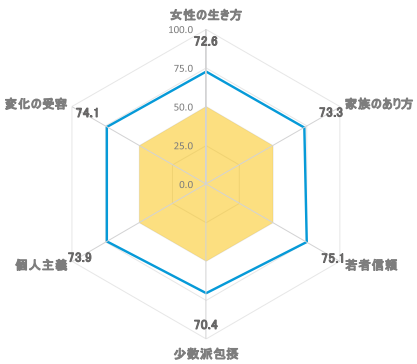
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
神奈川県全体	5.91	7位	4.97	5位	10.88	5位
男性・計	5.79	10位	5.20	4位	10.99	6位
男性・30代以下	5.94	9位	5.23	13位	11.16	8位
男性・40～50代	5.59	15位	5.25	2位	10.83	5位
男性・60代以上	5.92	28位	5.03	21位	10.96	29位
女性・計	6.02	12位	4.74	13位	10.76	11位
女性・30代以下	6.04	15位	4.64	20位	10.67	16位
女性・40～50代	5.66	23位	4.78	9位	10.44	12位
女性・60代以上	6.70	7位	4.88	38位	11.58	20位
既婚・計	6.51	4位	5.08	15位	11.59	6位
未婚・計	5.36	7位	4.81	3位	10.17	4位
男性・既婚	6.32	16位	5.53	3位	11.84	7位
男性・未婚	5.46	6位	4.90	11位	10.36	5位
女性・既婚	6.67	4位	4.72	34位	11.39	11位
女性・未婚	5.22	23位	4.68	8位	9.90	16位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
神奈川県全体	72.6	73.3	75.1	70.4	73.9	74.1	73.2	2位
男性・計	71.9	73.3	76.7	71.5	73.5	75.6	73.7	2位
男性・30代以下	58.0	64.6	69.4	61.8	68.6	70.6	65.5	4位
男性・40～50代	75.6	75.0	76.8	73.0	75.3	77.6	75.5	1位
男性・60代以上	69.8	74.2	70.4	68.6	71.5	68.9	70.6	2位
女性・計	72.8	73.2	73.0	69.3	73.9	72.2	72.4	2位
女性・30代以下	70.1	73.0	67.1	68.4	73.3	73.9	71.0	2位
女性・40～50代	72.9	71.9	74.6	70.1	74.4	69.6	72.2	2位
女性・60代以上	68.2	71.1	68.2	61.5	68.4	69.1	67.8	4位
既婚・計	72.7	75.8	75.2	71.9	75.6	74.0	74.2	2位
未婚・計	71.6	69.7	73.4	67.3	71.2	72.0	70.9	2位
男性・既婚	74.7	78.4	80.0	75.2	76.8	79.4	77.4	1位
男性・未婚	66.6	66.3	71.1	65.3	68.6	69.6	67.9	3位
女性・既婚	70.5	73.5	70.4	68.7	73.8	69.9	71.1	2位
女性・未婚	73.6	71.0	72.6	68.2	71.8	72.6	71.6	2位

人口移動指標

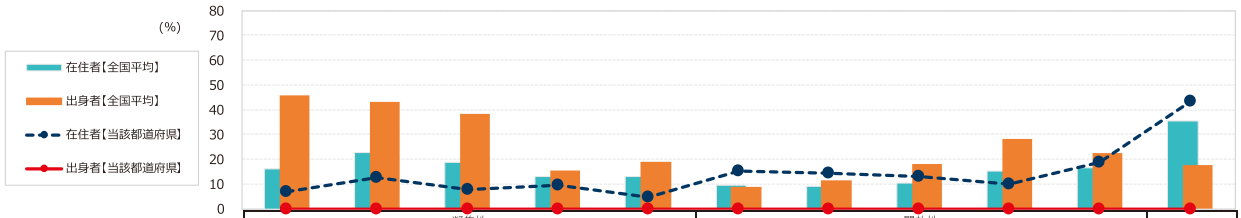
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
神奈川県全体	-	-	-	-	-	-	-	-	3.41	30位
男性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.73	37位
女性30代以下・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.75	22位
既婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.13	38位
未婚・計	-	-	-	-	-	-	-	-	3.67	29位
男性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.23	31位
男性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.65	34位
女性・既婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.05	41位
女性・未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	3.70	20位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

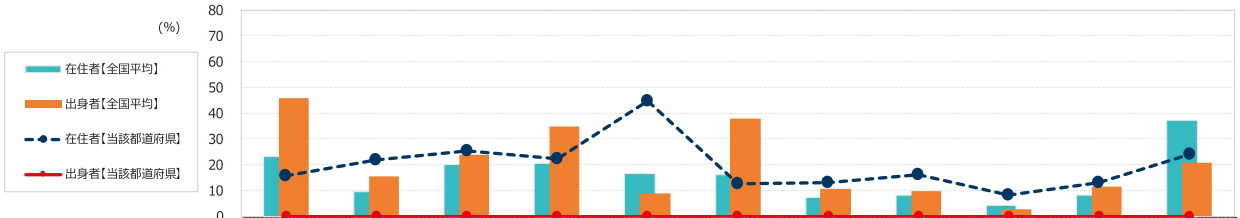


		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	6.8	12.5	7.5	9.3	4.8	15.3	14.5	13.0	10.0	18.5	43.5
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.8	21.8	25.5	22.3	44.8	12.5	13.0	16.0	8.3	12.8	23.8
出身者【当該都道府県】	(n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



新潟県

1人あたりの県民所得は27位。総合幸福度は23位だが、女性・30代以下は5位と高水準。寛容性総合指標は38位。Uターン意向率は12位で、関係人口意向はふるさと納税が高め。離脱意向は33位。

総人口	222.3万人【15位】
人口増減率	-1.0%【39位】
社会増減率	-2.7%【37位】
65歳以上比率	32.4%【13位】
1人あたり県民所得	2,826千円【27位】
上記伸び率	11.8%【22位】

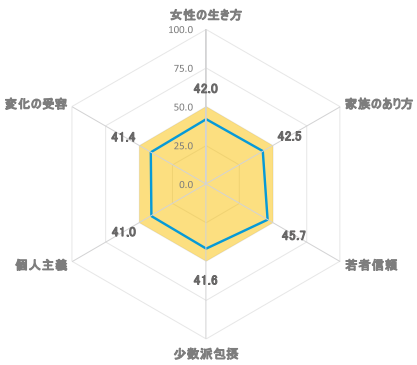
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
新潟県全体	5.77	22位	4.80	21位	10.57	23位
男性・計	5.53	37位	4.85	31位	10.38	33位
男性・30代以下	5.72	18位	4.98	30位	10.70	25位
男性・40～50代	4.96	47位	4.75	26位	9.71	44位
男性・60代以上	6.28	17位	4.83	31位	11.10	24位
女性・計	6.01	13位	4.74	13位	10.76	11位
女性・30代以下	6.21	6位	5.05	3位	11.26	5位
女性・40～50代	5.61	27位	4.29	34位	9.90	31位
女性・60代以上	6.42	24位	5.03	26位	11.45	29位
既婚・計	6.18	36位	4.95	31位	11.13	38位
未婚・計	5.22	17位	4.55	21位	9.78	20位
男性・既婚	6.07	41位	5.10	38位	11.17	41位
男性・未婚	4.95	31位	4.51	30位	9.45	31位
女性・既婚	6.27	30位	4.82	20位	11.09	26位
女性・未婚	5.57	11位	4.61	13位	10.18	9位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
新潟県全体	42.0	42.5	45.7	41.6	41.0	41.4	42.4	38位
男性・計	39.1	42.2	42.1	39.9	39.4	38.8	40.2	44位
男性・30代以下	39.6	45.5	47.4	36.8	41.2	46.2	42.8	36位
男性・40～50代	43.9	42.1	40.7	42.2	37.4	34.3	40.1	43位
男性・60代以上	35.1	41.5	42.6	44.8	43.3	39.9	41.2	40位
女性・計	44.1	42.5	49.1	43.3	42.4	43.1	44.1	34位
女性・30代以下	46.8	46.9	55.2	46.1	48.9	49.3	48.9	21位
女性・40～50代	44.6	42.5	44.8	44.8	40.6	43.4	43.5	36位
女性・60代以上	40.5	38.0	47.9	39.6	37.3	35.0	39.7	42位
既婚・計	43.8	44.2	49.2	45.1	42.7	41.5	44.4	33位
未婚・計	40.1	40.8	42.4	38.3	40.1	41.8	40.6	42位
男性・既婚	39.0	45.6	48.6	45.2	42.2	40.8	43.6	36位
男性・未婚	39.7	38.9	36.5	34.7	37.8	37.9	37.6	44位
女性・既婚	47.1	43.6	49.7	45.5	43.6	42.7	45.4	33位
女性・未婚	40.9	42.5	49.1	42.0	42.9	46.0	43.9	33位

人口移動指標

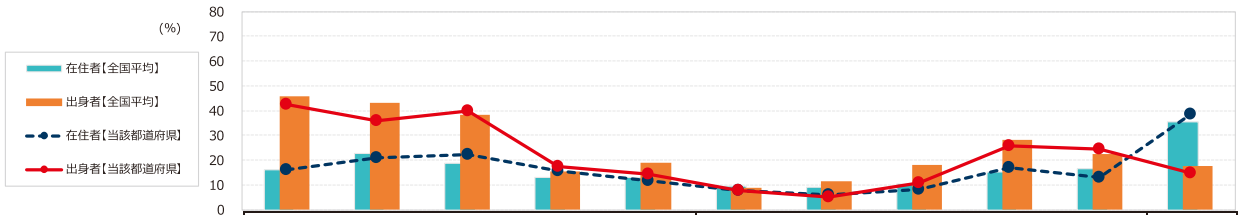
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
新潟県全体	4.27	12位	30.4	41.7	61.9	39.7	39.2	45.7	3.37	33位
男性30代以下・計	4.50	11位	29.8	39.7	60.7	43.6	40.2	45.6	3.80	32位
女性30代以下・計	4.04	23位	31.0	43.6	63.1	35.8	38.3	45.8	3.31	43位
既婚・計	4.10	20位	24.4	38.5	60.9	35.0	31.7	41.2	3.17	33位
未婚・計	4.39	12位	35.4	46.1	62.4	44.0	44.3	50.3	3.66	31位
男性・既婚	4.07	29位	22.0	38.0	59.2	44.0	33.6	40.8	3.00	40位
男性・未婚	4.78	5位	37.3	44.9	61.4	44.4	42.9	51.8	3.72	28位
女性・既婚	4.13	17位	26.7	38.9	62.5	26.3	29.9	41.6	3.30	23位
女性・未婚	4.02	30位	33.6	47.2	63.3	43.6	45.6	48.9	3.58	31位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

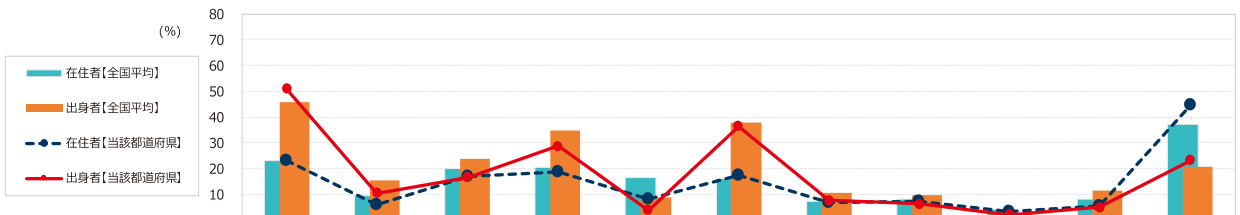


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	16.0	20.8	22.0	15.8	11.8	7.8	5.8	8.0	17.0	12.8	38.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	42.5	35.8	39.6	17.6	14.1	7.7	4.9	11.0	25.7	24.3	14.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.3	6.0	17.0	18.5	8.3	17.5	6.8	7.3	3.5	5.3	44.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	51.0	10.4	16.6	28.8	3.9	36.3	7.7	6.3	2.1	4.9	23.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



富山県

1人あたりの県民所得は5位。総合幸福度は25位だが、女性・既婚層は43位にとどまる。寛容性総合指標は45位。Uターン意向率は16位で、関係人口意向は高め。離脱意向は37位。

総人口	104.4万人【37位】
人口増減率	-0.6%【22位】
社会増減率	-0.5%【19位】
65歳以上比率	32.3%【14位】
1人あたり県民所得	3,295千円【5位】
上記伸び率	8.9%【34位】

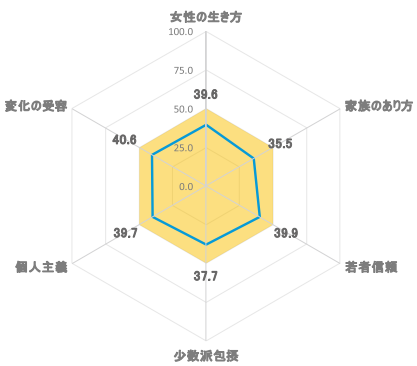
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
富山県全体	5.64	38位	4.91	9位	10.55	25位
男性・計	5.71	18位	5.13	8位	10.85	11位
男性・30代以下	5.99	6位	5.32	7位	11.31	5位
男性・40～50代	5.35	27位	4.96	15位	10.31	19位
男性・60代以上	5.90	29位	5.09	16位	10.99	27位
女性・計	5.57	42位	4.70	16位	10.26	35位
女性・30代以下	5.51	40位	4.75	14位	10.26	25位
女性・40～50代	5.20	43位	4.27	36位	9.47	42位
女性・60代以上	6.40	29位	5.44	5位	11.84	12位
既婚・計	5.97	47位	5.05	19位	11.01	42位
未婚・計	5.16	22位	4.74	6位	9.90	13位
男性・既婚	6.15	35位	5.29	18位	11.44	29位
男性・未婚	5.12	20位	4.91	10位	10.03	14位
女性・既婚	5.80	47位	4.83	19位	10.64	43位
女性・未婚	5.21	25位	4.54	15位	9.75	22位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
富山県全体	39.6	35.5	39.9	37.7	39.7	40.6	38.8	45位
男性・計	42.0	37.0	44.0	38.2	42.8	43.7	41.3	41位
男性・30代以下	45.3	39.5	48.1	41.1	46.1	51.6	45.3	32位
男性・40～50代	43.9	38.4	48.2	45.3	46.1	43.0	44.1	35位
男性・60代以上	39.0	35.1	35.3	29.2	33.7	37.4	35.0	47位
女性・計	38.3	35.0	36.9	37.0	37.7	38.2	37.2	46位
女性・30代以下	41.8	36.2	44.2	46.4	42.6	43.7	42.5	38位
女性・40～50代	35.4	35.3	32.1	35.5	34.5	36.2	34.8	47位
女性・60代以上	42.1	36.4	40.2	34.5	39.1	37.6	38.3	46位
既婚・計	38.7	36.7	37.2	36.8	40.2	39.6	38.2	45位
未婚・計	40.9	34.9	43.4	40.3	39.6	42.6	40.3	43位
男性・既婚	39.9	39.9	41.2	38.4	43.2	43.0	40.9	42位
男性・未婚	47.4	34.4	47.1	40.6	43.2	46.0	43.1	35位
女性・既婚	38.5	34.9	34.4	36.5	38.2	37.5	36.7	47位
女性・未婚	38.0	36.3	41.8	41.1	37.5	40.4	39.2	44位

人口移動指標

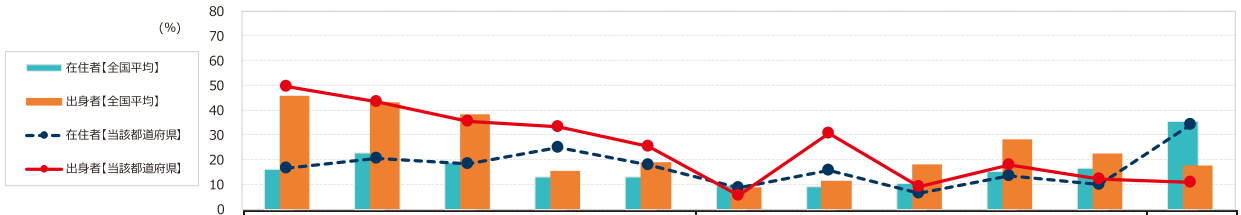
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
富山県全体	4.20	16位	36.0	52.1	56.0	43.6	38.3	46.6	3.31	37位
男性30代以下・計	4.33	19位	36.8	55.5	50.3	53.0	38.3	49.8	3.42	46位
女性30代以下・計	4.07	19位	35.1	48.7	61.7	34.1	38.3	43.4	3.39	41位
既婚・計	4.29	11位	40.5	61.9	62.4	44.5	35.6	48.9	3.16	34位
未婚・計	4.17	30位	32.9	46.8	53.2	43.4	38.2	44.9	3.56	38位
男性・既婚	4.24	21位	44.4	64.4	56.2	50.3	30.3	47.6	3.06	38位
男性・未婚	4.42	19位	31.5	50.4	48.2	53.8	41.0	50.1	3.52	40位
女性・既婚	4.33	8位	37.4	60.0	67.4	40.0	39.8	50.0	3.25	27位
女性・未婚	3.87	38位	34.7	42.5	59.3	30.9	34.9	38.6	3.60	27位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

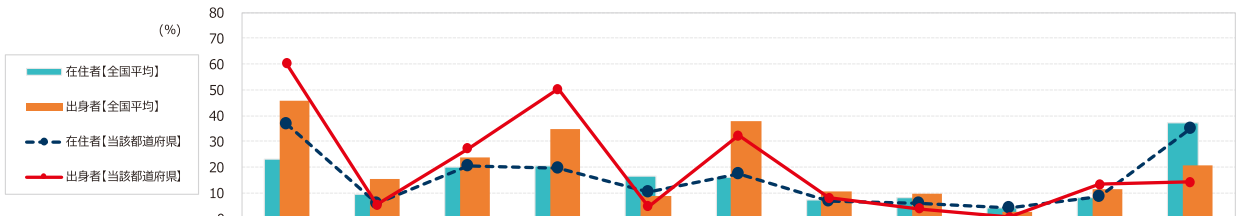


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	16.5	20.5	18.3	25.0	17.8	8.8	15.5	6.3	13.5	9.8	34.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.6	43.5	35.5	33.3	25.4	5.5	30.7	9.1	18.0	11.9	10.7

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	36.8	6.0	20.5	19.5	10.5	17.5	6.8	5.8	4.0	8.8	35.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	60.1	5.5	27.1	50.2	4.8	32.3	8.0	3.8	0.5	13.4	14.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



石川県

1人あたりの県民所得は23位で、総合幸福度は12位。寛容性総合指標は35位だが、女性・未婚層は16位と高い。Uターン意向率は10位で、関係人口意向も高め。一方、離脱意向も12位となっている。

総人口	113.8万人【33位】
人口増減率	-0.4%【15位】
社会増減率	-0.8%【21位】
65歳以上比率	29.6%【32位】
1人あたり県民所得	2,908千円【23位】
上記伸び率	8.1%【37位】

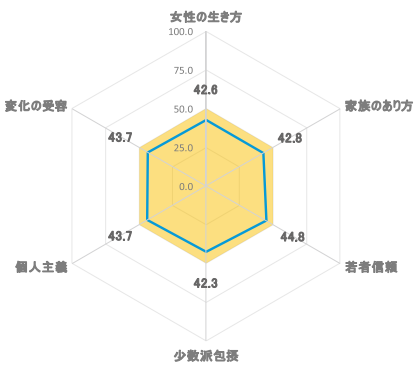
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
石川県全体	5.74	28位	4.92	6位	10.66	12位
男性・計	5.74	15位	5.13	8位	10.87	9位
男性・30代以下	6.03	4位	5.56	2位	11.59	2位
男性・40～50代	5.41	20位	4.67	31位	10.08	25位
男性・60代以上	5.83	33位	5.20	10位	11.03	25位
女性・計	5.75	35位	4.70	16位	10.44	26位
女性・30代以下	5.74	25位	5.12	1位	10.85	13位
女性・40～50代	5.40	37位	4.29	34位	9.69	38位
女性・60代以上	6.45	22位	4.69	43位	11.14	41位
既婚・計	6.34	18位	5.00	28位	11.34	20位
未婚・計	5.00	34位	4.79	4位	9.79	18位
男性・既婚	6.18	32位	5.20	27位	11.37	31位
男性・未婚	5.21	11位	5.07	4位	10.28	7位
女性・既婚	6.50	11位	4.81	23位	11.31	15位
女性・未婚	4.78	45位	4.50	17位	9.28	35位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
石川県全体	42.6	42.8	44.8	42.3	43.7	43.7	43.3	35位
男性・計	41.3	41.3	44.6	39.5	41.0	42.2	41.7	39位
男性・30代以下	33.1	41.5	43.0	40.5	37.0	39.0	39.0	44位
男性・40～50代	41.7	41.9	44.7	40.2	41.5	41.7	42.0	38位
男性・60代以上	50.5	43.1	48.5	43.3	47.4	50.8	47.3	25位
女性・計	43.4	43.8	45.7	44.3	45.8	44.7	44.6	32位
女性・30代以下	52.5	53.3	53.8	56.0	52.0	49.1	52.8	15位
女性・40～50代	43.3	41.7	42.6	41.2	43.2	45.1	42.9	38位
女性・60代以上	32.8	34.5	40.7	38.1	41.6	39.5	37.9	47位
既婚・計	39.5	40.4	42.5	41.3	41.2	42.5	41.2	40位
未婚・計	46.8	48.3	49.8	45.5	47.7	46.6	47.4	25位
男性・既婚	41.5	43.9	45.4	41.6	41.8	45.6	43.3	37位
男性・未婚	42.7	41.8	44.7	40.1	42.0	40.8	42.0	40位
女性・既婚	38.1	37.8	40.3	40.8	40.7	40.0	39.6	42位
女性・未婚	50.1	53.0	53.9	49.9	53.0	51.5	51.9	16位

人口移動指標

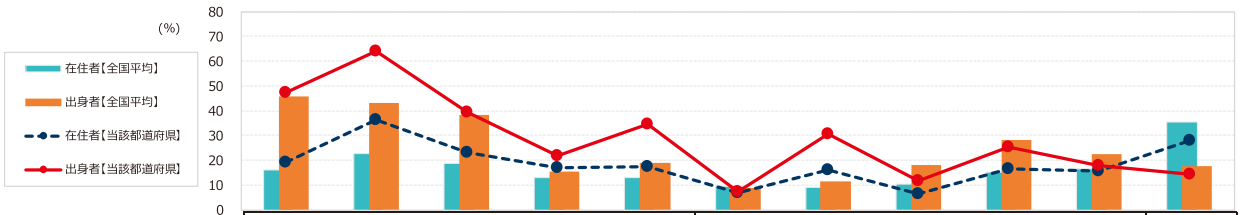
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
石川県全体	4.30	10位	44.1	46.6	57.3	43.9	37.9	45.5	3.58	12位
男性30代以下・計	4.50	11位	46.0	47.9	57.4	48.1	43.6	48.1	4.14	11位
女性30代以下・計	4.10	18位	42.3	45.4	57.3	39.7	32.1	42.9	3.85	14位
既婚・計	4.11	19位	36.7	40.9	56.3	50.7	39.6	53.6	3.28	20位
未婚・計	4.43	8位	50.0	51.5	59.5	40.7	36.9	41.5	3.94	9位
男性・既婚	4.65	3位	48.5	51.5	54.4	60.5	51.7	63.7	3.25	24位
男性・未婚	4.43	18位	45.3	46.6	60.1	41.8	38.1	40.1	4.17	2位
女性・既婚	3.63	36位	26.3	31.6	58.0	42.3	29.0	44.9	3.32	21位
女性・未婚	4.43	9位	55.3	56.9	58.9	39.4	35.6	43.1	3.69	21位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

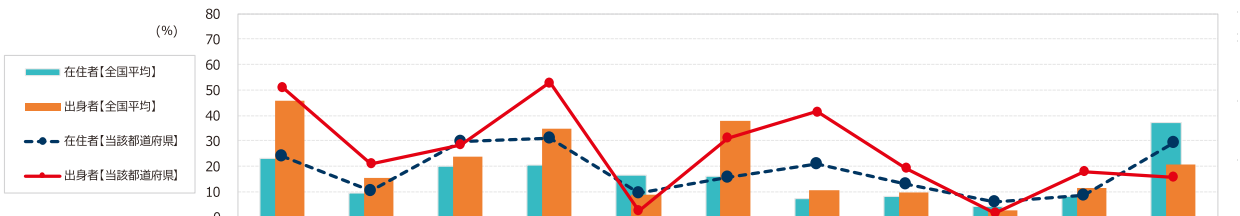


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	19.0	36.5	23.0	17.0	17.3	7.0	16.0	6.5	16.5	15.8	27.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	47.2	64.2	39.4	21.7	34.4	7.4	30.4	11.5	25.2	17.8	14.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.8	10.5	29.5	30.8	9.5	15.5	20.8	12.8	5.8	8.8	29.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	51.1	20.9	28.5	53.0	2.6	31.1	41.4	19.3	1.6	17.9	15.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



福井県

1人あたりの県民所得は8位で、総合幸福度は19位。寛容性総合指標は37位で、家族のあり方が低め。Uターン意向率は17位で、関係人口意向ではワーケーションやまちおこしが低め。離脱意向も17位。

総人口	76.8万人【43位】
人口増減率	-0.8%【33位】
社会増減率	-2.8%【38位】
65歳以上比率	30.6%【25位】
1人あたり県民所得	3,157千円【8位】
上記伸び率	2.9%【46位】

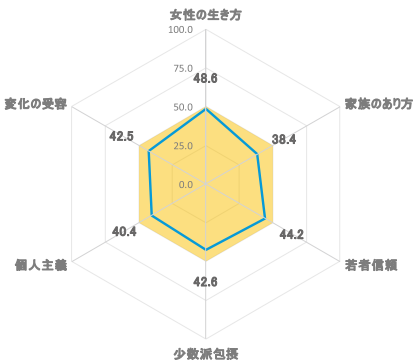
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
福井県全体	5.84	10位	4.78	24位	10.62	19位
男性・計	5.71	18位	4.88	28位	10.59	24位
男性・30代以下	5.95	7位	4.84	39位	10.79	23位
男性・40～50代	5.47	19位	5.00	12位	10.47	16位
男性・60代以上	5.72	39位	4.73	35位	10.45	39位
女性・計	5.97	15位	4.67	21位	10.64	17位
女性・30代以下	5.71	26位	4.54	26位	10.25	27位
女性・40～50代	6.19	4位	4.85	4位	11.04	3位
女性・60代以上	6.05	44位	4.58	44位	10.63	44位
既婚・計	6.24	33位	5.03	21位	11.28	28位
未婚・計	5.28	11位	4.40	32位	9.69	22位
男性・既婚	6.25	24位	5.38	11位	11.64	18位
男性・未婚	5.24	9位	4.38	35位	9.62	26位
女性・既婚	6.24	34位	4.76	28位	11.00	33位
女性・未婚	5.35	16位	4.44	21位	9.79	19位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
福井県全体	48.6	38.4	44.2	42.6	40.4	42.5	42.8	37位
男性・計	48.7	37.0	40.2	42.2	37.0	39.0	40.7	43位
男性・30代以下	56.7	36.1	47.4	48.2	39.7	33.5	43.6	34位
男性・40～50代	49.4	40.9	40.7	42.0	38.3	41.1	42.1	37位
男性・60代以上	41.7	35.0	36.0	38.9	34.3	46.5	38.7	43位
女性・計	48.7	39.3	47.9	43.0	43.2	45.5	44.6	33位
女性・30代以下	48.4	37.3	45.0	40.6	40.5	41.1	42.1	39位
女性・40～50代	51.5	42.9	52.5	46.3	48.0	50.9	48.7	23位
女性・60代以上	44.2	37.7	45.0	42.1	39.8	41.8	41.8	39位
既婚・計	46.6	38.5	44.8	41.7	41.0	45.0	42.9	36位
未婚・計	52.6	39.1	43.6	44.2	40.5	39.8	43.3	37位
男性・既婚	46.3	38.1	40.0	41.0	36.5	41.4	40.5	43位
男性・未婚	53.0	36.9	42.6	44.5	39.7	38.8	42.6	37位
女性・既婚	47.6	39.6	48.9	42.6	44.6	47.9	45.2	34位
女性・未婚	50.9	39.7	44.8	44.2	40.3	40.1	43.3	36位

人口移動指標

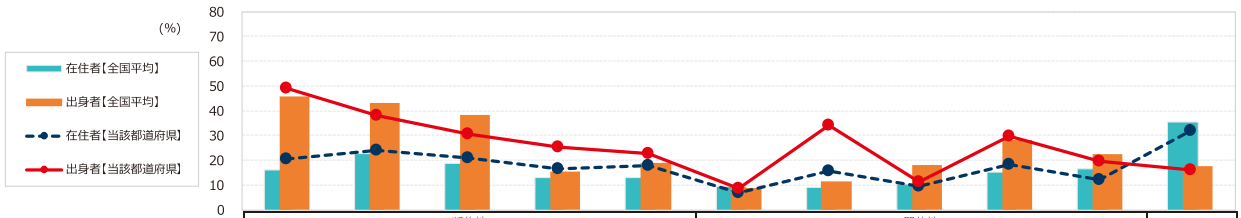
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
福井県全体	4.19	17位	38.7	34.9	58.6	33.6	36.4	35.8	3.54	17位
男性30代以下・計	4.59	5位	43.1	34.7	52.4	28.8	34.4	26.0	4.00	21位
女性30代以下・計	3.80	39位	34.3	35.0	64.8	38.3	38.5	45.5	4.16	2位
既婚・計	4.07	22位	22.1	30.1	53.3	30.1	33.9	35.9	3.24	27位
未婚・計	4.27	20位	46.0	37.5	60.9	35.4	35.7	35.8	4.05	5位
男性・既婚	4.66	2位	21.5	21.5	44.3	21.5	21.5	21.5	3.29	19位
男性・未婚	4.61	10位	49.2	40.4	54.1	31.1	35.5	26.8	4.12	5位
女性・既婚	3.66	34位	22.5	36.1	59.5	36.1	42.5	45.9	3.19	29位
女性・未婚	3.89	36位	42.5	34.2	68.5	40.1	36.0	45.9	3.95	9位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

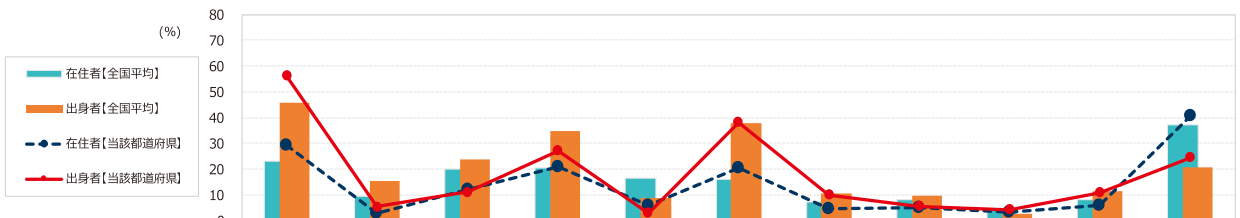


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.3	24.0	20.8	16.3	18.0	7.0	15.5	9.3	18.3	12.3	32.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.0	38.0	30.4	25.3	22.6	8.7	34.3	11.3	29.6	19.4	16.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	29.3	3.0	12.3	20.8	6.0	20.5	4.8	5.0	3.5	6.0	40.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	56.2	5.5	11.1	27.1	3.0	38.2	10.0	5.6	4.3	10.8	24.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



山梨県

1人あたりの県民所得は26位。総合幸福度は22位だが、女性40代以上は順位が低い。寛容性総合指標は36位。Uターン意向率は26位。関係人口意向は低く、離脱意向も1位。

総人口	81.1万人【42位】
人口増減率	-0.7%【30位】
社会増減率	-2.2%【34位】
65歳以上比率	30.8%【24位】
1人あたり県民所得	2,873千円【26位】
上記伸び率	13.7%【20位】

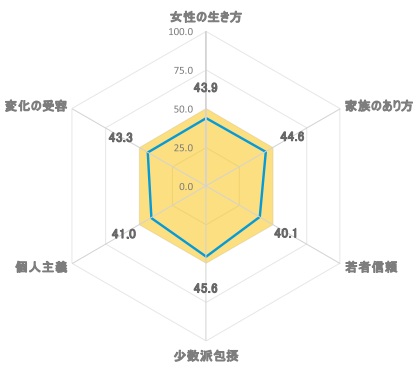
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
山梨県全体	5.79	16位	4.79	22位	10.58	22位
男性・計	5.76	11位	4.96	21位	10.72	17位
男性・30代以下	5.71	19位	4.87	38位	10.58	30位
男性・40～50代	5.53	17位	4.99	13位	10.51	15位
男性・60代以上	6.35	11位	5.07	17位	11.42	12位
女性・計	5.82	28位	4.62	26位	10.44	26位
女性・30代以下	5.89	19位	4.98	7位	10.86	12位
女性・40～50代	5.44	36位	4.12	42位	9.55	41位
女性・60代以上	6.42	24位	4.92	35位	11.34	34位
既婚・計	6.38	14位	4.98	29位	11.36	19位
未婚・計	5.12	26位	4.55	21位	9.67	23位
男性・既婚	6.45	9位	5.24	21位	11.69	13位
男性・未婚	5.04	26位	4.68	20位	9.73	24位
女性・既婚	6.32	22位	4.75	30位	11.07	28位
女性・未婚	5.20	27位	4.40	24位	9.60	25位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
山梨県全体	43.9	44.6	40.1	45.6	41.0	43.3	43.1	36位
男性・計	45.2	43.0	39.8	46.9	40.3	42.4	42.9	35位
男性・30代以下	46.9	40.3	34.1	49.9	34.3	40.5	41.0	40位
男性・40～50代	48.5	45.3	44.6	45.4	41.7	44.1	44.9	33位
男性・60代以上	39.9	43.6	43.1	47.7	48.1	44.7	44.5	34位
女性・計	43.1	45.7	40.7	45.0	41.9	44.4	43.5	38位
女性・30代以下	45.4	46.7	46.0	45.6	41.9	43.2	44.8	31位
女性・40～50代	43.6	45.8	37.6	44.7	44.6	48.4	44.1	32位
女性・60代以上	41.4	45.0	41.9	46.2	38.9	39.2	42.1	37位
既婚・計	42.3	46.0	40.9	44.3	40.6	42.7	42.8	37位
未婚・計	45.8	42.3	39.2	47.4	41.0	44.7	43.4	36位
男性・既婚	44.5	44.9	45.8	44.1	42.7	46.3	44.7	32位
男性・未婚	47.4	41.5	34.8	50.6	38.4	39.6	42.0	39位
女性・既婚	41.1	46.8	37.7	44.5	39.5	40.4	41.7	38位
女性・未婚	45.4	43.5	45.1	45.0	43.8	49.1	45.3	30位

人口移動指標

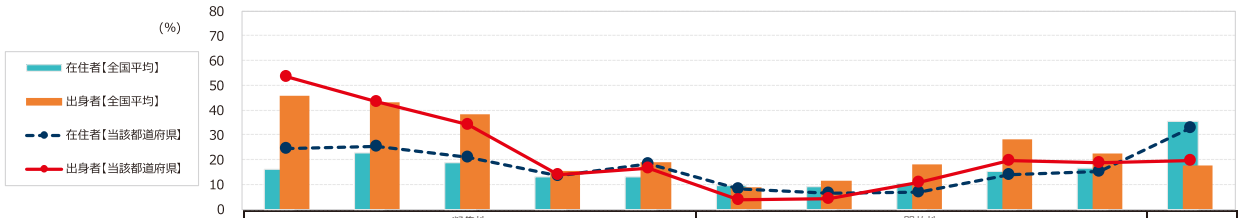
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
山梨県全体	4.12	26位	22.6	32.3	47.3	28.8	30.1	30.3	3.89	1位
男性30代以下・計	4.28	23位	26.4	38.3	46.6	35.7	32.4	37.5	4.19	3位
女性30代以下・計	3.95	31位	18.9	26.2	48.1	21.8	27.9	23.1	3.83	17位
既婚・計	3.85	34位	25.0	32.1	45.7	21.8	23.2	31.2	3.78	1位
未婚・計	4.23	24位	22.6	35.3	49.5	34.9	36.6	33.4	4.01	7位
男性・既婚	3.88	33位	29.0	39.8	43.6	29.0	29.0	44.3	3.67	3位
男性・未婚	4.55	14位	27.6	43.0	50.9	44.4	38.8	40.7	4.03	7位
女性・既婚	3.82	29位	20.8	23.9	47.9	14.1	16.9	17.3	3.88	1位
女性・未婚	3.94	35位	18.2	28.4	48.1	26.3	34.7	26.8	3.99	8位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

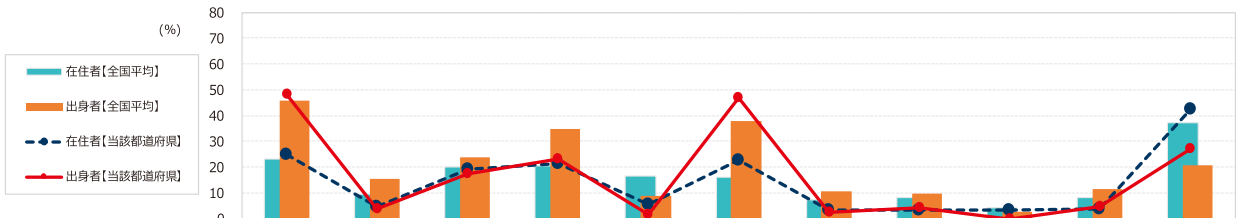


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.3	25.5	20.8	13.3	18.3	8.3	6.3	7.0	14.0	15.0	32.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	53.4	43.2	34.2	13.9	16.7	3.6	4.0	10.9	19.5	18.6	19.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.0	4.5	19.3	21.3	5.3	22.5	3.5	3.5	3.3	3.8	42.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.3	3.8	17.4	23.1	1.6	47.0	2.6	4.3	—	4.7	27.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



長野県

1人あたりの県民所得は25位。総合幸福度は35位だが、女性・未婚層は8位と高水準。寛容性総合指標は39位。Uターン意向率は3位で、関係人口意向はふるさと納税、まちおこしが高め。離脱意向は31位。

総人口	204.9万人【16位】
人口増減率	-0.7%【27位】
社会増減率	-1.3%【27位】
65歳以上比率	31.9%【18位】
1人あたり県民所得	2,882千円【25位】
上記伸び率	11.8%【23位】

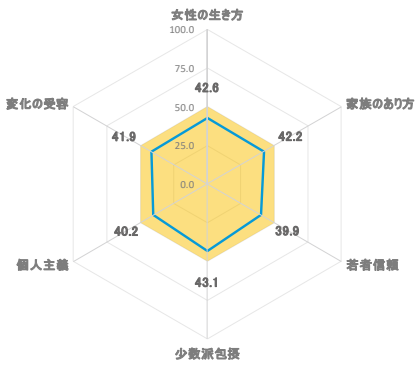
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
長野県全体	5.71	33位	4.69	34位	10.40	35位
男性・計	5.49	41位	4.87	29位	10.36	35位
男性・30代以下	5.29	44位	4.80	41位	10.09	43位
男性・40～50代	5.61	12位	5.05	8位	10.66	9位
男性・60代以上	5.65	43位	4.64	40位	10.29	42位
女性・計	5.93	21位	4.51	37位	10.44	26位
女性・30代以下	6.21	6位	4.26	43位	10.47	22位
女性・40～50代	5.64	24位	4.74	10位	10.38	14位
女性・60代以上	5.97	45位	4.55	46位	10.53	45位
既婚・計	6.02	46位	4.83	43位	10.84	46位
未婚・計	5.21	18位	4.40	32位	9.61	25位
男性・既婚	6.01	43位	5.19	29位	11.20	39位
男性・未婚	4.67	42位	4.34	37位	9.01	40位
女性・既婚	6.02	42位	4.51	45位	10.53	44位
女性・未婚	5.81	4位	4.47	20位	10.28	8位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
長野県全体	42.6	42.2	39.9	43.1	40.2	41.9	41.6	39位
男性・計	45.5	44.2	39.4	50.9	39.7	43.5	43.9	33位
男性・30代以下	48.8	41.7	39.8	50.3	42.9	48.3	45.3	31位
男性・40～50代	44.2	47.8	43.7	52.7	38.7	44.6	45.3	32位
男性・60代以上	46.7	42.0	36.6	47.0	38.7	37.4	41.4	38位
女性・計	41.1	41.2	40.7	37.9	40.9	41.0	40.5	42位
女性・30代以下	43.9	45.1	39.7	41.6	43.0	44.8	43.0	36位
女性・40～50代	38.4	36.7	42.0	34.9	40.5	39.0	38.6	43位
女性・60代以上	44.2	46.0	44.5	42.9	40.5	41.7	43.3	33位
既婚・計	42.5	40.6	38.9	41.7	37.9	40.1	40.3	41位
未婚・計	44.1	45.8	43.8	46.3	44.2	44.9	44.9	30位
男性・既婚	46.2	43.3	37.2	51.1	38.2	42.5	43.1	39位
男性・未婚	45.8	44.7	42.8	49.2	41.7	44.3	44.8	33位
女性・既婚	40.5	39.1	40.3	35.1	38.3	39.0	38.7	44位
女性・未婚	44.0	47.0	45.5	44.9	47.1	46.1	45.8	29位

人口移動指標

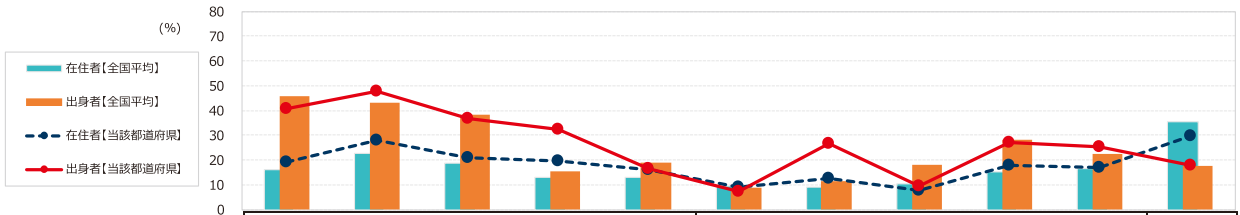
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
長野県全体	4.50	3位	34.6	48.0	63.3	40.8	40.4	47.0	3.40	31位
男性30代以下・計	4.73	3位	39.7	53.2	67.4	48.1	43.7	55.3	3.62	41位
女性30代以下・計	4.27	9位	29.4	42.8	59.2	33.5	37.2	38.7	3.30	44位
既婚・計	4.20	16位	32.9	44.8	52.2	42.0	31.5	39.1	3.27	23位
未婚・計	4.71	3位	35.4	50.2	70.9	40.4	46.4	52.9	3.59	36位
男性・既婚	4.39	11位	35.9	50.1	53.2	47.1	36.2	46.8	3.28	22位
男性・未婚	4.90	4位	43.0	54.0	72.9	47.5	45.8	58.8	3.68	32位
女性・既婚	4.07	19位	30.7	40.9	51.5	38.3	28.1	33.5	3.26	25位
女性・未婚	4.47	8位	25.9	45.4	68.4	31.6	47.0	45.6	3.49	37位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

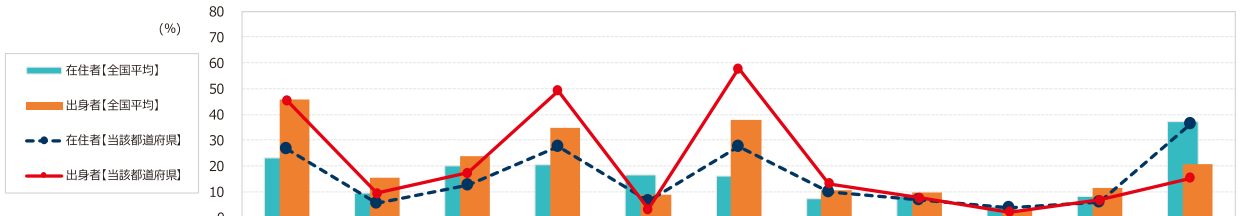


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	19.0	28.0	20.8	19.8	16.0	9.0	12.5	7.8	17.8	17.0	29.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	40.6	47.7	36.9	32.3	16.7	7.2	26.5	9.3	27.0	25.2	17.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	26.5	5.3	12.5	27.3	6.5	27.5	9.8	6.8	3.8	6.0	36.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	45.5	9.3	17.2	49.2	3.1	57.8	13.0	7.7	2.1	6.8	15.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



岐阜県

1人あたりの県民所得は28位。総合幸福度は44位にとどまり、寛容性総合指標は28位。Uターン意向率は40位で、関係人口意向は低め。離脱意向は12位だが、未婚層が離婚層と比べて順位が高い。

総人口	198.7万人【17位】
人口増減率	-0.5%【18位】
社会増減率	0.0%【15位】
65歳以上比率	30.1%【28位】
1人あたり県民所得	2,803千円【28位】
上記伸び率	6.3%【42位】

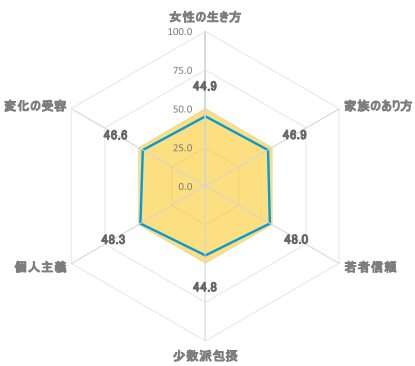
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
岐阜県全体	5.63	39位	4.53	46位	10.16	44位
男性・計	5.57	33位	4.73	37位	10.30	38位
男性・30代以下	5.61	31位	4.72	44位	10.33	40位
男性・40～50代	5.28	30位	4.62	35位	9.90	32位
男性・60代以上	6.08	23位	4.95	26位	11.02	26位
女性・計	5.69	39位	4.34	44位	10.03	43位
女性・30代以下	5.79	22位	4.32	41位	10.10	28位
女性・40～50代	5.60	29位	4.27	36位	9.87	32位
女性・60代以上	5.67	46位	4.52	47位	10.19	46位
既婚・計	6.18	36位	4.93	35位	11.12	39位
未婚・計	4.77	45位	3.93	47位	8.70	47位
男性・既婚	6.12	38位	5.06	40位	11.18	40位
男性・未婚	4.83	38位	4.35	36位	9.18	38位
女性・既婚	6.24	34位	4.82	20位	11.06	30位
女性・未婚	4.70	46位	3.42	47位	8.11	47位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
岐阜県全体	44.9	46.9	48.0	44.8	48.3	46.6	46.6	28位
男性・計	45.0	48.6	49.0	45.8	48.9	45.5	47.1	26位
男性・30代以下	53.2	53.7	49.4	44.8	48.0	46.6	49.3	23位
男性・40～50代	46.6	47.8	51.7	51.7	52.7	48.8	49.9	21位
男性・60代以上	38.1	45.1	43.4	39.1	43.5	39.5	41.5	37位
女性・計	44.8	45.8	46.9	44.4	48.1	47.1	46.2	26位
女性・30代以下	49.3	45.9	44.8	51.4	49.7	50.2	48.5	22位
女性・40～50代	44.1	45.0	49.7	40.7	47.7	46.1	45.5	30位
女性・60代以上	41.7	48.5	46.5	44.1	46.7	45.5	45.5	31位
既婚・計	41.2	45.0	46.9	42.6	47.6	44.7	44.7	32位
未婚・計	52.3	50.0	48.0	48.5	50.5	49.8	49.8	20位
男性・既婚	41.9	45.6	51.1	44.1	48.6	44.1	45.9	29位
男性・未婚	52.2	51.9	44.3	48.5	49.4	47.1	48.9	23位
女性・既婚	40.7	45.1	44.2	42.2	47.1	45.4	44.1	35位
女性・未婚	52.7	48.3	51.8	48.7	51.2	52.3	50.8	20位

人口移動指標

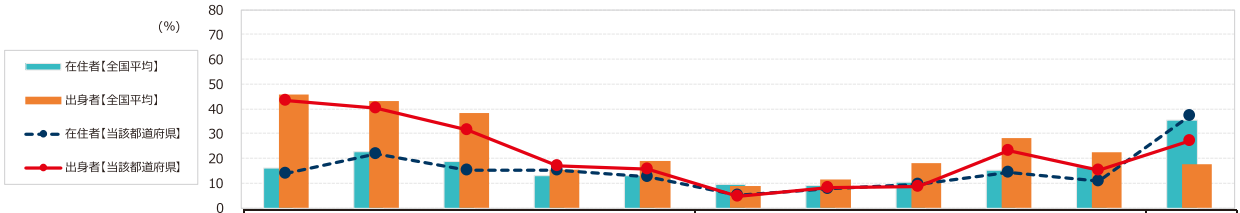
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
岐阜県全体	3.89	40位	31.0	37.9	58.2	32.7	34.9	34.5	3.58	12位
男性30代以下・計	3.87	40位	35.5	37.8	57.0	38.7	35.0	35.3	4.04	18位
女性30代以下・計	3.91	34位	26.4	38.0	59.5	26.6	34.7	33.8	3.75	22位
既婚・計	3.61	42位	27.5	36.3	51.9	30.4	23.0	27.4	3.28	20位
未婚・計	4.10	34位	34.4	40.8	64.3	34.6	42.2	39.7	4.01	7位
男性・既婚	3.56	40位	39.2	42.5	48.2	45.1	26.8	33.0	3.20	34位
男性・未婚	4.06	36位	34.5	36.4	63.7	36.4	39.2	37.7	3.94	16位
女性・既婚	3.66	34位	16.5	30.5	55.3	16.7	19.3	22.2	3.36	19位
女性・未婚	4.15	20位	34.2	45.9	65.0	32.4	45.8	42.1	4.10	4位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

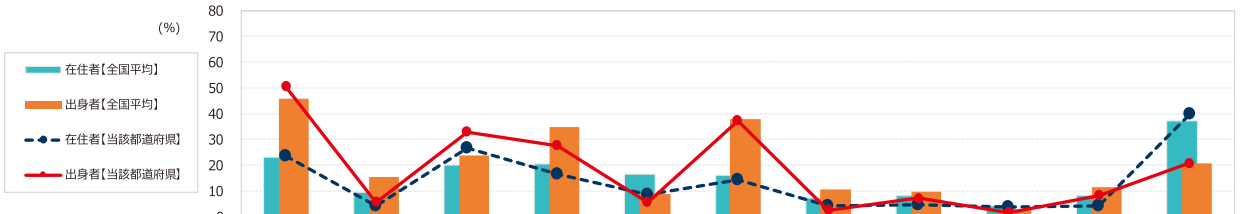


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.0	21.8	15.3	15.0	12.5	5.0	7.8	9.5	14.5	10.8	37.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	43.5	40.4	31.5	16.8	15.6	4.6	8.3	8.8	23.1	15.0	27.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.5	4.0	26.5	16.3	8.8	14.5	4.3	4.5	3.8	4.0	40.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	50.4	5.7	32.8	27.7	5.6	37.3	2.6	7.2	1.6	8.2	20.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



静岡県

1人あたりの県民所得は4位。総合幸福度は16位、寛容性総合指標は15位と高め。Uターン意向率は19位で、関係人口意向はふるさと納税、まちおこしなどで低い。離脱意向は47位で低い。

総人口	364.4万人【10位】
人口増減率	-0.4%【12位】
社会増減率	0.6%【11位】
65歳以上比率	29.9%【29位】
1人あたり県民所得	3,300千円【4位】
上記伸び率	7.8%【38位】

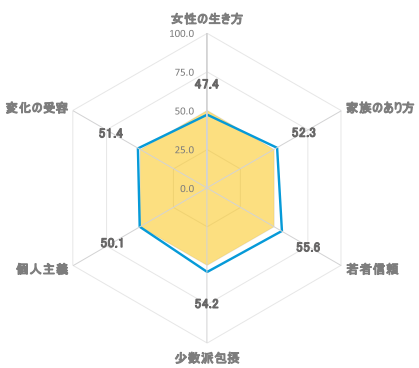
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
静岡県全体	5.76	24位	4.89	12位	10.65	16位
男性・計	5.64	23位	5.06	11位	10.70	19位
男性・30代以下	5.71	19位	5.24	11位	10.95	16位
男性・40～50代	5.11	41位	4.73	27位	9.84	39位
男性・60代以上	6.58	5位	5.35	5位	11.93	5位
女性・計	5.88	22位	4.73	15位	10.60	19位
女性・30代以下	5.79	22位	4.72	17位	10.51	21位
女性・40～50代	5.62	25位	4.36	30位	9.98	29位
女性・60代以上	6.55	17位	5.47	4位	12.03	6位
既婚・計	6.24	33位	5.08	15位	11.32	22位
未婚・計	5.13	23位	4.63	15位	9.76	21位
男性・既婚	6.18	32位	5.19	29位	11.37	31位
男性・未婚	5.12	20位	4.93	7位	10.04	13位
女性・既婚	6.28	27位	4.99	9位	11.27	18位
女性・未婚	5.15	32位	4.24	32位	9.39	31位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
静岡県全体	47.4	52.3	55.6	54.2	50.1	51.4	51.8	15位
男性・計	47.8	53.9	56.8	58.2	50.8	52.3	53.3	15位
男性・30代以下	53.2	57.7	59.1	64.8	50.0	53.8	56.4	10位
男性・40～50代	45.0	51.7	55.4	53.0	49.9	53.9	51.5	15位
男性・60代以上	47.8	52.5	51.7	55.8	54.1	47.0	51.5	17位
女性・計	47.4	51.0	54.7	50.5	49.4	50.9	50.7	15位
女性・30代以下	49.9	57.8	61.2	58.1	55.4	55.0	56.2	10位
女性・40～50代	48.1	48.6	50.5	49.0	46.1	48.3	48.4	25位
女性・60代以上	43.4	45.8	49.9	44.2	47.3	49.5	46.7	26位
既婚・計	45.3	50.5	52.2	50.8	49.5	50.9	49.8	17位
未婚・計	50.4	54.1	58.7	57.7	50.6	52.6	54.0	14位
男性・既婚	46.2	55.5	54.0	55.6	51.2	55.1	52.9	14位
男性・未婚	49.6	51.3	57.6	61.1	50.3	50.0	53.3	14位
女性・既婚	44.8	47.9	50.9	47.2	48.3	48.6	47.9	23位
女性・未婚	50.9	55.8	58.2	54.6	50.2	54.0	53.9	13位

人口移動指標

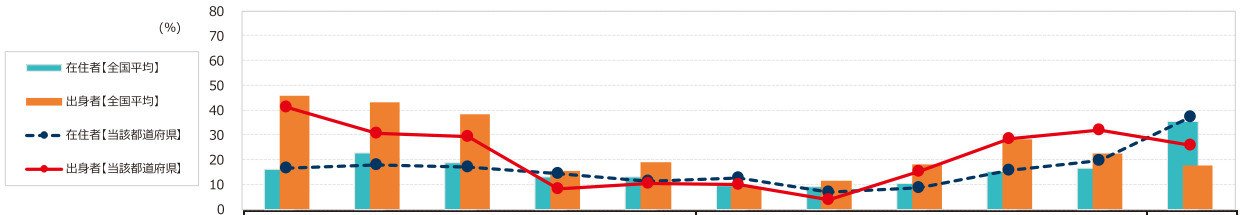
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
静岡県全体	4.17	19位	33.1	44.5	49.8	33.2	31.2	32.6	3.11	47位
男性30代以下・計	4.09	35位	35.6	42.1	43.6	40.8	30.8	33.4	3.39	47位
女性30代以下・計	4.25	11位	30.6	46.8	56.0	25.5	31.5	31.7	3.25	46位
既婚・計	3.89	30位	32.8	47.4	51.0	32.7	33.0	33.0	2.93	45位
未婚・計	4.37	14位	33.3	44.2	49.9	33.4	31.7	32.3	3.34	46位
男性・既婚	3.81	35位	29.7	55.7	43.8	36.2	30.3	33.5	2.74	47位
男性・未婚	4.26	27位	40.0	37.8	43.8	43.3	32.5	33.5	3.36	46位
女性・既婚	3.95	22位	35.2	40.7	56.8	29.9	35.2	32.6	3.08	38位
女性・未婚	4.50	6位	25.8	51.5	56.7	22.3	30.8	31.0	3.32	45位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

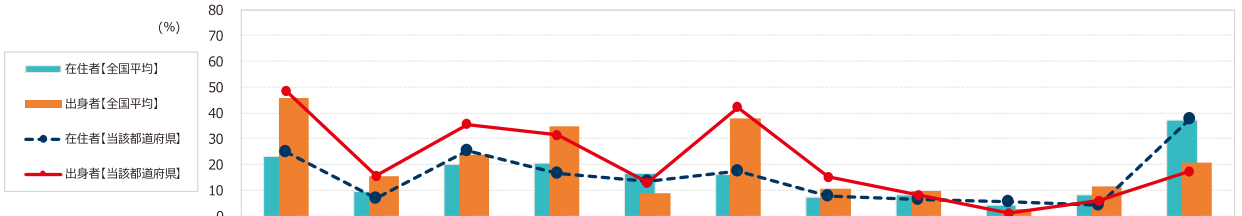


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	16.5	18.0	16.8	14.5	11.3	12.5	6.8	8.8	15.5	19.5	37.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	41.0	30.7	29.2	8.0	10.3	9.9	3.8	15.1	28.4	31.7	25.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.8	6.8	25.3	16.3	13.3	17.5	7.8	6.5	5.3	4.3	37.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.6	15.6	35.6	31.3	12.9	42.1	15.0	8.1	1.0	5.9	17.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



愛知県

1人あたりの県民所得は2位。総合幸福度は32位で未婚層が既婚層と比べて順位が高い。寛容性総合指標は13位。Uターン意向率は28位で、関係人口意向は二拠点生活以外は低水準。離脱意向は35位。

総人口	755.2万人【4位】
人口増減率	0.2%【5位】
社会増減率	3.4%【5位】
65歳以上比率	25.1%【45位】
1人あたり県民所得	3,633千円【2位】
上記伸び率	10.9%【28位】

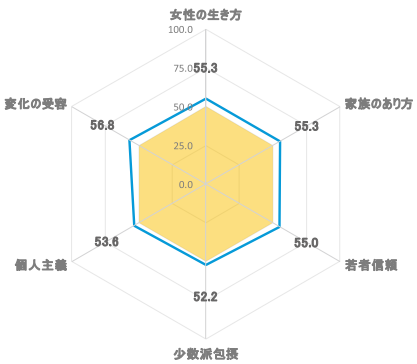
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
愛知県全体	5.79	16位	4.68	36位	10.47	32位
男性・計	5.53	37位	4.72	39位	10.25	41位
男性・30代以下	5.62	28位	5.02	28位	10.64	27位
男性・40～50代	5.40	23位	4.60	38位	10.00	28位
男性・60代以上	5.58	44位	4.39	45位	9.97	46位
女性・計	6.06	10位	4.64	24位	10.70	14位
女性・30代以下	6.05	14位	5.00	5位	11.05	8位
女性・40～50代	5.72	19位	4.13	40位	9.85	35位
女性・60代以上	6.75	6位	4.92	35位	11.67	18位
既婚・計	6.28	24位	4.72	45位	11.00	43位
未婚・計	5.18	21位	4.73	7位	9.91	12位
男性・既婚	6.00	44位	4.77	47位	10.77	47位
男性・未婚	5.07	24位	4.81	14位	9.88	17位
女性・既婚	6.51	10位	4.67	41位	11.18	22位
女性・未婚	5.32	18位	4.63	11位	9.95	15位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
愛知県全体	55.3	55.3	55.0	52.2	53.6	56.8	54.7	13位
男性・計	54.6	54.1	55.5	51.4	53.3	56.1	54.2	13位
男性・30代以下	59.7	59.6	68.5	49.4	57.6	63.4	59.7	8位
男性・40～50代	58.5	56.2	51.1	55.7	53.3	54.5	54.9	11位
男性・60代以上	42.7	43.5	45.0	44.1	47.1	47.9	45.1	32位
女性・計	55.3	56.0	53.7	53.2	53.9	57.4	54.9	12位
女性・30代以下	53.3	54.5	56.4	53.3	52.6	56.7	54.5	13位
女性・40～50代	56.9	59.8	52.5	54.6	55.9	57.8	56.2	11位
女性・60代以上	54.5	50.1	51.4	50.2	51.3	55.4	52.1	14位
既婚・計	55.2	54.4	51.8	52.8	52.2	57.2	53.9	13位
未婚・計	55.0	57.2	58.3	51.5	56.1	56.5	55.7	11位
男性・既婚	55.5	52.4	49.2	51.2	51.6	55.5	52.6	15位
男性・未婚	53.0	57.4	63.3	51.3	55.3	57.5	56.3	12位
女性・既婚	54.9	55.8	53.6	53.8	52.7	57.8	54.8	13位
女性・未婚	55.4	56.2	52.8	51.9	56.3	54.8	54.6	11位

人口移動指標

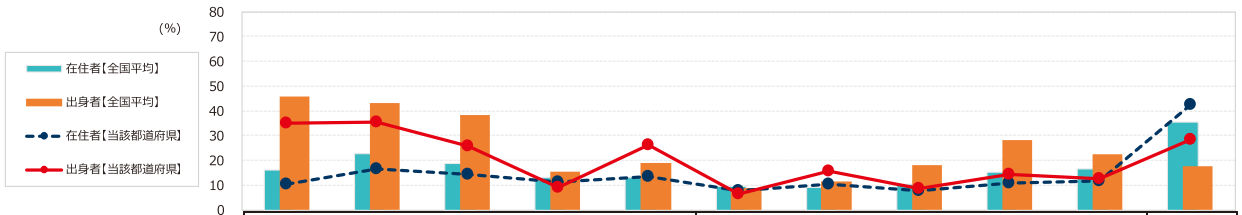
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
愛知県全体	4.11	28位	36.4	36.5	39.7	28.5	28.2	31.2	3.33	35位
男性30代以下・計	4.26	24位	40.4	37.4	37.6	33.2	30.1	29.0	3.65	39位
女性30代以下・計	3.95	31位	32.3	35.6	41.8	23.8	26.2	33.3	3.54	36位
既婚・計	4.31	9位	33.3	43.0	47.8	28.2	34.6	33.2	3.21	28位
未婚・計	4.05	36位	37.4	33.2	35.7	27.6	23.6	29.2	3.59	36位
男性・既婚	4.33	16位	33.5	40.3	37.2	26.8	26.8	23.4	3.32	17位
男性・未婚	4.28	26位	43.3	35.2	37.0	35.4	30.6	30.6	3.69	31位
女性・既婚	4.28	12位	33.0	45.5	57.3	29.6	41.7	42.1	3.12	32位
女性・未婚	3.81	40位	31.3	31.1	34.3	19.5	16.5	27.7	3.46	39位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

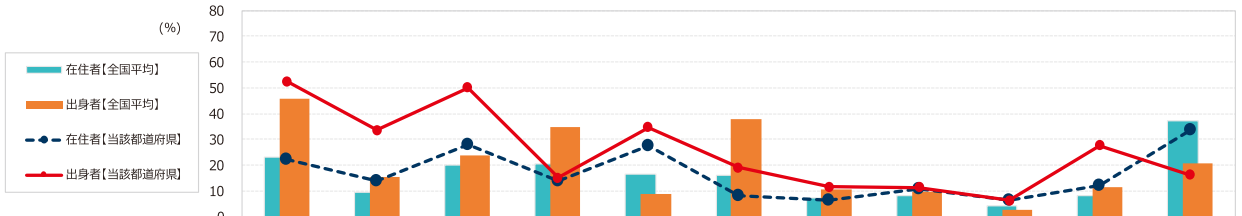


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	10.3	16.5	14.5	11.3	13.3	7.5	10.5	7.5	11.0	11.5	42.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	34.9	35.3	25.6	9.1	26.0	6.2	15.6	8.6	14.1	12.5	28.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	22.0	14.0	28.0	13.8	27.5	8.0	6.3	10.8	6.3	12.3	33.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.4	33.5	50.1	15.0	34.6	19.1	11.6	11.4	6.2	27.5	16.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



三重県

1人あたりの県民所得は9位で、総合幸福度は20位。寛容性総合指標は26位だが、女性・未婚層は43位にとどまる。Uターン意向率は34位で、関係人口意向はふるさと納税が高め。離脱意向は39位。

総人口	178.1万人【22位】
人口増減率	-0.6%【21位】
社会増減率	-1.0%【25位】
65歳以上比率	29.7%【31位】
1人あたり県民所得	3,155千円【 9位 】
上記伸び率	6.6%【40位】

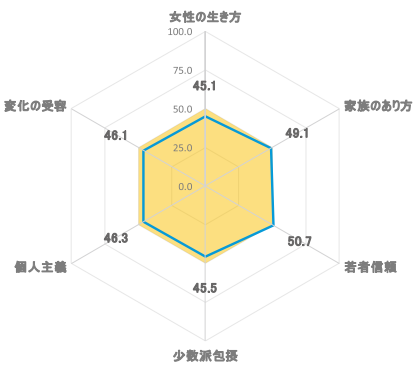
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
三重県全体	5.75	26位	4.86	17位	10.61	20位
男性・計	5.41	45位	4.82	33位	10.23	42位
男性・30代以下	5.25	45位	4.73	43位	9.98	44位
男性・40～50代	5.11	41位	4.85	22位	9.96	29位
男性・60代以上	6.30	15位	4.96	24位	11.26	15位
女性・計	6.10	7位	4.90	3位	11.00	4位
女性・30代以下	6.08	12位	5.10	2位	11.17	6位
女性・40～50代	5.86	13位	4.54	19位	10.40	13位
女性・60代以上	6.62	13位	5.22	13位	11.84	12位
既婚・計	6.42	11位	5.26	3位	11.67	4位
未婚・計	4.90	42位	4.31	38位	9.21	40位
男性・既婚	6.13	37位	5.38	11位	11.51	25位
男性・未婚	4.69	39位	4.23	44位	8.92	43位
女性・既婚	6.65	5位	5.16	3位	11.81	2位
女性・未婚	5.18	29位	4.42	23位	9.61	24位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
三重県全体	45.1	49.1	50.7	45.5	46.3	46.1	47.1	26位
男性・計	45.2	51.0	52.1	49.7	48.0	46.8	48.8	21位
男性・30代以下	43.1	44.9	43.9	41.1	45.8	37.2	42.7	37位
男性・40～50代	45.6	55.2	58.7	53.7	51.2	51.1	52.6	13位
男性・60代以上	48.2	50.2	48.9	53.7	46.8	51.1	49.8	21位
女性・計	44.8	47.8	50.1	42.0	44.7	45.8	45.9	28位
女性・30代以下	45.8	51.0	50.6	35.1	46.3	50.1	46.5	29位
女性・40～50代	43.0	46.0	48.4	43.0	43.5	40.8	44.1	33位
女性・60代以上	49.6	47.0	53.1	51.2	46.0	49.4	49.4	18位
既婚・計	46.6	50.1	53.8	47.1	47.4	49.4	49.1	19位
未婚・計	43.1	47.4	46.1	44.2	44.4	42.0	44.5	31位
男性・既婚	44.4	49.6	55.5	49.3	46.9	47.2	48.8	19位
男性・未婚	46.8	52.1	47.5	50.8	50.1	46.0	48.9	24位
女性・既婚	48.3	50.5	52.3	45.6	48.3	50.6	49.3	18位
女性・未婚	40.3	42.4	44.9	39.1	38.2	37.5	40.4	43位

人口移動指標

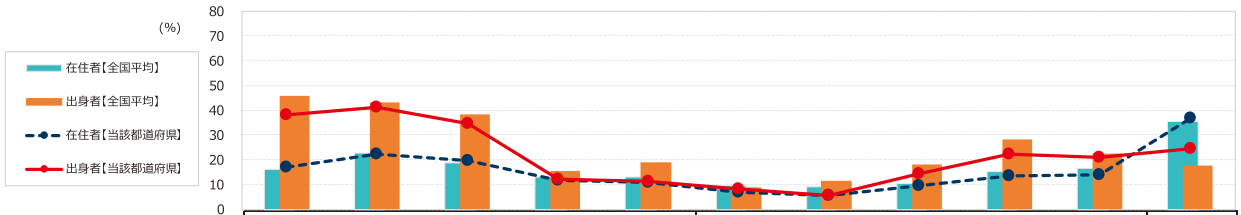
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
三重県全体	4.06	34位	35.5	47.8	63.2	39.3	37.9	41.9	3.30	39位
男性30代以下・計	4.16	30位	38.6	47.1	64.3	44.9	33.7	44.9	3.83	31位
女性30代以下・計	3.95	31位	32.4	48.4	62.1	33.7	42.1	38.8	3.59	34位
既婚・計	3.98	27位	35.1	51.4	64.9	43.2	34.7	41.3	3.01	43位
未婚・計	4.11	33位	36.5	46.7	64.2	37.6	40.8	43.2	3.73	22位
男性・既婚	4.07	29位	40.6	52.9	62.5	53.6	28.3	46.8	3.12	35位
男性・未婚	4.14	32位	37.4	43.9	67.6	39.6	37.4	44.4	3.77	24位
女性・既婚	3.88	26位	29.1	49.8	67.6	32.1	41.4	35.4	2.92	45位
女性・未婚	4.08	23位	35.6	49.3	60.9	35.8	44.0	42.2	3.68	22位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

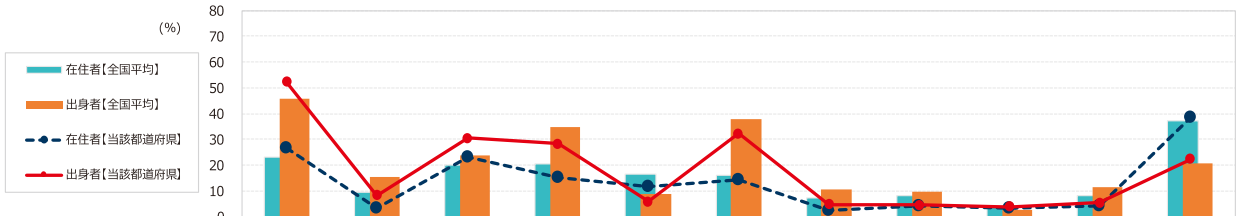


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	17.0	22.0	19.8	11.8	10.8	7.0	5.3	9.5	13.3	14.0	36.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	38.0	41.3	34.7	12.3	11.2	8.2	5.3	14.1	22.1	21.0	24.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	26.8	3.5	23.0	15.3	11.8	14.5	2.3	4.0	3.5	4.0	38.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.2	8.3	30.4	28.2	5.9	32.2	4.7	4.5	3.9	5.4	22.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



滋賀県

1人あたりの県民所得は6位で、総合幸福度も4位と高い。寛容性総合指標は16位。Uターン意向率は5位で、関係人口意向はワーケーションが高め。一方、離脱意向も8位となっている。

総人口	141.4万人【26位】
人口増減率	0.1%【6位】
社会増減率	2.6%【7位】
65歳以上比率	26.0%【43位】
1人あたり県民所得	3,181千円【6位】
上記伸び率	10.3%【29位】

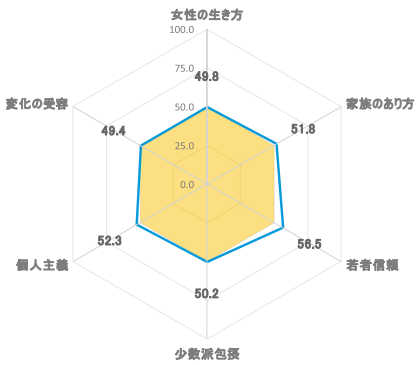
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
滋賀県全体	6.17	2位	4.75	28位	10.92	4位
男性・計	6.08	1位	4.91	25位	10.99	6位
男性・30代以下	5.81	13位	4.91	34位	10.72	24位
男性・40～50代	6.25	1位	5.02	10位	11.27	1位
男性・60代以上	6.28	17位	4.71	37位	10.98	28位
女性・計	6.25	3位	4.59	30位	10.84	10位
女性・30代以下	6.46	1位	4.68	18位	11.14	7位
女性・40～50代	5.91	11位	4.34	31位	10.25	19位
女性・60代以上	6.50	20位	4.91	37位	11.41	31位
既婚・計	6.50	5位	4.90	38位	11.40	16位
未婚・計	5.73	2位	4.57	20位	10.29	3位
男性・既婚	6.52	6位	5.15	32位	11.67	14位
男性・未婚	5.55	2位	4.63	24位	10.17	9位
女性・既婚	6.48	12位	4.68	39位	11.17	23位
女性・未婚	5.94	2位	4.49	18位	10.43	5位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
滋賀県全体	49.8	51.8	56.5	50.2	52.3	49.4	51.7	16位
男性・計	54.4	52.4	60.7	51.8	54.2	51.0	54.1	14位
男性・30代以下	49.6	47.9	59.8	43.0	52.0	53.4	51.0	19位
男性・40～50代	53.4	52.4	57.2	53.1	55.1	48.4	53.3	12位
男性・60代以上	58.2	57.2	62.7	57.8	54.8	53.6	57.4	11位
女性・計	46.9	51.3	52.7	48.9	50.5	48.1	49.7	17位
女性・30代以下	45.2	51.8	53.0	51.8	47.9	51.9	50.3	19位
女性・40～50代	48.4	50.6	54.7	46.7	52.9	47.6	50.1	19位
女性・60代以上	47.1	51.5	48.2	50.6	49.9	43.6	48.5	21位
既婚・計	49.9	53.2	56.2	50.2	52.2	47.9	51.6	15位
未婚・計	50.1	49.5	57.3	49.9	52.2	52.2	51.8	16位
男性・既婚	56.9	55.0	61.0	52.9	54.2	48.3	54.7	11位
男性・未婚	47.6	48.6	58.2	48.5	53.2	54.7	51.8	17位
女性・既婚	45.1	51.8	52.5	48.1	50.4	47.6	49.3	19位
女性・未婚	51.6	50.5	55.6	51.0	51.0	50.1	51.6	18位

人口移動指標

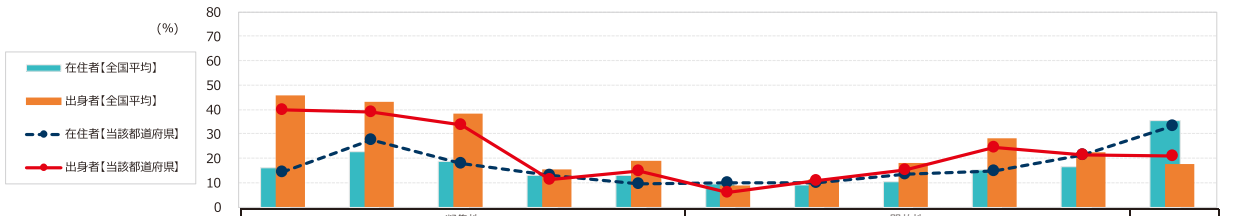
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
滋賀県全体	4.47	5位	34.3	49.3	55.7	39.6	36.1	43.8	3.63	8位
男性30代以下・計	4.76	2位	40.8	53.3	54.6	49.6	33.0	44.6	4.06	15位
女性30代以下・計	4.18	14位	27.8	45.3	56.8	29.6	39.1	43.1	3.83	17位
既婚・計	4.25	14位	28.2	50.7	54.7	40.8	40.7	46.8	3.36	14位
未婚・計	4.65	4位	38.8	50.3	57.4	42.7	35.5	44.0	4.06	3位
男性・既婚	4.15	26位	36.6	52.3	47.0	57.5	41.8	57.5	3.29	19位
男性・未婚	4.97	3位	41.8	54.3	55.9	48.9	30.0	38.7	4.34	1位
女性・既婚	4.32	9位	22.5	49.7	59.8	29.5	40.0	39.7	3.42	12位
女性・未婚	4.22	17位	34.8	45.1	59.4	34.7	42.7	51.0	3.72	19位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

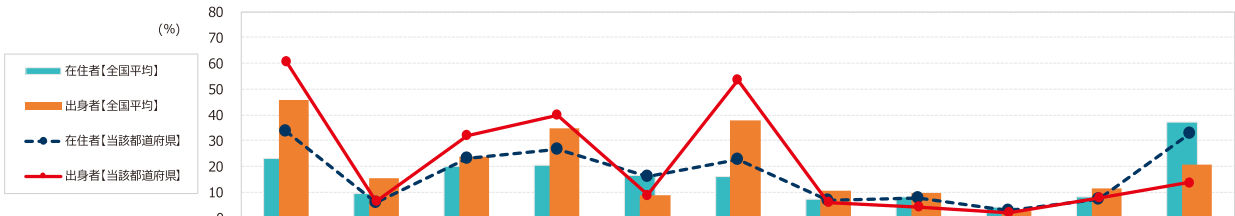


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.3	27.3	17.8	13.0	9.5	10.0	9.8	13.3	14.8	21.3	33.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	39.6	39.1	33.5	11.2	14.7	5.8	11.0	15.3	24.4	21.2	20.7

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	33.5	6.0	23.0	26.5	16.0	22.8	7.0	7.8	3.0	7.3	32.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	60.9	6.4	32.1	39.9	8.9	53.6	6.1	4.2	2.1	7.9	13.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



京都府

1人あたりの県民所得は21位。総合幸福度は11位だが、男性が女性と比べて順位が高い。寛容性総合指標は11位。Uターン意向率は2位で、関係人口意向は二拠点生活、ワーケーションが高い。離脱意向は22位。

総人口	258.3万人【13位】
人口増減率	-0.3%【10位】
社会増減率	0.7‰【10位】
65歳以上比率	29.1%【35位】
1人あたり県民所得	2,926千円【21位】
上記伸び率	10.2%【32位】

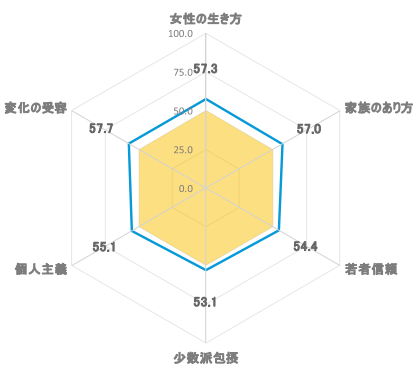
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
京都府全体	5.81	14位	4.87	15位	10.68	11位
男性・計	5.99	4位	5.19	7位	11.18	3位
男性・30代以下	5.70	22位	5.21	16位	10.91	20位
男性・40～50代	5.99	2位	5.25	2位	11.24	2位
男性・60代以上	6.55	6位	5.03	21位	11.58	9位
女性・計	5.63	41位	4.55	34位	10.18	39位
女性・30代以下	5.96	17位	4.64	20位	10.60	19位
女性・40～50代	5.34	40位	4.44	23位	9.78	37位
女性・60代以上	5.58	47位	4.58	44位	10.15	47位
既婚・計	6.39	12位	5.10	13位	11.49	10位
未婚・計	5.21	18位	4.62	17位	9.82	17位
男性・既婚	6.82	1位	5.67	2位	12.49	1位
男性・未婚	5.17	13位	4.73	19位	9.89	16位
女性・既婚	5.93	44位	4.51	45位	10.44	45位
女性・未婚	5.24	20位	4.51	16位	9.76	21位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
京都府全体	57.3	57.0	54.4	53.1	55.1	57.7	55.8	11位
男性・計	58.1	56.4	57.0	52.4	57.4	57.7	56.5	10位
男性・30代以下	51.5	52.3	55.9	45.3	58.1	59.7	53.8	13位
男性・40～50代	59.5	58.0	52.7	54.3	57.6	57.1	56.5	9位
男性・60代以上	58.5	55.1	60.7	56.9	54.1	52.1	56.2	12位
女性・計	56.8	57.5	52.9	52.9	53.4	57.9	55.2	11位
女性・30代以下	57.4	61.3	53.5	52.6	51.4	56.9	55.5	11位
女性・40～50代	51.6	53.7	47.5	50.7	52.9	57.6	52.3	15位
女性・60代以上	62.8	57.5	59.2	55.9	56.6	58.7	58.5	10位
既婚・計	58.7	56.5	57.0	52.8	54.4	59.8	56.5	10位
未婚・計	54.5	57.0	52.8	52.4	55.8	54.9	54.6	13位
男性・既婚	56.0	51.8	55.1	50.4	54.2	54.0	53.6	12位
男性・未婚	61.1	61.6	57.8	55.2	60.7	59.4	59.3	9位
女性・既婚	59.9	59.1	57.8	54.6	53.7	63.2	58.1	9位
女性・未婚	51.7	54.3	49.6	50.7	52.8	52.4	51.9	17位

人口移動指標

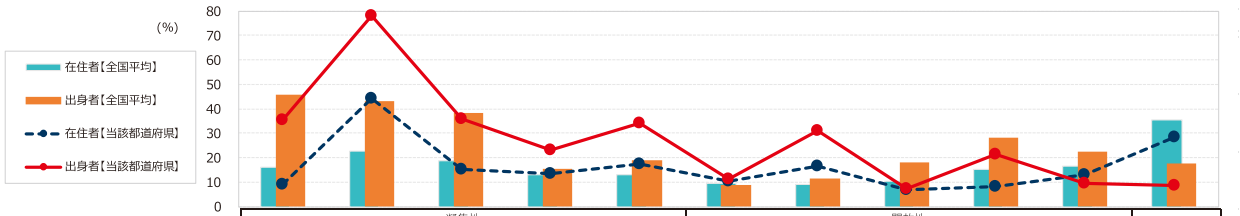
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
京都府全体	4.66	2位	44.7	51.3	41.5	39.6	32.7	35.8	3.50	22位
男性30代以下・計	4.86	1位	45.1	54.5	40.9	50.3	35.4	38.5	3.58	42位
女性30代以下・計	4.45	4位	44.3	48.1	42.1	29.0	30.0	33.1	3.86	13位
既婚・計	4.31	9位	45.6	41.1	39.9	36.8	32.4	32.4	3.30	18位
未婚・計	4.89	1位	45.9	59.2	43.1	42.8	32.8	39.0	3.75	21位
男性・既婚	4.40	10位	46.6	39.9	43.5	39.9	30.0	33.4	3.22	32位
男性・未婚	5.14	1位	44.7	63.7	39.5	58.5	37.8	42.9	3.47	42位
女性・既婚	4.24	14位	44.8	42.1	36.9	34.3	34.3	31.6	3.39	17位
女性・未婚	4.62	2位	47.3	54.2	47.1	25.5	27.2	34.7	4.02	5位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

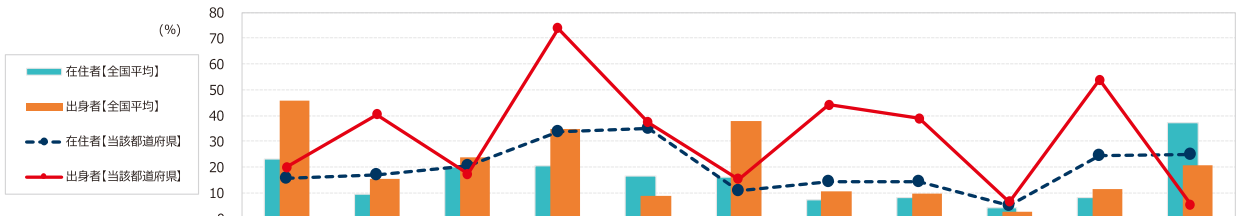


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	9.0	44.0	15.3	13.3	17.3	10.5	16.3	6.8	8.0	13.0	28.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	35.2	78.0	36.0	23.2	34.2	11.1	30.9	7.4	21.5	9.4	8.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.5	17.0	20.5	33.8	35.0	10.8	14.3	14.5	5.0	24.5	24.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	20.0	40.4	17.2	73.9	37.3	15.3	44.0	38.9	6.4	53.7	5.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



大阪府

1人あたりの県民所得は13位。総合幸福度は17位で、男性は女性と比べて順位が高い。寛容性総合指標は3位と高水準。Uターン意向率は6位。関係人口意向はふるさと納税、まちおこしなどが低め。離脱意向は29位。

総人口	880.9万人【3位】
人口増減率	-0.1%【8位】
社会増減率	2.7‰【6位】
65歳以上比率	27.6%【41位】
1人あたり県民所得	3,056千円【13位】
上記伸び率	5.1%【44位】

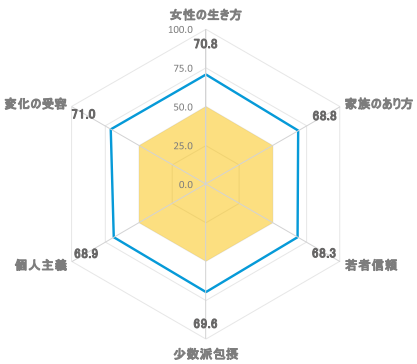
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
大阪府全体	5.75	26位	4.89	12位	10.64	17位
男性・計	5.86	6位	5.20	4位	11.05	4位
男性・30代以下	5.66	25位	5.25	9位	10.92	19位
男性・40～50代	5.86	4位	5.08	6位	10.94	4位
男性・60代以上	6.22	19位	5.34	6位	11.57	10位
女性・計	5.64	40位	4.58	31位	10.22	38位
女性・30代以下	5.86	21位	4.83	11位	10.69	15位
女性・40～50代	5.10	44位	4.13	40位	9.23	43位
女性・60代以上	6.28	38位	4.97	31位	11.24	37位
既婚・計	6.17	41位	5.07	17位	11.24	32位
未婚・計	5.24	16位	4.63	15位	9.88	14位
男性・既婚	6.37	13位	5.42	8位	11.80	8位
男性・未婚	5.24	9位	4.90	11位	10.14	11位
女性・既婚	5.98	43位	4.74	31位	10.72	42位
女性・未婚	5.24	20位	4.35	25位	9.59	26位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
大阪府全体	70.8	68.8	68.3	69.6	68.9	71.0	69.5	3位
男性・計	72.4	67.2	66.4	66.9	66.9	69.7	68.3	3位
男性・30代以下	77.9	68.6	69.0	63.4	67.4	71.9	69.7	2位
男性・40～50代	67.8	63.4	62.4	64.9	66.0	66.1	65.1	6位
男性・60代以上	67.9	67.5	61.8	65.8	63.8	67.1	65.7	4位
女性・計	69.4	69.3	68.4	70.9	69.9	71.4	69.9	3位
女性・30代以下	72.1	66.8	68.0	70.5	70.1	77.7	70.9	3位
女性・40～50代	65.0	69.9	65.5	67.9	68.7	66.5	67.3	4位
女性・60代以上	67.5	67.9	67.3	68.5	67.5	66.1	67.5	5位
既婚・計	69.9	68.7	69.9	68.7	67.3	68.3	68.8	4位
未婚・計	70.9	68.6	64.2	67.6	69.9	73.1	69.1	3位
男性・既婚	69.1	66.6	66.6	66.1	64.4	66.7	66.6	3位
男性・未婚	74.7	66.5	63.5	64.7	68.2	72.7	68.4	2位
女性・既婚	69.6	69.3	71.7	69.9	69.0	68.5	69.7	3位
女性・未婚	67.2	69.3	62.9	68.4	69.6	71.8	68.2	3位

人口移動指標

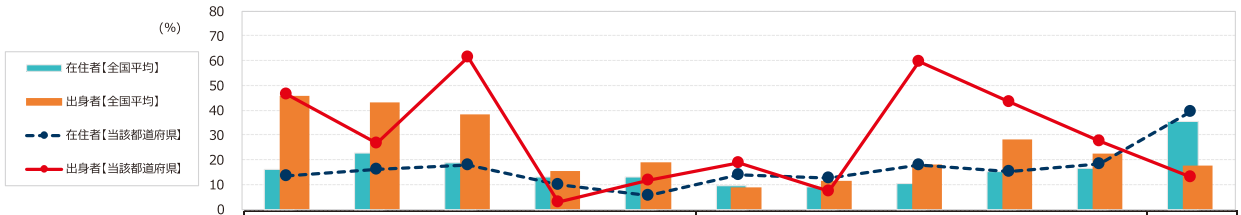
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
大阪府全体	4.46	6位	37.6	44.7	44.3	33.9	32.5	36.1	3.44	29位
男性30代以下・計	4.42	15位	42.4	43.3	44.3	39.3	35.3	35.3	4.19	3位
女性30代以下・計	4.51	3位	32.8	46.0	44.2	28.6	29.7	36.9	3.67	31位
既婚・計	4.37	8位	35.0	40.2	40.3	30.9	33.5	36.2	3.15	37位
未婚・計	4.52	6位	38.8	48.4	48.5	36.1	32.7	37.0	3.77	18位
男性・既婚	4.37	13位	36.9	34.3	36.7	36.7	36.8	31.5	3.24	26位
男性・未婚	4.44	17位	47.4	50.7	50.8	42.3	35.5	38.9	3.97	12位
女性・既婚	4.38	6位	33.3	45.7	43.6	25.4	30.4	40.7	3.07	39位
女性・未婚	4.60	3位	29.4	46.0	46.1	29.4	29.5	35.0	3.56	32位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

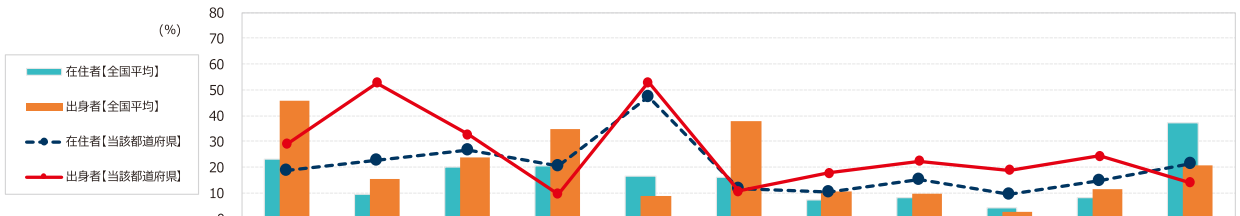


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	13.5	16.0	18.0	10.0	5.5	13.8	12.5	17.8	15.3	18.3	39.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	46.4	26.8	61.4	3.0	11.7	18.9	7.1	59.4	43.4	27.5	13.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.8	22.8	26.8	20.5	47.3	11.8	10.3	15.0	9.3	14.8	21.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	29.0	52.6	32.6	9.6	52.9	10.6	17.8	22.3	18.8	24.3	13.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



兵庫県

1人あたりの県民所得は24位。総合幸福度は3位、寛容性総合指標は6位と高水準。Uターン意向率は4位で、関係人口意向はワーケーションが高め。離脱意向は42位で低い。

総人口	546.6万人【 7位 】
人口増減率	-0.3%【11位】
社会増減率	0.3%【13位】
65歳以上比率	29.1%【35位】
1人あたり県民所得	2,896千円【24位】
上記伸び率	6.6%【41位】

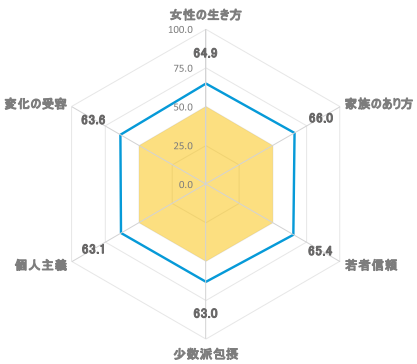
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
兵庫県全体	6.02	4位	4.98	4位	11.00	3位
男性・計	5.69	21位	5.05	14位	10.74	15位
男性・30代以下	5.60	32位	4.82	40位	10.42	37位
男性・40～50代	5.61	12位	5.20	4位	10.82	6位
男性・60代以上	6.03	26位	5.20	10位	11.23	16位
女性・計	6.35	2位	4.90	3位	11.25	2位
女性・30代以下	6.31	5位	5.02	4位	11.34	2位
女性・40～50代	6.26	2位	4.66	13位	10.92	5位
女性・60代以上	6.60	14位	5.13	17位	11.73	16位
既婚・計	6.64	2位	5.36	1位	11.99	1位
未婚・計	5.10	27位	4.47	26位	9.57	27位
男性・既婚	6.44	11位	5.47	6位	11.92	3位
男性・未婚	4.69	39位	4.50	32位	9.19	37位
女性・既婚	6.81	1位	5.25	1位	12.06	1位
女性・未婚	5.59	10位	4.44	21位	10.03	14位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
兵庫県全体	64.9	66.0	65.4	63.0	63.1	63.6	64.3	6位
男性・計	64.7	67.2	64.1	58.8	62.6	62.0	63.2	7位
男性・30代以下	53.2	58.1	50.6	46.6	59.0	51.0	53.1	14位
男性・40～50代	66.6	71.4	69.1	65.9	65.3	66.5	67.5	3位
男性・60代以上	66.2	63.9	64.3	56.6	60.0	63.5	62.4	7位
女性・計	64.9	65.3	65.8	65.8	62.9	64.4	64.8	5位
女性・30代以下	67.8	67.0	68.6	61.5	67.5	61.8	65.7	4位
女性・40～50代	62.8	64.5	62.5	66.9	60.1	65.7	63.8	6位
女性・60代以上	59.6	61.1	59.1	61.7	58.5	63.1	60.5	9位
既婚・計	66.6	66.8	67.0	65.8	62.9	63.6	65.5	5位
未婚・計	61.4	64.1	61.9	57.7	63.3	63.5	62.0	8位
男性・既婚	66.8	69.8	64.9	61.8	61.8	61.2	64.4	6位
男性・未婚	60.1	61.8	61.8	53.8	62.6	61.1	60.2	8位
女性・既婚	65.3	64.5	67.4	67.7	63.0	64.4	65.4	5位
女性・未婚	61.1	65.2	61.0	60.3	62.5	63.8	62.3	7位

人口移動指標

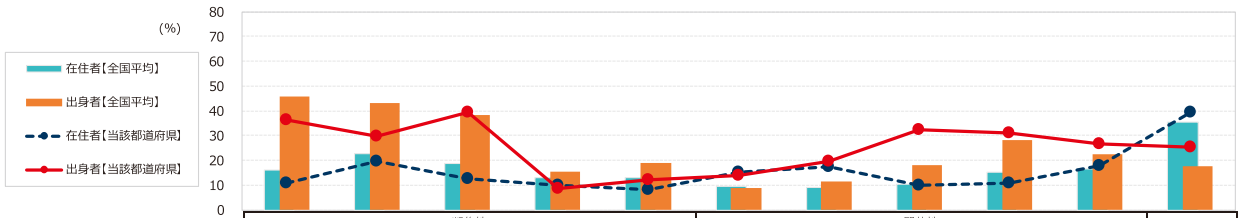
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
兵庫県全体	4.48	4位	36.4	48.7	57.6	37.2	33.1	39.2	3.28	42位
男性30代以下・計	4.51	9位	35.0	52.1	55.3	47.7	30.5	46.9	3.88	28位
女性30代以下・計	4.44	5位	37.8	45.3	59.9	26.7	35.8	31.4	4.08	5位
既婚・計	4.42	3位	33.7	50.8	60.4	35.5	28.5	33.9	3.04	41位
未婚・計	4.56	5位	40.5	50.4	57.8	39.6	39.5	44.5	3.56	38位
男性・既婚	4.39	11位	34.6	59.1	59.4	48.6	24.1	43.0	2.95	42位
男性・未婚	4.62	9位	39.0	53.1	55.1	50.9	40.7	53.4	3.67	33位
女性・既婚	4.46	4位	32.7	42.9	61.3	23.0	32.7	25.1	3.12	32位
女性・未婚	4.51	5位	42.0	47.9	60.3	29.1	38.3	36.3	3.44	40位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

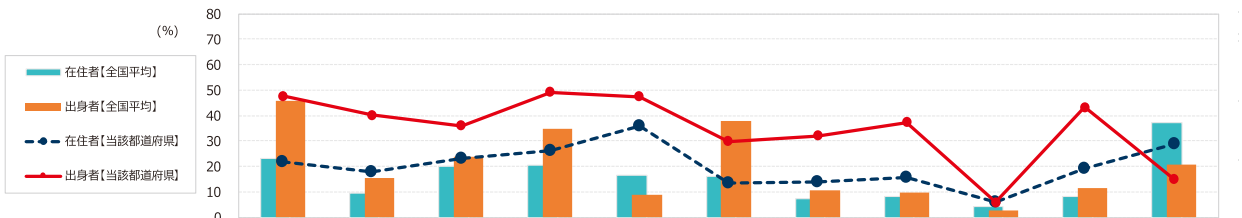


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	10.8	19.8	12.5	9.8	8.3	15.3	17.3	10.0	10.8	17.8	39.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	36.1	29.6	39.2	8.4	12.2	14.0	19.5	32.3	31.2	26.7	25.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	21.8	18.0	23.3	26.3	36.0	13.3	13.8	15.8	6.0	19.0	28.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	47.7	40.1	35.9	49.2	47.3	29.7	31.9	37.2	5.9	43.3	14.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



奈良県

1人あたりの県民所得は40位にとどまるが、総合幸福度は2位、寛容性総合指標は17位と高い水準。Uターン意向率は7位で、関係人口意向は二拠点生活が高め。離脱意向は27位。

総人口	133.0万人【29位】
人口増減率	-0.7%【26位】
社会増減率	-1.9%【33位】
65歳以上比率	31.3%【22位】
1人あたり県民所得	2,522千円【40位】
上記伸び率	5.6%【43位】

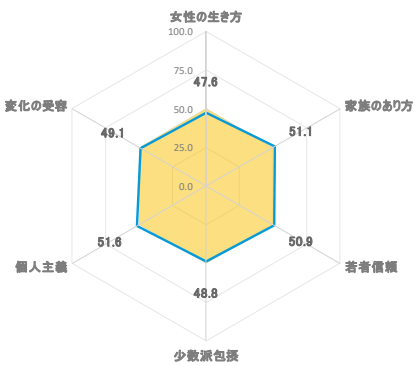
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
奈良県全体	6.11	3位	5.05	2位	11.15	2位
男性・計	6.00	3位	5.31	2位	11.30	2位
男性・30代以下	6.00	5位	5.56	2位	11.56	3位
男性・40～50代	5.83	5位	4.98	14位	10.81	7位
男性・60代以上	6.33	13位	5.46	4位	11.78	7位
女性・計	6.21	4位	4.78	11位	11.00	4位
女性・30代以下	6.00	16位	4.40	36位	10.40	23位
女性・40～50代	6.33	1位	5.00	3位	11.33	1位
女性・60代以上	6.42	24位	5.10	21位	11.53	25位
既婚・計	6.47	6位	5.19	6位	11.66	5位
未婚・計	5.67	3位	4.90	2位	10.57	2位
男性・既婚	6.32	16位	5.41	9位	11.72	11位
男性・未婚	5.64	1位	5.16	2位	10.80	1位
女性・既婚	6.61	6位	4.99	9位	11.60	6位
女性・未婚	5.71	6位	4.60	14位	10.31	6位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
奈良県全体	47.6	51.1	50.9	48.8	51.6	49.1	49.8	17位
男性・計	43.3	49.5	51.5	47.7	53.1	52.5	49.6	19位
男性・30代以下	38.5	54.3	54.3	56.5	58.5	56.2	53.0	15位
男性・40～50代	41.4	45.1	51.4	41.7	50.1	49.6	46.6	28位
男性・60代以上	53.8	51.9	48.2	49.7	52.1	52.4	51.4	19位
女性・計	50.0	52.2	50.2	48.9	50.4	46.5	49.7	18位
女性・30代以下	53.8	50.9	52.3	52.1	48.8	41.1	49.8	20位
女性・40～50代	51.4	56.2	51.8	52.3	55.0	52.6	53.2	13位
女性・60代以上	42.3	45.8	44.3	38.8	43.3	44.3	43.1	34位
既婚・計	48.0	50.4	51.1	47.2	53.3	50.0	50.0	16位
未婚・計	48.7	52.2	51.6	51.5	50.3	49.1	50.6	18位
男性・既婚	45.0	46.6	49.6	45.5	53.8	51.1	48.6	21位
男性・未婚	44.1	51.9	54.4	51.9	52.5	54.0	51.5	18位
女性・既婚	50.1	52.5	52.7	48.8	52.8	49.0	51.0	16位
女性・未婚	52.0	52.7	49.3	51.5	48.5	45.3	49.9	21位

人口移動指標

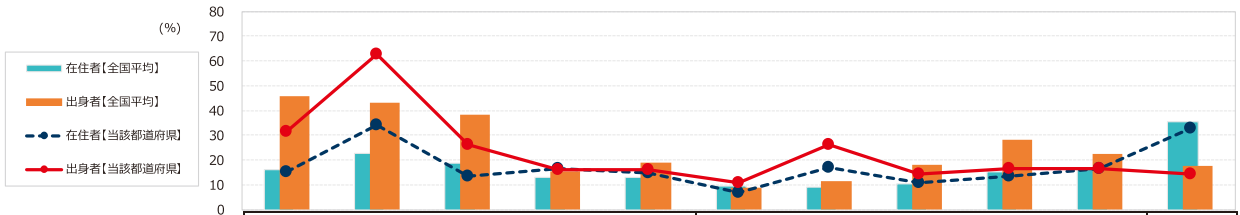
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
奈良県全体	4.44	7位	38.6	45.1	57.1	36.9	36.6	38.9	3.45	27位
男性30代以下・計	4.58	6位	42.3	53.2	56.3	43.8	42.3	39.7	3.96	22位
女性30代以下・計	4.31	6位	35.0	37.0	58.0	30.0	31.0	38.0	3.64	32位
既婚・計	4.43	2位	42.3	42.5	59.4	39.5	37.8	46.4	3.25	25位
未婚・計	4.41	9位	36.6	48.2	57.7	37.1	38.0	35.4	3.67	29位
男性・既婚	4.60	5位	47.3	50.6	59.3	57.2	50.6	53.9	3.21	33位
男性・未婚	4.51	15位	39.5	56.1	56.6	38.8	40.3	33.8	3.78	22位
女性・既婚	4.30	10位	38.3	36.2	59.6	25.5	27.7	40.4	3.27	24位
女性・未婚	4.29	13位	33.3	39.2	58.8	35.3	35.3	37.3	3.56	32位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

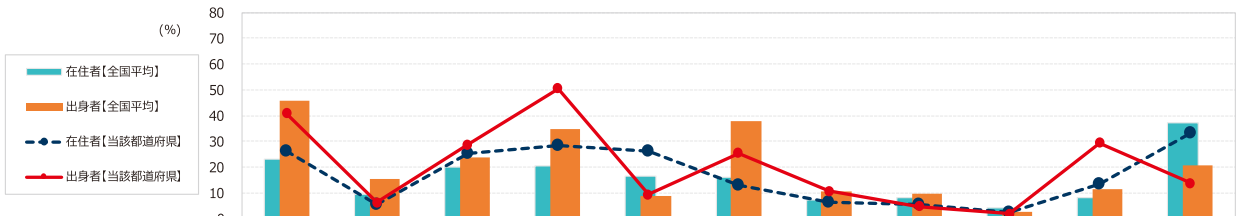


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.0	34.0	13.3	16.5	14.8	6.8	17.0	11.0	13.5	16.5	32.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	31.3	62.5	26.3	16.2	16.1	11.0	26.0	14.3	16.6	16.3	14.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	26.3	5.5	25.5	28.5	26.3	12.8	6.5	5.5	2.3	13.5	33.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	40.7	6.2	28.7	50.4	9.4	25.4	10.7	4.8	1.9	29.4	13.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



和歌山県

1人あたりの県民所得は19位。総合幸福度は6位だが、寛容性総合指標は31位。Uターン意向率は41位で、関係人口意向の二拠点生活も低い。一方、まちおこしは高い。離脱意向は20位だが、男性・30代以下は3位と高い。

総人口	92.5万人【40位】
人口増減率	-1.1%【41位】
社会増減率	-2.9%【41位】
65歳以上比率	33.1%【8位】
1人あたり県民所得	2,949千円【19位】
上記伸び率	8.3%【36位】

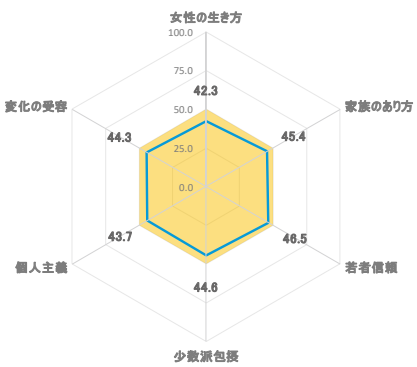
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
和歌山県全体	5.99	5位	4.87	15位	10.86	6位
男性・計	5.90	5位	4.92	23位	10.82	12位
男性・30代以下	5.95	7位	5.22	15位	11.17	7位
男性・40～50代	5.41	20位	4.50	42位	9.92	30位
男性・60代以上	6.78	1位	5.14	13位	11.92	6位
女性・計	6.08	9位	4.83	7位	10.90	8位
女性・30代以下	6.10	11位	4.80	12位	10.90	10位
女性・40～50代	5.69	21位	4.66	13位	10.35	17位
女性・60代以上	6.80	4位	5.23	12位	12.03	6位
既婚・計	6.46	7位	5.02	24位	11.48	11位
未婚・計	5.36	7位	4.67	10位	10.03	8位
男性・既婚	6.46	8位	5.15	32位	11.62	19位
男性・未婚	5.14	18位	4.65	22位	9.79	21位
女性・既婚	6.46	13位	4.90	17位	11.36	12位
女性・未婚	5.61	9位	4.68	8位	10.30	7位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
和歌山県全体	42.3	45.4	46.5	44.6	43.7	44.3	44.5	31位
男性・計	43.0	45.4	44.6	44.3	44.2	44.7	44.4	31位
男性・30代以下	41.2	32.1	40.5	40.5	38.2	37.9	38.4	46位
男性・40～50代	43.7	54.5	47.2	49.1	48.9	49.6	48.9	23位
男性・60代以上	45.9	45.5	48.5	43.2	44.8	46.0	45.7	30位
女性・計	42.3	45.8	48.2	45.4	43.3	44.1	44.8	31位
女性・30代以下	41.6	44.0	50.8	39.0	40.9	41.7	43.0	37位
女性・40～50代	40.8	45.4	48.2	45.9	43.0	45.6	44.8	31位
女性・60代以上	47.2	49.3	45.0	54.0	48.9	46.6	48.5	20位
既婚・計	43.8	47.1	47.8	45.9	42.9	45.5	45.5	30位
未婚・計	41.5	43.5	45.9	44.1	44.8	42.7	43.8	34位
男性・既婚	43.7	47.8	46.3	44.2	43.5	45.2	45.1	30位
男性・未婚	46.8	44.1	44.7	46.7	47.3	45.7	45.9	29位
女性・既婚	44.3	46.7	48.3	47.3	42.1	45.4	45.7	31位
女性・未婚	39.1	43.7	46.8	42.6	43.4	40.9	42.8	38位

人口移動指標

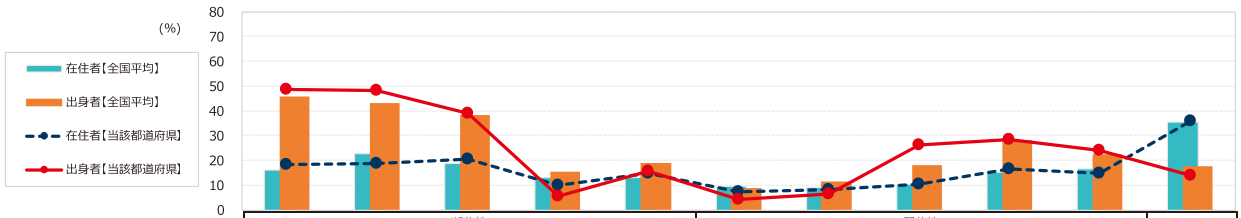
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
和歌山県全体	3.86	41位	28.2	40.7	59.6	39.6	43.0	49.9	3.52	20位
男性30代以下・計	4.10	34位	27.6	43.9	52.4	40.6	46.5	53.5	4.19	3位
女性30代以下・計	3.61	43位	28.7	37.4	66.9	38.7	39.5	46.2	3.45	39位
既婚・計	3.80	36位	22.9	49.1	56.0	46.7	41.8	58.5	3.25	25位
未婚・計	3.92	39位	34.1	34.5	65.4	34.6	45.8	43.9	3.89	11位
男性・既婚	4.11	27位	21.3	57.4	42.6	63.9	50.0	78.7	3.34	16位
男性・未婚	4.09	34位	32.9	32.9	60.4	21.4	43.6	32.9	3.99	10位
女性・既婚	3.51	40位	24.3	41.5	68.3	30.9	34.2	39.8	3.16	30位
女性・未婚	3.73	42位	35.6	36.4	71.2	50.1	48.3	56.8	3.79	16位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

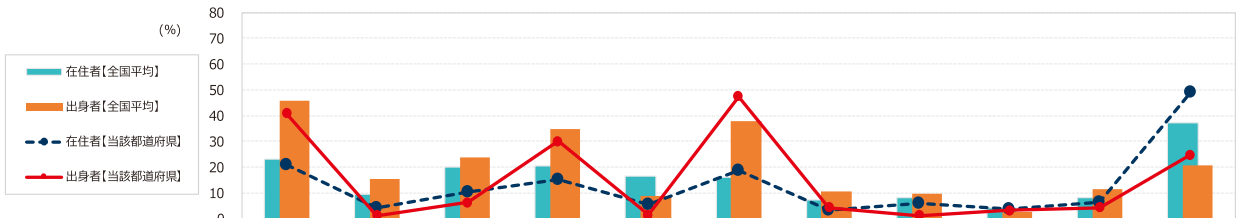


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.3	18.8	20.3	9.8	14.8	7.3	8.0	10.5	16.5	14.8	36.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.5	48.2	39.0	5.3	15.8	4.3	6.3	26.0	28.3	23.8	13.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.8	4.0	10.5	15.0	5.5	18.5	3.5	5.8	3.8	6.5	49.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	40.8	1.2	6.2	30.0	1.5	47.5	4.3	1.2	3.3	4.3	24.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



鳥取県

1人あたりの県民所得は45位。総合幸福度は27位で、女性・既婚層が4位と高水準。寛容性総合指標は29位。Uターン意向率は43位。関係人口意向はふるさと納税が高い一方、その他は低い。離脱意向は34位。

総人口	55.6万人【47位】
人口増減率	-0.7%【29位】
社会増減率	-2.2%【34位】
65歳以上比率	32.1%【16位】
1人あたり県民所得	2,407千円【45位】
上記伸び率	14.4%【18位】

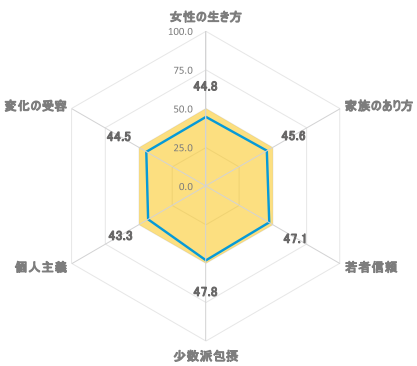
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
鳥取県全体	5.71	33位	4.82	19位	10.53	27位
男性・計	5.53	37位	4.95	22位	10.48	27位
男性・30代以下	5.69	23位	5.13	19位	10.82	22位
男性・40～50代	5.21	37位	4.87	19位	10.08	25位
男性・60代以上	5.83	33位	4.78	32位	10.60	34位
女性・計	5.88	22位	4.69	20位	10.58	22位
女性・30代以下	5.44	44位	4.16	44位	9.60	45位
女性・40～50代	6.03	6位	4.79	8位	10.81	7位
女性・60代以上	6.50	20位	5.57	3位	12.07	4位
既婚・計	6.16	42位	5.14	9位	11.30	23位
未婚・計	5.13	23位	4.44	27位	9.56	28位
男性・既婚	5.83	47位	5.05	41位	10.88	45位
男性・未婚	5.20	12位	4.93	7位	10.13	12位
女性・既婚	6.44	14位	5.22	2位	11.66	4位
女性・未婚	5.03	36位	3.82	43位	8.84	43位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
鳥取県全体	44.8	45.6	47.1	47.8	43.3	44.5	45.5	29位
男性・計	46.1	45.1	46.5	46.9	42.1	43.5	45.0	30位
男性・30代以下	47.5	48.3	44.6	54.7	44.8	46.2	47.7	26位
男性・40～50代	46.5	42.0	45.6	40.4	39.9	43.2	42.9	36位
男性・60代以上	45.9	48.8	52.0	50.4	44.7	44.3	47.7	24位
女性・計	43.9	45.9	47.9	49.1	44.3	45.2	46.0	27位
女性・30代以下	36.4	42.1	48.2	42.5	39.7	40.1	41.5	41位
女性・40～50代	49.7	49.6	49.9	53.9	49.5	51.0	50.6	18位
女性・60代以上	46.2	44.9	44.6	48.1	42.2	42.9	44.8	32位
既婚・計	46.3	46.3	48.6	48.2	44.5	45.8	46.6	28位
未婚・計	41.6	44.0	45.4	47.7	40.1	41.8	43.4	35位
男性・既婚	47.4	45.5	45.6	43.3	42.6	44.9	44.9	31位
男性・未婚	42.7	44.7	47.9	50.0	41.2	40.8	44.5	34位
女性・既婚	45.9	46.9	50.8	51.4	46.0	46.6	47.9	22位
女性・未婚	41.3	43.5	43.1	45.7	39.7	43.5	42.8	37位

人口移動指標

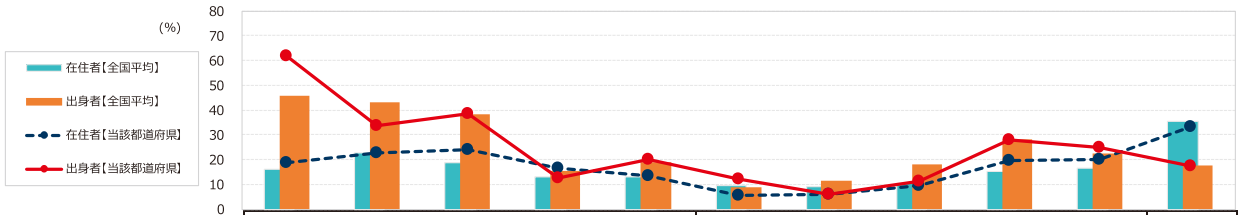
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
鳥取県全体	3.72	43位	24.9	35.2	72.1	30.8	25.8	36.8	3.36	34位
男性30代以下・計	3.63	43位	25.5	35.8	76.6	36.1	23.4	33.4	3.77	34位
女性30代以下・計	3.81	38位	24.2	34.6	67.5	25.5	28.1	40.2	3.73	26位
既婚・計	3.46	43位	25.4	33.7	68.7	23.6	20.7	28.9	3.20	29位
未婚・計	3.86	43位	26.5	37.7	75.5	37.1	30.1	44.2	3.49	42位
男性・既婚	3.57	39位	28.7	29.3	70.1	35.3	24.0	35.3	3.32	17位
男性・未婚	3.69	43位	23.0	40.8	81.7	36.6	23.0	31.9	3.45	43位
女性・既婚	3.34	43位	21.6	38.6	67.1	10.2	17.1	21.6	3.09	37位
女性・未婚	4.04	27位	30.3	34.4	68.8	37.7	37.7	57.3	3.54	35位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

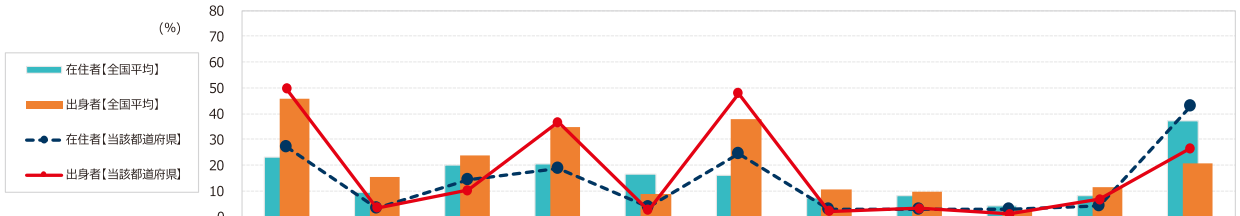


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.5	22.8	23.8	16.5	13.3	5.3	6.0	9.3	19.5	20.0	33.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	62.0	33.8	38.7	12.7	19.9	12.1	6.1	11.2	28.1	25.0	17.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	27.0	3.5	14.3	18.8	3.8	24.5	3.0	2.8	2.8	4.3	43.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.7	3.4	10.2	36.6	2.6	47.9	2.2	3.3	0.9	6.8	26.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



島根県

1人あたりの県民所得は34位で、総合幸福度は23位。寛容性総合指標は47位で、個人主義が特に低い。Uターン意向率は13位で、関係人口意向は事業創出とボランティアが高め。離脱意向は37位。

総人口	67.4万人【46位】
人口増減率	-0.9%【35位】
社会増減率	-1.2%【26位】
65歳以上比率	34.3%【3位】
1人あたり県民所得	2,619千円【34位】
上記伸び率	12.2%【21位】

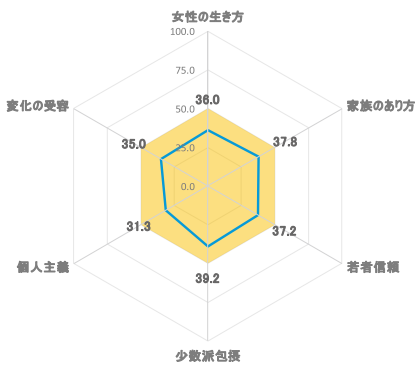
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
島根県全体	5.86	8位	4.71	31位	10.57	23位
男性・計	5.75	13位	4.71	40位	10.47	29位
男性・30代以下	6.16	3位	5.05	25位	11.21	6位
男性・40～50代	5.36	24位	4.42	43位	9.78	42位
男性・60代以上	5.70	41位	4.63	41位	10.33	41位
女性・計	5.97	15位	4.70	16位	10.68	15位
女性・30代以下	6.15	8位	4.61	22位	10.76	14位
女性・40～50代	5.53	33位	4.43	24位	9.96	30位
女性・60代以上	6.53	18位	5.43	6位	11.96	8位
既婚・計	6.31	19位	5.10	13位	11.40	16位
未婚・計	5.26	12位	4.18	44位	9.44	35位
男性・既婚	6.26	22位	5.26	20位	11.52	24位
男性・未婚	5.16	15位	4.08	46位	9.24	36位
女性・既婚	6.34	21位	4.97	12位	11.31	15位
女性・未婚	5.40	15位	4.30	28位	9.70	23位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
島根県全体	36.0	37.8	37.2	39.2	31.3	35.0	36.1	47位
男性・計	31.9	35.2	33.3	38.0	29.2	30.6	33.0	47位
男性・30代以下	33.6	40.1	45.8	56.0	29.7	28.3	38.9	45位
男性・40～50代	28.7	33.2	27.9	29.2	27.0	33.2	29.9	47位
男性・60代以上	41.6	37.6	37.6	39.3	37.7	37.0	38.5	44位
女性・計	39.3	39.3	41.2	39.6	33.1	39.0	38.6	45位
女性・30代以下	43.4	41.4	50.4	43.8	36.9	46.5	43.8	35位
女性・40～50代	37.6	37.4	38.9	38.3	29.6	33.9	36.0	46位
女性・60代以上	39.4	41.9	33.9	41.1	38.1	40.1	39.1	44位
既婚・計	39.5	40.1	40.9	40.0	34.7	37.8	38.8	44位
未婚・計	32.1	35.3	35.4	38.9	28.5	34.1	34.1	47位
男性・既婚	38.6	40.1	41.5	38.1	38.7	36.2	38.9	44位
男性・未婚	26.6	32.1	30.6	41.2	22.8	28.9	30.4	47位
女性・既婚	41.2	40.8	41.5	42.0	33.4	39.7	39.8	41位
女性・未婚	36.8	38.3	41.5	37.2	35.4	39.5	38.1	45位

人口移動指標

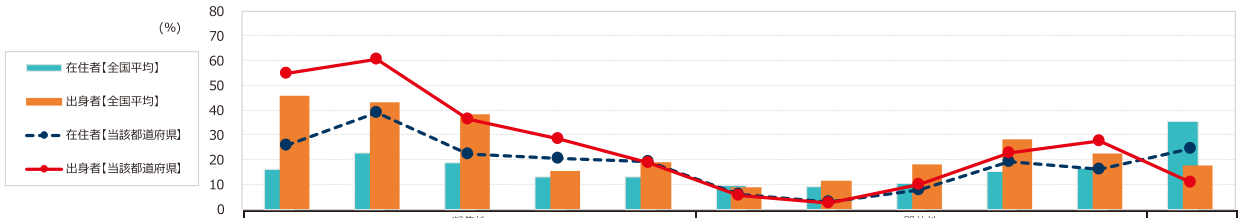
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
島根県全体	4.26	13位	30.9	39.9	56.4	43.5	43.9	45.5	3.31	37位
男性30代以下・計	4.30	21位	33.8	40.1	43.0	46.0	40.1	46.0	3.54	44位
女性30代以下・計	4.22	12位	28.0	39.8	69.9	41.1	47.7	45.0	3.19	47位
既婚・計	4.29	11位	33.4	38.7	69.8	49.7	40.5	46.1	3.16	34位
未婚・計	4.24	21位	28.5	43.0	47.3	39.2	47.4	45.8	3.55	40位
男性・既婚	4.41	8位	47.2	47.2	54.7	54.7	39.6	54.7	2.85	46位
男性・未婚	4.29	24位	26.6	37.3	37.3	42.4	42.4	42.4	3.39	44位
女性・既婚	4.20	15位	22.0	31.6	82.4	45.6	41.2	38.9	3.42	12位
女性・未婚	4.18	19位	30.9	50.0	59.6	35.3	53.7	50.0	3.77	17位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

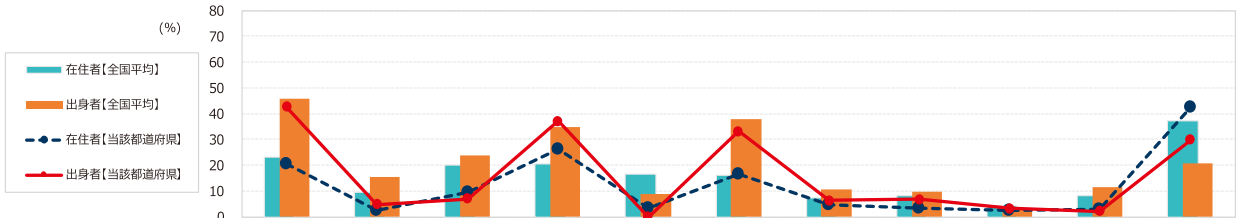


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.8	38.8	22.0	20.5	19.3	5.8	2.8	7.5	19.0	16.0	24.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	54.8	60.5	36.3	28.5	18.5	5.3	2.6	10.0	22.6	27.6	11.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.5	2.5	9.3	26.0	3.3	16.5	4.8	3.5	2.3	2.8	42.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	42.6	4.7	7.0	37.1	—	33.2	6.2	6.8	3.1	2.2	29.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



岡山県

1人あたりの県民所得は32位。総合幸福度は29位だが、女性40～50代は6位と高い。寛容性総合指標は23位。Uターン意向率は19位で、関係人口意向は低め。離脱意向は40位。

総人口	189.0万人【20位】
人口増減率	-0.4%【13位】
社会増減率	-0.2%【16位】
65歳以上比率	30.3%【26位】
1人あたり県民所得	2,732千円【32位】
上記伸び率	11.6%【24位】

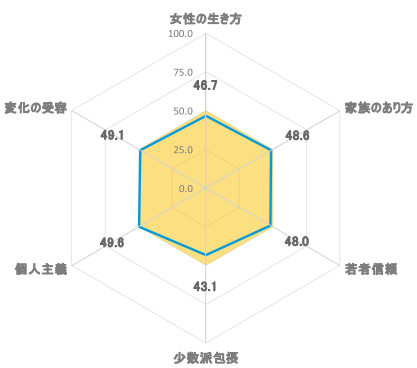
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
岡山県全体	5.72	30位	4.78	24位	10.50	29位
男性・計	5.62	24位	4.76	36位	10.38	33位
男性・30代以下	5.31	43位	5.07	23位	10.38	38位
男性・40～50代	5.70	8位	4.53	40位	10.23	22位
男性・60代以上	6.10	22位	4.59	43位	10.69	33位
女性・計	5.82	28位	4.80	9位	10.61	18位
女性・30代以下	5.59	34位	4.46	31位	10.05	34位
女性・40～50代	5.79	15位	5.11	1位	10.90	6位
女性・60代以上	6.33	35位	4.84	39位	11.17	40位
既婚・計	6.39	12位	5.18	8位	11.57	7位
未婚・計	4.90	42位	4.25	42位	9.15	42位
男性・既婚	6.53	5位	5.22	24位	11.75	10位
男性・未婚	4.62	44位	4.26	43位	8.88	46位
女性・既婚	6.28	27位	5.14	5位	11.42	10位
女性・未婚	5.24	20位	4.23	33位	9.47	27位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
岡山県全体	46.7	48.6	48.0	43.1	49.6	49.1	47.5	23位
男性・計	41.7	49.7	46.7	43.3	48.2	49.7	46.5	28位
男性・30代以下	45.8	53.1	47.6	48.2	54.9	53.6	50.6	20位
男性・40～50代	42.3	49.6	47.1	44.4	44.9	47.6	46.0	30位
男性・60代以上	40.2	46.6	46.4	40.0	46.9	48.4	44.7	33位
女性・計	50.0	47.8	48.7	43.1	50.4	48.8	48.2	20位
女性・30代以下	53.3	49.9	59.6	48.0	54.3	54.2	53.2	14位
女性・40～50代	52.5	49.6	46.7	46.8	52.5	48.4	49.4	21位
女性・60代以上	41.1	41.9	37.4	32.8	40.4	41.3	39.2	43位
既婚・計	47.6	49.0	49.3	45.6	50.9	50.5	48.8	20位
未婚・計	45.8	46.9	46.8	40.3	48.0	47.9	46.0	29位
男性・既婚	41.0	51.3	51.1	46.4	49.2	51.1	48.3	23位
男性・未婚	44.1	47.2	44.3	39.1	48.4	47.6	45.1	32位
女性・既婚	52.6	48.1	48.6	44.9	52.2	49.8	49.4	17位
女性・未婚	46.7	46.5	49.6	42.3	48.0	47.7	46.8	28位

人口移動指標

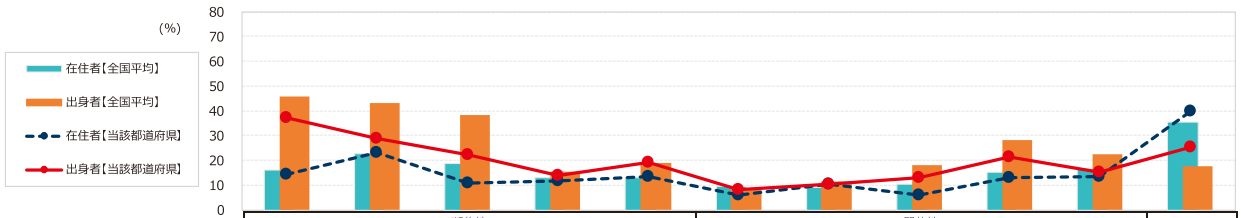
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
岡山県全体	4.17	19位	26.5	37.2	57.3	32.2	33.5	33.9	3.29	40位
男性30代以下・計	4.35	17位	28.7	40.7	47.2	37.2	29.0	30.7	3.64	40位
女性30代以下・計	4.00	28位	24.3	33.7	67.3	27.3	38.0	37.2	3.51	37位
既婚・計	4.10	20位	22.6	36.3	65.1	36.2	42.2	46.0	3.16	34位
未婚・計	4.18	28位	29.1	37.2	54.2	30.9	28.8	26.8	3.48	43位
男性・既婚	4.30	19位	18.7	36.3	53.8	40.4	37.5	43.3	2.87	45位
男性・未婚	4.32	21位	34.8	42.6	47.3	38.4	26.2	25.5	3.70	29位
女性・既婚	3.94	23位	25.7	36.3	74.3	32.8	46.0	48.3	3.42	12位
女性・未婚	4.04	27位	23.2	31.5	61.6	22.8	31.5	28.3	3.20	47位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

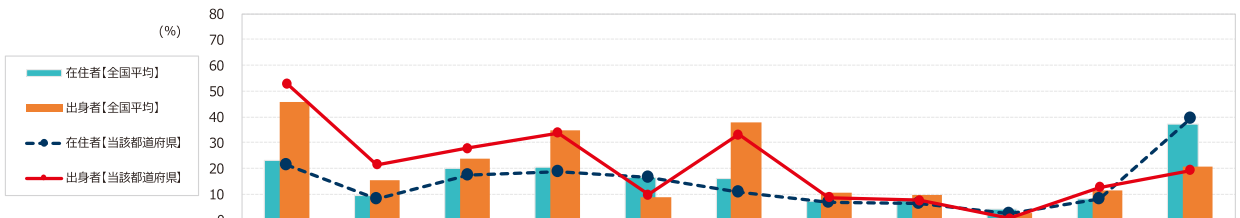


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.5	23.0	11.0	11.8	13.3	6.0	10.5	6.0	13.0	13.5	40.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	37.2	28.9	22.2	13.8	19.3	8.0	10.4	12.8	21.2	15.1	25.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	21.5	8.3	17.5	18.8	16.3	10.8	7.0	6.5	2.5	8.0	39.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.8	21.4	27.8	33.7	9.9	33.1	8.6	7.7	0.5	12.7	19.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



広島県

1人あたりの県民所得は12位。総合幸福度は37位の一方、寛容性総合指標は10位と高め。Uターン意向率は26位で、関係人口意向は全国平均程度。離脱意向は35位。

総人口	280.4万人【12位】
人口増減率	-0.5%【16位】
社会増減率	-0.8%【21位】
65歳以上比率	29.3%【34位】
1人あたり県民所得	3,068千円【12位】
上記伸び率	11.2%【27位】

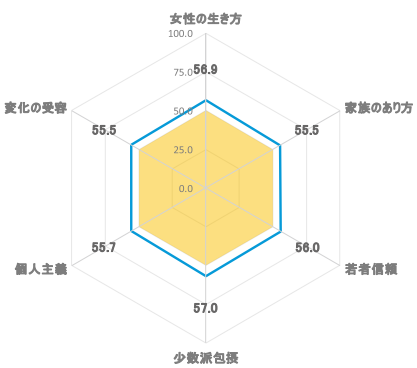
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
広島県全体	5.72	30位	4.66	39位	10.38	37位
男性・計	5.59	30位	4.81	34位	10.40	32位
男性・30代以下	5.74	17位	5.24	11位	10.98	15位
男性・40～50代	5.09	43位	4.27	45位	9.35	45位
男性・60代以上	6.30	15位	5.03	21位	11.32	14位
女性・計	5.84	26位	4.52	35位	10.37	31位
女性・30代以下	5.47	42位	4.40	36位	9.88	42位
女性・40～50代	5.97	8位	4.40	27位	10.38	14位
女性・60代以上	6.33	35位	4.99	29位	11.32	36位
既婚・計	6.25	30位	4.85	42位	11.10	40位
未婚・計	5.04	32位	4.43	29位	9.47	31位
男性・既婚	6.24	27位	4.98	42位	11.22	38位
男性・未婚	4.92	33位	4.65	22位	9.58	28位
女性・既婚	6.26	31位	4.74	31位	11.00	33位
女性・未婚	5.18	29位	4.16	39位	9.35	32位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
広島県全体	56.9	55.5	56.0	57.0	55.7	55.5	56.1	10位
男性・計	56.0	55.3	51.9	56.7	55.8	54.8	55.1	12位
男性・30代以下	61.0	58.1	60.5	65.9	60.5	55.1	60.2	7位
男性・40～50代	51.4	55.3	46.2	46.9	53.4	51.8	50.8	19位
男性・60代以上	57.0	51.3	49.6	59.7	52.4	58.3	54.7	13位
女性・計	57.0	55.5	59.3	57.1	55.5	55.5	56.7	10位
女性・30代以下	65.8	59.7	62.5	66.4	61.1	59.7	62.5	6位
女性・40～50代	55.1	55.2	60.8	52.6	54.1	52.4	55.1	12位
女性・60代以上	46.7	48.7	47.3	51.0	48.3	52.7	49.1	19位
既婚・計	56.8	57.4	56.6	56.9	55.8	54.9	56.4	11位
未婚・計	56.9	52.6	55.7	56.6	55.8	56.0	55.6	12位
男性・既婚	56.1	58.1	52.4	55.8	56.3	53.3	55.3	10位
男性・未婚	55.5	51.8	51.9	56.9	54.8	56.4	54.5	13位
女性・既婚	56.8	57.1	59.4	57.4	55.2	55.7	56.9	11位
女性・未婚	57.2	53.1	57.6	55.9	55.9	55.2	55.8	10位

人口移動指標

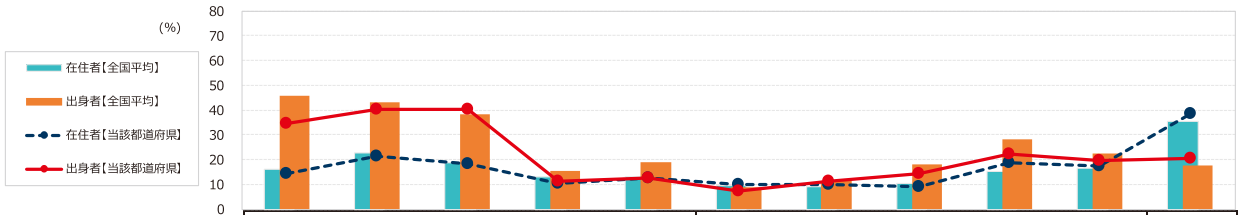
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
広島県全体	4.12	26位	32.0	44.0	55.7	36.5	37.2	42.7	3.33	35位
男性30代以下・計	4.19	28位	32.6	43.3	55.3	40.3	37.8	43.6	3.89	27位
女性30代以下・計	4.05	21位	31.4	44.7	56.2	32.6	36.7	41.8	3.85	14位
既婚・計	4.00	25位	26.8	36.6	65.7	31.4	36.8	39.6	3.08	40位
未婚・計	4.24	21位	36.7	50.9	53.2	41.3	38.3	46.7	3.68	28位
男性・既婚	4.17	25位	28.6	37.3	64.7	37.6	40.3	40.3	3.24	26位
男性・未婚	4.25	29位	36.9	49.4	52.1	44.1	38.1	47.9	3.84	19位
女性・既婚	3.84	28位	24.9	36.0	66.7	25.1	33.2	38.9	2.95	44位
女性・未婚	4.24	16位	36.6	52.5	54.3	38.5	38.5	45.5	3.51	36位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

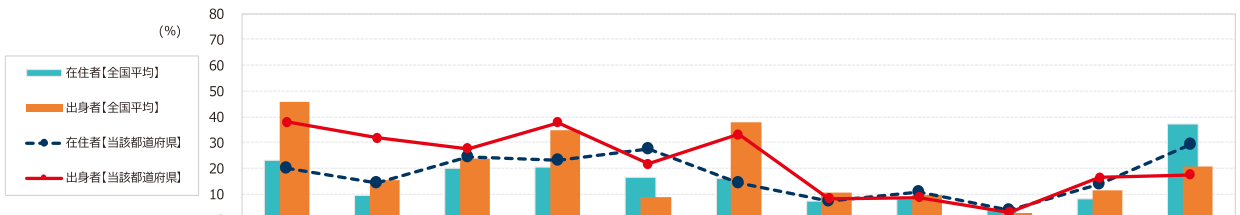


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.3	21.5	18.3	10.5	12.5	9.8	9.8	9.0	18.8	17.5	38.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	34.5	40.2	40.1	11.1	12.5	7.2	11.4	14.2	22.4	19.4	20.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	20.0	14.5	24.3	23.0	27.3	14.5	7.3	10.8	3.8	14.0	29.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	38.0	31.8	27.7	37.7	21.7	33.0	8.2	8.6	3.0	16.3	17.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



山口県

1人あたりの県民所得は14位。総合幸福度は20位で、女性・60代以上が3位と高い。寛容性総合指標は21位。Uターン意向率は23位で、関係人口意向は二拠点生活が低め。離脱意向は17位。

総人口	135.8万人【27位】
人口増減率	-0.9%【35位】
社会増減率	-1.5%【29位】
65歳以上比率	34.3%【3位】
1人あたり県民所得	3,048千円【14位】
上記伸び率	17.0%【11位】

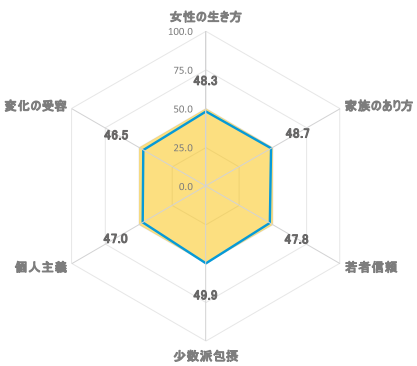
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
山口県全体	5.77	22位	4.83	18位	10.61	20位
男性・計	5.60	29位	5.06	11位	10.66	20位
男性・30代以下	5.53	35位	5.05	25位	10.58	30位
男性・40～50代	5.28	30位	5.04	9位	10.31	19位
男性・60代以上	6.40	9位	5.11	15位	11.51	11位
女性・計	5.95	19位	4.61	28位	10.56	24位
女性・30代以下	6.06	13位	4.58	24位	10.64	17位
女性・40～50代	5.26	41位	4.33	33位	9.59	39位
女性・60代以上	7.08	1位	5.24	11位	12.32	3位
既婚・計	6.35	16位	5.06	18位	11.41	15位
未婚・計	4.91	39位	4.55	21位	9.46	33位
男性・既婚	6.25	24位	5.30	17位	11.55	23位
男性・未婚	4.92	33位	4.83	13位	9.74	23位
女性・既婚	6.44	14位	4.85	18位	11.30	17位
女性・未婚	4.89	41位	4.19	36位	9.08	40位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
山口県全体	48.3	48.7	47.8	49.9	47.0	46.5	48.0	21位
男性・計	50.7	47.2	51.5	50.7	47.4	46.0	48.9	20位
男性・30代以下	55.6	49.9	56.3	51.9	49.8	43.8	51.2	18位
男性・40～50代	50.0	46.2	53.2	50.2	47.3	46.6	48.9	22位
男性・60代以上	46.9	45.4	44.1	50.4	45.5	48.6	46.8	26位
女性・計	47.5	49.9	44.7	49.2	46.7	47.1	47.5	23位
女性・30代以下	46.8	52.8	51.1	55.9	48.9	46.6	50.4	18位
女性・40～50代	51.0	51.5	42.7	47.8	48.5	51.3	48.8	22位
女性・60代以上	42.3	43.5	40.2	43.5	41.0	40.5	41.8	38位
既婚・計	48.7	49.0	46.9	50.6	47.8	46.4	48.2	22位
未婚・計	49.5	49.0	49.6	48.5	46.7	47.3	48.4	23位
男性・既婚	50.6	47.6	50.1	51.4	47.9	44.3	48.7	20位
男性・未婚	50.8	47.2	53.2	48.8	47.7	48.3	49.3	22位
女性・既婚	47.5	50.3	45.0	49.8	48.2	48.3	48.2	21位
女性・未婚	47.7	50.1	45.6	48.5	45.5	46.8	47.4	27位

人口移動指標

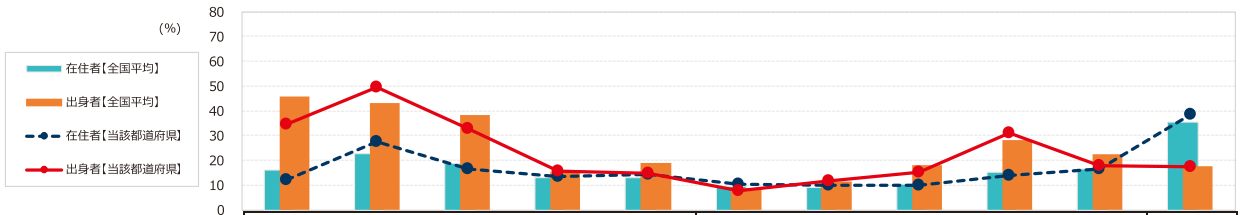
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
山口県全体	4.15	23位	26.8	41.5	57.1	36.8	36.9	41.5	3.54	17位
男性30代以下・計	4.45	14位	30.5	48.6	61.7	43.2	40.5	47.0	3.96	22位
女性30代以下・計	3.85	37位	23.0	34.4	52.6	30.4	33.3	35.9	3.85	14位
既婚・計	3.86	32位	25.7	33.9	58.6	31.3	25.3	37.0	3.35	16位
未婚・計	4.32	18位	27.8	48.7	57.9	40.5	45.5	44.6	3.85	14位
男性・既婚	4.21	22位	39.4	39.4	60.6	39.4	25.8	39.4	3.25	24位
男性・未婚	4.56	13位	26.8	55.4	64.6	46.9	49.9	53.0	3.73	26位
女性・既婚	3.58	39位	15.0	29.5	57.0	24.9	24.9	35.1	3.44	10位
女性・未婚	4.03	29位	29.1	40.6	50.0	32.8	40.2	34.7	4.00	6位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

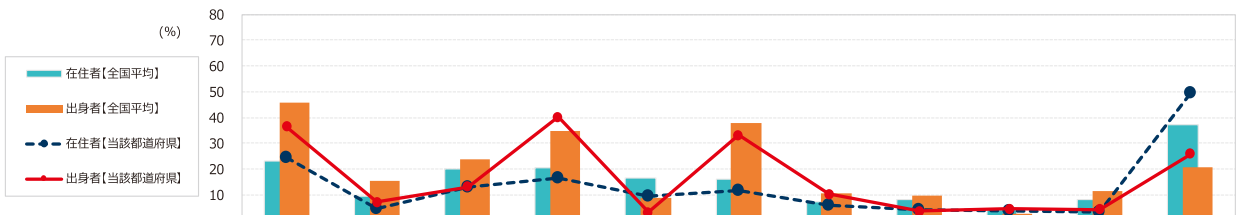


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	12.3	27.5	16.5	13.5	14.5	10.5	10.0	10.0	14.0	16.3	38.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	34.5	49.7	32.6	15.5	14.7	7.6	11.6	15.0	31.2	17.7	17.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.3	4.5	13.0	16.3	9.3	11.5	6.0	4.0	3.8	3.3	49.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	36.3	7.2	13.1	40.1	3.1	33.1	10.2	3.7	4.5	4.2	25.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



徳島県

1人あたりの県民所得は17位だが、総合幸福度は43位。寛容性総合指標も41位にとどまり、特に、少数派包摂が低い。Uターン意向率は36位で、関係人口意向はふるさと納税が低め。離脱意向は5位と高水準。

総人口	72.8万人【44位】
人口増減率	-1.1%【42位】
社会増減率	-3.5%【44位】
65歳以上比率	33.6%【5位】
1人あたり県民所得	2,973千円【17位】
上記伸び率	16.7%【13位】

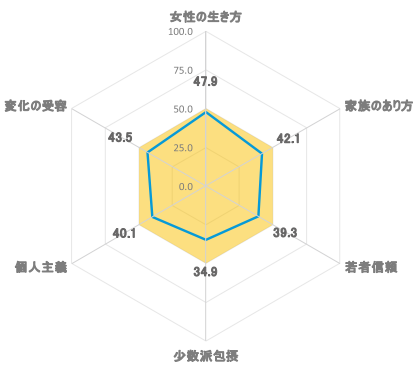
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
徳島県全体	5.54	44位	4.64	40位	10.18	43位
男性・計	5.54	35位	4.83	32位	10.36	35位
男性・30代以下	5.64	27位	4.91	34位	10.55	33位
男性・40～50代	5.30	28位	4.82	24位	10.12	24位
男性・60代以上	5.83	33位	4.66	39位	10.48	37位
女性・計	5.54	45位	4.46	39位	10.00	44位
女性・30代以下	5.61	32位	4.47	29位	10.08	33位
女性・40～50代	5.06	45位	4.12	42位	9.18	45位
女性・60代以上	6.33	35位	5.13	17位	11.45	29位
既婚・計	6.10	43位	4.96	30位	11.07	41位
未婚・計	4.93	38位	4.34	36位	9.27	39位
男性・既婚	6.15	35位	5.13	35位	11.28	36位
男性・未婚	4.84	37位	4.56	28位	9.40	32位
女性・既婚	6.05	41位	4.80	25位	10.85	41位
女性・未婚	5.03	36位	4.12	40位	9.14	38位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
徳島県全体	47.9	42.1	39.3	34.9	40.1	43.5	41.3	41位
男性・計	50.1	42.7	39.2	31.0	41.9	46.0	41.8	38位
男性・30代以下	49.9	42.9	37.1	28.3	40.7	49.7	41.4	38位
男性・40～50代	52.1	48.9	47.7	36.4	44.1	49.6	46.5	29位
男性・60代以上	47.6	34.7	32.8	34.7	39.8	37.3	37.8	45位
女性・計	46.4	41.7	39.5	37.7	39.5	41.8	41.1	39位
女性・30代以下	52.3	44.8	42.3	43.8	39.3	42.8	44.2	34位
女性・40～50代	43.4	41.7	41.3	36.5	39.9	41.4	40.7	40位
女性・60代以上	44.4	39.3	35.4	37.2	42.0	42.2	40.1	41位
既婚・計	48.7	42.1	41.0	35.9	41.3	43.2	42.0	38位
未婚・計	47.9	44.0	38.1	35.8	40.9	44.7	41.9	41位
男性・既婚	52.3	40.8	40.2	32.2	41.5	45.8	42.1	40位
男性・未婚	46.8	45.0	36.7	33.0	41.4	46.9	41.6	41位
女性・既婚	45.6	42.2	41.8	39.8	40.5	40.8	41.8	37位
女性・未婚	49.4	44.4	41.2	39.4	42.0	44.3	43.5	35位

人口移動指標

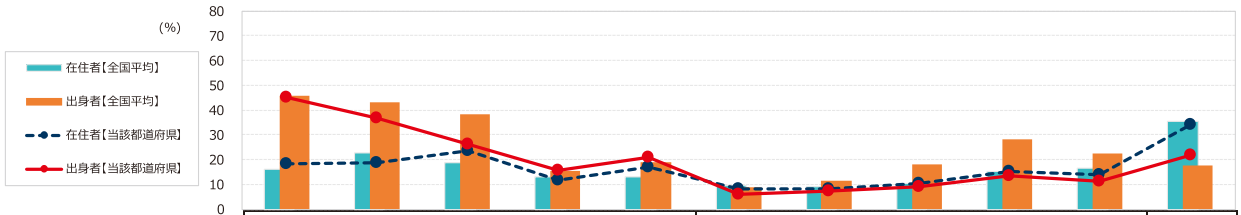
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
徳島県全体	4.04	36位	31.7	42.0	51.0	39.1	33.5	44.7	3.69	5位
男性30代以下・計	4.31	20位	43.6	39.4	48.5	43.2	21.6	52.7	4.17	6位
女性30代以下・計	3.76	40位	19.8	44.6	53.5	34.9	45.5	36.8	4.10	3位
既婚・計	4.22	15位	38.3	50.2	45.9	30.5	28.2	33.5	3.39	11位
未婚・計	3.88	41位	28.6	38.3	59.4	45.5	38.6	53.8	4.09	2位
男性・既婚	4.34	14位	50.7	50.7	42.5	32.8	24.6	41.8	3.35	15位
男性・未婚	4.21	31位	39.5	30.3	59.7	49.6	20.2	60.5	4.17	2位
女性・既婚	4.05	20位	21.5	49.6	50.4	27.3	33.0	22.3	3.44	10位
女性・未婚	3.62	43位	20.1	44.5	59.2	42.3	52.9	48.6	4.00	6位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

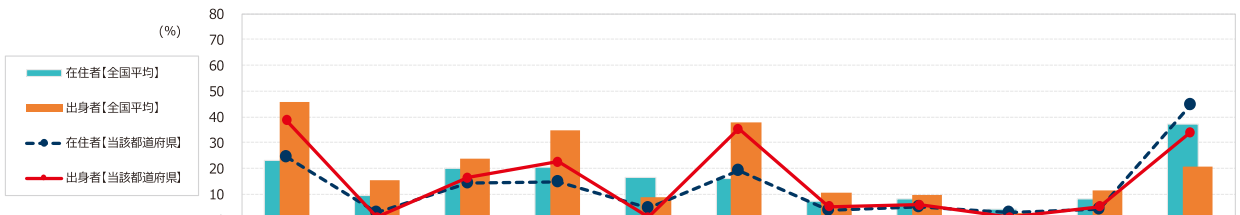


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.3	18.8	23.5	11.5	16.8	8.0	8.0	10.5	15.0	13.8	34.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	45.2	36.6	26.3	15.8	20.9	6.1	7.3	9.0	13.3	11.4	21.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	24.3	3.0	14.5	14.8	4.8	19.0	3.8	5.0	3.0	4.3	44.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	38.7	0.9	16.3	22.5	0.9	35.4	5.2	5.9	0.9	5.2	33.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



香川県

1人あたりの県民所得は20位。総合幸福度、寛容性総合指標はともに30位。総合幸福度は男性が8位と高水準。Uターン意向率は37位で、関係人口意向は二拠点生活、ふるさと納税が低い。離脱意向は40位。

総人口	95.6万人【39位】
人口増減率	-0.6%【24位】
社会増減率	-0.3%【17位】
65歳以上比率	31.8%【20位】
1人あたり県民所得	2,945千円【20位】
上記伸び率	11.5%【26位】

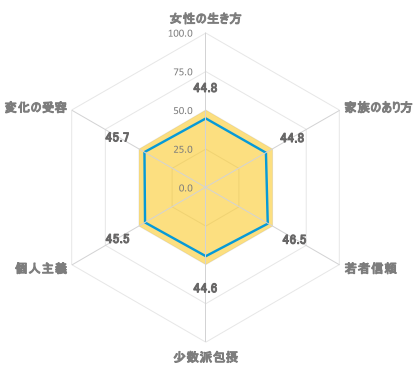
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
香川県全体	5.80	15位	4.68	36位	10.49	30位
男性・計	5.85	8位	5.08	10位	10.93	8位
男性・30代以下	5.85	12位	5.15	18位	11.00	14位
男性・40～50代	5.74	7位	5.01	11位	10.75	8位
男性・60代以上	6.08	23位	5.07	17位	11.14	20位
女性・計	5.76	33位	4.28	47位	10.04	42位
女性・30代以下	5.45	43位	3.99	46位	9.44	46位
女性・40～50代	5.78	16位	4.34	31位	10.12	24位
女性・60代以上	6.35	34位	4.75	41位	11.10	42位
既婚・計	6.30	21位	5.03	21位	11.33	21位
未婚・計	4.99	35位	4.09	46位	9.08	44位
男性・既婚	6.28	18位	5.37	14位	11.65	16位
男性・未婚	5.09	22位	4.59	27位	9.68	25位
女性・既婚	6.32	22位	4.68	39位	11.00	33位
女性・未婚	4.89	41位	3.67	46位	8.56	45位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
香川県全体	44.8	44.8	46.5	44.6	45.5	45.7	45.3	30位
男性・計	45.4	45.1	50.5	46.7	48.2	48.1	47.3	25位
男性・30代以下	49.6	47.3	56.8	50.1	52.4	52.7	51.5	17位
男性・40～50代	48.4	45.7	46.2	47.9	48.4	49.5	47.7	26位
男性・60代以上	38.9	42.7	50.5	42.5	42.2	39.6	42.7	36位
女性・計	44.5	44.4	43.2	43.3	44.0	44.1	43.9	36位
女性・30代以下	38.3	42.7	33.6	37.1	38.5	41.8	38.7	45位
女性・40～50代	48.6	45.7	49.8	46.8	47.3	45.0	47.2	29位
女性・60代以上	47.4	46.3	49.9	47.3	47.2	48.2	47.7	24位
既婚・計	48.0	45.9	49.9	48.5	45.0	45.5	47.1	26位
未婚・計	39.2	42.5	38.8	39.1	46.9	47.0	42.3	39位
男性・既婚	48.0	44.8	50.5	50.1	46.1	48.2	48.0	24位
男性・未婚	40.9	46.2	46.2	42.4	50.7	50.2	46.1	28位
女性・既婚	47.6	45.8	48.7	46.9	43.2	42.8	45.8	29位
女性・未婚	41.0	42.9	36.8	39.0	46.0	46.4	42.0	40位

人口移動指標

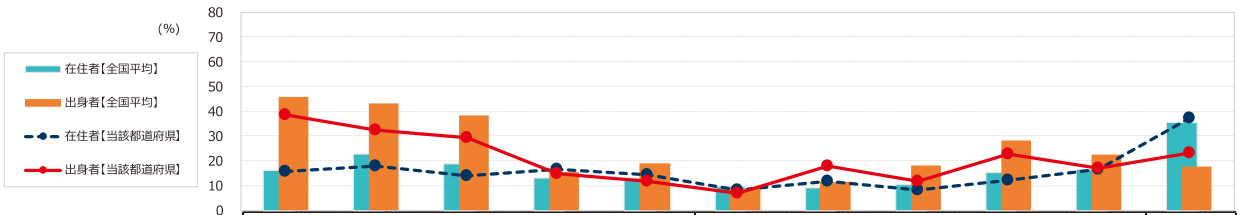
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
香川県全体	3.99	37位	23.7	40.9	54.2	39.9	33.1	40.5	3.29	40位
男性30代以下・計	4.01	36位	22.0	34.7	43.2	40.6	29.5	37.9	3.74	36位
女性30代以下・計	3.97	30位	25.5	47.0	65.3	39.3	36.8	43.0	3.27	45位
既婚・計	4.20	16位	25.8	51.1	67.0	38.4	37.2	42.2	3.00	44位
未婚・計	3.87	42位	23.5	35.0	46.0	41.6	32.4	42.5	3.71	24位
男性・既婚	4.21	22位	33.5	52.9	63.9	46.0	37.7	46.0	2.94	43位
男性・未婚	3.85	41位	14.5	21.7	27.9	38.2	26.0	36.2	4.03	7位
女性・既婚	4.19	16位	18.7	49.4	69.9	31.3	36.7	38.6	3.05	41位
女性・未婚	3.89	36位	31.7	47.3	62.5	44.6	38.4	48.2	3.43	41位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

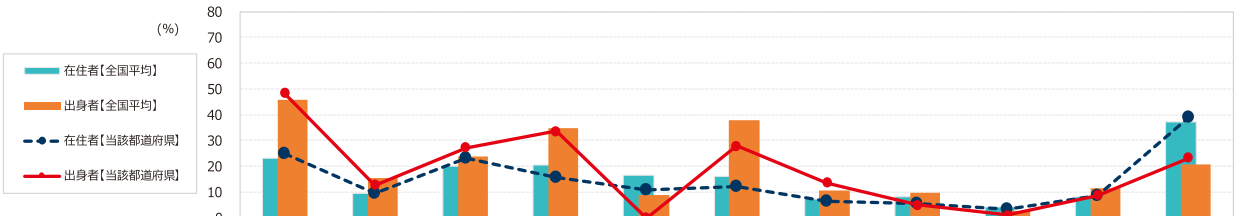


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	15.8	18.0	14.0	16.5	14.3	8.3	11.5	8.0	12.3	16.5	37.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	38.5	32.5	29.2	14.7	11.5	6.7	18.0	11.8	22.7	17.0	23.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.0	9.3	23.3	15.8	11.0	12.3	6.3	5.3	3.5	8.5	38.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	48.2	12.6	27.2	33.6	—	27.9	13.5	5.0	1.1	8.7	23.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



愛媛県

1人あたりの県民所得は33位。総合幸福度は26位だが、女性は6位と高い。寛容性総合指標は25位。Uターン意向率は14位で、関係人口意向はボランティア、まちおこしが高め。離脱意向は32位。

総人口	133.9万人【28位】
人口増減率	-1.0%【37位】
社会増減率	-2.3%【36位】
65歳以上比率	33.0%【10位】
1人あたり県民所得	2,656千円【33位】
上記伸び率	18.9%【 8位 】

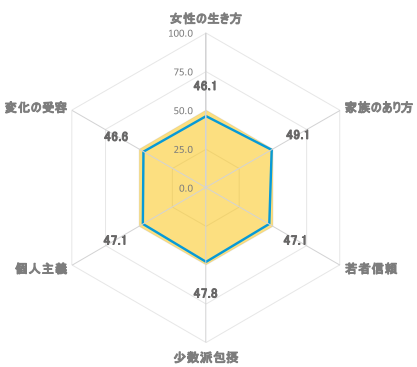
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
愛媛県全体	5.78	18位	4.77	26位	10.54	26位
男性・計	5.42	44位	4.69	45位	10.10	45位
男性・30代以下	5.44	39位	4.77	42位	10.21	41位
男性・40～50代	5.22	36位	4.56	39位	9.79	41位
男性・60代以上	5.75	38位	4.75	33位	10.50	36位
女性・計	6.13	5位	4.85	6位	10.98	6位
女性・30代以下	6.41	3位	4.92	9位	11.33	3位
女性・40～50代	5.72	19位	4.72	11位	10.45	11位
女性・60代以上	6.40	29位	4.96	33位	11.36	33位
既婚・計	6.43	10位	5.12	11位	11.55	9位
未婚・計	5.03	33位	4.43	29位	9.46	33位
男性・既婚	6.27	20位	5.21	26位	11.48	27位
男性・未婚	4.65	43位	4.27	41位	8.91	44位
女性・既婚	6.57	8位	5.04	6位	11.61	5位
女性・未婚	5.49	12位	4.62	12位	10.11	12位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
愛媛県全体	46.1	49.1	47.1	47.8	47.1	46.6	47.3	25位
男性・計	43.7	48.2	49.6	47.7	47.1	45.8	47.0	27位
男性・30代以下	44.2	46.3	47.8	49.2	44.3	48.1	46.7	29位
男性・40～50代	44.6	50.1	51.4	49.9	49.5	44.6	48.3	24位
男性・60代以上	43.4	48.3	48.7	44.4	47.0	46.2	46.3	27位
女性・計	47.8	49.7	44.7	47.9	47.3	47.4	47.5	24位
女性・30代以下	47.1	50.5	45.9	50.4	45.6	46.8	47.7	26位
女性・40～50代	49.1	50.3	44.8	50.2	48.7	47.9	48.5	24位
女性・60代以上	46.7	47.2	45.6	41.8	47.8	47.0	46.0	30位
既婚・計	45.4	47.7	47.8	47.6	47.6	48.6	47.4	25位
未婚・計	46.7	50.6	45.7	48.0	47.3	44.6	47.1	26位
男性・既婚	42.7	46.7	50.3	49.3	48.4	49.1	47.8	25位
男性・未婚	45.6	49.8	49.2	45.2	46.4	43.6	46.7	27位
女性・既婚	47.5	48.5	45.9	46.2	47.1	48.5	47.3	24位
女性・未婚	47.9	51.0	43.1	49.8	48.2	45.9	47.7	25位

人口移動指標

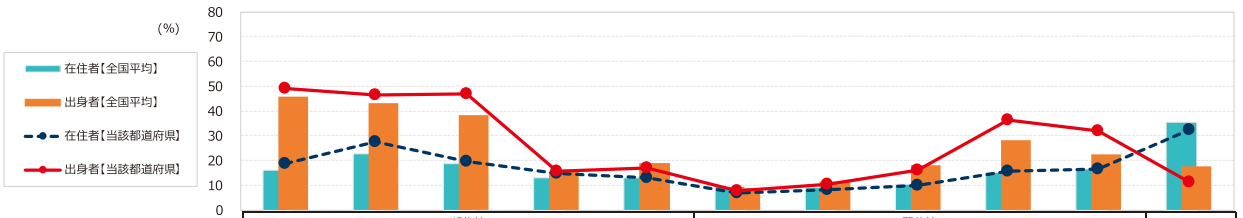
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
愛媛県全体	4.25	14位	33.4	43.4	61.7	42.1	44.9	48.3	3.38	32位
男性30代以下・計	4.19	28位	34.7	43.9	53.9	47.8	43.9	49.6	4.01	19位
女性30代以下・計	4.30	7位	32.1	42.9	69.4	36.4	45.9	46.9	3.42	40位
既婚・計	4.42	3位	35.6	41.5	68.0	43.7	47.9	47.9	3.18	32位
未婚・計	4.24	21位	30.5	43.0	62.7	44.3	42.7	50.9	3.61	33位
男性・既婚	4.45	7位	35.9	40.5	68.0	45.4	45.1	49.7	3.24	26位
男性・未婚	4.07	35位	27.2	38.3	45.9	53.5	42.1	49.7	3.55	39位
女性・既婚	4.39	5位	35.2	42.8	68.1	41.4	51.4	45.7	3.12	32位
女性・未婚	4.37	11位	33.2	46.8	76.3	36.8	43.2	51.8	3.68	22位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

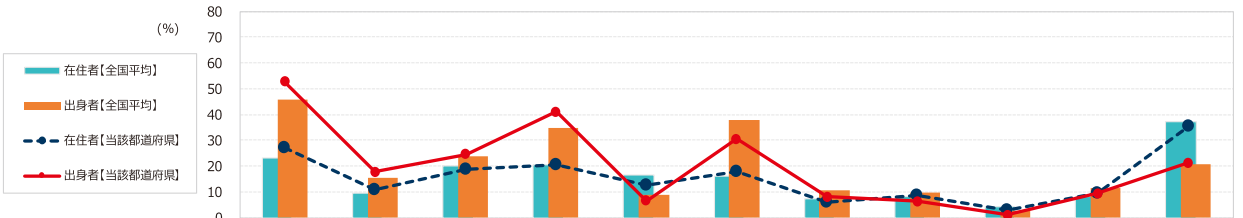


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.8	27.3	19.8	14.8	13.0	7.0	8.3	10.0	15.5	16.3	32.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.2	46.6	47.0	15.7	17.1	7.9	10.2	16.0	36.1	31.7	11.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	27.0	10.8	18.5	20.5	12.5	17.8	6.0	8.5	3.0	9.3	35.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.7	17.7	24.5	41.0	6.6	30.4	8.1	6.2	1.0	9.4	21.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



高知県

1人あたりの県民所得は37位。総合幸福度は31位だが、男性・30代以下は1位と高い。寛容性総合指標は12位で、女性の生き方が高い。Uターン意向率は32位で、関係人口意向はボランティアが高め。離脱意向は20位。

総人口	69.8万人【45位】
人口増減率	-1.1%【44位】
社会増減率	-3.1%【42位】
65歳以上比率	35.2%【2位】
1人あたり県民所得	2,567千円【37位】
上記伸び率	20.2%【5位】

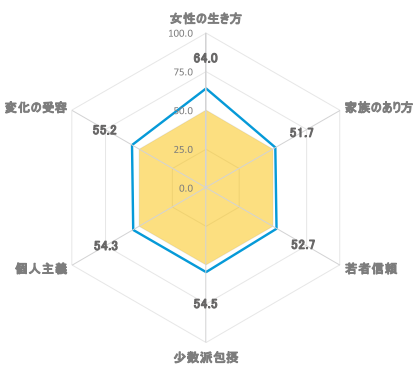
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
高知県全体	5.71	33位	4.77	26位	10.48	31位
男性・計	5.86	6位	5.20	4位	11.05	4位
男性・30代以下	6.49	1位	5.72	1位	12.21	1位
男性・40～50代	5.25	33位	4.62	35位	9.87	34位
男性・60代以上	5.80	36位	5.31	8位	11.11	23位
女性・計	5.56	43位	4.34	44位	9.90	46位
女性・30代以下	5.26	46位	3.88	47位	9.14	47位
女性・40～50代	5.38	39位	4.45	22位	9.82	36位
女性・60代以上	6.53	18位	5.05	25位	11.57	21位
既婚・計	6.25	30位	5.19	6位	11.45	13位
未婚・計	5.13	23位	4.34	36位	9.47	31位
男性・既婚	6.21	31位	5.46	7位	11.67	14位
男性・未婚	5.47	5位	4.92	9位	10.39	4位
女性・既婚	6.30	25位	4.92	15位	11.22	19位
女性・未婚	4.79	44位	3.75	45位	8.54	46位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
高知県全体	64.0	51.7	52.7	54.5	54.3	55.2	55.4	12位
男性・計	64.5	52.6	52.4	55.0	57.0	54.2	55.9	11位
男性・30代以下	52.1	52.1	48.3	54.7	55.3	46.6	51.5	16位
男性・40～50代	60.7	49.0	49.7	50.2	52.5	51.5	52.3	14位
男性・60代以上	75.1	58.0	60.7	61.0	65.5	68.0	64.7	5位
女性・計	63.4	51.2	52.1	54.2	52.5	55.7	54.8	13位
女性・30代以下	58.6	46.7	48.1	54.2	46.9	50.4	50.8	16位
女性・40～50代	62.1	48.7	47.0	51.4	51.2	55.0	52.6	14位
女性・60代以上	69.0	62.0	66.9	57.7	63.4	64.6	63.9	7位
既婚・計	64.0	53.7	51.6	54.8	55.1	55.3	55.7	12位
未婚・計	63.4	50.6	54.6	55.4	55.0	55.7	55.8	10位
男性・既婚	64.0	51.3	47.3	53.4	52.5	51.1	53.3	13位
男性・未婚	63.3	55.0	59.1	57.1	62.6	58.5	59.3	10位
女性・既婚	63.3	54.5	54.7	55.0	56.6	58.0	57.0	10位
女性・未婚	63.0	48.5	51.2	53.8	50.0	53.4	53.3	14位

人口移動指標

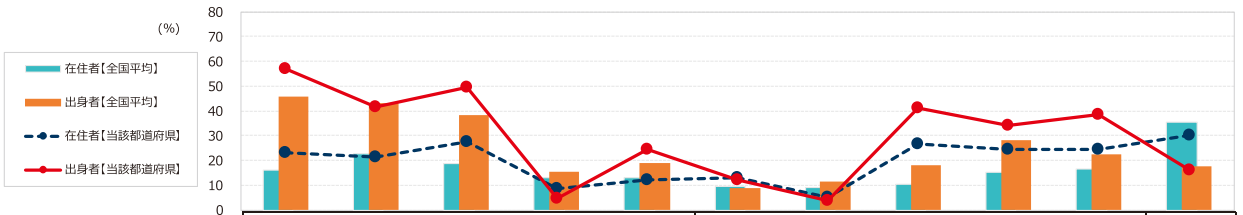
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
高知県全体	4.07	32位	34.7	43.5	61.8	35.9	43.0	44.8	3.52	20位
男性30代以下・計	3.84	41位	40.6	46.9	46.9	34.4	37.5	43.8	4.16	7位
女性30代以下・計	4.30	7位	28.8	40.0	76.7	37.4	48.4	45.8	3.83	17位
既婚・計	4.06	23位	45.9	60.0	78.9	45.0	56.8	54.4	3.20	29位
未婚・計	4.08	35位	31.5	39.2	56.8	33.6	39.7	43.6	3.90	10位
男性・既婚	3.50	43位	83.3	83.3	66.7	50.0	66.7	66.7	3.28	22位
男性・未婚	3.91	40位	31.8	40.9	45.5	31.8	31.8	40.9	3.99	10位
女性・既婚	4.34	7位	26.9	48.2	85.1	42.4	51.8	48.2	3.12	32位
女性・未婚	4.29	13位	31.2	37.2	70.7	35.9	49.3	47.0	3.81	15位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

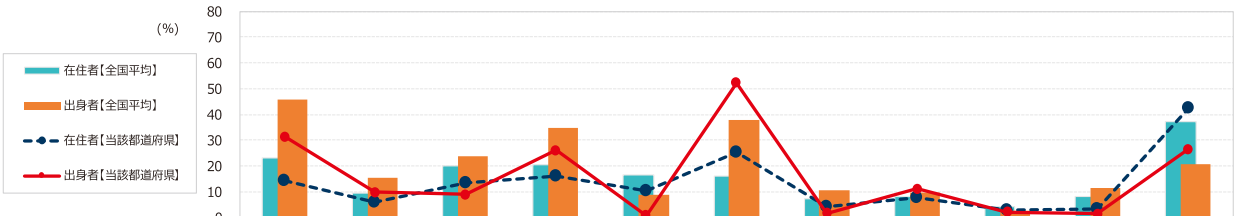


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.0	21.5	27.5	8.5	12.0	13.0	5.0	26.8	24.3	24.5	30.3
出身者【当該都道府県】	(n=200)	56.9	41.4	49.6	4.7	24.3	12.0	3.8	41.3	34.2	38.5	16.0

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.3	6.0	13.3	16.0	10.3	25.5	4.0	7.5	3.0	3.5	42.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	31.3	9.9	8.9	26.0	0.8	52.3	1.6	11.2	2.2	1.4	26.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



福岡県

1人あたりの県民所得は29位。総合幸福度は35位だが、寛容性総合指標は8位と高い。Uターン意向率は8位で、関係人口意向はふるさと納税が高め。離脱意向は44位。

総人口	510.4万人【9位】
人口増減率	-0.1%【9位】
社会増減率	1.9%【8位】
65歳以上比率	27.9%【39位】
1人あたり県民所得	2,800千円【29位】
上記伸び率	10.2%【31位】

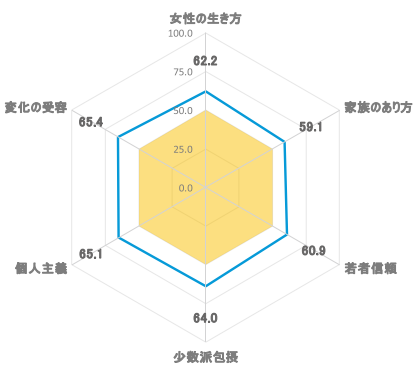
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
福岡県全体	5.78	18位	4.62	41位	10.40	35位
男性・計	5.59	30位	4.89	27位	10.48	27位
男性・30代以下	5.53	35位	5.01	29位	10.53	35位
男性・40～50代	5.51	18位	4.86	21位	10.37	18位
男性・60代以上	5.90	29位	4.69	38位	10.59	35位
女性・計	5.97	15位	4.36	43位	10.33	32位
女性・30代以下	5.76	24位	4.27	42位	10.03	35位
女性・40～50代	5.81	14位	4.05	44位	9.86	34位
女性・60代以上	6.70	7位	5.15	15位	11.85	11位
既婚・計	6.35	16位	4.91	36位	11.27	29位
未婚・計	5.20	20位	4.36	34位	9.56	28位
男性・既婚	5.97	45位	5.12	36位	11.09	43位
男性・未婚	5.39	7位	4.78	17位	10.17	9位
女性・既婚	6.72	3位	4.71	36位	11.43	9位
女性・未婚	5.00	38位	3.93	42位	8.93	41位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
福岡県全体	62.2	59.1	60.9	64.0	65.1	65.4	62.8	8位
男性・計	64.5	60.8	62.2	62.2	66.6	66.1	63.7	6位
男性・30代以下	71.9	60.4	66.4	63.8	72.8	69.3	67.4	3位
男性・40～50代	58.6	60.2	57.4	59.4	62.6	62.9	60.2	8位
男性・60代以上	63.6	59.4	59.1	59.3	62.4	61.2	60.8	9位
女性・計	60.5	57.7	59.6	64.9	63.7	64.3	61.8	8位
女性・30代以下	60.3	59.4	56.7	68.6	64.6	61.5	61.9	7位
女性・40～50代	56.9	54.0	56.9	57.1	61.7	63.8	58.4	9位
女性・60代以上	64.6	61.4	64.4	69.4	63.2	66.5	64.9	6位
既婚・計	63.5	56.6	57.8	62.6	63.5	62.4	61.1	8位
未婚・計	60.9	62.2	65.1	65.3	66.3	67.6	64.5	6位
男性・既婚	68.2	58.0	60.3	61.8	65.1	64.1	62.9	8位
男性・未婚	57.9	63.6	65.4	61.3	68.0	66.8	63.8	5位
女性・既婚	59.2	55.2	55.0	62.6	61.7	60.1	59.0	8位
女性・未婚	61.9	60.9	63.5	66.1	64.3	66.8	63.9	6位

人口移動指標

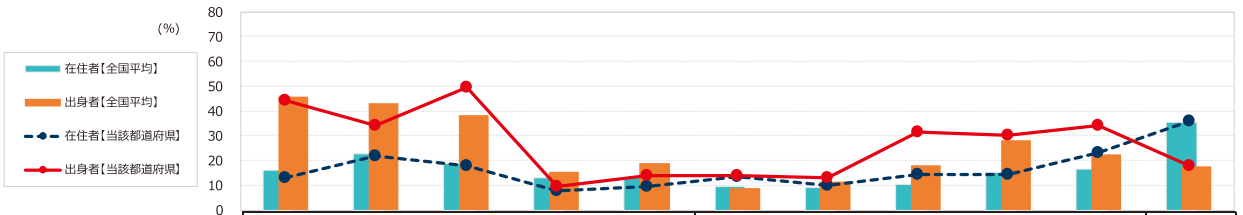
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
福岡県全体	4.41	8位	35.1	43.6	65.6	39.5	34.2	35.1	3.19	44位
男性30代以下・計	4.23	26位	39.3	46.2	61.5	46.6	36.1	43.0	3.67	38位
女性30代以下・計	4.60	2位	30.9	41.1	69.7	32.4	32.3	27.3	3.75	22位
既婚・計	4.38	7位	28.4	41.9	70.3	37.6	31.3	34.6	2.89	47位
未婚・計	4.40	10位	37.9	44.8	62.5	40.5	35.3	34.8	3.47	44位
男性・既婚	4.08	28位	35.8	58.3	70.5	55.1	37.2	51.2	2.92	44位
男性・未婚	4.25	29位	38.1	39.4	54.8	41.8	33.6	37.7	3.70	29位
女性・既婚	4.60	2位	22.9	29.9	70.1	24.7	27.1	22.4	2.85	46位
女性・未婚	4.57	4位	37.6	50.6	70.7	39.0	37.1	31.7	3.23	46位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

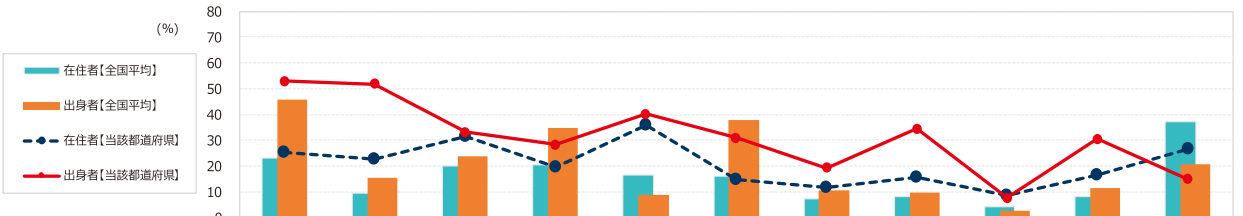


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	12.8	21.8	17.8	7.8	9.5	13.3	10.0	14.5	14.5	23.0	35.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	44.3	34.1	49.7	9.6	13.8	13.7	13.0	31.4	30.2	34.0	17.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.3	22.8	31.3	19.8	35.8	14.8	11.5	15.5	8.5	16.5	26.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.9	51.8	33.1	28.3	40.2	30.8	19.3	34.4	7.5	30.4	14.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



佐賀県

1人あたりの県民所得は43位にとどまるが、総合幸福度は12位。寛容性総合指標は34位。Uターン意向率は19位で、関係人口意向は二拠点生活が低い一方、事業創出やまちおこしなどが高め。離脱意向は14位。

総人口	81.5万人【41位】
人口増減率	-0.5%【17位】
社会増減率	-0.9%【23位】
65歳以上比率	30.3%【26位】
1人あたり県民所得	2,509千円【43位】
上記伸び率	8.8%【35位】

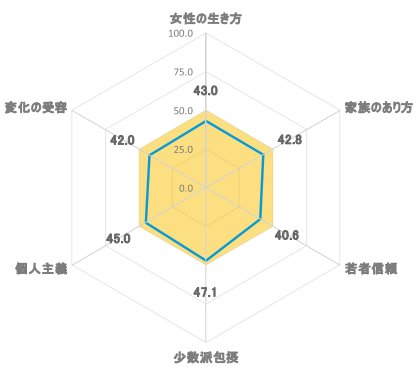
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
佐賀県全体	5.76	24位	4.90	10位	10.66	12位
男性・計	5.73	16位	4.91	25位	10.64	22位
男性・30代以下	5.60	32位	4.98	30位	10.57	32位
男性・40～50代	5.70	8位	4.84	23位	10.54	13位
男性・60代以上	6.05	25位	4.90	28位	10.95	30位
女性・計	5.79	30位	4.89	5位	10.68	15位
女性・30代以下	5.53	39位	4.57	25位	10.09	31位
女性・40～50代	5.55	32位	4.72	11位	10.27	18位
女性・60代以上	6.83	3位	5.84	1位	12.67	2位
既婚・計	6.25	30位	5.04	20位	11.30	23位
未婚・計	5.25	14位	4.70	8位	9.94	10位
男性・既婚	6.35	15位	5.16	31位	11.51	25位
男性・未婚	5.17	13位	4.60	26位	9.77	22位
女性・既婚	6.17	38位	4.94	14位	11.11	25位
女性・未婚	5.34	17位	4.80	3位	10.14	10位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
佐賀県全体	43.0	42.8	40.6	47.1	45.0	42.0	43.4	34位
男性・計	43.0	42.8	38.1	48.6	43.2	43.4	43.2	34位
男性・30代以下	46.4	46.5	39.1	57.0	46.0	43.5	46.4	30位
男性・40～50代	44.0	40.2	37.2	42.5	42.2	42.7	41.5	39位
男性・60代以上	40.2	45.0	45.3	50.6	43.5	47.2	45.3	31位
女性・計	42.9	43.1	43.4	46.4	46.5	41.1	43.9	35位
女性・30代以下	44.4	39.4	45.0	51.2	46.1	40.1	44.4	33位
女性・40～50代	41.8	44.7	43.6	44.0	45.6	40.6	43.4	37位
女性・60代以上	46.0	46.2	43.2	46.0	49.0	46.4	46.1	29位
既婚・計	44.3	43.8	41.4	48.8	45.7	45.0	44.8	31位
未婚・計	41.8	42.0	41.1	46.1	44.5	38.3	42.3	38位
男性・既婚	43.4	42.9	39.3	50.1	43.0	45.4	44.0	33位
男性・未婚	41.3	42.9	38.2	47.7	43.1	40.0	42.2	38位
女性・既婚	45.6	44.6	43.6	47.4	47.9	45.2	45.7	30位
女性・未婚	42.7	42.4	45.4	45.7	46.4	39.0	43.6	34位

人口移動指標

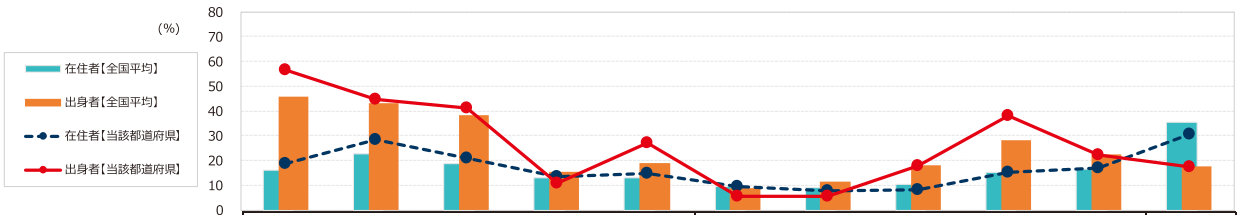
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
佐賀県全体	4.17	19位	26.2	47.0	64.5	42.7	42.6	46.7	3.57	14位
男性30代以下・計	4.58	6位	30.9	57.3	62.7	59.5	48.2	62.3	4.15	10位
女性30代以下・計	3.76	40位	21.5	36.7	66.3	25.9	37.0	31.1	3.73	26位
既婚・計	3.89	30位	16.4	42.1	65.0	39.7	32.8	34.9	3.45	9位
未婚・計	4.38	13位	33.1	50.2	65.3	46.3	50.2	55.5	3.71	24位
男性・既婚	3.97	32位	10.9	38.0	62.0	43.5	21.7	32.6	3.38	13位
男性・未婚	5.02	2位	45.3	71.1	63.3	71.1	67.2	83.6	3.82	21位
女性・既婚	3.80	31位	23.8	47.6	69.0	34.5	47.6	38.1	3.52	7位
女性・未婚	3.80	41位	22.0	31.2	67.1	23.7	34.7	30.1	3.59	29位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

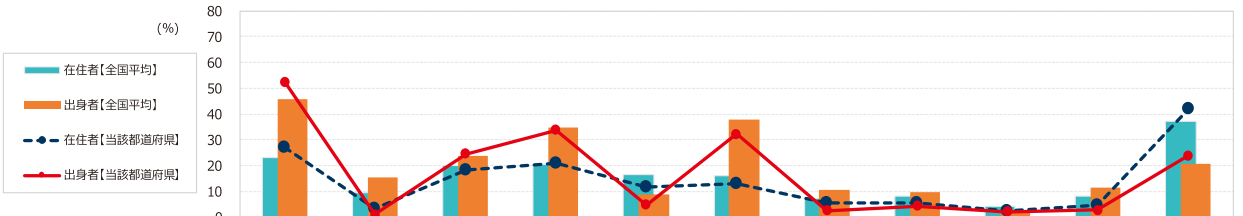


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.5	28.5	21.0	13.3	14.8	9.3	7.8	8.0	15.0	17.0	30.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	56.7	44.5	41.2	10.8	27.2	5.4	5.4	17.9	38.1	22.2	17.5

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	27.0	3.5	18.3	21.0	11.5	13.0	5.3	5.3	2.5	4.5	41.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	52.5	0.9	24.5	33.7	4.7	32.2	2.5	4.3	2.1	2.8	23.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



長崎県

1人あたりの県民所得は41位。総合幸福度は33位だが、男性・未婚層は8位と高い。寛容性総合指標は20位で、少数派包摂が高め。Uターン意向率は19位で、関係人口意向は事業創出が低め。離脱意向は16位。

総人口	132.7万人【30位】
人口増減率	-1.0%【40位】
社会増減率	-4.8%【47位】
65歳以上比率	32.7%【12位】
1人あたり県民所得	2,519千円【41位】
上記伸び率	14.4%【17位】

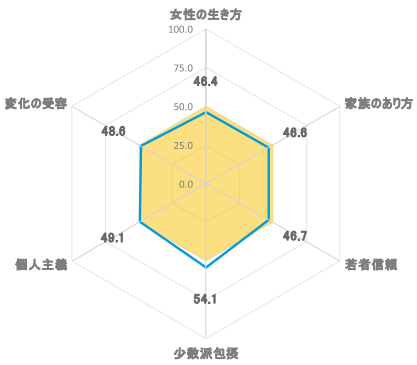
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
長崎県全体	5.72	30位	4.73	30位	10.46	33位
男性・計	5.62	24位	5.04	16位	10.66	20位
男性・30代以下	5.53	35位	5.42	5位	10.94	17位
男性・40～50代	5.36	24位	4.65	32位	10.01	27位
男性・60代以上	6.33	13位	5.06	19位	11.38	13位
女性・計	5.83	27位	4.43	41位	10.26	35位
女性・30代以下	5.50	41位	4.16	44位	9.66	44位
女性・40～50代	5.94	9位	4.43	24位	10.37	16位
女性・60代以上	6.28	38位	4.97	31位	11.24	37位
既婚・計	6.31	19位	4.89	39位	11.20	33位
未婚・計	5.10	27位	4.69	9位	9.79	18位
男性・既婚	6.25	24位	5.23	22位	11.48	27位
男性・未婚	5.15	16位	5.11	3位	10.26	8位
女性・既婚	6.37	18位	4.60	43位	10.97	38位
女性・未婚	5.05	34位	4.22	35位	9.27	36位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
長崎県全体	46.4	46.6	46.7	54.1	49.1	48.6	48.6	20位
男性・計	44.8	44.7	46.5	54.8	48.6	48.5	48.0	24位
男性・30代以下	43.1	42.5	46.9	47.8	49.2	51.2	46.8	28位
男性・40～50代	47.1	43.9	44.4	57.7	46.1	46.0	47.5	27位
男性・60代以上	44.9	49.3	50.0	54.8	53.4	49.4	50.3	20位
女性・計	47.6	48.0	47.7	53.6	49.5	49.2	49.3	19位
女性・30代以下	47.8	46.8	48.7	50.5	43.5	45.9	47.2	28位
女性・40～50代	46.5	48.1	46.5	54.0	51.9	50.5	49.6	20位
女性・60代以上	50.1	50.2	48.9	55.2	53.4	51.0	51.5	16位
既婚・計	44.4	46.3	45.8	53.4	47.2	47.8	47.5	24位
未婚・計	50.5	48.7	50.5	56.6	52.8	50.8	51.7	17位
男性・既婚	44.2	46.5	46.7	54.5	47.9	50.6	48.4	22位
男性・未婚	48.4	46.9	49.2	58.2	52.4	48.3	50.6	21位
女性・既婚	45.1	46.6	45.4	52.3	47.4	46.5	47.2	26位
女性・未婚	51.5	50.4	51.8	55.2	53.1	53.0	52.5	15位

人口移動指標

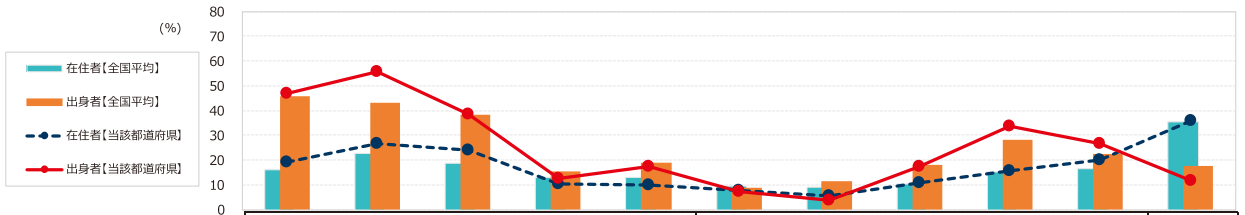
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
長崎県全体	4.17	19位	29.2	40.8	60.7	33.1	33.1	39.1	3.56	16位
男性30代以下・計	4.58	6位	38.3	46.4	63.9	45.0	38.3	46.9	4.06	15位
女性30代以下・計	3.75	42位	20.0	35.1	57.4	21.1	28.0	31.2	3.69	28位
既婚・計	3.86	32位	26.1	32.0	58.6	34.0	30.6	37.4	3.37	13位
未婚・計	4.33	17位	30.2	45.9	65.7	32.4	35.3	40.0	3.76	19位
男性・既婚	4.18	24位	35.8	40.0	63.3	47.5	40.0	49.2	3.50	9位
男性・未婚	4.76	6位	40.4	51.2	72.3	44.6	39.9	46.9	3.95	13位
女性・既婚	3.63	36位	19.0	26.0	55.0	24.0	23.6	28.6	3.26	25位
女性・未婚	3.84	39位	18.4	39.8	58.0	18.2	30.0	32.0	3.55	34位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

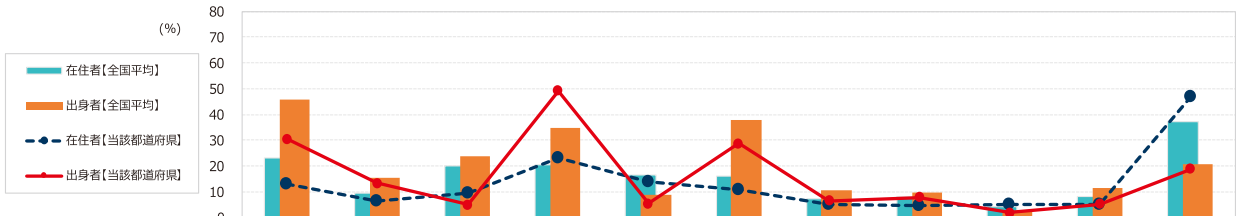


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	19.3	26.8	23.8	10.3	9.8	7.5	5.3	10.8	15.5	20.0	36.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	46.7	55.8	38.3	12.7	17.6	7.4	3.9	17.4	33.8	26.8	11.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	13.0	6.5	9.5	23.0	13.8	10.8	5.0	4.8	5.0	5.0	47.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	30.4	13.4	4.9	49.1	5.4	28.8	6.6	7.8	1.9	5.2	18.9

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



熊本県

1人あたりの県民所得は42位にとどまるが、総合幸福度は8位と高い。寛容性総合指標は22位。Uターン意向率は9位で、関係人口意向も高め。一方、離脱意向も9位となっている。

総人口	174.8万人【23位】
人口増減率	-0.5%【19位】
社会増減率	-0.9%【23位】
65歳以上比率	31.1%【23位】
1人あたり県民所得	2,517千円【42位】
上記伸び率	16.9%【12位】

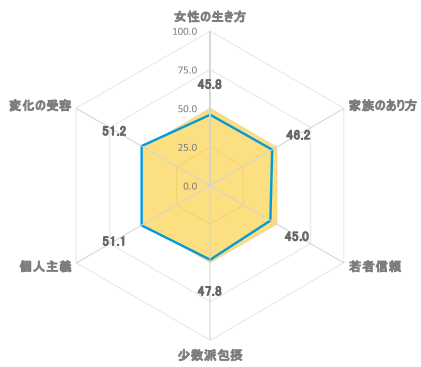
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
熊本県全体	5.78	18位	4.99	3位	10.77	8位
男性・計	5.55	34位	4.97	20位	10.52	26位
男性・30代以下	5.71	19位	5.13	19位	10.84	21位
男性・40～50代	5.24	34位	4.63	33位	9.87	34位
男性・60代以上	5.88	32位	5.31	8位	11.18	18位
女性・計	6.00	14位	5.01	1位	11.02	3位
女性・30代以下	5.88	20位	4.76	13位	10.63	18位
女性・40～50代	6.00	7位	5.05	2位	11.05	2位
女性・60代以上	6.28	38位	5.43	6位	11.71	17位
既婚・計	6.18	36位	5.27	2位	11.45	13位
未婚・計	5.39	5位	4.67	10位	10.06	6位
男性・既婚	6.17	34位	5.39	10位	11.57	20位
男性・未婚	4.87	35位	4.49	33位	9.37	33位
女性・既婚	6.18	37位	5.16	3位	11.34	13位
女性・未婚	5.92	3位	4.86	2位	10.77	2位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
熊本県全体	45.8	46.2	45.0	47.8	51.1	51.2	47.8	22位
男性・計	46.1	46.0	43.3	49.2	53.0	51.4	48.2	22位
男性・30代以下	47.7	50.5	48.1	52.4	55.3	49.2	50.5	21位
男性・40～50代	43.4	42.0	42.2	45.0	49.2	50.3	45.4	31位
男性・60代以上	49.5	49.4	44.4	53.6	55.8	55.9	51.4	18位
女性・計	45.6	46.2	46.4	47.1	49.9	51.4	47.8	21位
女性・30代以下	40.6	46.3	45.0	40.8	46.6	52.1	45.2	30位
女性・40～50代	46.7	45.1	48.0	48.0	48.5	47.4	47.3	28位
女性・60代以上	51.8	48.9	47.9	54.0	57.9	57.8	53.0	13位
既婚・計	47.8	46.5	42.3	47.2	52.2	53.5	48.2	21位
未婚・計	43.7	46.7	50.9	49.3	50.6	50.1	48.5	22位
男性・既婚	46.3	46.0	40.4	51.2	55.0	55.7	49.1	18位
男性・未婚	45.6	46.5	48.8	47.3	50.1	47.2	47.6	26位
女性・既婚	48.4	46.2	43.7	44.3	49.6	51.3	47.3	25位
女性・未婚	43.7	47.4	52.6	50.9	51.7	52.5	49.8	22位

人口移動指標

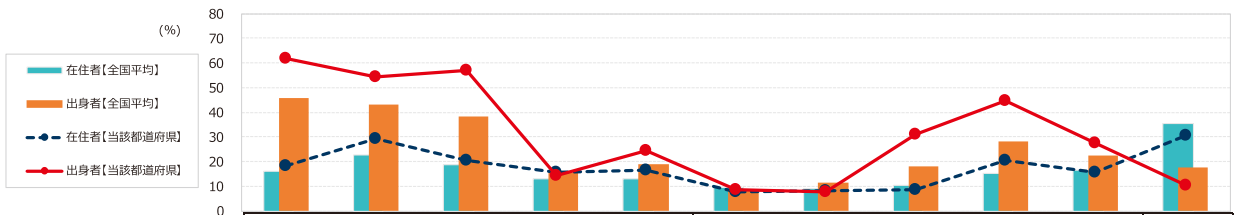
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
熊本県全体	4.39	9位	36.1	51.0	66.2	50.2	47.4	55.2	3.61	9位
男性30代以下・計	4.51	9位	41.5	54.4	61.3	55.5	48.8	61.4	4.01	19位
女性30代以下・計	4.26	10位	30.7	47.6	71.0	44.8	46.0	49.0	3.90	11位
既婚・計	4.41	5位	38.0	55.0	75.2	52.9	46.9	59.5	3.47	8位
未婚・計	4.32	18位	36.3	47.8	60.3	49.8	48.1	52.0	3.71	24位
男性・既婚	4.32	17位	46.7	59.5	65.4	62.6	46.7	68.8	3.39	12位
男性・未婚	4.60	11位	41.2	51.6	58.0	53.8	50.0	56.0	3.77	24位
女性・既婚	4.50	3位	30.6	51.2	83.6	44.7	47.0	51.7	3.55	6位
女性・未婚	4.05	25位	31.4	43.9	62.6	45.7	46.1	47.9	3.64	26位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

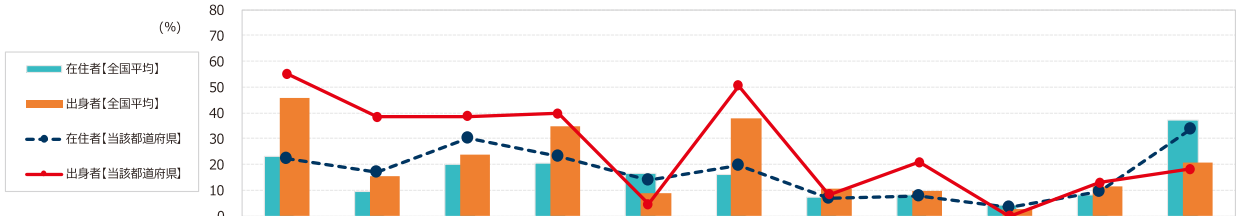


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	18.3	29.3	20.5	15.5	16.5	7.8	8.3	8.8	20.3	15.5	30.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	61.7	54.4	56.8	14.1	24.4	8.5	7.8	31.0	44.6	27.6	10.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	22.3	16.8	30.0	23.0	14.0	19.8	6.8	7.8	3.3	9.5	33.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	55.2	38.4	38.5	39.6	4.6	50.4	8.2	20.7	—	12.9	18.1

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



大分県

1人あたりの県民所得は36位。総合幸福度は18位で、男性・未婚層は3位と順位が高い。寛容性総合指標は18位。Uターン意向率は41位で、関係人口意向はワーケーションが高め。離脱意向は22位。

総人口	113.5万人【34位】
人口増減率	-0.8%【34位】
社会増減率	-1.3%【27位】
65歳以上比率	32.9%【11位】
1人あたり県民所得	2,605千円【36位】
上記伸び率	10.2%【30位】

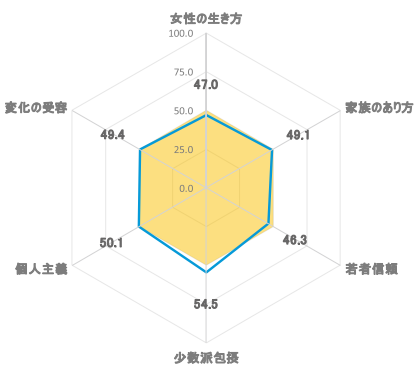
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
大分県全体	5.84	10位	4.79	22位	10.63	18位
男性・計	5.81	9位	5.06	11位	10.87	9位
男性・30代以下	5.94	9位	5.17	17位	11.10	10位
男性・40～50代	5.60	14位	4.92	17位	10.52	14位
男性・60代以上	5.97	27位	5.14	13位	11.12	22位
女性・計	5.88	22位	4.52	35位	10.40	30位
女性・30代以下	5.66	28位	4.35	39位	10.01	36位
女性・40～50代	5.62	25位	4.58	17位	10.20	22位
女性・60代以上	6.80	4位	4.75	41位	11.55	23位
既婚・計	6.26	27位	4.89	39位	11.15	36位
未婚・計	5.41	4位	4.65	14位	10.06	6位
男性・既婚	6.22	30位	5.14	34位	11.35	33位
男性・未婚	5.53	3位	5.05	5位	10.58	3位
女性・既婚	6.29	26位	4.70	38位	10.98	36位
女性・未婚	5.27	19位	4.17	37位	9.44	29位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
大分県全体	47.0	49.1	46.3	54.5	50.1	49.4	49.4	18位
男性・計	46.3	50.0	41.9	53.0	49.3	48.5	48.1	23位
男性・30代以下	39.6	45.1	38.9	39.1	45.1	51.0	43.1	35位
男性・40～50代	45.9	49.2	40.4	56.6	50.2	46.8	48.2	25位
男性・60代以上	53.2	56.4	53.8	60.4	53.2	49.5	54.4	14位
女性・計	47.8	48.4	49.6	55.7	50.5	49.9	50.3	16位
女性・30代以下	44.6	42.4	43.0	60.7	50.8	45.9	47.9	25位
女性・40～50代	51.2	51.6	54.5	50.4	50.3	52.0	51.7	17位
女性・60代以上	46.9	51.5	52.1	57.6	50.3	51.6	51.7	15位
既婚・計	47.7	48.1	47.9	54.8	49.0	48.1	49.3	18位
未婚・計	46.8	49.8	45.6	55.1	51.4	50.8	49.9	19位
男性・既婚	48.3	47.0	41.5	51.2	47.1	44.5	46.6	27位
男性・未婚	46.2	55.1	46.9	58.2	52.1	54.0	52.1	16位
女性・既婚	47.8	49.2	52.3	57.0	50.4	50.6	51.2	15位
女性・未婚	47.6	46.3	45.1	52.3	50.4	47.9	48.3	24位

人口移動指標

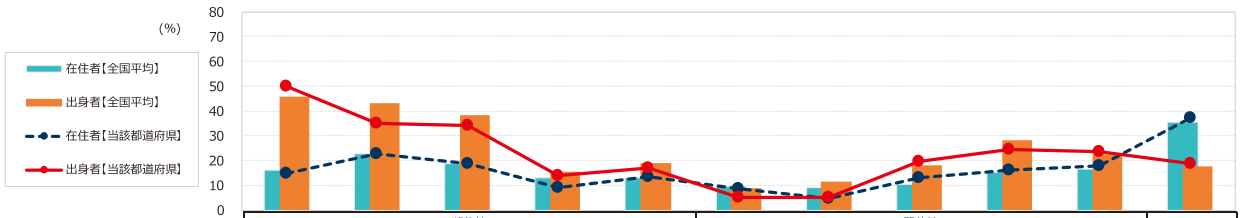
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
大分県全体	3.86	41位	33.6	49.7	62.9	38.2	40.0	41.0	3.50	22位
男性30代以下・計	3.71	42位	35.0	45.6	58.1	42.0	36.5	37.2	3.80	32位
女性30代以下・計	4.01	25位	32.1	53.9	67.6	34.4	43.5	44.7	3.80	20位
既婚・計	3.75	38位	43.3	47.2	67.5	42.5	38.9	41.2	3.29	19位
未婚・計	3.92	39位	30.5	54.1	63.6	38.6	42.5	43.8	3.76	19位
男性・既婚	3.51	42位	55.4	56.1	87.2	62.2	49.3	50.7	3.24	26位
男性・未婚	3.79	42位	30.9	47.1	50.9	39.0	35.8	36.4	3.78	22位
女性・既婚	3.93	24位	34.3	40.5	52.9	28.0	31.1	34.3	3.34	20位
女性・未婚	4.05	25位	30.0	61.9	77.9	38.1	49.9	52.0	3.73	18位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

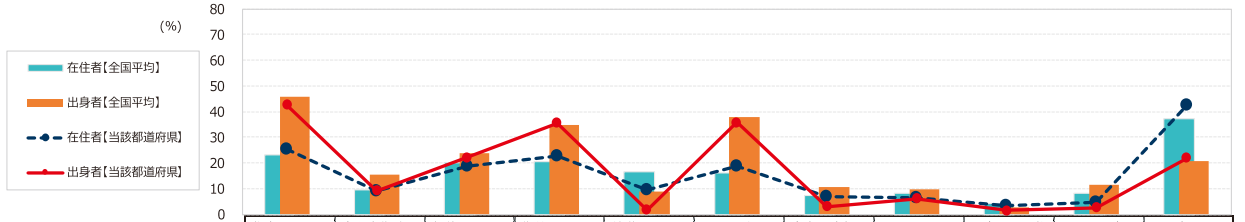


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	14.8	22.8	18.8	9.0	13.3	8.5	4.8	12.8	16.0	18.0	37.0
出身者【当該都道府県】	(n=200)	49.8	35.0	34.3	13.7	16.9	5.1	4.9	19.4	24.4	23.4	18.7

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	25.3	9.0	18.8	22.5	9.3	18.8	6.8	6.3	3.5	4.5	42.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	42.5	9.2	22.1	35.5	1.7	35.7	2.9	6.1	1.4	2.6	21.8

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



宮崎県

1人あたりの県民所得は45位にとどまるが、総合幸福度は9位。ただし、男性・60代以上は44位と低い。寛容性総合指標は32位。Uターン意向率は29位で、関係人口意向はふるさと納税が高い。離脱意向は27位。

総人口	107.3万人【36位】
人口増減率	-0.7%【31位】
社会増減率	-1.7%【32位】
65歳以上比率	32.3%【14位】
1人あたり県民所得	2,407千円【45位】
上記伸び率	16.0%【15位】

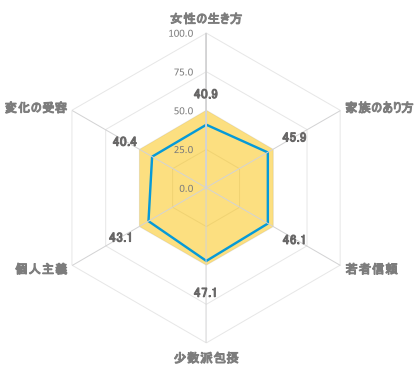
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
宮崎県全体	5.86	8位	4.88	14位	10.74	9位
男性・計	5.62	24位	4.98	19位	10.60	23位
男性・30代以下	6.20	2位	5.36	6位	11.56	3位
男性・40～50代	5.14	39位	4.73	27位	9.87	34位
男性・60代以上	5.40	47位	4.74	34位	10.14	44位
女性・計	6.11	6位	4.78	11位	10.89	9位
女性・30代以下	6.33	4位	5.00	5位	11.33	3位
女性・40～50代	5.61	27位	4.39	29位	10.00	28位
女性・60代以上	6.67	10位	5.08	22位	11.76	15位
既婚・計	6.26	27位	5.01	26位	11.26	30位
未婚・計	5.32	10位	4.67	10位	9.99	9位
男性・既婚	6.12	38位	5.23	22位	11.35	33位
男性・未婚	4.94	32位	4.61	25位	9.55	29位
女性・既婚	6.37	18位	4.82	20位	11.19	21位
女性・未婚	5.75	5位	4.75	5位	10.50	3位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
宮崎県全体	40.9	45.9	46.1	47.1	43.1	40.4	43.9	32位
男性・計	37.8	42.5	43.3	46.2	41.4	38.6	41.6	40位
男性・30代以下	26.5	38.1	47.2	43.2	39.5	34.1	38.1	47位
男性・40～50代	40.1	39.5	38.9	48.1	41.2	40.9	41.4	40位
男性・60代以上	48.4	53.9	49.9	47.1	45.0	44.1	48.1	22位
女性・計	43.1	48.1	48.2	48.1	44.8	42.0	45.7	29位
女性・30代以下	48.4	48.4	51.3	50.5	44.8	44.3	48.0	24位
女性・40～50代	41.9	46.7	44.8	44.4	45.4	39.1	43.7	34位
女性・60代以上	40.2	51.0	50.0	52.9	44.9	46.2	47.5	25位
既婚・計	40.6	44.9	47.4	47.2	43.8	40.1	44.0	34位
未婚・計	41.8	47.3	44.3	46.8	42.7	40.5	43.9	33位
男性・既婚	44.7	46.3	50.5	50.1	46.5	42.3	46.7	26位
男性・未婚	28.2	37.6	34.4	39.1	34.5	34.2	34.7	46位
女性・既婚	39.0	44.5	45.0	45.2	42.3	39.4	42.6	36位
女性・未婚	51.0	54.7	53.9	52.8	49.9	46.9	51.5	19位

人口移動指標

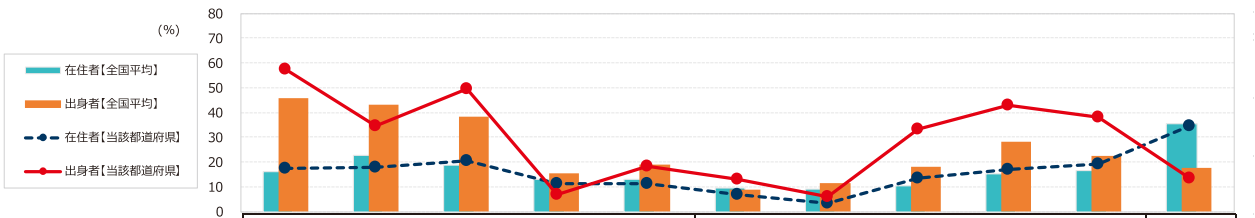
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
宮崎県全体	4.10	29位	33.6	44.0	71.2	39.9	37.9	42.0	3.45	27位
男性30代以下・計	4.15	31位	35.1	41.5	67.4	43.7	31.7	40.8	3.90	25位
女性30代以下・計	4.05	21位	32.1	46.5	75.0	36.1	44.1	43.1	3.69	28位
既婚・計	3.99	26位	33.0	43.6	71.2	36.8	35.8	33.8	3.19	31位
未婚・計	4.18	28位	35.1	45.8	74.7	41.6	41.1	49.2	3.79	16位
男性・既婚	4.07	29位	37.2	45.1	68.1	41.7	39.7	35.3	2.97	41位
男性・未婚	4.29	24位	34.4	43.1	72.2	46.0	32.3	46.9	3.95	13位
女性・既婚	3.91	25位	29.3	42.2	74.0	32.4	32.4	32.4	3.38	18位
女性・未婚	4.08	23位	35.7	48.4	77.2	37.2	49.8	51.5	3.59	29位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

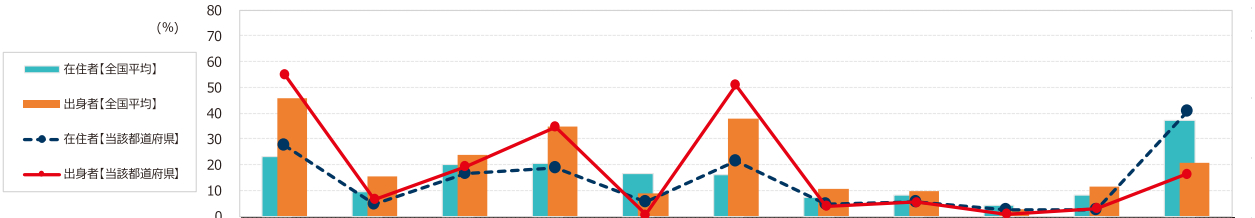


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	17.5	18.0	20.3	11.3	11.3	7.0	3.5	13.3	16.8	19.3	34.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	57.5	34.5	49.7	7.0	18.4	12.8	5.9	33.2	43.1	38.2	13.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	27.3	4.8	16.5	18.8	5.3	21.3	4.5	5.3	2.3	2.5	40.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	55.2	6.5	19.3	34.6	0.5	51.0	3.8	5.4	0.8	2.9	16.3

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



鹿児島県

1人あたりの県民所得は44位にとどまるが、総合幸福度は12位。寛容性総合指標は33位。Uターン意向率は29位で、関係人口意向はふるさと納税が高い。離脱意向は14位。

総人口	160.2万人【24位】
人口増減率	-0.7%【31位】
社会増減率	-1.5%【29位】
65歳以上比率	32.0%【17位】
1人あたり県民所得	2,414千円【44位】
上記伸び率	17.8%【10位】

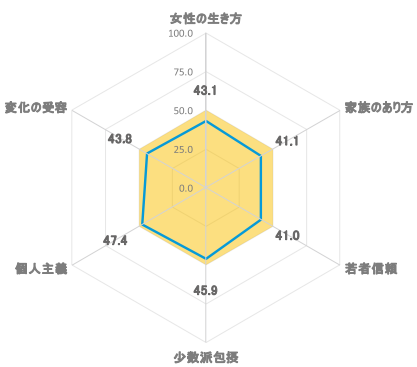
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
鹿児島県全体	5.84	10位	4.82	19位	10.66	12位
男性・計	5.72	17位	5.00	17位	10.72	17位
男性・30代以下	5.44	39位	5.12	21位	10.55	33位
男性・40～50代	5.65	11位	4.62	35位	10.27	21位
男性・60代以上	6.45	8位	5.53	1位	11.97	4位
女性・計	5.96	18位	4.64	24位	10.59	21位
女性・30代以下	5.94	18位	4.60	23位	10.54	20位
女性・40～50代	5.74	18位	4.42	26位	10.15	23位
女性・60代以上	6.42	24位	5.13	17位	11.56	22位
既婚・計	6.28	24位	5.01	26位	11.29	26位
未婚・計	5.35	9位	4.51	24位	9.86	15位
男性・既婚	6.41	12位	5.32	15位	11.72	11位
男性・未婚	5.07	24位	4.55	29位	9.62	26位
女性・既婚	6.16	39位	4.72	34位	10.88	39位
女性・未婚	5.63	8位	4.48	19位	10.11	12位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
鹿児島県全体	43.1	41.1	41.0	45.9	47.4	43.8	43.7	33位
男性・計	44.1	41.9	42.3	43.3	48.6	43.2	43.9	32位
男性・30代以下	46.9	47.1	44.4	56.7	54.2	41.8	48.5	25位
男性・40～50代	43.9	40.0	38.2	35.8	46.9	43.3	41.3	41位
男性・60代以上	45.1	42.7	51.6	44.8	45.1	46.7	46.0	28位
女性・計	42.2	40.6	40.2	48.2	46.5	44.2	43.7	37位
女性・30代以下	49.5	44.7	44.7	46.3	52.6	51.8	48.3	23位
女性・40～50代	37.5	38.6	36.8	46.8	39.5	37.5	39.4	42位
女性・60代以上	42.7	41.6	43.1	53.5	51.8	47.0	46.6	28位
既婚・計	42.4	41.2	37.3	42.8	46.4	40.9	41.8	39位
未婚・計	44.7	42.1	47.5	49.9	49.4	47.8	46.9	27位
男性・既婚	45.3	42.5	39.6	41.0	48.1	42.7	43.2	38位
男性・未婚	44.1	41.9	46.7	46.7	50.1	45.3	45.8	30位
女性・既婚	40.0	39.8	36.0	44.8	45.0	40.2	41.0	39位
女性・未婚	46.9	43.3	48.3	52.0	49.5	50.3	48.4	23位

人口移動指標

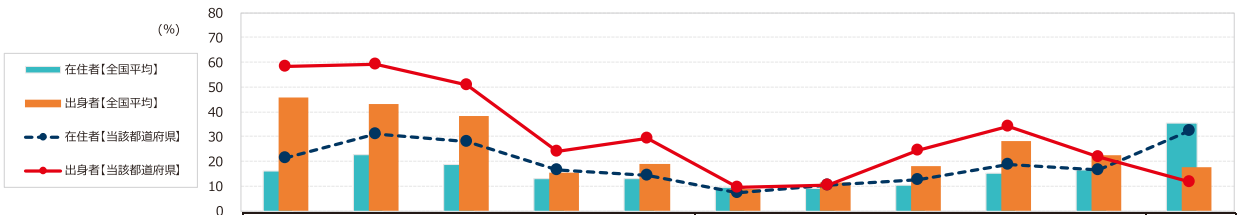
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ワーケーション	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
鹿児島県全体	4.10	29位	31.9	42.5	68.0	37.6	37.2	38.6	3.57	14位
男性30代以下・計	4.20	27位	32.2	43.2	65.6	42.4	35.6	40.3	4.08	14位
女性30代以下・計	4.01	25位	31.6	41.8	70.5	32.8	38.7	36.8	3.90	11位
既婚・計	4.20	16位	28.3	44.0	75.7	37.2	36.1	38.1	3.36	14位
未婚・計	4.03	37位	34.5	43.3	63.2	38.1	37.8	38.2	3.82	15位
男性・既婚	4.51	6位	37.4	46.3	73.2	51.5	34.3	42.6	3.29	19位
男性・未婚	4.06	36位	32.8	44.1	64.4	42.2	37.4	41.0	3.73	26位
女性・既婚	4.00	21位	22.3	42.5	77.4	27.7	37.3	35.1	3.42	12位
女性・未婚	4.00	32位	36.7	42.3	61.5	32.8	38.4	34.6	3.92	11位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

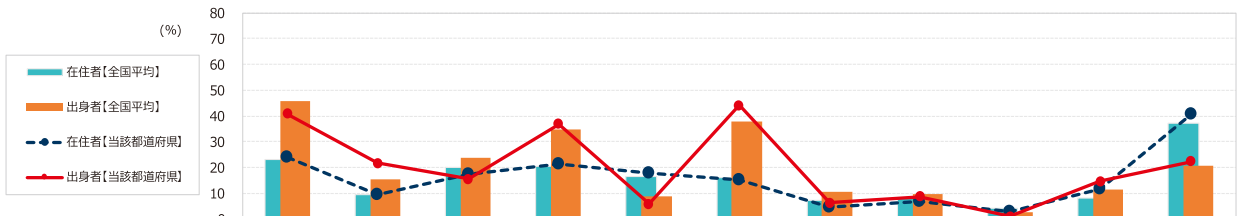


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	21.5	31.0	28.0	16.3	14.3	7.3	10.5	12.5	18.5	16.5	32.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	58.2	59.2	50.7	23.8	29.1	9.4	10.5	24.5	34.1	21.9	11.6

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	23.8	9.3	17.3	21.3	17.8	15.3	4.8	7.0	3.0	11.5	40.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	40.7	21.6	15.5	36.8	5.9	44.2	6.2	8.6	1.0	14.6	22.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



沖縄県

1人あたりの県民所得は47位にとどまるが、総合幸福度は1位。寛容性総合指標は9位。家族のあり方が低く、少数派包摂が高い。Uターン意向率は1位で、関係人口意向も高い。また、離脱意向も45位と低い。

総人口	145.3万人【25位】
人口増減率	0.4%【2位】
社会増減率	1.9‰【8位】
65歳以上比率	22.2%【47位】
1人あたり県民所得	2,273千円【47位】
上記伸び率	21.6%【4位】

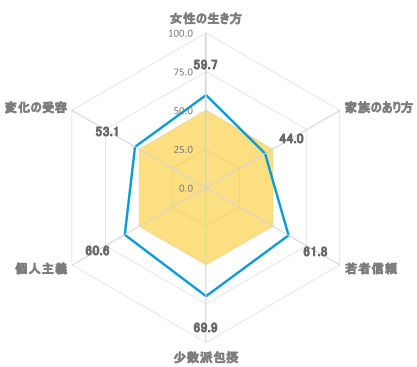
※人口関連データは2019年度、1人あたり県民所得は2016年度、その伸び率は2008～2017年を掲載

Well-being 総合指標

	人生評価（ラダー）		エウダイモニア		総合幸福度	
全国平均	5.77	順位	4.79	順位	10.56	順位
沖縄県全体	6.22	1位	5.15	1位	11.37	1位
男性・計	6.04	2位	5.33	1位	11.36	1位
男性・30代以下	5.79	15位	5.25	9位	11.04	13位
男性・40～50代	5.91	3位	5.31	1位	11.22	3位
男性・60代以上	6.78	1位	5.53	1位	12.30	1位
女性・計	6.40	1位	4.98	2位	11.38	1位
女性・30代以下	6.46	1位	4.98	7位	11.44	1位
女性・40～50代	6.19	4位	4.83	6位	11.02	4位
女性・60代以上	6.70	7位	5.26	10位	11.96	8位
既婚・計	6.67	1位	5.13	10位	11.80	2位
未婚・計	5.77	1位	5.11	1位	10.88	1位
男性・既婚	6.60	3位	5.29	18位	11.89	5位
男性・未婚	5.49	4位	5.26	1位	10.75	2位
女性・既婚	6.73	2位	4.99	9位	11.72	3位
女性・未婚	6.05	1位	4.96	1位	11.01	1位

※人生評価「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか」質問の回答（10点から0点）の加重平均値。
※エウダイモニア3つの選択肢「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」
「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」へのあてはまり度合い（10点から0点）を聴取、その回答の積算値の加重平均値
※総合幸福度『人生評価』と『エウダイモニア』の加重平均値の積算値。

寛容性指標



	女性の生き方	家族のあり方	若者信頼	少数派包摂	個人主義	変化の受容	総合指標	
沖縄県全体	59.7	44.0	61.8	69.9	60.6	53.1	58.2	9位
男性・計	59.9	43.1	61.0	71.1	58.8	53.8	57.9	9位
男性・30代以下	60.2	40.3	57.5	66.6	54.6	47.0	54.4	12位
男性・40～50代	55.6	43.0	57.1	69.0	57.9	54.5	56.2	10位
男性・60代以上	62.2	47.5	64.1	69.1	64.3	59.3	61.1	8位
女性・計	59.3	44.4	62.1	67.9	61.8	52.4	58.0	9位
女性・30代以下	54.9	42.4	58.9	61.5	58.8	50.7	54.5	12位
女性・40～50代	61.3	47.1	61.1	69.7	63.5	52.6	59.2	8位
女性・60代以上	59.3	42.5	63.7	66.6	60.4	53.4	57.7	11位
既婚・計	58.4	43.7	57.3	67.2	60.8	53.0	56.7	9位
未婚・計	60.9	44.3	65.6	70.9	60.6	53.4	59.3	9位
男性・既婚	57.8	42.6	58.4	67.7	57.7	51.3	55.9	9位
男性・未婚	61.9	42.6	61.4	73.1	58.6	54.9	58.7	11位
女性・既婚	58.6	44.0	56.0	66.4	62.3	53.7	56.8	12位
女性・未婚	59.9	46.5	67.2	67.9	61.5	52.4	59.2	9位

人口移動指標

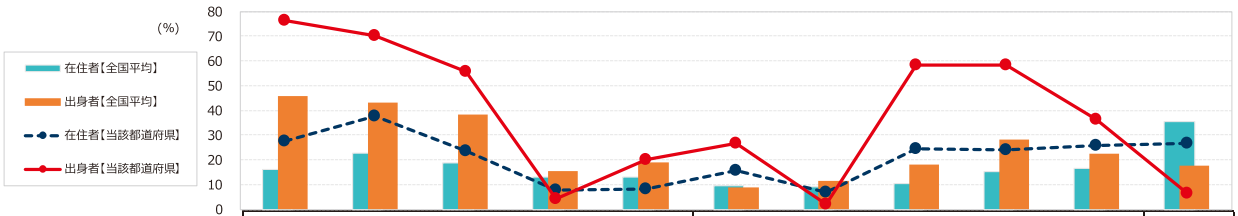
	Uターン意向（加重平均）		関係人口意向（既にしている／したい・計）						離脱意向（加重平均）	
			二拠点生活	ﾜｰｹｰｼｮﾝ	ふるさと納税	事業創出	ボランティア	まちおこし		
全国平均	4.19	順位	32.9	43.4	58.4	37.7	37.3	41.3	3.47	順位
沖縄県全体	4.77	1位	47.2	61.9	65.5	43.9	43.7	47.6	3.18	45位
男性30代以下・計	4.67	4位	46.0	61.8	60.7	43.5	35.0	41.4	3.51	45位
女性30代以下・計	4.88	1位	48.4	61.9	70.2	44.3	52.4	53.8	3.58	35位
既婚・計	4.85	1位	42.2	63.4	63.3	47.5	34.4	45.8	3.03	42位
未婚・計	4.85	2位	50.5	65.2	70.9	45.0	49.9	50.6	3.31	47位
男性・既婚	5.18	1位	44.0	74.1	69.0	61.2	34.5	48.3	3.03	39位
男性・未婚	4.68	7位	46.4	62.4	62.7	40.1	37.3	41.7	3.26	47位
女性・既婚	4.62	1位	41.0	55.9	59.4	37.8	34.3	44.1	3.03	43位
女性・未婚	5.04	1位	55.1	68.4	79.9	50.3	63.7	60.3	3.35	43位

※Uターン意向と関係人口意向は『出身者調査』、離脱意向は『在住者調査』から算出。

都道府県評価

◇ 気質評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。以下にあげることについて、どの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の社会の雰囲気について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。

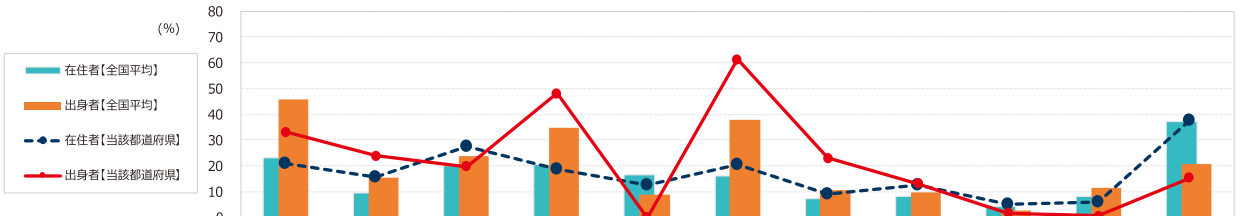


		凝集性					開放性					
		人間関係が濃密でつながりが強い	歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子を重んじる雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	15.9	22.8	18.7	13.1	12.9	9.4	9.2	10.5	15.2	16.6	35.6
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.8	43.3	38.1	15.2	19.0	8.7	11.5	18.2	28.2	22.4	17.7
在住者【当該都道府県】	(n=400)	27.3	37.8	23.5	7.5	8.0	15.5	6.8	24.3	23.8	25.8	26.8
出身者【当該都道府県】	(n=200)	76.5	70.0	55.8	4.0	19.9	26.5	1.8	58.4	58.2	36.5	6.2

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

◇ 生活環境評価

【在住者調査】現在お住まいの地域の生活環境について、以下のようなことはどの程度あてはまるかをお選びください。
【出身者調査】あなたの出身地の生活環境について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。以下にあげることについて、あてはまるものをすべてお選びください。



		住宅のコストや広さなど住環境がよい	中心市街地に活気がある	郊外のショッピングモールが充実している	街並みや風景の美しさが大切にされている	鉄道やバスなど公共交通機関の便がいい	アウトドアスポーツやレジャーで自然を楽しむ機会が多い	音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い	センスのよい飲食店やお店を利用する機会が多い	面白そうな仕事の求人の種類や量が豊富にある	レベルの高い進学校や大学がある	この中にあてはまるものはない
在住者【全国平均】	(n=18800)	23.3	9.4	20.1	20.3	16.6	16.1	7.3	8.0	4.3	8.2	37.3
出身者【全国平均】	(n=8600)	45.7	15.6	23.8	34.9	9.0	37.9	10.6	9.6	2.6	11.6	20.6
在住者【当該都道府県】	(n=400)	21.0	15.5	27.3	18.5	12.5	20.5	9.0	12.5	5.0	5.8	37.5
出身者【当該都道府県】	(n=200)	33.0	23.9	19.6	48.0	—	61.3	22.9	13.2	1.6	0.5	15.4

※各全国平均値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け



Prologue
Introduction
Research
Report
Epilogue

都市集中 再考 ―23区女子たちの憂鬱―

シェアとワーカブルと夜の娯楽

三浦 展（みうら・あつし）

1958年新潟県生まれ。カルチャースタディーズ研究所主宰。社会デザイン研究者。消費社会、家族、若者、階層、都市などの研究を踏まえ、新しい時代を予測し、社会デザインを提案している。ベストセラー『下流社会』(光文社新書)をはじめ、『第四の消費』(朝日新書)、『東京は郊外から消えていく！』(光文社新書)など多数。近著に『首都圏大予測』(光文社新書)、『教養としての都市論』(彰国社)など。

1 地方の女性はなぜ東京に集まるのか？

若い女性はおじさん文化が嫌で地方を出ていく

「女性が多いと会議が長引く」という発言で五輪組織委員会会長を辞任することになった森さん。だがこれは男性の一種の典型であり、あれくらいで辞任するのはおかしいと思った人は、特に男性に多いだろう。女性が話すと話が長いわりに要点が絞られないと思う男性は少なくないからだ。

だがそういう考え方があてはまる女性がいたとしても、それは会社で長く働いた女性ではない場合であって、キャリアの長い女性なら、そんなことはあまりないはずだ。男性でも要領を得ない人はいるわけで、もちろん男女の差の問題ではない。

法政大学総長の田中優子が日経新聞で書いていたが、森発言は「女性蔑視というだけでなく、その会議の議事進行そのものに問題がある」のだ。田中は書く。「私は学部長として教授会の議長をつとめた。総長になってからは7年間、常務理事会、理事会、学部長会議、学校長会議、その他さまざまな会議の議長をした。議長には2つの役割がある。ひとつは時間内に審議を終えることで、もうひとつは、必要なら熟議を尽くすことだ。この2つは矛盾するので、熟議を要する議題がある時は、あらかじめ参考書類を送って目を通していただく。そして会議の目的を明確にしておいて、課題解決のための意見をいただく。提案に異議が出た場合、それがもっともならば継続審議として再提案する。」反対意見が多く出たときは「反対している会議体に熟議を委ね、提案に対する対案を作ってもらった。提案には賛成であっても別の側面から意見を述べる参加者もいる。その場合は『大事な観点である』ことを皆に伝え、議事録に残し、それは改めて審議する。会議は熟議を基本とする。議長は多様な意見に全て耳を傾ける。意味がわからなければ自分の言葉に言い直して確認をとる。趣旨が同じものをまとめ、2つか3つの選択肢にして提案し、決めていただく。つまり大変忙しく充実している。議長が会議をただ長く感じるのであれば、それは議長としての役目を果たしていないからである。」

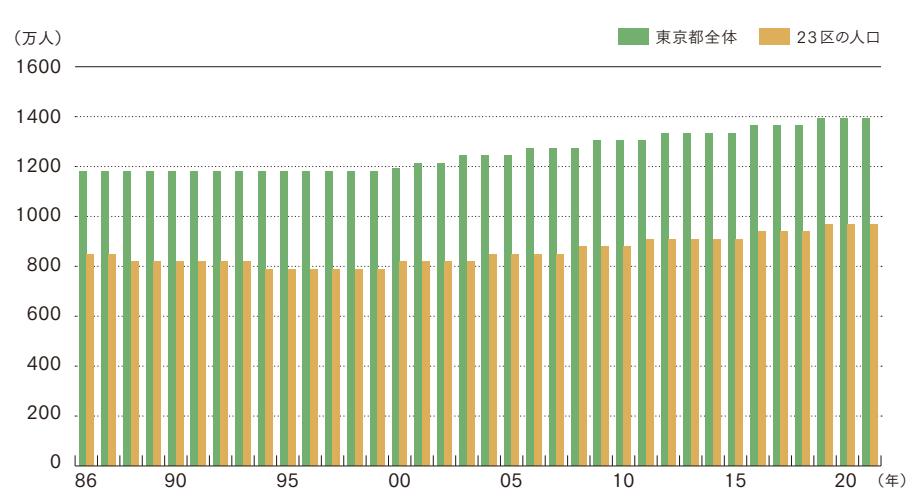
明解である。森さんは「わきまえる」ことが大事だという発言をしてさらに顰蹙を買った。森さんが言うのだから、自分は黙っていようという人だけ会議に出ればいいという発想なのである。

森さんの会議でなくても日本人は会議で発言しない人が多い。私は講演を無数にしてきたが、質問がほとんど出ない。最近は中国人に講演をすることが多いが、公演中にスマホをいじったり、電話がかかってきて席を立ったり、私語が多かったり、まるで学級崩壊のようで腹が立つが、質問はたくさん出るし、質問の内容は的を射ているし、なにしろ積極的なので、腹が立ったのを忘れてこちらも一生懸命答える。終わってみればすがすがしい。日本人相手の講演会では感じることのできないことである。これも日本人に、変にわきまえすぎの人が多すぎるからであろう。

東京などの大企業は、国際的に事業をしているので、ジェンダーなどのポリティカルコレクトネスには敏感である。もちろん法政大学に限らず大学では一層そうである。

だが地方に行くと、いや東京郊外でも23区内でも、80代以上の長老支配は珍しくなく、古い価値観が根強く残っている。だから若い女性は地方から出ていくのだ、と言っても過言ではない。

【図1】東京都の人口



資料：東京都「住民基本台帳」

反対に若い人は元気がない。3年ほど前、ある地方で青年会議所の男性数人と会食したが、まったく大人しくて驚いたことがある。青年会議所と言えば地方の中でも元気な人たちの集まりのはずだが、最近は違ってきたのかと不思議に思った。これも長老達の前でわきまえすぎるからなのか。

こういう地方に嫌気がさして、特に家を継ぐなどということは考えないで済む女性達は、もっと自由と平等のある東京に出て行ってしまうのだ。地方が若い世代、特に女性を集めたかったら、もっと自由で多様性を重視し寛容な土壌をつくらないといけないのである。

都心部ほど女性が増えた

いかに若い女性が東京に集まっているかをデータで示そう。

東京、特に23区の人口は2000年代に入ってから増加してきた。小泉政権による都心再開発政策のためである。都心にタワーマンションなどの住宅が急増し、人口が誘導されたのである。（図1）

では誰が東京にやってきたか。といえば進学、就職を機に若い世代がやってきたのだ。ただし若い世代が東京にやってくる傾向は昔も同じだ。

近年の特徴は女性が男性並みにたくさん東京に来るようになったことである。バブル期の86～89年には東京都への転入者の58％台が男性だったが、近年は52％台である。男女が拮抗してきたのだ。（図2）

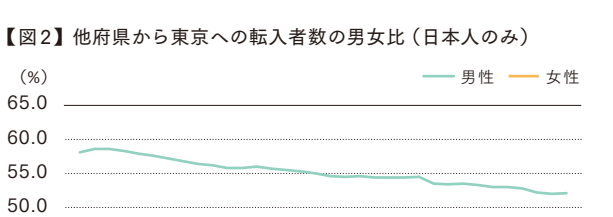
近年のもう一つの特徴は、東京に来た若い世代が30代になっても東京から出て行かなくなったことだ。どうしてかというと、昔はおおむね30歳までには結婚して子どもができたので、郊外に転出していったからだ。

ところが先述した都心居住政策により都心に家族向けの住宅が増えた。お金さえあれば子どもができても都心、23区内に住み続けることができるようになったのだ。

もちろん既婚でも仕事を続け、23区内、特に都心部などに住み続ける女性も増えた。2015年の23区の年齢別の女性比率を見ると、23区全体では年を取ることに女性比率が下がる。25歳では50.8％だが54歳では48.3％である。

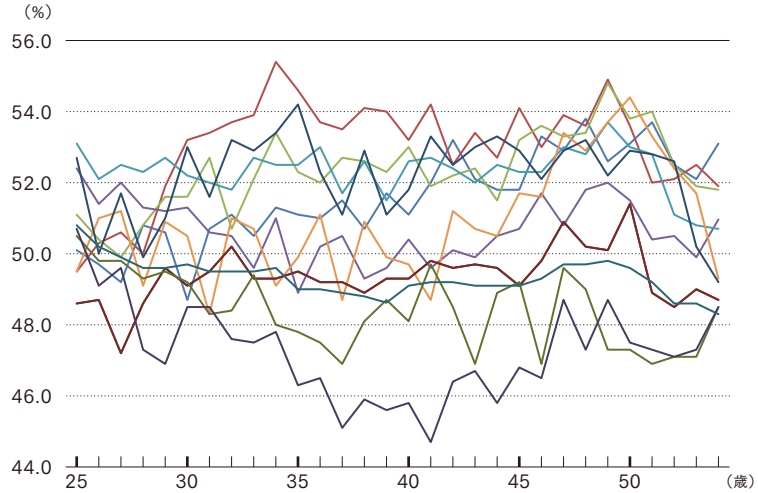
だが文京区、港区、目黒区、杉並区、世田谷区、渋谷区、中央区といった、都心から西南部にかけての地域では、ほぼどの年齢でも女性比率が50％を超え、30代、40代を過ぎるほど女性比率が高まる傾向すらある。50歳を過ぎても女性比率はほぼ50％以上である。つまり女性は東京に長く住むほど都心に集まってくるのである。（図3）

【図2】他府県から東京への転入者数の男女比（日本人のみ）



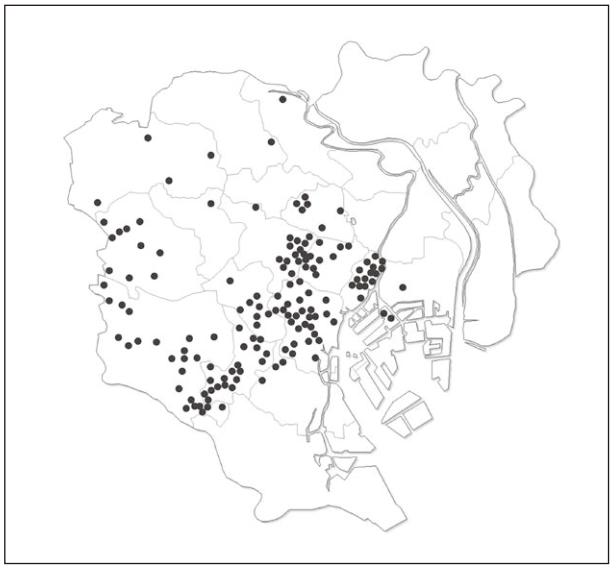
資料：東京都「住民基本台帳」

【図3】23区25～54歳の女性比率（54歳で23区平均以上の区のみグラフ化）



資料：総務省「国勢調査」2015年

【図4】未婚女性が未婚男性より3割以上多い地域



【図5】女性の就業率が高い地域（東京23区）



資料：総務省「国勢調査小地域集計」より（2015年）三浦 展作成／出所：三浦 展『都心集中の真実』

2015年の国勢調査小地域集計をもとに町丁別に未婚女性が未婚男性より3割以上多い地域をプロットすると、より鮮明に都心から西南部にかけての地域が女性に人気であることがわかる（拙著『都心集中の真実』ちくま新書、2018）（図4）。

路線で言うと東急東横線沿線の人気が明らかである。大正期以来開発されてきた良好な住宅地であり、治安もよく、渋谷、恵比寿、青山、六本木、日比谷、大手町、日本橋などに通いやすいことが人気の秘密であろう。

それからおそらく、女性の就業者比率の高い、ファッション、美容などの産業が都心から西南部にかけて多いということも影響しているだろう。

また近年成長しているIT系の企業も大手町、日本橋より渋谷、恵比寿などに多く、女性がそうした産業に吸収されていることも想像できる。そもそもITの求人が多いこともあるし、新しい産業ほど従業員の平均年齢が若く、経営者も若く、男女差別が少ないからであろう。

また女性の就業率が高い地域の町丁をプロットすると図5のようになる（23区全体の女性の就業率は37．5％のため47％以上をプロット）。中央区、および墨田区、江東区の隅田川近くに集積がある。これらの地域にできたマンションに働く女性がたくさん住んでいるのである。いかに働く女性が都心志向であるかがわかる。

都心部ほど出産も多い

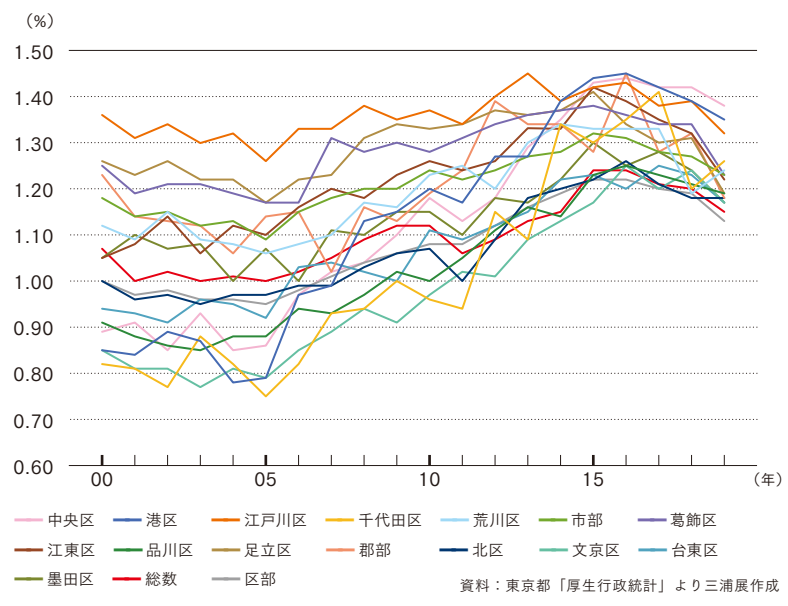
このように、主として高学歴で高収入の女性は都心から西南部にかけて居住地を選択するが、だからといって彼女たちは子どもを産まないわけではない。

23区の区別の合計特殊出生率推移を見ると、中央区、港区、江戸川区、千代田区などは三多摩の市部平均よりも合計特殊出生率が高い。江東区、品川区、文京区、台東区、墨田区など、中央区や千代田区と隣接する区の合計特殊出生率も区部平均より高い。子どもがいるからこそ会社に近いところに住みたいからであろう。

対して、多摩ニュータウンのある多摩市は合計特殊出生率が1．15であるが、それは東京都全体の合計特殊出生率と同じであり、先に挙げた中央区から墨田区のほうが合計特殊出生率は高い。

ニュータウンというのは、本来は子育てをする若い核家族のため

【図6】23区別合計特殊出生率推移（区部平均以上の区のみ）



資料：東京都「厚生行政統計」より三浦展作成

につくられたのだが、現在では、都心よりも合計特殊出生率は少ないのである（ただし、出産後に多摩市など郊外に転出する人がいることは確かである）。多摩市に住んで都心に通うことは子育て期の人にとっては苦痛でしかないからだ。（図6）

このように見ると、女性が男性並みに4年制大学に進むなど高学歴化し、結婚出産後も働くことが前提となった現代では、東京、特に都心の近くに住むほうが

① 多様な職種が大量にあり、仕事の選択肢が多い。
② 高収入を得られるチャンスが多い。
③ 魅力的な男性に出会うチャンスが多い。
④ 地方・親元のように早く結婚しろと言われにくい。
⑤ 地方のように嫁と見なされて余計な仕事が増えない。

というメリットがある。そのため女性が東京にひきつけられるのである。

共働きで子育てしやすい地域が選ばれる

さらに拙著『首都圏大予測 これから伸びるのはクリエイティブ・サバーブだ！』では1都3県で同じような町丁別の分析を行った。先ほど23区で女性の就業率の高い町丁をプロットした図を見たが、これを1都3県で見てみよう。（図7）

すると23区の外側では以下の地域で女性の就業率が高い。

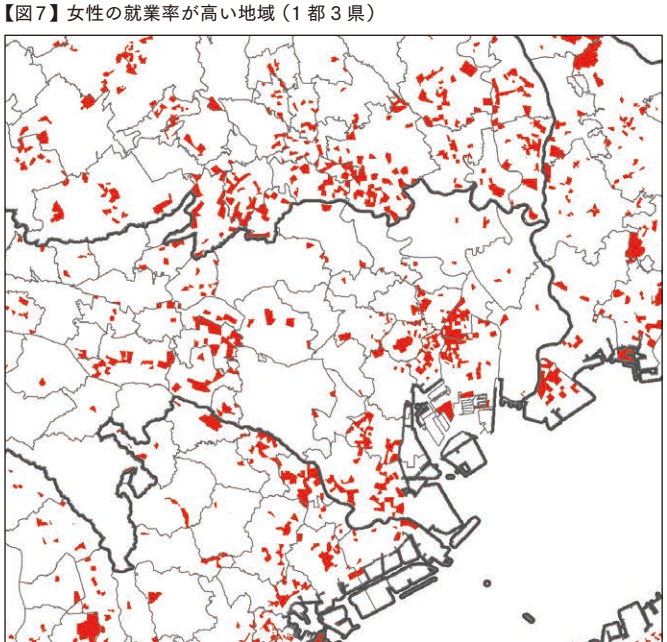
① 23区に隣接した三多摩の武蔵野市、三鷹市、調布市、府中市。
② 神奈川県では川崎市全体、川崎市中原区から横浜市中区にかけての東横線沿線、そして横浜市神奈川区、西区あたりの業務集積が多い地域。
③ 埼玉県では23区に隣接した川口市、蕨市、戸田市、和光市、朝霞市、新座市、三郷市、八潮市あたり。
④ 千葉県でも23区に隣接した浦安市、船橋市あたり。

このように、ほぼ23区に隣接した市で女性の就業率が高い。都心に通勤するから23区内がいいが、家賃が高いからそのすぐ外側に住む、という選択がされていることが想像できる。

逆に女性の就業率が低い地域を見てみると、都心近くでは港区、渋谷区あたり、次にその西側の東急大井町線沿線あたり、そして町田から横須賀までの多摩丘陵上の地域に女性の就業率が低い地域が面として広がっていることがわかる。（図8）

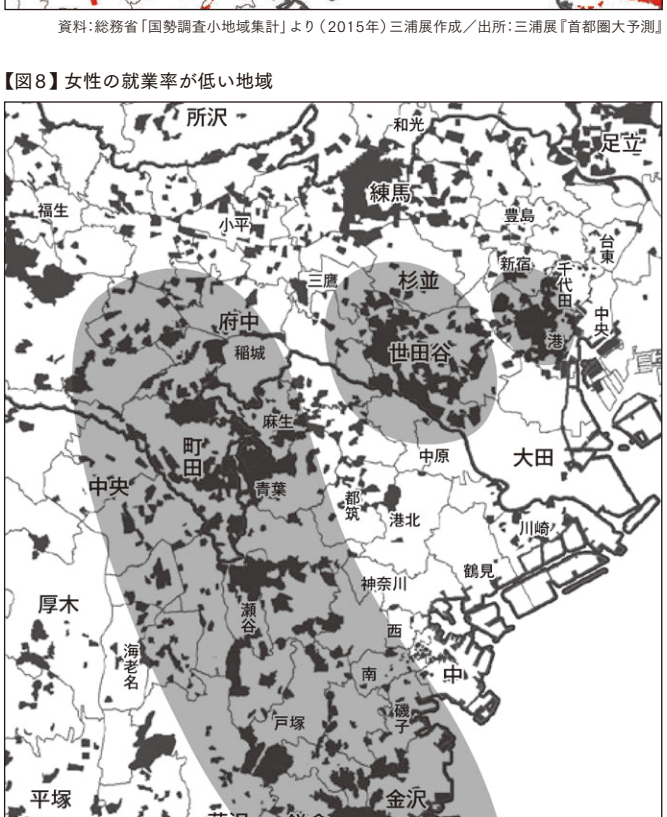
つまりこれは専業主婦の多い地域である。私のかつての「第四山の手論」における第二山の手から第四山の手にぴったりと符合する。夫が主に稼ぎ、妻が家事と育児を担当するという「伝統的」な家族形態が維持されているのが、これらの地域なのだ（第四山の手論については アクロス編集室『「東京」の侵略』あるいは拙著『下流社会』参照）。

【図7】女性の就業率が高い地域（1都3県）



資料：総務省「国勢調査小地域集計」より（2015年）三浦展作成／出所：三浦展『首都圏大予測』

【図8】女性の就業率が低い地域



資料：総務省「国勢調査小地域集計」（2015年）より三浦展作成／出所：三浦展『首都圏大予測』

国勢調査小地域集計では、年齢別の集計がないが、おそらくこれらの地域は年齢的には60代以上が中心であり、そうした伝統的家族形態をとることが当たり前だった時代に結婚・出産・子育てをした世代が多いのであろう。

このように、女性の就業率が高い地域と低い地域は首都圏の中で歴然と分かれている。どちらがこれからの時代に求められているかは明らかである。共働きの夫婦が子育てもしやすいことが、これからの日本の地域社会に求められる必須条件だからである。

『首都圏大予測』を書いたのはコロナ流行の直前であったが、結果としてコロナがリモートワークを促し、23区の人口を減らし、郊外の人口を増やすことになった。だが、郊外ならどこでも人口が増えるということではないと思う。

① やはり週に2、3回は会社に行くとすれば都心近くがよい。
② 利便性の割に家賃が安めのほうがよい。
③ 専業主婦が多い地域ではなんとなく雰囲気的に共働きがしにくい。女性の就業率が高い市区はもともと商工混在の地域が多く、女性が働くことが当たり前の下町的な雰囲気がある。自然環境はやや劣るが、女性が外で働きやすい雰囲気があるほうがよい。

こうした条件から、先ほど見た女性の就業率が高い地域が今後の郊外の中では発展の可能性が高いと私は考えている。

もちろん、これまで専業主婦型だった郊外でも今後は工夫次第で発展の可能性はある。だが女性の多様な生き方が可能であることが必須の条件であることは間違いない。

もし地方が出産の可能性の高い若い女性に対して、東京に出て行って欲しくない、東京から帰ってきて欲しいと考えるなら、先ほどの

① 多様な職種が大量にあり、仕事の選択肢が多い。
② 高収入を得られるチャンスが多い。
③ 魅力的な男性に出会うチャンスが多い。
④ 地方・親元のように早く結婚しろと言われにくい。
⑤ 地方のように嫁と見なされて余計な仕事が増えない。

という条件を揃える必要がある。だが多様な職種が大量にあるとか、高収入を得られるチャンスという点で地方が東京と争うのは厳しい。

魅力的な男性というのも、概ね高収入であることと比例するため、東京にはかなわない。

となると、結婚・出産をせかさない、結婚しても○○家の嫁と見なさず、個人として扱うといった態度の変容くらいはしないと女性は集まらないだろうという結論になる。

2 移住希望者と非・希望者の意識と価値観の差

「定住型男性」と「移住型女性」の価値観の差が大きい

2020年11月にカルチャースタディーズ研究所が行った「現代日本人の意識と価値観調査」※によると、今後移住を考えている人と考えていない人の意識の差は少なくない。

男女の差はもっと大きいので、移住を考えている女性と考えていない男性の差が顕著である（年齢による差はあまりない）。

移住を考えている女性が考えていない男性より10ポイント以上多い意識としては以下のようなものがある。（図9）

① 結婚しなくても幸せに生きられる社会にするべきだ。
② LGBT（同性愛など）の差別をなくすべきだ。
③ 夫婦別姓でもよいようにするべきだ。
④ 女性がもっと有利な条件・高い年収で働けるような社会にするべきだ。
⑤ 男性の家事や育児の時間が短い。
⑥ 有給休暇やリモートワークなどによって時間と空間を自由に使う暮らしがしたい。
⑦ 児童虐待への対策が遅れている。
⑧ まわりの目や声が気になる生きづらい世の中になった。
⑨ 女性が政治や経営のトップに少ない。
⑩ 同性婚が認められていないのは問題だ。
⑪ サラリーマン以外の働き方をしても安心して生きられるようにすべきだ。
⑩ セクハラ、パワハラが多い。
⑬ 高齢者が増えて若い世代が損をする状況がますます拡大する
⑭ 見合い結婚もいいと思う。

あきらかに結婚、性別、家事・育児、働き方に関する項目が多い。結婚をしてもしなくてもいいし、同性同士が結婚してもいいし、夫婦別姓でもいいし、逆に見合い結婚もいいかもしれない、というように、結婚に対して多様な価値観を求めていることがわかる。

またリモートワークなどで時間と空間を自由に使いたいし、まわ

※三菱総合研究が毎年行っている3万人調査「生活者市場予測システム」の2020年6月調査のサンプルのうち全国25～54歳の男女にカルチャースタディーズ研究所が追加調査したもの。

りの目や声を気にしないで生きたいし、サラリーマン以外の働き方もしたい。もちろん女性の働く条件はもっと向上するべきだし、女性が政治や経営のトップに立つことも増えるべきであり、セクハラ・パワハラはもちろん問題外だと思っている。

ひとことでいうと、人間の、特に女性の多様な生き方に関する認識について、「定住型男性」と「移住型女性」の差が大きいわけである。

【図9】移住を考えている女性と考えていない男性の意識の差
—— ジェンダー、結婚、働き方についての差が大きい

平均より有意に多く、間違う確率5％未満　平均より有意に少なく、間違う確率5％未満
平均より有意に多く、間違う確率10％未満　平均より有意に少なく、間違う確率10％未満
（以下同様）

	男性		女性		移住を考える女性と考えない男性の差（ポイント）
	移住は考えていない	移住を考えている	移住は考えていない	移住を考えている	
結婚しなくても幸せに生きられる社会にするべきだ	7.9%	14.2%	21.0%	29.1%	21.2
LGBT（同性愛など）の差別をなくすべきだ	11.4%	16.0%	19.3%	30.1%	18.7
夫婦別姓でもよいようにするべきだ	8.5%	11.5%	17.0%	26.4%	17.9
女性がもっと有利な条件・高い年収で働けるような社会にするべきだ	6.5%	8.0%	18.5%	24.3%	17.8
年金・医療費など社会保障が不安だ	28.2%	28.1%	43.3%	45.5%	17.3
自分たちが高齢者になったときに社会がうまくいくか不安だ	21.4%	24.3%	33.2%	38.4%	17.0
男性の家事や育児の時間が短い	6.7%	11.5%	20.3%	22.9%	16.2
延命のためだけの医療を見直すべきだ	16.7%	19.2%	20.3%	31.5%	14.8
有給休暇やリモートワークなどによって時間と空間を自由に使う暮らしがしたい	11.7%	13.6%	14.3%	26.4%	14.7
安心して老後が暮らせる福祉社会を実現すべきだ	17.2%	16.6%	26.7%	31.5%	14.3
児童虐待への対策が遅れている	12.6%	13.6%	22.3%	26.4%	13.8
まわりの目や声が気になる生きづらい世の中になった	13.6%	13.6%	19.7%	27.1%	13.5
コロナなど新型の疫病への対策が遅れている	17.2%	15.1%	23.2%	29.8%	12.6
女性が政治や経営のトップに少ない	8.0%	11.8%	18.3%	20.5%	12.5
土地や住宅の値段が高すぎる	13.8%	21.0%	19.2%	25.7%	11.9
同性婚が認められていないのは問題だ	4.0%	8.0%	10.3%	15.4%	11.4
サラリーマン以外の働き方をしても安心して生きられるようにすべきだ	14.1%	21.0%	17.2%	25.3%	11.2
SNS により人々の発言が攻撃的になっている	18.9%	19.5%	28.6%	30.1%	11.2
個人情報が盗まれそうである	16.2%	18.3%	25.4%	27.1%	10.9
何かにつけて文句を言う人（クレーマー）が増えていて困る	25.8%	28.7%	31.0%	36.6%	10.8
地球温暖化・異常気象・省エネなどへの対策が遅れている	12.2%	15.4%	20.9%	22.9%	10.7
セクハラ、パワハラが多い	14.3%	18.3%	18.4%	25.0%	10.7
高齢者が増えて若い世代が損をする状況がますます拡大する	14.7%	21.3%	21.0%	25.3%	10.6
見合い結婚もいいと思う	10.8%	13.0%	16.6%	21.2%	10.4

資料：下流社会15年後研究会「現代日本人の意識と価値観調査」2020年

移住したい地方在住女性は ジェンダー的な問題に不満が多い

次に、移住を考えている女性の地域差（居住地による差）を見てみる。

まず東京圏（1都3県）と関西圏（大阪・京都・兵庫）と地方（東京圏・関西圏以外）に分けて集計し、東京圏とその他の比較をしてみる。（図10）（図11）

すると地方で多いのは「地域の付き合いがわずらわしい」という地方らしい問題、「男性の家事や育児の時間が短い」「LGBT」「女性が政治や経営のトップに少ない」といったジェンダー的な問題などが多く上位を占める。

なお、地方なのに「教育にお金がかかりすぎる」が1位なのは、地方では所得が低いのに塾などにかかるお金が増えているからであろう。

個人的なことを言えば、1970年代に中学・高校・大学を受験した私の時代には、新潟県の上越市という地方中規模都市には塾は1つしか存在しなかった。塾に行くのは例外的だったのだ。今は中学時代から塾に行くのは当然らしい。もしかすると中学受験のために塾に行く子どももいるだろう。

東京圏から移住したい女性は 現代社会に疑問を持っている

逆に地方が東京圏より少ないのは何か。「有給休暇やリモートワークなどによって時間と空間を自由に使う暮らしがしたい」といった働き方に関する項目が1位となった。

「農業もしながら暮らしたい」「貧しくても心の豊かさがある社会にすべきだ」「地方の自然やゆったりした生活を維持するべきだ」「日本の伝統的な職人文化を再評価するべきだ」といった、都会にはない豊かさ・ゆとりあるいは伝統文化を地方に求める意見も多い。「日本の社会に閉塞感（出口が見えない感じ）がある」「今の時代には空虚感（むなしさ）がある」「個人が夢や希望を持てなくなった」という項目も東京圏の女性のほうが多い。

総じて都会生活に疲れている、もっというと近代主義的・競争主義的な価値観・生活に疲れている、あるいは疑問を持っている女性が地方への移住を考えているようである。

なお、「夫婦別姓でもよいようにするべきだ」「同性婚が認められていないのは問題だ」「男性の育児休暇を義務にするべきだ」「セクハラ、パワハラが多い」については地域差はあまりない。

「正規雇用や非正規雇用の区別をなくして、みんなが能力やライフスタイルに合わせて契約をして働くほうがよい」「氷河期世代・ロストジェネレーションへの支援が足りない」といった働き方についての意見も地域差はなかった。

【図10】移住希望女性の地域差－1：地方が東京圏より5ポイント以上多い
――ジェンダーや長老支配など因習に対する不満が地方にない

	東京圏	地方（東京圏・関西圏以外）	差（ポイント）
合計	101	151	
教育にお金がかかりすぎる	14.9%	29.1%	14.2
児童虐待への対策が遅れている	19.8%	32.5%	12.7
地域のつきあいがわずらわしい	9.9%	20.5%	10.6
男性の家事や育児の時間が短い	16.8%	25.8%	9.0
面と向かって、自分の考えを主張したり、意見をぶつけて議論し合ったりすることがしづらくなった	5.0%	13.9%	8.9
生活保護など最低限の生活を維持する政策が不足している	7.9%	16.6%	8.7
LGBT（同性愛など）の差別をなくすべきだ	25.7%	33.8%	8.1
官僚支配が強すぎる	11.9%	19.9%	8.0
ＮＨＫが特定の政権を支持しているのは問題だ	15.8%	23.8%	8.0
お金や経済について教育で十分教えていない	24.8%	32.5%	7.7
ブラック企業が多い	25.7%	33.1%	7.4
女性が政治や経営のトップに少ない	16.8%	23.8%	7.0
金持ちが社会や文化に貢献していない	11.9%	18.5%	6.6
ベンチャー企業や新しい企業が十分に育っていない	2.0%	8.6%	6.6
学歴偏重社会だ	6.9%	13.2%	6.3
画一的な大量生産品ではなく、自分に最適なモノやサービスを選べる仕組みをつくってほしい	5.0%	11.3%	6.3
結婚しなくても幸せに生きられる社会にするべきだ	24.8%	30.5%	5.7
恋愛や結婚にはあまり興味がない	6.9%	12.6%	5.7
国際情勢を見ていると政治には強力なリーダーが必要な時代だ	6.9%	12.6%	5.7
子どもの教育・保育・貧困問題などへの支援が足りない	17.8%	23.2%	5.4
地域コミュニティが崩壊している	4.0%	9.3%	5.3
失敗するのはその人が悪いという自己責任の考え方が社会に広まり過ぎた	7.9%	13.2%	5.3
３連休が増えたので仕事や勉強の邪魔である	0.0%	5.3%	5.3
介護対策が遅れている	20.8%	25.8%	5.0

資料：下流社会15年後研究会「現代日本人の意識と価値観調査」2020年

【図11】移住希望女性の地域差－2：地方が東京圏より５ポイント以上少ない
―― 自由で多様な生き方を求める声が東京圏に多い

	東京圏	地方（東京圏・関西圏以外）	差（ポイント）
合計	101	151	
有給休暇やリモートワークなどによって時間と空間を自由に使う暮らしがしたい	34.7%	19.9%	-14.8
コロナなど新型の疫病への対策が遅れている	38.6%	27.2%	-11.4
日本の伝統的な職人文化を再評価するべきだ	26.7%	17.2%	-9.5
日本の社会に閉塞感（出口が見えない感じ）がある	27.7%	18.5%	-9.2
親子が近くに住むなど、ゆるやかに大家族的に暮らしたい	13.9%	5.3%	-8.6
見合い結婚もいいと思う	25.7%	17.2%	-8.5
金持ちの税金を増やすべきだ	32.7%	24.5%	-8.2
気軽に立ち寄れる居場所がない	12.9%	5.3%	-7.6
表現の自由に行きすぎたところがあるので、ある程度制限したほうがよい	10.9%	3.3%	-7.6
公務員を減らすべきである	20.8%	13.2%	-7.6
コンビニ、ファミレス、ショッピングモールなど全国に同じチェーンが増えたのはつまらない	16.8%	9.3%	-7.5
社会から規律・秩序がなくなっている	17.8%	10.6%	-7.2
新聞・ジャーナリズムがだめになった	16.8%	9.9%	-6.9
新しい技術が次々登場して、ついていけない	13.9%	7.3%	-6.6
農業もしながら暮らしたい	9.9%	3.3%	-6.6
貧しくても心の豊かさがある社会にすべきだ	22.8%	16.6%	-6.2
対中国・北朝鮮・韓国政策が軟弱だ	20.8%	14.6%	-6.2
東京一極集中しすぎている	29.7%	23.8%	-5.9
真面目に働く人がむくわれるべきだ	41.6%	35.8%	-5.8
今の時代には空虚感（むなしさ）がある	25.7%	19.9%	-5.8
外交力が弱い	20.8%	15.2%	-5.6
原発依存を脱するべきだ	18.8%	13.2%	-5.6
大阪など地方の大都市の人口を増やし東京とバランスをとりながら発展させるべきだ	14.9%	9.3%	-5.6
ネットなどにより個人のプライバシーが侵害され始めている	26.7%	21.2%	-5.5
個人が夢や希望を持てなくなった	26.7%	21.2%	-5.5
古い街並みを活かしたまちづくりをすべきだ	16.8%	11.3%	-5.5
完全な男女平等というのは面倒だ	13.9%	8.6%	-5.3
自分の発言や行動がインターネットを通じて誰かにつかまれているかと思うと、発言や行動を控えることがある	13.9%	8.6%	-5.3
個人の自由が拡大しすぎている	9.9%	4.6%	-5.3
地方の自然やゆったりした生活を維持するべきだ	17.8%	12.6%	-5.2

資料：下流社会15年後研究会「現代日本人の意識と価値観調査」2020年

東京圏で移住したい女性は高学歴・正規雇用・高年収が多い

また女性で移住希望者の属性をmif三菱総合研究所「生活者市場予測システム」の2020年6月の調査によって集計してみる（そのため追加調査の「現代日本人の意識と価値観調査」とはサンプルが異なる）。（図12）

すると、東京圏の女性と地方の女性の差は意外なことにほとんどなかった。

移住希望者の年齢は移住を希望しない人より若めであり25～29歳が多く、よって未婚者が多く、子どものいない人が多い。

ただし地方では移住希望者で未婚者の割合が東京圏より少なく、したがって子どもがいる人がやや多めである。

学歴は東京圏も地方も移住希望者が希望しない人より4年制大学卒の割合が5ポイント多い。高学歴化が移住希望を高めるのである。

就業状況は移住希望者のほうが正規雇用が多い。東京圏のほうが地方よりも移住希望者と移住を希望しない人の正規雇用率の差が大きい。東京圏では正規雇用であることが地方よりも移住希望を高めると言える。

年収は東京圏では移住希望者のほうがやや高い。

また移住希望者は生活全般満足度がやや低い。地方の移住希望者でややその傾向が強めである。

分野別で特に不満が多く、かつ移住希望していない人との差が大きいのは、東京圏では、仕事・学業、能力発揮、仕事や学校での付き合い、住環境、健康、余暇・レジャーである。

また東京圏で、不満の数値は少ないが、移住希望していない人との差が大きめなのは、生活安全度、家族とのコミュニケーション、社会貢献活動（寄付・ボランティア活動）である。

地方で特に不満が多く、かつ移住希望していない人との差が大きいのは、ファッション、住環境、能力発揮である。ファッションが登場するのが面白い。住環境への不満はおそらく住宅地そのものではなく、地域の文化レベルの不満であろう。

ストレスの原因についての質問では、東京圏の移住希望者は仕事上の人間関係が多く、移住希望しない人との差が大きい。

地方では親あるいは配偶者の親との関係が多く、地域独特の古い人間関係がストレスになっていることがわかる。

総合すると、地方で移住を希望するのは高学歴の女性であり、古い人間関係や自分の高い能力を発揮する場の不足に不満を持っている。古い人間関係が残っているからこそ、女性が能力を発揮しきれないのである。

【図12】移住希望者と移住希望しない人の属性比較（東京圏と地方の女性25～54歳）
――地方の若く高学歴な女性は移住希望が強い

		東京圏		地方	
		移住は考えていない	移住を考えている	移住は考えていない	移住を考えている
人数		2,310	934	3,717	1,376
年齢	女性 25-29 歳	16%	21%	14%	21%
	女性 30-34 歳	15%	15%	13%	17%
	女性 35-39 歳	14%	14%	15%	14%
	女性 40-44 歳	18%	15%	19%	16%
	女性 45-49 歳	21%	18%	20%	17%
	女性 50-54 歳	17%	16%	19%	16%
配偶	未婚	34%	44%	30%	35%
	既婚	61%	50%	62%	57%
	離別	5%	6%	8%	7%
	死別	0%	0%	1%	0%
子ども	いる	45%	30%	54%	43%
	いない	55%	70%	46%	58%
学歴	中学校卒	2%	1%	2%	2%
	高校卒	20%	17%	33%	26%
	専門学校・専修学校卒	14%	15%	16%	16%
	短大・高等専門学校卒	16%	12%	18%	18%
	4年制大学卒	43%	48%	29%	34%
	修士課程修了	3%	4%	2%	3%
	博士課程修了・単位取得退学	0%	2%	0%	1%
	浪人中	0%	0%	0%	0%
	その他	1%	1%	1%	1%
就業形態（主なもの）	会社員（正社員）・団体職員	42%	50%	38%	41%
	公務員	3%	3%	4%	4%
	嘱託社員・契約社員	7%	6%	7%	7%
	派遣社員	7%	7%	3%	5%
	パート・アルバイト	34%	25%	40%	33%
年収	200万円未満	55%	47%	63%	60%
	200～300万円未満	12%	13%	14%	14%
	300～400万円未満	11%	12%	9%	10%
	400～500万円未満	7%	9%	4%	5%
	500～700万円未満	6%	8%	3%	3%
	700～1000万円未満	2%	4%	1%	1%
	1000万円以上	1%	1%	0%	0%
	わからない	6%	6%	7%	6%
生活全般満足度	満足	10%	8%	9%	7%
	どちらかといえば満足	43%	42%	44%	38%
	どちらともいえない	25%	22%	24%	25%
	どちらかといえば不満	13%	16%	14%	19%
	不満	6%	9%	6%	10%
	わからない	3%	2%	3%	2%

		東京圏		地方	
		移住は考えていない	移住を考えている	移住は考えていない	移住を考えている
仕事・学業満足度	満足	5%	5%	4%	3%
	どちらかといえば満足	21%	22%	20%	17%
	どちらともいえない	41%	35%	43%	38%
	どちらかといえば不満	14%	16%	14%	18%
	不満	10%	15%	10%	14%
	わからない	10%	8%	10%	10%
食事満足度	満足	12%	11%	10%	9%
	どちらかといえば満足	42%	42%	44%	40%
	どちらともいえない	33%	31%	33%	32%
	どちらかといえば不満	8%	10%	9%	13%
	不満	4%	5%	3%	5%
	わからない	1%	1%	2%	2%
ファッション満足度	満足	5%	5%	4%	3%
	どちらかといえば満足	28%	30%	25%	24%
	どちらともいえない	43%	40%	47%	41%
	どちらかといえば不満	15%	18%	17%	22%
	不満	5%	5%	4%	6%
	わからない	4%	3%	4%	3%
住環境満足度	満足	14%	8%	10%	6%
	どちらかといえば満足	35%	34%	35%	27%
	どちらともいえない	30%	27%	33%	29%
	どちらかといえば不満	12%	18%	12%	20%
	不満	6%	12%	7%	16%
	わからない	3%	2%	2%	3%
生活安全度満足度	満足	11%	9%	9%	10%
	どちらかといえば満足	40%	40%	39%	35%
	どちらともいえない	33%	29%	34%	32%
	どちらかといえば不満	9%	12%	10%	13%
	不満	4%	8%	6%	8%
	わからない	3%	2%	3%	3%
健康満足度	満足	7%	7%	5%	4%
	どちらかといえば満足	30%	30%	30%	26%
	どちらともいえない	35%	28%	35%	31%
	どちらかといえば不満	18%	20%	19%	23%
	不満	9%	13%	9%	14%
	わからない	3%	2%	2%	2%
能力発揮満足度	満足	3%	3%	3%	2%
	どちらかといえば満足	18%	17%	16%	14%
	どちらともいえない	50%	44%	52%	46%
	どちらかといえば不満	15%	19%	15%	19%
	不満	7%	12%	6%	13%
	わからない	8%	6%	9%	7%

		東京圏		地方	
		移住は考えていない	移住を考えている	移住は考えていない	移住を考えている
余暇・レジャー満足度	満足	8%	8%	7%	7%
	どちらかといえば満足	32%	34%	33%	27%
	どちらともいえない	35%	29%	36%	37%
	どちらかといえば不満	15%	18%	15%	18%
	不満	7%	8%	6%	9%
	わからない	3%	2%	2%	2%
仕事や学校での付き合い満足度	満足	5%	4%	4%	3%
	どちらかといえば満足	21%	24%	21%	17%
	どちらともいえない	48%	43%	49%	48%
	どちらかといえば不満	9%	11%	9%	12%
	不満	6%	9%	6%	8%
	わからない	11%	9%	12%	12%
家族とのコミュニケーション満足度	満足	17%	15%	14%	13%
	どちらかといえば満足	37%	34%	39%	33%
	どちらともいえない	32%	31%	32%	33%
	どちらかといえば不満	7%	12%	8%	12%
	不満	4%	5%	4%	6%
	わからない	3%	3%	3%	3%
友人・知人との付き合い満足度	満足	8%	7%	6%	6%
	どちらかといえば満足	32%	32%	30%	27%
	どちらともいえない	38%	35%	42%	39%
	どちらかといえば不満	12%	15%	13%	17%
	不満	5%	6%	5%	7%
	わからない	5%	4%	5%	5%
地域の方との付き合い満足度	満足	5%	5%	3%	4%
	どちらかといえば満足	17%	14%	18%	13%
	どちらともいえない	55%	55%	57%	52%
	どちらかといえば不満	8%	10%	9%	12%
	不満	4%	5%	4%	7%
	わからない	12%	12%	11%	13%
社会貢献活動（寄付・ボランティア活動）満足度	満足	3%	3%	2%	2%
	どちらかといえば満足	8%	9%	8%	9%
	どちらともいえない	62%	58%	62%	56%
	どちらかといえば不満	7%	10%	8%	12%
	不満	3%	5%	3%	4%
	わからない	18%	16%	17%	17%
ストレスの原因（主なもの）	仕事上の人間関係	34%	42%	36%	37%
	親あるいは配偶者の親との関係	22%	26%	23%	29%
	仕事の過労	20%	23%	20%	21%
	精神的な打撃	17%	22%	16%	23%
	経済的な問題	31%	38%	33%	37%

資料：三菱総合研究所「生活者市場予測システム」2020年

東京の移住希望者女性は シェアリングとエコロジーを好む

対して、東京圏の移住希望女性が持つ仕事上の人間関係の不満とは何だろうか。

具体的にどういう不満を抱えているのかはわからないが、以下のようなデータからは、たとえば東京圏で働く彼女たちの不満には、こんなものもあるかも知れないと想像する。

① シェアビジネスを始めたいが、今勤めている企業はあくまで物をたくさんつくって売ることだけが使命であり、シェアでは儲からないと上司に言われる。

② 化学メーカーに勤めており、自分としては自然派の洗剤をつくりたいが、あくまで合成洗剤しか作れない。（実際にこういう経験をした女性がその後アメリカに留学して今は日本でまちづくりなどの仕事をして大活躍している例がある）

③ 今問題になっているマイクロプラスチックをなくしたいが、今勤めている企業では対応が難しい。個人的には木や陶磁器の製品が好きなので、そうした分野に進めないか悩んでいる。

④ 不動産企業で再開発事業をしているが、古い家や店を壊さずにリノベーションして使い続ける仕事がしたいと悩んでいる。

⑤フェアトレードに関心があるが、今勤めている企業は低開発国から買いたたくことで利益を得ているのが悩ましい。

つまり、東京の最先端で働いている女性だからこそ、環境やシェアリングなどについても最先端の情報を得ており、それらの問題を解決する仕事をしたいが、現在の職場では遅々として進まない、という悩みかも知れないのである。東京圏の移住希望女性に高学歴・正規雇用・高収入の人が多いことからも、その仮説はある程度想定される。

そこでさらに、東京圏在住女性の移住希望者の特徴をシェアリングやエコロジー関連の質問とのクロス集計から見てみよう。

私の取材経験から言っても、移住経験者はシェアハウスに住むなどシェアリングとの親和性が高い。

実際 mif でも、シェアハウスに住んでいるかどうかに「あてはまる」人は移住を近々考えている人が多めである。

また民泊、会議室、ウーバーなどの輸送サービス、カーシェア、衣服のシェアなども、それらを利用している人ほど移住希望者が多い。

シェアハウス、民泊に住む人は他者とフランクにコミュニケーションできる、あるいはそのコミュニケーション自体を楽しもうとする人

【図 13】シェアハウスに住んでいる女性は移住を考えている人が 4 割近い：25 ～ 54 歳

	人数	移住は考えていない	今後 1 年の間に移住を考えている	今後 5 年をめどに移住を考えている	今後 10 年をめどに移住を考えている	具体的な時期は決まっていないが検討したい	既に移住したことがある
女性	10,024	70.4%	3.7%	6.0%	1.9%	15.1%	2.8%
あてはまる	194	60.3%	9.8%	13.4%	2.6%	9.3%	4.6%
ややあてはまる	1126	62.8%	7.8%	9.4%	3.7%	9.9%	6.3%
あてはまらない	8704	71.6%	3.1%	5.4%	1.6%	15.9%	2.4%

資料：三菱総合研究所「生活者市場予測システム」2020年

【図 14】シェアリングエコノミーを利用する女性は移住を考えている人が多い：25 ～ 54 歳

	人数	移住は考えていない	今後 1 年の間に移住を考えている	今後 5 年をめどに移住を考えている	今後 10 年をめどに移住を考えている	具体的な時期は決まっていないが検討したい	既に移住したことがある
女性	10,024	70.4%	3.7%	6.0%	1.9%	15.1%	2.8%
民泊（Airbnb、とまりーな、STAY JAPAN 等）	222	41.0%	12.2%	18.0%	4.1%	20.3%	4.5%
会議室・イベントスペース等（スペースマーケット、Spacee 等）	154	44.8%	14.3%	11.7%	5.8%	20.8%	2.6%
駐車場・農地等のスペース（akippa、軒先パーキング等）	224	58.9%	7.1%	15.2%	3.6%	13.4%	1.8%
輸送サービス（Uber、Uber eats、notteco 等）	231	48.9%	10.8%	14.7%	4.3%	19.9%	1.3%
カーシェア、サイクルシェア	231	49.8%	10.0%	14.3%	5.2%	19.0%	1.7%
衣服・ブランド品等のモノ（Laxus、SUSTINA 等）	88	45.5%	13.6%	15.9%	3.4%	21.6%	0.0%
知識や能力（TimeTicket、ANYTIMES 等）	28	32.1%	21.4%	28.6%	3.6%	10.7%	3.6%
クラウドファンディング（Makuake、READYFOR 等）	165	53.3%	6.1%	9.1%	3.6%	22.4%	5.5%
その他のシェアリングエコノミーサービス	9	44.4%	0.0%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%
利用したことがない	9010	72.5%	3.1%	5.1%	1.7%	14.7%	2.8%

資料：三菱総合研究所「生活者市場予測システム」2020年

が多いので、見知らぬ移住先でもうまくやっていける自信があるのだろう。(図13)(図14)

また東京圏で移住希望の女性は、旅行好きであり、体験したい旅行内容についても「自然にふれること」「土地の文化を感じること」「名所・旧跡」などが多く、自然、文化、歴史に関心が高いことがわかる。(図15)

自然志向については、現在の生活で「無農薬・有機農産物や食品添加物を含まない自然食品を利用する」とか「天然素材のオーガニック化粧品、自然派化粧品を利用する」といった傾向も強い。

また彼女たちは地方の良さを活かした暮らしに関心が高い。「自然や地球環境を大事にしたい」「今後:自然が豊かな場所に住みたい」、「地域固有の自然や文化の保全が不十分」であることを重要な問題、あるいは早急に解決すべき問題と考えている人が多いのである。(図16)

このように、東京圏から来る可能性のある移住希望者はシェアリングやエコロジーに関心が高い。それぞれの地方固有の町の歴史・文化・街並みの活かし方にも関心がある。仕事をしながら、シェアリングやエコロジーに関わる活動やまちづくりができるということが、彼女たちにとって地方移住をするための大きなインセンティブになりそうである。

他方、地方ではあいかわらず東京をまねた都市再開発も盛んであり、駅前に高層ビルを建てれば若者が戻ってくると勘違いしているような政策がとられることも少なくない。

【図 15】

	移住は考えていない	移住を考えている
人数	2,310	934
日帰りの国内旅行		
行かない	25%	19%
数年に 1 回	15%	13%
年に 1 回	20%	20%
年に 2 ～ 3 回以上	36%	45%
宿泊を伴う国内旅行		
行かない	18%	14%
数年に 1 回	21%	16%
年に 1 回	27%	28%
年に 2 ～ 3 回以上	31%	40%
海外旅行		
行かない	57%	42%
数年に 1 回	24%	26%
年に 1 回以上	14%	27%
体験したい旅行内容 (複数回答) (主なもの)		
自然にふれること	41%	51%
名所・旧跡・遺跡を訪れるなどの観光	44%	49%
からだを休めること	36%	44%
買い物	38%	43%
イベントやお祭り	22%	28%
ドライブやツーリング	15%	20%
電車や新幹線などに乗ること	17%	23%
美術館や博物館	24%	30%
登山、山歩き	13%	17%
土地の文化を感じること	25%	32%

資料:三菱総合研究所「生活者市場予測システム」2020年

【図 16】

	移住は考えていない	移住を考えている
人数	2,310	934
現在:無農薬・有機農産物や食品添加物を含まない自然食品を利用する		
あてはまる	5%	8%
ややあてはまる	19%	23%
どちらともいえない	41%	40%
あまりあてはまらない	22%	20%
あてはまらない	14%	10%
現在:天然素材のオーガニック化粧品、自然派化粧品を利用する		
あてはまる	5%	7%
ややあてはまる	13%	17%
どちらともいえない	28%	28%
あまりあてはまらない	20%	21%
あてはまらない	35%	28%
現在:自然や地球環境を大事にしたい		
とてもそう思う	21%	27%
そう思う	51%	50%
どちらともいえない	25%	19%
そう思わない	3%	3%
まったくそう思わない	1%	1%
今後:自然が豊かな場所に住む		
そうしたい	14%	23%
ややそうしたい	33%	37%
どちらともいえない	29%	25%
あまりそうしたくない	13%	9%
まったくそうしたくない	11%	6%
重要だと考える:地域固有の自然や文化の保全が不十分		
重要かつ早急に解決すべき	10%	14%
重要	62%	59%
重要でない	28%	27%
将来子供にして欲しいと期待する:自然や地球環境を大事にする		
とてもそう思う	22%	24%
そう思う	45%	54%
どちらともいえない	27%	18%
そう思わない	4%	4%
まったくそう思わない	2%	0%

資料:三菱総合研究所「生活者市場予測システム」2020年

若者を地方で活躍させるには

それに関して私が少し協力した福井市の事例について書いておこう。詳しくは拙著『人間の居る場所』に書いたので簡単に紹介する。

2012年12月、私は福井に出かけた。福井市でも最高級の料亭「開花亭」の旧知の社長に会うためだ。小松空港までお迎えに来て下さった社長は、クルマの中で私に言った。「福井でもいろんな開発計画があるんですが、どうもどれもピンと来ない話ばかりで、どうしたらいいんでしょう。」

私は即座に答えた。「自分でやればいいんだよ。ちょうど今吉祥寺でもハモニカ横丁の手塚さんに相談を受けて、コミュニティデザイン大賞というのを企画している。市民からまちづくりのアイデアを募集するのだ。福井でもそれをすればいい。審査委員長は隈研吾さんでいいでしょ。私も委員をやるから、あとはR不動産の馬場くんとデザイナーの坂田夏水ちゃんを呼ぼう。」

なぜ隈さんが委員長かというと開花亭の新館を隈研吾さんが設計したからだ。

社長は「はあ、なるほど。目から鱗が落ちました。」と言い、なんだかやる気が出てきたようだった。

私の方も早速馬場君に連絡し、翌年３月末に隈さん、馬場君、私で企画発表会をすることになった。タイトルは「課題都市:福井」。

こうして浜町コミュニティデザイン大賞が動き出した。後は一般市民からの応募を待つばかりとなった。私や馬場君らは、福井の街を、古いビルや商店を見つけては、いいね、いいねと感心しながら歩いた。

福井の人はそれが全然理解できなかった。彼らは古いビルを壊して新しいビルを建てないと福井の未来はないと思っていたからだ。

応募も多数集まり、翌14年２月、浜町コミュニティデザイン大賞の公開審査会がホテルで開催された。実際にプレゼンテーションしてもらうと、老若男女が揃っているため、吉祥寺以上に多様性があり、面白かった。

審査の結果、大賞を二つ選ぶことにした。一つは「浜町×スポーツ×しゃく谷石」。これは浜町の脇を流れる川を浜町から川下の湊町三国までカヌーで下ったり、自転車でツーリングする提案。浜町と三国は、北回り船が運んできたものが三国に到着し、そこから浜町まで運んだという歴史的な関係がある。その関係を踏まえながら、現代的なスポーツを結びつけた完成度の高い提案だった。

もう一つは女性による「ちょびっと。」という提案。料亭街である浜町の中にいろいろな屋台をちょびっとずつ出して物を売ろうというものだった。福井県は商業の販売額に占めるロードサイド店の割合が日本一高いと言われる。つまり大型のショッピングモールが買い物の主体であり、旧来の商店街は生き残りが厳しく、ご多分に漏れずシャッター街になっているところも多い。それに対してこの提案では、個人ができる小さな屋台でちょびっとずつ自分の好きなものを売ろうというのだ。

それから三年ほどして、開花亭の前にある古いビルがリノベされることになった。しかも、なんと青山にあった伝説の家具・インテリアショップのイデーをつくった黒崎さんがプロデューサーとなって、いわば福井の若い世代のためのデザインの学校「福井クラフトブリッジ」ができたのだ。

こうした動きの中で浜町にも新しい店が入居するようになった。リノベーションスクールも開かれるようになり、古い物を活かしながらまちづくりをすることの良さが福井でも理解されたはじめた。そうしたリノベーション事業の担当に、地元の銀行も優秀な社員を担当させるようになったのだ。

新しいビルを建てて、家賃を上げて、全国同じ店が入るというモデルでは、福井県内の若い人にはチャンスがない。売上げも県外に流出する。だから若者はチャンスを求めて大阪や京都や東京や名古屋に出て行ってしまう。

ところが古いビルをリノベーションして、しかも黒崎さんが教えてくれるようになれば、福井の若者が地元でデザインや建築の仕事をできるようになる。また若者同士のネットワークができる。それがいちばん重要なポイントである。

「百年」を軸に街をつくる

もうひとつ私が関わった事例を書く。私の故郷である新潟県上越市（旧・高田市）の「百年料亭ネットワーク」という事業だ。

高田は明治以降陸軍ができたことで、花街が栄えた。全盛期には料亭もたくさんあった。その1つが「宇喜世」である。創業は大正初期であり、建物の中心部は100年以上前に建設され、その後何度か増築された。一部は3階建てであり、高松宮殿下も戦後すぐに訪問され、芸者衆と懇親する写真が残っている。大広間は１５０畳敷という広さであり、大正から昭和初期にかけて造られたものとしては日本最古の部類に属するはずだという。

言うまでもなく、料亭は全国的に衰退しつつある。２０世紀に入



福井クラフトブリッジ

り、日露戦争、第一次世界大戦のころに栄えたが、戦争で一端終息。戦後高度経済成長期にまた栄えたが1973年のオイルショックでまた衰退。80年代のバブルで息を吹き返したが、バブル崩壊でダウン。さらに2000年以降は官官接待の禁止などにより、宴会需要が減少。次第に廃業・転業するところが増えた。建て替えてホテルなどにするところも多かった。

高田の有名料亭である宇喜世の社長の大島誠氏は、そこで古い料亭を維持・発展させるために、何ができるかを考えた。国に補助金をもらえないか相談したが、税金を投入するには国民全体が納得する公的な意味づけが必要だと言われた。



写真左：高松宮様も訪れた桜の間、右：仲三階座敷。ワーケーションに使ったら面白そうだ。



高田世界館

そこでまずは観光庁の補助金を使って、全国の創業あるいは築100年以上の料亭をネットワーク化する活動を始めた。名付けて「百年料亭ネットワーク」。大島氏自身が全国の料亭を青森県から大分県まで訪ね歩き、18軒の料亭にネットワークに加入してもらい、2017年3月に「百年料亭ネットワーク」設立総会を開催。以後も参加料亭を増やしていった。観光庁からも百年料亭ネットワークの活動は高く評価された。

コロナ禍により、料亭はますます窮地に立っているが、では料亭でなければうまくいくかというと、そんなことはない。インバウンドも減ってホテルも観光も事業縮小。一般飲食店も青息吐息である。

むしろこういう時代には、行く意味のある店が求められる。そうなると百年の歴史のある料亭は価値がある。

宇喜世も部屋の内装は素晴らしい。宴会以外でも使う方法を考えたいというのが大島氏の考えだ。時節柄、ワーケーションなどにも使えそうである。料亭なので有料で客を宿泊させることはできないが、同じ町内に町家をリノベーションしたゲストハウスも数軒できている。そうしたところと連携すれば、新しい料亭の使い方ができそうだ。

未来より歴史で人を集める

「百年」といえば、高田には100年以上前にできた映画館がある。「高田世界館」である。現在も営業中で、NPOがミニシアター系の渋い作品を多く上映している。

高田は城下町であり、かつて新潟大学教育学部があり、その中に芸能科という音楽・美術の教師を育成する学科もあった。高田城趾に隣接する県立高田高校は雅子皇后のお父様の出身高校。お父様が在学中はお祖父様が校長を務めていた。そういう文化的な土壌があるので、マイナーでも上質な映画にファンがいるのだろう。

また世界館がマンガや映画で舞台となったこともあり、遠方から訪れる人も少なくない。毎日映画館の由来などを解説し、映写室にも入れる案内コースも開催されており、人気である。

高田にはもう1つ百年の歴史を持つものがある。先ほど述べたように陸軍があったので、師団長の家が残っているのだ。２０２１年春からはフレンチレストランとして使われ始めた。

また、新潟大学教育学部の前身である高田師範学校時代に使われていたスタインウエイのピアノが、長らく放置されていたが、最近修理されることも決まった。これもおそらく百年物である。

東京は、最新のオフィスビルなどの建設により、ますます未来都市になっていく。その代わり歴史は薄らぎ、古い建物も減っていく。それに対して地方都市は、いたずらにビルやマンションを建てるばかりではなく、東京にはない古いものを活かしたまちづくりをするべきだろう。

いくらビルを建ててもドバイや中国にはかなわない。これからの日本では、歴史的建築が残っていることが重要なのだ。

特に料亭は、和食はもちろん、お茶、書、陶芸、建築、着物、芸者、踊りなどなど、日本文化を総合的に引き継ぐための重要な舞台装置である。国としても、料亭文化を維持保存、さらに発展させることをもっと真剣に考えたほうがいい。もちろんコロナが終息しないか

ぎり、宴会に頼ることはできない。料亭の使い方については、ワーケーションなり何なり、新しい使い方も考えるべきであろう。

このように地方でもいろいろな形で歴史や文化を活かしたまちづくりが行われている。だがそうした動きに賛成する人たちばかりではない。いや、むしろ先ほど書いたように再開発して巨大なビルを建てることが正しいのだと考える勢力のほうが大きいだろう。

私が5年ほど前、ある地方都市でまちづくりについて講演し、古い街並みを活かしたリノベーションの重要性について語ったことがある。しかしどうも会場の様子がおかしい。どうやら会場に来ていた人たちは、再開発派が主流だったのだ。

だったら私を講師に呼ばなければいいのだが、事務局が私の考えを理解していなかったのか、あるいは事務局としては再開発ではないまちづくりについても理解を深めたいと思ったのか、真相は知らない。とにかく会場に来ていた経済界の人たちは圧倒的に再開発派だった。言うまでもなく、福井でも高田でも、古い物を活かすなんて、そんなんじゃ未来はないぞ、という意見は根強い。

だがそれでは若者は地方を出ていく。優秀な人、クリエイティブな人ほど出ていく。今まで通りのやり方を踏襲する公務員などになる人だけが残る。

それで果たして未来はあるか。

ワーカブル

先ほど東京都心にいかに未婚女性が多いかをデータで示した。このデータ自体は、東京の郊外の衰退を食い止めるための傍証としてつくられたものだ。

だが東京郊外の衰退を食い止めるための方策と地方の衰退を食い止めるための方策は本質的に同じだと思う。

私はこの５年ほど、郊外での若い世代の人口増加のためには、「ワーカブル(働きやすい)」「夜の娯楽」「シェア」が必要であると主張してきた。この原則は地方にも当てはまるはずだ。郊外については『首都圏大予測』に書いたので、本論では地方に即して書いていく。

まず「ワーカブル」について。これは新しいオフィスビルの中で快適に働く、という意味では全然ない。

郊外や地方で育った若い世代が都心など23区に流入してきて、かつその後、結婚・出産してもそこから流出しないのはなぜか。通勤時間が短く体力を消耗しないことはもちろん、都心のほうがライフスタイルや価値観の多様性があり、寛容度が高いからだ。そのことは必然的にクリエイティビティを生み、ますます新しいアイデアやビジネスを発想させ、利益を生み出すという正のスパイラルをもたらす。その全体がワーカブルなのである。

また、もちろん、多様性があり、寛容度が高いということは、女性も子育て期の男女も働きやすいことを意味することは当然である。

都会的な仕事が郊外や地方でできるようにする

東京郊外の千葉県流山市では、近年若い世代を中心に流入人口が激増し、2014年に15万1684人だった人口が21年には20万1418人に増えてきている。

これには様々な理由があるが、1つ大きなポイントは女性の就労・起業を支援していることである。

実際起業したお母さんがいて、彼女がさらに次のお母さんたちのために起業セミナーをしたり、駅前のアパートを借りて化粧品関連の大手インターネット情報サイトの会社の事務所をつくったりしてきた。市内のお母さんたちが、編集、デザインなど、従来なら銀座や渋谷に行かないとできなかった仕事ができるのだ。

これは非常に大切な点である。郊外で女性が家の近くで働くとなると、スーパーのレジくらいしかなかったからである。だが高学歴化し、就業経験も長い現代の女性に、出産したら仕事はレジしかないという地域ではまったく魅力がない。都心部の先端的な仕事が郊外でできるというところが大事なのである。

これは地方でも同じである。東京圏から地方への移住のネックになるのが仕事である。年収は下がるし、仕事内容自体が面白いかどうかが問われるからだ。

年収の低下は生活費の低下で補えるので、やりがいのある仕事ができるかは大事である。むしろ東京の大企業では様々な制約からできないような仕事が地方ならできる、ということもありうるだろう。そういうことをするためにインターネットはある。

なのに、そういう努力をしてこなかったために郊外も地方も若い世代を都心に取られたまま手をこまねいていたのである。

50代以下にバトンを渡すチャンス

地方や郊外は、せっかく育てた若者が高校卒業以降から23区に流出したまま、なかなか戻ってこない。戻ってくるのは定年後である。

結果、地方や郊外では、50代はまだ若造、80代の意見ばかりが通り、60代でなんとか自分の意見が少し言えるようになるという状況になる。

地方と言わずとも、私の会社のある杉並区でも似たようなものである。2，3年前に区のまちづくりの市民会議に出たが、ある商店街の方が、うちの商店街の理事長の頭が古いから何も新しいことは始められないと嘆いていたが、その嘆いていた人の年齢がどう見ても75歳くらいだった。

こういう笑うに笑えぬ現実がある。私は75歳以上は会社でも商店街でも政治でもすべて引退し、発言も禁止にしたほうが日本のためだと思っている。75歳以上でも良い意見はあるだろうが、同じような良い意見は75歳未満でも出るはずだ。なにしろ75歳以上では

出ない新しい発想を生み出すには、75歳以上は黙ったほうがよい。いや、60歳以上でも黙ったほうがよいと思うので、私も最近は黙っているのだ。若い人が自由に行動する姿を見ているほうが楽しいからである。ベテランは彼らから相談を受けたら話に乗ってやるくらいで十分である。

すでに第二次ベビーブーム世代ですら50代になり始めたのだ。いい加減、50代以下にバトンを渡さないと本当に日本は危ないと思う。

幸か不幸か、コロナ禍によりリモートワークが予想以上に広がり、都心の人口が流出し、郊外の人口が増えるという現象が起こっている。一部だが、地方に移住する人も増えてきた。今は、地方や郊外にとってチャンスなのである。チャンスをつぶさないためにも、これまでの常識に縛られないクリエイティブでワーカブルなまちづくりをしていかないといけない。

夜の娯楽の主役は女性である

地方や郊外が「ワーカブル」になり、女性も男性並みに働くようになると、必然的に「夜の娯楽」が必要になる。

あえて私は「夜の娯楽」という誤解されやすい言葉を使っているのは、この言葉がまさに女性が男性の娯楽に仕えるというイメージを持っているからである。だが、これからの時代に夜の娯楽を必要とするのは女性ですよ、ということを私は言いたいのである。

たとえば都心や郊外で働く女性が仕事を終える。保育園に預けている子どもを迎えに行き、帰りに少し買い物をする。従来なら即座に帰宅するが、現代のママはカフェで一休みする。 グラスビールかグラスワインの一杯くらい飲んで気付け薬にするだろう。

その後帰宅し、食事をつくり、子どもに食べさせながら自分も食べる。8時くらいになると夫が帰宅する。昔なら夫のための料理をつくるところだが、現代の女性はそんなことはしない。夫に子どもを預けて、自分は再び飲み屋に行き、2杯目、3杯目の酒を飲み、焼き鳥を食べるのである。

こういうことを10年前に書くと、東京でも少し怒られたかもしれない。だが実際、こういう女性は郊外でも増えてきた。

4年ほど前、多摩ニュータウンで仕事をした後、友人と夜スナックに行くと、アラフォーの女性客が3人いた。聞くとママ友同士だという。所沢のワインバーでも同様の経験をした。子育ての合間にママ友同士がお酒を飲みに行くのは普通なのである。 昔なら、女性なのに、母親なのにと批判されただろうが、今は違う。

このように、今や夜の娯楽は男性だけのためにあるのではない。女性のための夜の娯楽がなければ、これからの郊外も地方も発展しないのだ。コロナ禍で飲食店の経営が厳しくなったが、大規模居酒屋チェーンで薄利多売のビジネスは困難になるだろう。だが小ぶりな店で静かに食事をする店はこれからむしろ求められるだろう。だとしたら住宅街の近くの商店街にでも、あるいは住宅街の中にだって、そうした店を開くチャンスが広がるはずだ。

地方だと車社会なので、こんな暮らしは難しいかもしれないが、旧市街地なら可能だろう。中心市街地活性化のためには、古い商店街の空き店舗をリノベーションして住みつつ働く女性とその家族などが増えて、街中で飲食もするというライフスタイルを復活してくれたほうがよいだろう。

変わる地域と変わらない地域

── 現場の11人が語る地方創生の風景、その違い ──

中川寛子（なかがわ・ひろこ）

（株）東京情報堂 代表取締役。「AllAbout 住みやすい街選び（首都圏）」ガイドほか、テレビ番組出演や住宅関係の著書も多数。40年近く住宅関係の取材・執筆を行い、実際の足で集める街情報は多岐にわたる。近著に『空き家再生でみんなが稼げる地元をつくる「がもよんモデル」の秘密』（和田欣也共著 学芸出版社、2021年）など空き家関係の著書多し。

地方創生が言われ始めて7年。
今の段階で成否を言うのは時期尚早ではあるものの、変わろうとしている地域、
動こうともしない地域の違いは少しずつ生まれ始めているように見える。
その違いはどこから生まれているのか、現場で動いている人たちの声を聞いた。

CASE 1

同じ人が関わっても 動く地域、動かない地域がある

愛媛県松山市三津浜で空き家再生中



コトラボ合同会社

岡部友彦さん

2004年から横浜で地域の空き家を利用した旅行者向け宿泊事業や大学と連携した地域の拠点作りなどに取り組んでいた岡部友彦さんが愛媛県松山市郊外の三津浜に関わり始めたのは2013年1月のこと。横浜の拠点でコミュニティカフェをやっていた女性が家族で三津浜に移住したのがきっかけである。

市役所はちょうど三津浜で空き家バンクを中心にしたまちづくり事業を地域に委託しようとしていたものの、地域にいる人たちの中にはそうした専門性を持つメンバーがおらず、移住した知人を介して岡部さんに話が回ってきたのである。

8年で数十戸の空き家を再生

三津浜は松山市中心部から車で20～25分ほどの場所にある漁師町であり、港町。かつては松山市の沖合に点在する忽那諸島や大阪とのフェリーが離発着して栄えたが、少し離れた高浜に新しいフェリー港ができたり、車社会の到来で人の流れが変わったために衰退。往時は商店街を歩くと人と肩が当たるほどだったというが、今は1キロ先まで見えるほど閑散としている。

岡部さんはその三津浜の幅1キロ、南北2キロ、人口4000～5000人ほどの地域でこの8年ほどで50～60戸の空き家を利用者とマッチングさせてきた。そのうちには大正時代に建てられた400㎡もの広さの洋館を部屋ごとに分けて貸しているものもあり、棟数ではもう少し少なくなるものの、それでもかなりの数の不動産を再生してきていることは間違いない。

この背景には2つの要因がある。ひとつはそれ以前から三津浜に向かう人の流れがあったこと。

「2000年前後に母が営む喫茶店の2階にイタリア料理店を出した人がおり、それが三津浜が変わり始める最初のきっかけだったようです。その後、午前中で売り切れてしまうほど人気のじゃこてん屋さんや開店前から列ができるカリスマパン屋さんなど、個性的で魅力的な店舗が次々開業。さらに私が三津浜に関わり始める少し前には各地でカフェの修業をし戻ってきた地元の島出身者が喫茶店をオープン。その人を訪ねて三津浜に来る人が出始め、そこから移住へという流れが生まれてきました。喫茶店の地のもので作ったシロップのかき氷は人気で2時間待ちの行列ができるほど。それ以降、三津浜町家バンクの動きを経て、新たな店舗が相次いで誕生、今では松山市内はおろか、愛媛県内から人が集まるお出かけスポッ

大正時代に建てられた「旧濱田医院」のビフォーアフター。10年以上空き家となり廃墟化した建物を約１年半かけて再生、現在は各室にテナントが入り、まちの賑わいスポットのひとつになっている





ト、デートスポットになっています」。

地元の30～40代の人たちが魅力的な店をスタートし、人を呼び始めたタイミングで空き家バンクが本格的に稼働することになり、まちに新しいスポットが立て続けにオープンするという連鎖が生まれたのである。

ふたつ目は岡部さんに委託をしたのが市長直轄の部署で融通が利きやすく、かつ自由にやらせてくれたこと。

もちろん、スタート時点からうまくいったわけではない。最初は空き家バンクの登録もなかなか進まなかった。ヨソ者に家を貸すのは嫌という声も出た。

「そんな場合には市役所があらかじめ協力を取り付けていた商店街の会長さんに話をしてもらいました。また地元の人にスタッフとして入ってもらうなどして少しずつ貸してもらえるようになり、今では楽しく関わっています。役所がやっている空き家バンクの多くがうまくいっていないのは義務としてやる気なくやっているから。楽しんでいないからでしょう」。

必要な手配はした上で口は挟まない、民間のスピードを妨げない行政。これがどれだけ理想的であるかは後半をお読みいただければ分かるはずだ。

大胆な企画を許容する懐の深さ

また、変化のさらに底流としてはオープンでポジティブな人が多い土地柄もあるのではないかと岡部さん。港町でいろいろな人を受け入れてきたからだろうか、若い人たちが何かをやりたいというと、やっちゃえ、やっちゃえという感じがあるという。

「私が関わりだした頃はまだみんな時間に余裕があったようで、とても個性的なイベントをよくやっていました。中には商店街のアーケードを100m封鎖、そこに長いテーブルを置いてみんなでパンとスープを食べるとか、シャッターの前でフェスをするなど大胆な企画もありました。でも、三津浜にはそれを許容してくれる懐の深さがあります」。

三津浜の移住者には自分の生活を大事にする、自由で面白い人が多いという点も変化を加速させた要因として挙げておきたい。

「地域を変えようとしてではなく、自分の生活を大事に、自由に生きたいから三津浜へという人が多いのです。家賃などは東京と比べるとぐっと下がりますから、それに合わせて自分のさじ加減で働き方、暮らし方を自由にでき、生活を楽しんでいる人が多いのです」。

たとえば営業は夕暮れまでというカフェがある。「ちょっとお休みします」と１カ月休む店がある。家賃に追われ、客と話し込むより、稼ぐことを優先しなくてはいけない都市とは異なる働き方が成り立ちうるのである。

そして、それができるのは三津浜に移住してきているのが革細工や家具修理の職人、ワインバー経営者など手に職があったり、自分で稼げる人であるため。

「まちづくりとライフスタイルには地域差が出てくる気がします。環境が良いという地域はたくさんあり、それだけでは人は集まらない。それに加えて面白いことをやっている地域、面白い人がいる地域でなければ人は集まりません。

他の地域での仕事でも意識して見ているのはどういう人がいるか、面白いことをやっているか、やっている人の顔が見えるか。さらにやっている人が１人ではなく、２人、３人となってくると変わり始めます。１人で何かを言い出すのは難しいけれど、２～３人集まればできるようになるからです」。

持続的な活動体制構築を模索中

三津浜では２人、３人どころではない人たちが自分たちの生活を大事にした暮らし、働き方を実践することでまちの魅力が高められているのである。

また、最近では、ビジネス目線でこの地を選ぶ人も出てきており、その意味では新たなフェーズに入ってきたともいえる。

現在、岡部さんは行政から委託を受けてこの事業を行っている。今後も事業を継続させ、人の流れを止めないようにするためには、空き家バンクやマッチングの業務を持続的なものにしていく必要がある。

そのためには公的資金が無くても事業を続けられるようにしようと進められているのが、これまで地域で手つかずだった古民家を部屋ごとに貸し出すシェアショップにする計画だ。家賃収入が得られる物件を増やし、それを活動資金に充てて公的資金が無くても事業を継続させられる体制を目指しているのである。

まちに必要とされている仕事であれば本来は政治に左右されないほうが良いという考えである。

これは三津浜が公の金で支えてもらわなくても自走できる地域に

なったということ。地方創生という掛け声の下、目指す姿はそれぞれではあろうが、三津浜の現在はひとつの到達点と言えるのではないかと思う。

船頭が多いと頓挫することも

三津浜の場合には寛容な地域、行政に魅力的な人が人を呼ぶことで地域が動き始めているが、岡部さんが関わった地域の中には動き始めはしても途中で停滞してしまうケースもある。

たとえばある地方都市では中心地の最寄り駅近くに複合施設を設置するところまでは協業してきたものの、その後停滞が続いているという。

こうした停滞には様々なケースがあるという。たとえば事業が国や県から市町村に移管され、予算が付かなくなったことによるもの。あるいは従来主体となってきた活動団体に加え、新たな団体が運営に加わることで意思疎通がうまくいかなくなるケース。まちづくり団体に主導権を握りたがる人が多く、船頭多くしてのたとえ通りに迷走が始まるケースもある。

また、外の人をうまく使う術を知らないからか、あとは自分たちでできるからとヨソ者には任せたくないという意識がところどころで感じられるような例もあるそうだ。

この手の、外から来た人が枠組みを作ったところで、あるいは稼げる仕組みを作ったところで「はい、ご苦労さん、後は自分たちでやりますから」と地元の人たちが登場、ひどい場合には成果を取り上げてしまう話は他でも耳にする。仕組みは作ったところで終わりではなく、動かし続けなくてはいけないわけだが、そこまで先のことを考えていない人がまだまだいるのだろう。

そもそも地域によって外からの働きかけに対しての反応はそれぞれに異なり、岡部さんは常にそれに応じた関わり方を考えているという。

たとえば現在関わっている埼玉県熊谷市では気運が盛り上がってきているところだという。「30人くらいが集まったワークショップの中からまちに関わろうというチームが生まれてきており、少しずつ何かをしよう、変えようという機運は出てきています。その動きを大事に、人を作り、コミュニティを作りと積み重ねていければと思っています」。

ただ、時間をかけて付き合うとなると地元にスタッフを置く必要があり、地域で活動をしている人たちなどと連携していくことになる。そこをどうするかがただ今の悩みの種だとか。

「ちゃんと関わってくれているのかという地元の目もあり、すべて地元任せというわけにもいかない。どう付き合っていくか、いつも悩む難しいところです」。

ところで、岡部さんの「時間をかけて人を、コミュニティを育てる」という話で思い出したことがある。この手の取材ではしばしば「(たかが)まちづくりにそんなに時間がかかるの?と言われた」という言葉を聞く。岡部さんも言われたことがあるというが、これを発するのは、たいていは年配の方々。時にはプロジェクトなどに大きな影響を持つ人だったりすることもある。

そうした人たちはお金を払ってモノを買うように、お金を払ったらまちも一瞬のうちに昔日の賑わいを取り戻すものと思っているようだが、それが無理であることは書くまでもない。

お金を出せばなんでもできると考える消費者≒地元の高齢者とお金では買えないものがあることを知っているまちづくりに関わる人たち。まちづくりや移住で生まれる齟齬はそういう観点からも見ることができるのではなかろうか。




旧濱田医院内部。事務所や店舗などが入る複合施設となっており、土日祝日は館内見学もできる。岡部さんの活動拠点もここにあり、現在はフォトスタジオ、デザインオフィスなど8つのテナントが入居している

CASE 2

同じ制度を利用しても 成功する地域、失敗する地域がある

地域おこし協力隊卒業生。各地の事業に関わる



合作株式会社取締役、さとのば大学講師、
慶應義塾大学 SFC 研究所上席研究員

西塔大海さん



西塔さんが地域おこし協力隊として着任、現在も住んでいる福岡県上毛町の風景

地方創生を目標に掲げた多くの施策のうち、ソフトの事業でもっとも評価されているのが地域おこし協力隊（以下協力隊）だという。これは2009年に総務省が始めた事業で、仕組みは非常にシンプル。過疎法が定める過疎市町村等が都市からくる若者を1年以上3年未満任用した場合、国がその人件費及び経費を出すというものである。

これまでも地方が採用した人材に国が人件費その他を出す事業はあったが、条件が厳しく、どの自治体でも採用できるというものではなかった。

だが、協力隊の場合には類型はあるものの、仕事の内容は自治体が自分たちで決めることができる。その分かりやすさが功を奏し、2020年3月末時点で約5500人が1000を超える市町村等の団体で働いており、任期を終えた人まで含めると1万1000人ほどが地域おこし協力隊を経験したことになる。

さらに驚くべきことは着任して任期終了まで務めた人のうちの6割がその地域に定住、就職先あるいは仕事を見つけているということだ。委嘱された人の70%ほどが20～30代ということを考えると、これまででもっとも都市部の若者を地方に送りこめている施策ということになる。年間数千億円という地方創生予算のうち、170億円に満たない予算でこれだけの結果を出しているのが、協力隊事業が今も続いている理由なのである。

ミスマッチには行政特有の事情

だが、もちろん、すべてがうまくいっているわけではない。2015年に福岡県上毛町の協力隊を卒業、現在は協力隊の採用から独立をサポートする活動を行っているさとのば大学の西塔大海さんによると、主に来る側、受け入れ側のミスマッチが原因で着任しても任期終了を待たずに辞めてしまう例も2割前後くらいはあるという。

「来る人はカフェをやって起業と思っていたのに来てみたら募集は農業従事者だったというような例が少なくないのです」。

ミスマッチの要因は双方にある。まずは行政サイド。西塔さんは「協力隊を支援する専門家ごとに意見は違う」と前置きした上で、

① 協力隊を導入する目的を明確にすること、
② 募集前に募集企画を作ること、
③ 来た人の人生に責任を持つこと

という3点をミスマッチを防ぐ具体的な方法として伝えているという。

聞いて、え？と思った。読んでいる方もそう思うだろう。人を採用するというのに何のために募集するのか、何をやってもらうのか、それを事前に考えていないままに募集し、採用する？　そんなことがあり得るのか。

だが、それが実際にあり得るのだ。いくつか、要因がある。たとえば役場の一般職員の採用はその人の能力の向き不向きを見るものではない。採用された職員は育成されるのではなく、OJTで勝手に育つ。いわゆるメンバーシップ型の、日本で長らく雇用形態の主流だったスタイルが役場では今も主流であり、業務の設計や人材育成とは無縁のままで来ていることが多いのである。

ところが期間限定で委嘱される協力隊の仕事はやるべき仕事を限定しなければやりようがない。特定の仕事に、その仕事に向いた人を充てるジョブ型雇用が求められているのだが、それに慣れていない人たちが募集を担当しているのである。

また、役場に勤めている人がすべて課題意識を持っているわけでもない。まちづくりの企画をする部署にいるのはごく少数。役場で働く9割の人はまちを維持するルーティンな仕事に従事しているのである。

そこに他自治体の成功例（と言われるもの）を見た首長や議員から「ウチも来月から協力隊を入れろ」と指示されても異動したてで業務が分からない、あるいは経験のない職員ができるのは他自治体の募集要項をコピペすることくらい。その結果、何のために誰を求めているのかが不明瞭な誤解の種を蒔いてしまうことになるのだ。

まちづくりに関わる部署の職員の場合は経験があるだけに考え過ぎてしまい、やはり、曖昧な募集になることもある。過去の地域からの反対意見や事業失敗の記憶がストップをかけるのである。

もうひとつ、役場特有の事情もある。人も企業も一度失敗したら、

その失敗から学び、次はどうやればうまくできるかを考えるものである。だが、行政には頻繁に人事異動があり、属人的なノウハウは蓄積されにくい。成功した場合でも同じで担当者が代わった途端にいちからやり直しとなる。長年続く事業なのに年数が経ったら成果が上がるというわけでは必ずしもないのはそのせいだろう。

制度設計でミスを防ぐ

だが、行政が原因で起こるミスマッチはかなりの割合で防げもする。

「年間10自治体くらいで募集企画をちゃんと作るという仕事をしていますが、これがきちんとできていると50人採用して辞めるのは3人くらいに減るなど、ミスマッチの可能性がかなり下がります。

また、来た人の人生に責任を持つという意味で入って来た人と職員の間に信頼関係を構築するための研修も年に30～40回ほど行っています。職員との信頼関係ができているところは定着率も高くなります」。

協力隊に求めるものについても明確にするアドバイスをしている。協力隊の目的には大きく3種類がある。ひとつは任期終了後に定住すること、ふたつ目は協力隊としてやってきた人たちの自己実現を応援すること、そしてみっつ目は地域おこしの成果を出すこと。

だが、これら3点をすべて実現することは難しく、できるのは1万人いても1割いるか、いないか。それをすべて求めるのは酷というもの。受け入れるまちがもっとも求めているのは何か。そこを理解しておかないと来る人に過大なものを求めることになり、これもまた辞める結果に繋がる。こうした辞める要因を潰していけば、定着できる人は増えるのだ。

また、うまくいっている自治体の中には異動によるノウハウ散逸に抗して役場の中だけでなく地域の人や協力隊OBでNPOを作ってそこで受け入れを担当する、ガイドラインを作って担当者が代わっても同じ仕組みで動けるようにする例も出ている。

都合の良い情報だけを見る人たち

では、逆に協力隊として地方に来る人の問題はどこにあるのか。

「選択的知覚という言葉があります。これは心理学の用語で、簡単に言うと人は自分が見たいものだけを見て、見たくないものは見ないということ。

たとえば協力隊の募集要項に土地の産品を使って地域おこしと書いてあったとして、カフェをやりたい協力隊希望者の方はそれを地元の産品を使ってカレーを作ったらいいんだと読んでしまうのです。

協力隊や地方暮らしについてはネット上に様々な情報が出ていますが、読む人は自分に都合の良い情報だけを選択、それを元に地域や仕事のイメージを膨らませてしまい、現地に行って現実との違いにショックを受け、それで辞めてしまう。全体の半分ほどの人が自分で作りあげた妄想、イメージを持って地方に赴いているのではないでしょうか」。

情報は多いにも関わらず、自分に都合の良い情報しか見ていないため、そこで齟齬が生まれてしまうというのである。

そのギャップを乗り越えてもさらにハードルがある。都市部と過疎地は違う社会で、異なる行動原理があるのだ。西塔さんが例として挙げたのは島根県海士町に移住、起業して地域に関わっている阿部裕志さんの言葉、信頼貯金。

「資本主義がよくできているのは貨幣価値は全国共通で誰にでも分かること。でも、信頼貯金は目に見えません。価値が理解できない人には一生理解できないかもしれません。でも、地方でヨソ者が活躍するためには必須。協力隊も最初は役場の貯金を借りて活動を始め、草刈りや祭りに参加することで貯金をして、3年かけてきちんとそれが貯まっていればその後も地方で続けていけるようになるはずです」。

見えない通貨である上に、もうひとつ、難しいのは円と違って等価交換ではないという点。贈与経済とでもいえば良いだろうか、もらったものよりもちょっと多く返し続けなければ貯まらないのが信頼貯金というものなのだとか。見えていないものを余分に返す、なかなかに難しいことである。

さらに価値観、方向性などの違いもある。

「30年前であれば地域の発展＝人口を増やすことと単純に考えられたかもしれませんが、これからの時代は人口面での発展は難しく、GDPも増えないでしょう。しかし地方自治体には本気で旧来と同じ発展を実現すべきと考えている人もおり、世代間でギャップが生じていることも。

また、役場の人は都会的なものを作りたがりますが、都会から来る人は地方そのままが魅力と考えがち。元々、世代間、価値観、方向性に違いがあるところにヨソ者が入ってくるのです。混乱が生じるのは仕方ないことかもしれません。

しかも、ヨソ者の中には昔からやっているからという理由だけでそれを否定、旧来のやり方を否定することがヨソ者の役割と考えて衝突することも。違う通貨、違う価値観のある国だと思って移住しないと間違えることになります」。

若い行政職員の変化に期待

問題もあるとはいうものの、一定の成果を上げてきた協力隊。西塔さんはその成果をパワーアップさせるために総務省が2021年春からスタートさせた地域プロジェクトマネージャー制度に期待を寄せる。これは外部の専門家、地域、行政などがチームとしてプロジェ

普段は上毛町で暮らし、講師その他の仕事では日本全国へ。地域おこし協力隊もスタート当初に比べると情報共有が進んでいるようだ





クトを推進していく際にブリッジとなる人材を想定したもの。対象は30～40代となっており、より実務経験のある人が地域に入っていくことになる。より成果が出やすくなるのではないかというのだ。

それとは別にもうひとつ、地方創生の新たなファクターと考えられる動きがあると西塔さん。それは若い行政職員たちである。

「私が地方に関わるようになった8年前に比べると危機感を持つ地方が増え、公務員の中にも組織を変えよう、あるいは組織から離れて民間に行って地方を支えようという人たちが出てきています。

象徴的なのはふるさと納税の担当職員。一人で何十億ものお金を集めるためには公務員の感覚を脱し、セールスマンも徹しなければできません」。

また、山形市の職員である後藤好邦さんが始めた「東北まちづくりオフサイトミーティング（東北OM）」には職員以外に民間事業者や大学職員、学生などが集まり、地域づくりやまちづくりに関する勉強会を開催。それを参考に同様の組織が全国で生まれてきている。

「それ以外にも公務員のためのオンラインサロンがあるなど、役場から外に出ていき、学び、繋がろうとする次の世代が育ちつつあります。民間から首長が選ばれるだけでなく、副市長を民間から公募する例も珍しく無くなっていますし、行政にはまだまだ変わる余地がある。そこが希望ではないかと思っています」。

CASE 3
地方創生は失敗する、消費者を呼ぶだけではまちづくりも失敗する

日本、海外、いろんなところで暮らす人

アーティスト、マドリスト、プランナー、うどんの人

森岡友樹さん



日本はおろか海外も含め、さまざまな土地に住み、まちに関わってきた森岡友樹さんは開口一番、「そもそも、今のままでは地方創生という名目で行われている事業の多くが失敗すると思っています」と切り出した。

森岡さんの解釈でいえば地方創生は国家戦略。極端な少子高齢化の中、これまでと同じ一局集中の仕組みではやっていけない、であれば地方にビジネス、産業を作ろうという政治的経済的な要望で、上から、結果ありきで作っていくものだ。

地方の経済をなんとかしたいという部分に関してはおおよそ同意しながらも、それを地方行政の旗振りで行うという形に問題を感じているという。

地方で暮らす一般の有権者の多く、言い換えれば地方の高齢者の多くがイメージする地方創生はかつての高度経済成長期のモデルのまま。誰かが来てくれて、それがお金になるという、しごく都合の良い受け身の、すでに現実的ではないモデルである。

モデルがずれている上に、そもそも地方で地方創生の大枠を考えている人たちはすでに消費のメインではない世代の人たちだ。未来の消費＝産業を作り続けるには歳を重ね過ぎてもいる。

地方の議員たちが現状を認識していたとしても彼らは投票によって選ばれる身。有権者の支持を得つつ先進的な試みにトライするのは難しいこともあろう。

それでも地方創生が急務であることは間違いなく、良くも悪くも大きなお金が動くチャンスでもある。関わりたいという議員は多いはずで、でも、地元では考えられないとなると都市のコンサルタントや代理店などに高い費用で外注する結果に。

当たり前だが、地方創生の主役はその地方の人たちであるべき。だが、実際に住民、議員、そして行政までが受け身である結果、都市の人たちが地方創生に取り組むという本末転倒な状況が出来している。これで成功が望めるとは思えないというのである。

地方に必要なのは若い人ではない

人の呼び方にも問題がある。誰でも良いから移住してほしい、移住したらお金をあげますと言われて来る人は受け身なお客さんでしかない。他にもっともらえる自治体があれば出ていくかもしれない。

また、若い人だけに来て欲しいというのもどうだろうか。

玉野市の宇野港エリア（写真左）で再生された1966年築の古いビル。１階にはカフェやハンバーガーショップ、２階以上にはホステルが入っており、夏には屋上でビアガーデンが開かれることも





「若者に幻想を抱き過ぎか、もしくは人口を増やすことにばかり目が行き、移住者を単なる数字、お金を落としてくれる消費者と見ているからでしょう。でも、移住者が町内に増えてもまちは活性化しません。

今は人の行動範囲が広く、買い物は仕事帰りのロードサイド店か、週末に出かける近くの都市で済ませてしまうだろうし、普段は家でゲーム。これでまちが活性化しますか。若い人が来れば諸問題が解決するというのは幻想です」。

逆にこれから重要なのは20代、30代ではなく、その上の50代を中心にしたプロ人材を地方に呼びこむことだと森岡さん。

「今、地方のまちづくりの現場には50代が本当にいません。移住者は20、30代が多く、地域によってはUターン含め40代まではまあまあいますが、40代半ばのロスジェネ世代が最年長でしょうか。地域の縦軸を繋ぎ、おじいちゃん世代と若い人世代を繋げられる、通訳できる世代が必要なのです」

事業の面からも40代、50代の実務経験を積んだ人が必要だという。20～30代のセンスで良い商品を作ってもブランディングを考え、流通のチャンネルを作らなければ売り上げは上がらない。売れない品は高くせざるを得なく、ブランド力が低い高額商品はますます売れない。これでは事業を作っても続かない。

であればブランディング、流通の仕組みを作れる40代、50代の力を貸してもらい、売れる仕組みを作り事業が安定的に拡大し、若者の活躍の場があれば、そこに若い人も入ってくる。人が出て行かない仕組みを作らなければ、どんなに人を呼んでも出て行かれるだけなのだ。

キャリアを積んだプロ人材の必要性については総務省も考えている。前述の西塔さんの項で紹介した2021年春からスタートした地域プロジェクトマネージャー制度がそれである。

まちにやってきた若い人や地域おこし協力隊（以下協力隊）の力を点にとどめず、線にし、面にしていくためには若さ以外の力も大事なのである。

ちょっと横道に逸れるが、森岡さんが提案する協力隊の利用法が面白かったのでご紹介しておこう。自分の勤めている会社の支社を作るというやり方だ。

「協力隊で地方に行くと人件費、経費は国から出ます。そのお金を利用して社員10人くらいのサテライトオフィスを作るのです。個々人に支給される経費は大きくなくても10人も集まればそこそこの額にはなる。本社は経費も給料もほぼ出さなくて良い。協力隊は最長３年が期限ですが、その期限内で本社の仕事をしつつ地元の課題をビジネス的に解決していけば協力隊の要件を満たせるし、地域に根差した経済活動になり、期間満了後もその地域を離れなくなる。支社が存続する限り自治体にはお金が落ちますし、地元採用も増えるでしょう。

自治体は協力隊を管理監督しなくてはいけないと考えており、それが1人、2人でも担当職員を付けます。それなら同一企業から10人くらい迎え入れて管理するほうが、管理コストも合うはずです」。

ちょっと発想を変えると同じ制度でもやりようがありそうだ。

クリエイティブな人たちを呼ぶ意味

地方創生が上から産業をサポートしていくものと考えると行政のやり方を変えることで結果は出やすくなるかもしれない。

だが、前項で森岡さんが言っていたように単純に人を呼びこむだけではまちや産業は作れないとしたら、それに対しては何をしたら良いのか。

「まちづくりは、どんなまちが良いか、どういうふうにまちを今後成長させていくのかをみんなでちょっとずつ考えていくもの。それを下から積み重ねるもの、生業の上にあるものと思っています。これを実現するためには、受け身な消費者ではおさまらない人たちに来てもらうことです」。

それが勝手にまちを作ってくれるクリエイターだという。

「岡山県玉野市でクリエイティブカップル移住プロジェクトという、言い続けているだけのプロジェクトがあります。このプロジェクトの主体組織は店をリノベーションして事業を始めたり、新たな産物を生み出したりは基本しません。移住の旗振りをし、移住者に寄り添い、お手伝いや応援はしますが、主役は移住者。それで本当にクリエイティブな人が集まってきています。

クリエイティブカップルと明確なターゲットを言い続けることで、該当する人たちに自分たちが求められている事が明確になり、自分と近い感覚を持っている人たちがいると思って移住、そして実際にクリエイティブで面白い友達ができ、充実して暮らす。移住してき

た人が他の人を呼ぶ。そんな循環が生まれる自走式のまちづくりなのです。まさに人こそがコンテンツなのです。

そしてクリエイティブな移住者は基本的にまちで自分のやりたいことをやります。ただ、まちの気風や友人知人たちが行う活動、商売やタイミングを自然に加味して考え、自分たちが住みやすいまちになるといいな、地域がうまくいくといいなと自然に少しだけ気を使って活動を重ねる。それによって結果的にまちが作られていくことになります。

行政ができることは、個人が勝手にやっていることに乗ることくらい。地方創生という意味では行政が乗っかってきてくれることが大事でしょう」。

結果、この10年間で140人以上が移住、町には30軒ほどの店が増えたという。団体数で言うと50団体ほどがそれぞれ勝手に自分たちでイベントを開き、アトリエを作り、まちの人たちやクリエイティブ気質のある近隣住民も巻き込んでまちを作っていっているという。

もちろん、この10年のうちには出て行った人もいるが、それもほとんどが留学や転勤などの理由。そして一度出て行っても戻ってくる人が多いという。

「人が出ていかない、出て行っても帰って来てくれるのはまちが選ばれ続けているからこそ。選ばれ続けるまちにするためには、常にアップデートし続ける必要があるのでまちには多様性が必要で、クリエーターはその多様性も作り出してくれます」。

それに対して地元の人たちはどう反応しているのだろう。

玉野市は塩田、造船、連絡船、フェリーの往来と時代によってまちが変化してきており、それぞれの時代に移住、財を築いた人が多い。ずっとそこに住み続けてきた人たちが多い地域ではないためだからだろうか、全くなかったわけではないものの、全国の他の地域で見聞することに比べれば比較的反発は少なかったと思うと森岡さん。

「一般的には年配の男性陣には俺たちが作ったまちという意識が強いからか、新しいまちづくりへの参加は積極的ではない印象。逆におばちゃんたちは新しいものに対してコミュニケーションを取るのが早い気がしますね」。

新しもの好きのおばちゃんとしては激しく同意する。コミュニケーション能力は年代を問わず、女性のほうが高いことが多い。森岡さんの言葉にまちづくりの場面に女性がもっと増えていけば、新しいモノに対するアレルギーも変化していくのかもしれないと妄想した。

ただ、「ヨソ者を排除する心理自体は地域や自身の財産を守ろうとするものなので、防衛本能的な自然な感情だと思っています」とも。

地域のやり方を尊重する

玉野市以外にもその感情と上手に向かい合いながら来た人が勝手にやりたいことをする形で変化し始めているまちがある。

森岡さんが挙げてくれたのは長野県諏訪市。上諏訪駅から徒歩10分ほどの場所にある「ReBuilding Center JAPAN」(以下リビセン)と下諏訪駅に程近いマスヤゲストハウスがきっかけとなり、周囲に店が増え、若い人たちが集まるようになってきているという。



森岡さんが全国で開催してきた、妙な間取り図を楽しむイベント、間取り図ナイト。これをきっかけに日本国内のさまざまな土地を経験してきたそうだ

リビセンは取り壊される建物からレスキューされた古材を販売する店だが、それ以上に古いものを再評価するという文化を伝える場として評価されており、そこに人が集まっている。諏訪でも新しい価値を作る人＝クリエイターが主役なのである。

リビセンを立ち上げた東野唯史さんは地元に住み込んでマスヤゲストハウスを改修したことから諏訪に縁ができ、リビセンを立ち上げるに際して首都圏からも中京、関西圏からも便利な諏訪を選んだ。

諏訪に暮らしたことがある森岡さんに聞くと玉野市とは全く違う人間関係があるそうだ。

「諏訪は温泉街で集落ごとに管理している温泉があり、地域の人たちはそこで毎日のように顔を合わせます。非常に緊密で、ある意味では閉鎖的。自治会に参加していると毎週1回は集落の寄り合いがあり、集落をまたいで商売していると週2回寄り合いに参加しなくてはいけないなど単身者や若い人たちにはなかなか大変。でも、温厚な人が多く、きちんと挨拶して事情、状況を説明すれば普通に接してくれます。一方で外から人の来る温泉街でもありますから、排他的ではありません。東野さんは仕事ができるだけではなく、人柄も良く、周囲の人からすると任せておけば安心と思える人で、地域とも面倒がらずに向き合っています。だから、うまくいっているのでしょう」。

クリエイターであるだけではなく、挨拶なども含め、地域のやり方を尊重し、社会的な付き合いもできること。当たり前のようだが、それが地域を変えられる人ということなのだろう。

SNSで嫌われるおじさんにならないために

最後に地方創生、まちづくりからは少し離れるが、森岡さんがある島でぎっくり腰になった時の話が示唆に富んでいると思ったので最後にご紹介しておきたい。

「しばらく寝込んでいて、少しして動けるようになった時には島の全員が私のぎっくり腰のことを知っていて、ああ島だなぁと思いま

した。そんなある日、島を歩いていたら『自分（＝あなた）の彼女がヨソの男と歩いてたけど、あれ、ええんか?』と知らない人から声をかけられました。一度も話した事がない人からです。相手は私と直接話したことはないのに日々、私に関する情報に接しており、なんとなく知り合いになったような気になっていたんでしょう、いきなり話しかけてきたのです。私の彼女がどうこういう前に、お前、誰やねん、心の中で突っ込みましたよ」。

笑いながら聞いているうちに、その姿がSNS上で嫌われるおじさんと重なった。いつも見ているからと勝手に知り合いになっている気になり、馴れ馴れしく寄ってくるおじさんだ。SNS上にだけ存在するように思っていたが、いやいや、昔からあの人たちは存在していたのだ。逆にSNSの登場で浮かび上がってきたのだろう。

どう考えても気持ちよくない存在だが、あの人たちに他人から気持ち悪く思われていることを伝えるにはどうすれば良いのだろう。SNS上ではブロックできるが、リアルな場合にはそうもいかない。どう伝えれば分かってもらえるか。笑う話ではないなあと思った。

CASE 4

成功している自治体は内側にきちんと目を向けていた

徳島県神山町に関わる、出身の異なる３人

徳島県神山町
馬場達郎さん
神山つなぐ公社
西村佳哲さん
高田友美さん



写真左から、西村さん、馬場さん、高田さん

2017年11月に取材で徳島県神山町を訪ねた。自前の材で、地元の職人で作る町営住宅「大埜地の集合住宅」と今でいえばワーケーションで日本全国から多くの人が訪ねる宿泊施設「Week 神山」を取材するのが目的だった。

が、取材の結果、もう1本記事を作ることになった。その理由は移住というテーマで話を聞くと自治体外に向けた施策が多い中、神山町では内側に目を向けた取り組みが多く、そこに興味を覚えたからだ。

たとえば神山町では移住希望者のために空き家をリノベーションした「すみはじめ住宅」を用意している。移住者にとってはまちに住み始めながら、暮らしを考え、仕事を試みることができ、集落の人と顔を合わせる機会となる場だが、それは同時に地域の人にリノベーションを知ってもらい、空き家を見る目を変えてもらうための場でもある。リノベーションに携わる地元の大工には技術を習得する場としても機能する。

当時、建設中だった町営住宅に関しては月に1回、小学生でも読めるようにとふりがなをふった新聞を作成して作る過程、意味などを細かく説明。全戸に配布していた。

さらにもうひとつ、他の自治体ではまずやっていないだろうと思ったのは町民が変わり始めた町を見て歩くバスツアーだ。移住者に地域を案内するツアーならどこでもやっているが、神山町がやっているのはその逆バージョンだ。

神山町は鮎喰川沿いに広がる細長い町で、集落同士は離れて存在している。そのため、変化が起きているとテレビで紹介されてもそれを見たことがない町民が多数いる。そんな人たちに実際に町で何が起きているのか、どんな人たちが入ってきているのかを見てもらい、不安を払拭してもらおうというのがバスツアーの目的。

2016年10月にスタート、順調に回を重ねて参加者を伸ばしており、これによって町民の移住者への理解は深まったという。

これらの話を思い返すと、神山町の成功の背後には地元への丁寧な説明があり、それが大事な要素と思える。そこで再度取材をお願い、地域の人たちに向けた取り組みについて聞くことにした。

移住者以外の人にもスポットを

取材に応じてくださったのは前回と同じ神山町役場の馬場達郎さん、神山つなぐ公社の西村佳哲さん、同じく高田友美さん。

私が感じた通り、神山町では内側に向ける目をずっと大事にしてきたと西村さん。

「前回はバスツアーを取り上げてもらいましたが、もうひとつ、神山つなぐ公社が2016年につなぐプロジェクトのひとつとしてスタートさせた孫の手プロジェクトがあります。これは町内に暮らす高齢の一人暮らし世帯の元に造園土木などを学ぶ町内の城西高校神山分校の生徒たちが有償で手伝いに行くというもの。手が回らなくなった家の周りの植栽その他に子どもたちが手を入れることで居住者の困りごとを解決、子どもたちには学んだことを実践する場を提供するというものです。当時、通学する高校生は町外の子が大半。町内から進学する子どもは1割以下になっており、学校と地域とのつながりが薄くなっている状態でもありました。それを繋ぐことで、高校を地元のものにしようと考えたのです」。

活動の結果もあるのだろう、最近では町内から進学する子どもが

左／大阪で開かれたイベント。現在神山町に住んでいなくても地元の様子を気にする人は重要な関係人口
中央・右／孫の手プロジェクトで働く高校生たち。実務的にメリットがある以上に意味のあるプロジェクトだと思う





増え、活動も定着、リピートして依頼する人も出てくるようになった。さらに大人も加わってまちの部活動として展開しようという動きも出てきているという。

神山つなぐ公社は2015年にできた神山での地方創生プランを実現していくために設立された一般社団法人で、外に向けての活動に加え、内を向く、内の人たちを繋ぎ直す活動も行っている。

「家族が大変なのに外面ばかり良くしてもダメ。中が良いから外の人を呼び込めるのです」と西村さん。誰も反論できない言葉だが、実際にはそれを忘れて外ばかり向いている例も少なくないのが現実ではないかと思う。

地元の人たちに目を合わせるという点ではこれまでと違う動きも出始めている。

「地域の変化を紹介するとなると、つい移住者に目が向きます。でも、地元にも素敵な人たちがいます。2019年の夏に地元に戻って来た3人に話を聞くイベントを開催したのですが、ちょうど帰省の時期ということもあり、40人ほどに参加いただきました。『あいつが話すなら行ってみようか』と懐かしい顔に会う場にもなったようですし、改めて地元の方に聞くと山で暮らす大変さ、将来の水の管理について考えるきっかけにもなりました」と高田さん。

言葉にならない不満をじっくり聞く

その時に登壇したひとりが馬場さん。高校入学で町を出て就職、結婚を機に13年ぶりに帰ってきて、現在は役場に勤務している。

「結婚するタイミングはちょうど、前の職場で経験を積み、社会人としてやっていけるかなと思うようになっていた時期。それなら自分を育ててくれた町の役に立ちたいと思いました。過疎化、人口減少と課題があるのは分かっていましたが、知っている人が全員外に出て行ってしまう、戻って働く人の姿が見えない、だったら逆に自分は帰らなくてはと思ったのです」。

馬場さんはつなぐプロジェクトの報告会、バスツアーなどの先頭に立って説明をする立場にあるが、馬場さんが話をすると聞いている人たちに沁みていっていると感じると西村さん。

「うまくやればいいのではなく、誰が、何をどう伝えようとしているかが大事。この人に言われたらという安心感があるのです」。

西村さんはその安心感の源を伝えるより受け取ることを大事にしているからではないかという。住民が思っていること、わだかまりを熱心に聞き、一度受け取ることが、この人の言うことなら…という思いに繋がっているのではないかというのだ。

住民の間にある不安、わだかまりは馬場さん自身が帰ってきた時に抱いたものにも重なる。

「生まれ育った町を良くするためにと帰ってきたものの、当時すでに活動をしていてメディアにもよく取り上げられていたNPO法人グリーンバレーなどの活動については全く知りませんでした。自分たちは知らないのに外ではもてはやされている、自分たちの住む神山とは違う神山があるという居心地の悪さ。説得をするより、まずはその不安を聞くことが大事だと思っています」。

行政の仕事の8割、9割は日常の地元の生活を支えるものだが、あることが当たり前な業務は誰の目にも見えない。逆に割合は少なくても外に向けての事業はどうしても目立つ。となると外に向けてはやっているけれど私たちはどうなの、説明してくれないの、聞いたことないわと思う人たちがどうしても出てくる。

取り組みを批判したいわけではない、でもなんか言いたい、なんか気にいらん、という言葉にならない思いは聞くことで解消されることが多いと馬場さん。どういうことから不安が起きているか、それを聞くだけで良いのに、つい説得しようとする。でも、説得は自己満足だなと思うこともあるという。

一度外に出たことのある、でも地域の人であるという視線。神山町ではそれがうまく生かされているのである。

さらにその視線を生かそうと今年度は町の広報誌の見直しを行う予定だ。ただ情報を伝えるだけではなく、誰もが一緒に町を作っている仲間であることをどう伝えるか。それが見直しにあたっての大きな課題だ。

「今、地元の情報は徳島新聞と噂話が9割5分を占めています。行政が縮小していくと広報も縮小、情報の羅列になりがちですが、

それをどう伝え、さらに対話にもっていくか。考えているところです」。

たいていの行政は口下手だ。きちんと伝えれば分かってもらえることも言葉が足りない、言うべきタイミングが違うだけで悪く取られることもある。そうではない、伝わる、人の気持ちを動かす媒体。彼らなら作れるのではないかと思う。

町外にいる出身者を味方に

地元に戻ってきた人以外に今は外にいる町出身者とのコラボレーションも生まれた。大阪でのイベント開催にあたり、大阪にいる神山出身者を探したところ、町営住宅建設にあたった大工の弟がファッション関係の企業に勤務していたことが分かった。

そこでその人に声をかけてみたところ、神山の物品を紹介し、話をする会をやろうと話が発展、実現に至ったのである。

「町を離れてしまうと気になっていても町と接点が持ちにくく、どうしたら良いだろうと思っている人はそれなりにいると思っています。去年はコロナ禍で定例のつなぐプロジェクトの報告会をオンラインでやったのですが、そこには町内、町外の人が120人くらい集まってくれました。また、2021年4月からつなぐプロジェクトの第2期目がスタートしたのですが、それにあたって前期の検討をする委員会を開いたところ、東京、大阪で働いている30代が参加、一緒に考えて施策の検討までしてくれました」。

外で働く町の人たちの郷土愛には非常に強いものがあると西村さん。外で自分たちが学んだこと、獲得してきた技術をまちのために生かしたいという気持ちがあるという。今と昔を比べ、外と中を比べられるからか、新鮮なアイディアが出てくることも多いそうで、町にとってこうした人たちは大きな財産だろう。

アーティストが意識を変えた

ところで、神山には徳島県の他市町村出身者がJターンしてくることも多い。親元に近いところには帰りたいが、自分の故郷ではないところが良いという選択だ。

「都市には序列はありませんが、地方には厳然とした序列があります。それがしっかりしていて偉い大人たちが強い地域では帰ってきても活躍はできなさそうと敬遠されてしまうのでしょう。中山間地の暮らしにはいつも誰かに見られているような息苦しさもあり、一度都市に出て序列のない気軽さを味わってしまうと、もうあの中には戻りたくなくなります。そこで生まれた場所の近くの神山となるのです」と西村さん。

「子育てを考えると若い人が少ない地域に行くのはとためらうでしょうし、最近は国際結婚したカップルがハーフの子どもに慣れがない地域での子育ては難しいと神山に引っ越してこられました。神山では20年来アーティストインレジデンスが行われてきており、英語を話せないおじさんが外国人と一緒に飲んでいたりします。通じていないようでちゃんと会話になっているのですから面白いものです」と高田さん。

神山町では前述のグリーンバレーが1999年からアーティストインレジデンスを実施、毎年3～5人のアーティストが滞在、作品を作っている。西村さんは私見ながら、と断りながらこの取り組みが町を大きく変えてきたという。

「神山では早い時期から国際交流をきちんとやっていこうという動きがありました。子どもたちの学力は高いものの、英語に触れる機会がない。それが不利だとアーティストインレジデンス以前にもウィーン少年合唱団を受け入れたり、外国籍の先生を小・中学校に導入したりといろいろやってきています。

そのうちでもアーティストという選択は特に良かったと思います。彼らは勝手に地域の人と仲良くなるし、相談します」と西村さん。

頼まれて仕事をするのがデザイナーだとすると、頼まれもしないのにやるのがアーティスト。自ら動く、能動性の塊だというのである。

「私はアーティストの滞在拠点の近くに住んでいますが、彼らはよく外を歩いています。田んぼ、人の動き、植物、いろいろなものを観察しており、それを地元の人たちが面白がって見ています。オフィスの中でパソコン相手に仕事をするのとは違い、見て何をやっているのかが分かり、成果も見える。彼らが見える形で町にいることで、世の中にはいろいろな人がいるということが言葉にしなくても分かる。それが続けられてきた意味は大きいと思います」と高田さん。

アートをまちづくりの中心に据える地域が多いのはそういう働きを期待してのことなのだろう。

最後にそんな神山町のこれからの取り組みについて。2021年から始まった第2期5年間では町全体というより、地区を単位にして考えていくという。

「神山町は昔、7つの村でした。それが戦争後に合併したのですが、自分たちの場所という意識を持ちやすいのは旧来の村くらいの規模ではないかと考えています。特に中高年以上の人にはその意識が強い。外から見ると神山町というひとつの単位ですが、中にいるとそれは大き過ぎる。小さな単位で地域の課題を自分ごととして考えられるようにしていきたいと考えています」(馬場さん)。

次の5年でどこが変わるか。地域の変化に関心のある人なら注視しておくべきだと思う。

CASE 5

高校生が地域に留学、子どもが変わる、地域が変わる

地方の高校と全国の高校生をつなぐ



一般社団法人地域・
教育魅力化プラットフォーム

尾田洋平さん

高校生が親元を離れた高校に進学、寮生活をしながら3年間を送る「地域みらい留学」というプログラムがある。

友人のご子息が参加、3年間、友人のフェイスブック上で彼の成長を覗き見してきたのだが、率直なところ、すごいの一言である。都会にいたら親と学校、塾の先生以外の大人に接することはないだろう高校生が地元の大人たちと一緒に地域に関わり、堂々と意見を述べる。多くの人を組織してイベントを開催する。その成長のスピードは都会では望めないものであり、こんな仕組みが私が子どもの頃にもあったらなあとため息をついたものである。

同時に子どもたちが変わるのであれば、子どもたちに関わる大人たちも変わるのではないかと思った。コミュニケーションは双方向で行われるもの。一方だけが変わることはあるまい。

その想定の下、話を聞いたのは地域みらい留学を運営する一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム常務理事の尾田洋平さんだ。

地域に高校を存続させることが短期目標

尾田さんによると地域みらい留学には短期、中長期でそれぞれに目指すものがあり、短期的にはまず、地域に高校を存続させることが最優先課題だという。

「地域、特に離島中山間地の場合、地元に高校がないと子どもたちは15歳で外に出ていきます。子どもだけが出ていくのではなく、時によってはその機会で家族全員が出て行ってしまうこともあります。高校が無くなると地域から人が流出、存続が難しくなります。それを防ぐために学校を「魅力化していくこと」を考えました。高校が魅力的な存在になり、県外から生徒が増え、教育環境が良くなれば、地域内の生徒も増える良い循環が生まれます。その循環を作ろうというのが地域みらい留学です」。

2004年の島根県隠岐島前高校での高校魅力化事業に始まり、現在では日本全国で26道県、70校が県外生を受け入れるようになっているが、募集開始初年度は、うまくいかないことが多いという。

「学校や地域が自分たちの高校や地域の魅力を理解していない、言語化できていない、学校と地域、学校と自治体が連携できていないなどがその理由。でも、うまくいかなかったことで学校や地域は考え始めます。なんでうまくいかなかったのだろう。次は連携、カリキュラムを考え直そう、言語化して広報もするべきだと生徒募集をきっかけに地域、学校を考え直し始めるのです。

多くの場合、自治体と学校がタッグを組まなければということになるのですが、ここに地域みらい留学の仕組みの工夫があります。単純にコーディネーターを入れて教育の質を上げよう、カリキュラムを作ろう、だけではそれをやって終わりになりがちですが、地域みらい留学では実際に生徒を募集するという共通の目標があります。5人に来てもらうためにはどうすれば良いか、関わる人たちが連携して具体的に考え始めるのです」。

学校、自治体、地域が共に学び、主体的に動いていくことが重要と考えているのだ。

「教えられることと自分たちが必要だ、こうありたいから行動することは意味が違います。すでに様々な事例も存在するので、主体的にチームで推進できればうまくいくと思います」。



都会で暮らしていると高校生が出会う大人といえば親と先生だけ。地域みらい留学では地域の大人たちと触れ合う機会が多い

子どもたちは意外に暮らしを見ている

特に大事なのは「学ぶ」と「暮らす」が一緒になっていることだと尾田さん。卒業生に留学先選びで外せなかったことをアンケートしたところ、第1位は留学先の町や村の雰囲気、第2位は寮生活だったという。

都会の我が家にいると地域の雰囲気や生活する場所に高校生の目が行くことは少ないはずだが、違う地域で暮らすとなると、それだけで意識が変わる。どんな暮らしが待っているのか、学校だけでは答えられないことを子どもたちは気にしているのである。

当然、それに答えられる地域に子どもたちの人気は集まる。

「留学先となる高校を集めて子どもたちと親に学校、地域のプレゼンをする『合同学校説明会』を開催しているのですが、そこで人気を集めるのはあなたが生活する地域、住む場所、休日の過ごし方などをきちんと伝えられている高校です。最初はどの学校もカリキュラムなど教育的な観点を重視しますが、決め手となるのは実はそれではないのです。そのため、『合同学校説明会』では先生だけではなく、自治体の担当者、留学している子どもたちや地元の子どもたちが参加、いろいろな視点で参加している中学生たちと交流しています」。

私も2019年夏に渋谷で開かれた「合同学校説明会」に参加したが、子どもから大人まで多くの人が関わっていることにびっくりした。しかも、言われて参加しているのではない。自分たちで考えて作った資料を持参して参加している子どもたちもいたほどで、この子たちに関わる大人たちは子どもに負けてはいられないと思うのではなかろうか。

それが地域みらい留学の中期的な目標である。高校が地域に開かれ、地元の人、企業などと広く関わるようになり、地域にインパクトを与えることだ。

「留学中には地元の人、企業に関わることもあり、高校生を応援しようといろいろチャレンジをさせてもらえます。ですが、高校生を支援しているようで実は大人たちが元気をもらっています。新しい発想、アイディアも生まれますし、子どもたちを介して会話が生まれ、地域のコミュニティが再構築される。そんな効果が生まれています」。

長期的には関係人口プラスαを増やすこと

そしてその先の長期的な目標は留学してきた子どもたちやその子どもたちに影響を受けた地域の子どもたちが長く地域に関わってくれるようにすること。

「島根県で高校魅力化に取り組む子どもたちの7～8割は、卒業後も地域（島根）に関わりたい、島根に戻ってきたいと言っています。一部の進んだ高校では大学生になったかつての留学生が後輩を支援する仕組みを作ったり、関係を維持する試みをしたりと次のチャレンジを進めています。地域に関わった子どもたちが関係人口になり、将来的には移住などにも繋がることになればと思っています」。

ここで注目したいのはこのプロジェクトで学んだ子どもたちは基礎学力だけでなく、主体性や社会性、協働性などの力を備えているということ。尾田さんは意思のある若者という言い方をしたが、地域を持続可能にするためには自ら動ける人材が必要。このプロジェクトで育成されているのはいずれ地域はおろか、日本、世界を担うであろう人材なのである。

高校生が地域に来るという絶妙さ

最後に高校生が対象という絶妙さについて触れておこう。最初に聞いた時はうまいな！と思った。ヨソ者の大人が入ってきてビジネスプランがどうのと言われたら反発する大人でも高校生に教えを乞われたら、あまり邪険にはしにくい。自分で決めて出ていける地域おこし協力隊と違い、高校生なら3年間はそこにいることになるとも考える。仕方ない、面倒を見てやろうかと思うはずだ。

いきなり違う土地に来る子どもたちも最初は大変だろうが、幸い、この年代ならまだ思考は柔軟である。価値観が固まってきている大人には受け入れにくい経験や出会いにも高校生なら最初は戸惑いがあったとしても、ここはそういう場所かと順応、相手のルールを学ぼうとするだろう。

「なじむまでには半年くらいは戸惑いがあると聞いています。急に知らない人に注意されることは都会ではありませんし、挨拶せずに済む暮らしではありません。気の使い方も文化も違う。でも、若いうちに世の中には自分が育った地域とは違う地域があることを知っておくことは今後の人生にとって良い経験だろうと思います」。

双方に戸惑いはあっても高校生を受け入れているうちに大人たちは変わる。若いものに任せて大丈夫かではなく、おそらく若いものにこそ任せようという人たちも出てくるのではなかろうか。何しろ、留学してくる今どきの若いものはすごいのだ。

けなす言葉としてではなく、褒め言葉として「今どきの若いものは！」を生むプロジェクト。それもまた地域みらい留学なのだろうと思う。





左／若いうちに都心とは異なる生活環境、住環境を経験できるのは羨ましい
右／コロナ禍で学校説明会はオンラインになったが、場所の制限がなくなり、参加しやすくなったという声も

CASE 6

福井県美浜町に自分たちで空き家ゼロを達成した集落がある

福井県美浜町で自発的空き家解消をサポート



ふるさと福井サポートセンター

北山大志郎さん

福井県美浜町にあるNPO法人「ふるさと福井サポートセンター（以下ふるさぽ）」は2011年以来、町内の空き家問題に取り組んできた団体である。美浜町では空き家があっても市場に出てこないため、住みたくても住めず、外に出て行ってしまうケースがある。それを食い止めようと企画したマッチングツアーが始まりで、その後はITを利用した空き家対策に取り組んできた。

たとえば地図上で空き家をマーキング、写真撮影、調査票記載をタブレット上で行ってその情報をPCでデータベース化する仕組みがある。データベース上には空き家になった経緯や周辺からの苦情なども細かく入っているため、担当者が変わっても情報が共有でき、効率的である。

あるいは空き家所有者に早期決断を迫るためのツールとして開発された「空き家おねだんシミュレーション」。これは相談者に課税証明書を用意してもらい、それを元に情報を入力していくといくらで売れるか、解体費用はいくらかかるかに始まり、登記用や税金など気になるお金の話が掲出されるというもの。

しかも売却価格は最近の周辺の取り引き事例、税金から算出した売却額、自分の売りたい価格と3種類出るようになっており、もっと高く売れるかもしれないという妄想を上手にコントロールできるようになっている。

これに加え、美浜町の37集落それぞれのローカルルールを理解しようと集落のキーマンにアプローチ、何かあった時には相談できるような緩い関係を構築してきてもいる。他にも空き家問題に取り組む団体は数多いが、非常に独自性のあるやり方をしている団体なのである。

実際、2020年には共同通信社が地方新聞46紙とともに地域の課題解決に取り組む団体を表彰する第10回地域再生大賞を受賞しており、私はその時に北山さんに活動状況などを詳しく取材した。

ITから集落へ、方向転換の意味

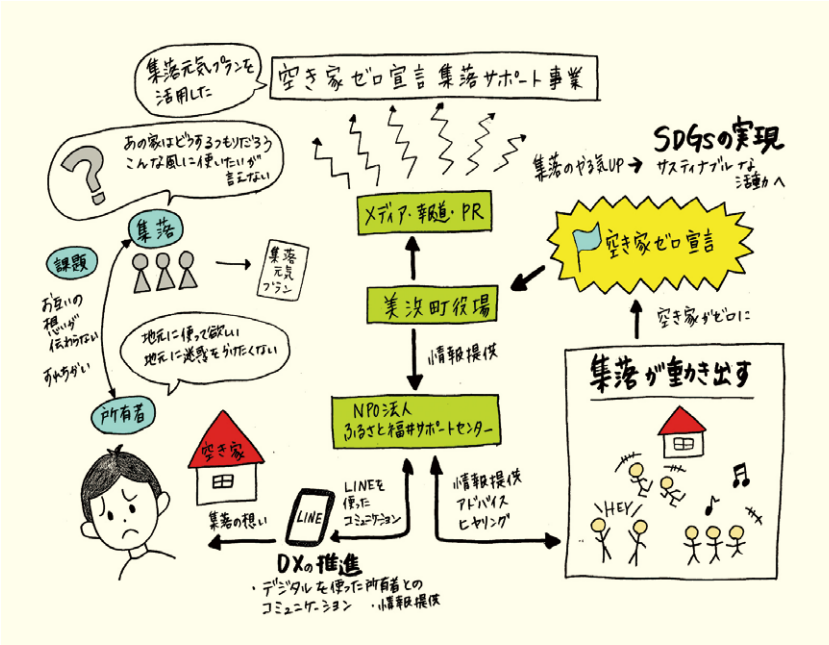
だが、それから1年半が経ち、北山さんの活動は大きく方向転換していた。ITから人間へと言えば良いだろうか、取り組む相手を変え、これまで以上の成果を出していたのである。

「空き家所有者の決断を促し、それを使う人を探して空き家を埋めても、それだけでは問題の解決には繋がっていないことに気づいたのです。そこで方法を変えることにしました」。

これまでのマッチングでは登場人物は空き家所有者と移住者、そしてふるさぽという三者だった。新しい仕組みではそこに集落が入る。

「これまでも集落の人は空き家が誰に売られるか、どんな人が入ってくるのかを気にしていました。でも、やりとりに集落の人が関わることはなく、知らないうちに誰かが住み始めているというのが現実。都会のアパートなら誰が入ってきても問題ないでしょうが、田舎の集落には集落のルールがあります。草刈り、年1回の行事、祭りには参加して欲しいし、生活上のルールもある。区費（町内会費のようなもの）も払って欲しいと思うものの、入って来た人がそれを知らず、コミュニケーションも取れないとなると孤立。最悪の場合には出て行ってしまうことにも。実際、これまでもそうした例はありました。そこでこれからは住みたいと思っている移住者が出たところから集落にも入ってもらうようにしました。集落の理解がなければ定住は難しく、定住してもらえなければいつまでも空き家問題は解消しません」。

ヨソ者が入ってくるのは嫌、不安と思うのはそれが知らない人だから。であれば、早いうちからどんな人かを知ってもらい、コミュニ



ふるサポが打ち出した空き家ゼロ宣言集落サポート事業の概念図。これまで誰かがやってくれるものだった空き家対策を自分事化する仕組みである

ケーションを取ってもらうことで齟齬が生じないようにしようというのだ。

「こういう人を連れてきましたとなった時に地域の人はいろいろマイナスをイメージします。この人誰やの？から始まり、家族構成は、仕事は、借金はないのか、悪い人には来て欲しくないなどなど。加えて土地を売ってしまったら、その次にその人が誰に転売するかまでは責任は取れません。そう考えたら判断は私ではなく、集落にしてもらおうと思いました。

取り引きは個人対個人で行われ、その段階では集落は口を挟めませんが、それ以前の段階で集落としての意思を希望者、所有者に伝えておければ齟齬が生じにくくなるはずです」。

そこで移住希望者が出た、空き家が出た時点で希望者、所有者に承諾を取り、情報を集落に流すようにした。集落には区長（いわゆる町内会長）という情報のハブになる人がおり、その人に情報を伝えておけば集落の全員に伝わる。それを利用して、空き家が出ました、使いたい人、買いたい人がいたら教えてくださいなどと情報を流しておくのである。

すると、隣に住んでいる人が駐車場にしたいと思っていた、息子が帰ってきたいと言っているが家がないのでその家を買いたいなどと情報が入ってくる。それがうまくいけば集落の中で空き家が循環する。わざわざ遠くで人を探してこなくても集落の中で空き家問題が解決することになる。

「集落の人が知らないうちに移住者が決まった場合、集落の人たちは聞いてなかった、私らが決めたことではないと考え、移住者を悪者扱いしがちです。空いていたなら使いたかったのにと恨む人もいたでしょう。でも自分たちが主体的に関わり、探してきたとなれば問題は変わります。集落を巻き込むことで、自分たちで問題を解決しようという流れを作ろうと思ったのです」。

自力で空き家ゼロを実現

そして、その目論見は功を奏した。4月には自分たちの手で空き家ゼロを達成した集落が出たのである。

集落の総戸数は26軒ほど。そこに5軒の空き家があり、ふるさぽがそのうちの3軒に移住者を紹介した。残りのうちの1軒は集落の中で、隣の家買わんか、ほな買うわというようなやりとりで売買が成立。もう1軒も集落の人たちのネットワークの中で探してきた。今年年明けから始めて4月で空き家ゼロは素晴らしい成果である。

「その集落は衰退するわけにはいかんという意識があり、ここならできるだろうと思っていました。でも、残念ながら、そうではない集落もあります」。

同じ美浜町内でも集落により、居住者の年齢も地域性も異なり、危機感にも濃淡がある。動く集落、動かない集落が歴然とあるのである。

「なんかあったら行政が最後は面倒を見てくれると思っている集落は動きません。これからの時代、おんぶにだっこはないと分かっている集落は動き始めています。その違いを生んでいる要因はいくつかあると思いますが、分かりやすいところでは世代交代の有無です。世代交代がうまくいっているところは前向きでチャレンジする意気があります。でも、80代のおじいちゃんにお伺いを立てなければ動かない集落では動きたい人がいても動けません。たいていの場合、区長がキーパーソンということが多いのですが、集落によってはそれ以外にあの人に聞かないと、という人がいることも。移住者が入ってきても、そのおじいちゃんに気に入られないと受け入れてもらえないこともあるほどです」。

成功例で競争意識を刺激

北山さんはとりあえず、動くと思われる集落に注力、見える成果を上げていくという作戦を立てている。集落は互いに他の集落を気にしており、その意識に訴えかけようというのである。

美浜町では年に1回、運動会が開かれている。町民にとっては一大イベントで、そこでフィナーレを飾るのは小学生から始まって年代ごとに襷を渡していく世代混合リレーである。どの集落もあそこの集落には負けたくない、うちこそはという意識があり、それが集落の人口構成に目を向ける契機になっている。小学生の数が足りずにリレーに参加できない、若い人が少なく、速く走れる人がいないなどといった集落の現実が年に1回、目の前に突き付けられるのである。

「といっても集落ごとに意地があるので、どうやって若い人が入ってきたかなど直接には聞けません。そこで私たちが間に入り、こそっとやり方を教えてあげるという手でいくつもりです。37集落全部が一度に底上げできるとは思いませんから、少しずつ細分化してできることからやっていきます」。

個人情報という壁

ところで、集落に情報を流して空き家の借り手、買い手を探すというやり方をしてみて、北山さんはそこに大きな障壁があることに気づいたという。以前から気が付いていたものの、想像以上に大きい。それが個人情報保護法である。

「個人情報が言われる以前は空き家の所有者に周囲の人たちが『実家、どうするのや』みたいな声がけがありましたし、変な人に売ったら困るという集落としての意思表示ははっきり言葉にして伝えられてもいました。『空いているならその家、貸してくれ』も言えていたはずです。ところが、個人情報という概念が広がって以降、そうし

たことを言ったらいけないという雰囲気になりました。特に田舎の人はまじめですから、言ったらいけないとなったら言わない。でも、その裏で妄想が膨らんでいます。子どもの代から東京、大阪にいる人が相続したとなると、男か女か、どんな人かも分からず、不安が不安を呼ぶ。それが移住者に向ける白い目になったりするわけですが、でも、聞いてみたら息子の勤務先の同僚だったなど意外に繋がりがあることもあります。正しい情報で関係が分かってくれば妄想の入りこむことはなく、安心感が生まれます。個人情報をもっとも持っているのは行政ですが、公平、平等を重視する行政の立場からは情報を出す、出さないを恣意的に決めることはできません。だから、そこを繋ぐ、客観的な情報を本人の許可を得た上で提供できるNPOが必要なのだと思います」。

これまでのふるサポの活動状況。派手なリノベーションをして耳目を集めるのではなく、地道に地元の人たちの気持ちを考えた空き家対策を旨としてきており、それが行きついたのが自分事化というわけだ






地方では互いに互いのことを知っている、知り尽くしているかのように思っていただけに北山さんの言葉は意外だった。共有されているように見えて、その情報は実は正確なものではなく、噂話や妄想なども入り交じった虚々実々なものなのかもしれない。だとしたら、そこを整理、きちんと伝える存在は確かに必要である。同時に情報だと思われているものの中味も取捨選択しないといけないのかもしれない。

CASE 7
都会のルールは絶対ではない、田舎は消費の対象でもない

日本、世界のあちこちに居住、多様性を知る移住の達人



一般社団法人逞しい未来
代表理事
村上健太さん

「2015年12月、フェイスブック上に「東京を手放そうと思う」というエントリーが上がった。それにかなりの数の人が反応した。東京（首都圏という意味。分かりやすいので以降、東京と表記する）に暮らし続けることを疑問に思っている人が少なからずいるということだろうか。発言した村上健太さんは何を思って、その発言をしたのだろう。2016年1月、年明け早々に話を聞いた。」

「脱東京5組が語る「私達が東京を離れた理由」 https://allabout.co.jp/gm/gc/466935/

これは2016年に私がオールアバウトというサイトで書いた『脱東京５組が語る「私達が東京を離れた理由」』という記事の書き出しである。

「東京を手放す」と書いた村上健太さんは現在、地域おこし協力隊として移住した日本の三大秘境のひとつ、宮崎県椎葉村に任期終了後に定住。潰れかけたキャンプ場の立て直し、移住者を受け入れるためのシェアハウスの改装に取り組んでいる。

日本、世界を転々。変化に耐性あり

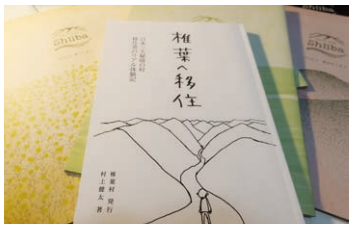
東京から秘境と言われる村への移住である。変化は大きいと思うが、村上さん自身は変化への耐性は高いと笑う。それは転勤族の親の元に育ち、日本、世界を転々としてきた経験からだ。

生まれたのは徳島県徳島市。親の転勤に伴い、小学校だけで3回転校、4校に通った後、父が愛媛県松山市に住宅を新築したため、しばらくは同じ小・中学校に通ったものの、高校は地元の友人が行かない学校に進学。

大学入学で上京、入社した会社では長野での研修を経て熊本へ異動、そこを退社後は岐阜、長野に合わせて半年強、東京でも新宿、川崎、練馬、市川と転々とし、29歳からはアイルランド、イギリスへ。帰国後は北海道、岡山……。聞いているだけで混乱したことを今でも覚えている。

そして東京を手放す宣言をした後は全国に散らばった友達を訪





左／山地に集落が点在する椎葉村。基本的には車利用でのアクセスとなり、宮崎市から約3時間、熊本市から2時間15分といえば秘境という言葉が実感できるはず。上／村上さんが書いた書籍

ねつつ、面白い仕事、行き先を探そうと北は北海道から東北、北陸、四国、九州を回り、シンガポールや香港にも足を延ばした。その後、一時実家のある松山市の無人島・鹿島でカフェの店長に。

「無人島といっても船で3分、島が丸ごと公園になっており、無人のキャンプ場があり、民宿、売店もあります。無人島ながらも鹿島は都会である松山市の一部。東京を手放して手に入れたかった理想である、外からの要因に左右されない、自分の手で作った暮らしができるような場所では無かったのです。行きたかったのは田舎であり、村だったのですが、そこでもう一度、再移住を考え、出会ったのが椎葉村です」。

椎葉村は全く知らない土地だった。そもそも、今度はこれまで縁のなかった九州に行ってみようというのが椎葉村の地域おこし協力隊に応募したきっかけなのである。近くにある観光地、高千穂峡ですら知らなかったというから、知識ゼロからのスタートである。

ただ、募集の文言が役人が書いたとは思えない尖ったものだというのが印象的だったそうだ。これは面白いと本能的に思ったのだろう。また、下見で訪れた時にそこで暮らす自分の姿がリアルに想像できたとも。

面接では村長以下偉い人がずらっと並び、選考に時間をかけてもしょうがないからちょっと待ってとその場で決断。村上さんのほうが、え、もう決まるの！とあたふたしたほどとか。おそらく、椎葉村にはこうと決めたら慣習にとらわれず、素早く動ける人たちがいるのだ。

「人はそれぞれ違うもの」が基本

そうして暮らし始めた椎葉村で村上さんは移住コーディネーターとして地域おこし協力隊の任期3年を過ごし、その間に現在手掛けているキャンプ場、シェアハウスなどと出会った。

また、2020年3月には椎葉村から『椎葉へ移住　日本三大秘境の村　移住者のリアル体験記』と題した書籍を出版している。出てすぐに送っていただいたのだが、都会とは全く違う暮らしであることは冒頭で分かった。

椎葉村では人は名乗らないというのだ。こちらが名乗っても、あそうですかと笑っているだけ。名のることがないという。

普通だと失礼な！と思うだろう。受け入れるつもりがないのかと暗い気持ちになるかもしれない。移住したのを反省するきっかけにすらなるかもしれない。

だが、事情を聞くとなるほどと思う。村の4割は椎葉さん、那須さんで占められており、集落の人が全員同じ苗字ということもあるため、苗字を覚えても意味がないのだ。それに全員がなんとなくも含めると互いを知っているということもある。だから、名乗るという習慣がない。

ただ、こちらから名まえを聞けば教えてはくれる。習慣がないから言わないだけで意地悪で言わないのではないのだ。

「地方移住やめとけ系の記事では町内会に入れてもらえず、ごみが捨てられなかったとか、いろいろ書かれていますが、都会では当たり前の、行政によるごみ収集が行われておらず、住民が分担する地域では自分も参加する必要があります。地域、人によって考え方、やり方に違いがあるのは当たり前なので、それを知ることから始めないと物事は進みません。都会には都会の理屈、作法があり、田舎にも同じものがあります。それを互いに理解し、妥協点を探す、双方が自分の論理、正義だけを押し付けあってもうまくいくはずはありません」。

知らない環境に何度も飛び込んできた村上さんにとって人の間に違いはあるのは当然のこと。それを前提に相手を知り、分かりあおうとするが、地方移住やめとけ系の記事にはたいてい、その前提がない。都会の、自分のルールだけが絶対と考える時点で何かが間違っているのだろう。

「都会の観点でいえば遅れていることはもちろんあります。たとえば田舎はまだまだ男尊女卑です。椎葉村でもメシの支度は女の仕事だからお前はやらなくて良いと言われたことがあります。でも、それを言う人を変えようとしても長年その考えでやってきた人を言葉で説得するのは難しい。それよりも自分も女性と一緒に台所に立ち、これまで違う考えを知らなかった人に違う考えがあることを見せ、周囲から変えていくほうが良いのではないかと考えています。そうして都会と田舎の良いところを掛け合わせていければと思います」。

集落単位で言葉、気質に違い

移住では家、仕事、人間関係が問題だと言われる。そのうち、前者の2点は見えている問題。なんとかなる問題と言っても良い。だが、人間関係は難しい。

「人間関係についてはよく気にする人がいますが、こうしたらうまくいくという処方箋はありません。ただ、違いがあることを教えてくれるマッチメーカー、つなぎ役は必要だろうとは思います」。

そして大事なのは違いが多くの人が想像するよりも細分化され

ているということだ。椎葉村でいえば村全体で共通するものがあり、でも、集落ごとに違うものがある。

まず、全体としては厳しい自然が大前提としてある。秘境という言葉に惹かれてか、椎葉村には周りに誰もいないところに住みたいという人が来る。だが、自然環境を考えるとそれは無理だ。

「気候も地形も厳しく、助け合わないと昔から住んでいる人たちでも暮らしていけない場所なのです。その輪に入ろうとしないとここでは暮らしていけません」。

それを前提にした上で、さらに集落ごとに違いがあることも理解したほうが良いと村上さん。移住業界では町単位、市単位でモノを考えているが、それは実情にあっていないという。

「令和元年10月時点で人口2760人、1186世帯が住む椎葉村には10の地区があり、さらに91(!)の集落に分かれています。地区、集落ごとに言葉も違えば酒の好みも違い、移住者に対しての考え方も違います。中には行政は推進すると言っているけれど集落としてはあまり歓迎しないというところもありますし、数世帯しかない人間関係が密な集落では移住に対して警戒心が強いことも。僕はこうした状況からよく椎葉村はアメリカ合衆国だと言っています。同じ国ではあるけれど、州によって法律も税制も違い、住んでいる人たちの考え、気質も違う。小さな村でも多様なのです」。

村上さんの住んでいるのはフレンドリーで距離感のある集落で、都市的な感覚、田舎的な感覚を備えているという。親切の押し売りはしないし、それぞれの生活を大事にしているが、力を合わせるべき時は力をあわせる、そんな付き合いだという。住んでいるのは60歳前後が中心で、何事も自分たちでやろうという意識が共通している。

「椎葉村には不動産会社がないため、赴任してくる学校の先生は教員住宅のある集落で暮らします。先生方は3年くらいで転勤があるので、そこの集落の人たちは人の移動に慣れている感じがあります。僕が住んでいる集落はそうした場所ではないのになぜ、こんなにフレンドリーなんだろうと思ったのですが、話を聞いているとその昔、村がドイツに1週間など海外研修にお金を出していた時代があったとか。それに参加していた人が何人かいる。その影響かなあと思ったことはありますが、特に分析はしていません。ただ、土地により、気質は異なるのではないかとは思います」。

かつて初めて訪れた南フランスでは地中海の太陽、空を見てここでは鬱病にはなりにくいだろうなと思い、太陽が必要だからと国外に出たがるイギリス人には同感したと村上さん。

世界単位で見るほどには違いはないものの、淡路島と同じくらいの広さのある椎葉村は村内でも標高差があり、3月に桜が咲く地区もあれば、ゴールデンウイークまで咲かない地区も。気候が違い、生業が違い、歴史が違えば人にもその影響は出てくるはず。言葉にはしにくいが、その違いを意識するかしないかは移住にあたっての大きな差になるのかもしれない。

田舎は消費対象ではない

移住を促進する立場にある村上さんだが、時としてそれに疑問を感じることもある。移住に行政が助成を出すやり方では田舎が消費の対象になってしまうと感じるのだ。移住先ランキングのように、田舎の人がそれを歓迎することもある。ワーケーションやSDGsにも同じように消費のにおいがすると村上さん。

「補助金を出します、出産祝い金がありますと人を呼んでも、子どものことを考えたら都会に行きますと出て行ってしまう。助成だけ利用して、利用するものが無くなったらポイ。行政から言われて移住者と仲良くしようとしてきた土地の人たちからすると、それを金銭などの条件面で測られ、出て行かれるとなったら悲しいし、疲れる。もう移住者はいいよねとなります」。

都会の人は勝手に山菜や山野草を摘んでいくけれど、それは地域の人が株を残して大事にしてきたもの。それを想像もせず、黙って根こそぎ取って行ってしまう。都会は消費が基本だが、その文脈で移住、地方創生を語ると地方は食いつぶされて終わる。そこに危機感を覚えているという。

「今、移住やワーケーションなどを語る口調の中には桜の花は楽しむけれど、落ちた葉は自分では掃除したくないというような、おいしいとこどりの意識が見えるものがあります。良いところを掛け合わせてより良くする、いいとこどりなら分かりますが、おいしいとこどりは許したくないですね」。

受け入れる側としても食いつぶす人なのか、骨は埋めないにしても体の一部なり、葉っぱを落として土を肥やしていく人なのかは見定めていくべきだろうとも。

村上さんが消費のにおいを嗅ぎつけているように、他にも同じことを感じている人はいるだろう。美味しいところだけを求めての移住はやがて見透かされ、相手にされなくなる、そんなことを妄想する。



村内26地区で保存伝承されている椎葉夜神楽。国指定重要無形民俗文化財となっている

CASE 8

「東京以外のどこか」を夢想する移住希望者たち

移住者の気持ちを知る元移住者



ライフスタイルデザイナー

中屋香織さん

首都圏から４年前に静岡県熱海市に移住した中屋香織さんは今、ライフスタイルデザイナーとして移住希望者の相談に乗っている。

「コロナ禍で増えたのは『東京じゃない、どこか』を探す人。今いる場所が心地よくない、住むべき場所が東京ではないことだけは分かっているものの、移住の動機、目的が明確でなく、どこか良いところはないかとうろうろしている人たちです。本人が分からないのですから、アドバイスも難しい。

『静岡県が開いた移住セミナーに行ってみたけれど、パンフレットを渡されて、自然があっていいですよ、子育て支援も充実していますと、どこも同じことしか言わず、得るものが無かった』という人もいます。自分から質問すれば良いのにと思うかもしれませんが、求めているものが明確でなければ質問もできません。

また、ヒアリングできる移住相談員にあたれば良いものの、そもそも移住した経験のない相談員もいますから、得るものがない結果になるのは当然かもしれません」。

不動産は白馬の王子様？

移住に限らず、一般的な住まい選びでも実は同じだと中屋さん。移住希望者が「どこか良いところはありませんか」と聞くように住まいを探している人もしばしば「なにか、いい物件はありませんか」と聞く。乙女がいつか白馬に乗った王子様が現れることを夢見るように、大の大人がどこかにあるかもしれない、なんか分からないけれどすごいモノを夢想してしまうのである。

それでも勤務先があり、そこから逆算して探す場合にはおのずと場所は絞られる。そこに予算という要素を加えれば選ばなくても物件は限定されてくるが、移住の場合、そうはいかない。

リモートワークで東京にいる理由がなくなったから移住をと考えると場所は無限にある。人によっては日本中どこに住んでも良いということもあるだろう。コロナ禍はある意味、これまでになかった自由をもたらしてくれたのである。

だが、現在の多くの移住希望者は偶然に与えられた素晴らしい自由を前に戸惑ってうろうろしている。好きに選んでいいと言われているにも関わらず、どこを選んでよいかが分からないのだ。

自分がしたい生活が分からない

なぜ、うろうろしてしまうのか。ひとつには、これまでの住まい選びは生活の不満を解消する実用的な要件を満たすためのものだったということが挙げられる。

「家を探す動機を聞くと、たいていは今の家が手狭になった、子どもが生まれた、子どもが小学校に入学するからなど至って現実的。でも、引っ越した先で自分がどんな暮らしをしたいのか、理想とする暮らしはどんなものかという話は聞くことはありません。家賃や駅からの所要時間、専有面積など数字や実用的な条件を挙げて探してはいるものの、リアルに考えているのは住まいという箱のことだけで、そこでの自分の暮らしにはリアリティがないのです」。

移住を成功させるためにはそこをきちんと考えていく必要があると中屋さん。

「私自身も最初は漠然と海があって、山もある土地が良い程度に考えていましたが、それでは探せませんでした。家探しを始めた時にはすぐに見つかるだろうと思っていましたが、あれもいい、これもいいとなり、収拾がつかなくなってしまったのです。そこで問題を整理し直しました。夫は私と違い、都会育ちで自然の中で暮らしたいという気持ちはなく、虫嫌い。かつ今の仕事から離れるつもりはない。でも、住宅ローンの負担が軽くなるなら、移住は考えても良いというスタンス。そこで東京に通勤できる範囲で考えることにしました。

私は朝日を浴びて起き、海に散歩に行く、畑で野菜を育てるなどと暮らしを具体的にイメージ。また、街として魅力的で関わる余地があり、自分たちの欲しい暮らしを一緒に作っていく仲間がいることなども条件として考えました。そのうちに縁があって当初は考えていなかった熱海でまちづくりに関わっている人たちと知り合い、私の希望する暮らしを実現するなら伊豆山、多賀あたりが良いのではとアドバイスをもらいました。そこでしばらく熱海に通い、お祭りやまちづくり系のイベントに参加するなどして気の合いそうな人がいるか、地域の様子はどうかなどを見聞。その上で移住しました。他の移住者でも３～５年と時間をかけて検討、地域に繋がりを作って移住した人は今、とても楽しそうです」。



広い庭でたくさんの植物を育てている中屋さん。取材時にも庭で収穫した野菜を頂いた

自分が理想とする暮ら

DIYした部分もあるご自宅。都心に住んでいると羨ましいほど広く、開放的で自宅で相談に乗ることも





しを具体的に考え、それを実現できる場所はどこかをリサーチ、その上で決断したというのである。移住の第一歩は自分の、家族の理想とする暮らし像であり、それがないままに場所を探しても見つかるはずはないのだ。

そもそも、モノを考えていない

もうひとつ、もっと大きな問題がある。なぜ、多くの人は自分の理想とする暮らしについてこれまで考えてこなかったか。

そもそも物事を深く、自分の頭で考えることが良しとされてこなかったからだと中屋さん。

中屋さんは6年前に乳がんを患って入院。幸い、手術は成功したが、それをきっかけに自分がどう生きたいかを考えるようになった。その結果、移住を考えるようになると同時にそれまで勤めていた会社を辞め、東京Ｒ不動産に入社することに。同社ではさんざん「自分で考えなさい」と言われたという。

「それまで働いていたのはトップダウンで、会議で意見を言うと潰される、言われたことを黙ってやれば評価され、我慢すればお金になるという会社でした。考えない、みんなと同じように言われたとおりにすることが良しとされていたのです。思い返してみると義務教育の頃からそんな感じがありました。なぜ、これをやるのかと理由を聞くと、聞くんじゃない、黙って従いなさいと。もやもやしながらずっと自分で考えることをせず、他人に従い続けてきたわけですが、退院後、楽しそうに働いている東京Ｒ不動産の人たちのことを思い出しました。その当時勤めていた会社では客からの連絡はクレームしかなく、暗い雰囲気。病んで退職する人も多い。なぜ、こんなに違いがあるのか。笑顔の職場に憧れて転職を決めました」。

この転職がきっかけとなり、中屋さんは本を読み、人に会い、本当は何を求めているのかを考えて自分と向き合うようになる。そしてたどりついたのが現在の熱海での暮らし、働き方である。他人に言われたからではなく、自分はこうしたいを選択、そのための行動を経て実現したのが今の生活なのである。

振り返ってうろうろしている移住希望者を考えると、何が問題なのかが分かる。今いるところが嫌だからと逃げ出しても、その先に何を求めているかを自分の頭できちんと考えていなければ、理想の地は見つからないのである。

ただ、これについては移住希望者のみが考えてこなかったわけではない。日本ではみんなが言うから、誰かが言っていたからという、責任の所在がはっきりしない言葉に従って行動している人が少なくない。みんなが、誰かがと言った時点で自分では考えていませんということだが、コロナ禍ではいつにも増してこうした言動を目にした。理性的な判断ではなく、みんなが、誰かが。

そこを自戒しないと移住希望者だけでなく、私たちの社会全体も見つからない行先を求めて右往左往することになるのではなかろうか。

コミュニティは選択できる

自分が求めるものが分かっていれば選択ができる。移住にあたっては地域のコミュニティに入っていけるかを気にする人が多いが、それも選べると中屋さん。

「同じ静岡県の中でも熱海は割にオープン。逆に別荘地エリアのようにコミュニティが無さ過ぎる場所もあるほど。一方で古くから住んでいる人がいる地域はちょっと窮屈。

このあたりは外からは分かりにくいので地域の、同じような価値観を持っている人に聞くのが大事。行政の移住ツアーではまちの説明に終始しますが、本当はもう少し人と知り合う内容にしたほうが良いのではないかと思いますね」。

とはいえ、都会と地方では人間関係は大きく異なる。都会育ちの中屋さんの夫は自治会も、地域で行う草刈りも知らず、当初はやる理由も、メリットも理解していなかったという。だが、参加することが対話のきっかけとなり、ご近所関係を良好にする。

「敷地の外の草刈りをするようになって以来、周りの目が変わり、ご近所関係が良好になってきました」。

それでも分からないことは起きる。回覧板に通夜の告知があった時にはどうしようかと悩んだという。それほどの付き合いはないが、かといって無視して良いものかどうか。冠婚葬祭の対応は地域により、関係性によって異なり、対応を間違えたら地域から快く思われなくなる可能性もある。

悩みを解決してくれたのは散歩で出会ったご近所さん。彼女に聞くことで問題は解決したが、移住を促進したいならこうした地域の人間関係も含めた情報を教えてもらえる仲人さんのような存在が必要だろう。しかも、異動があってノウハウが貯まりにくい公務員ではない人。

「互いに悪意はなくてもコミュニケーションがうまくいかないことが原因で人間関係がぎくしゃくしてしまうのはよくあること。価値観、

文化その他に違いがある人たちが一緒に暮らしていくためには互いの様子を見守る、必要があればコミュニケーションのきっかけを作れるような人がいればと思います」。

さて、最後に中屋さんが現在取り組んでいることをご紹介したい。それは空き家の所有者と移住希望者の間に入り、建物を改修、移住までこぎつけるという厄介な作業だ。普通の不動産会社であれば時間をかけて改修費を出し渋るオーナーを説得する手間はかけない。

だが、中屋さんは半年かけて住みたい人の思いを伝え、改修費を出してもらった。そのやりとりのうちにオーナーの意識が変わり、当初予定していなかった屋根の改修を実施。隣の土地を購入することにも。

「長らくお荷物だった不動産に手を入れることで、住む人に喜ばれるものになったという発見がオーナーの気持ちを変えたのです」。

不動産業も移住も不動産と人のマッチングと思われがちだが、実際には不動産を介して人と人、人と地域をマッチングしている。しかも、時にはマッチングによって周囲が変わることがある。本来の不動産業とはこういうものであり、それこそが目指すものではないかと思う。



こちらもご自宅。こうした写真から「ここではないどこかに住みたい」と思う人が多いのだろうが、暮らしは部屋の中だけでは完結しない

番外編

NYのヨソモノ意識、ヘイト、そして脱ヘイトへの希望と失望

ニューヨーク在住、アメリカの今を伝える



ライター
黒部エリさん

コロナ禍で不要不急の外出を避けるようにと言われだしてから、神経質にヨソ者を排除する動きが目につくようになった。顕著な例は他府県ナンバー狩りと名付けられた、他府県から来たと思われる車への投石を含む嫌がらせ。飲食店でも県外者お断りを掲げる店が話題になった。

ふと思ったのは、こうした現象は世界の他の国、都市でもあるのだろうか。たとえばアメリカではコロナ禍が始まった頃からニューヨークの富裕層は別荘のあるハンプトンなどに避難していたし、もっと距離のある移動としてはニューヨーク、カリフォルニアからテキサス、フロリダへという流れもある。あまり多くの富裕層が移動したためか、ニューヨーク州、カリフォルニア州の税収の落ち込みが懸念されるほどだ。

日本では首都圏近郊のリゾート地を訪れる別荘族に対して非難の声が上がっていたが、アメリカでは動くな、来るなという動きはなかったのだろうか。

アメリカでの人の移動には他の要因も

1994年からアメリカ・ニューヨークに住む黒部エリさんに聞いてみた。答えはとてもシンプルだった。

「日本に比べ、国としての歴史の浅いアメリカには昔からの集落があるという感じはなく、生の声は分からないものの、私が見ている範囲では人の移動に関して反応する記事は出ていなかったと思います」。

また、アメリカでの人口移動に関してはコロナ以外の要因もある。コロナ禍で選ばれたバイデン大統領は富裕層には反対も多い税制改正を行おうとしており、ニューヨーク、カリフォルニアからの流出は税金を払いたくない富裕層によるものだったりするのである。

アメリカでは州が徴収する税率は州ごとに異なっており、個人所得税を徴収しない州があったり、法人税不要の州があるなど地域差は大きい。今後税金が上がるのであれば少しでも払わずに済む州に引っ越しておこう。今回の移動にはコロナ以上にそうした経済優先の思惑も含まれているのだ。

コロナ禍で噴き出したアジアンヘイト

移動に関してとやかく言う動きはなかったようだが、アメリカではコロナ禍でそれ以上に噴き出してきた問題がある。アジア系へのヘイトクライムである。

すでにニュース等で多く取り上げられているからご存じの方も多いだろう。アジア系だというだけで殴られるなど理不尽な目に遭う





左／タイムズクスエアで行われた抗議集会。ニュースでもずいぶん取り上げられていた
右／65歳のアジア系女性が、蹴られる暴行を受けて、目の前にあるアパートのドアマンたちがまったく助けなかったことを受けて、ビルの前で座りこみの抗議運動をするデモ隊。歌手のリアーナさんもデモに参加していた。

ケースが多発しているのである。

直接的には前任のトランプ大統領が新型コロナウイルスは中国の責任だとし、中国がアメリカに被害を与えるために新型コロナウイルスを巻き散らかしたという陰謀説を信じる人が少なからずいることが大きい。中国人とその他のアジア人は違うといっても、他国の人からすれば区別は難しい。

加えて1800年代の中国人排斥に始まり、日本人移民の排斥、日系人収容所その他アメリカではアジア系への排外主義が延々と続いてきた。根深いものがあるのだ。

ただ、黒人や南米からの移民、ムスリムへの差別と違い、アジア系に対する差別は見えにくい形で続いてきたと黒部さん。

「アジアの人たちは人権を叫んでデモをするわけではなく、それよりも子どもを良い学校に行かせて稼がせるのが一番と考える。堅実に稼いで、税金を払う、ある意味、模範的な移民です。だから、モデルマイノリティとも言われてきました。ギャング団がいるわけでもなく、おとなしい使用人、下男下女みたいな感じです」。

コロナ禍でも初期のうちは保菌者のようにでも思われていたのか、避けられてはいたが、それが暴力に変わりだしたのは2021年に入ってから。人が出始め、それまでのうっぷんを晴らすかのようにアジア系へのヘイトクライムが増え始めたのである。背景には近年存在感を増す中国、アジア圏の経済力への反感もあるのかもしれない。自分より明らかに弱い女性、高齢者を狙う犯罪が起きているのだ。

だが、それに対して抗議する人たちが出始めた。アジアンヘイト反対のデモが立ち上がり、フィリピン人の老女への暴力を止めなかった管理人のいるビルの前では座り込みが行われた。彼女に対しては24万ドルもの寄付が集まってもおり、ニューヨークには暴力をふるう人がいる一方で救いの手を差し伸べる人もいるのだ。

当然、参加しているのはアジア系の人たちだけではない。人種を超えて集まり、声を上げており、「ここまでアジア系へのヘイトに対しての規模の大きな抗議活動は初めてです」と黒部さん。

ボランティアとしてアジア系の人たちを守ろうという動きもある。SAFE WALKSという団体が始めた独り歩きに不安のあるアジア系住民に付き添って歩いてくれるというもので、2000人以上（！）が登録している。

アメリカ、韓国などの企業や社会的に影響力のあるタレント、セレブリティなども声を挙げており、大坂なおみさんも発言している。ブラック・ライヴズ・マターの動きも企業が支援したことが運動を大きくした。

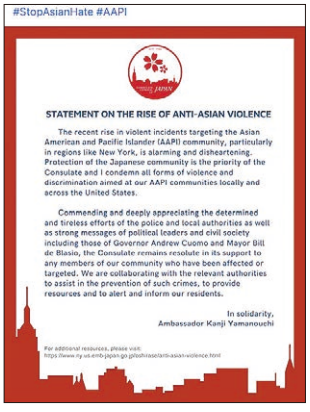
企業のイメージ、企業倫理が売り上げに反映することを知っているからである。それが社会を変える動きになる。

動かない日本企業、政府

「ところが、日本企業からはそうした声はあがりません。企業だけでなく、国も同じ。在ニューヨーク総領事館がアメリカ在住の日本人宛てに送ってきたメールは帽子、サングラスでなるべくアジア系と分からないようにして出かけるようにというもので、あまりのことに脱力してしまいました」。

目の前の危険を避けるため、襲われないように注意を喚起するのは大事なことだ。だが、ここで国としてやるべきはまず自国民に対しての不当な暴力にきっちりと抗議することだろう。その上で襲われないように注意を呼び掛けるなら分かるが、国は何も動かず、国民に隠れて見つからないようにと指示を出す。不思議だと思うが、指示を出した人はそうは思わないのだろうか。

コロナ禍は社会や人の心の中に隠れていたさまざまなものを炙り出した。それにどう対していくかは人により、地域により、国によりずいぶん異なるものがある。ニューヨークでの出来事を聞いただけでもそう思う。



*アメリカ総領事館は取材後の4月30日にアジア人に対するヘイトに抗議するという趣旨のステイトメントを発表している。最初にこれを出すべきだったろうに、である。

取材を終えて

変わろうとしている地域、変わろうとしない地域の違いを立場、関わり方の異なる、現場にいる人たちに聞いた。書面の書き方のように実務的で修正可能な問題からその土地の歴史や自然環境、地域の人たちの年齢構成、考え方や個人差も含めて要因と思われるものは無数にあり、地域性という、よく聞くけれど実態のつかみにくい言葉までを入れると、何かひとつに責めを負わすことはできそうにない。

一方で取材させていただいた方々はうまく行かせるために様々な工夫をしており、そこには学ぶべきものが多々あると思う。特に今回もっとも感銘を受けたのは美浜町の自分たちで空き家をゼロにした集落の話。空き家も地方の活性化も多くの場合、どこかの誰かがやってきてなんとかしてくれるものと認識されているようだが、それでは問題は解決しない。その地に住む人が自分たちで何とかしようとした時、変化は起きるのだろうと思う。

そしてそれは地域の問題だけに限らないのではないかとも。今「東京以外のどこか」としか言葉にできない人たちが自分たちが理想とする暮らし、生き方をもっと具体的に語り始めた時、いろいろなことが変わるのではないか。変わろうとしない地域はそこで置いていかれるかもしれないが、社会全体は少し面白くなる。そんなことを期待したい。

文化の効能

── シビックプライド醸成が地方創生のカギとなる

森 隆一郎（もり・りゅういちろう）

合同会社渚と代表。芸術・文化の現場制作やコンサルティングに携わる。芸術や文化を通じて渚のようになだらかで誰もが生きやすい社会づくりを目指す。これまで、東京都江東区や福島県いわき市で文化施設の新たな在り方を実践、アーツカウンシル東京でPRディレクターを務める。2018年に独立。現在、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科特任助教、全国公立文化施設協会コーディネーター、全銀座会G2020アドバイザーなども務める。

1 文化の効能、文化と社会

文化の効能
～創り続けることがシビックプライドを醸成する

昨今のコロナ禍においては、芸術や文化に携わる実に多くの人たちが、自分たちの生業は「不要不急」なのかと自問せざるを得ない状況に陥った。それが大きなエンターテイメントであれ、小さな文化的な活動であれ、科学的な根拠も乏しいままその活動を強制停止させられてしまった芸術・文化関係者にとって、その影響は計り知れない。かたや、ロックダウン下の欧州諸国では、日本よりも厳しい対応の一方で、芸術家だけでなくさまざまな文化を生業とする人たちへの手厚い支援がいち早く発表された。特にドイツでは2020年3月25日の連邦議会で承認された予算で、芸術家やフリーランサーを救済するとし、モニカ・グリュッタース文化・メディア大臣は「アーティストは今、生命維持に必要不可欠な存在」と断言した[1]。この発言は日本のメディアでも紹介され文化関係者の間でも話題に上ったが、あの頃、どれほどのアーティストや文化関係者がかの国を羨んだことだろうか。本稿では、昨今、社会のさまざまな領域へと広がりを見せている文化や芸術の動きの一端を自分の経験から紹介しながら「文化の効能」について考えたい。また、その効能を生かす機関としての地域文化拠点に注目する。次に、文化・芸術の社会における役割の拡張を後押しするような法・制度について触れる。最後に自分もかつて暮らした福島県いわき市の取り組みを紹介し、文化や芸術が地方の社会にシビックプライドをもたらし、あわせてその創り手であるアーティストたちが生きやすい社会の在り方について考えてみたい。

伝統と革新の循環がエピソードを生む

人の記憶には、意味記憶とエピソード記憶があり、意味記憶とは、例えば「これは文章である」というもので、エピソード記憶は、「これは文化や芸術の力を活用した地方創生について地域文化施設で働いてきた作者が書いた文章である」というようなものだ。そしてエピソード記憶の方が長期で記憶される。いわゆる心に残る記憶である。エピソードとは挿話つまり物語の一部を指す。寺社仏閣でなくとも、一見何でもない土地の下に、太古の記憶が眠っていることもある。山や海から吹く風は、大陸や海を渡ってきたもので、その風に乗って移動する鳥や匂いなどにも固有の物語が存在する。地球の歴史という大きな物語にさまざまなエピソードを書き加えていけることも人間文化の素晴らしさのひとつだろう。地方創生の文脈でいえば、地域社会からさまざまなエピソードを発見して紡いでいくような文化的な取り組みが、その地域に生きる人たちのプライドを持続的に刺激することにつながるのではないだろうか。

私は、シビックプライドの醸成につながる地域のエピソードにも2種類あると考えている。ひとつは、その土地に伝わる民俗芸能や民話などの物語である。例えば昨今盛んになりつつある文化観光の文脈では、この物語（地域資源）を磨き上げることが大事だと言われている。ただ、私はもうひとつの地域のエピソードに可能性を感じている。それは、これから新たに紡がれる物語で、それを担うのは、アーティストたちである。小説家、劇作家、美術家、音楽家など、さまざまなジャンルで創作を担う人たちだ。過去に作られた資産を消費するだけでは、いずれ資源は枯渇し（飽きられ）てしまうだろう。た

だし、その土地の文化資源として可視化されたエピソードは、新たな創作の大切な糧になる。地域で掘りおこされたストーリーを基にして創作が繰り返されていくような仕組みを作り、そこに市民が積極的に関われる機会を作れれば、それは、シビックプライドの形成にもつながるだろう。

境界線を越えるアート

新たなエピソードづくりの具体的な例を挙げよう。歌舞伎十八番の演目「勧進帳」といえば、江戸時代に能の「安宅」を題材にして創作されたものだが、この作品を現代にアップデートして、新しい演出で上演している木ノ下歌舞伎はご存じだろうか。木ノ下歌舞伎は、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学んだ木ノ下裕一氏が、2006年に旗揚げした団体だ。歴史的な文脈を踏まえた上で作品を現代社会と接続させ、歌舞伎演目上演の可能性を広げている。主宰である木ノ下氏が指針を示しながら、現代の演出家による多様な視点に基づいて作品を上演するというスタイルで、京都を中心に活動している。

木ノ下歌舞伎の『勧進帳』(初演2010年)は、現代の道路のような舞台を安宅の関に見立て、その路上で物語を進める。照明で表現される白線(境界線)も印象的だ。客席は舞台を挟んで両側に配置され、客同士が見合う形になる。舞台セットだけでなく衣裳や台詞にも古典的なものと現代的なものが混在するなど、社会が内包するさまざまな境界線が曖昧になっていくような舞台だ。2016年に大幅にリクリエーションして再演された際は、外国人に加えトランスジェンダーのキャストも出演している。演出の杉原邦生氏は、木ノ下氏との対談で、「関所＝境界線」と解釈した上で、「境界線の話だから、その人自身の中にも境界線を内包しているような俳優が出てくれるとイメージが広がっていいんじゃないかと思って。リー(5世)さんはアメリカ人だけど日本に18年住んでて国境を内包しているし、(高山)のえみちゃんはジェンダーの境界を内包している。そういう、自分の中の境界線で揺れている人たちが、さらに他者との境界線や、社会との境界線や、いろんな境界線の間で揺れ動く姿が見えると、『勧進帳』の見え方がちょっと変わるかなと思ったんです」と語る。(括弧内は著者補足)[2]

この作品(リクリエーション版)は、長野県松本市、愛知県豊橋市、京都市、北九州市を巡演した。舞台芸術の世界では非常に評価が高くジャポニスム2018公式企画としてパリのポンピドゥ・センターでも上演している。この作品が巡演した都市には、「創る劇場」と呼ばれる公立文化施設がある。この「創る劇場」とは、これまで貸し館中心に運用されてきた地域の文化ホールなどを、本来の機能である文化・芸術の継承や創作、発信する創造的な場と位置づけた「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(以下、劇場法)のもとで国の支援も受けているような地域文化施設(京都での上演は私立大学の劇場)である。劇場法は、貸し館にとどまらず意欲的に自主事業や多領域との連携に取り組む文化ホールなどの施設が増える一方で、図書館や美術館・博物館の機能や役割を規定する図書館法、博物館法のような法律が存在せず、職員の専門性や施設の機能・役割など肝心のソフト面が現場任せだったなどの課題に対応する形で、2012年に議員立法により実現した法律だ。

さて、もし、この作品が実際に安宅の関があった石川県小松市に木ノ下歌舞伎のクルーが滞在し制作していたらどうだったろうか。上述したような「創る劇場」が無くとも、最低限、劇団が創作できるような広いスペース(極端な話、空き倉庫でもできなくはない)と、スタッフと俳優たちが滞在できる場所(空き家の活用もあり得る)があれば実現できることだ。そして滞在中に、地域住民との交流や公開リハーサルなどを行うことを条件に滞在制作の場を無償で提供していたらどうだったろうか、と想像する。その出来事を通じて『勧進帳』の舞台となった地域に暮らす喜びや、子どもたちが初めて出会うような俳優や演劇のスタッフたちとの交流を通して、住民の心に生まれる何かをシビックプライドというのではないだろうか。


木ノ下歌舞伎『勧進帳』ポンピドゥ・センター公演より


木ノ下歌舞伎『勧進帳』KYOTO EXPERIMENT 公演より

撮影:井上嘉和　提供:KYOTO EXPERIMENT 事務局

川を開いて川底を見つめ、対岸をつなぐファスナーの船

ここ数年、秋の隅田川(東京)に出現する「ファスナーの船」をご存じだろうか。実際に、あるいはSNS上などで目撃した方もあるかもしれない。これは、鈴木康広というアーティストの作品で、以前彼が飛行機の中から東京湾を航行する船を眺めていたときに、まるで船がファスナーのように水面を開いてゆくことに着想を得たものだ。以前私がこの作品の制作に携わった時に見聞したことも、アーティストの視点の豊かさを感じる経験だったので、ここで共有したい。

「ファスナーの船」は、その名の通りファスナーの形をした船で、

2018年から毎年10日間程度、隅田川の吾妻橋と桜橋の間を航行している。一見、面白いアトラクションと思われるかもしれないが、この作品のコンセプトは深い。隅田川といえば、関東大震災と東京大空襲で、多くの方が命を落とした場所でもある。また、昔から庶民の生活と共にあり、文学や芝居にも度々登場する。鈴木氏は、そんな川の底には何が沈んでいるのだろうと考える。そして、ファスナーの船が川面を「開く」ことで、底に沈んだ何かを想像しようとする。この企画を主催する、「隅田川 森羅万象 墨に夢（すみゆめ）」のWEBサイトのレポート[3]には鈴木氏の発言が「隅田川の水面の下には、江戸時代の人が投げたかもしれない石などが沈んでいて、古代からそこにある記憶のような何かが、これによって開かれるといい」と紹介されている。

また、川には「境界」としての側面もあり、その境界を「つなぐ」という視点からこの作品を捉えることもできる。そもそもファスナーも船も2つのものや場所をつなぐ役割がある。隅田川でファスナーの船が航行する場所は、過去には武蔵国と下総国の境界で、現在は台東区と墨田区の境だ。この作品は対岸同士をつなぐ象徴としての側面もあり、開催初年度の2018年には、隅田川上の屋形船に台東・墨田の両区長が乗船し、鈴木氏を挟んで川と共にある街の歴史や未来に思いをはせる鼎談を行った。このように、この作品には、ただの写真映え狙いの企画では到達できない「強度」があり、人の足を川面へ向け、たゆたう水面から創造力を羽ばたかせる役割をも担っている。本年度（2021年度）、この作品が中学校の美術教材に掲載されることを機に、墨田区では中学1年生を対象とした鈴木氏と墨田区の美術教諭による研究授業を行うという。

ここで紹介した2つの例は、「境界」が題材のひとつとなっている。アーティストたちの感性は、時代の鏡でもある。これらの作品は、現代社会への問題提起ともなっているのではないだろうか。このようなアーティストたちが持つ感性そして創造性に、日常的に触れられる場があったら、地域での暮らしや教育や仕事は、どれほど影響を受けるかしれない。また、これから世界を舞台に活躍するかもしれないアーティストの成長に伴走できたら、それが地域の誇りにもなるだろう。



隅田川を航行する「ファスナーの船」筆者撮影

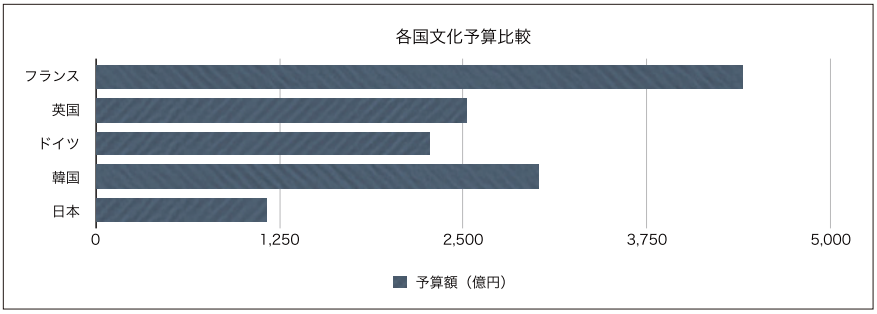
2 「つくる」環境を整える

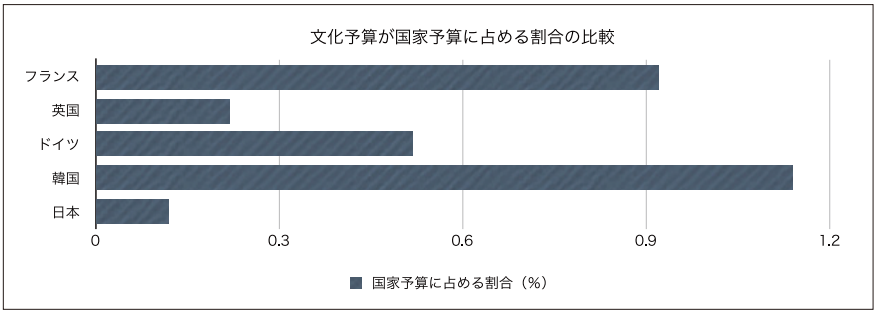
文化への投資が、拓く未来

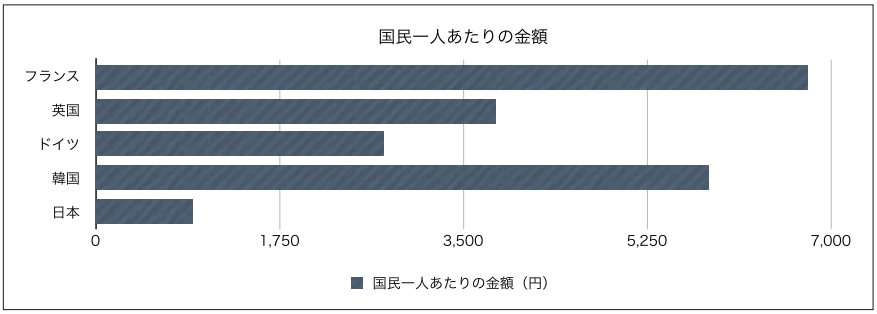
昨今の日本社会と言えば、地位ある年配男性の時代錯誤なジェンダー発言が世界で嘲笑されたことも記憶に新しい。少し乱暴な言い方をすれば、過去の栄光や「よき時代」に執着し、なかなか新しい時代にアップデートできない国がこの日本、という見方もできよう。高度経済成長期の古き良き記憶にとどまり続け、当時作られた仕組みを更新しきれていないことが、現在、日本の傷んだままのアキレス腱としてブレーキをかける。この点をアップデートしなければならないのは明らかだろう。そのためには、まず、人々が多様なマインドセットを持ち、それを互いに認め合えるような環境をつくることが肝要だ。ひとつの目標に向かって一致団結する時代は終わった。バラバラで多様な主体が、互いの境界を越えて、個性豊かに活動していく中から、日本ならではのスタイルを見いだしていくような形でしか、現状は打破できないのではないだろうか。その時、芸術や文化が果たせる役割に私は期待している。

芸術文化は大都市圏に集中し、人々への文化資本[4]の集積に地域間格差が生まれた。市場原理に任す限り、この格差は広がりこそすれ縮まる事はないだろう。先に紹介した劇場法は、全国各地に存在する文化施設を、この格差是正のためにも再活用していこうということでもあろう。地域を動かすのは人で、人に蓄積する文化的な資本が貧弱ならば、その施策もまた貧弱にならざるを得ないのではないだろうか。

高度経済成長期、第一次産業から第二次産業へと業態は変われど、ほとんどの人は「つくる」ことに従事していた。しかし、現在日本の産業の7割はサービス業になり、つくる行為は別の土地へと移っていった。もちろん、この産業構造の変化は日本に限った話ではないが、私はこの「つくる」という行為が実は人間社会にとって重要な役割を担っているのではないかと考えている。先進諸国の多くが文化政策を重視しているのは、つくる行為、つまり創造性を第三次産業が中心となった社会に再び組み込もうとしている証左ではないだろうか。







出典：文化庁 令和元年度 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書（グラフ作成は著者）[5]

先進諸国における文化予算を比較すると、いかに日本が「つくる（創造する）」ことを軽視しているかが理解できる。文化大国のイメージが大きいフランスは4394億円（36.20 億€）で国家予算の0.92 %、国民一人あたりの金額は6,784円。クールブリタニアなど文化戦略を国家ブランディングに活用してきた英国は2522億円（17.77億£）で国家予算の0.22%、国民一人あたり3,806円。国民性やものづくりの品質などで日本とも比較されることも多いドイツは2267億円（18.68億€）で国家予算の0.52%、国民一人あたり2,738円だ。そして日本は1167億円で国家予算の0.12%、国民一人あたり922円と千円にも満たない。上記ヨーロッパ勢もさることながら、お隣韓国の文化予算は3015億円（3兆1905億ウォン）で国家予算の1.14%、国民一人あたり5,842円と突出していて、実に日本の6.3倍だ。昨今のK-POPや韓国映画の躍進の裏付けにもなろう。なお、アメリカは寄付金などの民間資金が文化支援の大半を占めるので、ここでの比較対象から外している。

ここで挙げた文化予算には、地方政府／自治体によるものは含まれていないので単純な比較はできないのだが、それを差し引いても、日本が、先進諸国の中にあって芸術や文化、ひいては人間の創造的行為への投資を怠ってきたと言ったら言い過ぎだろうか。だが、まだ遅くはない。地域にある文化施設や機関（自治体出資の財団公社などが施設の運営を担っている場合も多い）が、その組織や事業をアップデートし、文化施設を地域における《つくる場＝文化資本の蓄積の場》という役割を担えるようにすることが地方創生の突破口のはじめの一歩になるのではないか。

文化政策の変化

ここ20年ほど、芸術や文化が地域づくりの根幹となりさまざまな領域の連携を促すハブ的な役割をも担えるものとして存在感を増してきた中で、それを後押しするような形で国の法律もアップデートされている。2017年に旧文化芸術振興基本法から改正された「文化芸術基本法」では、文化・芸術自体の振興だけでなく、文化・芸術の持つ力を社会のさまざまな領域に役立て、横串を刺していく役割が明記されている。

前文には「文化芸術は，人々の創造性をはぐくみ，その表現力を高めるとともに，人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し，多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり，世界の平和に寄与するものである」とある（原文ママ）。芸術や文化は、人の心や感情に直接訴えられるものだ。地域住民の心をケアするというと、福祉分野の話と思いがちだが、例えば心のケアに文化・芸術が有効なら福祉と文化の分野を連携させて社会をよくしていこうというのがこの法律の趣旨だ。そもそも人の心の中に福祉や文化などの線が引かれているわけではない。

なお、本法律では、その当たり前のことを実践する役割として「文化芸術に関する施策の推進に当たっては，文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承，発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み，文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ，観光，まちづくり，国際交流，福祉，教育，産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない。」（第二条10：原文ママ）と記されている。地域の文化施設は、この役割を担う機関として期待されているのだが、実際にこのような機能を持つ、というよりはこのようなことができる人材を擁する施設はとても少ない。地方行政においても、法律の趣旨を踏まえ、地域にとってシビックプライド醸成や地域を面白くする潜在力を持つ文化・芸術のポテンシャルを最大限生かせるような政策・施策を展開するためのネットワークハブのような役割を地域文化施設に与え、積極的に投資していくことが必要だろう。

3 アートのある日常のつくり方

アーティストが居る日常をつくる

そうは言っても、うちの地域にはアーティストなんて住んでいないし、会ったこともない、という方がいてもおかしくない。芸術・文化や創造的な産業が大都市圏に集中してしまうこともその理由のひとつだろう。そのような地域においては、例えばアーティスト・イン・レジデンス（以下、AIR）という手法を使うことでアーティストが身近にいる状況を生み出すことができる。AIRとは、ある土地にアーティストが一定期間滞在し、創作やリサーチを行うことの総称だ。「アーティスト」の部分をクリエーターやライター、オーサー（作家）などに置き換えた取り組みもある。

兵庫県豊岡市では、県から譲り受けた宿泊研修施設、旧・城崎大会議館をAIR施設にリニューアルして2014年に城崎国際アートセンター（KIAC）をオープンさせた。企業の宿泊研修の需要は減ったが、舞台芸術の世界ではまとまった期間創作に専念できる施設は貴重で、2020年度の滞在アーティスト公募には国内外から80組が応募し17組が選ばれている。KIACは、「優れた芸術作品を世界中に送り出すことと、試演会やワークショップなどの交流プログラムを通して地域の方々が多様な芸術活動に触れられる環境を創出すること」を狙っており、兵庫県豊岡市は「小さな世界都市」というスローガンのもと、国際演劇祭も開催している。また、今年の4月には同地に新設の芸術文化観光専門職大学も開学した。この豊岡市の事例は、舞台芸術における創作の場とそれを支える人材育成機関、そして発表の場まで地域に用意したことになる。先端の芸術活動を行う滞在アーティストたちと地域の特に子どもたちとの交流から芽生え育まれる感性に期待せずには居られない。

日本におけるAIRの活動について総合的に紹介しているWEBサイト、AIR_J[6]によれば、日本国内のAIR数は64件だ。もちろん、このサイトに登録していない施設もあるが、総数で100件弱程度だろうか。KIACのようなAIR専用の公立施設を擁する都市もあるが、日本の場合は、マイクロ・レジデンスといって、民家等を活用した小規模な施設に特色がある。私は、このマイクロ・レジデンスには、地方創生のカギが眠っていると考えている。昨今、空き家や空き店舗を見ない地方都市はないほどだが、これをAIR施設の候補として考えれば資源が山ほどある状態だともいえる。これから世に出て行こうとするアーティストたちに必要なのは、時間や広さ（そして家賃）を気にせずに、心置きなく作業できて、それを発表でき、評価してもらえる環境だ。もちろん、都市のもたらす刺激や同業の仲間との交流も大切だが、アーティストにとって大切なのは、やはりアイデアを練り創作する時間だ。それに、移動のコストも低くなり仕事のリモート化が進んだ今は、その障壁も低い。アーティストが居ることで、地域はその創造性や見たこともないようなものごとに出合うチャンスが増える。地域の子どもたちにとっても、その感受性を養う大切な時期に、表現を仕事にする大人と時間を共にすることで育まれるものがある。そのような場所は、できれば1カ所ではなく、地域に複数あるといい。昨今、空き店舗をゲストハウスやカフェにリノベーションする事例も増えているが、大切なのは人で、地元ともコミュニケーションを取りながら、長期間じっくり制作にいそしむアーティストたちが、憩いやコミュニケーションの場としてそういうカフェやゲストハウスにも通うようになればさらに地域の面白みや慈味が増すだろう。



城崎国際アートセンター外観 ©Madoka Nishiyama

土の人、風の人、光の人、水の人

私が、以前から仕事を共にし、信頼を置くアーティスト藤浩志氏は、地域とアートとの関係性を、土、風、光、水に例えて語る。とあるシンポジウムに出席し、地域の人を「土の人」、外からやってくるアーティストたちを「風の人」と喩えていたことに「確かにそういう面もあるが、そう単純なものでもないと思う」と違和感を示し、その喩えを「土・風・光・水」と4種類に広げ、また、そこで育つ物事を「種」として捉えた上で、種を育み発芽させ成長させる人の性質として「土・風・光・水」を以下のようにまとめている。

土の性質　自分のフィールドで育てたがる
風の性質　いろいろなところに運びたがる
光の性質　いろいろな人に紹介したがる
水の性質　とにかく興味関心を注ぎ面白がる[7]

この整理から、土の人は地域で暮らす人、風の人は外からやってくるアーティストやそのほかその土地で新しい活動を始めようとする人（後者はいずれ土の人になる）、光の人は、メディアや批評など外部から関わる人、水の人は、鑑賞者、あるいはその活動に参加したり伴走したり面白がって関わる人たちということだろう。種は発芽しても、ちゃんと育たず途中で枯れてしまうこともあるが、それは土を豊かにしていくことでもあり、その繰り返しから、いずれ土壌は肥えて花が咲く。大切なのは、小さな発芽を見守り、気にかけて、関わり続けるような存在が地域に必要だということだろう。

アートによる社会イノベーションのプラットフォーム

「でも、うちの地域の文化施設、相当古いし、管理人みたいな人しか働いていないんだよな」という心の声が聞こえてくる。でも、解決策はあると私は思う。

少し古いデータだが、文化庁の第5期文化政策部会の資料[8]によると、大学・専門学校のうちアートマネジメントに関する講座、専攻、コース等を開設していると回答があった学校は48校（配布：165校、回収：74校）で、1学年あたりの学生数は平均で38名とある。先の学校数と単純にかけ算すると、学年あたり1824名で、毎年2千人弱の卒業生を輩出していることになる。そのうちアートマネジメント関連の業務に就職する卒業生の割合は24%とある。

つまり、大学・専門学校で育成したアートマネジメント人材の76%は専門性を生かせずに社会に出てしまっている。例えば、貸し館と施設管理だけを行っているような地域文化施設の役割を見直し、地方創生を担える最新の体制に更新して、専門性を社会で生かせていない大半の人材の活動の場としてはどうだろう。その人には施設の管理だけでなく、地域のネットワークハブとして活動することを期待したい。地域文化をリサーチし、さまざまな領域の専門家と連携して、文化を社会変革のツールとしても捉え、地域に眠る創造性を掘り起こすような役割だ。極端な話、設備が古くて使えなかろうが、かまわない。地域の人たちが放っておけないと思えるような魅力的な人がいて、なんとか工夫して、地域の文化活動を領域横断的に接続させていければ、それが起点となるだろう。本気で地方創生を考えるなら、施設を改修したり、新造したりするよりも、ずっとコストも低く取りかかれるのではないだろうか。

昨今、地域文化政策においては「地域型アーツカウンシル」に注目が集まっている。アーツカウンシルというのは、第二次大戦後に英国で生まれた仕組みで、ナチスドイツが芸術を政治のツールとして使い人心を扇動したこと（前にも書いたように、芸術は人の感情に直接訴える）から、芸術文化と時の政権に一定の距離を置き、専門家にその役割を任せることで、政権交代時においても芸術文化がその影響の外で活動できるようにしたものだ。同様のよく知られた仕組みに教育委員会がある。これらは、人間が歴史を通じて失敗したり学んだりしながら作られた制度で、普遍性のあるものだといえよう。オリジナルの英国よりも70年ほど遅れているが、今、全国さまざまな地域でアーツカウンシル設立の動きが盛んだ（全国アーツカウンシルネットワーク加盟16団体：執筆時）。また、設立準備を進める自治体も多く、私自身もある自治体のアーツカウンシル設立準備を手伝っている。

アーツカウンシルの機能は、助成金などによる文化活動支援、地域文化の調査研究、芸術・文化活動の相談窓口、そして地域や国内外との多様な関係性を育むネットワーキングが主なもので、文化芸術基本法が求めるような、文化・芸術の社会的役割を担う組織でもある。昨今の流行り言葉を使えば、アートによる社会イノベーションを推進するのがアーツカウンシルともいえよう。

アーツカウンシルは、施設を持たない点にも特色がある。公益財団法人セゾン文化財団理事長の片山正夫氏は、カウンシルボート委員を務めるアーツカウンシル東京WEBサイトのコラムでアーツカウンシルの基本的な機能である「助成」について以下のように述べている。『「助成」は、高度な専門知識をもって、戦略的に状況を変えていく手段である。文化施設はハードにも膨大な投資を要するうえ、一度建ててしまえばその施設じたいに拘束される。だが「助成」はそうではない。新しい考えをプログラムに反映させるためのハードルは低いし、より高い効果を求めて機動的に形を変え続けることができる。試してうまくいかなかったときの撤退も容易だ。そしてなにより、うまくやりさえすれば、限られた原資で多くの人や団体を育てることができる。』[9]

例えば、前述した、地域で本来のポテンシャルを発揮し切れていない文化施設の運営組織に、アーツカウンシルの機能を持たせ、地域社会イノベーションのプラットフォームとして再設計することで、ただ利用者の利便を図るだけの運営から、未来の種を探し、豊かな土壌に植え、水をやり、風をあて光を注ぐような組織へと転換できるかもしれない。そして、その実践を通じて、地域住民のシビックプライドが醸成され、外の人がうらやむようなまちづくりへ向けた風土が形成されていくのではないだろうか。

4 文化拠点が地方に起こす新しい風

地域の創造力・福島県いわき市より

私は、2007年から2012年までの5年間、福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオス（以下、いわきアリオス）という文化施設で働いていた（1年目は開館準備）。いわきアリオスは、市の中心市街地にある複合文化施設だ。舞台の性能は国内でも群を抜いたものだが、この施設には芸術文化の振興だけでなく、街なか連携や芸術文化を活用したコミュニティ形成、中心市街地活性化への貢献も期待されている。ここからは、いわきアリオスが文化拠点として地域とどのような関係性を育んでいるのか、事例を通じて考えてみたい。

舞台公演の前後に会場にアナウンスが流れるが、あれをカゲアナと呼ぶ。大概はスタッフが原稿を読み上げるのだが、それを地元高校の放送部の生徒に読んでもらうことにした。それまでスタッフが事務的にこなしていた放送も生徒にとっては大舞台である。高校生のカゲアナは、観客席だけでなく出演者からも絶賛され、その後いわきアリオスの定番となった。さらに、年に一度開催される「フラガールズ甲子園」という事業では、新聞部や写真部の生徒たちが、全国から集まるフラダンス部をインタビューし、当日会場で配布する新聞を作成する。優勝校が決まると、撮りたての写真とレポートをその場でレイアウト・印刷し、会場を出る観客に「号外」として配布する。新聞部や写真部の生徒たちには、地元新聞社の記者たちがメンターとなり、記事づくりのノウハウを伝える機会も提供する。[10]



フラガールズ・タイムス

例えば、地域にJリーグのクラブができたら、地域のスポーツ活動や応援を通じた地域コミュニティが活性化すると想像するのだが、同様に文化拠点も地域の文化的なコミュニティ活性化の機会を提供するべきだと考えている。いわきアリオスは地域文化施設として、ちょっとマイナーだと思われているような文化部の活動を応援し続けている。地域における文化拠点の可能性を考える上で、小さいが大いなる示唆に富むものではないだろうか。

いわきでのアートによる地方創生の取り組みとして、もうひとつの事例を紹介したい。いわき市が文化政策として2017年度から2019年度までの3年間にわたり実施した「いわき潮目文化共創都市づくり」は、新しい時代に自らをアップデートしようとするときに文化に着目し、人々が携わってきた表現や創作行為を地域づくりの文脈から体系づけて価値化した取り組みだ。また、その運用は市民による実行委員会が自ら担った。

いわき市沿岸では親潮と黒潮がぶつかり合っていて、それを「潮目」と呼ぶ。「いわき潮目文化共創都市づくり」WEBサイト[11]では、その潮目を以下のように解釈してこの事業のキーワードとしている。

『潮目とは、二つの異なる潮流の「境目」を指すだけでなく、流れゆく物事が向かう方向や、情勢が変化するその境目を指すとともに、過去と現在・未来、異なる地域が出会う「はざま」の象徴でもあります。いわき市はまさにその「潮目」を持った地域、すなわち「潮目のまち」であると私たちは考えます。』

潮目文化共創都市づくり最終年の2019年にいわきに移住し、プロジェクトの一環として演劇作品を創作したいわき市在住の劇作家・寺澤亜彩加氏にインタビューした。

寺澤氏は、愛知県名古屋市出身で、上京し芸術系大学を卒業後、庭師見習いとして働きながら演劇活動を続けていた。大学時代の恩師の作品リサーチがきっかけでいわきに通うようになり、ちょうど市内で庭師の仕事も見つかったことで、移住を決意した。

仕事でも土や樹木と対話をする寺澤氏は、大地に眠る太古の記憶や、人の心の機微に敏感だ。言葉にできない何かを表現するために、アーティストはもがき苦しみつつ、周りへも影響を及ぼす。寺澤氏は、そんなアーティストの一人だろう。彼女は既存の劇場空間ではなく、街なかや地域を舞台として、そこで立ち上がる表現を観客が歩き回って体験するような作品を制作する。

寺澤氏がいわき在住の美術家・藤城光氏と共に2019年2月に発表した作品『地中の羽化、百億の波の果て』は、早朝からマイクロバスで炭鉱跡や海岸、山の中、神社、石碑など市内各地を巡る10時間


『地中の羽化、百億の波の果て』より　撮影：鈴木穣蔵

にも及ぶ長編だ。太古、樹木が地中に埋もれ石炭となり、採炭が近代産業として栄えそして衰退することと、男女が出会い交わり育む生命の循環、そして死を弔う儀式や祭礼などが絡み合い広がっていく。この作品はそのような壮大な世界観を持ち、現実世界と虚構世界とを行き来する。

先に藤浩志氏の論考から、土の人、風の人、光の人、水の人という言葉を紹介したが、彼女はまさに風の人だ。風は、訪れる土地の上を吹き抜けることもあれば、そこで渦を巻き、周りを巻き込んでいくこともある。この作品で、寺澤氏と藤城氏は、リサーチのため地域の人々を訪ね、話を丹念に聞き取っていった。地域の人たちにとって、丁寧に自分たちの話を聞き、風のように地域を巻き込み、そこから何かを創作しようとする二人の行為は、自己肯定感を新たにする機会にもなったのではないだろうか。

次に、震災後にUターンし、東京との2拠点生活を続ける地域活性化団体MUSUBU 代表でプランナーの宮本英実氏にインタビューした。いわき市小名浜で生まれ育ち、高校卒業後に東京でエンターテイメントビジネスを学び音楽レーベルや文化人の事務所で働いていた。いわきに帰ってきた一番の理由は東日本大震災だった。とにかく何かしなければという焦燥感に駆られて、地元の小名浜地区での炊き出しに参加した。

当初は緊急支援的だったが、そのうちに、炊き出しを企画した小名浜在住でフェアトレード事業を営む末永早夏氏と共に、クリエイティブや文化の力を生かした自分たちらしい復興を考え実践するチームとしてMUSUBUを結成し、宮本氏は代表に就いた。津波で被災した港の観光施設をボランティアと共に掃除して、ロックバンドくるりを招いたコンサートを開いたのを始めに、その後もウクレレや書のワークショップなどアートを軸に地域活動を続けた。

彼女たちの活動はとても軽やかで、楽しい雰囲気に包まれている。「末永さんのような（文化的な価値観が近い）人が居るのは大きい」と宮本氏は言う。いわゆる日本の地方都市の課題は、その土地に暮らす人々の価値観が狭く、振る舞いや出で立ち、そして考え方に至るまで、さまざまな側面で多様性に乏しいことにもあるのではないだろうか。視野を広く持ち、自ら行動を起こせるような人たちの存在は、地域社会にとってかけがえのないものだと感じる。

宮本氏は、いわきを評して、ほどよく都会でほどよく田舎で暮らしやすいという。ただ、違和感を覚えるのは、地域が圧倒的な男性社会だという点で、ジェンダーに関する課題は地方都市の方がより強く感じるという。宮本氏は「（多様性に欠ける古い価値観は）自分たちの代で終わらせたい」と強く語る。

今回、お話を伺った寺澤氏はアーティストで宮本氏はアーティストマネジメントにも精通するプランナー/コーディネーターである。今回紹介した事例では、この2人がペアになって仕事をしたわけではないが、地域に表現者とそれをコーディネートできる人材が居るのと居ないのとでは、若者たちを惹きつける力に雲泥の差が出るのではないかと感じた。

今、地方都市に必要なのは、アーティストに代表されるような多様な価値観を持つ人と、多様性に理解があり寛容で、かつそこに地域の可能性を見いだせるような人ではないか。そのコーディネートを担う人が地域の文化拠点に常駐し、さまざまな価値観を持つ人（風の人）を地域に紹介し続けることでコミュニティが更新されていくのだと考える。地域文化拠点への支援を行う総務省管轄の一般財団法人地域創造の調査では、地域文化拠点をハブとして形成される地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地（共有地）のような文化的営みの総体を「文化的コモンズ」と呼び、その役割に着目している。その調査報告書における提言の中で『文化的コモンズを形成するには、それを担う人材が必要であり、特に、各々の組織内をつなぎ、また組織外とをつなぐ「コーディネーター」が重要である。「行政や文化拠点」は、「地域におけるさまざまな担い手」と連携しながら、人材、そしてとりわけ「コーディネーター」を育成・確保する必要がある。また同時に、「コーディネーター」が活躍できる環境を整備する必要がある』[12]とその重要性を指摘している。このコーディネーターとして活動できる人材は、地域にも存在する。文化拠点はそういう人たちとのネットワークを形成し、地域課題に取り組んでいくことも肝要だ。

外から来る人に最初から短期の経済的インパクトを期待し、そぐわなければ「うまくいかなかった」と断定してしまうような場では、風は渦を巻かずにただ通り過ぎてしまうだろう。いわきアリオスのような文化拠点が地域で活動する意義は、地域に土の人、光の人、水の人を増やし、風を起こし、渦をつくることにもあるのではないだろうか。

宮本氏は、文化拠点としてのいわきアリオスについて、自分が学生の頃にできていたら、通っていただろうし、今の子たちがうらやましいと語る。いわき市の文化政策におけるリサーチ的側面を持つ「いわき潮目文化共創都市づくり」は、いわきアリオスが地域にもたらしたインパクトをさらに広げていった側面もある。それらの市民文化活動は今や福祉やまちづくりなどへも広がり、またそれぞれ枝葉のように派生していて、追いきれないほどだ。文化拠点と地域が渦を巻きながら生み出す多様な「潮目」を地域づくりに生かしていこうとするいわき市といわきアリオスの取り組みには、今後も注目していきたい。[13]

今こそ文化政策を

先に紹介したKIACの前芸術監督であり、芸術文化観光専門職大学の学長で、自ら主宰する劇団、青年団と共に兵庫県豊岡市へ

移住した劇作家、平田オリザ氏は、地方における文化政策の重要性を以下のように指摘する。

『今は、一番は人口減少対策ですよね。やっぱり文化と教育に力を入れていないとIターンどころかUターンも来ないので。これまでの雇用政策では、製造業の工場を誘致して住宅造って、そうすると集団就職と出稼ぎをなくせる、と。これは昭和の時代の、田中角栄型の政策としてはとっても成功した。（中略）でもそこで止まってしまっていては困る。いまだに工場誘致、公共事業誘致が首長の仕事になっちゃっている。ところが見誤ったのは、高卒の人たちの進学率が急上昇したこと、特に女子の四年制大学への進学率が90年代に急速に上がったことです。今は50％くらいですが、80年代には10％強でした。四年制大学だと女子は就職が難しかったから。これはでも、ただ4年間だけ故郷を出ていくということではなくて、都会の楽しくて刺激的な生活を4年間過ごした人が戻ってきてくれるかということになったんです。若者は、ふるさとだからといって戻ってくるわけじゃないですよね。 高卒男子を抱え込んで「どうせ女子は地元に残って結婚して子どもを生んでくれる」という、まさに昭和の男性目線の政策でしょう。要はそこから一歩も進んでいないということです。東京一極集中というのは、経済だけでなく文化も東京が抱え持ってしまっているから、一度それを経験した人には地方がつまらなそうに見えて帰って来ない。だから、食とかスポーツとか広い意味での文化政策をやらないと若い人は戻って来ない。そこに気づいた自治体とそうでない自治体とで、またこれから大きな差がつくということですね。』[14]

みなさんの地域はどうだろう。造成済みの工業団地に広大な空き地が広がっていないだろうか。放置されたままの土地や、空き店舗と駐車場だらけの中心市街地などを眺めていると、もはや打つ手無しという寂寥感に苛まれるかもしれない。そういう、やるせない感情や八方塞がりの現実があっても、人は前を向いて、何かを起こさざるをえない。それは、その土地で生まれ育った子どもたちの将来のためでもあり、その土地で最期を迎えたいという高齢者の願い（あるいは自分の想い）を叶えるためでもあろう。平田氏は、今こそ文化政策に力を入れればければならないと警鐘を鳴らす。

文化政策というと、道楽や余暇の楽しみ程度の理解しかされていない場合もあり、これは私も含めた関係者の社会に対するアプローチが足りていないことの証左であり、大いに反省しなければならない。文化政策は、人生になくてはならない分野を扱っていて、それは「人権」のひとつでもある[15]。さまざまな政策分野が人生の一時期や生活の一側面を対象とするのに対し、インフラ整備を除いて、人が生涯にわたって関係するのは文化政策だけだという事に気がついている人は、役人も含めて少ない。先に書いたように、現代の文化政策は、福祉や教育、観光、まちづくり他、さまざまな領域との連携が求められている。そもそも、文化の定義自体が「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容とを含む。（後略）」（広辞苑）であり、自然と対になる概念でもあるので、社会生活上、文化と人間は切っても切れない関係にある。つまり、文化政策は総合政策であり、より具体的に多領域横断の役割を明文化された今は、その質が、自治体のアイデンティティを大きく左右する重要な政策分野になっている。

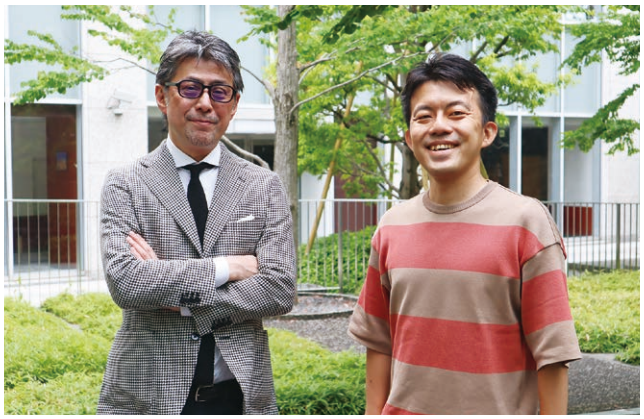
思えば、環境問題や希少生物の保護においては、生物多様性の意義が語られるが、人間社会の存続の危機でもある地方創生の議論に人間社会の多様性は論じられるだろうか。人間は社会的動物と言われる。社会は、環境と同じように、複雑な要素が重なり合い絡み合ってできあがっている。なかでも芸術や文化など、無形の資産を形成していくことは、人間社会の根幹に関わることだ。芸術や文化的な取り組みを、一時的にお金が儲かるかどうかという視点だけで語ってきた罪は大きいだろう。一体、地域に伝わる祭礼に対して経済効率が悪いからやめてしまえ、などと言える人が居るだろうか。人間社会を、その一構成要素に過ぎない経済的な側面ばかりからしか語ってこなかった近代社会のツケを、未来の社会を担う子どもたちが払うことになってはならない。人間らしい文化的な活動が醸成するシビックプライドを積み重ねていくこと、つまり地域の価値を新たに創造していく芸術や文化への投資とその効果を真剣に議論しなければ、バランスを崩した社会はそのまま崩壊していくのではないか。そうならないためには、新たな芸術や文化を創り出せる人やそれを支える人が、イキイキと活動できるような環境を地域に用意することが肝要だろう。そして、創り手の多様な態度や生き方に寛容でいよう。文化政策を通じて地方創生に取り組むことは、社会をじわじわと回復させる漢方的な処方であり、地域のアイデンティティやシビックプライドは、そのように時間をかけなければ育たないものでもあると思うのだ。土地の造成や再開発に比べれば予算は微々たるものだ。手遅れになる前に、今から試してみてはどうだろう。

【参考文献・引用元】

［1］ニューズウィーク日本版 ドイツ政府「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ」大規模支援
https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/03/post-92928.php
［2］木ノ下歌舞伎official site 【勧進帳】演出家｜杉原邦生×主宰｜木ノ下裕一対談［前編］／［後編］
https://kinoshita-kabuki.org/2016/10/03/4516
https://kinoshita-kabuki.org/2016/10/10/4521
［3］すみゆめ2018WEBサイトレポート 高橋大斗
https://sumiyume.jp/report/1834/
［4］ピエール・ブルデュー 文化資本：ブルデューの定義上、資本とは「交換が成立するシステム内において社会的関係として機能するもの」であり、それは「物質あるいは非物質といった区別なく、特定の社会的な枠組みにおいて追求する価値と希少性があることを示すもの」であれば、何であっても構わない。以上を踏まえて、文化資本は「資本として機能するものの中で、蓄積することで所有者に権力や社会的地位を与える文化的教養に類するもの」と定義される。（Wikipediaより）
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%87%E5%8C%96%E8%B3%87%E6%9C%AC#cite_note-6
［5］文化庁 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書（令和2年3月）
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/92178301_01.pdf
［6］AIR_J https://air-j.info/
［7］藤浩志Report「水…か。風土…土と風をつなぐものだな。」
https://geco.exblog.jp/11491657/
［8］第５期文化審議会文化政策部会（第4回）配布資料 アートマネジメント人材の育成と活用の状況（調査結果）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/seisaku/05/04/sanko_02.html
［9］アーツカウンシル東京WEBサイトコラム「助成」の価値を見直そう 片山正夫
https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/library/column-interview/9008/
［10］アリオス・スタイル 第8回フラガールズ甲子園～高校生が作った「フラガールズ・タイムス号外」を発行しました
https://iwaki-alios.jp/cd/app/?C=news&H=default&D=00946
［11］いわきの文化を「潮目」で語るウェブマガジン『しおめ』ABOUT 潮目文化共創都市づくりについて
http://iwaki-shiome.com/about/
［12］一般財団法人地域創造 地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究 ―文化的コモンズが、新時代の地域を創造する―
https://www.jafra.or.jp/library/report/26-27/index.html
［13］「いわき潮目文化共創都市づくり」活動報告書
http://iwaki-shiome.com/wordpress/wp-content/uploads/2020/04/f7b9ccd513a23f3f0b16656db0b3fa14.pdf
［14］タイムアウト東京 ニューノーマル、新しい文化政策～第4回 アートの専門家が文化政策に必要な理由 平田オリザ
https://www.timeout.jp/tokyo/ja/art-and-culture/interview-oriza-hirata
［15］国際人権規約Ａ規約（経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約）第15条
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kiyaku/2b_004.html

地方創生のファクターXを語る

「稼ぐまちづくり」の実践者 木下 斉氏（写真右）

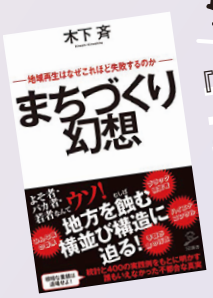


きのした・ひとし　一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事。1982年生まれ。高校在学中から早稲田商店会の活性化に取り組み、2000年に全国商店街合同出資会社を設立。早稲田大学卒業後、一橋大学大学院商学研究科を経て2008年より熊本城東マネジメント株式会社を皮切りに、全国各地でまちづくり会社へ投資、設立支援を行う。2009年より現職。全国のまちづくり会社による事業連携・政策立案組織として活動中。内閣府地域活性化伝道師や各種政府委員も務める。『まちづくり幻想』(SBクリエイティブ)、『凡人のための地域再生入門』(ダイヤモンド社)、『地方創生大全』(東洋経済新報社)等多数。

LIFULL HOME'S総研 所長 島原万丈

しまはら・まんじょう　株式会社LIFULL・LIFULL HOME'S総研所長。1989年(株)リクルート入社。2005年よりリクルート住宅総研にて住宅関連のデータ分析等に携わる。同社を退社後（株）ネクスト HOME'S 総研（現・（株）LIFULL・LIFULL HOME'S 総研）所長に就任。一般社団法人リノベーション協議会設立発起人。暮らしや住まいの専門的立場から地方創生事業に関わるなかで木下さんと知己を得る。

幻想に喝



『まちづくり幻想
――地域再生はなぜこれほど失敗するのか――』
（SBクリエイティブ）
木下 斉
地域再生に関わるトップランナーが、全国の実践例と最新の統計をもとにした、本音のまちづくり論を展開。

2014年の地方消滅論に端を発した地方創生政策が立ち上がり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として始まった。東京への一極集中の是正と地方活性化を目指した総合戦略は、目に見える成果を生みださないままに一期目（2015年度～2019年度）を終えて二期目（2020年度～）へと突入。年間1兆円以上という莫大な財源を投入しているにもかかわらず、成果が出せないのはなぜか。地方創生論に抜け落ちてきた“ファクターX”（未知の要因）に迫るため、高校時代から地元商店街の活性化に取り組み、数々のまちづくりに関わってきた「稼ぐまちづくり」の実践者・木下斉さんに話を聞いた。

地域活性の目標は人口増ではない

島原万丈（以下、島原）　ここ数年、リノベーションを軸にしたプロジェクトで全国の様々な市町村と関わることが増えてきました。僕にとっても地方創生は身近な問題です。2014年に策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」[※1]（以下、「総合戦略」）や47都道府県の地方版総合戦略[※2]は幾度となく目を通したものの、いくつもの疑問が湧き違和感が残ります。結果として成果が上がらなかった一期目を終えて、第二期目が始まりました。大金を投入しているにも関わらず、なぜうまくいかないのか？　これまで地方創生論には抜け落ちていたものがあるのではないか？　そんな地方創生における“ファクターX”の存在について木下さんと考えていきたい。最新の著書『まちづくり幻想』でも触れていますが、総合戦略について思うところを聞かせてください。

木下 斉（以下、木下）　これまで総合戦略に関しては、そもそも“人口増”という前提が違うと言い続けてきました。この「人口さえ増

えれば地域が活性化する」という考え方が幻想なんですよね。人口ボーナスは同じ国で二度起こることはないのは、工業化に世界で最初に成功して覇権獲得した欧州が示しており、少子高齢化によって人口減少していくのは日本が発展したからこそ避けられないプロセスの一つです。日本全体として人口増加している時代にすら人口減少していた地方まで含めて、人口増だけを達成目標とするならば、どこも負け戦にしかなりません。そもそも地方が衰退するのに、人口減少は原因ではなく、結果でしかありません。産業、教育含めて地方が都市とは異なる発展戦略を持たなくなってしまった戦後、よりよい条件で働くこと、よりよい高度な教育を求めて都市部に人が移動した結果、地方の人口減少が加速したのです。戦前は農林水産業だけでなく、工業分野や、教育分野でも地方で先駆的な取り組みが多数ありました。九州は炭鉱や石炭加工の科学分野では先進的で、国立大よりも先立った工業大学すら民間資本で設立されていました。岡山県倉敷市には紡績分野での先端企業が、労働科学と向き合い、飛躍的な生産性改善を達成させました。それは地方交付税交付金のような財政均衡化政策がなく、地方は自ら稼ぐしかなかったからです。しかし、戦後は財政支援が地方に積極的に行われて格差が是正された一方で、稼ぐ意欲は消失、むしろ国から予算をもらう意欲ばかりが増大したのです。結果、県庁所在地の成長率を上回るような産業都市はほとんど生まれず、地元企業やそのオーナーたちによる積極的な教育分野、金融分野への投資などもなくなりました。令和における地方創生とは稼ぐインセンティブを復活させて、地方が独自かつ多様な発展をしていくための権限と財源の一体的な委譲を考えるものです。それを人口だけの問題にしていることが、そもそも問題の結果と原因を取り違えているのです。

島原　第二期では地方の人口増についてはトーンダウンしているものの、人口論に依存しない地域活性化をもっと突き詰めていくべきですね。地方の人口減少問題とともに東京への一極集中化の是正が対で語られています。コロナ禍において、テレワーク化が進み、どこでも仕事ができる環境になってきています。ワークとバケーションを兼ね合わせたワーケーションが注目されて、東京から地方移住をして生活を変えた30代の働き世代も目立つようになりました。東京一極集中が終わったなんて意見もありますが、いま地方にチャンスが巡ってきたと言えますか。

木下　コロナ禍で地方への「関心」だけは高まったとは思います。しかし注目されているほど行動につながっているかといえばそうではない。2021（令和3）年1月1日時点での東京都の人口は、1396万236人であり、この1年で8600人ほど増加している。1997（平成9）年以降、25年にわたり東京の人口は増え続けています。東京都から出ていった人口の半数以上は東京圏の範囲であり、東京圏の人口増加は約9万人と依然として増え続けています。

島原　確かに東京の不動産市況は、相変わらず上昇トレンドですね。千葉、埼玉、神奈川へと郊外化する広がりはあるものの、通勤時間の短縮を求めて港区や中央区など都心を選ぶ世帯も増えています。

木下　データから考えても東京圏という東京都への通勤範囲を含めた「東京一極集中」が続いていることは明白。コロナが原因で東京から地方に大勢移住して、地方が自動的に再生するという幻想は捨てるべきです。もちろん地方移住をした若い世代はいます。だけどそれは、選ばれた地域だけです。自分たちのまちを継続的に積み上げていき、移住しやすいような仕組みをつくり、地元産業を盛り上げている地域にしかチャンスは巡ってはきません。

若者を流出させる同調圧力の強さ

島原　コロナ禍で顕著になったのが、日本社会における同調圧力の強さです。自粛警察や他府県ナンバー狩りみたいなこともありましたよね。地方の担い手である若年層が、首都圏に流出する理由について、雇用の有無と所得格差の問題が指摘されています。もちろんそれは大いにありますが、都会以上に地方における同調圧力の強さは、若者たちを都会に向かわせると感じませんか。

木下　同調圧力が強い社会は、誰もが息苦しいし生きづらいものです。これは男性だけではなく、女性はもちろんLGBTQ＋の人たちは特に強く感じていることが、あらゆる調査でも出ています。子供を産む世代の女性が地方からいなくなる構造は、総合戦略が始まった2014年以降も相変わらず改善はされていない。例えば、ニッセイ基礎研究所による2019年の人口動態※3では、20～24歳の年齢階層では男女ともに東京へ転入する人が年々増加。増加人数は女性が男性を大きく上回っていることも示されています。

島原　結婚や出産について、特に地方では家族のみならず、周囲の人が干渉をする。結婚への圧力は相当ある。「結婚への干渉が苦痛で実家に2、3年帰省していない」と20代や30代の女性からはよ

※1　まち・ひと・しごと創生法に基づき、5カ年の目標や施策の基本的な方向をまとめたもの。第一期は2015年度から2019年度まで、第二期は2020年度から2024年度まで。

※2　地方公共団体においても「地方人口ビジョン」ならびに「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」がつくられた。これらをあわせて「地方版総合戦略」と呼ばれている。

※3　ニッセイ基礎研究所による人口動態データ解説「東京一極集中の本当の姿」（2020/08/17）参照。

上）https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=65080?site=nli　下）https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=65177?site=nli

く聞きます。僕は地方出身者ですが、随分前とはいえ「女の子に学問はいらない、嫁の貰い手がなくなる」なんて、祖父母の世代はよく言っていましたね。

木下　今でも地域によってはそれは続いています。例えば愛知県は経済成長が高く、雇用条件や所得水準も経済成長率も全国トップクラスです。しかし首都圏へ流出する女性がとても多い。「仕事がないから、給料が安いから、都会へ出ていく」という一般論では説明がつかない。理由について頻繁に調査していたのですが、その理由はなかなかつかめなかった。なぜなら愛知県で働く女性に調査していたからです。遅きに失したとはいえ首都圏に流出した女性に調査[※4]すると、キャリアアップ志向の強さとともに、東京では「やりたい仕事がある」「本社機能があり中枢で働ける」「女性にとって職業の選択肢が多い」などいくつもの理由がみえてきた。仕事はあっても望むようなキャリア形成ができず、さらに結婚・出産に対して古い価値観が残る地域であれば、自由に生きたい女性が出ていくのは当然ですよね。

島原　国土交通省の調査[※5]でも、東京圏在住の地方出身者が地元に残らなかった理由として「人間関係やコミュニティに閉塞感があるから」は、女性は男性の2倍近くになっています。そういえば沖縄県へのUターン率も一般論では説明がつかない。国立社会保障・人口問題研究所「第8回人口移動調査」[※6]では、沖縄県は一度県外へ移動した人のUターン率が70%と非常に高い。けれども沖縄県は雇用や所得でみれば全国ワーストです。しかし自然に恵まれていて生活も楽しく、出戻った人を周囲が温かく受け入れてくれる環境があるんじゃないかなと思う。歴史的にも外の人を受け入れざるを得なかったから、緩さというか、寛容さが地域にあるのでしょうね。あと沖縄出身者は、シビックプライドというか、地元愛が強い！

木下　そうですね。そんなふうに理由がわかれば改善策をたてることができる。日本社会、特に地域社会において同調圧力がなくなることはないけれども、愛知県の企業経営者は自分たちの価値観を変えて、会社の制度改革を通じて女性が望む仕事をつくることはできる。人口減少を仕事や所得を言い訳にする地域は、沖縄のような地域からいろいろと学べるところがあるはず。事実、知り合いの愛知県豊橋市の中小企業は、採用条件を積極的に変革し、地元のみならず全国から応募が殺到しています。

島原　地方創生の議論には、若者を都会に行かせたくないという空気がある。でも東京でも海外でも若いうちに外へ出て、知識や経験を積んで10年後や20年後に帰ってきてね、と前向きに送り出してあげるほうがいい。若者は新たな地での学びや経験で成長するし、地域に役立つ人間になって戻ってくることもあるでしょう。地域のために地元に残れと要求されたら17歳の高校生にとってはストレスでしかない。

木下　そんなところは抜け出したいと思いますね。ただ、囲い込みの一方で、地方には過剰に地元産業を蔑む人がいる。子供時代から「地元はダメだ。東京の大学に行って一流企業で働け」と言われ続けると、子供たちが地元への愛着、シビックプライドを持てなくなり、社会における様々な評価を知る前に、勝手に地元をだめだと思いこんでしまう問題もあります。



小さな集落ほど大きな可能性がある

島原　地方創生の現状は厳しいですが、しかし明るい未来が感じられる町や村は確かに存在する。木下さんの最新作『まちづくり幻想』では、そんな実践例も紹介しています。独自な取り組みをしている地域や注目している人に共通点はみられますか？

木下　いわゆる地方都市圏の周辺にある町や村、または都市につながりやすい地域で新たな取り組みを始める人が増えています。広島や岡山が商圏となる山陰地方や瀬戸内の島々、北海道だと札幌に次ぐ旭川市周辺の町や村、また首都圏からの新幹線客が見込める北陸の町などで活動している人やプロジェクトに注目しています。インフラがどんどん発達したことで都市圏の構造変化は起きているのですが、未だに基礎的自治体単位でしか物事を考えない人も多いのはもったいないです。都市機能の多くを中心都市に依存しつつも、その周辺都市として別軸で魅力を高めることは可能なのです。これらの地域はどこも非常に小さな自治体が多いですが、よそ者を迎えることにとっても前向きです。

島原　木下さんは安易な「よそ者、若者、馬鹿者」頼みは幻想だと批判していますが、強い牽引力を持つ個人が外から人を呼び寄せて、それが活性化につながっている地域はありますよね。

木下　「よそ者、若者、馬鹿者」ではなく、地元のちゃんとした名士が地域の未来に向けて動き、投資をしている地域が大切なのです。例えば、徳島県・神山町は、国内外から人や企業を呼び寄せて地域を

活性化し続けています。NPO法人の代表・大南信也さんが中心となり、1990年代から様々な活動に取り組んできました。大南さんは自らも海外生活の経験がある方で、県内での合宿先に困る時代から外国人教員向けの集団合宿の受け入れをずっとやっていた。後には国内外の芸術家を招聘して作品制作をする「アーティスト・イン・レジデンス」、東京や大阪からIT企業を誘致した「ワーク・イン・レジデンス」、最近では私学の高等専門学校を建てるプロジェクトも始めている。大南さんが始めた地域のプロジェクトは、いまや行政や企業を巻き込み大きく展開しています。そのオープネスがIT系企業にも刺さり、様々な企業が全国に先立ってサテライトオフィスなどを開設。田舎だけどネット速度が高いからみたいな話をする人もいますが、それは必要条件ではあるけど十分条件ではない。全国には光ファイバーを引いたけど、誰もこないところは山ほどある。重要なのはインフラだけでなく、それを活かせる人材なのです。

島原　人口2万人程度の山間の町なのに、地方創生議論が始まるよりはるか前から外国人や芸術家というよそ者をコツコツと受け入れてきたことは、地方創生を進めるうえで筋トレになりましたね。人を呼び込んで町を活気づける一方で、地元生産物に付加価値をつけることで活性化する方法もありますね。郊外都市開発を論じたジェイン・ジェイコブズ※7も「経済発展の源泉はイノベーションである」と説いて、既存のものに地域内で改良を加えて付加価値をつけることが大事だと言っています。

木下　農家と町がともに取り組んでいる北海道・当麻町の「でんすけすいか」プロジェクトなんかはまさにそう。味や見た目にこだわった厳しい栽培基準、そして綿密なブランディングにより、地域全体で高級スイカに育て上げた。2021年の初競りでは、ひと玉60万円を超えたことでも話題になりましたね。また、自治体は破綻して大変なことになっていますが、夕張市の夕張メロンもまた、自治体の経営環境は関係なく、稼ぎ続けることが可能ですね。日本ではどうしても工業的成功ばかりに目を奪われますが、工業化の後の衰退を経験してきた欧州にいけば、ワインやチーズ、レモンなど含めて多様なブランド化に成功した農業地域は豊かです。日本においてもホタテ養殖加工で有名な北海道・猿払村の成功もよく知られるところです。

島原　ふるさと納税にも一役買っていますよね。

木下　北海道・江丹別にある家族経営の伊勢ファームでは、グラスフェッドの酪農をしています。生産量が少ないグラスフェッドミルクはどこにも出荷せずに、ファーム内のチーズ工房でこだわりの高級ブルーチーズを製造。チーズの本場フランスで修業するなどの努力を重ねてつくられたチーズは名だたるシェフから注目を集め、JAL国際線のファーストクラスの機内食にも選ばれているほどです。結果として、牛乳の材料として出荷するよりも10倍以上の単価で生乳を活用できており、だからこそこだわった少ない量の生乳でも、親、兄弟3世帯が豊かに生活しています。北海道型の農業や酪農は、野菜や乳製品を大量に生産して安く販売することを推し進めてきました。だから高級なスイカは売れない、小さな酪農なんてうまくいかない、という業界団体や地元の重鎮からは叩かれたことでしょう。どちらもそんな声をはねのけて高付加価値なものづくりで成功を遂げています。

島原　従来の産業構造とは真逆なものづくり、そこから確実に利益を生みだす生産者がいることは心強いですね。まだまだ個々の活動かもしれないけれども、とても明るい兆しです。そういえば北海道でジャパニーズウイスキーを手掛ける「厚岸蒸留所」では、他の地域から移住・転職してきた人たちがウイスキーづくりに励んでいます。テレビで観たのですが、中には若い女性もいました。みんながウイスキーづくりに誇りを持って働いている姿が印象的でした。やりがいがあって好きな仕事であれば、地域なんて関係ないとあらためて感じました。

木下　今の10代や20代前半の世代は、東京や札幌でないとダメ！



※4　愛知県による「若年女性の東京圏転出入に関する意識調査結果」（回答者数／東京圏在住者413人・愛知県在住者202人。平成30年1月実施）。
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kikaku/jakunen.html

※5　国土政策局「企業等の東京一極集中に係る基本調査（市民向け国際アンケート）」（2020）　https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/content/001409459.pdf

※6　人口移動に関する動向を明らかにする目的で46都道府県（熊本県・大分県由布市を除く）に調査。集計対象者数67098世帯のうち有効回答者数48477世帯の全世帯員122640人。平成28年7月に実施。

※7　アメリカ合衆国の女性作家でありジャーナリスト（1916〜2006年）。都市計画研究において影響を与えており、『アメリカ大都市の死と生』はいまでも都市論のバイブル的存在。

という都市への願望が薄れています。地方のプロジェクトへのインターンや転職希望者を見ていると、優秀なキャリアを持つ若者が多いです。私がまちづくりに関わり始めた一昔前だと考えられないことです。やりがいを感じる仕事があれば、都会から地方へいくことは厭わない。特に“よそ者”に開かれた町や村は、北海道・余市町のスタッフ大半がフランス人というワイナリーのように、都市対地方みたいな構図はなくなってきています。また東京の名店で活躍していた若い料理人が、福井や石川など北陸へと出店を希望するように。北陸の豊かな食材と美しい自然を味方につけて、首都圏や関西圏から食通が訪ねてくる店づくりを始めています。町なかに出店するのではなくて、とんでもない廃村、だけど自然環境は豊かな立地にお店を出しているのも特徴的。そのような店が予約のとれない店となり、さらにミシュランにとりあげられるなど、とても活気づいていますね。価値基準が大きく変わってきているのです。これは80年代のイタリアの「スローフード」などと同じく、日本社会の価値基準の成熟化の入口を意味していると感じます。



島原　人口が少なくてGDP（域内の総生産）が低い町や村でも、ひとりひとりはきちんと稼いで幸せに暮らしている。まるでフランスの田舎町のようですね。都市と都市の間にあるような、小さな田舎町にいいホテルや地元の食材を使ったおいしい高級レストランが存在して、都会から訪ねてきた人がお金を落とす構造に。地域活性のあるべき姿ですよね。

木下　そうですね。フランスで1人あたりの所得が高い町に、人口2万3000人ほどのエペルネーがあります。パリから電車で小1時間程度の町ですが、ブドウ畑に囲まれたシャンパンの産地です。ここは代々受け継がれている高級シャンパーニュのメゾンがいくつもあり、世界を相手にした商売をしています。そこに若いベンチャー型のメゾンも集積し、伝統と革新が複合的に存在しています。その周辺には小規模だけどホテルやレストランがいくつもありますが、基本的には畑だらけの農業が中心の町。しかし付加価値の高い商品を少人数でつくっていることで、平均所得が高くなり長期にわたって繁栄を続けていけるのです。

島原　今すぐにでも行きたいなあ（笑）。付加価値のあるものづくりができるのは、広大な土地や自然に恵まれた地方の大きなメリットですね。人口が少ないことがかえって強みにもなっている。

木下　同じ仕事で収入をアップさせるのは、都会より田舎のほうが適しているかもしれません。ワインやウイスキーならばヴィンテージを手掛けることで、単にスケールやコストを増やさずに単価を上げていく戦略がありますし、ホテルやレストランならばサービスや料理の質を向上させて、地元だけではなく周辺都市の富裕層をターゲットとする。そのためにはブランディングや新たな視点を持って商品やサービスの付加価値を上げていく工夫は必要ですけどね。

稼ぐ力をもたらす関係人口づくり

島原　第二期の総合戦略には、移住定住者でもなく観光客でもない「関係人口」[※8]に重きがおかれていますね。関係人口は地域のために何ができるのか、また関係人口をどう活用すればいいのか。元祖・関係人口でもある木下さんは、どのように考えますか。

木下　従来の移住定住政策の難しさを反映しつつ、新たな都市人口と地方との接点を数値化するため「関係人口」という指標がつくられました。ただし、いまひとつ定義があいまいです。関係人口とは地元のファンのことであり、ファンを増やすことで地域がよくなると勘違いしたイベントやプロジェクトだけが展開されないか心配ですね。もちろんファンが増えることはいいことですが、ファンを誘致するためにかけるコストと、ファンが使ってくれる消費とを差し引きして採算割れになっては意味がありません。

島原　誘致のために投資して結果マイナス……、今までの地域再生プロジェクトによくあることですからね。コロナによって働き方の自由度が上がり、都市と地方という二拠点生活への関心が高まってはいます。しかし定住人口の増加は厳しいから関係人口を増加させようなんて雑に考えていると失敗するってことですね。

木下　地方に必要なのは、ゆるい関係でつながる人口が増えることではありません。重要なのは量よりも質です。友達100人できるかな、ではなく本当に信頼できる、力になってくれる友達は10人もいれば十分という人生の教訓と同じく、地域を豊かにしてくれる関係人口は単に数ではないのです。味気ない言い方かもしれませんが、誘致にコストをかけるのであれば、地元で消費をしてくれる「消費力」、もしくは都市部に集中している付加価値の高い企画やデザインなどをしてくれる「労働力」を移住定住せずとも確保するところに価値がある。東京のデザイナーに地元の商品パッケージをおしゃれにリニューアルしてもらうとか、また地元名産の新たな販路を見出してくれる

ようなプロデューサーとか。才覚のある地元の経営者と関係人口とがつながり、利益が上がるような仕組みをつくれたらいい。

島原　多くの地域に関わっている木下さんですが、関係人口として関わりたい地域ってどんなところですか。

木下　まぁ結局、オープンで面白い人がいる町や村ですね。正直、環境的には豊かな地域は多数あり、海も山も川も田畑も、どこもあるのです。だからこそ特定の場所ではなくて、町をよくしたい、稼げる町をつくりたい、そんな情熱がある人と人間関係をしっかりと築いていけるならば、縁もゆかりもないような地域でも私は問わないのです。でも、熱量の高い人がいる町や村は、やはり魅力的ではあります。一泊して共に語るだけでも好きになりますよね。うちの町には何もない、とかいう人がいますが、それはその人こそ魅力がないのです。環境がよければ自動的に活性化するなんて思い込み自体が幻想。まずは自分が魅力的になるしかないのだと思います。

島原　やっぱり人が大事ですね。地元のキーパーソンと能力のある関係人口をどうマッチングするかがポイントになってくのでしょうね。あと期限付きの関係人口としては、地域おこし協力隊[※9]（以下、協力隊）がいます。制度発足から10年が経ちますが、協力隊を上手く活用できている地域とそうでないところの差が大きいみたいですね。



木下　縁もゆかりもないところにやってくる協力隊をお手並み拝見しているだけでは、地域おこしは成功しませんよね。地域が協力隊を受け入れる場合、具体的なプロジェクトを想定しておくこと、そのプロジェクトに見合うスキルや経験のある人を優先して採用することが重要です。また地域おこしの人員ですから、単純労働力としてのみ活用することはやめるべき。一方で、協力隊側に関しては国内版ワーキングホリデー気分で応募する人が多いことは問題かもしれません。地方から地方へと、ホッピングをし続けている協力隊員も多い。そのあたりはきちんと見直していくべきだと思います。

島原　自分探しの旅みたいな人は論外だけれど、地域のためにと目的を持って出向いたのに、単純労働しかやることがないなんてかわいそうです。

木下　役所の担当者がやる気があって、プロジェクトをともに進めることができて、地元のキーパーソンをどんどん紹介してもらえるのが理想的。でも町長だけがやる気で、担当者は仕方ないから動いているなんてところに採用されたら気の毒ですよね。期限付きで採用された初めての土地なのに、仕事がない中で人脈を広げるには限度がありますしね。

島原　漫然とした制度活用では上手くいかないということですね。協力隊を有効に活用するためにはどうすればいいですか。

木下　協力隊を上手に活用するためには、ベクトルを地域の外に向けるべきなのです。集落支援員みたいな活用の仕方は間違っています。例えば、北海道の余市町の協力隊員の活用は面白い。同町は高い評価をうけるワインが続々と生まれている地域なのですが、地元には来なくていい協力隊を募り、その結果、オーストラリアのレストランに勤務する20代の若い日本人マスターソムリエを採用。世界の飲食関係者に余市町産ワインをアピールして、販路を広げることが業務になっています。彼は最年少マスターソムリエとして注目されているし、アピール効果が抜群に高い。さらに、様々な飲食店などからもワインリストのコンサルティングを依頼されるから、そういう人に余市ワインを薦めてもらうことを考えれば、地元産業振興に直結します。こういう制度活用は、とても巧みだなと思いますね。

島原　プレスと営業を兼ねたリモート人材！　地域に稼ぎをもたらす新しい地域おこし協力隊事例ですね。また本人のスキルや経験を活かせたうえに彼自身もキャリアのひとつになる。協力隊を副業として考えられるのは、いいアイデアだと思います。余市町のようなオープンなスタイルはいいですね。

木下　大きな結果を生まなくても決して損にはならない。それに新たな取り組みは成長の糸口につながります。地域振興のために大して人も来ないような駅前の空き店舗を活用した観光窓口のスタッフとして協力隊を採用するよりも、その予算でヨーロッパなどの小さな旅行代理店に町の広報をしてもらうほうがよっぽど費用対効果がでると思いませんか？　知りうるところでも、イギリスのリバプールに

※8　移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもなく、地域や地域の人びとと多様に関わる人びとを指す。地域づくりの担い手になることが期待されている。

※9　都市地域から過疎地域などの条件不利な地域に移住して、地域ブランドの開発やＰＲなどの地域おこし支援、農林水産業への従事、住民支援など、地域協力活動を行いながら、定住・定着を図る取り組み。任期は1年以上3年未満。令和２年度は、約5500人の隊員が全国で活動している。p233のレポートも参照。

2人の日本人がやっている、地元の裕福層相手のエージェントがあったりします。私なら全世界にあるそういうエージェントに予算を出して依頼しますね。日本の大手旅行代理店ではなく。単に地元定住や観光客数にばかりこだわっていると、そういう発想にならない。それだと人もお金も減る一方ですよ。

島原　そもそも地方創生のゴールはなんなのか。定住人口が減少して市町村が合併していっても、その地域で暮らす人が幸せな生活ができていればいいじゃないかと思うんです。住む人が幸せで、周辺の人たちがその地域独自の店やサービスに惹かれてやってくる。そんな魅力的な町や村ならば、1万人だろうが10万人だろうが人口規模は関係ないですよね。

木下　地方創生は、いきなり100万人が食えるまちを目指すことではなく、むしろ2万人が幸せになれるまちをつくっていくこと。百万人都市の問題はより深刻で解決は困難ですが、人口規模の小さい都市ほど解決が容易です。地域のなかで生活するひとが必要とする所得があり、それがあればインフラも形成できる。自分たちが生活するなかで地元のものを使う、付加価値をつけて自分たちの所得を上げる。それをどう担保するかが大事。小さなまちであっても暮らす人たちが所得を上げられて生活基盤をしっかりつくっていて、地元にお金を落とすという仕組みにしていけるといい。

地域活性に必要ものは何か

島原　木下さんは著書『福岡市が地方最強の都市になった理由』で、変人（と呼ばれるクリエイティブ人材）がまちを活性化させると述べていますね。

木下　都市発展の原則は「常識を疑う」ことです。地域の付加価値を伸ばすためには、その町や村にはない新しい視点を持っている、クリエイティブな人の力は欠かせません。クリエイティブな人材＝常識破りの変人がたくさんいることが既存の産業に「カネをかけた以上に値段を上げる」という変化をもたらし生産性を上げる鍵を握っています。そしてクリエイティブ人材が集まるためには、今まで話してきたようにオープンマインドな地域であることが大事。クリエイティブ人材というのは、単にデザイナーとか職業的なことではなく、従来とは異なる価値観を持つ人たちです。福岡市で明治以降に登場する鍵となる人材は変人であり、それは全国区、国際的に評価されるレベルの人たちばかりです。そして、そのような非常識な人たちを潰さなかったことが福岡市の発展につながっています。変人に寛容で変化を恐れない。出る杭も放っておくか、むしろ応援する。

島原　歴史的にも中国大陸や朝鮮半島に開かれた商いの町。そのオープンさで、外から多彩な変人（クリエイティブな人）を呼び寄せている。九州の他県の人から、福岡は自由でうらやましい、うちだったら目立つことをしたらすぐに足を引っ張られる、なんて話も聞いたことがあります。クリエイティブな人ほど同調圧力を嫌うし、寛容な地にしか集まってきません。

木下　技術革新やイノベーションよりも過去のヒエラルキーや権益を大事にしているところが多い。内輪社会で成功体験があるところは、なかなか今の時代にはきつい。地方創生総合戦略第二期の総合戦略では、多様な人材が活躍できる環境づくりを目指していますしね。多様な人材がいることで、地元の可能性や価値に気づけるようにもなる。伊勢ファームのグラスフェッドミルクの話ですが、地域にはグラスフェッドのブルーチーズなんて売れるはずはない、と言っていた人のほうが多かったのです。だけど伊勢さんはやりきった。やりきったから応援する人が次々に地域外には出てきたのです。そのようになぜか地域内でつぶし合いをしようとする人が多かったりします。敵を間違っているのですよね。地域の競争相手は外であるのに、なぜか地域の中で互いにつぶし合おうという人がいたりします。それでは多様な人材が活躍できる環境なんて無理です。自治体ですらそれができているのか。まずは自分たちが変わることが最初なのです。「多様な人材が活躍できる環境づくり」なんて念仏のように唱えても仕方がなくて、自分の先入観、そんなことは無理だとか、こんなヤツが成功するはずはない、なんて思い込みを捨てることがすべての出発点なのだと思います。

島原　少し確信できた気がします。地域に新しい活力をもたらすには、これまでの常識を疑ってどんどん新しいやり方を試す必要がある。そのために必要なのがクリエイティブな変人（笑）だけど、そういう人は寛容性の高い地域にしかやってこない。そして、若者や女性もそういうところにしか定着しない。魅力にあふれた稼げる地方にするためには、やっぱり“地域の寛容性”は大事なファクターと言えますね。





Prologue
Introduction
Research
Report
Epilogue

地方創生のファクターX

寛容と幸福の地方論

Well-beingな地方創生を目指して

LIFULL HOME'S 総研所長 島原万丈

1章／地方の人口定着力

1. 上京した若者のUターン意向

地方から東京へ出て来た若者のUターン意向は出身地域によってどの程度違うのかを確認するために、東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）に在住の地方出身（東京圏以外の出身）の18歳から39歳の男女を対象にインターネットでのアンケート調査を実施した。調査は、出身道府県別に男女各100サンプル、43道府県合計で8600サンプルを回収した。

地元へのUターン意向を尋ねると、地方出身者全体では「必ず戻る予定がある」（2.9%）と「いつかはぜひ戻りたいと思っている」（14.9%）を合わせた強いUターン意向率は17.8%であった。ここに「戻ることも選択肢の一つとして考えている」を加えると、緩めの可能性としてのUターン意向は52.0%に上る。

Uターン意向率は、男性（55.2%）よりも女性（48.8%）が低く、20代以下よりも30代で、未婚よりも既婚で低くなる傾向があり、30代の女性では43.3%まで低下する。

7段階で尋ねたUターン意向の「必ず戻る予定がある」を7点、「絶対に戻らないと決めている」を1点として出身道府県別に加重平均値を求め、高い順に並べたのが図1である。43道府県の平均値は4.19であり、ランキングで言うと同率17位の岩手県と福井県のレベルになる。

Uターン意向1位の沖縄県では東京圏在住の県出身者のUターン意向率は70.8%に上り、「必ず戻る予定がある」（7.1%）、「いつかはぜひ戻りたいと思っている」（24.8%）と強い意向を示す割合も全国平均を大きく上回って高い（60p）。上位の顔ぶれは、和歌山県を除く近畿圏の各府県が10位以内に並び、他は福岡県、熊本県、長野県、石川県の出身者もUターン意向が高い。逆に東京に出ていった若者のUターン意向が低いのは、鳥取県、和歌山県、大分県、岐阜県で、鳥取県では強いUターン意向率（「必ず戻る予定がある」、「いつかはぜひ戻りたいと思っている」）は13.6%と沖縄県の半分以下に留まっている。

ちなみに、国立社会保障・人口問題研究所「第8回人口移動調査」（2016年）では、出生都道府県から県外に移動した経験のある人のうち出生都道府県に戻った人（Uターン）の割合がもっとも高いのも沖縄県で、一度県外に移動した人のUターン率は実に70.9%で群を抜いて高い（同報告書55p、付図2）。しかし、同調査で沖縄県に次いでUターン割合が高いのは、富山県（2位／55.3%）、静岡県（54.6%／3位）、宮崎県（4位／52.6%）、愛知県（5位／51.6%）で、東京圏に出て来た若者のUターン意向では、富山県16位、静岡県19位、愛知県28位、宮崎県29位と、必ずしも傾向は一致していない。東京一極集中の是正という文脈で考える若者のUターンと、近接県へ移動も含めた全年齢を対象にし

たUターンとは、(沖縄県を除いては) 若干異なる事情があるということだろう。

道府県によって、Uターン意向が男性と女性で異なる傾向を示すところがある。たとえば、滋賀県、長野県、福井県、佐賀県、長崎県では女性での順位は男性よりも低くなっている。特に目立つのは福井県、佐賀県、長崎県で、男性ではいずれも5位または6位とトップ10内であるにもかかわらず、女性では39位、40位、42位と最下位クラスに留まる。逆に福岡県、大阪府、愛媛県、高知県は、女性ではいずれもトップ10内にランクされるのに対して、男性では順に26位、15位、28位、41位とふるわない。

2. ふるさととの関係人口意向

関係人口とは、いわゆる定住人口でも交流人口 (通勤通学や観光) でもなく、特定の地域と継続的かつ多様な関わりを持つ新しい人口の概念として、新たな地域づくりの担い手として期待されている。関係人口は、地域の関わり方によって、直接寄与型、就労型、参加・交流型、趣味・消費型、非訪問系に分類される。関係人口の実態把握のために国土交通省が実施した大規模な調査※1によれば、18歳以上の全人口の約2割弱が関係人口として特定の地域に継続的に関わっていることが分かり、さらに直接寄与型など訪問系の関係人口では、関わり方による違いはあるものの、関わり先への移住希望が60%前後あり、第二期の地方創生政策でも大いに注目されている。

そこで東京圏在住の地方出身の若者に、出身地へ関わりの意向を尋ねると、「ふるさと納税」が58.4%、「出身地でのワーケーション」43.4%、「地域のまちおこしプロジェクトへの参加」41.3%、「地域に新たな仕事(産業)を創出するなどの活動への参加」(37.7%)、「地域のボランティアや共助活動への参加」(37.3%)、「東京圏との二拠点生活」(32.9%)と、提示したすべての項目に対して30%以上の関与意向がみられる。しかし、既にしている割合は「ふるさと納税」(8.7%)を除いて1%未満であり、実際の行動を起こすための機会や糸口が少ないのではないかと推察される(62p)。

これらの関係人口意向をUターン意向別にみると、「必ず戻る予定がある」「いつかはぜひ」を合わせたUターン意向層では全般的に50～70%と高い意向があるものの、「あまり戻りたいとは思わない」「全く戻りたいとは思わない」「絶対に戻らないと決めてい

【図1】出身道府県別のUターン意向

	全体		男性・計		女性・計	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体		4.19		4.29		4.09
沖縄県	1	4.77	4	4.67	1	4.88
京都府	2	4.66	1	4.86	4	4.45
長野県	3	4.50	3	4.73	9	4.27
兵庫県	4	4.48	9	4.51	5	4.44
滋賀県	5	4.47	2	4.76	14	4.18
大阪府	6	4.46	15	4.42	3	4.51
奈良県	7	4.44	6	4.58	6	4.31
福岡県	8	4.41	26	4.23	2	4.60
熊本県	9	4.39	9	4.51	10	4.26
石川県	10	4.30	11	4.50	18	4.10
北海道	11	4.28	18	4.34	12	4.22
新潟県	12	4.27	11	4.50	23	4.04
島根県	13	4.26	21	4.30	12	4.22
愛媛県	14	4.25	28	4.19	7	4.30
宮城県	14	4.25	16	4.39	17	4.11
富山県	16	4.20	19	4.33	19	4.07
岩手県	17	4.19	13	4.48	35	3.90
福井県	17	4.19	5	4.59	39	3.80
静岡県	19	4.17	35	4.09	11	4.25
岡山県	19	4.17	17	4.35	28	4.00
佐賀県	19	4.17	6	4.58	40	3.76
長崎県	19	4.17	6	4.58	42	3.75
群馬県	23	4.15	25	4.25	20	4.06
福島県	23	4.15	22	4.29	25	4.01
山口県	23	4.15	14	4.45	37	3.85
広島県	26	4.12	28	4.19	21	4.05
山梨県	26	4.12	23	4.28	31	3.95
愛知県	28	4.11	24	4.26	31	3.95
宮崎県	29	4.10	31	4.15	21	4.05
鹿児島県	29	4.10	27	4.20	25	4.01
茨城県	31	4.08	36	4.01	15	4.15
高知県	32	4.07	41	3.84	7	4.30
青森県	32	4.07	36	4.01	16	4.13
秋田県	34	4.06	32	4.14	29	3.98
三重県	34	4.06	30	4.16	31	3.95
徳島県	36	4.04	20	4.31	40	3.76
香川県	37	3.99	36	4.01	30	3.97
山形県	37	3.99	33	4.12	36	3.86
栃木県	39	3.98	39	3.93	24	4.03
岐阜県	40	3.89	40	3.87	34	3.91
大分県	41	3.86	42	3.71	25	4.01
和歌山県	41	3.86	34	4.10	43	3.61
鳥取県	43	3.72	43	3.63	38	3.81

※各県全体順位より5位以上高い／5位以上低い

※1 国土交通省(2021年)『地域との関わりについてのアンケート』https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/content/001391466.pdf
関係人口の累計の詳細もこちらを参照。

【図２】在住都道府県別離脱意向

	全体		男性・30代以下		男性・40～50代		男性・60代以上		女性・30代以下		女性・40～50代		女性・60代以上	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全体		3.47		3.91		3.41		2.87		3.72		3.43		2.90
山梨県	1	3.89	3	4.19	6	3.80	3	3.42	17	3.83	2	4.00	1	3.88
青森県	2	3.80	7	4.16	2	3.98	38	2.60	1	4.30	7	3.79	18	2.92
茨城県	3	3.75	2	4.30	9	3.59	4	3.40	4	4.09	36	3.24	2	3.70
栃木県	4	3.70	30	3.84	21	3.49	4	3.40	20	3.80	4	3.88	3	3.62
徳島県	5	3.69	6	4.17	15	3.52	12	3.05	3	4.10	8	3.75	34	2.73
山形県	6	3.65	7	4.16	13	3.54	16	2.95	6	4.04	14	3.66	35	2.70
秋田県	6	3.65	29	3.86	5	3.81	34	2.65	10	3.92	3	3.92	27	2.80
滋賀県	8	3.63	15	4.06	3	3.86	23	2.83	17	3.83	21	3.44	9	3.12
千葉県	9	3.61	13	4.09	42	3.05	1	3.62	7	4.01	17	3.59	16	3.00
熊本県	9	3.61	19	4.01	38	3.19	4	3.40	11	3.90	11	3.74	14	3.02
埼玉県	9	3.61	15	4.06	10	3.56	19	2.90	28	3.69	8	3.75	12	3.10
石川県	12	3.58	11	4.14	13	3.54	14	2.98	14	3.85	32	3.31	9	3.12
岐阜県	12	3.58	18	4.04	28	3.34	13	3.02	22	3.75	5	3.81	25	2.88
鹿児島県	14	3.57	14	4.08	24	3.44	36	2.62	11	3.90	11	3.74	29	2.77
佐賀県	14	3.57	10	4.15	26	3.38	24	2.80	26	3.73	8	3.75	20	2.90
長崎県	16	3.56	15	4.06	4	3.84	22	2.85	28	3.69	26	3.39	31	2.75
福井県	17	3.54	21	4.00	17	3.50	10	3.17	2	4.16	43	3.00	18	2.92
山口県	17	3.54	22	3.96	41	3.08	7	3.27	14	3.85	13	3.71	20	2.90
岩手県	19	3.53	24	3.91	17	3.50	38	2.60	8	3.99	27	3.38	8	3.17
高知県	20	3.52	7	4.16	36	3.23	8	3.25	17	3.83	33	3.30	20	2.90
和歌山県	20	3.52	3	4.19	8	3.61	40	2.55	39	3.45	23	3.41	6	3.27
東京都	22	3.50	1	4.35	28	3.34	16	2.95	9	3.98	38	3.17	46	2.33
京都府	22	3.50	42	3.58	31	3.33	29	2.73	13	3.86	5	3.81	9	3.12
大分県	22	3.50	32	3.80	16	3.51	19	2.90	20	3.80	16	3.60	38	2.65
福島県	22	3.50	12	4.12	7	3.66	18	2.92	37	3.51	19	3.54	45	2.40
群馬県	26	3.46	43	3.56	1	3.99	2	3.50	42	3.34	31	3.34	41	2.60
宮崎県	27	3.45	25	3.90	21	3.49	44	2.45	28	3.69	20	3.50	20	2.90
奈良県	27	3.45	22	3.96	35	3.24	19	2.90	32	3.64	34	3.29	4	3.35
大阪府	29	3.44	3	4.19	26	3.38	27	2.75	31	3.67	37	3.21	35	2.70
神奈川県	30	3.41	37	3.73	32	3.29	9	3.23	22	3.75	34	3.29	31	2.75
長野県	31	3.40	41	3.62	23	3.46	11	3.10	44	3.30	18	3.55	13	3.05
愛媛県	32	3.38	19	4.01	39	3.14	27	2.75	40	3.42	23	3.41	14	3.02
新潟県	33	3.37	32	3.80	33	3.27	32	2.70	43	3.31	21	3.44	5	3.30
鳥取県	34	3.36	34	3.77	24	3.44	36	2.62	26	3.73	29	3.35	44	2.42
広島県	35	3.33	27	3.89	10	3.56	40	2.55	14	3.85	44	2.83	43	2.48
愛知県	35	3.33	39	3.65	12	3.55	33	2.67	36	3.54	38	3.17	26	2.83
富山県	37	3.31	46	3.42	37	3.21	14	2.98	41	3.39	15	3.61	20	2.90
島根県	37	3.31	44	3.54	47	2.85	29	2.73	47	3.19	1	4.01	7	3.23
三重県	39	3.30	31	3.83	34	3.26	29	2.73	34	3.59	40	3.11	35	2.70
岡山県	40	3.29	40	3.64	28	3.34	45	2.35	37	3.51	27	3.38	27	2.80
香川県	40	3.29	36	3.74	17	3.50	45	2.35	45	3.27	25	3.40	31	2.75
兵庫県	42	3.28	28	3.88	45	2.95	24	2.80	5	4.08	46	2.77	39	2.62
宮城県	43	3.27	35	3.76	42	3.05	26	2.77	33	3.60	42	3.05	17	2.95
福岡県	44	3.19	38	3.67	17	3.50	47	2.33	22	3.75	45	2.80	47	2.10
沖縄県	45	3.18	45	3.51	40	3.10	34	2.65	35	3.58	40	3.11	42	2.58
北海道	46	3.14	25	3.90	44	2.99	42	2.52	25	3.74	47	2.51	39	2.62
静岡県	47	3.11	47	3.39	46	2.94	43	2.50	46	3.25	29	3.35	29	2.77

※各県全体順位より５位以上高い／５位以上低い

る」と地元へのUターン非意向を表明する層では、「ふるさと納税」以外は多くても20% 台前半とふるわず、訪問系の関係にはあまり積極的とは言えない。

関係人口としての関わり方とUターン意向との関係を確認すると、「二拠点生活」と「ワーケーション」では相関係数0.6以上の強い相関関係がみられる。一方で、「ふるさと納税」や「地域のボランティア活動」、「まちおこしプロジェクトへの参加」は相関係数が±0.1台であり、Uターン意向との相関はほとんどない。つまり、スポット参戦のような形での地元への関係意向とUターン意向は無関係である。むろん、これらの関係が地域の活性化に寄与しないというわけではない。だが仮にUターン促進につなげる戦略として関係人口を位置づけるとすれば、なんらか地元での暮らしを伴う方法を提案するほうが良さそうだということだ。

3. 在住者の離脱意向

次に人口の流出の側面に注目し、各都道府県の在住者の離脱（移住）意向を確認する。調査は、47都道府県の18歳から69歳の男女を対象に実施し、各都道府県から性・年代別を均等に400サンプル、全体で18800サンプルを回収した。

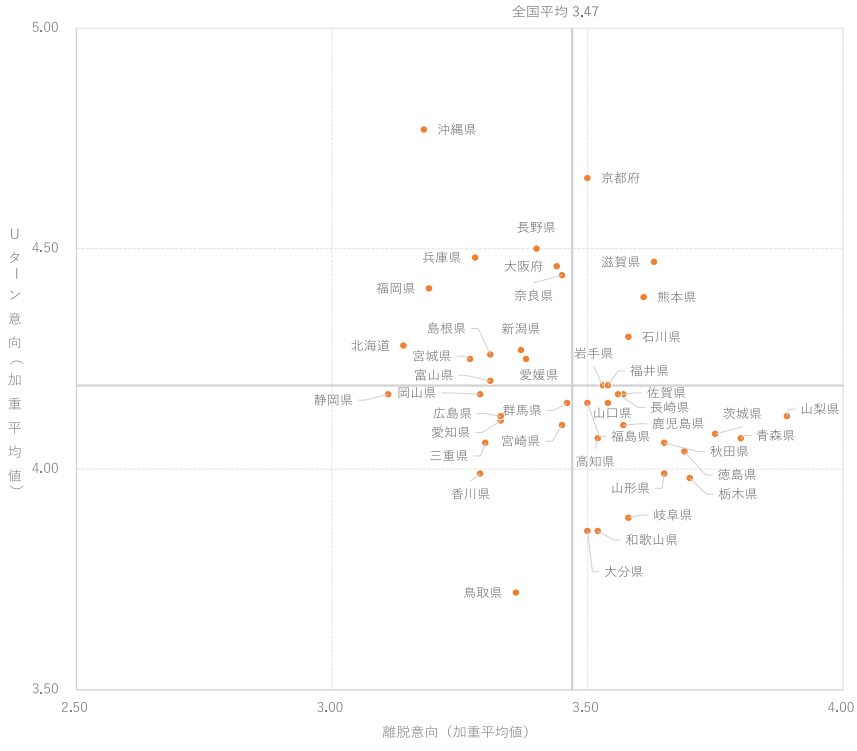
今住んでいる都道府県からどの程度出たいか（移住したいか）を7段階で尋ねた結果、「ぜひ出たい（移住したい）」が7.6%、「出たい（移住したい）」が6.3%、「どちらかと言えば出たい（移住したい）」が11.9%となり、全体では今住んでいる都道府県から離脱する移住意向は25.8%となった。離脱意向率は男女差が小さく、年齢による差が大きい。30代以下では男性34.8%・女性32.4%、40～50代は男性22.7%・女性24.6%、60代以上では男性14.1%・女性14.7%、と男女とも年代が上がるに連れて離脱する意向は少なくなる。

7段階で尋ねた在住者の離脱意向の加重平均を算出し、高い順に都道府県を並べたのが図2である。もっとも離脱意向が高い山梨県（32.5%）ともっとも低い静岡県（16.5%）とでは、離脱意向率で2倍近い開きがある。離脱意向が低い位置には、北海道、宮城県、福岡県のような地域ブロックの中心地のほか、静岡県や瀬戸内海を囲む県（兵庫県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県）など比較的温暖な地域がかたまっている。

地方創生政策の主要ターゲットでもあり、相対的に流動性の高い30代以下の若年層の離脱率を都道府県別にみてみる。男性では東京都の離脱意向がもっとも高いが、これには地方出身者のUターン意向や住宅取得のための郊外化の影響もあると思われる。東京都を除けば、2位に茨城県、次いで山梨県、和歌山県、大阪府が同率3位で並ぶ。女性の30代以下では、1位青森県、2位福井県、3位徳島県、4位茨城県、5位兵庫県と続く。福井県と兵庫県は全体でみると離脱意向が高いほうではないが、30代以下の女性に限るとトップ5にランクされる。

離脱意向とUターン意向の加重平均との相関関係を表したのが図3である。相関係数は－0.295となり、さほど強い関係とは言えないものの、Uターン意向と離脱意向は緩やかな逆相関の関係にあることが分かる。つまり、地元を離れたいと思っている人が多い地域では東京圏からUターンしたいと思う若者は少なく、地元を離れたいと思う人が少ない地域ほど東京圏へ出た若者がUターンを希望する、という関係である。都道府県レベルで社会減を押し止め人口を維持しようとする潜在的な力、東京一極集中傾向を緩和する力が存在することが想定できる。

【図3】離脱意向×Uターン意向



2章／ファクターXとしての寛容

1. 地方創生のファクターX

さて、ここまではUターン意向と離脱意向にフォーカスして都道府県別の人口の定着力について整理した。地方創生政策の総合戦略では、一丁目一番地の基本目標として「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」が掲げられているが、東京へ出た若者のUターン意向と在住者の離脱意向のランキング結果を、雇用や所得などの経済的指標で単純に説明することはできない（42p～43p）。

たとえば、有効求人倍率や失業率の低さ、1人あたり県民所得では47都道府県の中で最下位の沖縄県は、Uターン意向では圧倒的な1位である。沖縄県以外でUターン意向トップ10内に並んだ近畿圏、福岡県、長野県、熊本県、北海道はいずれも、雇用の面でも所得の面でもむしろワーストクラスである。愛知県は、有効求人倍率と完全失業率の低さは全国で4位、1人あたり県民所得は2位と、経済の面では全国トップクラスの成績を誇るが、Uターン意向は28位とそこそこの位置にしかない。また北陸3県は、有効求人倍率や完全失業率の低さでトップ10内、富山県と福井県では1人あたり県民所得もトップ10内に位置するにもかかわらず、Uターン意向はトップ10圏内には届かず、離脱意向も全国的にみて低いわけではない。

福井県は、日本総合研究所が2年毎に発表する「都道府県幸福度ランキング」[※2]で2014年版から2020年版まで4回連続で幸福度1位に選ばれている。幸福度を算出する指標の中で教育と仕事の分野での高得点が総合順位の高さにつながっている。女性の働く環境の良さを示す就業率、正規雇用率、共働き世帯率は全国1、2位を争うレベルで高く、加えて合計特殊出生率も全国トップクラスを維持している。

このように女性の社会進出と出生率の両立という少子化対策の模範解答のような状況は、しばしば福井モデルと称賛される。行政の充実した子育て支援策に加えて、広い持ち家での二世代・三世代同居や近居で祖父母による支援が期待できる生活環境によって福井モデルが支えられている、というのが一般的な理解だ。ところが、福井モデルのパラドックスと言うべきか、東京圏に在住する福井県出身の30代以下の女性のUターン意向は全国39位、県内在住の30代以下の女性の離脱意向は全国2位と、若い女性は福井県を離れたがっている。

このような、地方創生議論で中心的な課題として認識されている経済的な指標では説明しきれない隠れた人口流出の要因を、本プロジェクトでは地方創生のファクターXと呼んでいる。

東京圏在住の18歳～39歳の地方出身者男女で出身地へのUターンしたくない意思を表明する者が、Uターンしたくない理由としてもっとも多く回答したのは「東京圏の暮らしが気に入っているから」（51.0%）で、これは「やりたい仕事が少ないから」（43.9%）や「収入が下がって生活レベルが下がるから」（27.4%）を上回っている。他に、経済面以外の要因で非Uターン意向理由として多く選ばれたのは、「買い物など生活利便性が低いから」（41.3%）と「人間関係が閉鎖的だから」（23.5%）である（58p）。

2. 地方の空気を測る

序章でも述べたように、本プロジェクトでは地方創生のファクターXとして、父権主義的な性格の強い保守的な規範や狭い人間関係による同調圧力など、地方の不寛容な空気の存在を仮説として検討した。

そこで本プロジェクトでは、47都道府県の在住者に対して、居住する地域社会の寛容性を評価してもらう調査を実施した。具体的には、プレ調査の結果を主成分分析で集約した「女性の生き方」「家族のあり方」「若者への信頼」「少数派の包摂」「個人主義」「変化の受容」という6つの分野を設定して、それぞれ個人を重視する自由主義的な項目を4つ、伝統的な規範や集団を重視する保守主義的な項目を4つ、全部で48項目の状況について、地域社会や自分の周囲の人たちについてあてはまる程度を4段階で尋ねた（図4）。

自分自身の価値観や信じる規範がどうかではなく、あくまで地域の実情がどのように見えているかを問うものであり、地域の空気を可視化する試みとも言える。

3. 47都道府県寛容性ランキング

各分野の回答を得点化し都道府県によるばらつきを偏差値化し、6分野の平均偏差値で都道府県別の寛容性を順位付けしたのが図5である。

総合指標の寛容度ランキングは、東京都の1位をはじめ、神奈川県、埼玉県、千葉県もトップ5に入り、東京圏の圧倒的な寛容性が明らかになった。東京圏以外では大阪府、兵庫県、北海道、

【図4】地域の寛容性指標

女性の生き方	少数派の包摂
1 この地域では女性向けの求人は補助的な仕事ばかりだ	1 生活保護を受けるのは恥ずかしいと思う人が多い
2 女性は家庭や子育てを最優先するべきだと考える人が多い	2 外国人労働者や留学生に対して悪いイメージを持つ人が多い
3 出世したり責任ある立場に就くことを望まない女性が多い	3 相手の出自（出身地や家柄など）を気にする人が多い
4 結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い	4 同性愛者など性的少数派は生きづらい地域だ
5 古い考え方に縛られないで自由に生きている女性が多い	5 まちづくりや公共空間でのバリアフリー化が進んでいる
6 政治や経済の場面で活躍している女性が多い	6 人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い
7 女性の頑張りを積極的に応援する社会の空気がある	7 ひとり親の子どもでも肩身の狭い思いをすることはない
8 自分の意見や考えを堂々と主張する女性が多い	8 国籍や人種に関係なく外国人も地域住民の一員として受け入れられている
家族のあり方	**個人主義**
1 年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方が強い	1 他人の噂話が好きな人が多い
2 結婚した夫婦は男の子を産むことを期待される	2 世間体を大事にして生きる人が多い
3 子が年老いた親の面倒をみるのが当たり前という考え方をする人が多い	3 場の空気を読まず己の主張をしがちな人はうとまれる
4 血縁者、親戚関係には何かと気を使わなければいけない	4 普通であること、みんなと同じであることを求める人が多い
5 選択的夫婦別姓に賛成する人が多い	5 他人の目を気にせず我が道を行くが多い
6 家事や育児に積極的な男性が多い	6 他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある
7 結婚しないで独身で生きても肩身の狭い思いをすることはない	7 個性的なファッションを楽しむ人が多い
8 子どもの人生にあまり干渉しない親が多い	8 一人一人の個性や価値観はなにより尊重される
若者信頼	**変化の受容**
1 若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある	1 穏やかで安定した毎日こそが幸せだと考える人が多い
2 なにかにつけ若者が批判のまとになる	2 成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある
3 先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い	3 成果や結果よりも真面目にコツコツ努力することが尊重される
4 年功序列を当然のことだと考える企業・団体が多い	4 長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い
5 政治や経済の場面で活躍している若者が多い地域である	5 新しい流行をすぐに取り入れる人が多い
6 若者の生意気や失敗は大目に見る風潮がある	6 リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される
7 若者の挑戦を応援する気風がある	7 多少の格差が出るとしても、経済成長のほうが大切だと考える風潮がある
8 地域の将来を担う力として若者が信頼されている	8 人間関係のしがらみにとらわれずドライに行動する人が多い

福岡県が続く。

総じて100万人超の人口規模を有する政令指定都市を中心とする道府県が上位に顔を揃えるなか、県庁所在地の那覇市の人口が約32万人、県全体でも人口150万人に満たない沖縄県の9位が目を引く。高知県も高知市の人口は約33万人、県全体で人口約70万人と、人口規模では下から数えて3番目の小さな県ながら12位にランクした。高知県は60代以上でさらに寛容性評価が高く、男性で5位、女性で7位となっている。また、上位の大都市圏も必ずしも人口規模にしたがって並んでいるわけではない。たとえば、東京23区、横浜市、大阪市に次ぐ約230万人の人口を誇る名古屋市のある愛知県は「少数派の包摂」がやや足を引っ張る形となり、総合で13位と人口規模ほどの順位にはならなかった。

設定した6つの分野は互いに相関が高く、総合順位の高い地域は各分野の順位も概ね高くなる傾向にあるが、総合9位の沖縄県は、「家族のあり方」では33位と保守的な傾向がみられ、「変化の受容」も14位と少しランクを下げている。総合12位と健闘した高知県は、地元で「はちきん」と呼ばれる男勝りの女性が多いと言われる県民性のとおりか、「女性の生き方」が6位に食い込んだ。他には総合16位の滋賀県は「若者への信頼」では10位に入り、隣の京都府を上回った。

反対に総合指標の下位に目をやると、宮城県以外の東北5県がすべて総合指標で40位以下に顔を揃える結果となった。また北陸3県と甲信越3県も全体的に低位に位置し、6県のうち5県が35位（石川県）から39位（長野県）の間に並び、富山県がさらに落ちて45位である。

4. 寛容性は地方創生のファクターXなのか

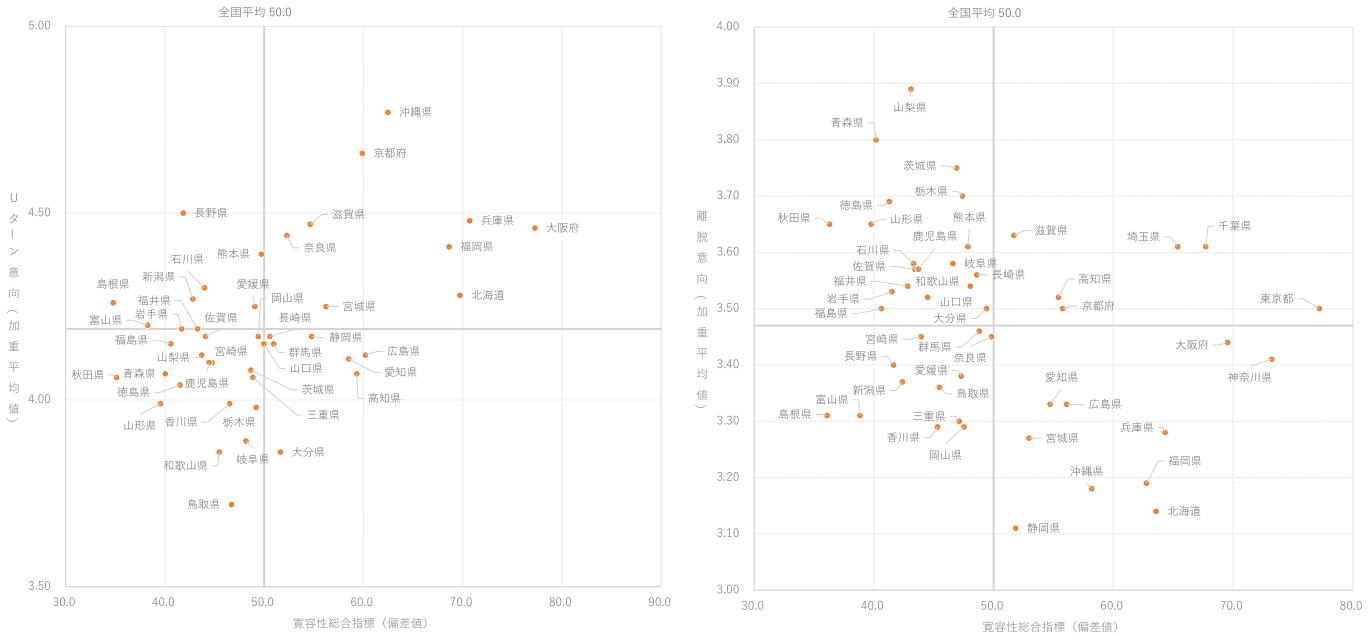
寛容性は地方創生のファクターXなのか、人口の社会減の要因

※2「人口増加率」「一人あたり県民所得」「国政選挙投票率」「食糧自給率」「財政健全度」の5つの基本指標と、幸福度を評価する尺度として「健康」「文化」「仕事」「生活」「教育」の5分野・50指標に各回の追加指標を加えた計75指標で、公的統計をもとに都道府県別の「幸福度ランキング」を算出。

【図 5】都道府県別寛容性ランキング

	寛容性総合指標		女性の生き方		家族のあり方		若者信頼		少数派包摂		個人主義		変化の受容	
	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値
東京都	1	77.2	1	80.7	1	79.6	2	70.9	1	74.6	1	77.3	1	80.2
神奈川県	2	73.2	2	72.6	2	73.3	1	75.1	2	70.4	2	73.9	2	74.1
大阪府	3	69.5	3	70.8	4	68.8	4	68.3	4	69.6	3	68.9	3	71.0
千葉県	4	67.7	4	66.2	3	70.3	2	70.9	5	66.3	4	66.9	4	65.7
埼玉県	5	65.4	7	63.3	4	68.8	5	67.3	6	64.1	5	66.4	8	62.4
兵庫県	6	64.3	5	64.9	6	66.0	6	65.4	9	63.0	7	63.1	7	63.6
北海道	7	63.6	9	60.2	7	65.3	7	64.3	6	64.1	8	62.8	6	64.9
福岡県	8	62.8	8	62.2	8	59.1	9	60.9	8	64.0	6	65.1	5	65.4
沖縄県	9	58.2	10	59.7	33	44.0	8	61.8	3	69.9	9	60.6	14	53.1
広島県	10	56.1	12	56.9	10	55.5	11	56.0	10	57.0	10	55.7	11	55.5
京都府	11	55.8	11	57.3	9	57.0	14	54.4	15	53.1	11	55.1	9	57.7
高知県	12	55.4	6	64.0	15	51.7	15	52.7	11	54.5	12	54.3	12	55.2
愛知県	13	54.7	13	55.3	11	55.3	13	55.0	17	52.2	13	53.6	10	56.8
宮城県	14	53.0	14	52.3	12	53.3	16	50.9	16	52.9	14	53.4	13	55.0
静岡県	15	51.8	21	47.4	13	52.3	12	55.6	13	54.2	18	50.1	15	51.4
滋賀県	16	51.7	16	49.8	14	51.8	10	56.5	18	50.2	15	52.3	18	49.4
奈良県	17	49.8	20	47.6	16	51.1	16	50.9	20	48.8	16	51.6	19	49.1
大分県	18	49.4	23	47.0	19	49.1	30	46.3	11	54.5	19	50.1	17	49.4
群馬県	19	48.8	15	51.7	18	49.1	24	47.4	20	48.8	24	47.8	24	48.0
長崎県	20	48.6	25	46.4	26	46.6	27	46.7	14	54.1	21	49.1	21	48.6
山口県	21	48.0	18	48.3	22	48.7	23	47.8	19	49.9	27	47.0	27	46.5
熊本県	22	47.8	27	45.8	27	46.2	33	45.0	22	47.8	17	51.1	16	51.2
岡山県	23	47.5	24	46.7	23	48.6	21	48.0	34	43.1	20	49.6	19	49.1
栃木県	24	47.4	21	47.4	24	47.3	19	48.8	28	45.8	27	47.0	22	48.1
愛媛県	25	47.3	26	46.1	19	49.1	25	47.1	22	47.8	26	47.1	26	46.6
三重県	26	47.1	28	45.1	19	49.1	18	50.7	30	45.5	29	46.3	28	46.1
茨城県	27	46.9	29	44.9	17	49.2	20	48.2	38	42.1	22	48.9	22	48.1
岐阜県	28	46.6	29	44.9	25	46.9	21	48.0	31	44.8	23	48.3	25	46.6
鳥取県	29	45.5	32	44.8	29	45.6	25	47.1	22	47.8	34	43.3	30	44.5
香川県	30	45.3	31	44.8	31	44.8	29	46.5	32	44.6	30	45.5	29	45.7
和歌山県	31	44.5	40	42.3	30	45.4	28	46.5	32	44.6	32	43.7	31	44.3
宮崎県	32	43.9	43	40.9	28	45.9	31	46.1	25	47.1	35	43.1	43	40.4
鹿児島県	33	43.7	35	43.1	43	41.1	37	41.0	27	45.9	25	47.4	32	43.8
佐賀県	34	43.4	36	43.0	34	42.8	38	40.6	25	47.1	31	45.0	38	42.0
石川県	35	43.3	37	42.6	34	42.8	34	44.8	37	42.3	32	43.7	33	43.7
山梨県	36	43.1	33	43.9	32	44.6	39	40.1	29	45.6	39	41.0	35	43.3
福井県	37	42.8	17	48.6	45	38.4	35	44.2	36	42.6	41	40.4	36	42.5
新潟県	38	42.4	41	42.0	36	42.5	32	45.7	39	41.6	39	41.0	40	41.4
長野県	39	41.6	37	42.6	38	42.2	40	39.9	35	43.1	42	40.2	39	41.9
岩手県	40	41.5	39	42.4	40	41.3	36	41.2	40	41.5	37	41.9	41	40.7
徳島県	41	41.3	19	47.9	39	42.1	42	39.3	47	34.9	43	40.1	34	43.5
福島県	42	40.6	44	39.7	40	41.3	44	38.4	43	39.0	36	42.7	36	42.5
青森県	43	40.2	42	41.4	37	42.4	45	37.2	41	40.7	38	41.5	45	37.9
山形県	44	39.8	34	43.6	42	41.2	43	38.7	45	36.0	45	39.6	44	39.4
富山県	45	38.8	45	39.6	47	35.5	41	39.9	44	37.7	44	39.7	42	40.6
秋田県	46	36.3	47	35.3	44	39.2	47	34.6	46	35.4	46	35.4	45	37.9
島根県	47	36.1	46	36.0	46	37.8	45	37.2	42	39.2	47	31.3	47	35.0

【図６−１】寛容性とＵターン・離脱意向の関係



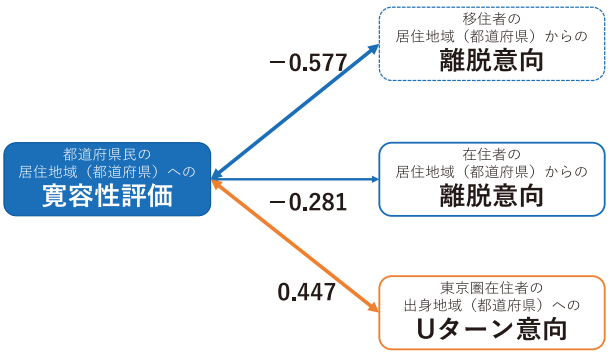
である離脱意向と東京圏からのＵターン意向との相関関係を確認してみよう。

結果は図６−１、６−２のとおり、その都道府県に住む人が感じている地域の寛容性と東京圏に住む出身者のＵターン意向との相関係数は0.447、在住者の離脱意向との相関係数は−0.281となった。±0.4を十分な相関関係にあることの目安と考えれば、地域の寛容性は、Ｕターン意向と十分な相関関係にあると言える。離脱意向との相関係数はやや小さいが、個人属性の影響を統制した回帰分析で確認したところ、寛容性が在住者の離脱意向を下げる効果は統計的に0.1％水準で有意であると確認できている（108p～110p）。

つまり、在住者が地域社会を寛容だと感じているほど東京圏へ出ていった若者のＵターン意向は高くなり、また在住者の離脱意向は下がる、ということだ。

ところで、どの都道府県の在住者の中にも、進学や仕事の関係で他の都道府県から移り住んで来た人が一定数いる。彼らはもともと地域間移住を経験していることから、相対的に流動性の高い層、すなわち離脱しやすいグループと考えられる。そこで各都道府県在住者の中から別の都道府県出身者を移住者として抽出し、移住者の離脱意向と地域の寛容性（都道府県の平均値）の相関を確かめた。すると相関係数−0.577と逆相関がとても強く、地域の寛容性は他所からの移住者をその地域に定着させる大きな効果を持つということが判明した。地方出身の若者が「東京圏の暮らしが気に入っている」ことを理由に地元へのＵターンを考えない大きな要因として、東京圏の飛び抜けた寛容さが影響して

【図６−２】寛容性とＵターン意向、離脱意向の相関係数



いるものと推察される。

以上のように、寛容性は地方創生のファクターＸなのか、という問いの答えは明白だ。地域社会の寛容性は住民をその地域へ留め、東京圏へ転出した若者を呼び戻す力を持つ。寛容性は、地方創生戦略を考えるうえで重要な指標として認識されるべきである。

ここで言う寛容性とは、平たく言えば一人ひとりの価値観や生き方の違いを尊重する自由主義的な風潮である。たとえば、女性の自律的な生き方を認め結婚や出産を押し付けず、家庭においては夫婦で平等に家事を分担し、若者の失敗は大目に見て、LGBTや外国人、障害者等の少数派にも配慮があって、リスクを取って挑戦する人をリスペクトする。そんな寛容な地域では人が定着し、一度都会に出ていった若者もＵターンで帰って来る。

反対に、強い立場にある者が弱い立場の者へ古い価値観を押し付け、自分たちとは異なる考え方や習慣を異物として排除し、和が乱れることを恐れ出る杭は打つ。そのような権威主義的、集団主義的な倫理観で個人を統制する不寛容な地域からは若い人は逃げ出してしまう。若者が東京に出ていくばかりで地元へ戻って来ないと嘆く地域では、思い当たるフシがないだろうか。

社会デザイン研究家の三浦展氏が、自身で手がけた「現代日本人の意識と価値観調査」（2020年11月）と三菱総研の「生活者市場予測システム（mif）」（2020年6月）の2つの調査をもとに、移住希望者の意識と価値観の特徴を分析した結果もLIFULL HOME'S 総研の調査が明らかにした、家父長主義的で保守的な価値観の寛容性の低さが離脱意向を高めるという結果を裏付けるものである（214p ～229p）。

三浦氏の分析によれば、移住を希望する女性は、「結婚しなくても幸せに生きられる社会にするべきだ」「LGBTの差別をなくすべきだ」「夫婦別姓でもよいようにするべきだ」「女性がもっと有利な条件・高い年収で働ける社会にするべきだ」など、女性の生き方の自由や平等を求める意識が「あきらかに」強いことが確認できる。定住促進にしろ移住支援にしろ、人口減少対策のターゲットになる女性は、地元定住志向の男性よりもはるかにジェンダーフリーの価値観が強いことを前提としなければならない。

三浦氏はさらに、東京圏と地方圏それぞれの女性が移住を考える理由が違うことも明らかにしており、東京圏在住で移住を希望する女性の価値観が興味深い。東京圏在住で移住希望の女性は、プロフィールとしては高学歴・正規雇用・高年収が多いものの、近代主義的・競争主義的な価値観の東京の生活に疲れている、あるいは疑問を持っている傾向があるのだそうだ。彼女たちはシェアリングエコノミーやエコロジーを好む傾向が強く、自然や歴史や文化に関心が高い。これらの傾向を踏まえて三浦氏は、東京をまねたスクラップアンドビルド型の都市開発では若者は地元に帰ってこないと指摘している。

3章 ／ Well-beingな地方創生

1. 幸福を測る

地方創生が目指すべき究極の価値は地域住民の幸福である、というのが本プロジェクトの基本的なスタンスである。今回実施した各都道府県調査では、LIFULL HOME'S 総研が『住宅幸福論』シリーズ（2018 ～2020年）でもテーマにしたWell-being（ウェルビーイング）という概念で、市民の主観的幸福を測定した。

主観的幸福とは個人に実感された幸福（Well-being）で、厳密にはSubjective Well-beingと呼ばれる。たとえば雇用、所得、格差、健康、教育、犯罪など社会の良好さを示す客観的な公的統計を指標にした幸福とは測定している次元が異なる。何が幸福の要素なのか、幸福の内実はあくまで個人の価値観に依存することになる。また、一時的な欲求充足的な喜びのニュアンスのあるHappinessよりも、時間的安定性と一貫性を持ち、精神的な豊かさも含めて良好な状態に居る実感に注目するのが、Well-beingである。

国連が発表している世界幸福度ランキング（『世界幸福報告（World Happiness Report）』）は、毎年順位ばかりが話題になるが、幸福度がどのように算出されているかは、あまり知られていない。同調査で測定される主観的幸福は、米ギャラップ社が実施する国際的な世論調査によってデータが集められる。アンケートでは、想像できる最高の人生を梯子の頂点（10点）、最低の人生を梯子の床（0点）として、自分の人生は何段目に位置するか10点満点で自己評価する。国別に約1000サンプルこのスコアを集め、平均した得点で幸福度ランキングが作成される。こうやって測定される幸福の尺度は、開発した社会学者ハドレー・キャントリルにちなんでキャントリルの梯子（キャントリル・ラダー）と呼ばれる。

今回、我々はこれと同じ人生評価（ラダー）に加えて、エウダイモニアと呼ばれる別の次元で測定される幸福観についても調査した。エウダイモニアはアリストテレスの哲学に由来する幸福の概念で、近年の幸福研究で注目されている。人生評価（ラダー）が快楽的・欲求充足的な満足度を反映するのに対して、エウダイモニアは自己実現的な“生きがい”に近い概念を重視した幸福感である。

実際には両者のデータの相関は高く、主観的な幸福感の中で密接な関係にあるものの、人生に対する価値観や幸福観が異なる場合、たとえば、先のことはいいから今日一日が楽しければよいと考える人と、高く掲げた人生の理想をストイックに追い求める人では、幸福の感じ方に乖離が生じる可能性がある。「満足した豚であるより、不満足な人間であるほうがよい。満足した馬鹿であ

【図 7】都道府県幸福度ランキング

	総合幸福度		人生評価（ラダー）		生きがい（エウダイモニア）		属性別の総合幸福度											
							男性・30代以下		男性・40～50代		男性・60代以上		女性・30代以下		女性・40～50代		女性・60代以上	
	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値	順位	加重平均値
全国平均		10.56		5.77		4.79		10.75		10.22		11.04		10.42		10.12		11.53
沖縄県	1	11.37	1	6.22	1	5.15	13	11.04	3	11.22	1	12.30	1	11.44	4	11.02	8	11.96
奈良県	2	11.15	3	6.11	2	5.05	3	11.56	7	10.81	7	11.78	23	10.40	1	11.33	25	11.53
兵庫県	3	11.00	4	6.02	4	4.98	37	10.42	6	10.82	16	11.23	2	11.34	5	10.92	16	11.73
滋賀県	4	10.92	2	6.17	28	4.75	24	10.72	1	11.27	28	10.98	7	11.14	19	10.25	31	11.41
神奈川県	5	10.88	7	5.91	5	4.97	8	11.16	5	10.83	29	10.96	16	10.67	12	10.44	20	11.58
和歌山県	6	10.86	5	5.99	15	4.87	7	11.17	30	9.92	6	11.92	10	10.90	17	10.35	6	12.03
千葉県	7	10.83	6	5.93	10	4.90	12	11.05	9	10.66	43	10.28	11	10.88	10	10.69	28	11.48
熊本県	8	10.77	18	5.78	3	4.99	21	10.84	34	9.87	18	11.18	18	10.63	2	11.05	17	11.71
宮崎県	9	10.74	8	5.86	14	4.88	3	11.56	34	9.87	44	10.14	3	11.33	28	10.00	15	11.76
北海道	10	10.70	18	5.78	6	4.92	10	11.10	17	10.46	31	10.93	43	9.73	8	10.79	10	11.89
京都府	11	10.68	14	5.81	15	4.87	20	10.91	2	11.24	9	11.58	19	10.60	37	9.78	47	10.15
佐賀県	12	10.66	24	5.76	10	4.90	32	10.57	13	10.54	30	10.95	31	10.09	18	10.27	2	12.67
東京都	12	10.66	28	5.74	6	4.92	9	11.12	33	9.89	2	12.12	9	11.01	44	9.19	5	12.06
鹿児島県	12	10.66	10	5.84	19	4.82	33	10.55	21	10.27	4	11.97	20	10.54	23	10.15	22	11.56
石川県	12	10.66	28	5.74	6	4.92	2	11.59	25	10.08	25	11.03	13	10.85	38	9.69	41	11.14
静岡県	16	10.65	24	5.76	12	4.89	16	10.95	39	9.84	5	11.93	21	10.51	29	9.98	6	12.03
大阪府	17	10.64	26	5.75	12	4.89	19	10.92	4	10.94	10	11.57	15	10.69	43	9.23	37	11.24
大分県	18	10.63	10	5.84	22	4.79	10	11.10	14	10.52	22	11.12	36	10.01	22	10.20	23	11.55
福井県	19	10.62	10	5.84	24	4.78	23	10.79	16	10.47	39	10.45	27	10.25	3	11.04	44	10.63
山口県	20	10.61	22	5.77	18	4.83	30	10.58	19	10.31	11	11.51	17	10.64	39	9.59	3	12.32
三重県	20	10.61	26	5.75	17	4.86	44	9.98	29	9.96	15	11.26	6	11.17	13	10.40	12	11.84
山梨県	22	10.58	16	5.79	22	4.79	30	10.58	15	10.51	12	11.42	12	10.86	41	9.55	34	11.34
島根県	23	10.57	8	5.86	31	4.71	6	11.21	42	9.78	41	10.33	14	10.76	30	9.96	8	11.96
新潟県	23	10.57	22	5.77	21	4.80	25	10.70	44	9.71	24	11.10	5	11.26	31	9.90	29	11.45
富山県	25	10.55	38	5.64	9	4.91	5	11.31	19	10.31	27	10.99	25	10.26	42	9.47	12	11.84
愛媛県	26	10.54	18	5.78	26	4.77	41	10.21	41	9.79	36	10.50	3	11.33	11	10.45	33	11.36
鳥取県	27	10.53	33	5.71	19	4.82	22	10.82	25	10.08	34	10.60	45	9.60	7	10.81	4	12.07
栃木県	27	10.53	13	5.82	31	4.71	25	10.70	43	9.72	32	10.79	23	10.40	9	10.74	32	11.38
岡山県	29	10.50	30	5.72	24	4.78	38	10.38	22	10.23	33	10.69	34	10.05	6	10.90	40	11.17
香川県	30	10.49	15	5.80	36	4.68	14	11.00	8	10.75	20	11.14	46	9.44	24	10.12	42	11.10
高知県	31	10.48	33	5.71	26	4.77	1	12.21	34	9.87	23	11.11	47	9.14	36	9.82	21	11.57
愛知県	32	10.47	16	5.79	36	4.68	27	10.64	28	10.00	46	9.97	8	11.05	35	9.85	18	11.67
長崎県	33	10.46	30	5.72	30	4.73	17	10.94	27	10.01	13	11.38	44	9.66	16	10.37	37	11.24
福島県	34	10.44	36	5.69	28	4.75	18	10.93	11	10.64	47	9.73	37	9.99	25	10.06	27	11.49
福岡県	35	10.40	18	5.78	41	4.62	35	10.53	18	10.37	35	10.59	35	10.03	34	9.86	11	11.85
長野県	35	10.40	33	5.71	34	4.69	43	10.09	9	10.66	42	10.29	22	10.47	14	10.38	45	10.53
広島県	37	10.38	30	5.72	39	4.66	15	10.98	45	9.35	14	11.32	42	9.88	14	10.38	36	11.32
青森県	38	10.36	37	5.68	36	4.68	27	10.64	47	9.10	3	11.99	31	10.09	21	10.22	23	11.55
群馬県	39	10.28	43	5.59	34	4.69	46	9.74	31	9.91	37	10.48	28	10.10	26	10.05	1	12.71
宮城県	40	10.23	39	5.63	43	4.60	45	9.85	34	9.87	17	11.22	39	9.96	19	10.25	39	11.19
岩手県	41	10.21	41	5.62	44	4.59	35	10.53	46	9.27	18	11.18	38	9.97	32	9.87	19	11.61
秋田県	41	10.21	47	5.50	31	4.71	38	10.38	23	10.20	45	10.12	41	9.91	26	10.05	43	10.94
徳島県	43	10.18	44	5.54	40	4.64	33	10.55	24	10.12	37	10.48	33	10.08	45	9.18	29	11.45
茨城県	44	10.16	44	5.54	41	4.62	29	10.60	38	9.85	20	11.14	28	10.10	46	8.94	26	11.52
岐阜県	44	10.16	39	5.63	46	4.53	40	10.33	32	9.90	26	11.02	28	10.10	32	9.87	46	10.19
埼玉県	46	10.15	41	5.62	46	4.53	47	9.69	12	10.56	8	11.70	25	10.26	47	8.71	34	11.34
山形県	47	10.12	44	5.54	45	4.58	42	10.12	40	9.82	40	10.44	40	9.94	40	9.58	12	11.84

るより、不満足なソクラテスであるほうがよい」とは、19世紀イギリスの哲学者ジョン・スチュアート・ミルの言葉であるが、エウダイモニアは「不満足なソクラテス」の幸福に光を当てる概念とも言える。

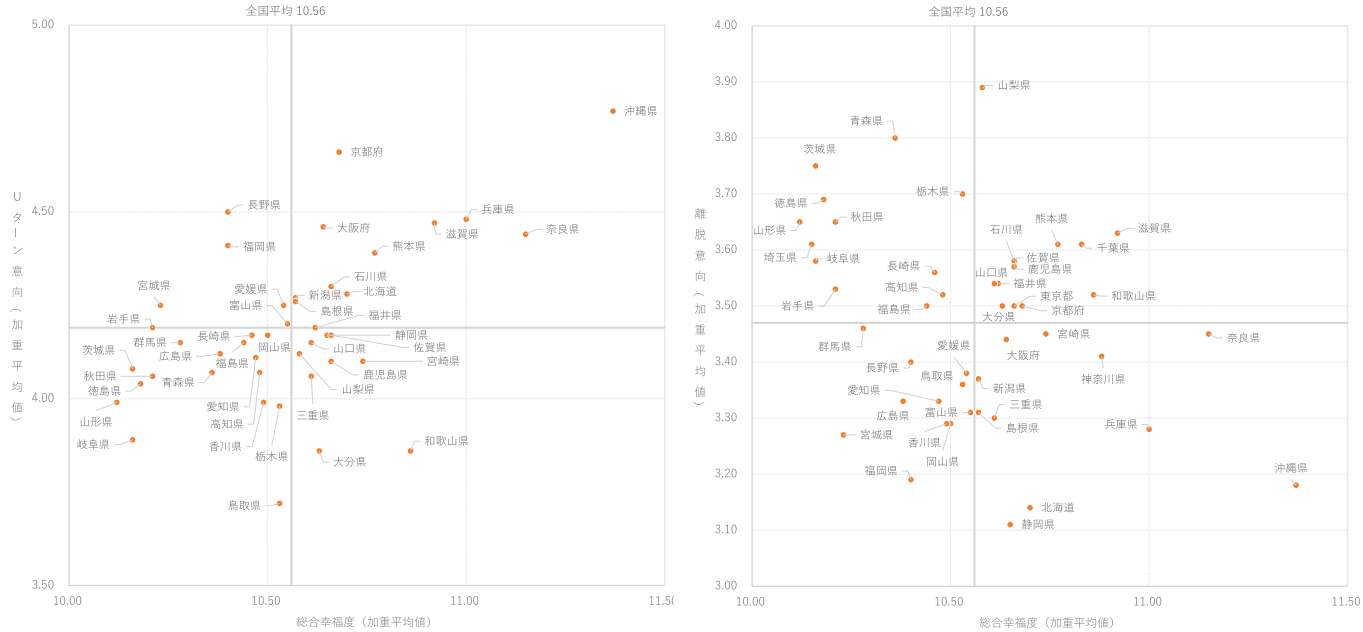
エウダイモニア（≒生きがい）に関しては、調査では「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」の3項目の現状について10点満点で自己評価を尋ねた。

2. 47都道府県Well-beingランキング

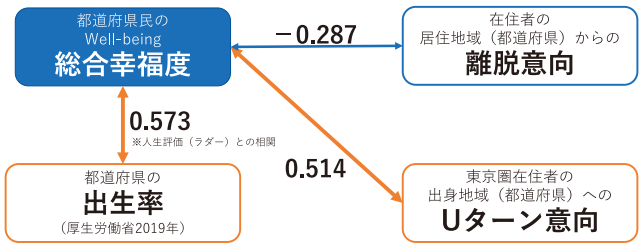
「人生評価（ラダー）」と「生きがい（エウダイモニア）」の得点からそれぞれ都道府県別に加重平均値を算出し、両スコアの合計値をWell-being指標「総合幸福度」として高い順に並べた（図7）。

総合幸福度が全国1位になったのは、「人生評価」と「生きがい」の両指標で1位を獲得した沖縄県だった。2位奈良県、3位兵庫

【図８−１】幸福度と人口指標の関係



【図８−２】幸福度と人口指標の相関係数



県、4位滋賀県、6位和歌山県、11位京都府と近畿圏の府県が上位を占め、5位と7位には東京圏から神奈川県と千葉県が入ったが、大阪府は17位、東京都は12位に留まっている。トップ10には、熊本県（8位）と宮崎県（9位）が入り、佐賀県と鹿児島県が同率12位、と九州地方は概ね上位に揃った中で福岡県は35位とふるわなかった。北日本からは唯一北海道が10位に入ったものの、東北地方の各県は軒並み下位となった。

「人生評価」と「生きがい」の関係についてみると、やはり相関は高いものの微妙な不一致はある。「人生評価」ではトップ10に入っている滋賀県（2位）、和歌山県（5位）、宮崎県、島根県（ともに8位）、鹿児島県、大分県、福井県（ともに10位）は、「生きがい」ではいずれもトップ10圏外で、「人生評価」＞「生きがい」型の幸福が形成されている。特に滋賀県と島根県はギャップが大きい。「生きがい」指標で上位の顔ぶれでは、熊本県（3位）、北海道（6位）、東京都（6位）、石川県（6位）、富山県（9位）、佐賀県（10位）が「生きがい」＞「人生評価」となっていて、「人生に満足はしていないが、生きがいは感じている」という人が多いと推察される。特に熊本県、東京都、石川県、富山県で、「人生評価」との乖離が大きい。

地方創生のメインターゲットである若年層の幸福度に注目してみると、全体でのランキングでは10位以内にはランクしなかったいくつかの県が上位に入り、全体で眺めるのとはやや異なる風景が見えてくる。

30代以下の男性では、1位が高知県、2位が石川県となるが、両県とも他の属性では10位以内には入らない。他には、富山県（5位）、島根県（6位）、東京都（9位）、大分県（10位）も、全体でのトップ10圏外から順位を大きく上げている。30代以下の女性では、愛媛県（3位）、新潟県（5位）、三重県（6位）、愛知県（8位）、東京都（9位）が、全体トップ10圏外から順位を上げて上位に並ぶ。30代以下の男性では1位だった高知県は、同年代の女性では47位と真逆の評価となっている。

ちなみに、東京都は男女とも30代以下と60代以上ではトップ10入りするが、40〜50代では男性33位、女性44位と中年期で大きく幸福度が下がっている。

3. Well-beingは地方創生の目標となりうるか

次に、Well-beingから地方創生を考えることの妥当性について確認するために、幸福度と人口移動（離脱意向とUターン意向）

との関係をみてみる。

散布図（図8–1）から、総合幸福度が高くなるほど明瞭にUターン意向が高くなる傾向がみて取れる。離脱意向にはややばらつきがあり、それでも緩やかな右肩下がりの傾向がある。相関係数を算出すると、総合幸福度とUターン意向は0.514であり、両指標の間に強い関係があることが確認できる。総合幸福度と離脱意向の相関係数は－0.287と単相関としてはやや弱いものの、回帰分析で確かめたところ、「人生評価（ラダー）」が離脱意向を低下させる効果は統計的に0.1% 水準で有意と認められる（109p）。つまり、その地域に住んでいる住民の幸福度が高い地域には、人口流出を抑制し、Uターンを呼び込む力がある、ということである。

考えてもみれば当たり前のシンプルな話である。その地に住んで幸福を実感している人は、わざわざ他所へ移り住む動機を持ちにくいし（もちろんさらに上を目指しての移住はあり得るし、それは抑制されるべきものではない）、住んでいる人が不幸せそうな地域にUターンしたいと思う人はいない（もちろん自分が地域を立て直すという奇特な志を持つ人はいるし、それは称賛に値する）。

さらに、地域のWell-beingと出生率の関係を、厚生労働省のデータで確認してみた（図8–2）。結果は、総合幸福度と出生率は相関係数にして0.573の強い相関関係にあることが分かった。回帰分析で個人属性や所得など他の要因を統制して確認しても、Well-beingは出生率と統計的に有意な相関があると認められる（98p）。幸福だから子どもが生まれるのか、子どもが生まれるから幸福なのかの因果関係は分からないが、幸福な地域では出生率が高いという事実は大きい。

このことは、地方創生の戦略として今住んでいる住民のWell-beingの最大化を掲げることが、地方創生政策が取り組んできた諸々の人口減少対策とも矛盾しないことを意味する。そればかりか、あたかも生活習慣の改善による健康増進のように、長期的かつ根本的な戦略として効果的である可能性を示唆している。

4. Well-being政策の重点領域

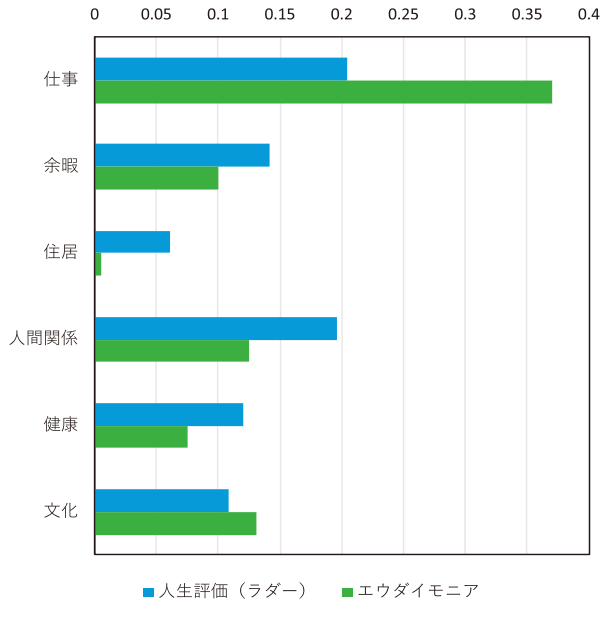
次に、地域社会のどんな要素がWell-beingを向上させるのか、アンケートで別途質問した生活領域に対する10点満点での満足度を説明変数として、回帰分析でWell-beingへの影響度を確かめてみた（図9）。調べた生活領域は、「仕事」、「余暇」、「住居」、「人間関係」（「友人・知人との人間関係」と「家族・親戚・パートナーとの関係」の2項目の値の平均値）、「健康状態」、「地域の文化的水準」の6つ。それぞれの生活領域によって「人生評価（ラダー）」と「生きがい（エウダイモニア）」で影響度が異なる可能性があるので、ここでは総合幸福度ではなく両者を別に計算をした（104p）。

結果は図9にあるように、「住居」を除くすべての領域の満足度はWell-beingへ影響していることが分かる。「人生評価（ラダー）」に影響が強いのは「人間関係」と「仕事」、次が「余暇」という順である。「生きがい（エウダイモニア）」は、「仕事」の満足度の影響が群を抜いて強く、「地域の文化的水準」と「人間関係」が続く形である。

「住居」についての満足度は、他の領域に比べると相対的に影響度が小さく、「人生評価（ラダー）」をやや高めているが、「生きがい（エウダイモニア）」に関しては影響がみられない。住宅に対する満足度は、年齢や結婚、所得による住居形態の違い（持ち家か賃貸か等）の影響が大きいため、個人の属性などの他の要因を統制された（影響を排した）分析では、幸福度への影響度が小さくなるためと思われる。

ただし、「住居」の満足度は離脱意向を下げる効果があることは確認されている（109p～110p）。住居（＝ハコ）に限定せず住生活のレベルでみれば、住生活の満足度と人生満足度は高い相関にあることも分かっている（LIFULL HOME'S 総研（2020）『住宅幸福論Episode3』）。住生活の満足度は、インテリアへのこだわりなどの住まい方や地域コミュニティとの関係などソフト面の影響も強く、ハード面の評価は住生活の満足度の一部に過ぎない。今回の調査設計では選択肢のレベル感を揃えるためにハコ単体の満足度を尋ねたことで、Well-beingへの影響が小さくなった

【図9】Well-beingに対する生活領域の影響度（標準化係数）



可能性もある。今後の研究課題としたい。

少しまとめておくと、住民のWell-beingの実感には、仕事への満足度と人間関係への満足度が強く影響する。ということはつまり、地方創生政策において雇用の創出やまちづくりを重視することは妥当な戦略である。ただし、その雇用は満足度が高い魅力的な仕事であることが大切である。

その他には、余暇や文化水準への満足度もWell-beingへの貢献度が小さくない、ということは重要な発見ではないか。

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が作成した「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「若年層における東京圏・地方圏移動に関する意識調査」（2019年）のデータを引用し、若者が東京に集まる要因として、「やりがいのある仕事」に次いで、「娯楽・レジャー・文化・芸術等に触れる機会の多さ」があると分析されている。ところが、地方創生戦略として娯楽・レジャーや芸術・文化に着目している地域は少ない。地方版総合戦略の中では余暇や文化はほとんど言及されないか、言及されても観光資源として扱われているか、障害者福祉としてのケースがほとんどである。地方創生は、娯楽・レジャーや芸術・文化にもっと注意を払うべきだろう。これらは人々のWell-beingに必要不可欠なものである。

ちなみに今回の調査で、余暇の満足度の高さと文化水準の満足度の高さの両方でトップ10入りしたのは、順不同で、沖縄県、神奈川県、奈良県、兵庫県、石川県の５県である（データ未掲載）。この５県の総合幸福度は、沖縄県１位、奈良県２位、兵庫県[※3]３位、神奈川県５位、石川県12位と、いずれも全国トップクラスの位置にある。Uターン意向も、沖縄県１位、兵庫県４位、奈良県７位、石川県10位と同様である。

5. 幸福と寛容と地方創生

では、前段で詳しくみた寛容性は、地域のWell-beingに対してどのような位置づけになるのか、図10に各指標間の相関関係をまとめておく。

総合幸福度と寛容性評価の相関関係を確認すると、相関係数は0.354となり、さほど強いとは言えないものの両指標は正の相関関係にある。

本プロジェクトで実施した調査では、寛容性はリベラルで個人主義的な価値観として設定してある。なのでたとえば、女性は結婚して家庭に入って子育てに専念すべきだと考える人や選択的夫婦別姓に反対する人、あるいはLGBTや外国人を快く思わない人、社会の変化を望まない人など、家父長主義的で保守的な価値観を持つ人の幸福度には寄与しない可能性が高い。

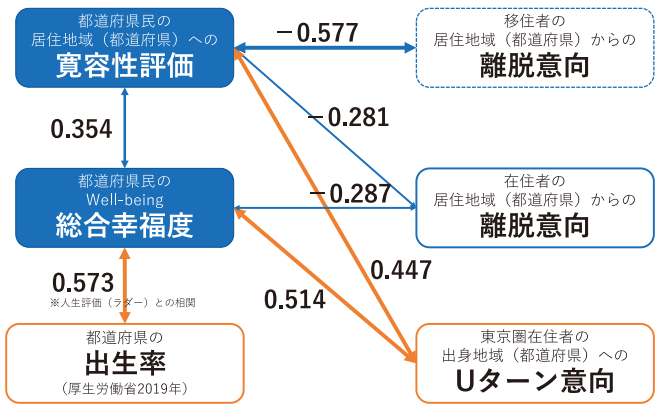
しかし寛容は本来、その人が個人的にそのような価値観や生き方大切にしていることを否定するものではない。そうではない価値観や生き方も等しく尊重されるべきだと考える態度が寛容であり、一方が異なる一方に対して自分の正義や道徳を不当に強要しないことが重要な指針となる。そうやって異なる価値観が共存し、時に摩擦を起こしながらも互いになんとか折り合いをつけていくことで社会は多様性を獲得し、一人ひとり多様な個人がそれぞれ多様な幸福を追求することが可能になるのである。

リベラルな寛容性と幸福度は緩やかな関係を保ちながらも、それぞれ東京圏へ出た若者のUターン意向を促進し、在住者の離脱意向を低減する。寛容は特に、地域に生まれ育った人でなく他所から移り住んできた人の定着には重要な指標になる。幸福な地域は出生率も高い。

もちろんアンケートで答えた地域間移動の意向はあくまでその時の気持ちであり、それが必ず行動に移されるわけではない。だが、意向のないところにいくら人参をぶら下げても行動は起きにくいことは確かだろう。だから地域住民の幸福度や寛容性を高めることは、地方創生政策として各自治体が取り組む人口減少対策の確度を高める効果を持つと考えられる。

ひとつ典型的なサンプルとして沖縄県に触れておきたい。沖縄県は、地方創生のファクターXを象徴する地域である。「人生評価（ラダー）」で測っても「生きがい（エウダイモニア）」で測っても、住民のWell-beingは全国１位、大都市圏が優勢な結果となった寛容性でも９位にランクした。そして東京圏へ出た若者のUターン意向は全国トップで、在住者の離脱意向は低い方から数えて３番目。国立社会保障・人口問題研究所の統計でも他県へ移動した人のUターン割合は2位に大差をつけて全国トップである。さらに、出生率は全国一高く、東京圏以外の地方では数少ない人口増加

【図10】主要指標の相関係数まとめ



県であり、増加率も東京都に続く2位だ。

雇用や所得の指標でみれば47都道府県の中でワーストにもかかわらず、地方創生の重要な指標でみれば最強と言ってもいい優等生である。地理的にも民族的にも歴史的にも政治的にも、あるいは気候的にも特殊性の高い地域であることはいくらか差し引く必要があるとは言え、やはりこれは驚くべき結果と言わざるを得ない。

4章／Well-beingから考える地方創生

1. ゼロサムゲームの地方創生

国立社会保障・人口問題研究所の発表する将来人口予測では、東京圏の人口もまもなくピークを超えて減少に転じ、これから高齢化が本格化していくことが示されている。この事実は東京圏の自治体でも危機感を持って認識されており、総合戦略にも反映されている。地方創生と聞くと東京圏以外の地方圏に対する政策のように感じるかもしれないが、一都三県でもまち・ひと・しごと創生総合戦略は策定されているのだ。

では、東京圏の総合戦略は、地方にとってどのような意味を持つのだろうか。総合戦略の土台になる人口ビジョンを確認すると、地方創生政策のあまり話題にされることのない一面が見えてくる。

合わせて約2270万の人口を擁する神奈川県、埼玉県、千葉県でも、県の周縁地域からいち早く人口減少と少子高齢化の傾向が観測されているので、地方の自治体と同じように人口動態に対する危機感は強い。そのため、地方の人口ビジョンと同様に、出生率の回復とともに人口の社会増が目標とされる。

たとえば神奈川県では3つの人口ビジョンのうち1つに、「マグネット力の向上」という言葉を使って、将来にわたる社会増の維持を掲げる。千葉県は総合戦略の基本目標の1つに人口の社会増を置き、大学等との連携による若者の定着を促進する。埼玉県は東京都区部への転出超過対策に重きを置いているものの、やはり大学等との連携や子育て層の呼び込みを基本目標として設定している。

東京都だけは「人の移動は、個々人の選択によるもので、その意思に反して政策的に誘導することは困難」として、全国の都道府県で唯一人口ビジョンを作成していない（市区レベルでは作成している）。だが、都の総務局統計課が予測した2040年までの将来人口では、2035年から2040年にかけても15万人の社会増を見込んでいる※4。東京都の総合戦略にあたる「目指す2040年代の20のビジョン」の20番目には全国連携として地方と共存共栄を掲げてはいる。だからと言って、もちろん東京都が積極的に一極是正のための計画を立てているわけではない。あくまで個々人の選択に任せるというスタンスである。その上で、20のビジョンの1番目には子ども、2番目に教育を置き、子育て世帯の都内定着を推進する。

つまり、まち・ひと・しごと創生法は総則第一条で東京圏の一極集中の是正を高らかに謳ってはいても、当の東京圏は、地方からの人口流入を抑制したり、地方圏への移住を促進したりするつもりなど毛頭ないのである。

さらに、独自路線を貫く東京都以外の3県の総合戦略は、内閣府のたたき台を踏襲し、雇用の創出、県への人の流れ、結婚・出産・子育て支援、時代にあった地域づくりなどを総合戦略の柱としている。端的に言うと、東京都以外の大多数の道府県が策定した総合戦略と大枠で同じ構造で出来ている。全国どこも似たりよったりなのだ。

俯瞰的にみれば、ほとんどすべての自治体が同じ戦い方で、守りを固める東京圏から人口を奪い合うゲームをしている、というのが地方創生の実態である。このゼロサムゲームからの転換を図る必要があるのではないか。総人口の減少が避けられない未来に向かって、全国の自治体が目先のKPIを設定して人口規模を追い求めることで、明瞭でポジティブな成果をもたらすことができず、かえって地方創生政策に対する熱意を失わせるのではないかと危惧している。

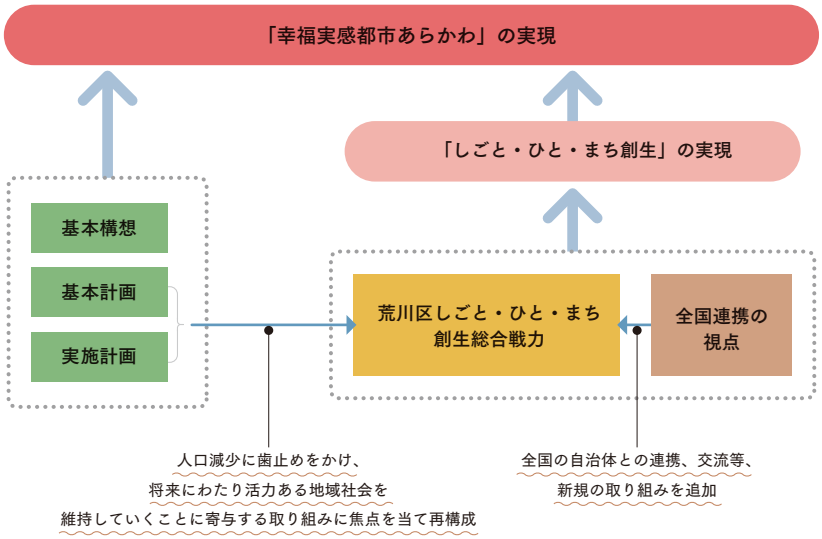
※3 兵庫県の総合戦略では、地域の元気づくりの重点目標として芸術文化を強調しており、施策全体でも芸術文化に関連するものが他県に比べて圧倒的に多い。筆者が確認した範囲では非常に珍しいケースである。

※4 https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/jinkouyosoku/yj-topindex.htm

むろん、人口の維持を目指すことが無意味であるという主張をしたい訳ではない。だがしかし、日本人には自分の人生をより良くするために、自分が住みたい場所に住む自由と権利がある。人にとって住む場所は目的ではなく手段なのだ。地域にとって、人口は選ばれた結果に過ぎない。

地方創生政策では、国は意欲と熱意のある地域（だけ）を支援する立場を強調しているので、人口ビジョンには地域の前のめりの姿勢が表れがちだ。何事も実行には意欲と熱意が不可欠だが、分析と予測には熱意はむしろ邪魔だ。東京都のスタンスは、皮肉っぽく聞こえなくもないが、クールなリアリズムとしては間違いではない。

【図11】荒川区の地方創生総合戦略の位置づけ



2. 地方創生が目指すべきものとは

「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地方創生の目指すべき将来が次のように書かれている（30p）。

「具体的には、人口減少を和らげるため、結婚、出産、子育ての希望をかなえ、生活面の充実を図るとともに、文化や歴史、街並み等を活かした『暮らしやすさ』を追求し、地方の魅力を育み、ひとが集う地域を構築することを目指す」。

目指される地域の姿が実現することは素晴らしいことで、もちろん何の異論もない。しかし、地域がそんな素晴らしい将来を目指すのは「人口減少を和らげるため」なのだろうか。順序が違うのではないか。

少し想像してもらいたい。もし民間企業が経営ビジョンとして従業員数の拡大を掲げていたとしたら…。誰がどう見てもとても奇妙に思うだろう。企業にとって人員計画は経営ビジョンを実現するための生産手段として計画されるものだ。先に人員計画をビジョンとして掲げて、それを達成するために経営戦略を策定する企業など世界中どこを探しても見つからないはずだ。

そもそもの出発点から人口減少の緩和を目的化することによる弊害は、2つあると思う。

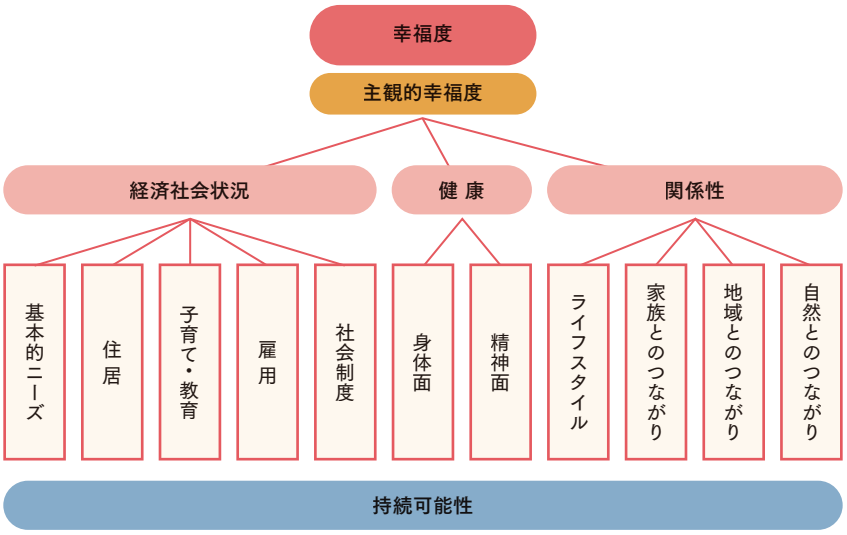
1つには、総合戦略の幅を狭めてしまう可能性があることである。自治体によっては地方創生の総合戦略とは別に、最上位の計画として中長期ビジョンや総合計画を持ち、その人口減少対策に関係する分野を推進するための戦略として地方創生総合戦略を位置づけているところもある。たとえば、東京都の荒川区では「荒川区基本構想」を策定し、目指すべき将来像として「幸福実感都市あらかわ」を掲げ、「荒川区しごと・ひと・まち創生総合戦略」を人口減少対策に関わる領域の戦略として置く（図11）。こういった場合では、総合戦略は人口対策にフォーカスされるので、戦略の解像度も上がるだろう。だが、別の中長期ビジョンや総合計画を持たず、地方創生を最上位の総合計画として位置づける自治体もある。この場合、人口ビジョンを基点として地域の総合計画が検討されることになり、人口対策との直接の関連性が見えにくい課題が中長期のビジョンから抜け落ちてしまうおそれが出てくる。先にみた余暇・レジャーや文化・芸術の手薄さは、まさにこの種のエラーではないだろうか。あるいは中長期ビジョンを策定しているにもかかわらず、体系化が曖昧なまま地方創生総合戦略が策定されるケースもある。現場の整合性は大丈夫だろうか。

もう1つ考えられる弊害は、競合ひしめくゼロサムゲームに最大のリソースを割かれ、もっとも現実的に対応を迫られる切実な課題が二次的に置かれてしまうことである。内閣府の総合戦略では目指すべき将来として、大きく3つの目標が基本目標の上位概念として置かれている。①人口減少を和らげる、②地域の外から稼ぐ力を高めるとともに地域内経済循環を実現する、③人口減少に適応した地域をつくる、だ。地域の実情にもよるが、地方活性化として優先順位をつけるとすれば、時間軸で考えても重要度で考えても②≧③＞①ではないだろうか。前に述べたように、人口は選ばれた結果である。人口減少の緩和は、本来ならば経済再生の波及効果として位置づけるべき指標ではないか。

経済学者の清水千弘教授（日本大学・東京大学空間情報科学研究センター等）は、直感的な私論であると断りながら、残すべき文化や無形資産が見当たらない場合は、できる限り市場メカニズム通じた最適解へ誘導すること（すなわち地域をたたむこと）が優

先されるべきではないかと見解を示している（26p～35p）。すると、地域は誰のものか、都市は誰のものかという問題に直面することになる。清水氏は、超長期でみれば誰のものでもないと言い、「そこで最も大きな幸せを見つけることができる人たちのものであると考えること」が経済学的にも社会学的にも合理的であるというテーゼを投げかける。

【図12】幸福度指標試案の構成



地方創生が目指すべき将来は、地域住民の幸福であるべきなのではないのか。幸福な人生を生きることができそうだから、その地域に住みたい人が増える。その状態があって初めて誘導的な政策が力を発揮する。人口ビジョンは与件ではあっても、それを戦略の体系の中心に据えるべきではない。実現すべきは住民の幸福の実感を高めていくこと。人口減少の緩和は、その先に得られる果実であると認識するほうがよい。

3. Well-being政策への流れ

国家戦略のコンセプトはすでに、国民の幸福＝Well-beingにシフトしていることは強調しておきたい。

2021年6月18日は、日本国の政策のKPIとして正式にWell-beingが採用された記念すべき日である。

この日、「グリーン社会の実現」、「官民挙げたデジタル化の加速」、「日本全体を元気にする活力ある地方創り」、「少子化の克服、子どもを産み育てやすい社会の実現」の4本柱からなる「経済財政運営と改革の基本方針2021」（骨太の方針）が閣議決定された。注目すべきは、この中で「Well-Beingに関するKPIを設定する」ことが明記されたことだ。同日に発表された「成長戦略実行計画案」には、新たな日常に向けた成長戦略の考え方として、「国民がWell-Beingを実感できる社会の実現を目指す」ことが示された。

詳細なデザインはまだ明らかではないものの、この方針は、究極的に国家が実現すべきものは国民の幸福であり、デジタル化や少子化の克服もそのための1つの戦略であるという、まっとうな主従関係を明確にしたと理解していいだろう。

実はこれまでにも日本政府は幸福を政策目標として掲げようとしたことがある。国政におけるWell-beingのKPI化までの最近の道のりを振り返っておこう。

2010年、当時の民主党政権は「第三の道」を掲げる「新成長戦略」を閣議決定し、幸福度について調査研究を推進することを盛り込んだ。これを受けて翌年、内閣府に「幸福度に関する研究会」[※5]を立ち上げ、主観的幸福感を上位概念として経済社会状況、心身の健康、関係性を3本柱とした幸福度指標試案を作成した。

試案は図12のように、主観的幸福を経済社会、健康、関係性の各分野の指標で支える構造になっている。具体的な政策目標となる小項目の指標には、当時の菅直人首相のスローガンである「最小不幸社会」や研究会の途中で起きた東日本大震災の影響もあり、貧困やホームレス、疾病や自殺、孤独や引きこもりなど、社会のネガティブな状況をなくす福祉的性格が強いものが並ぶ。

この試みは、経済的指標の追求だけでは国民の幸福は達成されないという考え方に立脚するものだが、GDPや所得だけに頼らないで社会の豊かさを測ろうとする試みは、実は民主党政権よりはるか以前からあった。古くは「社会指標（SI）」（1974～1984）に始まり、「国民生活指標（NSI）」（1986～1990）、「新国民生活指標（PLI）」（1992～1999）、「（豊かさ指標）暮らしの改革指標（LRI）」（2002～2005）と、2、3年の間隔を空けて次々と新しい試みが着手されていた。

これらの先行する取り組み対して、「幸福度に関する研究会」

※5 内閣府「幸福度に関する研究会」https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/koufukudo.html

の最大の特徴は、主観的幸福（Subjective Well-being）の概念を中心に置いて政策の体系化を図ったところにある[※6]。

幸福度の測定に世界の注目が集まる契機になったのは、2009年、サルコジ大統領がジョセフ・スティグリッツ教授とアマルティア・セン教授の2人のノーベル賞経済学者らを迎えて立ち上げた「経済成果と社会進歩の計測に関する委員会（CMEPSP: 通称スティグリッツ委員会）」から発表された報告書である。

スティグリッツ委員会の報告は、従来のGDPでは社会の幸福（Well-being）を測定することは出来ないという問題意識に基づき、GDPの算出方法の修正と生活の質の測定方法を提案し、生活の質を測る3つのアプローチの1つに主観的な幸福感を取り入れた。ちなみに、SDGs（持続可能な開発目標）の原点は、この報告書が幸福度の評価とは別に持続可能性の評価の必要性を提案したことにある。

研究会の結成はリーマン・ショックの前だったが、プロジェクトの途中で発生したリーマン・ショックが世界経済を破滅させたウォール街の強欲さと金融市場の杜撰さを暴いたことで、経済成長に過度な偏重した社会システムに対する反省が世界で起こり、経済指標を問い直す機運が高まっていた。そんな折に発表されたスティグリッツ報告は、世界に大きなインパクトを与えた。

GDPで測定できない社会の幸福を測定し、政策に活用しようという試みで忘れてはいけないのは、ブータンの国民総幸福量（GNH：Gross National Happiness）の存在である。2000年代前半くらいから日本でもずいぶん話題になったと記憶するが、GNHの始まりは1972年まで遡る。GNHは、心理的幸福、健康、教育、文化、環境、コミュニティ、良い統治、生活水準、時間の使い方の9つの要素で構成され、心理的幸福は「あなたは今幸せか」と問う主観的幸福がアンケートで集められる。このブータン独自の取り組みが、世界の幸福政策の源流となっている。

OECDは、スティグリッツ報告書を引き継ぐ形で幸福度の測定指標を開発して、2011年に「より良い暮らしイニシアチブ（Better Life Initiative）」として発表する。暮らしの11の分野（住宅、収入、雇用、共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活の満足度、安全、ワークライフバランス）で測定した社会の幸福度（Well-being）をOECD34カ国間で比較可能にしているが、幸福度1位のような国のランキングは行わず、利用者自身の価値観によって指標の重み付けを変えることで、Your Better Life Indexの作成を可能にした。OECDはこのプロジェクトの一環として主観的幸福の測定方法のガイドラインを作成しており、主観的幸福（Subjective Well-being）を「人生評価」「感情」「エウダイモニア」の3つの次元[※7]から測定することを提案している。

一方、国別のランキング形式の幸福度で注目を集めるのは、国連の持続可能開発ソリューションネットワークが2012年から発表している「世界幸福度報告（World Happiness Report）」である。メディアでよく取り上げられるのは、報告の一部である「世界の幸福度ランキング」だ。これは前にも説明したキャントリルの梯子（ラダー）と呼ばれる設問形式で、自分の人生を10点満点で自己評価させる国際的な世論調のデータで算出される。ちなみに最新の2021年版では日本は149カ国中の56位で、経済的指標でのランキングに比べると低い位置にある。

「世界幸福度報告」は、ランキングばかりがセンセーショナルに注目されるが、報告書の中には、人口あたりGDP、社会的支援、健康寿命、人生の選択の自由度、寛容さ、腐敗の認識の6分野の指標が、各国の主観的幸福度にどの程度寄与しているか分析されている。日本の幸福度はGDPや健康寿命によって支えられている部分が大きく、人生の選択の自由と寛容さの寄与度は低い。

「幸福度に関する研究会」が作成した試案は、このような国際的な動向の中で作成されたものだったが、2013年の政権交代によって実装されることなく立ち消えになった。

しかし基礎自治体の中にそのアイデアを実現するところが表れた。東京都の荒川区である。2004年に当選した西川太一郎区長が、「区政は区民を幸せにするシステムである」[※8]と行政のドメインを定め、荒川区民総幸福度（GAH: グロス・アラカワ・ハピネス）の構想を提唱する。2009年には荒川区自治総合研究所（RILAC）を設置し、「幸福度に関する研究会」のメンバーでもあった広井良典千葉大学教授（現・京都大学こころの未来研究センター教授）の協力を得て、体系化されたGAHの指標を開発した。GAHでは、総合的・全体的な主観的幸福実感度と、それを支える健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の6分野45の幸福実感指標で構成される緻密なものである。

荒川区ではこの指標を使った区民へのアンケート調査の分析をもとに、幸福実感の向上を目指した政策を実行に移している。そして、荒川区のGAHの取り組みは全国の自治体からも注目を集め、西川区長の呼びかけで住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合会「幸せリーグ」が発足し、参加する自治体は全国で89に上る（2021年4月現在）。

こうした経緯を経ながら、地方創生が叫ばれるのとほぼ時を同じくして、国政のレベルで再び幸福を指標化しようとする機運が高まってきた。

まずは、「経済財政運営と改革の基本方針2017（骨太方針）」において、EBPM（証拠に基づく政策立案）の文脈で、「人々の幸福感・効用など社会の豊かさや生活の質（QOL）を表す指標群（ダッシュボード）の作成に向け検討を行い、政策立案への活用を目指す」ことが閣議決定された。

ダッシュボードでは、生活全般に関する総合満足度を上位概念として位置付け、下部指標には「家計と資産」、「雇用環境と賃金」、「住宅」、「仕事と生活（ワークライフバランス）」、「健康状態」、「教育水準・教育環境」、「交友関係やコミュニティなど社会とのつながり」、「生活を取り巻く空気や水などの自然環境」、「身の回りの安全」「子育てのしやすさ」、「介護のしやすさ・されやすさ」の11分野の公的統計から指標を設定している。

2020年には自民党内に、下村博文政調会長が立ち上げから主導していたプロジェクトチームが格上げされる形で「日本Well-being特命委員会」が設置された。この委員会を中心に党内でWell-beingの議論が盛んになり、前述の骨太の方針2021へと至る。下村氏は、骨太の方針の閣議決定に先立って4月、自らの政治信条や政策をまとめた著書『GDW興国論 幸福度世界一の国へ』（飛鳥新社）を上梓した。GDWとは国内総幸福（Gross Domestic Well-Being）の略で、「時代は次の段階へ、GDPから国民一人ひとりのGDWへ」、「我が国においても、本格的にWell-Being重視の政策形成にかじを取るべきではないか」と提案している。

4. Well-beingシフトの注意点

下村氏も「いま世界では、『経済』から『幸福度』重視へと潮流が変わりつつある」と述べるように、世界的な流れとしてWell-beingが注目されている。その背景には、環境破壊と気候変動、格差や分断の拡大など深刻な諸問題が、資本主義経済の弊害として共有されている世界的な世論がある。だから、Well-beingとSDGsは基本的な問題意識を共有しながら並走するとみてよい。また超高齢化社会に向かう日本においては、社会の成熟と経済成長の限界感という文脈でも、心の豊かさに対する欲求はいっそう強いものがあるのかもしれない。

ただし、「経済から幸福度」や「お金ではなく心の豊かさ」というシンプルで耳触りのいいスローガンには少々注意が必要だ。もしもWell-beingが脱経済成長論を正当化する拠り所になってしまうようなことがあれば、それは危険なことである。

幸福研究には、古くから経済的豊かさ（GDPや所得）と幸福感の関係を主要な研究対象として知見を積み重ねてきた歴史がある。その中で研究者たちが広く共有してきた幸福の実感に関する基本原則は、所得が高いほど幸福度が高まる、という世界中の統計で普遍的に観測される事実である。

しかし、1974年に経済学者のリチャード・イースタリンがその原則の矛盾を指摘した。確かに1つの国の1つの時点を切り取ってみれば、所得の上昇に伴って幸福度は上昇していく。だが、国際比較をすると、国ごとの所得水準の差が必ずしも幸福度の差として表れない（国際的な貧富の差よりも国内で貧富の差のほうが幸福度の差につながる）。また、時系列でみると、経済成長によって国全体の所得水準が上昇しても、国民の幸福度はほとんど変化しない。

このような現象はイースタリン・パラドックスと呼ばれ、社会の幸福度の測定におけるGDPの限界は古くから広く認識されていた。その後、所得の上昇による幸福度の上昇は一定の水準で飽和する、という知見も加わっている。

これら幸福のパラドックスについては、その後多くの研究者がデータの収集方法や解析の方法なども含めて批判的研究を重ね理論が修正されている部分もあるが、ここではこれ以上の詳細には踏み込む必要はない。なぜなら、脱経済成長論の多くが根拠にするのが、経済成長は幸福度の向上をもたらさない、というイースタリン・パラドックスだからだ。

経済成長をしても幸福度は向上しないというパラドックスを説明する2つの有力な仮説に、「相対所得仮説」と「順応仮説」がある。「相対所得仮説」とは、個人の幸福度は所得の絶対額より周囲と相対的な状況に依存するというものだ。つまり、自分の所得が増加しても、参照している周囲の人々も同程度に所得を増加させていれば、自分の相対的な豊かさは変化しないので幸福度は上昇しないということである。他方、「順応仮説」とは要するに慣れである。所得の上昇によって手に入れた生活水準の上昇は、最初は幸福感の向上をもたらすが、やがてその生活が当たり前になることで当初の幸福感も落ち着く、というものだ。

どちらも理屈としては理解できるが、仮にこれから日本人の所得が上がらない、あるいは下がるという事態を想像してみると、そのような仮説で自分たちの幸福の実感をなだめることは、とうてい不可能に思える。

※6 個々の指標の詳細は、西部忠、平本健太、吉見宏、町野和夫（2013）「地域の多元的価値を測定するための豊かさ指標の開発とその地域政策への応用可能性の研究」を参照。

※7 「人生評価」「感情」「エウダイモニア」からなる主観的幸福の測定方法は、LIFULL HOME'S 総研『住宅幸福論Episode3』でも使用した。今回の調査では「人生評価」と「エウダイモニア」を使用している。

※8 荒川区役所のロビーには、毛筆で書かれた「区政は区民を幸せにするシステムである」が額に入れて掲げられている。

もし相対所得仮説が正しいとすれば、「みんな平等に、緩やかに貧しくなっていけば」[※9]、国民の幸福度は低下しないことになる。しかし、現実にはみんなで等しく貧しくなるような状態がまずあり得ない。分配の問題があるからだ。経済成長が格差を広げたように、マイナス成長もまた貧しさを均等に分配しない。国全体で幸福度の平均を取ればその値は大きく変わらなくとも、分散は大きくなっていくはずだ。また、イースタリンが幸福のパラドックスの理由として相対的所得仮説を提示した1970年代と違って、経済と社会のグローバル化が進み、私たちが相対評価する所得や消費の参照点は、国内だけでなく世界に向けられている。日本だけが経済成長を足踏みした場合、国際的な基準で日本人はどんどん貧しくなっていく。この30年で十分に経験したことではないか。例が不適切かもしれないが、日本人の消費や生活水準が、仮にお隣の韓国や中国を大きく下回ることになっても、日本人はみんなで貧しくなったから幸福度は変わらない、と心穏やかに受け入れられるだろうか。国連の幸福度ランキングで日本がじりじりと順位を落としているのは、そういうことではないのか。また「順応仮説」が所得や生活水準が下がる時にも有効であるならば、Well-beingに立脚する限り地方の衰退はなんら問題ではないということにもなる。

たとえば余暇・レジャーや芸術・文化はWell-beingにとって重要な要素だが、個人または公共に最低限の経済的余裕がなければ、それを楽しむ機会は限られてしまう。教育や医療を充実させるためにも相応のお金が必要だ。経済成長の弊害よりも貧困の弊害のほうがよほど大きいことは議論するまでもないだろう。

要するにバランスの問題なのだ。金銭的な豊かさの追求だけにとらわれて心をなくしては意味がない。利己的な収奪によって自分だけが豊かになっても、世界が壊れたら元も子もない。ただそれだけだ。Well-beingはGDPに完全に取って代わるものではなく、GDPでは捕捉できない経済成長の質的な側面を測定するものと理解した方がいい。だから、「経済よりも幸福」などの雑な言葉でWell-beingを語るべきではないのである。

5章／寛容が育むもの、寛容を育むもの

1. 地方の創造性と寛容

Well-beingは経済成長を否定するものではない。むしろWell-beingを高めるためには経済成長も必要だ。今後の日本がそして地方が、政策目標としてWell-beingの追求に舵を切るとしても、地方経済の活性化は喫急の課題であることは揺るがない。

経済学者のシュンペーターは『経済発展の理論 ──企業者利潤・資本・信用・利子および景気の回転に関する一研究』(塩野谷祐一他訳、1977年、岩波書店)において、イノベーションとは、既存のものに異質な新しいものを導入し、製品やサービス、生産方法、仕入れ経路や販売先、また組織を創造的に破壊する企業家の企みだとし、それらを新結合と定義した。新しく結び合わせると言うとおり、イノベーションとはゼロからの大発明ではなく、既に存在していた別々のものを組み合わせる掛け算である。イノベーション・新結合の代表的事例として人口に膾炙するiPhoneも、十分に普及した既存技術の組み合わせで開発されたことで知られている。

都市論のバイブル『アメリカ大都市の死と生』で有名なジェイン・ジェイコブズは、都市経済についても重要な著作を持っている[※10](本職の経済学者からは賛否あるようだが)。

特に『都市の原理』では、古今東西の都市の経済史を実証的に分析し、いかに都市がイノベーションを生み出すかを徹底的に議論している。iPhoneを例に出されてイノベーションと聞くとなにか画期的な技術革新のようなイメージがあるが、ジェイコブズによれば、都市経済の拡大は「新しい仕事をそれに先行する別の仕事に追加すること」で生み出される。地元の特産品である農作物で加工食品を開発して売り出す、昔から地元で穫れる魚をブランド化して高級市場を開拓する。これらの見慣れた光景も立派なイノベーションである(それが成長・拡大するかは別の話であるにせよ)。

多様性がイノベーション・新結合を起こすのは、アイデアの掛け算を可能にするからに他ならない。ジェイコブズの『経済の本質』の原題はThe Nature of Economiesで、都市の経済を自然の生態系と見立てるなど、ジェイコブズの都市経済論では一貫して多様性がとりわけ重要な概念として強調される。

もっとも重要な知識は異業種からもたらされるものであり、多種多様な産業の集積と競争がイノベーションを促進する、というジェイコブズの発見は、後に経済学者からジェイコブズ型外部性と呼ばれるようになる。産業の集積がイノベーションを起こす効

果（外部性）については、ジェイコブズ型の他に、同一産業が集積し地域内で独占的な環境にあることがイノベーションを促進するとする説（マーシャル・アロー・ローマー（MAR）型外部性）と、同一産業が集積し、地域内で競争的環境にあることがイノベーションを促進するとする説（ポーター型外部性）がある。内閣府の『平成15年度版 地域の経済2003』では、米国における1956年から87年にかけての170都市圏のデータの分析によってジェイコブズ型外部性の優位性を証明したグレイザーの先行研究を踏まえ、1990年代の日本のデータを使って同様の分析した結果、日本でもやはりジェイコブズ型外部性に優位性があることが分かり、「特化型の産業集積の広範な存在とそこにおける集積の負の循環の発生が、今日の地域経済の成長の阻害要因の一つとなっている可能性を指摘することができる」と結論している※11。

昭和から平成にかけて、政府は工業の再配置と高速交通インフラの整備で東京の一極集中の是正を図ろうとした。ある時点までである程度の効果はあったが、産業構造が変化するに従い、またグローバル化で工場が海外移転する時代になって、工業特化型の外部性が裏目に出て、本社機能が集まる東京への一極集中が加速したことでも、ジェイコブズが一貫して主張した多様性の重要さを体感値として理解できる。

イノベーションに関するこれらの議論を地方創生の文脈に引き寄せれば、元気な中小企業が集積することの重要性が浮かび上がってくる。中小企業は自社の事業存続のために、互いに他の中小企業の製品やサービスを必要とするので、絶え間なく他の業界業種の企業が交流し切磋琢磨する。その接線に新しいアイデアが付け加えられる素地が生まれるのだ。逆に大企業の工場誘致の一本足打法ではイノベーションが起こりにくく、成長の阻害要因にすらなりかねない。

様々な地域で地元の企業家との協働で地域活性化プロジェクトを手掛ける一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスの木下斉氏は、我々のインタビューに対して「都市発展の原則は『常識を疑う』こと」だと、理論と経験を兼ね備えた知見を提示している（264p～270p）。既存の製品やサービスを別の業界の視点から眺めることで改良のヒントが生まれる。業界の伝統的なやり方に別の業界のやり方を導入したら生産性が飛躍的に向上する。シュンペーターやジェイコブズが言うイノベーション・新結合の発火点には、従来の常識を疑ってみるという行為が必ずある。それこそがジェイン・ジェイコブズに起源を持つ創造都市論の嚆矢『創造的都市　都市再生のための道具箱』（後藤和子監訳、日本評論社、2003年）でチャールズ・ランドリーがイノベーションの前状況と定義した創造性・クリエイティビティである。だから互いに異なる常識で物事を眺めている異業種・異分野の人材の集積と交流が、場所の創造性を高めるのである。

クリエイティブな人材というのは、なにもおしゃれなデザインが出来る人というわけではない。常識を疑うことが出来る人である。皆とは違うものの見方をし皆とは違う考え方をして、そうではない別のより良いやり方を探す人である。下世話な言い方をすれば、常識とされることや普通であること、伝統や権威、暗黙のルールに守られたことに容赦なくツッコミを入れられる人である。一言で表すなら、わきまえない変わり者だ。

地方創生の第２期総合戦略で新たな横断目標として「多様な人材の活躍を推進する」が掲げられたことを受けて、地方版総合戦略では、女性、高齢者、障害者、LGBT、外国人など少数派の包摂への施策が増えた。しかし、多様性の本質は様々に異なる価値観や認知スタイルの混在だ。地方経済にイノベーションを起こすという目的においては、性別、年齢、障害、国籍、性的傾向などのラベルよりも、異なる価値観や認知スタイルを持った変わり者であるかどうかが重要なのだ。

創造都市論の中心人物リチャード・フロリダは、『クリエイティブ資本論』（井口典夫訳、2008年、ダイヤモンド社）で、都市の創造性と経済成長の関係性を分析するために開発したボヘミアン指数とゲイ指数の２つの尺度を紹介して、創造都市論に新たな知見を加えた。ボヘミアン指数は、都市の人口に対する作家、デザイナー、ミュージシャン、俳優、映画監督、画家、彫刻家、写真家、ダンサーなど芸術を職業とする人口の比率、ゲイ指数とは同性愛者の人口比率※12である。

※9　社会学者の上野千鶴子が、東京新聞の取材に対し移民政策への否定的な見方を述べて提案した「日本の場合、みんな平等に、緩やかに貧しくなっていけばいい。国民負担率を増やし、再分配機能を強化する」（「この国のかたち　3人の論者に聞く」東京新聞2017年2月11日）は、後半の再分機能の強化の話は切り取られ、見出しの「平等に貧しくなろう」だけが広がり、大きな批判を浴びた。

※10　『都市の原理』（中江利忠・加賀谷洋一訳、2011年、鹿島出版会）、『経済の本質』（香西泰・植木直子訳、2013年、日本経済新聞社）や『発展する地域 衰退する地域』（中村達也訳、2012年、ちくま書房）など。

※11　その後の研究では、成熟した産業と新しい産業では集積の効果が異なり、成熟した産業ではMAR型外部性が、新しい産業を惹きつけるにはジェイコブズ型外部性に効果があるという分析もなされている。（細谷裕二（2009年）「集積とイノベーションの経済分析 ―実証分析のサーベイとそのクラスター政策への含意 前編」、『産業立地2009年7月号』）

※12　正確には、国勢調査から同居する非婚のパートナーが同性であればゲイ・レズビアンとして集計した。

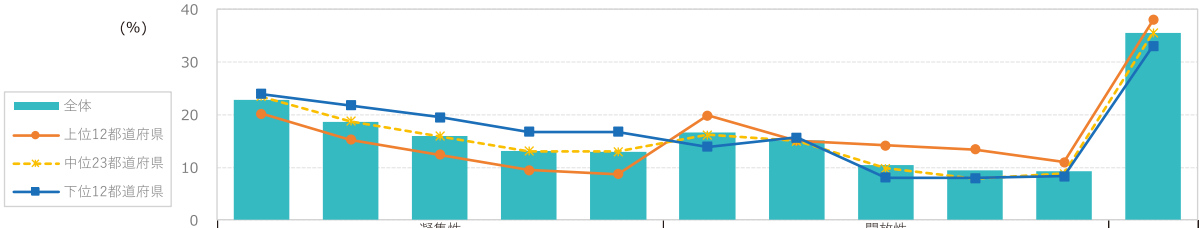
【図13】地域の気質を測定した項目

凝集性項目	開放性項目
人間関係が濃密でつながりが強い	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容さがある
歴史や伝統が大切に守られている	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある
義理や人情が大切にされている	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある
規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある
損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある

【図14】地域の気質と寛容性

■都道府県の気質評価（在住者調査，全体／複数回答）

現在お住まいの地域の気質や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。



			凝集性					開放性					
			歴史や伝統が大切に守られている	義理や人情が大切にされている	人間関係が濃密でつながりが強い	規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある	損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある	よそから移り住んで来る人をあたたかく迎え入れる雰囲気がある	誰であれ困っている人がいれば手を差し伸べる親切さがある	初対面でもすぐに打ち解ける開放的な雰囲気がある	自分とは違う意見や価値観も尊重する寛容（かんよう）さがある	学問や教養を高めることに熱心な雰囲気がある	この中にあてはまるものはない
全体		(n=18800)	22.8	18.7	15.9	13.1	12.9	16.6	15.2	10.5	9.4	9.2	35.6
四寛別部容位性	上位12都道府県	(n=4800)	20.2	15.3	12.4	9.5	8.7	19.9	15.1	14.2	13.4	11.0	38.0
	中位23都道府県	(n=9200)	23.5	18.8	15.9	13.1	13.0	16.2	15.0	9.8	7.9	8.8	35.6
	下位12都道府県	(n=4800)	24.0	21.8	19.5	16.8	16.8	13.9	15.7	8.1	8.0	8.3	33.1

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け　※カテゴリーごとに全体値の降順ソート　【在住者調査】Q9

地域の文化水準を測る代替指標として開発したボヘミアン指数は、地域のハイテク産業の集中度や人口増加、雇用増加などを驚くほど高い精度で予測し、芸術や文化が盛んな環境がクリエイティブな経済成長を生むことを証明した。

ゲイ指数は、経済を牽引するハイテク産業にはゲイが多いのかと大いに誤解されたようだが、フロリダがゲイ指数で測定しようとしたのは都市の寛容性である。フロリダは、世界経済を牽引するハイテク産業の従事者には、移民や他所の地域から移住してきた人や、エクストリームな趣味を持ち変わった服装をするオタクが多いことに注目し、創造性の高い変わり者が暮らしやすい都市の文化的開放性を、人口に占めるゲイの割合を代替指標として可視化したのである。言わば、ゲイはクリエイティブ時代の炭鉱のカナリアである。

フロリダは、ボヘミアンやゲイは創造性の高い人材を惹き付ける質の高い居住地が形成されるうえで2つの異なる貢献をしていると言う。1つ目は環境への美的感覚、2つ目は寛容性である。彼らは、美的センスがよく開放的な環境を好み、そのような快適さを地域にもたらす。そのような都市の性質が、人種や民族などの垣根を超えてさまざまに多様な才能を引きつけ、多様な人材の集積と交流が経済成長につながるイノベーションを引き寄せる。技術（Technology）、才能（Talent）、寛容（Tolerance）の3つのTを軸に創造都市論を展開するリチャード・フロリダがとりわけ強く寛容を重視するのは、「創造性は居心地のよい場所を求める」からである。

2. 地域の気質と寛容

ボヘミアンやゲイの集積をリアルにイメージすることが出来ない日本の地方では、創造性を高める多様性の孵化装置になる地域の寛容性はどうやって育まれるのか。まず地域社会の気質から考えてみたい。地域社会の気質についてのあてはまる項目を複数回

答で尋ねた結果を、寛容性の高さで47都道府県を3区分して比べてみる。地域の気質は図13のように、凝集性と開放性を意味する項目をそれぞれ5つずつ用意した。

結果は図14のとおりで、寛容性の高い地域ほど凝集性の項目が低くなり、開放性の項目が高くなる。寛容性と開放性は基本的に同じ価値観に属する概念なので、寛容性の高い地域の開放性の高さは当然である。だが、寛容性の中位の23県と下位12県ではほとんど差がなく、上位の12県だけが高くなっていることは注目に値する。つまりランキングの中位から最下位までは大きな差がなく、上位の地域だけが特別に開放性が高いということである。一方、凝集性を示す気質は、選択肢のワーディングからも確認できるように、概念それ自体として必ずしも不寛容を意味するものではない。にもかかわらず、寛容性の低い地域から順に高くなっている。開放性とは違って、地域の凝集性は寛容性ランキングによってグラデーションがあることを意味する。「規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある」と「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」で差が大きい。

それぞれの項目を集約した平均値で凝集性と開放性の2つの変数をつくり、寛容性に与える影響を重回帰分析で確認したところ、地域社会の開放性が寛容度を高める効果と凝集性が寛容度を下げる効果は、それぞれ0.1% 水準で有意である。しかも地域の凝集性が寛容性に与えるネガティブな効果は、地域の高齢化の影響を排するために加えた65歳以上年齢比率のそれよりもかなり強い（113p）。

地域ブロック別に確認してみたところ（データ未掲載）、東北地方、北陸地方、甲信越地方で全般的に凝集性が高い傾向がある。ただ、東北と甲信越では「義理や人情」にウェイトがあるのに対して北陸では「規律や道徳」と「名誉や面子」が高いなど、地域によってニュアンスは異なる。中国地方は山陰（鳥取県、島根県）と山陽（岡山県、広島県、山口県）では傾向がまったく異なり、山陰地方は凝集性の平均値が全国でもっとも高い。

ここで改めて凝集性の項目のワーディングを確認してもらいたい。人と人とのつながりや、歴史や伝統、義理や人情、規律や道徳、損得よりも名誉など、それ自体は決してネガティブな価値観ではない。むしろ、地域にとって、あるいは人として大切な価値観だと考える人も多いだろう。本レポートとしても決して否定するものでもない。だがしかし、それが地域の規範や道徳として他者へも強く打ち出されると、地域住民の寛容性認知を下げることで、地域で生まれ育った人の離脱意向を高め、移住してきた人の離脱意向をさらに高め、都会に出た若者のUターン意向を下げる結果につながる。地方創生はこの事実を自覚してくべきだろう。政府の調査でも、地方を出ていく若者が地元の人間関係の閉塞感を理由にあげていることを軽く考えるべきではない。

念のため繰り返すが、このような価値観自体は問題ではないし、個人がそういう価値観を持つことが否定されるものでもない。ただ、それを他人にも押し付けるべきではない、ということだ。

地域において創造性と寛容性と多様性は互いに密接な関係にある。中川寛子氏がレポートする国内のまちづくりの事例に典型的な事例がある（230p～253p）。

かつては寂れた港町だった愛媛県の三津浜がいまや県内から広く人が集まるデートスポットにまで変化したのは、2000年前後に喫茶店の2階に出店したイタリア料理店が最初のきっかけだった。2000年ごろの地方都市郊外の寂れた港町にイタリアンレストランを出店するという発想は、地元の常識で考えたらあり得ない。オーナーは常識を疑えるクリエイティブな変人なはずだ。これが最初の一手となりやがて次々に個性的で魅力的な経営者を惹き付けていく。移住者は自分の生活を大事にする自由で面白い人が多いそうだ。

そのようなまちの変化の過程で重要な役割を果たしたのが、もともと港町ならではのオープンでポジティブな寛容性だ。「若い人たちがなにかやりたいというと、やっちゃえ、やっちゃえ」と応援する気風が、今では多様な業種の個性的な店舗が競い合う人気エリアに育てた土壌である。

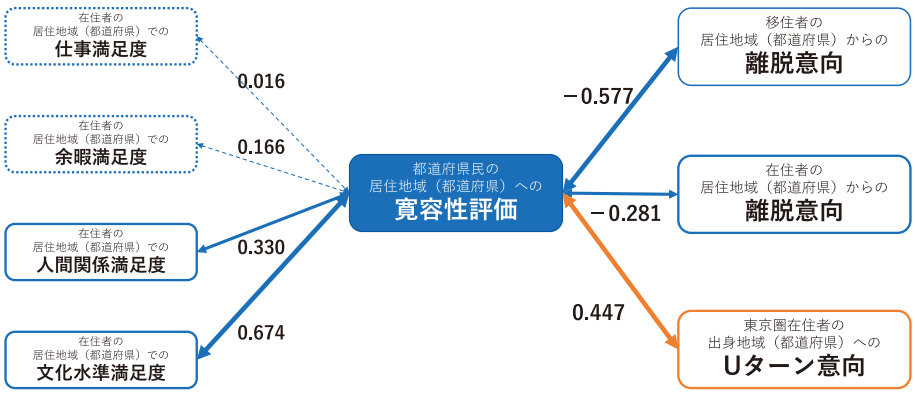
今の三津浜には、先にみたジェイコブズ型外部性が発生しているとみることができる。実際、空き家バンクを運営しているコトラボ合同会社の岡部氏は、地域で手つかずだった古民家をシェア型商業施設にリノベーションして新しいビジネスモデルに手を広げる。まさにジェイコブズが述べたとおりのイノベーションのプロセスである。

3. 生活の中の文化芸術が寛容を高める

次に地域の生活環境と寛容性の関係を確認する。地域の生活環境は、6 項目について尋ねた分野別の満足度のうちWell-beingには影響がみられなかった「住居」と、寛容性とは直接関係がなさそうな「健康」を除いた、「仕事」「余暇」「人間関係」「文化水準」の4分野。図15のように、寛容性との相関が高いのは「地域の文化水準」への満足度だった。相関係数は実に0.674と、大げさに言えば文化≒寛容とも言ってもよいレベルの非常に強い正の関係性が確認できる。「人間関係」については、先にみた地域の気質に関する分析結果から強い影響が予想されたが、それよりも「文化水準」が与える影響のほうがはるかに大きい。

さらに、文化的水準の満足度を、背景となる環境を確かめるために、今回のアンケートで地域の生活環境として複数回答で尋ね

【図15】寛容性を高める生活領域



た「芸術文化に触れる機会が多い」の回答と、総務省が実施する「社会生活基本調査」から「芸術文化系の趣味の行動率」を、文化水準の満足度の高い順に並べてみたのが図16である。芸術文化系の趣味の行動率は、美術館の利用、劇場での映画・演劇・音楽の鑑賞、音楽やダンス、美術や工芸、文芸などの芸術文化に関わる趣味の行動率を足し上げたものである。もちろん完璧に整合するわけではないが、地域住民の文化水準への満足度はおおむね日常生活における具体的な行動や認知に裏付けられたものとみてよい。

やはり東京圏と大阪圏を中心に大都市圏ほど芸術文化を経験する機会が多い傾向があるのは明らかで、その経験が地域の寛容性を高めることに特別な役割を果たしているものと思われる。逆に人口規模の小さい地域では芸術文化の市場規模も制限されてしまうことから、住民が芸術文化にふれる機会が少なく、寛容性を育む土壌が肥えない。それが住民の離脱意向の高さやUターン意向の低さにつながり、人口維持に対してネガティブなフィードバックが働いてしまう。

その点で、人口規模が小さい地域にもかかわらず、芸術文化にふれる機会が少なくない沖縄県と石川県は注目に値するのではないか。沖縄県は総務省の調査での行動率は高くないが、本プロジェクトのアンケートでは「音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会が多い」という回答は全国的にも高いレベルにあり、文化水準の満足度も高い。美術館や劇場など“高尚な”文化芸術装置よりも、庶民的な民謡文化や多くのアーティストを排出してきたライブハウス文化など、日常に根ざしたストリート性の強い文化的環境がうかがえる。

石川県は総務省の調査でもアンケートでも芸術文化への接触度が高く、文化水準の満足度が高い。加賀藩時代からの文化資産の蓄積に加え、金沢市政が長年重視してきた芸術文化の振興が結果につながっているものと思われる。ただし石川県の寛容性評価は低い。これについては、北陸地方に共通する傾向である規律や道徳、名誉や面子を重んじる気質が、寛容性を低く抑えている可能性がある。

4. 地方創生としての文化芸術

コロナ禍において、芸術文化は不要不急なものとされたことを、私たちは忘れてはいけないと思う。感染拡大の恐れなど殆どないにもかかわらず公営の美術館や博物館は閉館され、音楽ライブやスポーツはもとより、人と会話をすることもなく鑑賞する映画館、劇場、寄席まで厳しい制限を受けた。今回のプロジェクトに参加してもらった元アーツカウンシル東京の森隆一郎氏も指摘するように、文化大臣が「アーティストは今、生命維持に必要不可欠な存在」と断言し、いち早くアーティストへの手厚い支援を打ち出した欧州諸国に対して、日本の政治家は当初、緊急事態宣言が文化芸術を生業にする人たちの生活をただちに直撃することさえ思いもつかなかった(254p～263p)。わが国では文化芸術は、同じく営業自粛を求められた高級ブランド品のように、経済的豊かさの上に成立するある種の道楽、贅沢な趣味と思われているのかもしれない。

日本人にとって本当に文化芸術は不要不急の贅沢品なのか。感染症の専門家や政治家、ワイドショーは不要不急と考えたのかもしれない。だが日本国憲法はそうは考えていない。日本国憲法は第25条第1項で「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定する。第25条は生存権を保障する条項である。文化は不要不急どころか、社会福祉や公衆衛

【図16】地域の文化水準の満足度

	文化水準満足度		音楽・演劇・美術など芸術文化にふれる機会（※1）		芸術文化系の趣味行動率（※2）		寛容性総合指標	
	順位	得点	順位	%	順位	%	順位	偏差値
神奈川県	1	5.90	5	13.0	2	192.4	2	73.2
奈良県	1	5.90	24	6.5	6	168.2	17	49.8
兵庫県	3	5.80	4	13.8	7	165.0	6	64.3
北海道	4	5.71	10	9.3	30	131.7	7	63.6
東京都	5	5.70	2	15.5	1	208.3	1	77.2
大阪府	5	5.70	8	10.3	10	160.5	3	69.5
沖縄県	7	5.69	11	9.0	31	131.1	9	58.2
石川県	7	5.69	1	20.8	12	155.5	35	43.3
福岡県	9	5.68	6	11.5	12	150.5	8	62.8
京都府	10	5.67	3	14.3	3	175.4	11	55.8
広島県	11	5.63	15	7.3	17	144.5	10	56.1
熊本県	11	5.63	20	6.8	37	124.0	22	47.8
埼玉県	13	5.58	16	7.0	5	171.6	5	65.4
三重県	14	5.54	47	2.3	20	142.2	26	47.1
愛知県	15	5.53	25	6.3	8	161.9	13	54.7
香川県	16	5.52	25	6.3	29	132.8	30	45.3
富山県	17	5.48	20	6.8	9	160.6	45	38.8
千葉県	18	5.47	28	6.0	4	172.8	4	67.7
愛媛県	19	5.46	28	6.0	36	125.9	25	47.3
静岡県	20	5.45	13	7.8	22	139.6	15	51.8
滋賀県	20	5.45	16	7.0	11	157.4	16	51.7
山口県	20	5.45	28	6.0	27	135.0	21	48.0
大分県	23	5.43	20	6.8	28	133.9	18	49.4
岡山県	24	5.42	16	7.0	16	145.2	23	47.5
和歌山県	24	5.42	44	3.5	33	129.5	31	44.5
宮城県	26	5.41	7	11.3	12	150.5	14	53.0
佐賀県	27	5.40	33	5.3	32	129.6	34	43.4
福井県	28	5.36	36	4.8	24	138.7	37	42.8
新潟県	29	5.34	20	6.8	34	128.3	38	42.4
鳥取県	30	5.33	46	3.0	39	122.8	29	45.5
島根県	31	5.31	36	4.8	40	122.6	47	36.1
岐阜県	32	5.30	41	4.3	23	139.5	28	46.6
鹿児島県	33	5.27	38	4.8	41	121.7	33	43.7
山梨県	34	5.26	44	3.5	21	140.7	36	43.1
長野県	35	5.24	9	9.8	15	148.8	39	41.6
宮崎県	36	5.20	40	4.5	43	116.5	32	43.9
高知県	37	5.19	42	4.0	46	108.2	12	55.4
長崎県	38	5.18	34	5.0	42	120.3	20	48.6
栃木県	38	5.18	28	6.0	25	138.0	24	47.4
岩手県	40	5.17	14	7.5	44	114.9	40	41.5
福島県	41	5.14	25	6.3	38	123.5	42	40.6
山形県	42	5.09	38	4.5	26	135.3	44	39.8
群馬県	43	5.08	12	8.5	19	143.5	19	48.8
茨城県	44	5.06	34	5.0	18	143.9	27	46.9
徳島県	45	5.05	43	3.8	35	127.5	41	41.3
秋田県	46	5.03	32	5.8	45	114.1	46	36.3
青森県	47	4.94	16	7.0	47	105.4	43	40.2

※1：今回の47都道府県在住者調査より地域の生活環境として「音楽・演劇・美術など芸術文化に触れる機会が多い（複数回答）」

※2：『平成28年度社会生活基本調査』（総務省）の「趣味・娯楽の種類別の行動者比率」の項目のうち、芸術・芸能・文化的な趣味の行動者比率の積算値。（使用した項目は45p 参照）

生と並列される権利なのだ。コロナ禍では感染症による超過死亡は減少した代わりに、若者や女性の自殺が増加してしまった。子どものうつ病も増えている。国民が精神的に追い込まれた状況だからこそ、文化芸術やスポーツによる感動で救われた命もあったのではないかと悔やまれる。

文化芸術基本法は、法律の前文でわが国における文化芸術の意味を以下のように定義する。人々の心のつながり、心豊かな社会、世界の平和、文化的な伝統など、右左を問わず政治家が政策の基本理念として口にするお題目のほとんどは、文化芸術の守備範囲にある。

文化芸術を創造し，享受し，文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは，人々の変わらない願いである。また，文化芸術は，人々の創造性をはぐくみ，その表現力を高めるとともに，人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し，多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり，世界の平和に寄与するものである。更に，文化芸術は，それ自体が固有の意義と価値を有するとともに，それぞれの国やそれぞれの時代における国民共通のよりどころとして重要な意味を持ち，国際化が進展する中にあって，自己認識の基点となり，文化的な伝統を尊重する心を育てるものである。

また、文化芸術振興の意義について基本理念として、文化芸術の本質的価値と社会的経済的な価値が定められている。本論が述べてきた地方創生に必要な視点、幸福（Well-being）と寛容性、そして経済成長とそれを生み出す源泉となる多様性や創造性のすべても、文化芸術の射程範囲の中にあることがわかる。

第一として，豊かな人間性を涵養（かんよう）し，創造力と感性を育む等，人間が人間らしく生きるための糧となるものである。第二として，他者と共感し合う心を通じて意思疎通を密なものとし，人間相互の理解を促進する等，共に生きる社会の基盤を形成するものであると言える。第三として，新たな需要や高い付加価値を生み出し，質の高い経済活動を実現するものであると言える。第四として，科学技術の発展と情報化の進展が目覚ましい現代

社会において，人間尊重の価値観に基づく人類の真の発展に貢献するものであると言える。第五として，文化の多様性を維持し，世界平和の礎となるものであると言える。

このような文化芸術は，国民全体の社会的財産であり，創造的な経済活動の源泉でもあり，持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤ともなることから，我が国の国力を高めるものとして位置付けておかなければならない。

欧米の諸都市は早くから文化芸術の持つ経済的価値に着目して、都市再生・活性化に取り組んできた。かつては主要産業だった造船業等の重工業の衰退で苦しんでいたグラスゴーが、1990年にEU文化首都[※13]の指定を受けアートを起点にした都市再生に成功したことで、文化芸術による都市再生が欧州全体に広がっていった。

それらの都市が再生する過程で何が起こっていたのかを分析することで、チャールズ・ランドリーの『創造的都市　都市再生のための道具箱』はまとめられた。日本の創造都市論の代表的研究者であり、創造都市ネットワーク[※14]の顧問も務める佐々木雅幸は、ランドリーの論が創造性を「ファンタジーとイノベーションの間にあるもの、すなわちインテリジェンスとイノベーションの間にあるもの、すなわち産業と文化の連関性を媒介とする概念として」位置づけていることが特徴だと解説する[※15]。

簡単に模式化すれば、文化芸術（ファンタジー・インテリジェンス）→創造性→産業（イノベーション）という構造になり、イノベーションは文化芸術が肥料となる創造性の土壌が育てた芽と例えることが出来る。優れた農家がまず土づくりから始めるように、文化芸術への投資は地域の創造性を高めて、結果的に地域経済にイノベーションをもたらす。日本の地方版総合戦略で文化芸術に関する施策を計画する自治体もあるものの、大半は観光資源としての直接的経済効果しか見えていないような印象を受ける。ランドリーの言葉を借りれば「文化は洞察力を提供し、そのため多くの効果を持つ」のである。

なぜ文化芸術は多くの効果をもたらす洞察を提供するのか。ここで素人の芸術論を展開するつもりはないが、芸術は私たち一般人の目には映らない物事の本質を見抜き、それをカタチにして直感的に伝える力を持っている。たとえば、丹下健三が設計した平和記念公園で原爆死没者慰霊碑の前に立てば、70年以上前ここで何があったのか、そしてその後どのような時間が流れたのか、これから何を守らないといけないのか。そういうことが一切の言語も介することなく一瞬で分かる。私がここまで4万字近くを要して述べてきたことを、優れた画家なら1枚の絵画で表現してみせることなど造作もないことだろう。また、芸術が持つ力は、時に私たちはまったく異なる考え方をする別々の個性だと教えてくれることもあれば、時にばらばらの人々を1つにまとめ上げることさえある。

さて、先にデータで確認したように（図16）、わが国においては、一部の例外を除いて、都市圏の人口規模によって文化芸術への接触機会が大きく左右されているのが現実である。つまり、芸術文化は市場で解決される一種のサービス業として扱われていると言ってもいいかもしれない。すると市場規模が成立しない地域では文化芸術はやせ細る一方である。

劇作家の平田オリザは、「自分たちの愛するものは何か、自分たちの誇りに思う文化や自然は何か、そして、そこにどんな付加価値をつければ、よそからも人が来てくれるのかを自分たちで判断できる能力」を「文化の自己決定能力」と呼び、地方の再生に不可欠な能力だと言う。そしてその能力は「小さな頃から、本物の文化芸術に触れていくことからしか育たないと私は思う」と言う。その上で自身の教育者としての経験や世界での文化芸術による都市再生の事例もふまえながら、市場原理まかせで「少年ジャンプだけ読んでいればいい」と言わんばかりに文化不毛になった地方と東京の文化格差の大きさに危機感を募らせる[※16]。

地方創生総合戦略では、地域の特性に応じた稼ぐ地域の実現を基本目標に掲げ、そのための施策の方向性として、地域資源・産業を活かした地域の競争力強化、専門人材の確保・育成が必要だとしている。それはまさに「文化の自己決定能力」を備えた専門職と言うことができるだろう。

多くの自治体が地方創生のために、補助金を支給して起業支援をしたり、ビジネスアイデアコンペを開催したり、設備投資や地方の特産品の開発に助成金を出したりする。しかしそれらは、文化芸術→創造性→産業のプロセスでは最終段階のイノベーションの企ての段階であり、市場で解決されるべきフェーズでもある。イノベーションへの公的な支援という点では、基礎研究などと同じように、もっとも上流の文化芸術への投資によって地域の創造性の土壌を育てるほうが、筋としてはまっとうなのではないか。

※13　1985年からEUで始まった都市再生支援事業。EUが指定した都市で一年間にわたり集中的に各種の文化行事を展開する。観光客誘致の効果も期待されるが、その都市の長期的な文化、経済、社会発展に継続的な効果のあるプログラムが求められる。

※14　チャールズ・ランドリーの提唱を受けてユネスコが創設したプロジェクト。文学・映画・音楽・工芸（クラフトとフォークアート）・デザイン・メディアアート・食文化（ガストロノミー）の創造産業7分野から、世界でも特色ある都市を認定する。

※15　佐々木雅幸2009年「文化多様性と社会包摂に向かう創造都市」、佐々木雅幸・水内俊雄編著『創造都市と社会包摂』、33p、水曜社

※16　平田オリザ（2013年）『新しい広場をつくる 市民芸術概論』岩波書店

終章／本研究プロジェクトのまとめと提言

最後に、本論のまとめとして、今回の調査研究プロジェクトで明らかになったデータに基づく事実と、それを元にプロジェクト全体を通しての地方創生に対する提案をまとめておく。

【今回の調査研究プロジェクトで明らかになった事実】

1）寛容は地方創生のファクターXである

地域の寛容性は、地元に住む人の離脱意向を抑え、東京圏へ出た若者のUターン意向を高める統計的に有意な効果を持つ。特に他県からの移住者の定着には地域の寛容性が大きく影響する。このことは、地域の寛容性が、雇用や所得の経済的指標だけでは説明できない人口の社会移動（意向）の動きを予測する指標になることを示唆している。寛容は、地方創生政策が見落としていた重要なパーツである。

2）地域社会の凝集性は地域の寛容性を低下させ、文化芸術は寛容性を向上させる

強くて狭い人間関係や、規律や道徳、名誉や面子を過大に重んじる気質は地域社会の寛容性を下げ、人口の社会減を加速させる。逆に文化水準の満足度は寛容性の高さと非常に密接に関係しており、文化芸術の経験が地域社会の寛容性を高める効果を持つ。

3）地域のWell-beingを高めることで、地方の人口減少の緩和に大きな効果がある

地域社会のWell-beingは、寛容性よりもさらに強く人口減少対策に影響を与える。離脱意向を抑えUターン意向を高めるだけでなく、地域の出生率との相関関係も統計的に有意に認められる。

4）仕事と人間関係の満足度がWell-beingの実感に大きく影響する

仕事に対する満足度と人間関係に対する満足度が、Well-beingを高める影響度が大きい。特に生きがい（エウダイモニア）的幸福には仕事の満足度が、人生評価（ラダー）的幸福には人間関係の満足度が強く影響している。

5）地域のWell-beingを高めるには余暇や文化も重要な要素である

余暇の満足度と地域の文化水準の満足度もWell-beingを高める効果がある。余暇の満足度が人生評価（ラダー）に与える効果は健康に対する満足度よりも高く、文化水準の満足度が生きがい（エウダイモニア）に与える効果は人間関係の満足度よりもわずかに高い。

【地方創生に対するLIFULL HOME'S 総研の提案】

1）地方創生は「幸福」を目標にすべきである

地方創生は、まち・ひと・しごと創生法の人口ビジョンにこだわらず、地域の「幸福」すなわちWell-beingの向上を最上位概念の目標として据え、各地の実情にあった指標を体系化し、政策評価のKPIとして管理すべきである。

2）地方創生においては、特に寛容の価値観を強調すべきである

寛容性は、本報告書がもっとも声を大にして訴えたい地方の課題である。寛容の重要性とそれが地方創生のネックになっていることは、くどいほどデータで証明してきたつもりだ。地域のWell-beingを高めるためには、地域にやりがいのある仕事を多様に生み出す必要があるが、経済を活性化するためには多様性に根ざす創造性が必要で、多様性を育むためには寛容性が不可欠なのだ。

3）地方創生は、文化芸術を戦略の柱に据えるべきである

文化芸術は地域のWell-beingを直接高める効果があるばかりでなく、多様性に不可欠な寛容性を育て、イノベーションに不可欠な創造性を育てる。市民が日常生活レベルで文化芸術に親しめるよう、文化芸術の教育や振興を、雇用創出と並ぶ地域創生政策の1つの柱に据えるべきである。ただし、文化芸術が地域に根付きさまざまな効果として表れるには時間がかかる。中長期のビジョンとして計画し、特に人口規模の小さい地域においては文化芸術の市場が成立しないため、公的な助成でこれを支えることが必要である。

編集後記

今回のプロジェクトにあたって、47都道府県の地方版人口ビジョンと総合戦略には一とおり、あといくつかの基礎自治体のものにも目を通した。そのうえでの個人的感想を言わせてもらえば、申し訳ないが、総じて楽しくない。ワクワクしない、おしゃれじゃない。隣の芝は青く見えるとよく言うが、地方版総合戦略からは残念ながら地方の芝は青く見えて来なかった。

地方がつまらないと言っているのではない。地方版総合戦略が魅惑的でないと言っているのだ。あの膨大な資料をつくった人は真面目に仕事に取り組んだのかもしれない。しかし、ワクワクするような気持ちで地方の未来を構想したわけではないだろう。行政の行動計画書にそのような性格を求めるべきではないと言われるかもしれないが、概要版まで作成してホームページで公開しているのは、市民にも広く共感してもらいたいからだろう。紋切り型の基本目標やあり合せの施策を並べ直す前に、夢や希望を語らなければならないのではないのか。潤いのある豊かな生活とは何かを見せるべきではないのか。個性豊かで多様な人々が暮らす地域のリアリティを伝えるべきではないのか。

住む場所の選択は人生の選択にも等しいものだ。そして地方創生総合戦略が考えるよりも人生はもっと複雑だ。仕事の中にも遊びがあり遊びの中にも学びがあり、明瞭な境界線を引くことが出来ない。潤いのある豊かさは時に無駄や逸脱を求め、欲望は気まぐれにロジックツリーを飛び越える。合理的で健全な正しさばかりでは息が詰まる。

地方創生はそんな人の心に、人の幸福に寄り添ったものであるべきだ。すなわち、地方創生戦略は地域に住む人々への愛であるべきなのだ。

島原万丈

LIFULL HOME'S 総研所長

地方創生のファクターX

寛容と幸福の地方論

2021年8月発行

製 作　島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）

企 画　島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）
橋口理文（株式会社ディ・プラス 代表取締役）
有馬雄祐（職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教）

47都道府県の寛容と幸福、人口移動に関する調査
島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）
橋口理文（株式会社ディ・プラス 代表取締役）
吉永奈央子（フリーリサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー）
有馬雄祐（職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教）
株式会社マーケティングリサーチシステム

執筆・取材・インタビュー（掲載順）
島原万丈（LIFULL HOME'S 総研 所長）
清水千弘（日本大学教授／東京大学空間情報科学研究センター特任教授／麗澤大学都市不動産科学研究センター長）
橋口理文（株式会社ディ・プラス 代表取締役）
吉永奈央子（フリーリサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー）
有馬雄祐（職業能力開発総合大学校 建築環境設備エネルギーユニット 特任助教）
三浦 展（カルチャースタディーズ研究所 主宰）
中川寛子（株式会社東京情報堂 代表取締役）
森 隆一郎（合同会社渚と 代表）
森 ゆきこ（フリーランス編集・執筆）

編集・制作　和田安代（WASUWO舎）
アートディレクション　ひぐちゆきこ（lalagraph）
Coverアート　Anusorn
校 正　プレーンドット
印 刷　株式会社イーステージ（小野寺 紳／立花典子）

株式会社LIFULL
LIFULL HOME'S 総研
〒102-0083 東京都千代田区麹町1-4-4
http://www.homes.co.jp/souken/

LIFULL HOME'S 総研